

發

行 所

大東 阪京 南神 區田 三个 休川 橋小 南路

製

本

東

京

市

神

區 社式

今

小

路

丁 英

H

番

山田

縣

純

次

權 作 著 有 所

大 大 Æ TE. +-4 年 年 六 六 月 月 ----1-Ti H 日 發 EP

行 刷

續

會株 社式

振 替 П 座

大東 阪京 七三 一六 **∄.** — 五八

番番

刷 刷 所 東 京

Ep

會株

秀 JII

紺

屋

__

+

番

地

治

京 市 京 橋佐橋 區 174

FP

市 京 區

取締役所長 西 紺 屋 町 町間

東

+ 七衡七

勇 番 地 Ξ

番

發

行

者

會株

社式 今

東

京

市

햬

Л

小

路

地

編

者

瀧 田

本

誠

T 目

閣

日 本 經 濟 定 叢 價 書 第 金 = 卷 六

[3]



深 公 妄 ヲ 述 テ 才 ス 2 E 〈聖 終 續 五 7 n 1 = 右 IV 望 覽 所 欲 敢 經 所 卷 1. ラ w 論 1 7 テ 世 1 E 2 = 1 2 志怠 條件 記 テ、 出 置 談 所 供 ナ 著 十卷 或 ナ セ サ ノ道 v セ ス ズ、 暇 N リ 八百 リ、 3/ ズ、 リ 及 4 內五 7 ヲ 10 = 況 皆篋 行 得 前 __ 去 25 3 コ 2 後 ノ補 于 歲 則 力 卷 ノ十 1 ズ、 7 總十卷、 ノタ、 中 ワ v 1 1 =1 我 ガ意 早ク = 1." 卷 1 1 1 3 ガ 委テ 編 欲 ナ モ = v 公 論 ラ 吾 + 已 ス 亦 7 1 = 草 テ 所 數 イサ 公 IV 莫非命 ズル 1 = 在 淨寫 旣 脱海 到 年 = 1 ス テ 志 ノ八 所 7 1 1 w = 親 前 筆 r 必 力 = ノミナ = ŀ 3/ 以テ 及 y 也、 無 2 Ŧi. = 1 イ 7 卷 ~1h + テ 3/ 毛 7 ~ = 咨 公命 ズ、 ラ 謹 1 7 カ 1-1. 2 得 ズ、 人 ミテ イ 3 セ E モ ヲ 或 テ 久 及 フ テ = IJ 其 觀 記 今既耄 應 ~ 111 3/ 术 = >> 1 カラ 備 ズ、 1 必 牛 ス E ス 1 = 者 ラザ 君 ソ 7 N = ソ 1 者數 其備 所」爐 經 相 1 カ ス矣、 ズ、 = ヲ 餘 n = w 1 1 求 乃 十件、 ラザル 志ア 稿 ノ後 寫 竊 ガ 者 L 爲 不敢 又病衰之餘、 7 3/ = い書 n テ IJ IV = = = = ノ故 テ、 始衰 藏 廣 ヲ ハ ・ v 年 隱、悉 於 知 ル者 ク世 ヲ 早ク今 テ、迂 予 示 ヲ記 國 リ、 1 家 年 ア = 97 1 シ、 公 眼昏 筬 リ 愚 橋 1 シ = __ 日 迫 必 = ノ論 施 本 ^ 中 T 1." 敢 直 IJ 爾 深 ス ク精乏ク ス 1 w テ 後 N 數 說 1 好 毛 11 テ以テ献ズ、 = 資 ヲ欲 故 傳 固 猶 紙 = ŀ 自 命 續 觀 不 r ヲ 1 7 聚 リテ テ論 セ 2 7 ジ ソ セ 足 知 ズ、 テ 防 テ 1 X ラ 論 綴 著 取 速 7 7 +" 1111 1% 再 天 說 テ セ IJ b 1 = V

經 世 談 大

尾

經

世

談

大

尾

保甲午之秋櫻

田

質敬

書

夳

7 n 3 E 1 惡 ナ = 1 1 ナ 3 Z 3/ 0 2 ユ F 1 v 刑 テ 丰 1. ~ 7 モ 7 = 勘 行 1 1 t 罪 7 E 1 21 + 惡 ナ 7 T = n + 7 P v 犯 見 ~ 者 又 210 + ナ = 3 ス テ 事 テ n 1 國 7 ナ 家 刑 ナ 1 " 良 罰 ヲ v ラ 力 1. 民 = 7 陷 モ 1 n 害 T w " 乞 ホ = = 7 食 1. 1 E 非 ナ 1 1 " テ 人 不 -ガ 飢 1 不 死 1 者 覺 人 = 及 悟 7 ス 3 刑 ラ 210 21 丰 始 不 ス 2 = テ 忍、 1 w 3 IJ 萬 ノ仁 ナ = y, サ 1 人 ヲ 心 7 决 デ 懲 面 1 國 3 ラ r 4 テ 家 2 w 1 不 民 戒 1 = 覺悟 害 1 2 1 父 w + = 母 ハ云 E カブ y 0 仁 ダ ナ n ラ 義 サ 7 il 六 1 デ v 道 1. E = 210 -7 ナ = Æ 深 ナ ラ ソ 牛

世 HT 111: -[1] 1, 目 1 " N 7 IJ w -110 民 Ŀ 觸 + 間 家 力 手 分 = >> 類 ヲ受 入 流 P フ 宿 1 = 1 1 3 ウ 用 叉 屋 テ ~ 父 1) " 4 1 1 3 境目 非 救 ケ 母: 分 ラ = テ 1 シ 3 及 E 武 テ 飢 X テ モ ツ IJ 别 及 フ y モ 家 サテ 順 國 ナ 出 ~ = in w ~ 7 テ モ テ 定 來 中 モ 人 3/ 7 ソ 1. 丰 4 業 寺 人 改 寒 云 何 ノ宿 君 -2 ギ 1 又 惑 者 者 院 别 出 ~ ヲ メ w ヲ 同 w = ナ 手 等 テ p 類 テ 多 口 屋 王 3/ -1 畜 載 岭 モ 力 1 丰 馴 = = 1 = 境 當 泊 人 飢 生 汉 味 サ 1 P ソ w w テ 同 w 目 然 君 テ フ 1 ~ 七 w テ 7 1 ヲ 人 分 死 萬 樣 ~ 加 7 日 7 1 1 = ケ 7 輔 雇 50 7 P ス = 1 ウ 1 シ、 ス V . 出 r 得 フ 佐 飢 ~ 210 ナ w = -7 ワ 切 饉 思 丰 ツ 仕 1, ス -ス 7 手 7 ヲ 徒 手 ガ ~ w 力 向 13 = ナ フ 7 入 20 宰 仕 フ ~ 或 V ナ * = 1. ~ 1 1 10 = テ 相 見 ナ 莚 中 ク ^ ナ 5 2 フ 1 y, 六十 テ、 テ ヲ テ 1) 7 p 1 7 V 1 テ、 者 使 用 得 r P オ 110 1 フ 21 何 0 勿論 六部、 -ナ 何 470 IV 或 立 3 = 1 ノ手 方 ソ 3/ = 所 7 ツ ス V w ---= 今世 110 分 力 日 フ ~ N 1 1 F V 1 二十 當 宿 1 入 6 w ヲ 7 = + 力 1 ソ 業 人 渦 屋 = 1 用 テ 7. ス モ V 今 四 風 in 1 = セ 向 王 ス = 1 3/ 1 6 -心 法 俗 ザ テ ~ 輩 テ 道 1 3/ 力 1 師 テ 筋 E 人 テ 六 7 = 畑 ソ モ w = ノ掟 ノ外 ナ 君 立 テ 何 1 1 w E 1 匠 = 1 宿 限 宰 テ 1 誰 木 IJ 木 7 ナ ヲ -相 甚 テ リト 廻 F. 1 IJ ŀ モ IJ 4 立 袖 右 國 通 面 サ P 1) サ ス E 1 3/ テ、 テ モ H n ナ 時 即 1 丰 ~ フ 1 セ 行 浪 ノ不 稽 人 如 心 6 1) = ヲ 力 又 ソノ 腰 飯 人 ナ 難 得 テ 7 古 t 工 覺悟 賤 ザ モ ナ 1. 誤 P ス " フ W 丰 1 人次 フ 1. シ = 3/ ナ w N = v 3/ 乞 飛 定 種 E ナ 亦 ナ ~ P 1 2 V 第 食 子 境 ナ 15 211 × v ソ 7 3/ フ --非 使 ナ 樣 オ 目 ŀ -百 今 X (此 ナ 上 = w ナ __ 7 E 姓 況 度 w r ~ to" 水 r 1) V 1 =

織

ナ 10 カ N 又 ~ E 卡 -7 テ ナ ッ、 1 イ 但 ラ 力 又 7 p ナ フ y 1 7 21 外 ノ制 度 3 7 F 10 牛 汉 IV 上ノフ ナ y 婚 姻 1 制 Æ 立 汉 ズ、 游 女 毛 ŀ

0 願 人 虚 僧 非 人等非諸 浪 輩 等 ツ ヲフ

乞食 别 寒 他 1 7 圧 10 力 21 _ 面 5 15 ズ、 4 或 ---根 等 ノ世 追 及 1 テ 3/ 口 4 3 自 内 禰 IJ E 7 ブ 元 7 E 界 新 濡 願 此 拂 ラ 33 宜 セ t 1 輩 差 ナ 口 -フ ズ、 ス フ X = 立 テ 業 虚 百 别 神 r ヲ ガ = ステ 害 階 ラ 1 ナ ウ 無 7 類 主 ナ . 僧 ガ 1 -丰 1) w = 級 諸 或 無 仲 刨 ナ 者 非 w 3/ ホ E 間 中 テ、 人 終 宗 時 w 人 サ 毛 ス 類 飢 7 1 -3 同 = 1 -= 5 僧 ナ 寒 類 T 6 F 3 1 1 天子、 刼 尼 n _ E 21 iv v 1 = 時 6 盗 及 7 ナ 3 T = 1 ブ ナ 修 1 IJ 竊 ナ IJ IJ 1 公 皆 驗 者 盗 難 人 テ ヲ リ 1 人六十六部二十四 者 方 其 ノ分 等 = 7 工 丰 勿論 役 時 ヲ n 1 七 ガ 1 3 = 生 ラ 子 者 所 n ۱ر ス ハ E = 隔 ジ r 平 H V 相 ~ ナ フ 行 合 メ、 力 皆 樣 テ チ w H ヲ V 樸 ラ 110 口 ナ せ 汉 ソ = 1 ス -大 ズ 汉 1 テ IV ヲ V w V 盲 小 者 ウ n > 6 ナ 111 モ 人、 往 粒 境 何 リ E IV 1 何 人畜 公家、 來 名 ヺ 界 -モ -V 穢多 ヲア 1 r 力 7 錢 ス 1 E 3 道 運 " p 丰 + ヲ ガ ソ 木 ナ 江 筋 業 1. 力 フ P = IV T 3 ١,٠ 家、 チ 丰 1 ツ -E 7 = 久 ナ 1 類 1 外、 7 1 ガ 1 21 ^ v = 心 百 次 者 自 w 1111 r r E セ 3 得。 諸 者 姓、 然 IV 7 W ズ 3 3/ 1 飢 浪 國 1 力 p 牛 Y 1 モ 饉 諸 デ 勢 ナ 人、 ワ = テ 國 1 フ 凶 テ、 家 7 職 7 國 ナ --願 歲 y, 分 ナ + 中 ヌ テ 人 1 ナ 人、 行 别 助 IJ 7 = 如 1. ナ 虚 商 諸 テ 人 又 7 少 3/ = 别 此 無 人 15 リ、 久 浪 IJ ---ナ -テ 立 ナ IV 僧 28 7 ナ 人 リ、 云 iff 改 處 y n 3/ モ 1 非 内 行 四 久 r = x = 3 = 力 飢 民 及 テ 1 N ス IV

年 甚 倫 五 ク、 7 相 サ 毛 毛 7 T = 1 = IJ 季 テ、 者 ズ、 年 ナ ナ 手 ナ 31 1 V 叉 常 \equiv 生 以 n = + 牛 E w 7 3 涯 姿 年 自 上 サ 養 惠 先 1 短 7 道 7 以 然 給 引 力 ソ ケ To 1 ナ T せ = -料 テ 非 上 v w n IJ ズ ホ 1 --b 其 鄿 210 游 國 -ガ テ ナ 1. 毛 1 3/ V 五 潢 手 或 夫 者 女 7 年 勝 --y テ 110 0 ナ 甚 r ヲ 人 <u>^</u> 毛 此 -手 テ ラ 月三月 テ、 夫 金 叉 7 7 終 7 H T 及 1 ス 人三 銀 法 者 酒 " テ F w w ナ b k 21 IJ ナ 人 ス 衣 公 食 モ ~ モ 17 21 ---ジ テ N 人 物 1 後 ラ 伙 = ヲ -3/ テ x ノ質 年 r ヲ 金 = オ 4 又 1 1 取 ス 3 ラ 錢 姿 季 勿 2 行 30 毛 -3 IJ 力 ~ 論 -H" ナ 約 ナ サ × ヲ 1 1 1 21 テ ~ 3/ 所 定 ナ w 丰 3/ 术 w. ~3 ス L ソ 1 w 力 時 メ 1 テ w テ ~3 サ 11 -1 V 風 P 1 テ、 男 3 貪 事 金 110 テ ボ ナ 1 俗 云 フ -ナ 却 奢 ソ 銀 w, 次 w 1 V ヲ = t ラ 姑 n 7 P 1 屯 3 テ サ 1 3 定 敗 ナ 男 者 ズ、 ア 7 此 風 T ^ F フ ク ッ、 w × 事 IJ IJ 1 r 7 -久 1 1 助 諸 双 仲 數 テ 本 長 V 助 心 國 ŀ 3 1 土 方 ク 7 7 中 人ヲ 事 ス 3 ケ ガ ク 110 ナ テ、 3 條 輕 ~ n 事 ケ 7 ナ 1 E w = 情 定 V. 第 テ 人 薄 テ 1 1 1 V 故 V 法 意 テ ソ 失 ス ス 10 别 × 1 1 = 情 難 ナ 至 1 w ~ ナ ŀ モ 1 力 __ -陷 ッ、 萬 望 入 接 曾 ナ 故 丰 テ ケ w 極 17 IV 他 事 游 ラ ~ ? 丰 IJ 盗 = V 3/ = p 滿 者 難 女 賊 ナ 國 ザ 違 ガ 1-110 丰 フ 變 久 ソ ナ ホ ク 1 n ^ w 1 F = テ、 云 モ 宿 リ、 ~3 連 内 1. ナ ザ 1 ナ ナ 年 E ŀ 牛 V ۱۷ 21 牛 3/ モ w w -萬 ク、 妻 サ テ 年 時 7 p 丰 1 モ 水 故 歸 季 事 ウ 20 ナ ナ V 1. 夫 短 F 7 -٦ 淫 婦 或 7 IJ Æ IV 久 1 F 1 丰 -又 行 家 テ 游 力 1 1 3/ 湋 ス ナ 何 7 Z 别 叉 至 戀 ~ リ、 ホ ヺ 1 ス 女 P 1 + 防 生 禁 名 力 1. 人 Z 1 フ 極 ガ 毛 3/ 無 サ ヲ グ 目 P ~ 1 1 ズ 1 3 E 1 助 賴 求 ナ 丰 3/ = ~ ١٠ 31 ケ IJ 年 V チ テ 本 女 P IV 年 1 ŀ 3/ ユ V t 110 ナジ N 多 船 人 w F ス + 7 r E 老 21

刑 國 父 他 衛 ス 時 易 商 10 15 ス 7 -21 兄 男 買 中 ~3 國 3/ 3 4 = ク 牛 --テ、 往 行 + V 1 カ 1 ナ 1 IV テ 3 1 1 方 者 ラ 汉 ナ 15 p 者 E IJ 老 來 20 + 他 多 テ 日 w ナ ズ 1. 1 = ス v フ ラ 其 分 T 或 = + 力 3 日 E N ヌ = 中 华 IV テ 所 y 1) 210 毛 1 2 20 = 3 ス 金 合 廿 月 3/ ~ E 毛 1 ナ -1 1 w 主人 士 子 他 城 1 ナ 7 ナ 1. 日 亦 3 = 7 以 ナ w 下 1. 或 ユ y 1 >> -Pa = 110 . 諸 拘 ~ ウ ナ ナ デ -F 1 IV n IJ 金 凑 次 テ 丰 1. サ ナ 1 七 ラ 時 ス 7 1 テ 銀 郎 ラ ラ モ ホ _ ~ v ナ 工 1 V サ ナ 乏 1. ナ 1. E 110 兵 IV 18 ズ 汉 同 3/ T 衛 カ , 姑 ラ ス IJ w ジ 1 3/ -6 其 年 ク 4 他 女 事 サ ~ 1 11 又 力 1 世 權 勢 ラ 云 者 季 3/ モ ナ 丰 或 3/ 1 -置、 奥 宜 #" 1 リ、 ナ p ^ = 3 ナ テ 後 崇 勿論 生 方 力 リ、 IV y ウ 1 IV E 婦 百 事 法 者 7 向 1 = w コ ~ 3 出 人 段 席 叉 7 人 久 P E ---= 1 3/ 牛 立 深 數 者 店 1 ス フ 1 4 1 V 3 ホ 末 居 方 テ 出 サ 3 べ IJ = 1 7 = F ۴ 屋 密 求 座 テ 3/ = 云 , 張 テ ス 7 3 1 . テ 敷 テ、 テ、 等 サ 前 T 通 2 w = 同 サ モ 年 申 ナ 丰 不 w 圧 w -樣 近 季 壯: テ 1. 向 付 1 = 義 1 時 = = 南 料 抱 年 ~ 云 領 後 7 ソ V 1 1 テ、 禁 買 類 È ヲ 叉 -1 絕 = 汉 1 汉 力 妾 n 代 懲 21 類 ザ 3/ 時 1 ズ 1 T 毛 1 親 內 走 テ 本 官 ヲ 牛 ラ 3/ w w 1 ^ 3/ 族 養 惠 者 金 太 汉 故 博 ス F 原 110 ---^ n H ナ 奕 此 1. 席 子 p 仕 = E 7 1 事 貧 7 政 毛 テ 3 1 月 モ = モ 7 F 方 テ、 父 民 罪 ナ テ F. T V T T = 1 朔 1 ラ 兄 w テ 等 ラ 毛 3/ = y w 1 1 H テ サ 内 男 買 申 ~ ワ 110 汉 = 1 = ス 3 手 博 ヌ テ ガ 女 IJ テ w 计 3/ 1 ---~3 -婚 時 女 4 ナ 法 或 テ + 亦 游 元 21 親 女 姻 奴 フ V _ 110 力 中 H 7 F. 1 1 波 元 役 預 7 子 犯 久 7 1. 力 --1 alla 曹 ス テ 制 人 デ N 人 E ケ 1) ス 3/ ス 1 -IV ヲ 女 者 速 -數 7 數 太 山 ~ IJ 多 テ容 引 ナ 樣 明 12 3 キ、 年 丰 1 3/ -7 名 渡 渡 ŀ F 白 ヲ ŀ 兵 IV 1

撮 者 自 ヲ 商 時 テ 21 T 付 人 行 ヲ 110 シ 禁 買 當 多 誰 T 在 7 其 禁 畢 ツ ソ モ 7 4 ツ -ジ ス 出 ナ 力 者 入 竟 相 1 E w V ズ 利 + 者 法 + 3 フ r ١٧ 等 ~ 平 r 1 y 處 7 IJ ス w 生 年. 人 大 3 ス V 2) モ -抵 得 ス ラ、 7 w 其 = = 同 ~ 亦 1 = 遣 テ テ 游 者 不 ウ w w 7 類 テ 1. 力 其 義 = F 女 ク w 1 -1 1 力 1 ---公 足 + 末 間 生 者 1 密 ソ 1 7 _ 3/ 8. 買 外 故 法 1. 賣 1 n 通 r V 席 1) 1 1 -間 4 時 1 ナ 漏 者 1 毛 フ r IJ ダ 商 毎 司 テ ス 10 v V 汉 21 w 1 7 賣 聞 110 乞 速 N + ~3 年 樣 ス 1 1 w 撮 法 P 力 工 者 父 兩 ~3 b 3/ 食 F -兄 當 = 非 心 見 フ 7 3/ 又 加 w テ 博 度 犯 テ w 何 ナ 等 人 得 出 力 ナ -= 游 y 奕 17 ナ 3/ 7 F ヅ 1 テ 1 v モ 3/ IV 不 デ テ 女 1 ヲ 鬢 同 難 IJ 3/ 1 等 況 15 r モ テ 犯 r 仁 片 1 格 丰 ۱ر 7 方 勢 ヲ 丰 7 E ラ フ 1 7 = ŀ ス ___ 者 ヲ 國 不 7 久 T ア to 自 v = V 同 ハ 然 テ ヲ 中 樣 w IV > 7 7 義 ス 3 v 鬢 松 者 防 何 モ E ŀ 1) 力 時 F. IJ 1 1 罪 勢 7 相 落 7 同 3/ グ ヲ V 2 T E 毛 改 待 -制 ~ 丰 兼 モ ジ ナ コ w 3/ = 貴 鬢片 遽 岭 事 ス ~3 丰 申 メ テ リ 1 及 賤 付 其 テ ソ 味 = w シ p w = 1 罪 者 サ 輕 7 1 ス 方 V T 7 ナ テ 江 男 (w -ラ ヲ テ + ŀ コ ナ ラ w 7 商 百 生 ス ソ ス ~ ユ V V ソ ۱ر 今 屋 ~3 _ 110 同 3/ A 1 IJ = 1 V 落 深 -本 ナ テ 敷 7 刑 年 シ、 世 類 又 宮 勿 末 ナ 數 源 1. 1 毛 ソ 3/ ス 水 1 尤 -涌 法 1. 末 ~ 論 1 1 1. 法 1 1 21 防 刑 博 其 頭 仕 遂 法 10 _ 席 3/ 1 3 毛 年 +" 者 巾 ナ ナ 力 重 奕 ソ 法 7 夕 = 月 モ IV IJ ---丰 7 ŀ V ガ 3 リ 丰 3 限 ナ 生 拭 " (-行 + 1 3 1) ~ > 罪 情 ク、 游 サ ŀ T セッ 1 E シ、 ス ヲ 1 女 10 w ナ ~ カ E ヲ -V _ V テ、 賣買 1 嚴 1. 勤 殊 等 テ ブ 7 Æ 久 力 リ、 番 他 ヲ ナ ガ 17 V 毛 又 -長 w 深 朝 求 18 = 1 或 丰 4 V ス E ク コ 者 申 仲 出 ~ b 17 1 Ŋ テ 12 r V 又 3/

經

世

談

卷

之

+

〇游女井カクシ女ヲアツカウ法。

7 w 1 ュ 力 鄙 金銀 米 諸 D. IJ 28 = 3 女 罪 吟 7 7 1 ナ 國 近 V 中 好 1 或 味 地 世 250 人 7 10 1 , 批: 色 中 絕 凑 出 E 力 ナ 撮 嶋 4 ___ 法 + 當 IV ユ 年 7 IV 7 21 = 並 原 壯 フ 人 テ 平 城 京 = w = = ボ P -ゲ サ 华 民 毛 モ 1 1 1 IJ 下 力 禁 夫 者 大 徒 男 テ 屯 又 = ナ 驛 新 V 防 ナ 3 欲 女淫 游 チ 1 3/ 7 = 4 町 3/ 7 悲 7 ナ テ . 禁 大 3 丰 女 ナ 丰 其 阪 妻 フ 嚴 ナ デ 時 V 法 處 1. 行 1 年 ラ ナ 址 ス 重 1 110 本 7 " 1 _ 古 . ヲ 才 牛 原 嚴 隱 御 n ナ ズ 7 1 原 者 フ カ N 1 = 1 ズ 3 × 密 免 五 女 行 ŀ 7 ホ 力 1 ラ 7 v w = ŀ T ナ 中 1, ナ b 1. ホ ザ 云 F 1 ス 7 町 10 丰 v = 1 毛 1 10 11 12 w V = 江 外 法 F* テ 久 7 力 處 戶、 -毛 7 ハ -出 7 テ = 3/ フ r 商 モ 又 7 二丁 0 1/ ナ リ、 ソ F ガ 東 賣 ラ V _ 1 即奔 ソ 云 テ 3 永 v 25 ス 西 ŀ ズ 町 V E = モ 1 E IV ク 此 2 1 ス 駿府 諸 テ、 或 等 ス F b 毛 牛 ヲ 7 ツ w ラ 中 永 人 作 處 モ 1 E 或 10 21 3 丸 リ深 肝 公然 17 多 1 = w 丰 處 ス 事 宿 保 山 + テ 要 ŀ テ ~ 4 3/ 中、 寄 宮 云 -= F 汉 E ナ 行 テ 1 = リ、 合 7 又 或 游 1 モ 1 牛 カ 長 ラ 前 內 町 長 = 1 V ク 女 コ ١١ 丰 ブ 佛 此 サ 長 1 丰 踊 = = ユ 3/ ヲ 略 年 v 語 閉 ナ 月 法 ナ 女 w ヲ 月 リ、 日 = 110 ナ 古 n 1 1 7 ナ = 8 事 10 ヲ -3/ 3 云 味 1. 7 V = 百 近 保 線 27 テ 長 ナ 1 1 ヲ E 1-1 醫 密 外 世 ナ ラ ツ ケ ---制 1 數 如 リ、 4 王 者 大 = ナ 淨 V ズ ス ヲ 丰 1 ナ 容 名 重 1 210 y 瑠 御 IV 3/ 行 易 何 丰 役 别 聚 1 T 1 璃 ラ 免 ŀ 甚 + 法 七 " 叉 = ナ 1 -ナ ズ、 1 風 論 ナ 1. 難 年 游 10 7 ソ 1. ソ 力 方 + 1) 1 丰 過 ソ 叉 ズ 1 V 女 1 外 間 難 本 女藝 又 = = ~ w 1 モ 領 門 7 本 = 1 ク 21 b 原 1 ナ 主 2 ノ外 -1 立 力 ナ 3 者 代 1 E 原 丰 入 及 ŀ 次 n n 云 世 邊 F 官 E = =

サ ズ 决 敎 者 理 今 天 果 戶 デ 25 モ ~ 然 中 師 W. 7 1 ナ 港 + E 意 3/ -芝居 _____ 心 正 7 3 1 深 信 1. 草 水 ナ 儒 味 理 サ 得 和 w 1 寺 -ton 1. 半 7 樂 線 ~ ナ -吟 丰 P 1 ズ 内、 導 1 = 組 7 3/ IJ 如 V 味 1 1 ŀ E 丰 テ、 失 大 芝神 + 1. 久 多 テ -110 > 3 皷 テ 害 + フ モ ナ 25 3/ モ IJ 等 腐 人 70 1 V 0 嚴 ナ y, 及 明 七 丰 情 フ 110 儒 7 E 社 叉 13 -110 其 -テ IJ 芝居 E 戀 F 3/ 内 サ 土 ス __ 効 . ナ 人 通 7 テ E 毛 ナ V 马 ホ 甚 其 1 IJ 情 中 15 ヲ 1. 1 Ħ 1. 1. 1 速 ユ 所 情 論 IE. 禁 7 3/ = 云 1 毛 1 ナ +, 威 作 老 = -ナ 和 如 樂 1 王 ズ IV 得 通 練 樂 今 テ IJ T 1 IV ク ~ 叉 仕 達 ス リ 3 1 # 7 1 ア = シ、 形 却 古 ソ w テ、 久 3/ モ ソ y 人 ノ弊 テ 7 テ 情 心 テ 12 益 1 7 H 但 樂 デ 義 人 1 前 7 ١\ ١ 力 T T = F 0 理 ナ 深 ナ = 力 w " w 1 w 民 勸 力 ラ 及 半· 1 數 者 ~ 3 7 風 V デ ラ 善 大 1111 70 7 1 俗 テ ケ 丰 情 = 懲 綱 ズ、 1 ウ 條 モ ソ 7 1 1 -= 惡 绿 1 ---ヲ 叉 思 手 E 1 = ウ 人 7 ナ 1 3 見 ナ ナ 害 所 類 E 7 ツ 助 情 111 IV 17 力 入 丰 セ ス ユ ス IJ 心 1 物 力 ~ __ IV 1 テ w 7 P 人 丰 ナ 得 ウ 制 弊 ナ ナ 1 = -ス 情 IJ ナ 久 -10 ナ ツ 心 ŀ 度 サ 3/ 力 テ ラ = w 云 美 得 y 7 n 7 ヲ ~ ラ 1 ウ 類 NA 女 V. ナ 관 ガ = v 1 -T ツ P 思 R. サ 1 110 7 ク w ŀ ス IJ 敎 13. 3 3 ナ 110 フ 丰 V 21 7 ス 牛 テ、 -力 化 丰 今 人 ラ 7 1. = ナ V 1 ヌ 1 風 左 1 毛 1 1 V ^ 110 益 11º 謠 芝居 助 w 儀 亦 3 ナ 力 淫 テ 7 ナ P 7 フ 多 1 禁 客 君 デ V 7 牛 導 文 フ 行 ナ 嚴 7 力 110 フ = ズ 7 モ 旬 ク 及 = 不 w 待 w 1 w 1 3/ 1 ナ 義 1 10 玩 說 7 7 ~ 110 7 ツ ナ 緣 73 w ヲ 1. 禁 15 通 ズ ۱ر 1 3 7 V 導 學 1 ----深 = モ W IJ 10 ŀ ズ 3/ 1. 及 1 校 ナ 丰 毛 1 7 }-ナ w 210 モ 學 義 叉 ラ 18 ス 江 12 7

IE. ソ 得 出 出 ,39 V モ w E 3/ ヲ 2 义 和 ス ---1 ス n 故 n 衣 漏 210 ~ 歌 類 牛 樂 1 内 ナ n 服 4 1 -1 ス テ 舞 -7 1 " 3/ 1) 世 物 = = 111 1 力 伎 = 云 伏 味 汉 哀 模 V 芝 1 -_ = 1 ズ フ テ 樂 樣 毛 IV -ス ソ モ 多 居 1 P 牛 ナ 多 亦 7 七 w 喜 モ v 力 ナ 久 少 1 P P. 17 內 情 1 怒 -11-" 3/ ス 風 云 V 1) V ナ テ 0 T 心 テ 7 ソ ラ 俗 1 IJ 210 18 モ ラ 和 -IJ 古 小 E 1 輕 E 7 1 Z 存 IJ 昔 情 事 仕 嚴 ラ 民 助 -= 丰 能 ゲ 3 1 1 實 立 者 間 平 7 ---ケ、 4 = 外 1 染 狂 + IV 人 動 非 事 禁 世: 1 1 -言 -3 色 = 1 ス 1 IV 毛 風 不 = ズ テ、 人 囃 等 法 ス 如 1 水 1 俗 義 3 w 情 女子 子 民 1 P 1, 7 泙 1 モ 7 7 1 芝居 -ナ 3 IJ ナ 移 7 1 1 行 -F. 導 E テ 感 深 今 婦 w 北 7 3/ ノ百 サ 善 云 深 ソ 丰 導 7 ---1 人 易 尤 , 7 治 染 時 E = 1 丰 1 w 至 丰 或 デ 才 說 耳 -1 行 IV モ 3 云 1 極 = 近 7 -毛 諸 道 -1 w 細 テ -F = ナ 樂 毛 7 書 禮 故 2 ナ 丰 云 及 = IV 民 モ 及 ウ 17 1 ヲ 17 於 = V テ 110 懶 擎 7 110 ツ 見 力 P 以 所 210 111 ス 隋 昌 -テ 1 ズ、 ラ ウ -ナ -テ 久 ^ + = ス ワ ズ = 及 ソ 忠 目 男 今 F リ 流 IV IJ リ、 孝 7 1 觀 ス = 子 所 1 IV = 殊 外 V IV 仁 覩 淨 テ 爭 + V モ 用 1 -= ガ デ フ _ 義 瑶 1 IV E V 1 r IV 愚 ラ 樂 力 T 進 y, 必 所 瑠 緣 1 モ 1, -10 婦 ン 1 丰 ラ 道 再 芝 デ 3 才 モ b ウ 敎 1 女 Hh 慕 居 1 -F. リ ナ 又嚴 3/ -世 內 1 1 折 w 沂 セ モ E ナ F IV 心 情 量 7 ? 學 + 云 1 1 1 ~ 1 = 得 和 7 ^ サ 愚 立 = = ブ テ 物; 禁 毛 3 IV ラ デ 次 7 1 夫 -1 1 モ 1 態 ナ ズ 者 か (毛 リ、 7 愚 モ 7 多 ス 水 ヲ ラ IV 7 感 制 w 思 婦 孰 = 力 ~ 1. 或 ズ V 1 セ T 端 3/ V 6 テ 觀 1 1 E F. 敎 シ 1 IV 心 unit bereit 此 ソ 或 的 3 T E 芝居 2 樂 - Contract 芝居 ~ 3 久 肝 ツ、 ナ 1 テ 中 此 E w ケ ヲ 深 1) 10 = 風 IV 1 ナ 類 以 テ 7 思 徹 E 金 華 3 ヲ ۱ر ク ラ 1 中 1. 威 老 テ 慕 銀 7 E ナ ス 1) 雕

近 至 年 子 槪 安 賴 徒 人 損 同 ス E 者 親 情 治 ク 格 Fi. ヲ 1 E ズ 3/ 之 所 非 親 テ ナ テ 年 力 igo IV 1. 1 深 甚 極 ダ 族 P 行 ナ w 1 V 1 コ 意 ~ 牛 ズ 110 力 ツ r ラ 好 1 V V 入 故 ヺ w 云 デ 力 18 3/ Z _ 者 無 魂 威 用 耻 所 木 ---七 王 E 1. 中 7 飢 サ ノ外 ヲ 1 賴 w 3 -= 分 申 テ テ 過 寒 T ^ ----= 华 ナ 料 付、 ソ 1 至 _ ŀ 及 + ۱۱ 同 聖 1 7 セ ソ IJ 7 ^ ス 右 博 刑 ナ 腎 テ 樣 1 テ 云 丰 7 Ŀ 後 懲 年 徒 w 付 IV = 法 p 1 町 意 數 申 = 始 サ ~ IV コ ラ フ 1 • ____ 付 年. テ 3/ 王 b ス 1 3/ = <u>_</u> 內 村 8 7 r ナ T ナ = ス p E 博 等 博 仁 ラ ク b ~ 3 ラ ۱ر ス 3/ 又 奕 人 相 奕 1111 ナ ズ 1) IJ 3/ IV 博 無 外 w サ 1 當 3 ۱۷ = = 他 賴 奕 至 人 ~ テ 心 1 1 1 V コ 刑 看 7 村 右 力 1 1 3/ 1) __ 1 ハ 輩 所 犯 他 難 テ r ナ 板 1 ラ リ、 非 7 行 华 3/ 即了 加 1 義 1 21 着 甚 義 汉 ~ 力 沙 ズ ナ ナ 1 -末 云 w デ + 毛 -3/ ---V 1 サ 義 者 者 法 世 7 毛 ナ 1 丰 久 111 ス 同 ~ フ ラ ナ 分 ヲ 10 upoli Terrorita ヲ 1 樣 V. 奢 行 ソ ---____ 3/ 又 V 24 ___ 10 -7 人 統 1 P 110 絕 テ、 7 フ F ---刑 テ 袖 T 犯 ウ p 邨 ス -テ 入 前 行 不 ~ ツ ナ 法 ナ ナ 3/ 1 車 札 テ 仁 力 7 = 3/ 3/ IV E --1 ナ w 刑 陷 ス 1 ナ 3 E サ モ 7 3 所 俠 1. 1) セ ŀ 1 IV 1 -IV v 7 但 客 時 陷 行 テ ナ ~ -110 ---^ 渦 华 ソ ヲ 仕 V w ケ w H E ----1 等 1 博 利 俠 者 IJ 料 ナ 數 110 v V. 内 客 ヲ 奕 テ 欲 1." 21 ナ 3/ テ ホ 罪 定 1/2 ヲ 1. 细 ソ 1. 3/ 1 E 1 -分 7 良民 犯 ラ 逸 賴 ナ 云 メ 1 1 富 樂 1 w 小 + コ 3/ 1 ヌ 1 乞食 體 徒 說 父 4 3 1-1 力 义 1 害 又 溢 母 テ 枞 1 T = -= 1 事 數 非 從 ヲ テ 1) モ w 1 途 博 な + ヲ 步 ナ 手 人 4H: プ

〇芝居井見セ物類ヲアツカフ法。

~

7

ヌ

者

E

1/2

丰

1

ズ

工

人

4

犯

3/

安

牛

勢

E

ナ

IJ

經

世

談

卷

之

+

情 草 板 賢 v テ 1 テ 力 ラ テ r リ、 , -7-履 110 ナ 111: 毛 セ ス ヲ ソ 1 薄 賴 1) ソ テ 心 今 V 日 丰 1 7 -前 7 草 11 ク 1 夜 2 大 7 1 1 21 , 鞋 遣 上 ナ 人 年 息 略 = テ 得 世 3/ y, ソ 1 ヲ 數 ラ 7 3 テ 1 丰 -見 細 博 ~ 1) 1 ユ 滿 ズ 何 P 1 19 奕 4 出 1 ソ w w ナ ツ 方 ソ 汉 1 條 世 頃 w 1 3/ 3 ^ 1 turns. 7 1 IJ 21 -話 Ŀ 遭 犯 7 テ x 迹 21 テ テ 加 見 THE. -衣 ス 大 莚 21 1 毛 = 何 3/ 賴 食 法 分 編 ゲ P 1 見 及 拘 聖 1 者 1 ナ 3/ -V 1 1 -7 7 IV ラ X 3/ 1. 源 錢 價 者 テ 1 行 y 復 力 ラ ナ ズ 所 召 七 久 毛 7 フ w 生 木 為、 谷 P 如 デ 公 捕 今 = 7 p ジ 1. 英大 V IJ 用 世 940 1 V E フ 玉 モ ^ 此 今 云 1 9 110 久 テ H 并 -フ = ス 博 付 家 施 1 w 1 4 3/ 1 ソ w 世 費 飢 役 奕 7 中 0 役 w 1 3/ E 時 寒 役 大 P = ナ 王 元 人 又 所 テ 1 P フ 1. ナ -手 人 或 必 綱 ^ 21 ---數 7 町 家 9,00 IJ 1 セ ŀ 取 P 7 7 所此 7 テ テ 千 年 3/ 4 1 家 1 IJ 丰 -法 X IJ 創肥 21 20 せ テ ゲ ナ テ 益 法 ガ -卜後 -7 テ 7 外 久 E 1. r 7 = 云銀 計 ゲ -轉 何 思 相 牛 出 間 ムヘリ、 -V 12 事 雁 7 政 v 却 2 モ ヲ ---外 = 1 テ ヲ 息 テ w 1 1 雇 サ 1 1 ス Z 岩 吉 業 夏 容 ス -ヲ 誠 3/ 1 3/ w 者 x 冬 E 易 1 IV モ 人 何 -7 -書 1 -3-ナ 1 ラ T ツ 夫 事 民 1 心 + モ ラ 3/ V y カブ ス 夜 P ---モ 1 _ 久 出 父 W ++" 毛 少 セ 力 ラ ~ --ナ 拘 竹 或 w 15 w ズ テ 17 30 母 3/ 條 家 ク 衣 7 3 7 = 人 P 1 及 1 -習 苦 fo 益 食 夫 ラ IJ 同 .]. ス IV 更 前 ケ フ T r 1 ~ 1 ズ 汉 服 1 3/ -條 悲 仕 丰 意 IJ n 非 テ テ 丰. セ -外 汉 心 モ 事 = = 木 雇 y コ = 多 辛 8 , 懲 7 金送 1 1 F° 1 3/ 3 分 苦 等 V 力 ナ y P -ナ ク w ス , , = r IJ テ ヲ フ ---21 何 3/ y ~ 力 良民 厭 11 17 叉 w 1 = テ ナ ---1 5 石 型 ナ サ +)-云 3 7 3/ E

E

立

テ

サ

ス

w

時

21

-

怨

3

惡

3

-

3

ŋ

テ

不

平

ナ

w

=

1

王

T

12

1

3/

+

2

18

此

者

b

Li

"

9

テ

. >

吟

味

1

節

nate Control

3

驚 達 者 テ 予 徒 法 4 ---1 E 1 E 25 價 最 膽 半 + 先 ۱ر モ V 7 . 1 1) = ズ -入 ナ 利 1." E = 1 年. 追 モ モ T 3 及 ソ IJ, 欲 モ ナ 畏 n 屯 IJ T 10 Ł 3 定 n 拂 1." y 拂 1 w 1 丰 v E 念、 粉 難 + 種 ホ 村 + ス ノ、 1 7 コ 統 テ 1. 州 ~ + ズ、 IJ 又 3 ソ 1 4 諸 ナ テ 1 尽 世 事 1 1 T. 依 ナ ___ ۱ر 或 甚 內 ナ IJ 夫 暴 怙 町 叉 w リ、 -۱۷ 23 業 ッ 諸 交 俠 逸 最 1 Ti' 晶 ナ >1 3/ セ 樂 所 丰 暄 無 客 牛 上 1, 2 1) 1 屓 モ 叉 端 ノ邊 所 嘩 ナ 賴 = 17 無: = ___ 1 ガ = ク、 情 1 ヲ買 E ~ 過 行 テ 類 4 1 3 E 3/ サ 料 1) 月 __ 21 7 E ۱۷ F F E, 行 伊 ガ 人 云 1 ス テ ソ ス 3/ 近 暫 達 過 T " 惡 4 1 ~ ۱۷ 次 w 段 或 癖 引 w 代 輩 テ リ = 1 w -人 格 年 1 サ 良 疎 E 1 ナ ヲ ハ ŀ = 役 别 隱 叉 3/ -法 1, 云、 ソ 3 -毛 V 人衆 1 1 次 テ、 荷 ヲ 密 申 n 1 __ ١٠ E ラ = 八 仲 双 17 心 擔 チ 1 付 此 1 者 1 ŀ 博 人 六 w 等 人 V オ ッ p w シ、 撮 ナ -奕 勝 デ 7 カ フ ŀ 1 フ 7 毛 當 テ V 金 ナ 負 1 ズ 人 ナ 1 久 1 或 江 110 3 告 此 類 . " 銀 渡 父 中 w 1 IV 戶 T 法 其 輩 世: T 母 賴 衣 E 3 1 大下 3/ ッ、 博 7 IJ 後、 物 T ナ ス 1 久 1 7 丰 リ、 業 **が** IV ゥ ~ 徒 1 ヲ 3 w 馬 -ッ、 習 テ 轉 テ 米 民 力 1 5 1 1 削 7 內 澤 俠 酒 P 1 -心 ナ T 1) 3 ノ雇 人 制 テ 先 客 色 テ 上 フ テ IJ --V 杉 ス 年 r 110 テ、 力 r 1 1 = 1 = 今 奴 w ラ 好 木 1 耽 1 IV v 1 ^ ノ所 1." 身 義 政 人君 リ ズ、 サ ~ 7 モ -= ソ ノ事 ノ禍 ワ 法 氣 甚 1 ズ 1. ŀ 爲 1 博 父 -T æ ナ 3 1 3/ 1 ~~~ ナ デ 徒 7 母 或 何 21 ヲ IJ v ク IV 1." 8 テ 精 ナ 聞 兄弟 モ 1, 3/ E 木 7 1 1 1 ŀ 名 酒 7 傳 テ 7 1. P ス カ 毛 E 類 丰 リ、 ナ 出 制 ヲ ノ異 E ツ w ^ ヲ ^ ハ -2 好 博 行 ŋ 所 ŋ +)-汉 1 3/ = 工 汉 仲 ? 111 見 ズ、 奕 難 此 w フ 3 F = ズ、 7 テ ヲ 10 サ n = 1 シ 丰 類 k 制 法 テ、 丈 或 7 テ p 毛 セ F E = 3 刑 夫 用 ~3 伊 7 ナ 7 ソ ŀ 3/ 21 ヌ

義 力 テ 3/ 7 25 -見 小 T " 1) サ Æ 物 愛 七 = ス 3/ 力 見 憫 勢 E w 牛 フ 無 叉 小 1 = 1 3 情 類 用 兒 ŀ 27 1 ナ 所 亦 7 7 1 偏 人 1. 加 案 父 = 民 大 內 日: 愛 v ~ 將 卽 テ 1 ス 21 國 民 1 小 心 n 目 走 中 1 7 ユ -父 利 T 私 ク 1) = 6 デ 廻 ラ 情 母 1 " ズ、 13 + = 同 w æ 27 1 小 次 サ ソ 1 3 1 道 ラ 荷 テ 1 7 1 丰 駄 無 心 重 3 ナ 1 得 下 用 テ、 リ、 益 テ = 1 1 1 小 業 テ 時 眞 徒 働 ナ 7 シ。 1 -何 改 父 此 1. ホ 靟 メテ E 母 1. 或 ヲ 1 モ 威 本 撫 此 21 用 ソ 靟 育 善 心 Ł 1 事 3/ 25 -ヤフ 人 亚 テ 7 = 具 ラ 良 オ = 7 諸 民 7 ス 毛 JV y 式 上 = ~ 深 益 キ 叉 -牛 切 7 + 3 7 家ノ妨 岭 力 丰 17º h 味 事 3/ IJ ナ 坳 7 モ = リ、常變 追 r 取 -1 ラ ナ テ 女 E 218 使 ラ IV = b E 7 21 又 間 モ y to 習 ウ ス 難 21 -

0 博 徒 井 俠 客 無 賴 1 輩 7 7 7 カ フ 法。

事 伊 退 行 水 達 世 至 F + 1 信 禮 玉 ナ = n 10 夫 法 ホ ナ フ + V 後 1 1. F. ヲ 1 汉 以 風 -1 n モ 俗 時 -テ 21 1 再 制 >> ナ 公然 力 F. v 2 ク テ、 博 舊 難 210 ŀ b 徒 -丰 店 10 右 諸 1 Æ = 小 力 父兄 1. 1 方 屋ヲ ヌ 准 y サ 1 所 テ、 役 1 V E ア テ、 人别 6 人 ッ、 ラ 所 Æ キ、 胴 多 7 格 -先 别 シ モ 3 多ク 年 ナド 除 リ = 白 博 心 キ、 1 國 YOJ 7 奕 人ヲ 侯 = 别 用 1 3 1 禁 = 5 リテ 集 大 3 E メ、數 政 類 故 亦 2 ヲ = , 1 ソ 公然 染 + 人 1 y 百 大 1 玉 ŀ ナ 金 ナ 概 3 リ、平 E ッ、 ヲ = テ 3 賭 ۱۷ 犯 頃 今 行 = ス シ、 H 世 1 E 3 1 10 法 T 數 法 V + IJ モ ヲ 日 13 毛 ŀ 事 大 1 V 等 丰 1. 抵 勝 1 嚴 = 負 E 1 7 ----21 = 奥 3 諸 侯 數 w テ 干 方 州 1 所 萬 位 諸 ナ 1 1 內 兩 神 7 丰

=

1

=

1

_

=

3

取

云者

ハ大名、

高

家

ノ行

裝

ヲ

ナ

シ

諸

事

1

大

造

ナ

n

3

1

デ、 华 事 他 脇 餘 ガ 同 葛 ナ ク 3/ _ ズ 城 F テ テ ~ ナ 츄 國 筋 或 類 = >1 入 嚴 役 中 役 拘 願 モ 3/ w. 怪 3 1 1 定 人ノ 類 Ti 人 P 3/ 7 >1 IJ E __ 峯 養 立 7 貴 ~ ラ 出 w 7 1 ^ ノ類、 差 禁 或 泛 願 入 叉 1) 力 子 = ズ 汉 F. ラ 圖 ク 13 ス ラ E w 21 ズ 1 1 出 名 手 者 ~ 風 人 何 ヲ 王 w w 110 ズ ソ 受 几 俗 僧 2 T 足 = テ r 1 -ノ外 民 游 I テ 物 ~3 7 IJ 1 1: 王 知 v サ 惰 目 禁 7 ŀ 識 3/ 又 3" 18 1 王 3 1 テ 業 ラ 愚 テ w E = 7 ズ IJ モ 0 末 サ 整 民 國 ソ ~ ス -才 モ ス ン __ 世 寺 7 役 ~ シ、 中 1 ズ 王 ヲ ~3 1 力 他 極 絕 迷 院 外 テ 介 力 1 2 = 3 國 筋 意 文 人情 7 此 足 ラ 行 テ 21 3/ -修 骨 類 止 者 武 21 ナ 方 テ、 ヲ ス 3/ ズ 行 何 テ、 北 宿 牛 7 ~3 ナ uses Named コ 1 3 1 勞 助 拘 テ 段 -1. 1) X サ w 7 汉 = 金 他 ザ 毛 人 ス b セ = 1 1 4 F 情 銀 ラズ 赴 ナ ~ 或 セ -ズ 或 -IV E 等 送 H ク テ w 7 ソ 力 1 7 1 ズ 安 養 ラ 杏 動 ウ 7 7 ヺ 1) 1 ~3 門 ワ 坊 逸 貪 子 拂 所 異 1 ズ ŀ 力 -シ ガ 多 人 身 7 7 ス 1-4 1 IJ -懷 聚 1 人 何 ナ 17 7 3/ -モ 1 モ 山 ヲ 集 大 = ホ 類 メ w カ 去 3/ 1 3/ 潮 或 伏 ク 病 E 1. X = フ IV p P 家 ラ. IJ 叉 化 w 叉 ~ 1 3 毛 ŀ 1 11 1/ 外 難 指 1 ソ T 七 修 7 ۱ر ۱ر 3/ 1 難 害 -悉民 岭 1 南 汉 1 1 w 或 丰 行 丰 外 等、 w 1 サ F 子 傳 = 中 味 H 子 型 幷 授 小 ナ 次 413 類 ŀ 細 1 ノ V 細 兒 猶 w 心 第 ナ 財 11 1. r ス ス __ 1 r ヲ 1 朝 得 寳 巾 者 ラ ~3 w V モ 1 モ ラ 7 人 小 110 ヲ 7 1-1 JF. 110 テ = 1 10 -内 ツ 夕 誤 他 病 濟 1 1 ~ X 禁 T 所 深 氣 度 力 = IJ ヲ ___ ソ _ 3/ -ラ 爲 11/ 運 往 宿 1 フ 7 テ 7 ナ 1 ズ 時 吟 P ズ 宵 E ~ ラ 來 志 ~ = ス ----限 フ ヲ Ŧi. 漏 P 4 ١١ 味 ~3 力 110 道 3/ 怒 深 得 リテ -ラ =, 汉 P 偷 ス テ IJ 笳 療 テ 願 7 ズ 大 7 此 IV 1) 1 = 1 外、 何 吟 テ 道 等 7 ソ ~ E 1 コ 出 味 禁 , 7 分 薄 叉 加 ŀ テ 1

50%

經

仲 相 其 " 勸 ズ ツ n 手 7 w N n 進 ~ 1 力 者 間 1 選 ~ ナ ソ 7 = 病 持 類 3/ フ 1 1 1 27 = F. E 4 N 外、 從 類 氣 前 4 21 テ IJ ~ V 限 必 禁 水 平 上 テ フ フ 1. + 1 農、工 愈、 本 几 難 ~ リ、 同 ズ mania Manada 3 モ t シ 職 類 民 ~ ス IJ 几 フ 劍 人 生 3 13 モ 民 大 110 = 1 = 難、 震 職 商 1 ソ 限 内 抵 3 力 1 賴 1 + 人 賈 IJ 内 其 段 v IV 3 テ 浴 死 妻 1. = ~ IJ -= 1 ---4 1 養 坊 難 號 職 業 テ シ、 業 帶 3 V -主 亦 支 IJ 人 勝 子 繁 ス = 7 = 荷 山 火 テ 手 子 サ テ 昌 ~ P 1 F 力 擔 法 防 テ 次 伏 7 テ ス 7 >1 ~ セ 物 子 等 等 IJ 令 第 養 山 v 3/ 12 w 又 化 勸 テ、 伏 孫 ヲ 7 フ __ 1 7 1 p -崇等 農 守 統 " 10 ウ ユ 10 = 21 P 相 足 = w 1 重 y ゲ ווול 親 ヲ 續 = 3 禁 持 退 族 心 ス 本 7 メ 2 ラ 110 1 散 引 商 ~ 分 ズ モ Z 祈 ユ 1 = ガ 意 シ 者 テ ソ ノ爲、 立 人 禱 ~ w ケ 3 21 ナ テ、 > 丰 3/ 1 P 21 ヲ 毛 3/ リ -外 ウ 商 持 堅 = 但 ヲ ソ 叉 賴 人 醫 此 前 7 7 7 -ン 丰 1 サ 禁 者 外 母: P 者 1 1 ツ 21 1 1 雨 テ 定 業 定 人 子、 ツ 1 ズ 力 モ 1 乞、 山 類、 法 嫡 ス 力 ~ フ 1 1 X 3/ 信 伏 シ ~ 類 7 ス 子 子 E 7 早乞、 宁 寺 驅 針 テ モ 1 w ナ 1 ŀ 外、 加 叉 肝 開 ツ 所 治 僧 15 ナ w 7 持 類 子 帳 1 要 7 1 3 -1 等 或 身 17 亦 ナ 按 基 7 テ 弟 ナ 3/ 3 y, 稿 リ、 跡 テ 身 1 分 IJ 摩 ヲ 工 并 諸 テ、 出 狐 7 守 7 モ 3 1 次 守 法 繼 付 人 世 狸 毛 ソ 男、 サ y IV 賣 テ 札 開 ヲ + 1 = 1 ツ = w か 察 定 內 = 護 渾 憑 民 200 ソ v 1 E = 諸 等、 咒 ラ (-0 男 符 文 ヲ 24 " E 農 テ、 持 右 仕 7 咀 n y 心 等 並 業 引 司 叉 前 法 1 1 ١٠ 1 -ソ 類 地 格 等 掟 ヲ 准 類 = 丰 1 F 1 28 談 堅 賣 定 追 别 = 人 色 30 1 >> 或 志 中 義 17 E = 7 1 x テ 1 10 禁 家 觀 娶 去 7 勝 說 r 7 P 1 3

法

1

類

ス

~

テ

諸

人

7

集

w

=

ŀ

禁

ズ

~3

シ、

托

鉢

修

行、

諸

ノ勸

化

E

禁

ズ

1

シ、

本

14

^

參

JV

=

7

并

大峯、

-

〇寺僧山伏等ヲアツカフ心得。

叉 1 者 ・ヲ ."1 w 住 4 2 -論 居 故 持 14 2 デ ^ E モ テ テ、 制 ナ 引 寄 ス + T 3 外 y n ク、 進 人 7 1) 今 グ 古 以 ナ 何 F 君 F ソ テ H 叉 1 方 云 1 F 1 Ħ V 民 障 末 ン 時 法 ヲ 1) T = ガ 送 治 3 y 1 毛 7 k ngelik Namerika 1 爲 安置 テ、 3 至. 父 w 7 ١٠ 國 1 = 者 " ン 者 7 y 母 = 民 其 テ ナ r 3/ 1 志 -ス 1 勢甚 處 リテ、 1 v w 云 テ T 至 7 勞 置 神 r 218 w = w シ 佛 存 ツ 何 辈 V 盛 1 -デ ソ 1 力 -コ = = 叉 . -外 儒 V 或 1 フ モ V ハ 世 中 畢 者 セ w 7 = = 1 多 者 滁 父 除 1 3 竟 ソ -1 ク 1 3 游 母 常 1 1 力 1 ノ費 我 先 士 ナ F r 1 F 3 2 代 il 子 b + 1 w = ヲ 1 テ、 テ、 所 均 領 ヲ ス 1 3 致 力 主 全 1 靈 3/ n 3/ サ ス 誰 ナ テ 者 穀 ノ信 地 丰 7 V = リ、 r 栗 700 多 1 4 几 1 名 3 仰 " モ ケ ヲ IV 以 民 サ 力 費 ナ 厚 迹 1 聞 v ノ外 1 ク、 古 ラ 古 1." v フ 70 = 外 ズ、 111 ~ 蹟 王 シ 1 1) = 1 叉 7 金 丰 ナ T 尽 r = 此 當 或 銀 リ、 1 ۱ر IV = IJ P 梁 類 ヲ = F 世 -٧٠ テ ナ Ŧ. 民 今 F 1 -L 3 1 示 V 無益 テ 事 サ IJ 公 1 世 ナ 1. 一排 貴 テ 歸 體 V ソ ボ -屯 1,0 敏光 1 人 テ 依 1 = y 加 諸 人 飢 テ テ、 昌 ヲ 1 毛 モ 食、 . . 類1 寒 1 1/2 寺 " ス 毛 サ 院 ヲ 或 w 畏 7 2 V 不 京 御 ラ 後 坊 家 モ ---E V 朱 主 織 都 ザ 110 カ P 毛 1 = リ、 蠹害 印 或 7 Ш 7 而 w 22 家 絕 ガゴ 衣 江 ホ 义 伏 21 テ ズ、 或 PIP 戶 F ソ 1. 1 ナ 1 代 1. 址 + 力 + ナ 中 1 1

經

111

談

卷

之

+

世 談卷之十 目 錄

經

〇寺僧 山伏等ヲア ッ 力 フ心得。

〇芝居井見セ ○博徒井俠客無 物類 賴 ヲア ノ輩 ツ ヲアツカフ法。 力 フ法。

〇游女丼カク V 女ヲア ツ カフ法。

○顧人虚無僧非人等非諸浪人六十六部二十四輩等ヲアツ カフ心得。

經 世 祭り、上ヨリモ

コレ

ヲ助ケ、ソノ祭日ハ年ニータビ農時等ノ隙ノ頃ニ定メヲ

義アリ、

叉

バ其

社

地

= テ

見

-6

E ノカ

ラ

7 リ様

ノコ

1

ナドユル

シ

テ村

民

ノタノシ

133

F

ス ルコ

1 ナ

1. 1 キ、家

夕酒

肴 赤飯

ナドノ祝

村二村

モ

新

= 開

發

ス

w

亦

1."

ナ

ラ

110

3 牛

7 7

Æ:

ア

ラ

1

力

-サ

v

1. モ神

祉

ヲ新

= 立

w

7

ŀ

モ

我邦昔ョ

y

ノ法

E

7

n

=

7

故、

111

Di"

IJ

-

行

E ガ

ダ

+

=

1

也

H

ク

吟灰

ア

リテ

Ħ

談 卷

經 11 談 卷 之 九 九 終

会

縱 婦 力 7 = 丰 = ŀ 人 我 何 20 フ E 1 = 子 或 1 21 叉 ナ 兒 工 ス 1 1 里 司 人 11 ナ ~ x ナ 辈 ナ 丰 工 1. 是 1) ラ × V 1 = 21 百 ナ デ F ズ 1 以テ 姓 ナ 毛 丰 E y 0 用了 + P 1 其 人 同 V フ 外 ナ サ 類 110 = 詞 1 其 申 1. ツ v 1 Ł 含 士 X 力 -210 ガッ 其 7 王 地 义 ^ T 村 7 輕 E = 1 7 髮 力 長 31 1 = ~ ナ 及 3 力 テ、 1. T 丰 汉 3/ ナ ナ チ 此 ス 3 民 理 蓮 1,0 ~ IJ ヲ テ 風 ヲ 丰 w 安 サ 者 ~ 俗 = 1 1 1 丰 3 V 37 是 ヲ = y 3/ 擾ッ テ 披 r V 3 17 デ ラ フ v w ヲ 輕 役 有 ズ、 1 敎 1 H 來 道 沙-殊 w = w -民 更 r 毛 = 於 ナ 申 永 F 3 テ 1. 付 y 17 T 1 ワ w テ 毛 y 殊 ガッ -1 3 更 入 或 1 ス 毛 大 il 中 T ~ 告 ラ テ ヲ 1 = 1 付 民 v 3/ 1 ナ 事 ヲ 2 テ b w セ 啊 ~ = 3 7 心 ラ 1 力 E 1 ラ ヲ 力 = 2 ナ ラ ズ ク 21 3/ リ、 誠 n N 又

思 祖 道 左 テ ツ = 第 臣 ラ 7 先 = ナ 甚 於 孝 7 1 7 面 八、 墳 ラ 子 白 セ -墓 寺 考 テ 27 Æ + 或 終 院 人 ヲ 事. w 守 其 = 4 = 也 ヲ 21 其 大 建 1 ラ 事 土 心 ナ 但 立 モ 31 21 同 得 僧 地 メ w 3 3 開 妨 僧 徒 P b 3 發 ナ 切 p ヲ 2 1 1 子 ナ フ 愚 7 w オ 丹 叉 民 b ~ w = 丰 21 7 * テ テ 1 7 ヲ 邪 用 得 民 コ b E 3 水 其 情 ザ b 法 ア チ ナ w ナ ヲ 心 E ヲ V 防 1. = 1. 110 7 7 ナ 容 折 -1 ヷ E 21 " 格 多 r セ 7 -1 易 别 ラ フ 1 w 7 w = 110 僧 處 1 21 1 V 行 大 0 テ 徒 方 1 1 Ł 趣 功 便 前而 1 1 フ ガ 職 里 ア 社 E F 證 17 分 n ヲ 牛 テ ア = 丰 人ヲ 建 畢 力 1 リ、 3/ 3 立 ス ナ テ 竟 F 神 是甚 僞 IV 31 1) E ナ 其 テ ニ祭リテ、 ガ ヲ 7 y, r 以 1 愚 x 所 ナ +)-テ 民 w V 1 1. 110 サ V = + 情 1. 21 1 1 神 其 苦 是 T E ス = 址 水 3 7 ッ IJ 3 3 デ 神 力 ガ テ ŀ 7 = 附 有 多 w 國 通 田 屬 來 沂 ク、 7 天 達 TITLE 3/ 30 w 代 地 3/ ナ テ 非 叉 自 牛 1 汉 F* 院 法 カ 伙 = 及 n 叉 v ナ ŀ 說 1 子 る E F. 27 テ ^

相 耳 1 力 h ナ IJ テ 心 E 7 思 7 事 ナ 90

. + 1 * 第 1 役 v 110 Ŧi. 人 ~ リ、 田 T 其 畑 ŋ テ 物 處 ス E 成 ~3 = テ ۱ز 1 果 外 樹 30 木 x 木 = テ テ 7 1 デ 格 住 华 經 居 别 1 红 ス テ 1 產 共 貢 w 業 功 七 屯 1 才 7 1 助 見 ---フ セ w ナ ス 7 ヌ 12 1 ~ = テ 故 故 ŀ 7 故 果 是 旣 木 人 7 = 7 實 惜 K 植 永 ヲ 2 V. 結 1 ク 情 サ ワ F. ス ガ r y, n 叉 資 = 11 1 1 思 叉 材 後 木 フ 其 年 F 工 土 ナ -ナ 地 IJ ヲ テ 自 IJ 华 1 然 テ ナ h = イ 惜 V 力 3 サ 丰 ホ 2 情 價 w 1." 深 力 well torollo 術 3/ ラ E

1

云

ŋ

申 7 ラ 1 1 察 盡 病 第 第 1.1 ナ 六 r 3/ 七 3/ w V テ テ ŋ 1 110 -遊 テ r ス 1 E 藥 城 ~ 7 種 力 テ 其 F カ 7 合 " 藥 求 ---41 處 + 7 統 鄉 1." ~3 x 1 = 醫 類 + E 1 E Ħ 人 不 7 IJ IJ IJ 7 申 自 招 民 來 テ 1 肝 y 1+ 由 7 3 H テ 7 テ 要 ナ = ナ 重 同 其 ナ + 毛 甚 ッ、 土 # 7 ジ 吟 病 フ ナ 地 コ 但 = y 人 1 = 味 醫 住 T T イ ガ ナ 者 及 居 w n 17 v 時 10 シ、 ク、 汉 ス ~3 n w 屯 シ 1 7 其 醫 者 -ス 毛 是 者 殊 時 1 ~ 7 テ 210 p 4 屯 1 = 人 上 心 他 其 = ス 病 民 鄉 土 + 3 = 事 家 117 1) 力 E 地 1) 申 ナ # V 1 1 人 樣 デ 來 村 付 25 參 里 テ 何 又 iv -テ第 オ = モ -1 w ナ p テ 1 1 1 城 多 力 7 フ 1 ----病 輕 5 下 1 --何 叉 慢 力 家 V 馬 少 110 2 ス 汉 v 是 翟 人 w 7 1 丰 事 籠 產 等 里 E 7 業 ナ ソ 1 = イ 1 遠 寸. 類 1. 1 ナ to 人 + V り。 ١٤ カブ 毛 情 深 所 E + 1% 人 # 物 7 = E 加 il テ 老 1 IJ

= 本 意 ヲ 1 經 ~ 世 ガ 汉 談 ク 卷 叉 村 九 長 ナ 1. æ 1 カ ク = v 7 取 T ガ ヌ = 1 3 ク、 理 ヺ 非 -枉 수 일 ラ V テ 終 常情

ナ

リ、

殊

-

喧

噬

論

ナ

1.

1

事

-

至

IJ

テ

1

毛

1

E

1)

E

3

3

11

ケ

V

318

荷

擔

3/

テ

助

w

者

モ

ナ

ク

思

フ

7

IV

=

1

多

I. 骨 テ リ、 ナ 1 + ~ 夫 43 -1)-" テ 1) t 7 T 分 基 事 サ 久 才 n n ッ n 麁 リ、 ナ v 久 ~ -214 モ 末 1) n 身 是 2 7 1 ナ 4 等 r 其 ヲ n ス フ 家 勞 ~ 久 生 = 1 事 テ ^ 涯 居 T 3 其 テ テ テ 毛 無 -深 益 年 テ 1 ガ 何 增 30 7 7 毛 1 心 奢 北 = x 毛 V 段 7 10 1 -----ヲ 用 費 13 r E 3 4 个 ッ、 = 10 E p L 備 テ il 備 · [8] ス 是 久 r 露 = = w 目 至 p ヲ 10 1 1) 前 材 IV ナ テ フ フ 民 せ 7 木 17 ス = デ テ グ ヲ ス 210 子 ナ 1 カ ガ ~ 3 其 1. 1) 孫 久 U 3/ 身 ヲ 久 7 = 3 サ 思 110 フリ T w = 7 尽 フ 3/ 3/ 毛 V 勞 ラ x ^ 110 1 7 其 V 金 ^ テ 1 或 身 テ ナ テ 銀 成 " 年 7 13 3 27 就 金 " 7 1 フ 7 銀 力 IV ス 力 ^ IV ラ IV 250 = 1 ^ 110 樣 術 辛 從 自 力 7 ブ 分 苦 ヲ フ = 1) テ 身 シ ス ヲ ス 3/ 者 其 IJ n r ヲ テ 紫 テ、 汉 T 成 人 7 1 就 4 ^ w 3/ 民 . ナ 1 テ ス 1 有 情 1. 亚 同 n 3 故 金 " -ス 30 27 通 情 . . ~ ス 永 カ 達 R ラ テ ~ ナ 1

鄉 來 肝 自 ヲ 毛 第 外 要 1 ソ w Ji. 人 74 ナ ^ E -テ 車下 ナ 1 1) 3 前 其 = 1. 手 次 數 분 傅 事 = 3 地 人 毛 3 = ス 1 24 谎 集 論 厚 1) w 人 以 1 ズ ナ 圳 2 w F° Ŀ ヲ w 3 嫁 故 開 時 E 及 毛 娶 取 鄉 ~ 發 3/ 親 1 3 M. 3 -総 瀢 古 r テ 類 in ナ 21 六 白 1 緣 ク -机 久 見 者 1. 姓 亚 = ナ ナ ズ 毛 1 ラ 跡 ナ 117 V 3/ 23 ラ 貧 11º 久 E 7 7 テ ナ 7. = ヌ _ 3 福 肝 IV 人 入 丰 IV ナ 要 テ ~ 1 = モ ナ 難 ズ 1. 1 1 牛 貨 3 N 義 六 = ~ テ 1, 不 借 1. 21 2 近 自 HV. E 7 此 近 心 丰 通 ガ 由 弊 仙 T 得 ス 及 3/ 1 -鄉 汉 肝 丰 IV 3 叉 要 IJ and Second 7 7 3/ 出 ナ = 1 1 1 3 病 y 7 ナ モ V 厚 1 人 T 18 リ、 7 看 1 E 3 V ス テ 3/ 同 瓶 力 110 IV 鄉 共 7 3 ---___ 3 7 厚 外 概 1 7 1 者 p 7 ス ナ = 大 ナ ~ フ 扩 V 1 事 處 w テ 15 云 -ナ ス E = 1 カブ V 大 他 ~ 在 次 1 110 二 事 牛 鄉 4 w 時 ~ V = 共 3 = 力 同 2 1) 1 1º 1

六年同 六年同 六年八俵

七年同 七年 七年 拾俵

合

TL

拾

俵

合三

拾

俵

合三

拾

俵

無端 伯 " 7 1. モ タ -2. 第 故 來 7 叔 ナ 1 3/ 28 情 勿 ナ 鄉 父 2 w 3 更 每 論 者 リ テ T 2 1 渡 其 如 他 鄠 甥 V 1 桑乾 男 鄉 士 7 嫁 常 1/2 姪 ス 娶 ~ 尽 地 -1 1 毛 1 水、 人 ナ テ w 20 1 木 3 1 緣 苦 塘 王 人 IV b P 3/ 却 故 1 7 3 舅 1 ---= = 望 其 ~ 結 鄕 31 テ E 11 b 并 女 1. 舅 尽 T 110 25 = # 州 房 其 力 w 王 3/ F 3/ 是故 話 人 ナ 土 = 1 Z 2. ۱ر = y 3 3 3/ w 地 w b 鄉 1 7 テ 3/ IJ ヲ -7 7 ~ 1 其 ナ 大 3 25 1 21 b w 1 其 ナ 地 是 ナ y ナ = ~ ス - years - years to 第 テ w 7 3 E V w メ 住 -去 尽 IJ 1 --218 其 万 ナ 居 w 年 和 1 3/ 都 要 士 漢 シ 月 3 3/ 1 = 1 情 古 法 心 格 地 フ イ 其 别 人 今 ナ n = E 3/ E 落 風 後 リ ナ 及 ナ 1 1 -着 人 叉 土 7 IV 3/ 1 3/ 情 唐 益 猶 ナ 尽 = + = 女 詩 馴 3/ 叉 w 3/ P 3 E 近 事 次 IJ = 汉 丰 ナ = V 客 テ w 同 一一二 ス 21 3/ 其 是 近 舍 H モ ジ ~ 7 殊 隣 并 亦 1 士 村 ナ テ = 州 其 組 地 IJ ŀ ノ交 人 1 = 已 情 子 合 工 大 天 ナ 1 一十霜、 人 リ、 共 1 ク 事 1 ノ 1 常 交、 緣 故 出 -= 叉 生 3/ 3/ ナ = ŀ -歸 ッ、 殊 力 久 1 3/ 3 ソ 心 テ 更 3/ 終 難 1) w v 日 テ 3 (. 難 21 嫁 -サ -夜 祖 其 共 出 故 娶 ヺ 2 憶 鄉 父 人 士 210 1 V E -咸 上 母 緣 110 他 見 = 地 1 自 陽 思 次 孫 チ r 7 E 或 彦 外 w ナ 3/ y # k ス

第三、 今世 遠 方 1 A 7 T ツ 3 テ 新 百 姓 7 取 立 w -家 居 叉 21 馬 屋 物 置 ナ 1. T デ 堅 固 = 作 " ナ 2 ス 申

含

メ

ヲ

ク

13

牛

事

ナ

リ、

此

事

别

條

=

3/

w

ス

. 0

經

世

談

卷

之

九

桐 大 法 依 心 1 か 几 七 意 違 = 37 得 心 8 4E 7 r テ Fi. テ -入 Mi X 以 7 1) DU 华 起 ナ 五 拾 テ、 テ 纸 X 匹 3 3 华 1 其 売 六 华 テ 红 T 3º 所 民 谷 .0 俵 限 3 3/ 1 7 小 117 ---3 力 備 > 安 六 隨 Tr 1) V ラ 内 7 堵 华 定 " E w ズ デ = テ せ 1 數 x . テ 11 定 先三 3/ īî 八 取 7 丰 E 2 俵 通 Z 30 飾 朝 7 IV. 算 年 w 納 7 1 夕 非 7 用 七 由 荒 L ラ 1 殿 付 25 = 年. ~ 谷 1 又 遽 -ナ x 丰 w 1 コ 1 = 至 IJ 串 立 E b 1 ナ 苦 テ y y 1 18 13 ナ 3 テ 却 = 1 7 牛 y ス 荒谷 入 20 30 水 テ ホ 1) 誠 x 早 サ n F. 拂 1,0 テ 1 = 1 1 丰 1 V = 憂 法 本 處 大 + ガ 至 210 ナ ナ ナ 荒 年 地 E 年. 3/ 3 w 貢 V 谷 3/ ナ 限 テ 1 相 110 ラ 荒 格 1 1 譬 法 3/ 違 Ti. 1 110 谷 别 n T 年 フ ヲ ^ 1 1 13 w 用 法 餘 × p 110 ソ) 3/ 年 = フ 1 t 1 分 1 1 此 ---貢 算 ズ 3 E 也 定 + 及 法 3 用 ナ 77 ŀ ナ テ、 俵 2 27 3/ 丰 総 五 出 ^ V ~ 力 7 = 110 此 150 3/ 年 ラ ス 1 定 年. 1 六 ~ 故 ズ 如 數 年 年 丰 x _ ヲ + 勿論 x 此 目 1 用 俵 地 F ス 间 モ ズ 1 V ヲ V. 取 = \equiv h . 四 フ 110 n 筒 追 荒 ÷ ホ 华 年 水 7 25 谷 売 1 1. x 1 V 此 谷 四 ソ テ 1 1 1

〇三年荒谷 〇四年荒谷 〇个/法

质 初 华 年 休 休 武 初 SE. 华 休 休 质 初 年 华 休 休

; .

=

SF.

休

=

华

休

华

流

俵

5 . 玉 TL 年 年 拾 同 俵 五 几 年 好 拾 休 俵 正 74 年 年 六 14 俵 俵

法 业 1. 難 事 n E ヲ 子 風 ~ 通 尽 E + 其 景 3/ 又 事 10 7 3/ 7 雖 テ 法 デ + ١٠ V 1 RH 美 7 ス 行 in 3 2 1 安 ~ 買 IV 3 フ T モ 非 堵 テ 眅 時 1 ~ 13 1 遠 灣 H. ヲ テ 3/ セ 3 1 得 士 方 1 r y 3/ 7 1 枝 子 2 -H" 3 尽 1 1-1) + 法 葉 w ラ 7 w 1 來 亦 3/ ヺ ラ ズ _ 1 ^ 末 + 行 1 IJ 1 セ w -事 道 7 イ E -王 7 IV 7 = 3 フ 7 至 テ、 古 ŋ 獪 3 b 1 V 情 テ ヲ IJ 今 IV E E 遠 其 披 起 E T 勢 和 ソ デ 漢 7 力 1 根 ヲ フ y 民 1 ガ Æ ラ テ E 本 王 同 生 3 -H" テ 1 1 1 毛 深 ナ イ 3 V w ス = 1 同 1 ~3 7 丰 1 10 v 3 其 國 30 ヲ 父 ラ 3/ 2 IJ 1,1 事 -考 情 ヲ 母: 1 共 也 先 n 3/ 欲 ヲ 1 w 本心 其 得 ~ 13 幼 ス = 况 フ 法 w 兒 テ 3 是ヲ 1 所 7 + ŀ ヲ = r 況 1. 邦 ヲ V 1 王 安堵 ラ 人情 7 1 IJ t フ 1 ネ 本 身 立 x 21 ١٠ 1111 セ 17" 7 ノ常 R シ IV 3/ 永 終 n x -2 農民 2 ナ テ、 心 = 7 w n IJ 士 ア ~ 7 1 -ラ 着 ラ デ 用 = 法 117 植 -17-" 本 V w 1 數 民 仆 ...V 人 ヲ ガ V 15 嘶 12 ŀ ヲ 牛 如 110 條 11 時 決 + ٠, 7 1 7 最 ナ 1 シ 3/ E ス 7 朓 大 テ テ V IJ w 父 掌 事 11. ナ ヲ サ = 情 7 何 n -ナ 1) V

貢 苦 -27 1 心 夫 第 事 -力 役 入 フ = 3 今 等 IJ 故 べ 7 其 ナ 丰 諸 切 樂 114 心 IJ 國 懸 年 1 E -用 勿 ナ 义 P テ 捨 論 E + 1V 行 百 T y ~3 几 フ 姓 = リ、 红. + 法 ۱۷ × 1 7 北 大 身 力 1 E 华 抵 numb Named ナ ナ IJ ク 服 介三 V V 25 年 110 w 過 1. . 年 3 V モ 貢 荒 段 110 夫 2 谷、五 悉民 故 役 ----4 離 1 切 モ 用 散 ŀ フ 1 45. ガ 捨 r 1 10 荒 心 ŋ 7 3/ V 谷 7 サ ナ ヲ IV ナ 年 事 生 7 牛 1." 必 事 ナ ズ 過 1 其 w シ、 1 フ v 事 心 其 事 110 サ 得 前 餘 故 P v 義 ナ 3 リテ、 鄕 バ三年 + 1) ナ 7 キ 毛 3/ 3/ 1 = ۱ر V 及 - 荒谷 ナ 3 1 1% フ y, 也 w x 人情 1 7 1 縦 V. ホ ŀ 7 ナ 1. ナ v 汉 小 w 其 樂 w 3/ V -年 7 110 3 モ 其 ラ三 數 心 IJ 得 ヲ 1 -限 年 年 N 7 21 _____ y IJ カ 3/ T 华 デ 车 3 3 -

經

世

談

卷

之

九

部 改 通 叉 扱 n 71 ~ + 國 ナ 1. x 24 古 ラ 4 テ 又 1 E 非 番 4 v y 2 判 1. 都 此 119 N 叨 ナ 隨 ヲ 4 毛 合 趣 分 E ウ 1. セ 23 申 遺 此 力 -又 -時 渡 行 T テ 1 3 テ 1 類 1 1 1 シ 吟 容 ヲ 10 ズ 1 易 味 别 丰 ク 7 2 斷 家 1 7 = 內 然 遂 3 21 E 1 1 ゲ、 IJ 證 3 1-叉 奮 辦 本 力 21 E 7 家 p 力 # E 起 7 = -3 ^ 21 甚 違 利 IJ IV フ 1 出 ホ ナ 犯 潤 = 人 定 1, 情 送 店 リ、 1 事 1 7 IJ 1 火 豪傑 姿 仁 動 13 r 1 ラ r ラ 1 力 セ ナ リ、 同 210 大 110 又 ラ 早 樣 = = デ 出 智 1 1 4 = 1 店 追 r = ス = 拂 定 y テ n ヺ ナ I テ ス フ 义 9 y ガ 殊 テ 夫 E ブブ ソ サ ヲ = E 尙 尽 V 1 ソ ス 3 丰 E 更、 w 别 1 者 家 國 此 3 = 中 外 仕 F 1 ŀ ŀ 怨 ナ ナ 入 毛 1 -金高 3 w 云 r 3 毛 ~ 誹 IV テ -サ 及 ~ 3/ w 7 仕 本 6 110 = 5 殊 入 店 1 ズ V 荷物 -E ノ子 1 天下 ソノ 法 前 弟 r ヲ

國 事 4L ヲ 汉 テ 新 ナ ヲ 2 n = 1 大 哥 サ 1) v 1 = + 小 7 7 गंः" 25 ガ 數 企 地 1 1 y 13 察 全 テ 发 17 n ヲ 0 -體 開 新 速 ナ モ 3/ 华 發 テ リ 1 百 1 = 勢 共 成 經 如 3/ 、情實 是 其 ラ 7 1 in 永 共 後 士 叉 1 = 7 事 地 7 故 21 23 3 得 强 安 14 t IV 7 如 求 ラ 堵 15 何 17 地 3 淵 4 ヲ 1 V x -サ 再 勿論 散 テ 10 テ 1 ス 永 認 1 發 IV 3 __ 且 法 7 テ ス ナ 7 + 慮 再 w IJ 1 2 = 0 13 ナ E 功 = 舊 E + r 21 其 チ 30 y 3 1 ブブ 如 土 y 1 x 出 テ 次 7 1 地 其 牛 = w -~ 農民 事 1. ナ 事 ナ y 7 w -6 治國 企 事 小 大 共 + w 平. 凡 于 人 ŀ モ 天 テ 何 1 永 3 下 徒 遠 事 7 V 共 方 1 7 = = 大道 テ 士 見 士 3 毛 地 汉 地 IJ 名 8 28 1 IV 7 勿 利 事 7 7 3/ 論 1 1 7 毛 汉 人民 人 目 -T 3/ テ、 ッ、 7 ガ 111 扱 7 5 テ 凡 Ħ 安 招 叉 フ 用 聞 堵 + 21 前 集 兵 及 1 ス 其 功 E° w ×

1

貨 引 本 制 移 ナ NA 1 及 3/ 21 1 4. _ 所 店 カブ 度 ナ X 付 别 排 IJ ナ 1. ۱ر テ テ、 ソ 出 第 T y ナ 商 1 1] = 1 E フ 其 難 并 買 テ 1 向 店 __ P. 3 寄 ~3 他 南 7 1 或 13 F 人 丰 E 出 1 1 害 買 子 15 図 者 シ、 殘 店 自 5 1 丰 = 别 ラ 細 17 在 ナ 1 申 尽 = -向 1 IJ = 出 1 買 渡 加 13, 方 ナ 1 = >1 v 汉 X b 13 如 w 水 1. 店 云 H 力 1 w ナ E 3/ 21 故 y, É y 1. w 7 七 = ヲ 取 IV 1 此 變 テ ~3 ソ 蚁 1 ラ ソ P 1 E 7 -111: ケ 昌 或 者 ソ 1 __ ウ ヲ 1 3/ P 灵 來 家 TI V 3 ソ = __ v 3/ 1 -2 IJ • テ、 樣 1 ク 云 w ス 1 1 y V 110 サ 4 益 テ 同 111 合 見 庫 ン = w __ V 黑 或 水 1 ナ = 倒 1 7 21 H ナ 中 木 ラ ナ 屋 云 7 7 サ 1 曾 = 3/ E y, 店 ラ 7 E 敷 E ズ 1 E 1 1 セ H 者 者 テ 難 ガ カ 4 ヌ 21 E +}-必 或 以 并 工 打 1 1). w V 3/ 1 何 v 衰 其 代 1." 大 中 云 殺 ~3 夫 1 セ 1. ホ A 呂 陷 Ŀ 7 E V w 1 1 3/ 3/ 3/ 7." モ ", 别 -テ 同 物 p ナ __ 3/ 1 今 骨 v 多 ウ 金 ジ E = E テ 1 ナ 1 折 7 銀 仁 ナ 向 17 ナ 7 = 10 取 云 1. ソ デ テ 惠 ナ w IV 1 3/ ホ 1 v 汉 不 ١٠ 有 毛 w 元 商 莫 ナ ~ 4 V I テ 1. 足 1. 來 7 意 手 人 1 = 大 1) 丰 7 及 1-1 v w テ 難 1 1 w 21 ナ ヲ 7 = 1 1 1 出 = 申 金 迷 防 及 損 ラ 心 ナ 丰 = P w 押 店 感 含 ij 銀 n' 得 1 ~3 ١٠ F. 失 = 110 ヲ、 並 -メ 13 必 1 T -P = 力 = 3/ ブ 不 丰 ッ ナ テ サ ヌ ナ ナ w = コ = 引 自 w = 勿 w ラ w ~3 ۱ر 七 1 V ŀ 拂 論 主 7 1-~3 丰 力 由 7 V = 又 ハ ナ 3/ 人、 モ 1 ガ --フ 伸 3 1 t = ラ 都 r 者 追 ナ ナ 牛 ナ ウ 1 ヌ ラ 家 或 並 7 y, ナ 1 1 1. _ E 1 7 勢 仕 利 ズ、 怨 内 拂 諸 者 ア リ、 21 T. ナ 鉅 入 1 7 ナ ラ ソ フ 或 V -1 " 吸 數 ソ 1 力 7 ヌ E リ、 218 1 E 7 道 城 1: 仲 ヲ サ --E V 4 1 ŀ 懸賣、 限 法 1 取 1 ウ 面 間 E 王 此 3 别 110 ソ ナ ラ -4 y IJ Ti 1 叉 色 凑 終 n 取 力 テ ソ 1 V ----

蘊

世

談

卷

之

九

居 ズ ~ 3/ 9 1 滋 者 21 吟 味 1 1: 其 人 次第 = サ 3/ ヲ ク ~ シ 其 人 自 ラ 祈 禱 ヲ 七 行 フ者 禁 ズ ~

迷惑 叉往 拟 并 交易 來 テ、姦利 = ナ /旅 ノ所、 州 ラ 人 津 人 又 7 右等 ノ湊 7 1 貪 ウ 內 n ノ道筋 = 高 スベ 3 I. 貴 1 テ、船 夫 權 細 族 ニテ 3/ テ 民 1 ガ 掟 往 威 1 トリ 心 ヲ 7 來 立 假 得 絕 ノ所、 ッ、 テ ナ ^ ザ 丰 無理 ソ 者 叉 w 1 1 = 21 ヲ 所 3 名 地 云 1 所、名 牛 4 テ難 1 = ソ 役 F 山、大 義 V ナ 人 1 ヲ y, ナ 力 寺、大 1. ケ、 = 屹 -7 度法 F ス 社 丰 17 ~ テ相 等、或 テ 令 F 不 ヲ 申 應 含 作 立 ٥٠ = テヽ 法 溫泉、或 テ 一掟アル 相 1 制 雁 = 札 1 1 ~ 21 取 等 7 產 シ、遠來 拔 カ T 物多ク w 4 サ 置 ス 時 ノ旅 ~3 E 出 或 3/ 3 ス 人ヲ 民 シ、 所、

或 110 ŀ Ŀ = 1 ゲ 7 3 ŋ 得 深 テ 諸 ス ~ 曹 7 多 商 又 吟 テ 出 子 買 7 不 細 味 物 ナ ス пп 運 宜 T ス n ~3 7 Ŀ 21 IV 大 1 牛 專 1 抵 事 E I 要 運 必 1 F 運上 ナ 今 p ス y, 世 ス V 70 ク 10 = 大 テ w ス E 要 ~ 21 王 他 シ、 田 E = 國 畑 3/ 1 榮耀 1 運 物 3 但 y 上 成 百 自 高 1 1 姓 物 威 相 + 職 故 玩 ~ 並 買 人 物 = E" 物 ナ 人 テ ナ 1. IV 1. 1 國 品 價 1 用 21 自 高 要 高 ヲ 用 ラ 足 ク 7 作 テ 必 ナ ス リテ持い 要 y 1 モ 書 基 ノ分 テ 國 3/ ŀ 出 力 21 中 ス ラ 運 ス 1 n 難 E モ 又 3 ナ 1 = 義 F 7 故 1 牛 1 デ 毛 ガ ナ 何 運 7 方 E n Ŀ N 3/ = = ヲ ~ ŀ テ 力 3 E 7 E , ケ 2 r セ 自 w 7 3 V

= ナ ラ 0 ラ 諸 次 又 州 F. 繁 = 毛 7 並 國 3 產 地 2 1 、勿論國中ノ町人ノ ナ 物 1. 1 = 交易 京 大 1 阪 道 堺 ヲ 叉 通 1 名目 ズ ソ IV 1 = E 外 テ內證ハ他所ノ者商賣スルモアリ、此等 リ外 1 諸 彼 或 方 3 1 1) 物 出 ヲ 店 持 F 來 云 y 王 テ 1 r r 丰 ッ、 ナ 其 フ 所 10 力 _ ハ堅ク禁ズベ y 3 y 1 H テ 店 利 害 1 國 __ 樣 + 1 益 3

N 13 V 抱 ラ V 尽 w 者 E 定 數 1 入 目 r v 滁 = Ł 1 2 リ 產 業 7 • H 3 7 4 安堵 モ ナ N 7 1 T 19

テ、諸事ノ都合ヨキコトアルベシ。

通 ス 0 ~ 木 シ 戶 明 六 何 ツ 人 時 = テ 開 モ 丰 面 懵 夜 29 7 P 7 ラ 時 1 3 シ x النا 毛 シ 其 夜 刻 分提 3 リ後 灯 ナ 人 キ者 T ŀ ۱۷ 段 = 4 行 送 先 リニ b ス ソ ~ 7 人ノ姓名 シ ヲ + 1 糺 シテ

コート かカ 0 IJ 居 高 = 酒 客 サ ソ 氘 ヲ 1 置 尺 外 Fi. 餅、 障 1 程 子、 蕎 限 麥 等 襖 ナ 1. 1 ス 奥、 定 ~" デ 4 并 其 w 所 毛 階 H -等 テ 3/ 飲 = 其 ヲ 食 所 7 ス n ~ = 商 力 = ラ 賣 IJ 岭 ズ 并 味 洗 T 4 湯等 w L ~ 7 何 シ ŀ v ヲ E 工 前 ズ 錢 築 三受取 立 叉 店 ~ 仕 前 41 見 埓 通 等 3/ 用 1 處 N

仲 3/ 古 0 間 懸賣 1 通 + 用 得意等、 毎 E 月 双 晌 方申 日 勘 勘 一合ヲ 定一 定 ŀ 、立ラ相は 年 定 限 メ = 違 モ E 申合 ノ節 3/ 延 引三 次第 右 = 月 淮 ズ ソ 7 過 ~ 1 上半 及 3 ラ 年 110 一年モ過タラバ、常ノ貸借二准 利 付 -テ 證 女ヲ 渡 1 常常 1 貨 借 ズ 1 ~ 掟 シ、 -準 商 ズ 人 ~

禁 算 右 同 27 法 0 詩 樣 1 外 歌 ソ -文武 r V (-連 7 俳 カ 1 撮 遊 7 當 茶 ~ b 湯、 r 屯 3/ w 3 插 指 ~ 花 シ 南 ノ者、 基、 職 人 將 細 町 內 基、 I. 住 1 护 鞠、 居 南 1 香、謠、 ·E 云 -硝子 及 淨 11 ズ 瑠璃、琴、三味線等 花、 往 押 來 繪 ノ旅 等 人 ١٠ 勿論 1 云 , 1." 類 业 モ 1 7 云 美 = -勝 兩 及 チ H 110 無益 ノ外 ズ、 手 逗留 1 品 等 ラ

0 ス ~ テ 1 醫 者 穩婆、 按 摩 ノ外、 坊主、 山伏、 儒 者、 前曲 道者 ス ~3 テ諸 道 ラ論 談 ス w 者 . 類、 arr 內住

經

世

談

卷

之

九

共 .1) n 仲 1 ~ = 3 H 1 撮 閉 此 店 等 當 等 27 3/ 奢 Z = 名 7 ヲ 犯 役 牛 3/ 勢 付 ス P 1 1 罪 者、 n [ii] 3 樣 力 þ ク 汉 E r w 3 y, ~ 目 3 付 本 ナ ソ 1." 木 人 申 3 ノ外、 ウ 出 ラ ~ 仲 シ、 11 ラ 間 勿論 ル 行 1 司 并 数 7 乙名 利 ŀ ヲ 1 等 罪 厭 フ モ 1 奢 何 3 リ撮 ヲ = 犯 E ス 當 ラ 1 7 ズ 法、 過 1 料 + 同 ガ 7 出 樣 12 申 者 サ 付、 セ、 E r

3 難 0 田丁 + 分 內 2 祈 願 醻 E 井 出 諸 テ吟 守 札 味ヲ 等 受べ 引 配 シ、 叉 21 賴 ス ~ 母 テ 子 家 等 モ 並 吟 錢 味 米 等 1 上 7 集 ュ N w 類 ス ~ 1 3/ 3 1 ス ~ テ 禁 ズ ~ 3/ . 毛 3 ソ 1 内 7

撮

當

申

出

w

分

10

罪

ナ

+ 合 類 火 + = 1 五 時 ス 人 0 1 1 -雇 用 ~ 便 文 町 火 25 ホ 屋 フ 心 利 ナ 內 3/ 1. 1 ノ甲乙 テ 敷 番 ナ 1. 人 、夜 盗 持 足 此 云 E IV 朓 ~ 等 + ソ 廻 力 Ŀ 1 差 ノ用 シ 7 1 リス ネ 段 町 差 别 -テ人 定 心 取 -别 r ベテ人足 事F: 抱 テ 收 ナ n 火 物 每 定 7 ~ = x 消 テ テ、 シ 月 抱 屋 E 百 y 敷 3/ 1 -等、 文、 1 ソ 2 根 v 21 -所 テ 虾 諸 テ 汉 1 元 、辻 ヲ ラ 町 中 費 何 = 1 段 " 居 段 用 丰 1 ホ 番 ナ 七 軒 1. ヲ v 1 妻子 數 火 + 借 割 1. 210 分 町 次 玉 家 1 15 ア 文、 內 第 番 テ E ス 7 7 ノ家 五 軒 ウ ~ IV 夜 下段 人 v テ 何 = = 廻 作、 210 1 亦 1 E y 十人、 派 五. y 7 1. 1 地 テ、 入 + 1 抔 汉 類 割 文、 1 ŀ = 十五 概 順 或 雇 勝 ^ 借 并 番 110 人 手 -公三 下 ŀ 人 人、 家 E ス = チ 人 段 力 4 サ E w 五 ガ ノ顔 # 段三 ノ商 ス 1 并 フ 人 IV 3 人、七 テ、 金 7 + E E U 人 銀 モ 抱 文、 Ŧi. 3 3 甚便 荷 渦 力 人、 人 7 半 华 物 中 ラ + 3 中 ヲ 段二 利 是 テ、 + b 11" 預 ナ 人 段 T ^ 181 n テ + 町 ナ 七人、 n w = 飛 ヲ 文、 F* 7 內 ~ 1 多 1 脚 n 3/ E = 故 下段 等ノ F. 多 ヲ y 3 7 3 段 ソ

類 袋、 ス n 烟 밂 草 無 人 類、 用、 絹 香 爐 表 具 花生 以上 ノ掛 地 燒賴 物、 屛風、 戶 竹 襖、 木 = 限 塗緣、 y 不、苦、 金具 付、 但 祭器 スベ ノ分、 テ平 H 金銀鼈 煎 茶 -甲 用 諸 候外、 渡 物 ノ外 茶湯 不 道 苦。 具 -

カ用 所 事 H 人二度、 ノ類 用、盃弁 ハ、右 統 飲 年 一會刻 食摠 ノ祝 刻 上段三度、 限 盃 度二 テ饗 限 儀 ノ外 ノ代 夏分九ッ時限、冬分四ッ時限、春秋四 度三 赤飯、 應 4 リー _ 時 汁三菜 度 右 用候器、一合入以上不」可」用、菓子 餘 **養染、** 7 ノ外 モ 過べ 用 婚 = 捨、 酒 限 禮 נל 勿論 リ香ノ物 諸 ラ 1 肴 ズ、 祝 吟 儀 種 等 味 百 ŀ 姓 相 酒 1 t 外 談 3 町 ۱۹ 難 吸 無 并 人 物 用 ŀ 稽 丰 分 古 ッ半時限、 E 通、 修行 願 = ソ b 面々二不」可」出、 出 ノ集會 肴 1 テ差 分限 Ξ 酒肴等 種 圖 三限 = 21 應 右 7 受べ 刻 無」之煎茶 y, ジ 限 7 " 組合 シ、 ノ外 夜分蠟燭二寸周リノ外不」可 ٥٠ 又鎮 ラ視 一通リニ 度 時 守祭禮 葢、 餘 ダ n. モ 幷卓 不、苦 1 テ、物語 等 シ 袱 ノ類 勿 中 ノ料 等仕 段 其 理不 饗應 ノ商 町 候

音 信 贈 答其 分 __ 應 ジ 過 分 __ 立派 = ス ~ カラ ズ 謝 禮 并 合 力、 助 成 21 面 一々存 寄次第

ノ内 居宅犯 奢 ノ禁ヲ 科 犯 ノ分、 シタ iv 町 者三 乙名 日 1 開店、 Æ 答申付、 過料、 惣乙名末席 取上、 其身一代同類 三年 五. 年 七年 ノ内末 ~ デ ユル 座申付、 ス ~ 年始門松 カ ラ ズ。 不 可」用、 右

ヲ ۱۹ 及 姦 ラ 術 ク 7 以 ヲ 云、 テ 利 ヲ = 貪 ヲ w 禁 1 ズ 21 IV ス -1 ~ 法、 テ 仲間 上 1 ス 法 ~ 禁 テ 7 ン ノ商 犯 2 或 賣 仲 ~ 間 人民 3 IJ ノ難 提 當 義 サ ヲ ス 力 ~ ^ シ、 リミ 殊 ズ = シテ、我 行 司 順 番 Ż 得分利

3/

テ念ヲスルベ

サ

V

F.

E

統

1

ソ

U

ツ

テ上ヲ

欺

7

=

ŀ

E

ア

y,

叉面

k

モ

少

k

E

3/

カ

ラ

ザ

w

3

者、

别

ஊ

世 3/

談

卷

之

九

ナ " ソ > 外 1 毛 = ソ V 6 = 掟 ヲ 立 7 ~ 3/

宅 以 綿 サ サ 並 3/ 以 女子 1 3/ 3/ = = 0 立 水 限 限 下 モ 4 75 久 次 1 1) フ 1 ケ 用 ŋ 風 w n 日 節 節 條 腰 袖 年 拾 俗 帶 質、冠 仕 ナ = モ ナ 7 10 右 立、 禁 ヲ 1. E 無 用 云 -ズ 婚、 脇差 準 刀 樣 n ス n 喪 ~ 及 ズ ホ ナ = 祭等 用 ~ 1. テ IV n 1 -縫 ~ 類 フ 3 = 改 ~3 重 衣 3/ 王 叉商 服、 -+ 3/ w ソ 70 0 吉 ナ ウ 1 居 名役 ラ 織 X 1 國 宅、 赋 物 110 所 1 諸 附 人 . 等 禮 -ノ者、 道 F 町 木 1 E 具、 方 綿 3 モ 1) _ テ 袴 ١٠ = 飲 並 旅 右 ヲ用 定 テ 食 職 行 = Z モ 人 准 不 ソ = 13 t, ノ内、 限 3 3/ V 可 テ袴 1 勿論 6 y, 用、 モ 脇差用 Ŀ Ŀ 夏 シ -下 冬、單 掟 ノ用 合 别 ラ立 條 33 ス 向 ~3 IV -21 論 テ 油 小 ツ 7 = 不 ~ " b 紙 倉 ズ 勝 織 シ F IV ヲ 可 通 手 用 等 x 用 テ、 次 リ、 次 -E 第 限 ナ 1 扶 10 衣 木 IV ^ 持 平 定 服 綿 ~ 110 衣 人 日 シ、 1 2 1 ナ 福 服 引 ~ 1 1,0 度 麻 久 3 丰 10 諸 云 9 布 ŀ 上 7 居 下 木 類 士 t 25

物、 0 其 居 输 :它 等 36 請 1 飾 21 床 何 V 違 E 棚 無 用 承 塵、 但 釘 南 物 隱 3/ 看板、 裏板 20 並 1) 持 付 佛 天 堂 井、 -限 ^ IJ ŋ 漆 付 逢箔 疊 途 付 爐 繪 緣 等 等 不 ス ~ テ 徐 物 ス ~ テ 繪 樣 彫

等 地 次 蒔 + 1 0 瀬 元 諸 繪 結 戶 道 類、 物 沈 具 金 ス ス ~ ス ~ テ ~ 沃 テ 唐、 テ 掛 金 繪 銀 樣 团 推 1 朱、 蘭 HI 1 2 陀 但 等 青貝、 牛 醫 物、 渡 者 IJ 共 物、 幷繪 又 ノ外 リ下駄、 但 樣 諸 職 方等 嚈 彫 人 三枚ウラ付雪県等絹 物、 職 = 用 方 并 候分不 等 唐 = 鲖 相 小古人 真 用 鍮 候 鲖 隆甲、 分 不一苦、 以上 等 1 燭臺、 象牙、 ノ横緒等卷物 ス 13 テ 錦 櫛、 手 本 、赤繪 朱途、 笄、 織 絹 金銀 柳 郡 仕 青紺 立 統 箔 ノ鼻紙 緬 等 帯 繪 梨

侍 テ 7 內 3/ 1 E 丰 ラ 1 y 更 + 養 足 人 以 工 ソ -毛 7 ^ 7 テ w ウ w 4 Ŀ 丰 1 h フ 具 今 職 ~ 1 テ ナ 何 = 7 = 7 方多 無 尽 1 得 テ y デ ブ ソ 日 7 自 テ ナ 益 1 1 手 モ モ 1 然 勿 外 叉 1. # ク 7 -小 ナ 時 7 飯 9 淮 論 腿 ラ ク 時 3 n ス -總 ~ 3 米 IJ = = 武 テ 毛 3/ 3/ 1 韭 テ 具 テ ホ 3 ジ v >> 不 3 25 モ 間 ナ 别 心 1. テ ヲ 自 ソ 1 如 TI 類 要 數 有 1. ス 1 1 3/ 由 _ 此 人 用 合 中 ス w テ 多 ナ 1 コ 20 器 者 錢 今 ~ 7 7 フ 1 ス -モ 1 貴 職 奢 物 7 1 w 7 勝 テ ナ 1 1 岩 時 時 w 等 ウ 不 手 丰 w 7 ブ 1 他 自 滁 ~ 繁 ナ p = 11: 7 -۱۱ 1 滥 仕 ウ 丰 T ソ ラ 昌 曲 1 7 L E 職 ナ 11 w = 什 尽 111 セ ス w モ V 者 IJ (事 IIJ ス 1) ズ 人 ナ w 1 テ、 岭 職 3 王 w t 助 = 毛 1 職 15 テ iii 味 ~3 ソ ウ ナ 1 1-モ y, 職 職 ク 1 ソ 樣 ŀ 3 + 1 -製 -E 定 1 7 人 -Æ w 7 以 サ 職 ソ 作 勝 x 11 行 ソ ン 7 V テ F. ヲ 1 7 7 1 V 1 b 1 -王 職 職 テ 推 次 丰 F 7 ス y 110 1 モ 家 第 7 ス 3 w ク ス ジ 1 1 7 ラ 以 申 滁 誰 7 テ ッ 中 ~ ~ 7 -付 某 テ 丰 テ 岭 力 1 1 ユ 1 內 世 H ラ 不 有 ユ w 1 7 又 味 賣 马 7 H ^ 足 _ 别 T 3/ 1 用 T 隙 買 テ 7 7 ヲ 師 ナ w P -1 り。 等 補 足 ナ 13 物 ~ 1) 17 丰 7 鄿 丰 麁 他 誰 IV 1 フ v 3 >> 某 體 水 或 末 ^ テ ス = 6 1 如 1 H ~ 註 1 1. = H 王 ~>> 矢 1 父 テ 文 粨 1 此 ナ H 3 細 ヲ 師 ナ 職 ソ 3/ 1) 丰 1 日: ス ウ 17 ラ I. 細 妻 人 仕 1 1 w t 子 人 ヌ 時 ケ 云 w ۱۷ ウ T. b 出 ナ 立 間 テ + 7 1 t 2/ 27 -ウ 迷 諸 斷 養 フ 3/ テ ナ テ 叉 惑 7 n T フ = -職 7 ナ 殊 ナ ソ IJ 3/ 2 丰 ~ = 1 1

〇町方ヲアツカフ法

經

世

談

卷

之

九

MI カ 7 T ツ 力 フ 法、 奢 ノ風 俗 7 禁 ズ IV = ŀ 並 -姦 術 7 以 テ 利 7 貪 IV = 1 7 禁 ズ w = 1 第 1 肵

11: 其 仕 内、 大工 無 又 拾 大 Ti = 1 N v 4 ナ 1. 浮 或 枚 益 41-出 1 ~3 テ 3/ ウ y, --ウ 1 硝 ス 1 E 3 17 並 久 モ = 材 ラ 飾 -= r ソ 1) ナ テ 21 = 12 勿 六 7 器 木 w サ 何 ソ ナ 7 v 3/ n = ヲ、 論 鍛 ツ 加 ナ ~ 1 10 テ F 1 -V 冶 職 云 或 云 1. 7 力 3/ 10 ~ = テ、 他 デ フ 人 類 1 1 1 ソ 1 E 毛 コ 奢 類 ~ 掟 國 7 地 汉 1 ソ 1 ノ元 20 7 費 3/ 內 ソ 金 Æ h 1 サ ヲ 3 功 禁 多 大 奢 格 値 1 IJ 1 E = ^ 示 サ 買 ナ 拙 横 抵 E セッ ク 7 别 類 1 1 テ 烟 ノ論 カ 價 緒 無 入 助 ク F 1 3 = 農 テ 管 ク 奢 益 用 IJ 7 1 ナ w 7 = 具 拾 ソ ス 張 V. 聞 渡 テ 1. w 20 1 1 1 武 助 者 姑 サ 1 7 V 7 及 3/ = = 3/ 具 琴三 テ、 3 1 10 ナ b ヌ 7 E" テ 7 = 七 1 ナ サ £ 6 V ヲ 1 ク 汉 7 類 味 物 自 IV -T 3/ P n ^ V 110 モ ナ 線 吟 禁 3 下 物 然 w ヲ ウ 7 取 1 = 1, 師 制 準 多 直 カ 丰 15 E 3" = ---P ヲ 味 テ、 テ V T T 度 3 ゲ 3/ ソ = 仕 菓 或 r , ラ y テ 110 3 T 3 v 出 子 IJ 2 - 3 1 本 城 色 V テ 18 1) 3/ ス 遽 師 テ 'n 白 . 通 7 下 4 210 E 3/ 職 E = 髮 桃 ク 重 內 無 用 時 人 近 ラ 人 JE: 3/ 結 益 ク ス 1 = 1 + 1 3 = 7 3 節 叉 了 7 ナ JII 華 __ 30 3 210 難 事 要 吟 簡 京 美 句 ナ 1. IJ 原 牛 用 儉 味 n ス T 7 1 1 テ = = 3 = ~3 以 雛 類 7 山 P ナ 7 テ w 必 IJ 1 ŀ テ ウ 貴 仕 數 用 IJ 加 テ 1 25 1 23 r Ŀ 云 テ テ 小 此 サ 人 + 1 類 = ブ 如 n 物 敏光 吟 E 或 種 ス 1 1 3/ ク v = 1 IJ 美 1 昌 味 仕 積 + ソ ナ テ r 毛 モ 世 ラ 意 ウ 內 1 用 7 方 F n 1 ス = 1 物 加 話 F ラ ナ P = IV ス 110 23 E w = 7 誠 付 4 13 絕 餘 ナ ゲ ウ モ ク = 1 y 革 ウ テ 義 テ ラ ナ b 3 テ = w テ 浮 運 r 感 付 1) ナ 履 ナ 仕 火 IJ モ -上 賞 草 華 テ 7 方 7 事 P 丰 P -諸 = 或 汉 IJ 放 沂 1 力 1 ス 1 履 " 1 敏 枚 云 役 1 ~ P ケ 中 力 毛 1 チ ナ 华 昌 テ F. ウ テ、 フ 牛 3 = ~ ス モ ウ r ズ 類 燒 w ラ IJ ~ ナ 110 T 1 セ 2 コ

t

ŀ

1

1

1

=

ŀ

y

脫 事 職 T 益 HH ナ 得 來 H 1 IV = 職 110 カ 永 領 ナ 1 10 ナ -ク 分 人 又 人 干 7 1.0 人 13 商 17 n テ テ 1 E ガ = 濺 ナ 人 ~ 耳 ナ 1 人 F ケ 毛 力 + 7 デ ナ 足 7 入 5 1 1 或 我 ナ 力 ナ テ 1 武 テ 210 V " 毛 中 ナ 或 1. ガ 小 21 V ナ 急 力 1 T 110 元 1. 力 中 ズ 1 3 3/ V 1) 丰 ナ = w 手 汉 1) 1. 3 モ = 1 具 所 サ . 入 _ ス 7 仕 小 1 1) 10 不 毛 用 ナ 足 ジ r H テ 7 目 大 又 F 出 便 y, ケ IJ ~ 21 ン 出 7 テ 前 抵 1 7 ス 利 着 テ 利 時 V 1. = 1 ス ップ 1 -水 替 勿 P 度 1. 内 分 利 テ モ ___ 1. 3 1 論 見 T w コ T 毛 通 厚 7 1 = 1) 25 1 デ 時 3/ ソ 21 IJ 1 w ^ テ 丰 23 せ = 用 道 -ラ 7 V 方 力 b ズ ス -力 力 1 意 (-仙 汉 チ ^ 具 E ~ 財 IJ 7 シ 21 = テ 3/ 用 IJ ガ 1 テ 或 テ ウ 3/ テ 用 218 備 テ、 1 五. 汉 フ カ v 捨 1 E 1 H 道 + テ 110 要 IJ ク y 或 力 ヌ w 3/ 3/ 買 年 力 具 9 家 間 用 b テ IJ 才 7 千 IJ 7 百 ヲ テ 1 コ ス 永 久 1 7 E 力 合 ナ 年 領 デ 他 ワ V N 人 1 毛 2 次 數 7 用 ナ 7 V r 1 3/ 1 ス ~ 1 7 テ 出 方 E w ク ヲ 毛 利 w 18 11 1 1 -ラ 3 却 T. 木 不 水 百 3/ 7 ナ 1 職 今 職 テ w 1. y IV テ 夫 ナ 利 1. 人 汉 世 下 1 用 1 1 人 不 7 人 汉 y 7 1 ヌ 備 1 職 1 直 110 事 ナ w 木 自 4 3/ = ガ 備 ホ 1. 滿 テ 7 小 サ ス 1 人 由 = 3 テ 1. チ ヲ 1 毛 間 T 丰 心 3 中 V ナ 備 1 物 尽 ナ 目 110 物 ガ 1 ---久 丰 ŀ 時 備 N 上 ク ナ IJ 7 テ 前 ^ 亦 叉 1 JI テ ~ ヲ V 1 云 無 仕 時 尽 尽 -1. = ナ 7 富 ラ T 110 モ 備 牛 ク 類 益 出 w >1 ラ 尽 ズ 1 或 人 t コ 1 3 2 ~ IJ ウ テ、 何 又 物 テ 或 テ ソ 1 Ħ ズ ŀ 勿 テ ゾ = ナ 中 術 IJ = 1 2 T 論 今 1 1 間 ハ 밂 小 ヲ 7 次 IJ V E ラ 時 毛 デ 時 時 論 數 IJ 10 K ヲ V 110 破 T 骨 合 6 何 1 = 高 仕 = + ズ 1 y, 損 ソ 折 1 P 百 值 出 w -H ス 臨 ウ 薄 テ IJ 叉 w 時 3 種 ス 1 = 時 4 汉 撮 テ 7 ラ E 1 = 7 r p 28 25 出 失 平 F -當 ウ 無 何 テ ズ 21 汉 w

1

續

經 世 卷 之 九

0 農 具 武 具 等 ス ~ テ 要 用 1 器 ヲ 造 IV 職 人ヲ r " 力 フ 心 得。

然 重 人 テ、 ヲ v n y 3/ 1 故、 勢 10 = 2 ナ 二 貴 世 v 製 ソ ズ リ、 ナ 牛 E" 7 間 賣 作 n 1 = リ、 = 汉 = 買 上 農 麁 輕 有 IJ 1 1 7 所 末 意 サ E 力 用 丰 久 1 ナ 或 四 者 1 = = h V セ iv I ナ 中 物 ク 1 民 11º オ 7 = 諸 夫 今 = w ^ 17 抑 1 1 21 ナ リ、 本 時 v 方 ^ 何 = 1 ナ ヲ 7 不 時 1 = ١٠ ١ w V = 仕 テ T 自 1. テ = P 3 力 y, 出 力 由 甚 自 ウ ラ T E ホ 8 ス ナ 然二 ヲ 重 1. 久 _ ズ 職 叉 牛 ナ 1 ス ゾ 牛 IJ 大 人 商 テ THE. 又 p w 1 7 切 æ 有 E 7 人 ウ 盆 テ 1 7 1 自 别 用 ŀ モ ナ 7 1 ス = E 然 貴 ナ 利 1 ス V 3/ V 1 y, 或 云 = 15 ~ 110 テ E" 又 ナ 少 -心 重 内 5 3/ 家 = V -殊 古 ク ヲ V 2 ヲ = 1 210 更 ナ サ 用 110 シ T E 7 3 テ、 武 3 ŋ V ツ E ^ ソ テ、 器 緩急 -ソ 1. 大 テ カ 1 將 E 有用 1 1 r フ ソ 用 或 價 類 地 ツ 者 輕 1 v IV 胄 方 下 = 21 力 必 ノ心 重 1 道 今 値 要 フ 職 = 1 1 具 リテ 立 差 得 1 3 ナ ~ 方 1 製 時 IJ 物 物 肝 别 v 牛 1 作 デ 21 = 110 = 7 要 r 者 毛 自然 , 7 毛 ソ 賤 ナ T 1 w E 念 鳅 久 y, ナ V 21 3/ コ ヲス 向 リテ " -形 = 1 7 L -> ノ職 不 7 農 Ti. 7 テ P v, 職 用 自 具 ウ ナ 力 3 平 方 由 人 武 ナ E = 11 7 ノ者、 價 具 日 = = ラ ナ テ 3/ 21 等 ス ナ 利 IV 及 モ V IJ ヌ 下 丰 n 11) 久 テ ヲ 80 = = b + 直 仕 下 = w 1 1 不 故 出 1 = モ 重 K 1 = = = 用 出 農 自 モ 丰 ス 1 3 自 來 職 伙 者 ナ r 7 ナ 17

IJ

E

1

或

中

目

錄

○農具武具等スペテ要用ノ器ヲ造ル職人ヲアッカフ心得。

〇新百姓ヲ永ク安绪サスル法。

〇町方ヲアッカフ法。

部 世

淡 卷

之 九 目 錄

綴

今 -17-世間月ヲカゾへズシテ、一年ヲ三百六十日ト立ル法アリ、 前 シ引テョ シ、 如 此 ナ v バ閏ナキ年、大抵三百五十四 日後、 暦法ニテ細ニ勘定スレバー年二六日ヅト 閏アル年 大抵八十四 日前後 F ナルナリ、

ノチガヒトナル故、 ヨロシカラズ。

世 談卷之八終

經

右 平 土 以 上 ノ世 禄 1 者 ス ~ テ家 柄 1 稱 ス ~3 シ

人 君 1 同 姓 等 ス ~3 テ男 子 ノ系統 有之辈、 ス ~3 テ ___ 類 ŀ 稱 シ、 祿舊來 ノマ 1 = 申 付、 毛 シ 平 士 1 醵

倍 _ 滿 チ ザ w 分 ٧٠ _ 倍 ノ高 = 申 付 ~ 3

テ 〇人 門 ŀ 君 名 1 緣 ヅ ケ 類 十二 ス ~ テ 人 扶 女子 持 ノ線 九 兩 以 r Ŀ n 、輩、 = 申 並 付 人君 ~ 3/ 生 7 母、即今世二産ノ 門 1 弟 並 次 跡ヲ繼 、男三男 タル弟、 7 7 À W 叉 汉 ١٠ w 姪 家 ナド 毛 同 ノ類、 樣 二申 スペ

右 何 v モ 二代 7 過 及 ラ 150 平 士 -同 3 17 3 テ 列 21 平 士 1 上 = ヲ n ~ 3/

0 徒 1: 以 上、世 禄 ノ高 ニ應ジ 及 n 武 真 ١٠ 面 々用 意 足 鄭 以 下 並 徒 1: 以 上 ノ内、 役付 _ テ 禄 高 增 尽 ル分

ノ武具ハ貨物ナルベシ、足輕以下具足ノ外スベテ貨物、

ナ 0 ス 足 輕 ~ 力 1 類 ラ ズ 面 4 耕作、商 開 店 商 賣 賣、諸 モ 1 茶屋、 職 ノ営ス 酒屋、 ~ ラ苦 菓子 3 屋 カラズ、 ナ 1. ノ外苦 振賣幷 3/ 日 力 ・ラ 雇 ズ、 働 モ 商賣 工 w 手代 ス ~ ヲ シ、 11 但 7 平 1 ス 日 短刀 ~ 力 ラ 28

ズ、諸職内弟子ハ苦シカラズ。

士以 0 徒 上 士 家 并 柄 役 付 等 外 1 者 1 平 自 士 分用 、諸職 ٤ 7 ノ外 營 3 金錢 ス ヲ ~ 取 テ 金 w 钱 = 7 1 營 取 L w ~ = 1. 力 ラ ズ、 商 賣 賴 1 外 = ク H 1) w テ シ 辨 力 ラ 3 ズ、 ツ 力 此 ۱ر 外役 ス = 付 ŀ ノ平 並

謝禮受ルコトハ不苦。

100

世

談

卷

之

八

0 扶 持 米等 渡 ス = 1 スベ テ一年日割ノ宛行 ハ三百六十六日ト定メラ、閏月ナ キ年ハ、小ノ月ノ分ラ

幼 117 又 28 久 病 = テ 不 勤 ノ輩 21 貮 人 人扶持貮 步

小 頭 役 付 等 > 船 Fi. 1 扶 持 ___ 兩 H ツニ 兩 限 y

〇徒 士 1 類 百 斷 並 勤 1 者 七 人 扶 持

兩

ケ月當 番 六日 稽 古 六 日 合 十二 日

小 幼 頭 15 久病 役付 等 ノ者 五 一人扶持 貮 兩

八人扶 持六 兩 限 y

平 上 同 ケ 月當 斷 番 千日 八人扶 稽 古 六 持 日 六 合 兩 + 六

日

役 付 幼 等 15 久病 ソ 1 役 老 = 3 リ干 石 六 人扶 前 後 持 V デ 兩 モ 0

置 テ、 及 世 平 n 通 禄 士 以 = = 申 E 1 付 及 = テ 3/ 及 -IV 毛 分 ス 毛 、役 ~ 3/ 幼 テ 日ハ 弱 先 祖 叉 ソ 身 20 ノ酸 久 命 病 7 = 捨 = 拘 テ テン國家 21 不 ラ 勤 ズ 1 、器量 = 輩 大 25 功有 右 = 世 應 之力、又ハ 禄 3 テ 1 內三 勤 サ 分 ス 國 " ~ 家 3/ 1 永 减 滁 久 3/ ノ爲 1 • 先 石千 万石ノ 祖 = 代 大功 三者 一百石渡ス 4 有 朱 之 FD クシ類五 等 = 渡 ,百 3 毛 3/ y

减

ズベ

力

ラ

べ。

31

右

减

30

汉

n

残

高

平

士八

人扶持

六兩

3

IJ

小

7

ナ

IV

ŀ

+

25 -

t

۱۷

リ八人扶持六兩

ラア

テ

ガ

t

ソ

ノ上

ヲ

近 割 設 取 表 下 次 fihi

六兩 平 ·士無役之者 徒土目 付

七番

座

八

人扶

持

八

番座 五 人扶 持 兩 徒土 醫師 馬方

0 家 1#1 宛 行 1 法

V " 大 格 1 法ヲ 力 IJ ---定 × テ大意ヲ示 ス 7 b Tr. 1 如 シ 1 ソ 1 或 ノ舊 來 1 法 ŀ ソ 1 習 ۱۷ シ ŀ 分 限 1 大

小 ---3 IV = b 故 定 1 說 ۱ر 預 3 IJ 定 メ 難 丰 7 b ナ "

3/ = 割 テ 0 合、 諸 p w 職 人 ~ 年 3/ - 7 代 = 限 六 其 職 ケ -度 申 1 付、 格 又 别 扶 1 ---秀 毎 持 出 月 米 \equiv 3/ ___ 人 汉 王 渡 分 IV 者、 ス 3 ツ五 ~ 叉 3/ 人分 1 勿論 小 頭、 7 デ 111 棟 中 1 等 內 梁 1 = 1 定 作 類 メ、切 ナ 料 F 3 1 ۱۷ 米 别 -IP 金 7 -ハナク、 切 割 米 I IJ ヲ 遙 渡 細 I _ 作 幷 勝 手 料 扶 持 I. H 數 モ 丰 Ŧi. 次第 t 人 ゥ

分以上、 ソ ,0 甲 Z 分限 次第 = 增 テ 申 付 ~ 3/ 0

用 -大工 テ ナ + 鍛 治、 分 1 飾 職 師 方、 ナ 1. 鏡 師、 ノ類、武 鏡磨、 具、 菓子 農具 等 師 ノ外 ナ 1, 云類 _ テ ノ分 モ 必 1 用、 ソ ノ時 要 用 ヤニ 1 職 雇 人 ラ以テ 25 養 E 仕 ヲ フ 7 ~3 E シ 3 0 3 必 用

1

١

要

0 足 輕 1 類 代 4 相 續、 並 勤 1 者 JU 人 扶 持 一壹兩

5 月當 番 六 日 稽古六 日 合十二日

經

世

談

卷

之

八

有 座 習 此 番 介 IJ ヲ ~ = デ 來 限 テ 勤 F ナ 間 座 3/ 色 1 w n 石 1. 久 1 _ 通 次 テ 者 V 4 n 云 心 1 者 用 得 r 高 -1 1 大 番 7 ス 人 v 7 T n 7 格 1. 增 立 n 丛 人 番 番 E ヲ テ モ ス 1 7 示 數 7 割 7 3 压 E 座 1 升 7 1 3/ ス ナ 七 ナ -7 省 事 進 下 列 IJ 百 ~3 IJ 8 1 = 丰 左 1 3/ 石 3/ 3 位 1 番 用 1 テ 1 3 叉 階 座 定 人 如 人 助 八 役 × 7 1 3/ 1 ス 官 E p 番 百 テ 見 2 勿 滁 智 L 座 Ti. T 13 論 六 + 牛 = -Ł w 21 左 自 本 役 1 テ 首 石 時 定 7 役 -石 石 1 23 得 8 P 滁 用 2 T 1 ラ IV 次 サ 汉 番 7 人 ___^ ナ n フ r 人 1 7 頭 = 分 位. ス 1 ~ 汉 1, -用 7 所 番 3/ テ フ ソ 3/ 改 1 人 座 1 テ 1 ~ 3 大 餘 外 献 2 1 Ŧi. 3/ 3/ 格 道 . ~ 百 ٦ 21 = E 類 3/ 1 -石 テ 本 何 7 . 目 大 役 3/ 1 V E ゾ 前 害 定 家 テ r 家 1 1 テ 推 P 老 老 次 手 x 1 ナ w ス テ ナ 代 1 1 故 ~ 2 ~ P 用 助 IV y 汉 110 見 3 人 w ~ > 1 今 1 爲 n 時 習 3 3 弊 官 或 ď IJ 3/ 7 = + 所 110 滁 番 21 7 汉 ラ ~ -1 则 百 7 F 助 ナ 次 7 役 3 = 石 2 ^ 1 中 第 IJ IJ 3 210 IV 叉 210 テ 段 用 時 家 或 丰 1 V 1 4 人 7 1 老 派 华 7 或 ッ 役 7 = 1 助 芸 番 見 1 分 21 v E

番 14/4 干 石 家 近學 習校

番 番 番 14 144 坐 五 -1 四 百 百 白 石 石 石 部足 番 勘用家 屋輕 定人老 頭 方頭 来 支平行 助 PH

徒城

士代

奥

人 行

岩隱

殿居

頭奉

評

定奉 用 付

行

寺屋

一般

頭留 頭

守

B

Ξ

TIL

五

番

坐

百

石

納評郡

戶定素

素方行

武町

具奉

奉行

作教事授

奉方

行

行

衍

送迎 組 純 錢 人 y 功勞 惜 7 サ ク 4 7 IJ _ v 1 3 P な 7 7 分 勤 下 緊 T 出 110 r テ テ モ ワ ヲ -= 容 要 w T IJ 見 ケ ナ n 汉 モ 入 1 V 費 者 易 テ テ 者 Ŀ リ 1 1 1) 1 w w 下 辈 支 瑣 村 王 ---力 = 1 -25 用 ソ 又 速 7 配 心 1 方 1 汉 b 細 又 人 ノ器 費 多 大 加 ス n H 1 1 モ = 汉 1 往 等 費 報 增 丰 I. 1 1 ~ 7 IV ユ 7 = 色 多 過 類 職 ~ P 來 110 w ズ 25 1 1 中 人 4 村 サ 功 何 ナ ウ ナ + 汉 = 1 ラ 游 1. 叉 ナ ナ T 方 F 1. 力 v IV ^ 又 皆 IJ 1 ナ ナ 企 110 V 1. 云 コ E ___ 1 云 • . ラ ^ 混 1 v 10 丰 3 IV 21 F. 111 I 人 殿 上 人 リテ ナ ズ 1111 3 18 E: カ -Va 皆 數 夫 中 傳 丰 7 1 = 1 デ 1 官 費 升 成 向 馬 勤 永 ナ 1 = 王 ソ モ 賞 畢 隙 進 ラ 就 ナ 世 ソ 21 職 ナ V 役 之意、 1. サ ナ 竟 夫 如 1 7 又 3/ 7 八役、 丰 3 費 人 轉 難 料 此 -ス w = = ケ ŀ 3 サ E 1 w 二 E ジ 丰 1 1 諸 案 役 姿 用 分 ナ ~ 7 又 = 7 弊 叉 ナ 內 外 扶 賄 ŀ v 1 1 = = 人 20 V モ 之 ナ 人 持 ア テ ŀ E 218 T 永 1. P y. ッ、 勞 -足 遠 道 存 ナ ヲ 21 V 毛 IJ # 同 IJ ナ 見 中 分 IJ 3 = 1 テ、 1. 數 難 於 テ 叉 1. 役 叉 3 H = 第 加 同 諸 3 代 ナ テ 王 丰 1 X 3 サ 增 ___ 往 甚 役 者 割 IJ 何 官 賄 丰 5 テ ヲ 來 多 難 程 合 V ソ 3/ 1 -1 = 申 統 ソ 1 郡 テ 力 云 丰 ク 210 ケ w 1 毛 付 V 1 隙 7 申 (" 或 村 V 1 = 1 大 評 水 w 1 及 害 君 付 デ 7 w 7 110 = 定行 1." ユ リ、 所 分 ス 1 丰 ネ 211 1 b V 1 1 -隙 ズ 手 ナ ガ 藏 3 18 4 モ ヌ 益 h 當 爲 ナ テ 出 テ ŀ T b w 入 ソ 10 モ ラ 披 順 道 骨 高 云 IJ ナ 入 3/ = 1 ナ + 才 得 橋 y, 番 折 ガ w ヌ E 難 ク、 費 卽 能 永 手 何 ~ = 1 種 ク 足 用 休 或 或 7)2 1 r 力 木 4 E H 減 車項 叉 家 埋 ナ IV 事 1. 寓 r 1 w T 叉 害 官 頭 F 丰 心 ヲ モ 少 ·v = V 1 in 諸 役 治 F. 者 職 ナ 21 ス 1 1 1 r = v 信 式 人 w ナ 屯 1. IJ -毛 1 w 1 iv 遠 金 第 移 役 多 叉 故 1 服 7 ナ w

群 位 扶 力 性 世 督 ラ 等 1 + 1 t 4 v 持 ラ 1 7 = 1 6 210 210 7 ŀ 1 1 -大 進 テ ナ 得 儒 ス 3 ソ 10 = 1 功ア 家 100 手 者 丰 家 1 丰 1 -力 1 後、 宛 别 ウ 老 テ 不 筋 老 ナ -力 N ソ 位 得 ナ 行 ス 1 r 7 = 1 又 者 學 階 位 1 7 手 ラ 7 樣 云 210 役 T w . 1 人 ~ ヲ 階 問 T 3/ テ IJ = モ 1 = 子 升 異 家 事 3/ ナ 7 IV ラ ヲ 1 111 ナ 孫 代 進 設 樣 老 ラ 3/ ナ ナ 又 7 E IV 限 = ラ 無 毛 サ テ ケ 1 モ 又 1 ク 1 ~ 及 1) ス テ ナ ラ 3/ 1 1 p テ ズ ク 丰 申 役 聖 7: 多 云 ウ ~ V 3/ ナ h 人 シ、 付 賢 110 在 = 3/ 久 ケ × ラ 示 = 毛 ナ -. ~ " 1. テ 勤 P V ヲ ズ 1 V 或 勿 共 大 等 3/ 丰 110 水 ス ^ 1 110 論 , 意 見 勿論 1 テ 110 才 工 = 1 L 玉 或 家 功 祁 7 習 人 1 ~3 w ---3 見 代三 7 非 老 君 ケ 21 王 3 -1 家 ス 1 習 或 位 宰 w 7 テ ス 督 T IV 1 V E フ 代 時 家 時 階 . 相 3/ F IV __ w P = ~ 叉 番 メ = 1 = 1 -IJ E モ 汉 IJ ~ + 25 大 9 7 準 171 1 3/ 汉 ツ ケ E 事 永 功 座 天 1 ズ 力 ラ IV ラ 牛 ~ 病 V 毛 世 隆 用 ナ 人 r ナ ~ 氣 又 3/ 丰 F. 7 fo ŀ n 人 若 人 ナ 一下 1 w 牛 w ガ 毛 モ 3 E 力 ナ <u>^</u> 大 P ラ ラ 2 殿 P 21 民 1) 衣 y 功 IV. デ ス 7 F IJ __ ナ ソ 身 帛 番 作 或 T w 1 25 -2 云 リ、 1 家 費 . 之君 金 休 ナ IJ = P ~ 1 モ 品品 銀 3 1. ナ 諸 7 息 1 1 3/ 木 1 リ、 抛 次 7 牛 云 相 事 E 21 P 1 テ 第 以 官 官 作 役 チ 7 y 力 應 時 申 之 テ 職 テ ウ 7 ナ 人 = 人 t = モ 付 君 轉 耳 3/ リ、 君 ウ , 21 -1 年 及 師 ~ 民 位 段 目 3" = __ 1 7 E モ シ、 1 大 階 テ サ 1 ツ 利 4 3 1 ŀ 益 進 テ ラ 等 ナ 1 7 1 ツ h + 云 今世 外 才 役 1 n ツ 又 1 2 王 = 毛 E 役 今 ナ ケ 能 事 人 1 _ IV 7 1 __ ij 症 w 禄 テ 人ナ 人 ナ 世 r 7 1 1 E 見 官 家 役 人 辨 ガ 7 1. ナ IJ w = 1 V y, 1 如 增 料 職 テ 3 4 IJ 1 P = ズ 110 7 丰 云 28 1 T 1 1) n 1 拔 1) 役 天 今 家 ソ セ サ ナ ナ 1 3/ 7

家 1 付 不 子 或 IJ H w 孫 = 1 相 ヲ 1 E = ダ 7 悖 腎 ク -1 10 役 始 德 1 = 義 終 家 人 b ヲ 統 中 = r 臣 I. 賢 y, ラ ノ家 F 3/ 1 德 E r テ 1 聖 テ、 下 中 使 ヲ貴 ナ 人 又 1. -フ 1 列 重 20 IJ F. 7 法 諸 天 役 3/ ヲ ŀ 宗 職 役 ウ テ ---21 申 廟 人 ケ 必 ヲ 疎 重 テ 其 付 F 1 遠 同 萬 器 大 5 ズ = 祭 事 w ヲ 30 然 = T 意 所 7 緩 應 ノ義 -ツ E 慢 親 ----ズ カ テ、 力 1 ~3 4 1 フ ŋ ナ 本 賢 り。 3/ = ガ 上下 . ۱ر 1 4 h ズ ナ 出 __ 親 之意 類 1 IJ 類 シ親 賢」賢之道 列 花 ナ 1 之道 ヲ 3 家 ヲ V ナ 示 210 T 柄 3/ 1 ナ 3/ _ 3/ テ 玉 妨 -テ ブフ V 妨 禮 ラ 18 フ r 同 ッ、 r ヲ ズ b 7 家 y, ウ テ ŀ 中 其 中 别 7 ソ 1 サ w 1 人 庸 座 內 敷 = 人 = 1 V ---書 P 相 相 110 -テ ナ 應 當 ナ ス 1 1. w テ 思 1." セ 1 多 時 花 役 = 劣 又 儀 役 明 親 1 ケ ۱ر 却 考 儀 V 丰 ヲ = 1." 申 加 ヲ ナ 3 テ 並 付 1." 先 ソ 七 ^ 申 行 1% 1

0 諸 役 人 ダ テ 樣 ス

~

テ

同

役

1

[:

坐

=

列

ス

w

=

1

ナ

1.

當

ナ

, " 老 六 半 + 交替 赔 h ラ ボ ス 云 则 1." ~ 20 役 代 人 テ 1 役 又 少 1) 7 質 得 ナ 人 1 丰 見 ヲ 7 安 ガ 人 習 立 テ 7 3 用 君 ナ 3/ w - > 1. 事 ソ 7 1 助 云 辨 1 1) b 上 役 ク E セ ۱۱ . ナ 1 テ ズ y, ヲ E 人 1 立 F 君 上 力 或 率 テ F p 1 費 1 相 フ オ 1-1 牛 少 = 1 毛 自 事 デ = 3/ モ 3 . 間 ラ 無 手 力 サ ツ 益 -ラ T 7 V 1 1 隨 ズ " 1. ۱۷ 1 シ 力 7 モ ネ 10 テ、 費 キ 又 118 病 3 力 to 3/ 人君 ウ 氣 又 セッ 叉 叉 E w -處 Æ ス 21 E 20 片 急 民 ナ ~ 時 死 7 丰 3/ 手 勞 工 1 心心 代 或 大 ス ^ . y ナ 將 w 遠 ク、 何 = -= 方 出 副 ŀ 人 病 ス 將 ナ = 毛 心 出 立 P 1. モ 得 70 T w 行 w ク 1 IV ス 1 ユ . 類 w 1 7 1 II. ナ 1 類 ナ ナ 戶 y, リ、 故 在 w 勤 家 ソ 117 ~ 力

*10

談

卷

之

八

者 嫡 家 旅 用 1 210 サ 毛 威 1 = ŋ -紋 所 至 格 大 君 時 7 3 テ 7 孫 E テ 澈 難 與 抵 ヲ IJ 1) ソ -3 150 1 21 テ テ 部 先 過 或 ユ 3 ^ b 1 1) ケ 養 IJ ~ 手 國 屋 祖 家 n E 不 V テ、 槪 2 ソ = 子 及 r 中 F. 柱 4 1 上 下 + テ JE. 1 = ---1 4 モ 石 井 幾 造 士 子 - > 統 ス 丰 P 7 1 P 罪 段 平 云 家 其 n V. ~ ナ 1 1 p モ T 士 . ウ テ E 3/ ス ~3 ナ _ v 1 = w 弟從 難 . 0 9 意 E 1 ~ -3 類 110 y, 時 姪兄 -上 吟 ナ 役 ケ ソ 丰 7 别 モ ソ 養 推 一手 番 1. 1 味 人 = V --罪 段 2 卷別 ヲ 列 1. 孫 類 -1-頭 T 云 3/ 1. 1 -系 3 毛 = IV " テ モ == 著宗 子 P テ、 物 至 ナ ~ 屬 ス法 ユ ケ 細 1 ツ `說 叔 ラ 親 頭 牛 3/ 丰 P テ 分 力 -1 等 父 時 親 110 夕 w r 4 别 3 E 1: 叉下 > 家 族 IV 1 ソ ツ 1 テ、 y ヲ 兄弟、 25 上 家 道 1 力 子 ^ テ 久 士 别 子 養 弟 = ス E 7 13 祿 テ ソ . 791 ~ 子 ナ 1 E ---= ク外 7 小 1 子 家 代 成 失 1. 和 3/ 3 = 7 21 . 至 テ 孫 遣 長 1 ヲ 睦 = 1 111 1 極 麻 立. 至 ナ ズ、 ソ ス 1 3 等 伯 遠 番 7 1." テ ラ テニ IV 1 3 倍 叔 ヲ 高 或 丰 P 頭 21 サ 110 1 工 水 父、 家 汉 T . + 家 道 ソ 九 セ IV 1. 族 物 3 . 庶 フ 老 歲 ヲ ソ 1 1 ス 7 滁 兄、 用 少 人 IV 頭 1 1 モ 1 = デ 7 外 ナ . [-华 失 水 21 ヲ 毛 ---叉 1. E ナ 生 = 1, 1. = ソ P 分 モ 20 ナ P 1 列 リ、 至 1 立 云 テ 1 亦 1 ズ 10 弟 テ 或 献 間 y p 3/ ガ 1. ツ r ガ 次男 テ ウ テ 養 今 ~3 ヲ 1 E モ n E 代 與 子 大 テ 遣 ソ 牛 -1 ~ 定 次 小 三 ^, 禄 世 4 ス 1 = = V 家 平 6 1/2 ナ 2 ソ b 7 b = 男 勿 段 ~ 义 テ 士 L IV ナ 1 ク 1 論 是 -7-分 末 1 3 4 ~ IJ ~ = AND 10 用 定 + 年 Ŀ = 7 1 限 孫 ス 丰 賀 代 ソ ソ 人 デ 分 家 等 か = 2 = V 列 ソ 1 ")" サ 1 ホ 1 _ ~ 毛 _ 3 1 或 -1. 制 幼 嫡 1 3/ 1. 至 y ナ 水 3/ V 外 ソ 孫 1 度 ラ 1. ラ 丰 15 -f-=

饗

應

ナ

1

=

>\ \ --

統

ノ家

1 1

1

别

=

3

テ

奥

座

敷

-

テ

禮

ヲ

ウ

ケ

井

盃

ヲ

遭

3

、返

盃

等

ヲ

Æ

二

IV

ス

~

シ、

今諸

0 威 君 1 弟 井 次 男三 男 等 ヲ r ツ 力 ウ 心 得

子 子 意 1 E 1 テ E 拘 面 法 或 r --3/ _ 1 21 4 -殊 相 君 ソ ナ ナ T. = ラ V 公 應 ラ IJ 18 ラ テ V = ズ 1 弟 6 ズ ザ 親 ノ家 汉 _ 男 今 w 并 3/ 丰 E 3/ ソ 子 更 1 テ 丰 1 7 次 ŀ コ コ 實 心 撰 男二 願 父 ŀ 1 云 1 系 得 ソ 法 田: フ = ユ ۱۷ F. 男 及 祖 T 1 人 ヲ ヲ 屬 テ 7 家 立 先 等 P w ナ 110 ス 志 テ 養 テ 1. ズ w ~ 1 ヲ -玉 統 家 テ T T 子 r 3/ 1 -世 -身 系 w フ w 1 -" 遭 聖 時 E 者 别 外 7 = 力 1 斷 9 3 人 終 フ 1 ~ 21 -3/ 1 - > 他 7 12 甚 父 絕 + 1 = 法 者 强 人 概 人 人 日: 願 ス ŀ -或 テ 7 w 叉 1 28 1 3/ 1 大 次 養 中 テ 跡 君 止 ヌ 1 ۱ر 男以 義 女 格 論 目 1 x 1400 7 フ 難 系 子 7 ナ 1 b 7 1 ズ 下 - > 繼 幼 弟 w ナ 丰 1 V 1 3 家 勢 y 君 别 好 110 = カ = 8 子 數 世 モ 3 Po 7 ヲ ス 續 子 r ル此 w ŀ 8 テ ナ サ 20 三說 出 云 T w ラ か 7 V = = 綱先 家 1. T フ ~ 1 w ヌ 1 7 今 E 7 b " 3/ ス モ 7 3 7 -得 世 カ 1 ŀ w ŀ 詳ア 今 サ = ナ ザ 汉 1 フ モ 7 = 1) 立 世 IV 載予 通 IJ ŀ T 10 v ~ スガ テ 亦 止 人 法 同 w 天 1 著 外 爲 , ~3 × 此 下 ナ 30 t 概 難 等 聖 造 滔 ナ y 4 3 大宗、 作 IV 賢 b 丰 V = 21 4 先 サ ナ 211 ~ 1 1 1 21 7 論 7 儒 法 名 リ 1 3/ 丰 V 10 小 = 3 モ テ ホ = 目 1 サ 宗 難 r ク F. モ V コ モ 1 遠 テ リ ヲ ナ 3 P 3/ 21 V 21 . 7 近 成 云 7 相 3 ヲ 丰 フ サ 况 以 續 親 長 3 牛 人 7 法 p 疎 力 テ 論 1 テ 1 ŀ 1 養 是 本 後 養 云 7 フ 說 = -

經

世

談

卷

之

八

世 談 卷之八日錄

經

○諸役人ノタテ様。 〇國君ノ弟弁次男三男等ヲアツカフ心得。

〇家中宛行ノ法。

海 年 ウ ___ 國 ヺ 3/ ニテ、 テ、君 稽 歷 ルホ 古 アルベ モ自身ニ上覽 船 F* 車 功 シ ヲ習 者 ---叉五 ナ >1 ス w アリ、或ハ敵味方ノ內ノ大將トナリ玉ヒナドシタラバ、士卒 ~ = 年 シ、 1 ニー度ホドヅヽハ、 元 右 ノ軍者ノ竹刀カラ鐵 -准 ジテ、 船 1 行軍、陣 進 退 砲 左 ナ 右 平取ナド ドノ ス w 足 = ヲ 場揃 b 王 敵 試 = 3 ル仕 Ÿ, 應 ジ 法 テ、 遙 モ、工夫次第 -益 自 アル E 在 勵ミテ鍛練シ、 ---カ = ŀ 4 -31 ナ ナ w y, ス ~ w p 叉 +

トナッ。

經世談卷之七

終

經世談卷之七

卒 練 洛 備 通 習 1 7 ス n 3/ 1) メ ^ 練 法 ~3 7 此 ダ w IJ フ 7 3/ T 21 -味 3/ 集 テ 間 ナ 7 1) 3/ フ 方 -テ 何 ~ 組 速 方 Il'i ケ 丰 x --セ 7 毛 1 V テ、 負 勿論 V. . 勝 デ 定 兼 = 久 ス E v コ ナ 忍 3 仕 218 1 テ 10 IV p × テ 物 備崩 習 定 n 7 味 寄 フ テ、 合 丽 21 1 b 25 73 方 ~ -21 L テ ___ 1 1 小 汉 備 備 勝 敵 久 ~ v ス 3/ b 3/ UI 21 10 7 ~ ス 1 ナ 3 負 手 テ カラ 7 等 直 = 3 9 定 リテ 二 丰 7 ソ 3/ t ナ " 1 ソ 如 1 稽 × x 2 = フ 1 1% 3/ 何 ソ V 調 鍛 勝 此 . 1 n 古 F 分 -1-= 1 練 備崩 13 定 大 敵 練 ナ = ス -3/ モ = 1 アラ 將 テ テ 魚鱗 ~ 1 丰 2 1) モ 1 -武 段 カデ 者 後 速 n 3/ モ ~ 汉 ツ 1 變 ズ、 -申 思 v - ma = 3/ w --ケ 1 ン 含 後 9 18 ス ス 21 E 稽 3 1 3/ ヲ v 合戰 敵 叉 IJ 合 付 ~ = X 味 テ w キ (-古 士 テ テ w 味 ノ備 方 亂 115 21 次 テ 110 9 卒 謀 五 方 負 第 -= V 力 味 = 負 段 人代 + 略 F ++" ソ 1 ___ 1. -賞 方翼 IJ 剛 間 ナ 直 定 何 = 1 1 12 1 ナ ス ナ 1, y 人數 臆 ソ ---ヲ ナ 3/ L 翼、 y, ~ テ w 游 + T ~ 1) 1 7 3 モ 3/ 始 間 力 時 軍 w フ 3/ 3/ F 一多 = 武藝 敵 1 木 叉 ヲ = ~ -セ 1 E 負 鋒 明 テ稽 味 テ、 仕 T 3 敵 備 小 1 ス ノ稽古 久 矢 ナッ、 伏 寄 方 次 及 ~ 1 ~ 如 n -古 IJ 兵 敵 仕 汉 第 w _ 3 者 ス テ 間 此 ナ 寄 . w 21 ナ 1 = F w = 右 敵 役 大 時 IJ 淮 1." 2 7 -屯 云 時 1 ノ通 將 テ 味 モ 間 = -3/ 111 3/ 構 E 汉 爊 始 者 際 合 味 方 久 1 味 ナ 畢 = 1 智 ズ 間 敵 方 方 ノ間 n 1 V 1 7 年 竟 備 編系 ズ 亦 デ 能 ~ -1 ホ = テ 三二度 調 ·r 1." ナ 月 10 テ = 丰 = -ヲ ス 練 平 r y 面 カ フ 21 此 11 ナ 四 又 2 敵 テ 内 敵 FI H w 4 P 方 ラ 1. Ŧi. = 前 र्गः 1 3 引 1 ザ 一次 云 T 7 フ 3 ___ 1 1. 1) F = 合 第 3 ナ 1 IJ w 7 毛 ナ 三三丁 形 段 二丁 " 1 如 内 -1. E 1 -フ '0 進 定 ナ 7 テ 備 4 1 _ = 1. 以 . 習 FE IJ 種 = 7 111 敵 = x E 習 鍛 幾 仕 テ 11 4 及 -E 21 E

得 + 諸 本 45 長 加 > ス 30 由 v 1 3/ 1 專 論 41 カ n 或 w H 丰 110 V 1 -勿 妄 今 鹿 ス ガ 3 7 = テ 1 1 7 -9 多 論 稽 狩 ナ IJ 7 E = 1 w b 24 II. リ、 卽 テ、 ナ 力 + 時 古 T 行 ナ = IJ コ 鳥 ラ 萬 1. 軍 リ、 -テ ラ E b = 1: 騎 戀 ネ 難 大 ナ 潤 法 ズ ソ ---1 1 卒 杂 猪 サ 軍 ナ 化 1." テ リ、 1 1 3/ 百 勢 稽 習 鹿 テ 大 法 ラ ŀ 面 淶 モ 7 騎 當 謀 城 ヲ 集 古 7 4 久 ズ ナ イ 1 憚 E 集 相 ナ 畧 ヲ ス 時 ۱ر iv ^ メ ŀ 1) IV 幾 1, 手 IJ 汉 × サ ヲ 7 奥 1 ^ 乃 所 甲胄 重 テ 州 10 勝 E 1 -= 110 V 至 r 戰 8 3 物 何 相 3/ b ---110 1 3/ 四 V 諸 定 人 金 頭 モ フ テ 力 汉 馬 21 ホ 五. 18 君 皷 云 取 或 1 w =7 1 -10 L 百 3 宰 盆 小 單 敵 ~ ヲ テ 1. 1 = = = 騎 1 及 人 相 用 ソ 頭 モ ノ綾 3/ モ 妙 ---2 -. ナ Ŧ. 數 見 ナ ナ T T 1 110 ノ心 Ł 論 稽 騎 北 手 テ ラ 1. ズ 1. w IJ 1 _ セ ; テ 軍 祭 古 ~3 ッ 得 1 ズ 23 ホ 臨 ズ、 . 差 從 格 ケ 1 × 法 イ r E = -機 基 引 . 云 ~ 别 4 フ 1 3 ヲ V サテ 應 大 テ 合 IJ 習 野 1. デ 1. 屯 -合 變 將 抵 1 從 力 味 戰 テ モ フ 毛 馬 戰 調 棊、 1 4 方 何 フ 4 7 ŀ = 力 練 ---假 テ 引 サ 分 1 云 ホ ŀ ン 涿 叉 ケ テ ヲ 備 1. ホ サ 1 _ = フ رر y 引 勝 習 引分 淮 嫌 習 法 重 ~ = 1. 立 ŀ 王 負 ノ 21 ナ 鑿 退 1 自 7 疑 ナ 少 ·E 21 ヲ コ ス 人 ケ 自 敵 ス 由 w + 3/ = 1 爭 1 コ 數 テ、 組 眞 拘 ナ 在 ~ = 1 ナ w フ 1 ۱ر ヲ 劍 益 形 v 7 ク 7 -丰 25 第 = 立. 進 7/4 テ y サ F 1 = 7 = F 方ヲ 度 ナ 仕 ナ 7 モ IV ツ b 1 敵 21 退 大 真 自 ヲ 合 1 江 b w 力 = F 敵 力 抵 在 E ス E ヲ 戶 云 = E 1 3 對 稽 大 丰 ケ 仕 = 1 = 1 毛 1 ^ 1 陣 合 古 鍛 將 大 w 軍 同 1 ۱ر 毛 1 3 3/ 方 憚 將 速 w P 滕 _ 練 物 所 = 30 1 テ、 間 ヲ ナ 負 ナ 頭 = T 7 w ス >> 21 味 備 ラ ナ ~ w ソ w 3 ス w h 毛 方 1,0 " + r 立 ズ 7 ガ 1 3/ w = = 1 b 稽 テ 說 ウ 1 21 地 フ iv = 1 b 定 自 ナ 敵 心 ~ 古 事 ソ セ テ --E

法 ス 3 3 1 w 7 - Pa 1 1 形 大 r 3 1 格 7 F 1) 1 多 據 心 フ 得 心 3/ = 1 得 ス = V 武 等 テ 及 n 備 n 1 = 21 大 兵 手 = ŀ 家 當 心 大 r 相 ヲ ナ 毛 n 丰 别 違 w 人、 誤 3/ ス F テ ナ w 此 心 リ 力 7 等 得 3 1 1 7 T 叉 ナ ッ、 人 近 ソ IV 1 ~ 年 V 說 1 魯 丰 3/ ヲ THI 力 = 合 1 1 w 亚 岭 7 セ ナ 又 テ 味 城 21 V 伊 3 r 1. 地 IV 古 ヲ 7 モ , 考 F 利 21 憚 フ 3 斯 ジ ~ × ^ IV ナ 所 諸 次 牛 1. r リ、 1 = 1 制 里 ŀ V 平 國 作 ナ 210 學 り。 Щ 船 正 器等 幸 テ 時 論 藏 4 ノ論 3 H = 難 至 本 ナ 3/ 1 IV -1. 海 V デ、 殊 何 E = V = 威 昔 來 = 心 E w 1

〇武備調練ノ法

槍 ソ ^ ナ 11 ナ n 1 小 y, テ テ ッ 先 武 1 -內 勢 今 所 ヲ 備 3 然 以 大 1 E 工 調 1 1 諸 小 軍 T テ 練 力 iv V 事 或 4 ヲ 流 v ナ 1. 1 引 ツ、 力 ナ 1. モ ヲ = 1 兵 廣 久 ヲ 子 V 毛 b 勿論 引 學 1. 無 3 x 3 モ、 者 畑 テ 事 7 ス 7 弓 子 習 安 w 1 大 1 心 忽 水 名 平 矢 孫 モ 21 手 練 セ 事 = 杂 1 = 1 分 ナ 沙 傳 世 210 1 1 內 '8 訣 ラ 4 3 汰 ~ = 大 手 X 武 T 1 又 モ 汉 軍 組 器 IJ ス = 7 ナ iv 0 7 者 テ b サ w 1 1 用 モ 1 p ナ 無 多 ^ ッ、 ウ 益 意 人 ^ 3 + 甚 ナ F. 1 P H ユ T 費 昇 ~, 緊 ソ 力 Æ 3/ = 要 手 1 7 ケ 1 V 4 分 上 增 V 3/ 7 誰 21 1 次第 樂 r 7 110 七 ス 4 = -ラ 撮 重 1. 111 モ = 進 法 武 ズ、 當 ナ 1 テ = y, 小 退 7 奢 備 T T y, 習 勢 リ、 起 + 7 ナ 長 今 居 7 E 1 1 ii サ 叉 1 IJ 1 ス 3 テ 諸 法 武 樣 ~ テ + _ 武 型 通 3 游 ラ 大 -1 隋 名 引 小 備 IJ 1 又 吟 李 卽 ソ 1 7 = = 7 習 1 21 力 調 毛 味 モ 1 サ 練 加 ケ 大 7 F E フ w 引 小 ソ 先 3 1 3 3 及 1 7 淮 3 r V IJ 7 y 6 w = 退 自 3/ 1 1 起 テ 然 人、 ナ ナ 1 IJ ッ、 ナ リ 居 及 = = " 念ヲ 皆 武 孟 w 軍 作 些 馬 備 サ = 人 H 法 法 E V 衰 b 2

叉 25 法 人 者 テ 1 沙 ~ モ = 1 1 IJ ^ 、公家 甚 云 强 汰 屯 + ソ 7 = テ 人 1 次 盛 合 17 フ IV p 7 E V 丰 3/ モ ラ (. 7 17 ŀ 7 軍 b 24 = 1 セ コ 叉 ナ 出 テ ~3 1 ナ 1 7 勢 IJ E w >> 人 武 昔 リ、 IJ テ、 P テ 1 __ 10 T = HT テ 藝 I. 戰 人 IV 1 丰 3 テ 1 人、 7 隋 戰 場 ~ + 夫 ŀ タ モ 7 = Ŧi. 或 吨 0 ナ ソ 法 15 云 V サ V 7 1 1 大 7 人 1 110 用 石 1. 1 1) 毛 = V 25 V 相 ヲ 寺 水 テ モ 術 -テ P 1. = -211 自 縋 合 坊 客 矢 石 £ 1 ソ 23 フ モ 25 6 蘕 遽 * 主 然 甚 7 戰 七" 火 1 セ = 水 矢 器 テ 敵 4 月 ナ = 不 10 ナ P 七 ---平 及 1. 7 H 1.0 フ 1 モ 1) H ___ 1 12 = 畑 涿 云 テ 術 F" ヲ 人 心 日 由 7 モ 8 難 得 JE. 力 チ 水 1 ナ 1 7 = ナ = -1 身 至 名 ワ 甚 サ ツ ガ テ 練 __ 丰 1) w V 諸 修 持 發 木 IJ フ ~ 4 3/ n 雏 1 IJ 7 ワ テ 所 行 ナ テ 7 流 1 P 二 3 V 力 y, * 發 1. ナ 3/ ナ IV 野 フ 3/ IV 21 1 1 兵 テ 7 别 77 1 モ IJ 7 IJ ~ Ш ホ 3 亂 E 家 テ 間 テ 171 2 ナ = 1. 3/ 3/ 覽 第二 뱜 テ 大 . 奔 力 IJ 1 = = 3 世 普 見 武 0 軍 工 如 走 根 1) 1 3 七 實 分 後 多 1 ク 7 = 3/ ナ 7 士 兀 1 此 用 法 合 + 1 ク ۸٧ コ 3 1 w 1 F 1 1 寒暑 告 1. 名 1 戰 w 1 _ IJ 1 -心 我 コ 泥 1 所 テ 1 兵 ナ 1 シ ---1 ガ H 1 都 9 9 112 數 ナ 戰 7 1 b 云 + ケ 本 y, 農 犯 但 百 合 難 ヲ H 111 1 7 薄 1." = 弓 -姓 丰 ___ 3/ __-3 IV 1 -サ ケ 臎 矢 艱 叉 ナ 中 日 E ナガ 3/ T ۱۷ 人 V セ 勿論 古 力 7 書 ___ 3/ 1 1 IJ 20 君 110 w 間 テ 用 Ш 丰 -ツ 1 w ヲ 日 1 邻 文 戰 立 テ -3/ ス 1 打 = E 1 亂 相 主 今 合 ナ ワ 11 7 碎 法 シ 1 1 才 E 1 证 戰 世 グ 職 1. 70 ヲ 力 カ 力 ŀ ---心 ナ 主 松 事 7 コ ナ 1 V h V ۱ر >> 丰 得 荒 意 石 rja 1 テ 又 1. T 1 テ iv b 故 = 武 良 大 古 ナ 7 iv ソ ^ 火 21 1 テ 州华 諸 矢 百 #" 具 F H ス 力 E 1. 1 = 平 __ E 家 1) 姓 7 w 1111 E 4 21 1 b 縋 * 引 云 鐵 ナ 力 ソ 日 3 ス 力 -1 治 昔 軍 ナ 4. 1) 1) 1) 硇 w 1 ス モ 3

經

売台

10 溝 ブ ナ 1) 3 1 3/ -V 7 -7 3 人 ナ ナ IJ 堀 1 3 テ ~ v 1. Ŧ. 1 大筒 草草 故 F IJ モ 1 7 丰 1. モ V = 足 橋 重 117 毛 云 T 半 V = 1) 亦 夫 9 荷 ヲ 大 久 備 IV 7 21 1 F -1 = 役 晋 犯 夏 抵 ")" 飢 物 汉 修 ナ 7 7 111 1 7 サ 1 昔 7 毛 ス 1 行 ^ IV E 1 -210 P -木 汉 時 烈 肠 ___ 力 F 久 ~ 1 1 テ 遠 公 内 生 IJ 110 リ シ、 -^ ---1 H イ ガ 飛 忽 家 V H ズ 7 丰 ^ t 1 1 7 内 道 越 應 冬 勿 大 ~, = 10 3/ -110 V 20 . 論 可 テ 狩 病 " ナ 牛 7 w 1 = 上 自 人 寒 猫 何 多 テ ナ 7 7 w 23 1 7 3 . T 汉 馬 身 1. ウ 風 方 3/ ケ ŀ ガ 丰 IJ テ、 癪 ラ 條 ナ -= ケ = 丰 1 中 25 1 モ 持 出 テ 武 ラ モ 1 1 = == 又 丰 E 7 古 サ ズ ナ 上 __ r テ ソ 士 21 E I = v -驍 1 E 山 w 1 7 V 力 E 1 25 (-五 武 1. 幼 7 JII 勇 IV E ナ ク E 12 ラ 里 翌 苦 論 F T 小 士 ス 1 7 1 -云 ズ、 達 者 B ~ = n 1 力 ズ 4 1 3 ユ 故 者 手 テ 7 ~ 7 ナ -1 20 = IJ モ n 甚 雨 里 稽 老 ラ フ モ ラ 1 r r 3/ 3 . 疲 常 ナ 熟 風 古 1 × ズ 1 テ 死 n 7 . 道 第 テ N " ナ ~ -ナ 所 -セ V + 輩 ラ 馬 苦 T ラ 至 ズ 7 ケ -15 21 ----汉 役 往 ズ -= 3/ = v テ IV V ス . 17 丰 1) ス 力 丰 テ 110 7 1. ソ 23 ~ -今 載 テ 馬 返 刀 デ 1 F 13 Ш 汉 毛 テ # 難 朝 槍 .0 精 野 テ E 口 IJ 坂 p 辨 猫 游 夙 等 書 諸 1 ソ 兵 宿 ス ス ス 1 當 骨 ヲ ヲ 或 ガブ 1 IV ク ~ ク 1 1 モ 1 1 4 仕 起 勝 云 + 术 3/ ヲ -テ 城 サ -刻 多 n 立 負 1 及 嶮 出 F フ ~ 毛 w ホ 限 -リ、 馬 上 ク 汉 1. モ 3 岬 7 1 モ 甚 华 IV 1 試 庫 T 1 -= 1 セ 1 テ 夜 時 乘 駕 175 屋 ガ IV 1 モ 力 w 3/ = 亚 籠 馬 28 ク 通 _ 2 ナ 4 IV 7 1 1 告 刀 -+ 時 走 3/ 7 ラ デ ナ 31 -7 11 槍 使 公 何 テ 1 モ 1 ズ y ---1. 1 1 9 道 家 弱 1 ヲ IJ 1 テ 云 1 -= ユ 名 達 テ、 卒 ワ 時 中 7 テ 3/ 所 叉 E 人 " ソ 11 1 7 IV 7: 馴 -21 -45 具 武 大 婦 ナ 百 カ 住 ク 久 3/ 1 V 1 鼓 外 士 1) 妙 地 足 居 人 ラ 汉 水 ヌ 7

V y, 近 3 ラ + 1 ガ = ŀ = 汳 ---者 知 ナ サ 7 ク 1 ズ + 濟 行 ソ ナ ナ v 8 -E 事 E IJ 力 1, ヲ 28 ス ۱ر 1 IV 上 ナ 文 テ 遺 IJ w = -ア モ E w ~3 相 ス ۱ر Æ 3 心 出 同 ナ 今 ij 當 3/ ホ 3/ = 服 テ 意 ク、 1. ス 7 2 b 力 デ 叉 持 ザ E 1 1 = 9 9 ソ 云 Hi. 傳 高 = セ w 後 F 1 又 p + 馬 = 次 田 實 ウ 日 ナ 7 = J. 1 夫 畑 畢 ŀ ナ 故 V 21 = = ~ 役 ナ 物 y, 15 竟 ナ r 18 ス . 度 y 成 分 21 V IV ~ 下 テ 義 素 111 r = 1 -テ 9 內 年 13 テ = 1 1 1 必 於 有 貢 IJ = ユ -モ 家 テ 餘 テ タ テ ス w ŀ 割 及 サ n E 云 E ヲ V ソ 頭 役 相 姑 納 ジ 1 w 王 1 割 士 墨 當 7 丰 E 1 ガ ヲ 左 ケー 人 竟 74 = 力 7 地 ユ 數 3 IJ F --全 ヲ 7 n テ、 テ 多 用 ナ デ 九 ク V ス IJ, 捨 ソ 力 ナ 丰 日 = ク、 ソ F 時 1 اح-ヌ b ソ 半 人 1 1 = 27 21 有 不 1 極 百 高 = V 外前 金 足 15 ソ ワ ソ 用 士 姓 分分 家 7 捨 1 w 1 地 ヲ 外 補 人 ナ ヲ E 1 = 1 b 爲 1. ~ 1 力 7 E = 1 1 ~ 者 -減 云 力 カ -1 謀 今 永 及 ズ ス ス = ^ テ ア IV IJ 7 IV T w 1 w 意 デ三 テ 利 類 モ タ 水 ۱۷ b 同 ナ E w 1.0 ツ 1 3 恩賞 + 外 " 人 割 力 意 丰 永 前 文 ___ 4 1 -等輩 テ 士 八 出 テ 1 ス ヲ 子 迷 黔 以 ~ 3 シ 感 保 右 テ 汉 味 下 孫 U ^ 割 ツ 7 P w 1 3/ 1 1 倍 錢 上 輕 デ ナ 力 = フ 縣

0 今 世 1 武 備 P 云 モ 1 昔 1 T 1 1 心 得 == テ ۱ر 亂 世 1 用 = 立. 難 丰 コ ŀ ヲ 論 ズ

ラ

ヌ

コ

ŀ

ナ

IJ

大 抵 今 此 足 1 世 上 w = 1 2 城 重 ŀ 家 1 地 堅 p 1 固 世 フ 1 _ <u>-</u> 亚 中 具 人 1 兵 云 k テ、 思 糧 フ _ 不 H テ 自 オ 本 中 由 w 皆 ナ = ク 武 ŀ テ、 家 ナ v 1 時 差 1. E 配 1 大 = 將 テ = 何 久 v ۱د w V 大 者 1 ナ 軍 或 jv 略 _ 誤 1 モ 麁 3 ŀ 忽 ク 3/ サ 重 w 1 ~ ^ ナ 3/ ヲ 丰 養 ソ ナ E 1 ラ 7 說 ク 18 數 7 缸 ケ 1 條 備 ナ 7 25 V

經

世

談

卷

之

t

武 ズ、 久 3 力、 ス -P 汉 助 中 世 w 家 扶 テ 士 取 = w 7 1 ナ 1 + 者 後 殊 人民 持 内、 太刀 サ 7 = 1 ナ 1. 文 = 列 IV テ テ 米 = = 1 王 1 21 + 知 錢 馬 矢壹 21 ス 1 ス T 水 1 永 云 切 或 以 E 行 n ソ ~ 7 w F. 叉 代 p 米 威 E 有 力 7 運 成 = V = 10 F フ 手 ナ 9 ラ 造 金 就 小 E F --上 テ ---玉 1,0 + 取 功 旗 サ 7 献 + E ズ 3 1 ス 金. 7 勞 ス w V. 靟 銀 粉 7 1 ~ セッ 遭 絹 百 ソ 7 7 + w T = w 3 7 ナ 3/ 幕 ス ナ -11: 仰 ナ , IV 1 用 w 3/ 1. x + 上 右 F. 故 持 12 ホ セ t w テ 云 布 1. テ = 1 1. -1 高 叉 1 2 モ 水 1 9 1 如 1 テ 力 9 數 7 ヲ 1. 1 類 ナ 才 H 用 畢 7 = 工 = 力 1 ۴ 3, 7 = 德 畑 y = Z n 1 木 金 ヲ 竟 3 取 デ 限 邀 芝 素 ナ T ス テ ヲ 得 糸 集 = リ 勿論 能 累 年 禁 上 " 等 定 ~ V ズ 意 -7 力 ナ 世 丰 110 貢 + 7 3 3/ ナ モ 1} x 苗 金 譜 置 E 1. 7 1 セ テ = E y. 及 ソ 41 銀 7 代 MT テ T 1 1 及 カ IV V 財 1 帶 汉 苗 ソ 人 1) w 左 1 = 時 IV -實 等 輩 刀 百 テ テ 3 字 Ш v ~3 ホ 7 テ . . 輩 皆 -ス 7 林 (姓 1. 待 3/ 王 テ 金 傳 9 1 身 ~ ユ 海 1 1 テ 重 重 者 馬 助 家 命 銀 テ 時 w Ш 1 如 何 丰 士 身 思賞 夫 心 -7 ヲ 力 此 3/ 1 23 カ F ヲ 服 助 以 分 役 產 ス 勿 ヲ " 淵 思 取 セ 7" テ テ 7 ス 坳 7 ウ 論 3/ v 刀 7 V. 引 賜 賣 ~ ヌ w 1 7 ク テ 寺、 (. 7 ホ 鎗 テ n Ŀ + 1 3 物 自 n 1 7 10 1 Ш = 3 1) 光 in in 1 1 年 ---ナ 家 w 1 ナ 其 二十 1 如 7 ス 1 云 伏 拵 ラ -並 1 3/ ラ 功 7 1 n 類 7 1 IV 21th 证 報 7 ズ 頭 ナ _ ۱ر 1 年 類 ナ 身 3 家 以 渡 並 恩 ソ IJ 錢 1 1 モ モ 1." 分 1 ソ テ 1 -ス 1 7 歷 = ヲ E 作 割 1 3 ~ 人 ソ 今 錢 テ 工 久 EF 引 法 人 懸 テ 或 1 世 丰 1 w ラ Ti -フェ L 才 入 恩 = 7 子 家 モ 諸 テ + 3/ 110 IV ゲ 7 德 費 賞 輕 文三十 孫 献 = 1 家 ~ ラ ヲ 助 士 叉 7 _ 1 = E 3/ ズ 30 叉 色 デ 7 T 工 以 モ 方 21 賤 ラ 今 文 E w IV 上 永 女 ۱۷ 4

引分 具 姓 者 後 7 1 = 五 君 何 ^ 1 ゥ 見 足 凡 本 ナ 者 ナ 3 ノ隱 11 + -論 1. 1. ケ v 1 其 -及 1 石 弓 七 武 ヲ T 二張、 其 テ ナ w 居家 1 ノ輩 ズ 百石 デ 家 所 1. 法 助 財 w ~ 大小 相 华 3/ カヲ 用 物 シ、 21 何 督 25 ソ 1 家 糸 應 ナ ソ 十人寄 1 H 婚 者 1 中 受 ク y 1 ----順 E 禮 以 何 拘 有 . 或 IJ 7 ノ者、 4 シ w ナ 下 匁 來 1 叉 力 1 1 合 7 V -1. 何 玉 征 IJ ラ 1 修 t = ___ 1 何 1 定式 何 矢 木 テ ズ、 槪 テ . 理 フ 3/ 如 水 粒 1. ナ 恥 モ モ ス 1 = 1, + 献 如 五 分限 1. 時 用 物 セ 力 w 祝 ナ 上ノ品 何 1 4 E 百 ズ 3 p 1 1, 儀 1 ソ テ 如 _ 相 シテ、 フ 五 石 力 ナ 大 31 間 見 應 牛 ラ 1 何 = 1. + 何 テ 抵 斷 分 物 1 ス V = ' 石 木 ヌ 分限 モ 武 = 限 ナ 11 永 ハ ド、三百 ~ 加 = 3 ___ 久 具 7 年 シ、 忽二 增 = 1 概 ラ 統 -修 應 ナ 3/ 浉 ノ禮 = 應 ズ、武器 _ 7 叉元 1 理 丰 4 テ 3 丰 者 石 ソ 3 テ テ、 後 セ 何 --v 何 テ極 献 T ザ 來 ス -心 4 (. p ホ ^ E 用 物 >> V V グ類 ガ 2 テ ド、隱居家 百 4 7 意不 成 11 ヌ 4 -7 25 石 1 1V . ノ内、二十 ナリ、 フ = = 1 1 ŀ 輕 加 ケ 年 1 足 1 テ献 7 1 10 增 # 丰 損 ヲ = 得 ナ 世 音 丰 ノ禮 1 アリテ、 ジ、 逐 督 ラ サ ズ 又 人 力 物 百 フ ノ禮 ~ w 110 1 ハ折 カートカ 石 何 ヌ = 叉 テ シ、 1 3 IV 7 T 1 4 段 21 法 17 献 干 ナラ V 以 涯 V 有 虫 H 毎 モ 損 シ E 石 (w 何 來 K ---年 ア \equiv IJ 110 ジ --ナ 1 ホ 損 ル外 E w ナ 17 华 人寄合 1 1." 1. モ ナ 仕 + ズ ~ 1." w 工 ノ鐵 始 7 云 1. IV 法 力 3/ = 7 献 夫 3/ 考 p 用 _ モ ___ = テ、 1 三具足壹領 フ 他 1: P ~、分限甚小 ナ 意 1 1 ソ E ナ n __ 役 T 力 IJ 干 リテ 3/ 1 y, 定 挺、 ~ テ 1) 段 石 タ = メ、又 シ -町 定 3/ 汉 牛 1 殊 力 者 姑 人百 數 1 チ 百 1 及 云 IV. ナ T 人 矢 = ヌ H __ þ 7 白

耀

世

談

卷

之

-1:

無 n IJ 此 21 T 3 セ 視 ナ ナ フ 7 -111-等 ~ IJ ス IV フ X ス リ、 ス テ 心 俗 耙 牛 ス 大 テ 窓 1 = 13 = 間 7 = 事 長 ~ 名 = IV P 云 丰 汉 云 1 口 付 等 梁 1 テ --ナ 屋 7 7 3 多 7 1 ~ 23 ナ 考 何 心 w 15 ク、 4 1 1 E ケ 田 云 3 y 11/10 屋 輕 _ ~ 4 ~ モ = 0 樂 v = 敷 +)-" 丰 1 1 P r 或 叉 長 E 丰 110 及 ラ テ 雪 1 IV ラ 夏 = iv 人 屋 21 久 210 ズ _ ゔ 灣 テ ~ 足 秋 ズ ~ ソ b ナ ズ 家 . 年 甚 4 . 體 1 1. 1 ^ 7 下 H 年 4 = V 外 間 214 家 E 1 A 1 疫 ヲ 芝、 1 7 ガ 1, 者 3 = ハ Ha >1 (惠 大 經 7 モ 如 1 テ 7 長 患 病 テ -2 テ 築 毛 P 屋 3 7 此 1 7 掃 人 サ 地 7 1. 3/ 王 地 古 4 _ 除 心 目 1 除 者 + 勤 低 ラ 4 坑 作 7 3 常 ク 力 深 E 2 番 ク、 7 7 IV IJ サ = カ 1 77 堀 1 = 川 p デ ~ テ 爲 1 3/ IJ y 水 濕 邊 1 2 王 サ 牛 力 4 3/ ---1x 寒 風 ナ -= ラ = 深 誠 ラ IV w 病 7 暑 E 7 1, 1 21 1 7 -H" ~3 力 受 = -IJ ヲ 1 ヲ > 英 セ、 心 心 . シ ラ ウ 內 節 V -得 w 别 ヲ r ソ , 大 近 2111 又 15 = ヌ 1 . 又 " w = 1 ナ 1 或 海 手 牛 1 時 ク 耄 家 手 良 桶 費 1. 地 多 1 r 廁 21 ス ヲ 相 坑 老 弱 云 命 テ ガ 面 丰 = ton 時 人 穢 冠 增 1 1 7 ナ 故 = ス E 21 有 力 腐 存 1 縮 1. 湿 F ス IJ 。毛 . 時 難 付 ^ 1 110 ユ 7K ナ 氣 2, 21 3 斯 毒 -丰 久 * 力 -^ w 腫 IJ 3 1 民 人 テ 緣 n 氣 y = . 防 7 次 3 -1 久 1 低 湿 3 = 12 ソ F 70 y 益 = 1) 3 我 物 テ 民 等 瘡 屋 丰 1 ツ ア 聞 屋 品 -7 所 敷 時 北 1 7 疫 1 n 櫯 傳 敷 家 7 父 1 大 = 1 病 E = 蒸 聞 ~ 1 中 母 起 長 切 30 暑 JE カ 1-テ 數 3 汉 1 屋 久 臥 x 中 ナ 3 及 何 テ + IV iv Im ス ナ 1 IV 汉 118 今 ग्रेः 人 年 コ 4 人 IV 種 1. 3 = ŋ 又 1. -ヲ 火 長 1 F 王 4 21 1 1 3 ナ 覺 カ 惑 災 P ク 右 海 シ 1 +" ナ 1 1. 多 苦 y, ス = 病 リ、 テ 同 = -汉 7 力 IV 坐 樣 向 深 ヲ

益 T. ス ク 江 年 理 或 下 ヲ ズ 17 1 ١٠ V 等 戶 間 以 中 屋 ~ E 7 F AIN h テ 叉 保 I 間 榮 敷 ナ 格 テ -1 1 E 申 深 再 普 年 數 耀 財 七 p ナ w 及 别 = 付 E 八 請 數 7 ヲ 1." 11 フ 又 1 = モ テ吟 類 省 費 心 ヲ ナ ナ 7 F 火 終 1 3 災 永 IJ 兩 T 7 IV 王 7 7 ソ ボ 1 IJ 火災多 味 省 變 留 テ IJ 少 7 P 7 = B V V 保 リ ラ テ (人 7 サ 1 w 11 2 7 ---莫 費 r 都 ス ツ 7 = 頃 V 27 = 大 火急 v 11 丰 7 1 1 誇 P フ 合 3 E v 地 ナ 多 リ 種 IJ 心 11 1 IV ス 1. 3 亦吟味 外 iv 得 牛 = 丰 = 亦 E -4 色 テ 取 所 材 r 目 ソ 1. 毛 モ I = 此 寸. 前 1 テ 足 木 4 IV 1 1 1 1 = 7 所 9 ナ 次 諸 1 -1 ナ w テ ヲ = n 百 費 0 7 ソ リ、 大 ~ 7 ПП E IJ ŀ 1 年 E = 時 7 1 + -シ ナ ~ 7 = 朽 3 智 略 间 又榮 差 萬 段 y. 1 ス 3/ 3 シ ラ -慧 别 サ 兩 シ = N' H 又 萬 テ テ 勿 勿 耀 テ r テ r 殊 1 __ サラニ = 論 普 n 所 兩 集 根 IV 論 ソ ソ 力 = 1 ザ 燒拂 モ 請 V ホ 時 V 7 元 we x 7 、壹萬 普 (" F. 1 バ 1) ヲ テ ハ h 1 萬 吟 ナ 請 邹 再 ケ 7 力 ナ 心 1 E 兩 味 分 " 專 ザ 得 及 1 -= v フ F. ヲ減 啉 ス I 要 テ = 别 114 w 火 IJ 3 21 n 程 サ 夫 繪 • 卽 出 火 災 b -1 1) ジ H -テ 益 ヲ 抔 如 日 來 急 1 ス _ 7 次 テ間 テ、 ン ソ = ツ w 7 100 w __ P 3 此 IJ ナ 大 事 火 1 V ケ ス フ 3 7 ノ人 = 萬 外 リ、 災 抵 テ 6 IV 1 w B ŀ 合故、 諸 ナ ナ 兩 = 1 3. w 7 1 セ ナラ 肝 後 H y 餘 --ŀ 火 ス 百 ザ チ 時 二省 要 功 年 何 ガ 7 = ~ V 1 ヲ 1 11/2 者 当 運 備 I 保 110 分 如 1 p 丰 E 心 ナ 材 請 略 夫 ケ ツ F. = 1 7 此 75 得 テ n ~ E 工 テ、 3/ ス 又 1 木 1 日 _ テ 役 速 心 7 丰 諸 w 12 7 ナ 3 備 有 y, 安 殘 大 品 人 p 1 IJ ナ = 毛 來 ^ ラ 成 " 抵 フ 7 IV 1 1 テ w 七八 自 職 就 ナ 吟 ズ、 成 ガ = 1% 云 ŀ 普 T 身平 就 刨 味 五 心 w 1 ---ス 請 + 年 n 組 類 -及 ス ^ 3/ ガ 214 H 大 + 修 時 兩 7 ~ N 210 K テ

委

經

世

談

卷

之

t

ビ其變 十數 銀 張 ズ y 灰 以 ヲ テ 3 ス n 1 、玄關 、數 砂 喜 盡 燼 汉 n ス 1 = ナ 子 7 ツ 年 N ヲ 毛 25 1 3/ 1 白 築 リ、 = ラ SE. = 1 ナ 1 才 100 -千家 -リテ、 書院 間 r 勢 地 テ 再 フ 4 -備 \equiv 但 フ = 1 木 7 F. 3 7 修 後表 間 +: 大 ~ 今 大 1) V 1 燒拂 表 丰 X 理 塀 滅 抵 梁 造 兩三度 1. 1 ナ 備 裏 事 ラ ナ + 入費三 1 <u>ハ</u> モ 4 1 穴藏 フ 7 近 門 體 結 僅 牛 1." ヲ 又 7 1 江 間 畢 ス 7 構 -= -水 總 1 及ブ 石 表 42 以 身 割 n 竟 7 ス 1. 华 長 焼タ 假 藏 餘 梁 = 命 IV = テ ナ = 屋 4 等 ソ 所 ノ違 ŀ =, 屋 考 ヲ発 3/ p 3/ ヲ 汉 云 3 ル後 サ モ テ、 E 1 IV ^ ۱۱ 樣 丸瓦 肝 アリ、 住 榮 ナ 3/ T = N 3 ズ、 燒落 要 0 殊 居 耀 トノ IV = - tank w × モ , 略 ナ 諸 ~ ナ ヲ 21 = 普請 故二五 繁 用 サ 平 w 永 久 3/ ス 大 力 133 V -テ 瓦 名 +100 ナ 昌 久 ラ w ~ 211 _ ナ 不 取 時 造 衆 シ ノ餘、 110 汉 ソ IJ IV = 三十 -作 w >\ \ \ テ 幸 1 1 ___ = + 家 長屋門ハ A 人 1 7 ^ 尽 1 = ナ 年 人家 道 材 111 1 k ノ人、 -誰 3 V ヲ過 n =: 容 迄 木 誇 テ 27 ^ 1 K ~ 費 萬 i 易 諸 ソ 稠 110 E IV E ル迄 丰 坊主 品 柱 長 7 次 ノ變 密 = 1) 兩 = 3 木 火 增 七 第 ナ モ 入 7 h 7 3 1. 火 - Carrie 門 ニア n ス ス w IJ 寸 足 3/ -災二 費 崩 - ' 角 故、 大 サ ヲ 婦 IJ 1. ガ ~ 7 ヲ五 I 久 フ 牛 人 V E V ホ = 省 アハ ヌ 岭 テ念 普請 人足 女子 時 小 牛 10 w 1 牛 ツ石 1 味 寸 美 3/ = 7 1 テ ヌ所ハ十二二三二 ヲ 角 ノエ 北 1 ク P ヲ 1 4 E ŀ -合 _ 入 力 同 力 失 w 2 = 3/ 2 ナ 2 萬 數 自 略 ナル 火 樣 リ、 王 V ク ク w テ 然石 火 大 故 アレ ナ 3 啉 7 3/ 考 デ、 -金銀 災 治 IV 3 7 餘 = 3/ 板 多 -遂 V 18 V = = ナ 力 110 銅 テ 何 营 必 樓 T 丰 n 此 IV V il 金 1 图 大災 瓦 デ 地 地 ホ ___ = 3 過 土瓦 板 1. 五 或 7 3 ナ 7 牛 ١٠ 1 王 ズ、或 用 塀. 7 1). 分 以 中 力 V 21 7 ŀ 付 夕 ナ 成 减 厚 フ 1 3 毛 118 テ 1 1 IJ 銅 就 再 家 財 IJ w ラ ナ = ズ サ ۱ر

ノ勘定ニ可」仕候事。

ナ 力 ス ----= ラ 不 テ w ス IJ 筈 ズ、 テ 1 ~ デ 1 7 王 ナ 莫 貨 財 貧 V 用 大 借 ラ -シ 流 又 テ 17 1 1 通 迷 難 法 財 3/ 感 テ 1 用 儀 ヲ 道 借 立 流 20 ----力 ナ 受 通 w ク ラ 極 w ---3/ テ、 ナ 者 意 ズ 21 不 ク 要 3/ 21 7 テ 貧 用 デ カ 富 富 1 ナ E 終 セ 179 テ F 21 ٥٠ -ツ 貨 不 又 1 1 義 何 7 ゴ ス モ 者 F IJ 方 1 --道 ナ 木 又 3 = ッ。 損 ナ t IJ Z 失 V フ 王 7 少 110 1. -何 7 ク、 時 15 モ ナ ナ P = 煩 丰 ラ テ ۱ر IJ 勞 ナ w 干 借 リ 力 小 1 道 ナ 受 7 ク、 貸 ラ 21 T. 7 又 ス w 迷惑 危 者 w 1 ブ -~ サ 利 利 27 丰 分 足 畏 ス 1 w 小 P w 1 = ナ 兩 ス 1 心 丰 樣 1 ク -j-1 = 3 當然 T 丰 デ 借 w 70 幾 フ 1 12 = 度 者 3 1 -

〇江戶屋敷普請ノ心得。

高 聚 其 ス サ 7 Ш 中 デ 奥 今 7 v 方 世 皆 - IN ナ ŀ 1 交代 丰 此 7 21 1 故、 莫 勿 制 ŀ 1 大 論 度 地 ナ 1 諸 終 几 = -v 時 會 4 テ 及 大 111 諸 -名 集 江 F ブ 衆 + 戶 E 7 ス 大名 _ _ 1 w -或 風 P -1 T コ 衆、 持 1) 及 Z 1 V ____ デ テ ナ ^ = 1 ^ 畢 過 年 ズ、 1. F 7 ヲ 霓 云 +" 21 定 ソ 得 Ŀ 浆 給 在. F 1 ザ 府 -^ 江 風 11 w テ 1 1 戶一 諸 何 自 姿 王 ソ 7 時 然 屋 -ノ子 テ E 敷 年 1 ソ 横 勢 1 2 7 家 江. 領 在 サ ナ デ IJ 作 戶 分 或 7 モ 7 普 -7 ニテ 1 本 3/ 低 遙 請 以 力 腹 、隱居 17 等、 テ = IV ノ分 地 家 唱 _ Ŀ 各 1 IJ 江 1 >\ \ \ ヲ テ、 爭 ス 後 戶 吹排 皆 フ w 1 ハ永 3 テ 江 コ 地 美 ク 戶 Ł 1. ク江 海 テ、 麗 屋 -1 濱 家 敷 7 ナ 戶 = [1] 赫 リ 中 _ r =. 天 ナ テ シ 1) 此 7 生 _ 殊 1. テ IJ 用 或 7 _ V テ ル傘 殊 天 扶 出 中 助 F = 1 w y E 近 ナ 財 列 3 玉 4 地 藩 7 IJ 7 費 少 -1 ク

世

談

卷

之

t

續

相 0 船 其 Mi Ŀ 彩」 定 1 ノ限 = テ 月 モ 滯 相 候 違 分 H 候 三訟 1 10 出 日 一候、 限 1 申 若數 合 H 1 H 阁 數 候遠方 + H 迄 21 ソ 用 捨 v 可= (相 -待 勘 辨 月限 H 加 1 申合い 待 日數 廿日迄可:

質 物 限 月 十三 月 -不 H 過、過、 其 內 1 申 合 次

〇武具類、米穀類、質物不」可」取。

盗 物 並 街 取 候 物 不 心 付 候 テ 質 物 -取 候 者 若 本 主 3 IJ 斷 r ラ 110 元 利 不 及 勘 定 早 谏 可 返

以 Ŀ 步 25 無 子 等 利 足、 質 物 年. 泰 限 公 全 = 出 ク 滿 候 候 20 = 2,2 1 10 元利 ケ 华 限 不 及一勘 其 内 定、 2. F[1 若年限 合 次 第 八內奉公人病死候 若 玉 ケ 月 1 內 受 戾 1 10 候 貨 1 人ノ 10 利 損、 足 付 病 氣 六 不 ケ 勤 H

7 分 21 年 限 ノ外 日 割 7 以 勤 增 山 申 ~ 候。

0 加 华 受 合 等 無之、 借 EE ___ 名 -テ 其 者 处 去 候 ハい證 文 取 上 間 敷 候、 若本 主 並 並證人共 及 死 去一候者 23

洪 節 且 速 申 出 候 1 10 回 L 及 岭 味 候、 年月 遙 過 候 1 10 IN Ŀ 間 敷 候

金五 0 拾 利 兩 息 以 E ケ 月 1 通 銀 Zi. 用 貫 銀 受賞 目 --6 目 匁 = Tî. 五 タ、 分、 金錢 百 兩 以 h 1 王 兀 右 匁 1 割 1 割、 合、 金五 但錢壹 百匁 兩当の 金粉壹百 貫 文以 分啊 トニ六二 Ŀ 1 カル 通 四 忽 川 売 貫 文 = 拾 文ノ割、

勘 月 若 路 1 分 ケ 月 日 以 數 上 = テ = + テ 返 五 濟 日 1 7 分 デ 1 21 縱 内 師 -H 候 = 23 借 10 受 52 候 ケ 月 洪 分 临 1 日 勘 定、 日 7 壹 ケ 日 月 以 1 E 勘 = 定 候 = 21 可 * 什 p 候 27 リニケ 月

當 14 通 用 ノ分日 數五 日ノ内 二候 100 スベラ半利、若、月跨二成候分、科日數六日以上、全夕壹 ケ月

料 ス ŀ 4 3/ 3/ 决 + 7 27 V 7 者 ナ 10 丰 3 又 テ 7 テ 1 7 難 テ b t T 3 儀 " 7 毛 = 2, 大 15 ナ 13 3 格 7 IV シ 3/ 7 -守 ナ ~ ノ 一 右 ラ w 汉 3 端 等 ~ ~ ス 丰 如 ノ趣 ヲ ~ ナ 左 3/ 此 リ、 始 -ナ 4 サ 3/ V 觸 テ 7 w 21 110 " 僞 流 ス ソ 、貸 -2 1 = w 委 ス = V 7 曲 者 汉 v ۱ر ŀ 大樣 P = -V 1 危 ツ 法 IJ テ + -1 ブ 法 至 テ L 毛 -人 心 IJ モ = 終 犯 テ テ、 4 ナ 訟 科 1 丰 故、 爭 工 尙 ノ者 三至 夫 又 ソ 委曲 流 r 28 1 ラ 宥 或 w 通 ズ、貸 免 滯 ~ ソ 1 法 ナク、 ナ 3/ 1 所 方 7 7 定 沙 ノ者 = 利 汰 H 3 IJ 7 足 ス _ テ 損 + n モ 0 時 __ P ヲ 樣 力 ス カ 28 僞 木 7 4 = 4 ナ ١٠ ズ IJ 云 欺 ŋ 3/ テ貧 テ、 觸 7 Ł 難 流 3

訟 出 候 總 共 而 引 取 當 E 間 7 敷 v ナ 候 7 但 貸 借 借 受 山 為無無 候者 始 用、 Ħ リ偽欺 若 親 候 類 懇 テ追々約定 意等 情 合 0 ヲ 年 以 月 助 = 成 モ 1 不 爲 及以返金 貨 渡 候 1 候 10 段 約 追 定 テ 相 他 違 3 1 1) セ 相 "

誾 其 得 O 節 知 候 有 行 2 高 物 10 华 時 成 分 過 並 程 候 扶 以共吟味 見詰 持 切 限 米役 可 可為一死 料 致 等 通 ノ類、引 用 罪 候 候 當 大 數 一ケ年

分ノ

半高

迄限、可」致

通用、

商人

店代品

物書入

Æ

0 總 而 ツ 品 兩 方 -書 入 候 事 可 為 = 無 用、 若 犯 科 之者 可為 死 書 人 ノ品 無 斷 賣 拂 候 テ 不 及.返

金 者 モ 田 為 同 罪 候

家 屋 敷 並 家 財 等 書 入 候 21 10 返金成 风兼候節 = 約定 ノ日 限 ---日 E 無延 引可相 渡、 火難 盗 難貨 人ノ

損 -可 仕 候

經

世

談

卷

之

-6

受 1 妻 ヲ 欺 背 2 輕 7 ス ズ = E w 1 高 低 同 重 法 24 テ E n ヲ 7 + = -3 + 自 罪 3) 罪 添 心 及 者 ナ 1 3). 1 1 ナ 誤 罪 倍 欺 甚 身 ガ 7 及 = r ブ ナ 1 = ラ 處 者 テ 1 犯 丰 1. " 1 1 w p 3/ 1 過 テ 取 命 政 訟 百 ~ ス テ 牛 セ 3 1 料 人 重 借 30 ~ w 3) 何。 疎 令 1 3/ ---1 取 カ 丰 7 不 起 脫 後 = 丰 3) Z カ 3 丰 受 申 Ŀ ラ 金 E 義 w 1 U -7 E ~ 方 銀 疵 付 + E 3/ 117 云 テ 1 1 w コ 2 其 ナ 3) ヲ ン 同 3/ 1 モ 力 -~ -3 1 負 人 ラ ツ テ 1 争 ラ テ 3/ 1 30 1 3 -者 -+ 宥 -+ + 21 210 7 フ ++" 毛 生 -ス テ 貸 叉 七 死 ŀ 1. 免 サ 木 n = 身 右 僞 -1 n 切 始 罪 ナ 1 ナ 1. V 1% 分 腹 不 罪 1 1 3 IJ 7 V 八 ク 110 1 w 刑 欺 義 始 重 -自 p 1) 的 110 刑 ナ Æ 者 等 ナ 害 サ 欺 當 r . 1 力 1 = 3 牛 ---最 今 ヲ w w ナ 行 物 3/ V y 7 P ス 損 下 E ~ テ IV 心 テ ス ~ 7 7 フ 1 7 ゲ 麁 加 至 私 3/ 毛 テ ~ ソ 20 w F 世 サ テ 3 申 忽 ナ 金 绀 極 3 = 3/ V 1 = セ 扱 叉 分 -銀 テ 6 1 7 ナ 1 ナ 通 金 ヌ テ、 , 利 仕 勿 フ 10 少 ナ w 用 -銀 サ ~ 形 論 足 n 1 IJ ツ 力 ナ = -7 110 シ、 定 見 及 + 屹 借 = 2 1 ホ V 天 丰 甚 法 勿 ŀ 7 3/ テ 答 1,0 貸 度 -NE 下 毛 論 低 モ 相 不 重 3 义 及 賊 法 1 1 第 ナ 都 行 斩 テ、 3/ 1) 當 ヲ w ソ 1 1) 1 ラ 申 V. 117 欺 Ī 認 合 1 E 3 1 30 1 又 合 3/ ナ チ ヲ 相 = b 本 テ 1 3" 21 實 3 借 1 -· 1w ガ ナ 士 ス 7 命 丰 對 y, 1 ラ = テ ナ 3 7 E = -IJ 110 ス 受 前 終 -E 汉 r ソ 力 力 V 1 110 n テ 高 1. 音 ラ w 1 工 n 力 IJ -7 勘 誤 7 E 210 情 者 1. 2 n 3/ = 20 1 定 勘 貧 テ、 實 IJ 水 3 2 1 受 定 上 義 他 数 セ テ IJ 7 1, 力 3/ 論 -17-受 人 受 統 3 7 E 1 1 計 ---セ 牛 子 w 13 IJ 合 柳 者 3/ E 4 テ = ズ = 1 內 觸 n y ナ 手 m 細 V ナ テ 力 1 1 1 ナ 术、 仕 情 難 III: 牛 疵 纠川 -210 IV 流 To ラ 置 拘 始 r = 7 等 ヲ 3/ 儀 1 -210 右 負 人 n 1 テ 1 ズ テ 1 21 3 過 人 人 引 者 ラ 違 ~ 4 7 ナ 3

貸 皆 \equiv 受 貸 ナ 有 益 ナ 7 云 ナ 次 t E " 利 餘 難 月 自 見 首 類 ス n ス 1 n 故 然 者 老 P 118 儀 3 然 = = 1 毛 ツ テ、 蜚 T 1) 3/ x 1 ス 3 __ 力 = F 返 テ、 私 高 IJ 7 力 貸 ナ 等 15 1 1 20 事 方 濟 ラ リテ 閑 利 力 テ V n 出 ナ 1 爭 要 7 終 -17-王 · 110 7 -= ス 1 ヌ _ 返 段 片 貧 趨 ナ 絕 ナ テ 又 F = = E 返 濟 萬 立 IJ ス " w 7 3/ 7 1 1 1V E 濟 8 n 丰 1 7 ヲ ツ ŀ カ 工 = \exists ン ガ 者 段 厭 姑 迄 1 H 7 1 10 心 ヌ 丰 b 萬 テ 餘 故 ナ 1 = 力 得 7 3 1 > ١٠ 17 70 間 故 障 セ 7 鼻 ズ ウ 儀 又 w W デ r 高 + ナ 種 E p _ 1 3/ コ 7 高 利 公 先 + 4 -IV テ フ ナ 日 力 1 チ 利 及 流 = ス 1 コ ヲ = " und Territor ---1 ---ガ テ、 苦 故 訴 P ナ ナ テ 示 7 18 b ŀ 誦 E 障 多 ナ ズ 甚 1. b w. ス w IV w 3/ ナ w 者 ナ 上 者 リ、 4 7 2 丰 -= E 高 4 隙 者 テ v 7 リ、 1 ~ 7 = 1 E 利 V 世 政 自 Ħ 丰 間 21 取 = 110 21 110 -有 自 間 高 然 令 沙 然 如 IJ E ソ ヲ テ 多 然 利 如 ソ 1 速 汰 合 利 1 -此 餘 毛 勢 ク、 v Ŀ 多 此 ナ = P -モ セ 力 1 1 相 ナ 廿 ラ (. T ス h 7 2 ノ 輩 リ受 姿 y 7 デ ソ 手 日 ナ w _ 10 b 1 = IJ -ナ テ 丰 テ ホ モ w 23 v 汉 力 ナ サ 相 自 僞 間 7 1,0 力 ガ モ ス 7 丰 ク V 爲 手 ナ 損 然 ヌ テ 1 1 1) 4 ---不 1 110 3 欺 者 7 IJ ナ = IV オ ナ --手 安 自 テ、 7 利 ナ 利 誰 ク キ y 丰 1 7 前 ナ 然 德 IJ 足 テ 足 1 ヌ 4 3 w = 借 1% ノ高 訟 3 7 1 E -IJ 利 ア 7 統 月 3 受 ク 1) V 力 ナ 云 利 リテ 息 1 y 7 7 P E 利 ス ク w ヲ 二 モ 費 テ ナ ナ = 1 ウ p = 高 1 ^ MI 金 T ソ ス IV 1 = ス F w ク ボ 容 銀 皆 ナ w 1 ナ 111 __ 不 L ホ h ナ セ 内 易 安 云 間 w ガ ナ V 1 べ 1. 妨 テ リテ 沙 役 故 面 --w 18 丰 通 3 = 1 -利 貸 心 汰 10/ y 倒 强 事 人 法 借 彼 3 借 ナ 1 21 汰 ン P 出 テ Ħ 1 1 E 伙 受 受 r v 此 丰 ス モ サ 丰 力 モ + 故 7 ウ (カ 力 ズ、 ツ 何 -1 w = IV 勢 者 者 月 V ŀ テ IJ ŀ 毛 力 =

300

世

談

卷

之

七

3

テ

=7

=

1

ス

n

=

b

モ

ナ

ラ

ズ、

タマ

人志ヌ

丰

7

丰

タル、一ケ條

Zi:

=

シ

ルシ

テ心ア

n

人ニ示

ス

內 表門 0 大 始 名 廣 開 本 樣 間 并 方御 き候 安藝守 番 掃除 山 先 岡 ^ 共 庄 ば、大和 殿 女 に致候處、右彌 御末 勤 太夫と申者、 候と 家淺野因 守殿にて、彌之助は留守 あ 50 之助他行 小 幡守殿五萬石 (右落穂集 進 者 12 の後へ、小出 追 7 加 紙子 12 て、 の着 か、内 表門番 物 大和 義 に半襟をかけ候を着 大義と笑はれながら被」申となり、 守殿御入來に付、無。是非 12 彌 之助と申 夫 L 婦 者 古皮袴を着 にて被 一彌之助 三差置 女房罷出 其頃 し候 御 門の 右

叉一 ッ、 ッ、 撮 金銀 = = 貸 4 1 當 ŀ 汉 貸借 方 ナ -r 10 + w 1 7 IV 面 者 リ 1 ガ P 々相 1 身代 、今世 デ 事 金 E 度 ツ 1 對 有 銀 7 ノル申 貨 4 餘 -42 7 ニアリテハ 役 ヲ以テ ツ þ y 借 所 ブ 故、旣 合 1 1) 貨 等 法 3/ 方 テ 不 = ニソ 迈 足ヲ 1 E カセテ、後々違變二及ど、 殊更緊要 損 F. 濟 ノ時 出 補 h セ ナ サ 3 E 至 n 12 h ノコ 財 7 1 1 リテハ 下 F =7 用 1 多 知 ヲ 1-ナ 丰 ナ 流 ス E y, 故 1. N 通 ヲ 1 = 3/ ス 政 有 厭 n F 力 故障 餘 令威 E N フ 1 要道 r ナ -= 今世 n 乘 IJ 光 アル 者 難 3 = = テ、 テ ア シ = 丰 時 ラカ ŀ 勢 テ、 王 = 功 1 ナ ナ = テ、 金 ŋ 3 牛 何 ク懲 テ JE. 金 × V 長 普 銀 爭 法 1 IJ 等 7 ノ別 ラ立 代 t 畏 訟 SE. 1,000 = 月 V テ テ __ __ モ テ、 內 出 至 1 ナ 7 歷 制 7 齊 IJ w 容 ナ 道 テ テ IV ス 易 F° 力 = モ ソ w ナ = ス 1 ナ V = ク、 N 6 て御 ۱ر -ŀ 1 貨 類 ナ ナ 7)2 御

渡

サ

ヌ故、

貧シ

キ者

>\ \\

ス人

クル

€/

メド

モ、誰救フ者モナ

ケレバ、色々姦計ヲメグ

ラ

3

テ

後

二返濟

K

7

w

庸 ドナ 御 上 具 誠 若 供 ングラ y 准 ズ ŀ 分 世 モ 凡 n 黨 = 王 w テ 37 云 -3/ 飲 小水 分 大 411 衣 5 _ 1 ~3 21 テ E 食 ナ 抵 間 限 略 益 人 服 A ス 2 驕 便 1 等 右 IJ ~ 馬 右 供 -1 E = ス 利 1 說 應 テ 1) 廻 准 合 大 以 = 3/ w ナ 制 抵 時 王 3 ナ 21 1) 油 フ ジ 1 如 w -多 1日 士 大 1) ソ ナ .1 V 1. ~ n 質 テ 人 別 名 者 以 1 1. 3/ 1. 3/ ス 1 差 論 素 下 岩 モ 1 = 1 n 召 略 -鎗 騎 鎗 ナ 車型 7 制 國 黨 惣 時 ツ 色 度 持 人 w T 丰 丰 馬 ヲ 中 兩 3 28 2 w 者 ク = 以 别 ヲ 王 ナ 7 21 1 1 テ w 分 -减 F ~ 1." 長 E 汉 1 王 七 = 王 = + 分 香 若 フ 1 T -セ = 3 袖 ナ 3" 1 テ、 萬 w ナ 7 拾 黨 ザ テ 1 -70 + 1 1 相 + IJ デ w 看 王 人 モ テ -E ___ 應 A 者 家 HI 以 人 E 又 ___ ス 3/ 1 椒 ナ サ 方 年. 1 中 ナ 4 F IV -1 L w 畑 物 テ ヲ 人 出 旅 ナ 口 1 中 サ y = 水 語 鎌 7 ッ 1. 付 行 面 13 -3 j. 練 ハ 1V 倉 先 h ツ 3/ 云 1 道 4 1 毛 F 豪 警 莫 テ 水 徒 手 時 中 力 w フ F 云 傑 丰 代 フ 長 1 固 大 拭 1 + 120 E 鎗 毛 ナ 法 云 ウ 抦 供 等 3 -1 兩 ~ 1 1 持 傳 費 1, 君 = 示 -7 ナ 1 · 1 人 1 岩 論 意 1. w 1 to 7 ^ 相 3 類 毛 差 省 . ダ 加 黨 ~ ズ ナ メ 1) 無 别 = 7 = + 略 テ F w w ラ 牛 H ソ 1 益 ----1 堂 數 デ 鎗 7 4 IJ T ~ 70 T V ナ ۱ر 人 數 百 條 1 履 3 1 テ v IJ -シ、 w 11 以 思 T 大 徒 毛 1 テ ス 取 丰 テ -1 上 4, 笑 萬 年 准 ~ 略 共 ナ E H モ 3 箱 力 牛 カ 乘 石 1 ナ 1 7 3 ラ ズ E 論 誹 駕籠 古 3) w IJ w 睡 持 以 ラ 又 以 騎 E 分 3/ テ TL = 7 ズ リ ~ 此 ズ 等 ガ T 1 テ 行 F 馬 人 脇 ナ w モ 3/ ラ 根 ナ + 以 ナ 1. 7 E E 1 1 今 者 難 供 1. ズ 力 IJ 下 有 類 1 2 3/ 元 7 1 力 1 7 餘 拵 w ~ 丰 7 1 先 者 增 略 1 七 ~ 右 丰 w 1 1 人 合 7 家 (" 大 Ŀ 數 3/ ナ 徒 サ 37 1 ス h = 江 41 抵 中 右 n ナ V Æ = 遺忘 テ、 長 戶 士 諸 人 四 相 無 F 110 -E ホ 以 論 人 抦 當 1 道 7 F. 益 April De la Contraction de la

· 200

世

談

卷

之

t

里 1. 類 ブ 內 17 自 小 E 毛 1. 7 V B IV 3 拵 竟 E ウ 110 3/ ラ 1 3/ -= ス I E テ、 如 力 1 次. ナ 表 テ 風 N 1. 騎 此 iv 今 = n in ス 毛 1 = 7 志 馬 入 1 ~ 家 事 1 = w 3. 21 V r 荷 ス 以 3/ 拵 1 w 云 1 足 112 1 ヲ w ル時、旅 1 上 幟 T 道 1 21 1 人 1 " E 內 毛 1 片 江 ナ モ リ、 7 中 大 君 b 汉 3/ 者 ---掛 備 ナ 1 IV ガ 國 w 旅 字 _ 方 = 叉挾 リテ、 行 モ ナ ノ外、 ラ、 荷 ホ 1 行 ナ 相 限 25 ナ 損 v 1. 1. ナ 挾箱 7 7 E IJ F 箱 セ . 410 1 1. 7 1 ガ -毛 デ 鞘 _ ズ 别 ---テ 國 F = 1 1 汉 棒 1 7 丁二丁 無事 E 云 具. = 1 ŀ 中 25 ス 如 モ V 驛 B ---形 毛 = 足 家 長 110 w 7 7 々ノ人 意 テ、 中 1 7 -1 中 力 老 ---17 E 着 世 1 ナ 7 = E ij 110 方 テ ハ 一 及 用 巷 リテ 輕 持 力 V = 王 E 1 セ ス 夫 及 心 1 210 丰 T 汉 y 改 荷 合 7 ル 衣 分 = ナ 重 = 久 110 ス モ x 羽 21 丰 ナ 1. E 服 别 + w テ v 士 IJ ソ 右 箱 1. 所 等 及 3 ヲ 1 テ 制 ۱ر w 木 V 定 1 1 1 行 y ナ ス E 所 (-E 1 1. ヲ 持 如 如 x IV 1 立 1 3 -T __ 1 7. 17 今 廻 先 テ -= テ、 テ I 事 7 = n 有 シ IJ E 111 1 叉 モ、 1) 心 1) 故、 = テ モ 用 H 荷 E 旅 格 大 用 ŀ = 7 不 1 力 ナ 傘 別論 1 行 别 名 v 專 門 用 衣 HII 便 IV 7 沓 挑 衆 過 = 1 ガ 7 服 E 利 7 ~ テ 用 箱 灯 爲 3 出 ナ 汉 モ 汉 1 持 ナ 3/ ス THE 7 w 1 1. チ n ナ 丰 = V w T 相 兩 ~ 具 人 = 21 = 110 丰 ガ モ Ŀ IV 3/ テ 叉 テ、 手 手 掛 7 必]-1 フ = 7 __ 力 甚 鎗 費 テ、 h 21 ナ 7 ナ 1 爲 n 便 奴 挾 無 墨 ッ、 ス 1 p リ、 v 1 = 箱、 利 僕 益 ナ 竟 4 深 12 7 7 ス 今 3 + 入 7 勿 持 -小 ク王. -= ウ 7 1 用 叉 重 籏 論 力 10 テ モ ŀ ス ナ " 湎 n 月 數 毛 1 21 力 义 4 法 1 w v ---備 茶 ~ H 多 身 7 ナ 21 111 3 ラ 10 = = 1 30 力 辫 增 繪 V 25 7 75 又 1 1 モ 毛 3 デ アン ナ 又 什 防 日 ス モ 拘 = ナ 叉 入 ~ 1. ナ 物 武 都 ナ 尽 隻 鎗 1. 21 ラ 八沓箱 ノ如 3/ IV IJ ラ ナ 1. ス 7 城 V 25 ヲ ズ 大 简 ザ -2w ナ = E 1.

平 H 出 杜 一等袴 18 力 y 規 式 等 = 肩 衣 = 上 テ下 モノ Ŀ

上士二准ズル者、諸家ニテ給人

絹 類 縮 緬 33 織 不 可 用 若 用 候 ۱ر 10 印 付り印 カハ ベ定

平 H 出 仕 等 -腰 帶 幅 \equiv 寸 五 分 0 本 14 すト 7 7 規式 等 = 袴

中士二催ズル者、諸家ニテ中小姓

紬類太織類 羽織同前

平 H 出 仕 等 -腰帶 幅 寸 0 本二寸 五. 分卜 7 y 規 式等 = 袴單夏 二冬 限ト リモ

下士二准ズル者、諸家ニテ徒士小

木綿類青梅糸類 羽織同前

平 H 出 仕 等 = 腰 帯 幅 壹 寸 本 寸三分トアリン 規 式 等 = 袴限單 1) =

1. 云 類 ナ ッ、 ソ 1 時 1 华 工 IJ = 限 IJ 絹 縮 緬 等 = テ モ 3 3/ 0

右

1

如

ク

定

2.

n

時

1

羽

織

1

印

21

4

工

y

1

色

テ

分

IV

モ

E

3/

-

E

士

ハ黒、

中

士

۱۷

萌

黄、

下

士

۱۰

淺

黄

ナ

畢 ナ 竟 供 y 戰 廻 サ 國 y 人 v 1 数数 餘 1." 風 ス モ = 1 ~ テ 7 亦 1 1 7 行 天 用 裝 下 今 E -統 世 汉 武 1 IV 儀 家 = 法 ŀ 1 故 制 ŀ 度 ナ 卑. IJ = テ 阿 V 安 亦 1 制 = 衣 改 服 ナ w Z = 7 サ w ワ 3/ 7 7 ケ ツ E E 10 ナ ナ + ラ ク テ 木 不 潤 便 110 飾 利 2 to* 多 ダ ク、 E w 1 故 論 無 益 E 如 ナ 1 此 費 牛 = ナ 毛 IJ 多 1 ナ タ シ N 2

100

世

談

卷

之

-

言 牛 ソ 語 7 ヲ 1 吟 位 ŋ = 味 テ、 ナ 絕 3/ ク 3 テ、 テ 汉 ۱۹ 次 IV 1 無 ラ ホ ス 丰 1. 益 P 武 30 1 1 費 用 物 牛 等 用 ナ = リ ナ = 1 甚 丰 寄 工 宜 ^ 次 3/ 7 -第 力 力 1 ラ ヲ 右 w 行 ズ E = 1 . 吟 非 ク 1 女 味 IV 21 天 ノ帯、 又 ~ 3/ 子一不 ~ 丰 丰 シ、 ___ 7 一儀 叉袴 端 1 今 ヲ 1 禮 世 ノ仕 左 3 常 不 -1 :制 記 立 用 _ 論 1 ス 度 衣 殊 セ 裳 ズ、 1 -無 汉 7 但 y 益 毛 4 テ 多 1 長 世 新 シ、 武 ク ---麻 家 3 フ 1 1 V 制 下 ヲ 1) 定 袖 度 _ 至 從 -70 近 フ IJ N 丰 テ =7 テ 無 1 1 大 益

名

衆

1

或

4

ナ

1.

__

テ

-

ソ

1

存

-

用 w 吗 ŀ ク 1 25 內 總 卷 羽 破 味 p Ł 縮 ラ 物 3 フ 1 w 緬 テ E 重 1 w -= 定 准 _ 毛 1 --1 家 力 定 小 2. ズ 1 毛 中、 70 ~ 袖 ~ = 1 L テ、 IJ V ~ 3 = 1 -テ テ 衣 3/ 7 甚 -絹 服 叉 平 = 總 卷 分 又 士 不 7 1 用 分 便 坳 旅 -ジ -一ナド云 テ 以 ナ 何 1 w 3 行 起 上 IJ # пп 勝 ホ V 便 1. 1 テ 出 久 210 = 卷 品 甲 利 火 テ w 1 者 物 物 ナ Z 王 1 節 並 以 ヲ n ナ = ソ 用 羅 立 1 毛 1 1) HH 1 捨 紗 w 並 1 1. 故 同 田 1 r = 1 羅 高 n 獵 玉 ジ ナ 1 リ、 脊 7 ~ 叉 汉 F E 禁 板 1 3/ 3/ 1 1 軍 位 羽 1 ズ 1 ~ 云 類 21 用 IV 7 1 ナ 禁 重 1 3 V リ、 節 甚 1 25 ズ ナ 尤 絹 1/1: ~ ラ = 用 世 シ、 ナ P 强 ズ -同 ク IV w = 傳 羽 衣 御 テ 用 ジ 位 33 ____ 服 事 ^ E 重 テ ナ テ 1 20 有 重 ナ 利 ヲ v 毛 廟 百 10 ナ n 益 モ 樣 E 1, ~ r 1 1 御 價 1 及 丰 IV IV 0 詞 四 京 高 w 1 帷 7 五 ~ 4 ナ = 蠟 倍 同 子 シ、 + 色 ソ 1 30 1 E 但 物 越 1 年. 7 1 淦 F 卷 數 ヲ 兼 後

鞘

早

物

E

縮

テ

用

絹 糆 縮 緬 羽 織 着 不 大

夫

=

准

ズ

w

者、

物諸

頭家

以ニナ

類用

7 1. 人 テ、 車亚 7 20 26 ---數 制 重 テ 毛 27 w 度 ŀ ١٠ 力 7. 人 ナ 1 1 次 法 或 ラ ナ ナ ソ ナ 1 = 第 迷 禁 六 7 w ケ 1 20 ソ ŀ 外 感 7 17" = r 1 10 ナ V 以 P 召 リ、 (. 所 110 w 1. モ 17 生 400 仕 テ ナ 難 7 = 制 益 第 サ 丰 フ ル h 3 2 男 + テ E ス E IJ 7 1 費 女 テ 1 F ソ w 17 v 汉 衣 甚 工 17 110 13 = 1 ---1 10 服 掟、 岭 樣 法 2 ダ シ ---1 容 3 味 通 = = 1 制 法 易 第 故 7 r 15 V 25 ---几 論 條 法 -IV ヲ = 第 分限 行 今 7 ~ -7 ジ -家 立 定 難 至 丰 1/2 1 = 居、 ク、 ツ 7 婚 テ 10 = 10 1 IJ 越 心 テ w 7 禮 1 = 尽 造 ナ 叉 其 = 7 w 得 E iv 葬 y 作 1 テ 同 1 不 20 7 V 禮 却 條 曲 デ ナ F 1 30 テ 第 大 IJ 王 法 V 國 A --= 五 末 難 甚 ッ 行 事 所 1 デ ---7 大 事 大 b ŀ ス ク = 祭禮 , 諸 格 格 ナ フ ヲ テ 10 2 法 誤 ヲ 丰 カ ス 道 ヲ モ 7 論 ~ ヲ 具 1 木 毛 w 1 ン 立 類 ~ 丰 ~3 ソ 1 3 1111 = 1 チ ナ テ 210 1 テ = 3 外 第六、 テ、 法 り。 時 1 ナ ス 法 實 節 E ケ 1 端 ~ 名 衣 制 爲 = = V 1 テ 響 服 7 或 目 E __ 111 手 寄 -却 立 家 1 = 應 IJ 本 合等 3 飲 テ テ ヲ IV = モ F 費 食 ケ 施 F ソ ŀ = ス ラ 條 テ ナ 1 7 V H 3/ 式、 w 4 リ、 13 (-ソ 行 增 1) ナ + 1 N 21 ス 法 り、 實 第 狸 內 1 1 7 ヲ モ 時 画 應 サ 1 汉 ١٤ 1 同 ナ 飲 酌 T 1 モ = V 供 食 3 ナ ナ 1. IJ 3 V

+ テ、 用 身 E 衣 次 テ 1 服 養 函 -21 酌 -2 E ナ 411: r 3/ N 天 w 為 ヲ ~ 下 1 費 主 3/ ___ 意 統 ナ b ソ 丰 1 改 3/ 1 7 テ 革 大 ŀ 次 意 ヲ E 吟 = 21 ナ 禮 21 IV 味 平 服 ス 水 日 ~ 1. 21 起 貴 ナ 3/ 居 賤 ラ 動 便 上 11ª 作 1 素 服 襖 E モ不 ノ ノ闘 リ、 别 叉 ヲニ 1 ٧٧ 云用 古 ス 明 ル 上 ~ 白 1 テ 下 深 __ 1 見 衣、 b ۱ر 王 J. ダ 叉 = 4 ラ 不 ス 21 今 丰 斷 ク、 稼 1 _ 用 古 唐 +" JV. X 人 旅 E 1 1 行 分 服 1 重 ナ モ ナ 用 1, r v 等 18 w _ 寒 似 to 勝 暑 フ ダ 手 ヲ in = 防 H 3/ ヺ

經

樣、 叉 場 節 言 守 4 v 4. ~ = n -妣 (迷 . ** 修 自 及 -1 = = 驛 暄 禮 前 感 出 ナ 210 テ b 嘩 k P. _ 如 汉 ズ 事 3/ 3 = 葬 III 數 觸 何 1 7 25 口 力 力 七 禮 出 樣 論 ナ 屋 17 ソ ^ ナ 4 ナ IV 場 7 1 身 有 法 110 條 P. ~ 3/ w IV 之節 役 番 事 云 1.0 久 ~ 7 3/ ~3 -0 町 或 時 JIJT 丰 ナ 5 IV 1 祭 節 カ 趣 如 ソ ラ ソ v 4 ホ -10 們 等 旅 ナ 1. Z 4 如 何 ~ 行 110 V 停 -(-籠 何 樣 ラ テ 1 -20 フ 樣 屋 逐 止 略 年 1 110 1 ナ モ 叉 4 ナ .1 10 1 __ 3/ -= 何 出 I. 紙 帳 ナ 衣 テ、 云 1. 7 H 兩 4 服 1, サ 度 夫 面 = 火 = P 屋 叉 停 T T = ス ソ フ 亦 1 E 敷 節 書 1, 終 ラ w 2 1 止 1 ナ 前 看 載 テ、 ~ ラ 人 " 加 15 IV 27 1 殿 放 何 口口 條 I ヲ 3/ セ ザ 3/ 1 1 テ 樣 夫 ヲ = ソ 4 呼 モ 1 w 通 -叉 ク T 1 大 F 水 モ 行 他 所 商 何 叉 ラ ソ 要 サ 出 7 1. ノ節 買 或 1. 1 1 1 110 1 T 1 4 3/ 制 仕 居 テ、 所 者 用车 6 ア 3/ 力 7 如 宅、 街 ヲ 札 人 IJ n 4 = r 何 物 ~ 道 7 = = ヲ E T 迷 I 樣 普 惑 IJ 力 力 3 往 3 ツ r IV 7 如 捨 請 _ 來 111 ケ n ~ V = ナ 或 置 度 丰 何 物 77 ~ 3/ 毛 1 1. 力 17 樣 有 停 T ナ " 1 ケ ゲ 城 趣 他 之 _ ス 11: V 勿 w 1 心 テ、 中 或 諭 ~ ~ E 1 1 110 節 得 III III 云 殿 + 1 3/ 3 , べ 中 IJ 年 4 姿 = 如 3 = ラ 叉 號 丰 ナ 及 來 何 何 T 115 1 4 役 御 ラ ズ F 樣 110 IV 4 丰 集 者· 1 Ti 飲 月 觸 面 ズ、 力 110 酒 = 4 如 食 x ス H 1 醉 宗門 入 通 付 先 何 響 テ ナ t n 有 口 行 樣 华 惟 1, 7 3 3 之 集 心 停 ナ 改 177 3 1 1 境目 曾 大 節 得 1) 刻 牛 北 IV × 3 等 風 長 力 ~ 力 如 力 1 云 鎮 + ソ 何 何 IV 文 ス

○奢侈ノ風俗ヲ止ル法ノケ條

咨 7 禁 ズ N 法大 意 1 27 前 = 1 ~ 及 w 通 リ中 4 容易 ナ ラ -H° IV = ŀ = テ、 根 本 ヨリか テ直 サ 木 18 永 人 15

又 多 + E 心 -1 n 云者 ナ サ T 21 禁制 力 ス + 得 7 7 フ 力 v v 21 = 姦 ~ テ、 T フ = フ 110 w 18 多 V 1 テ 7 人 w テ ナ r to 周 7 2 r 21 冶 ッ、 出 越 多 仕 v ソ p フ ~ 種 n 禮 ナ テ、 1. 世 方 度 ナ ガ、 ク フ V + V = 4 人 後 モ r (-ナ ナ w = 平 110 3 1 V ソ = 丰 リ、 ナ 3/ 誠 1 = 禁 事 人 7 1 + ۱ر 自 p w ナ 1 _ = 1 制 1. 時 y 目 ツ 宥 人 然 フ r = ガ 法 P ŀ 毛 付 10 4 免 ヲ ス w 1 1) -= r 1 力 -觸 + ~ 役 岭 ナ ソ 難 テ ソ ス 毛 叉 IJ 流 13. 誠 テ 7 1 ナ 味 w テ 丰 U ٧٠ N 弈 法 刑 皆 1.0 3/ 讀 = = モ 1 力 7 穽ヲ 後 ソ 罰 國 及 テ 1. --法 1 -1 t フ テ V 1 w 肝 中 人 ナ 10 毛 ス ŀ フ ソ 作 --要 ス 7 ~ w 1 V リ、 云 丰 ノ節 ラ、 ツ 人 ŀ 1 ナ 2 w 3/ 1 力 毛 3/ 1 間 丰 今 リ 1 7 10 ラ 4 F 1 木 = テ = 類 逐 モ 法 テ 3/ 1. 1 T ヌ w ハ 障 段 ナ 爭 出 禁 世 y 故 ラ ----力 = 7 如 テ、 來 1. ナ 4 ネ _ ヲ 7 1 又 -1-此此 1. 起 年 = テ テ テ 月 经 ユ 3 1 テ 種 數 民 1 上 心 ク、 皆 ク シ、 ^ 3 >1 4 मि 4 八 得 = 宥 1 毎 朔 -7 1 1 仕 父 黔 1 1 3/ 心 力 3 = 月 終 免 F ---者 母: 味 ケ 如 T 又 ス 得 V 10 7 ナ 種 = IV 1. ヲ 及 IV V 1. 牛 w ヲ 7 4 >1 此 E 以 "V 111 = 法 時 カ IJ 又 カ t T 1 -數多 出 禁法 テ 人 H 1 1 フ 六 テ 3 1) 1 不 來 人 7 テ y w 1 _ テ 王 1) テ、 H テ 後 存 起 7 心 時 ナ 丰 ブ ナ ١٠ 仕 中 其 威 IJ -۱ر T 1." IV w = 1 ソ +)-テ 外 r ソ = 罪 3/ ~ 7 7 ハ 1 ナ V ラ テ wy. テ 涿 V ナ ヲ 1 1) P 3/ 1. 3 (犯 金 ズ、 ガ 不 1 ナ IJ w -フ 云 1) 為 圖 誰 刑 钱 事 人 汉 ス V = 独 ٥٠ ノ悪事 殊 汉 k 程 214 7 = 1/3 IV コ E __ 後 1 -罪 モ 者 T ユ = V ク 1 ナ 1 法 1 者 下 末 < 1 ス __ テ、 為 = IV 毛 フ 分 陷 ナ 世 7 リ 4 シ E \rightrightarrows 7 1 F 1. 誠 IV -1 ラ V = 3 1 1 テ E 者 7 利 心 下 ナ ソ デ + ナ ヌ >1 1 仕 4F. 罪 欲 世 1 得 7 ナ IJ リ 3 F 力 事 11 甚 惠 7 又 117 V 1. 1. ヲ 王 ス

經

世

談

卷

之

t

橨

H

午正月

何

某

御 何 町 町 奉行方を以撮當も無」之由 何 商 賣、 何 屋誰次男誰 勝 12 早速御吟味相成可」然此段申上候、 7 暴れ 惡 不 法 0 所 行多く、近所 の者 共迄及"迷惑 已上。 一候段相 聞 得 候 ^ 共

午正月

何

某

右樣 の外惣て 子 細 の曲 折申出度義何程長文にても不」苦候。

右の通惣家中無、残可、被"相觸」候事

サ 形 7 汰 n 3 ラ テ 右 一拘 ク = 1 1 ズ、 定 SF. ノヤ 賀 20 x ラ テ ノ時 耳 色 フ ŀ 二人 ナ ズ 4 ソ 力 w ク = ŀ 1 V 持 面 故 種 v = E 置 ŀ 倒 ナ 4 出 ノ遠慮 + 必如、此 ナ 32 ソ IV テ ノ國 下云 ~ + 心 爲 シ ナ 叉 ۱ر ソ = ヨク r 1. ノ所 2 7 如 w 障 云 V グ ~ 此 3 類 毛 1 ク 丰 時 ク、 ス 1 = ŀ ١ 宜 w = V 丰 云 殊 1 ナ F = ハ下情 = 限 = 應 1. 21 何 リタ ___ 30 3 アラ 家 某 テ 力 ヲ失 ガ頃 中 iv ソ w 木 = ~ 1 V 1 1 日 內 牛 1 6 モ、人 ズシテ、民ノ父母 何 評 -1 力 ナ 1 1 1 アラ I. 義 1. 持 君 出 夫 ナ = タル者、何分 ネド 憚 r リ、 汉 N IV w ト云風 E ~ 尽 = 汉 丰 10 F IV ワ = 此 E 4)2 1 意 唱 -1 r < 道 モ ナ ヲ得 IJ 7 " 下 ナ IJ = 何 シ 4 尽 1. ソ ラ ガ、 ノ序 ノ存 3/ 2 210 テ、 力 今度 モ サ 含 此仕 ナ = IV 1 事 ナ 7 v ナド 法 御沙 持出 y 1 3

〇民間 ノミ -限ラズ th ネ マラ 法令 ラ 3 7 心得 2 2 ~ + = 1 ヲ論ズ。

上封

同

Ŀ EP 午 Œ 月 何 之 誰 FI 表 裏

T 平日近處往復の手紙の如く仕候て、 取次を以て申出候分此上を又々常の通封候で可」差出」候。 封紙別に相用候義不」宜、 矢張本紙と一 同可、仕候、 他國等に

御 中 小 姓、何某儀、 性質至極廉潔にて、 殊に慈悲深き者に見受候間御代官等、 被一召仕一吃度御用立可

申、尚又其外にも被二召仕一可」然此段申上候、 已上。

午正月

何

某

御 小姓頭何某依怙贔屓の取計共多く相聞得、 配下之輩不服の者多く御座候間 此 段申上候、 已上。

月

午

IE

經

世

睽

卷

之

-1:

何

某

何 那何村 百 姓 誰 勝れ 7 孝 行 0 者に御座候段及」承罷在候今以御賞も無」之由 に付 此段 申上候、

五党

經 世 談 卷 之七

0 ス ベテ下々細民ノ情ヲョク知 ルベキ 法

如 クニ 惣ジ ラ下情 觸 レ出 3 ヲ テー 盡 サン 家中 ト心ヲ用 间 々言 ハン ル時 1 1 欲 ン ス ル所 ノ國 ツノ所 ヲ導 キテ、 ニョリテ工夫サマー・アルベシ、 永久ノ法トナスモ亦一端ナリ。 タト ~ ۲۲ 左ノ

振合等 此 T て心付候趣、無.腹藏 入置 以後 B 自 分事 答等 毎年 12 自身 不拘 申付 兼て不明 正月、面 致開對及,披見一吟味の一助に致度存寄にて候、依」之大畧の案文左に認渡候、 候儀 如 の輩 何様なり共底意無、殘書取、 不 は 人年賀 徳にて家 年 無 一書付、印符を以て直々持出、 賀 之、幷親子 の節、 登城の節、諸 中 面 THE 兄弟の外、縦、近 々不 々、人物、目利、 記 役人は不」及」申、 出 文段は何分短く認て宜候、 候者 我等へ手自ら可二相 親 並在國、 並惣て賞罰等行屆兼候に付、 0 義にて 上下 在江戶等驅違相 人物 も無遠慮可 . 申出 善 惡亦惣て 渡一候、 勿論申出候筋、縱 成居者式重に封致、印符、目 Źr. 國 中 俠。 候 今般我等存付を以、 は 諸 仕 1. 其 法 節 等 乍、去案文の 間違の筋に 0 直 義 4 に付銀 目 安箱

安箱

へ相納候樣其頭に取次可」申候。

但目

見以

F

目 錄

〇スベテ下々細民ノ 情ヲョ ク知 ルベ # 法。

〇民間ノミニ限 ラズカ ネ テ法令ヲ 3 ク心得シ 2 ~ 丰 7 ŀ ヲ論ズ。

○奢侈 ノ風俗ヲ止ル 法ノケ條。

○金銀貸借リ法。

〇江戶屋敷普請ノ心得。

〇今世ノ武備 〇武器用意ノ心得。 ト云モ ノ昔ノマトノ心得ニテハ亂世ノ用 = 立難キコ トヲ論ズ。

〇武備調練ノ 法。

擅

世 談

卷

之

t

ガ 或 事ラ 邦 法 味 ブ 心 ヲ E 屋 者 1 1. 7 毛 1 ヲ 牛 寺 机 習 加 3 力 1 2 7 -勿論 ヲ 小 7 セ ス ^ ス 1 U 背 屋 - 1 テ IV 3 3/ IV 3/ 負 别 ク 1 テ 或 = = 1 1 21 教 云 1 1 21 -兒 鞭笞 運 セ 叉 ヲ = w E 筆 7 黥 者 喻 7 1 ン 見 10 或 速 = IV 1 1 1 3/ IV 刑 >1 精 テ 内 ス IJ T = F E _ = フ 神 モ ~ _ = 達 宿 立 T 7 3/ 王 モ 7 ソ 重 ~ 1 ス E ヲ ス 控 叉 1 丰 汉 IV 1 丰 丰 1 師 者 極 分 ソ 輕 " IV 1 幼 此 刑 如 多 及 力 用 1 21 IV 內 少 × 下 ア 7 丰 ラ E 人、 ナ ウ 知 IV -1 = = ズ 小 思 1. 岭 ~ テ 7 毛 ス 甚 兒 種 丰 味 越 3/ フ 毛 w 嚴 -見 重 工 者 ヲ -4 7 受 何 1 ラ 1 -ウ ^ ヲ 1 次第 施 法 3 3/ ケ IV ソ -V テ、 r ナ テ = 3/ r 1 1 IJ JV 難 施 = T 7 毛 IV 毛 テ 勢 分 教 = # 10 1 ス 3/ 官 勢 ナ ア ナ 1 チ 手習 -用 1, テ、 ノ者 IJ ナ n E . 捨 7 毛 テ ナガ = 不 稍 T セ 3/ 1 x P 精 11 ソ 1 ウ 重 力 ナ テ v 兒 1V リ、 1 IV 7 丰 18 M -叉 門 ラ 分 存 1 -モ 1 下 寄 唐 木 立. 21 ソ 1 不 3 施 7 -1 Ш 刀 18 ~ ^ 作 以 蚁 1 ナ 1. 1 3 3/ 法 , 稽 ラ テ 風 テ ソ 毛 口 古 後 稍 俗 考 勿 ノ ヌ 3 論等 懈 論 " 所 姿 長 フ ソ 1 息 ~ チ 敎 1 力 = ズ -ノ過替 ラ ガ セ 長 テ 官 3/ E V ズ、 官 施 IJ 110 E 汉 ワ テ IV -3/ 3 學 ガ 作 岭 者 1 テ V

經世談卷之六

終

ヌ 1 = 事 ŀ 故 モ y V 通 1. リ E . . ۱ر 稽 何 古 V ス _ w E ガ 7 " H 大 3/ 要告 サ テ 1 火 法 術 ヲ 盛 **シ**/ -1) テ、 ナ IJ テ、 後 = 普 ソ ノ兵 1 役 法 = 立 1 V 力 1 又 n -ナ = IJ P 難 ヲ 丰 七 岭 F 云 味 = 七 木 ŀ 110 ク ナ ワ ラ

31 + = ŀ 别 條 _ 論 ズ V ٥١٥ コ 1 _ E ラ ス

0 磨 校 敎 7 立 IV -諸 生 1 敎 = 從 ١٧ ザ w 者 1 教 ヲ 司 IV 者 3 " 力 ラ 取 21 力 ラ フ テ 輕 刑 ヲ

用

フ

w

=

ŀ

ヲ

論

ズ

7 味 1 教 聖 師 3/ ナ -教 3 官 代 = テ 儒 n 學 r ワ 官 " 後 ラ 故 校 ŀ -ヲ 次 刑 1 力 E 教 質 ズ ヲ テ 3/ 官 鞭 ラ フ ブ 師 V F テ、 行 毛 作 1 IV テ 1 久 モ 公 教 フ 21 -云 w 1 邊 所 非 ソ 各 刑 者 幼 多 = 1 7 别 = 1 1 少 丰 V = 裁 以 テ 云 ナ T 1/2 21 1 X 許 行 テ w 小 7 IJ 及 4 諸 = 刑 = F 兒辈 1 ヲ F ソ 生 T 官 1 T v 教 E v 1 ッ、 力 ヲ 1 又 w E 1 ソ 手 ス 账 = 末 中 1 3 1 w y 7 周 ŀ 4 -ナ 師 E p 戒 歷 公 7 ١٠ 1 IJ ラ 7 ウ IJ -IV w 1 者 敬 1 ズ ナ 1 成 7 コ ス -= 敎 總 E w 1 1 E テ グ ŀ 畏 = ナ 7 ヲ ヲ 3" E v ナ 從 IV 1, 待 ŀ 教 テ テ ソ v 1 1 = 師 汉 3/ 愚 V F ヌ 心 テ 必 4 時 1 点 頑 モ 者 ナ ١\ ١ 威 ソ w ケ _ ク = 1 教 伯 嚴 モ -3/ ١٠ テ 師 頭 1 禽 格 テ ~ = -١٠ 支 1 ナ テ 7 ソ 式 法 E 威 配 從 答 リ 1) 敎 1 披 ヲ 郵型 1 師 守 21 チ テ ヲ -下 2 3 11 玉 引 從 汉 E ラ 知 3/ 力 w 7 7 w E ++" フ テ 7 者 者 w ナ 教 ゲ テ w 敎 ウ = F. 7 道 -3 テ モ 1 ケ 輕 守 モ 1 ズ 申 = 1 道 3/ 丰 ウ 力 什 進 w モ 行 叉 刑 4 E I ラ IV T L 世 ۱ر ۱ر 17 卽 車型 リ、 b 7 7 決 v 施 1 敎 + }-E 1 難 斷 諸 刑 叉 ス 刑 ナ ス -所 3 或 = ナ w ヲ テ 1) 左 ナ 施 F リ、 難 1 3 -今 法 1. 古 ŀ デ 3/ 丰 時 教 1 加 故 1 愚 テ E E 諸 岭 如 論 徵 官 y 頑 1

鄉

世

談

卷

之

六

云コトアルベカラザルコトナリ。

取 至 叉 法 全 28 ナ 亦 火 1) y 3 2 所 1. 兵 深 y 循 テ 21 1 7 IJ V 勿論 學 講 根 作 奥 テ 城 1 テ + 又 1 無 並 義 取 云 究 云 1 元 F 1 1 窮 禮 間 ナ 餘 ガ 云 25 ソ 21 E ス 方 皆 聖 4 行 義 ホ 1 1 1 ~ 3/ 1 前 世 分 妙 禮 算 1. 軍 ナ 盛 平 + 人 方 法 曾 行 術 + 1 1 1 1 7 = 7 等 事 稽 别 備 ナ 仁 制 r 1 = V 1 ŀ 學 ŋ 表 人 義 作 古 立 1 y ナ w _ 校 テ 算 ナ 百 君 70 ŀ V 1 = 3 1 1 法 師 7 ラ 小 者 1 ケ V = 110 率 1) 21 條、 於 昔 相 推 笠 ~ 1. b ラ ズ 1 近 V. テ 别 大 #" 原 1. 毛 ナ 3/ 1 器 裏 教 諸 經 テ 流 チ E F. = w = テ -何 禮 制 百 異 IV 流 兵 故 知 1 -伊 九 作 4 7 法 -to" ナ ナ ラ V 1 勢 循 數 兵 リ リ 百 條 毛 1 IV 1 E 神 流 法 法 奥 1 士 H ナ 文 兵 10 何 義 曲 1) E 3 ナ 1 V 1 奥 誓 法 禮 列 ヲ 1 1. デ V 1 ~ 3/ 1 3 ヲ 限 沙 ラ \equiv 毛 云 1 1 3 1 = デ 干 石 限 有 奥 7 リ サ 汰 1) ケ 毛 March Special 取 義 算 用 ラ 力 1 V 1 IV IJ ス 21 算 必 110 ナ IV ナ 同 = 1 w = 1 毛 21 用 至 30 1. テ 法 7 ラ -1 ス 1 モ ザ 足 事 1 + y p 7 ---1 3 1 1 又 藝 八 ラ テ ウ 多 111 IJ 足 r 1 モ IV V 算 稽 外 亦 = 7 = w = 行 7 ズ 1 1 -, テ、 テ、 見 深 ~ 古 b 1 + 1 = 勿 ナ 力 孫 平 7 P 1 3) = V 論 奥 賢 y 九 ラ 古 テ 吳 IJ __ 又 生 テ、 數 -A. 兵 義 ズ、 1 1 30 1 3 六 算 法 道 7 ヲ 1 行 ン 說 力 1 窮 內 限 藝 ラ 人 勿 法 重 7 = = 1 1 分 奥 合 リ、 論 備 + テ、 雜 IV 4 = 1 = 義 皆 用 後 人 1 7 毛 21 フ IV 25 皆 兵 4 ++" 世 類 役 ナ w 所 1 ナ フ 21 型 學 諸 聖 r IV 7 ホ H 3/ -1. IV 賢 1. 用 及 次 1 流 w 人 3 1 = 1 段 ---12 法 ŀ -4 1 E 1 1 1 睯 義 其 騎 ナ ナ 4 事 7 ~ E 又 モ 3 傅 凰 ナ 7 7 7 精 前 力 1 示 1 3/ 4 ナ 說 テ 微 IJ テ IJ 並 1. -義 1 禮 力 庫 世 ス = 又 V 1 3 -3

キコトヲ論ズ。

登 士: 大 傳 遨 力 30 力 サ 1 3 Ħ 總 人 1) ナ 1 ij Ш ス テ 丰 ヲ ナ V 傳 ----7 リ 110 E 力 __ V 4 力 1." ジ 誓詞 彩 テ 統 T 210 ガ 7 ヌ -^ 遠 秘 ウ " ソ 3/ ヲ V w w 21 1 人 故 者 4 1 + テ 3 授 10 n 3/ = 段 私 ナ k 毛 = ガ E = ホ 口 3 21 訣 7 テ 及 初 山 ナ = 1. ス E 致 敎 7 劣 1 w カ 210 極 Ш -1 風 意 人 小 ラ T ズ 7 1 7 1 IJ n 尺 義 者 y テ 宋 1 11 w ---3/ 1 -誓詞 處 習 7 1 汉 = 110 = 見 1 害 -必 安 テ w ナ 7 丰 ---= 1 始 决 驕 夜 3/ テ、 ナ IJ 水 _ IJ E 父子 テ ナ T テ 1) 7 1 中 力 ---3/ 8 0 誇 ラ 傳 テ F -IV IV \preceq _ -兄 型 松 1 ~ V 1 w モ 3 コ ^ 頂 腎 弟 刀 ラ 明 テ ラ 1 1-丰 モ ŀ 種 Ŀ 多 ソ 2 = _ モ 木 1 ヌ 1 10 間 鍔 テ ヲ 1 F. 大 V 子 汉 + = 7 登 道 6 丰 咏 ヲ テ 1 = ŀ P 7 ~ ウ ナ モ ス 7. w x 1 モ ---丰 ナ テ チ F 同 所 1 w v ~ ホ 舶 語 絕 謂 1. 工 及 ス -類 111 V 1. -デ 入 同 7 w テ P 見 ラ ŀ 1 1 學 者 他 ナ ナ ヌ 3 1-7 ^ w w X 校 故 ウ = 言 y 類 行 110 コ 1." 丰 ---P 幼 = 1. -1 モ 7 1 1 TH ۱ر 敎 私 テ ナ 华 1 IV -___ 10 1 必 説 ナ 賤 力 IV 1 ナ ٥, ナ 7 ス 傳 リ 型 輩 IV ラ 3/ 1 ジ 1. 又 1 1 フ 賢 内 患 ラ 3 丰 -至 1 ズ = 型 n 誓 1 T 3 3/ セ -ナ = ۱ر 1 賢 _ 約 7 兒 道 持 リ、 な テ 汉 >1 リ、 1 1 病 17 r 何 ŀ _ IJ ノ 道 チ E = 却 思 + 又 ラ -21 モ 1 ク ١٠ 癪 老 #" 黑 始 = 汉 テ フ V H 何 テ ラ 末 自 等 2 110 ナ ŀ 年 コ 力 ホ 傳 1. 1." 数 ラ ~ ヲ 1 ズ 力 1 1 1. 誓詞 腦 咄 チ 麻 ナ 七 授 P 1 ガ 111 高 誓詞 7 遽 ス 77 ガ >> 111 IV ク、 里 1. w 7 サ Ł ジ 力 1 1 -語 耙 深 竟 ナ x IJ 病 モ 7 ス 7 1 吝 y 1. テ ヲ ヲ 7 ソ IV 1 ラ IJ 末 富 生 Ŀ テ ソ # ヌ F 丰

部

世

談

卷

之

六

D' 指 1 210 モ 南 1.0 1 人 添 7 力 = 大 11 立 南 ナ E テ v 心 ナ w 21 1 指 -ソ 老 y 30 テ ラ ~ モ 汉 1 モ 3 书 姿 大 IN 1 拜 12 7 ヲ 218 3/ 1 ホ 人 申 師 = -領 者 3 支 1." 汉 丰 立 費 數 付 學 弟 V 阳己 P ソ 私 3 及 T 相 w 右 校 7 21 w 1 IV V ナ 3 者 聚 别 w 應 7 懈 ナ ~ ク > ~ 時 身 ヲ 學 1 心 城 全 × 3/ テ 丰 3 故 老 分 テ テ ١٠ 體 校 出 所 -下 同 詞 時 ^ 邨 T 精 中 ナ ス 1 門 槪 テ 3 丰 學 叉 4 7 7 _ .7 JL 3 心 1-試 人 方 狮 IJ テ 1 力 TE. 111 1 1 說 得 賞 懈 3 3 T 3 叉 ナ = E 3 IJ 1) 學 愈 7 -ラ 並 T IJ シ、 1 + 人 ソ ナ 7 テ 貧 EU ル 頭 3/ ズ、 ソ 1 费 1 I 指 1 テ ソ 1 3/ + 1 毛 時 间 實意 難 7 狹 人 1 3/ 者 南 数 p 1 內 力 1 H 3/ 1 1 ~ ウ + = __ 役 1 4 テ、 所 方 别 ナ 所 7 110 --謝 右 人 テ 非 等 ナ 7 3/ 3 7 7 IV 1/ 禮 指 7 月 總 役 1. w テ 1 丰 稽 V 南 云 1V 重 モ 7 1 1 210 1 ジ 古 內 者 -T 力 宜 V. 殿 1 用 テ 丰 1 者 及 I. w モ 益 指 中 = テ 毛 座 E 叉 夫 難 戒 111 1 1 兩 P 圖 7 = 1 敷 役 ズ、 7 有 丰 1 IV 丰 於 1 7 3 ナ 事 詞 用 w 7 料 度 却 7 加 テ 7 人 家 ~ ナ = P 1 ス 1 1 ッ フ 3 テ 書 君 ナ 7 3 告 老 3/ ~3 IV 12 7 7 1 自 IJ テ 撮 兼 ~3 籍 モ V E 3/ モ 分 0 テ -111 1. 1 當 見 帶 3 3/ 义 = 學 1: " モ T 11/2 又 >1 ~ セ 硘 叉 力 造 校 IV 3 文 力 41 1V 大 味 1) 1 3 3/ IV 1) 用 抵 重 ラ T 1: ~3 ~ T テ -2 人 = 出 w 右 3 力 ~ 人 3/ 1 n -1 費 所 华 器 席 1) ラ Élli 指 ナ ~3 2 7 七 0 物 1 毛 ズ 1. = 3/ 匠 南 3 助 難 等 E 學 P 兼 此 = Ti 右 -儀 校 ク 帶 度 或 テ 毛 ٤ 目 1 モ E -~ ナ テ -ガ b 付 弟 # ホ 目 3/ 1 3/ IV 於 É 3 金 話 フ 7 ----子 付 テ 1." 趣 銀 ~ 分 サ テ V. 右 T = 1 -1 敎 後 ナ + 人 w テ 衣 3/ 12 云 1 E ラ 右 授 4 ナ 役 役 指 ホ 服 ス 7 3

7

115

21

姑

7

闕

丰

ヲ

17

屯

E

3

ソ

1

人

=

非

V

命

ナ

丰

1

3

力

21

テ

7

IV

末 拘 間 主 ١,٠ 或 間 w == w 110 1 ン ソ 3 賞 云 者 座 ゥ 類 意 = 1 1 1 77 21 チ 所 自 總 旨 ラ モ P タ 3/ ŀ ソ + 答 然 ス w 3 ン 町 同 1 IV ズ + 1 メ Ŀ 司 者 者 答 + iv 席 ソ E = ケ 1 = ۱ر ソ 外 席 H 惡 1 7 所 メ 町 3 末 7 Æ 21 1 リ上 萬 7 7 師 ナ 几 屆 1 1 座 1 然、 同 等 上 耻 FIJ ~ 善 3 V 方 叉 國 ケ 席 ヂ 1 = 3/ 百 IJ 11º ツ 所 才 1 1 ソノ國 Ŀ 位 叉 Ŀ 善 外、 申 行 = ケ ソ 7 1 座 ١٠ 叉 ス H N 1 -ソ 風 ~3 V 一、或 ソ <u>ハ</u>ニ 勸 ~ 出 席 ソ V テ、 儀 1 \exists 3/ , 1 シ (. 1 3 1 行 1 1 3 1 故 人 舊 F E 築 ソ テ、 ナ 下 實 ナ ソ 禁 -法 E 叉 席 以 1 斷 = ラ F. 事 1 E IJ 1 ` 內 風 吟 内 等 ___ ズ 1 上 ナ -姿 1) モ 等 末 古 俗 味 引 モ _ 1. テ -3 1 標 Ŀ 座 Ŀ 别 3/ ソ 1 申 1 下 IJ -通 其 札 席 上 象 ŀ テ 1 w v ゲ 付 = ٨ y 云 T 6 刑 品品 1 ヲ 3/ ナ 1 ~ 3 = ۱ر 時 末 名 ツ ウ 1 1. 1 77 1 3 4 何 申含 意 7 チ 座 目 標 力 1 3 1 T 枚 或 殿 吟 テ 禮 I. ナ ク w E = ヲ = T × 1 賞 中 申 定 夫 = 味 ナ IV ~ 7 モ w ソ テ ナ 付 1 ヲ IV ウ T 合 x ~ 3 Ъ ソ 1 1. 示 チ 汉 3 ~ ~ 7 w フ 丰 V モ 人、 1 上 勢 -214 ス ~ ~ ス n シ、 3 ク ツ 3 E ナ 3 ~3 ~ ホ ~ ケ 牛 シ、 ソ 力 = 1) 末 0 ラ 丰 シ 1. テ 3/ 7 1 --w モ 表 右 心 1 座 ヲ ŀ 總 性: 槪 NP 用 13 7 得 叉 者 指 7 ナ 質 ŀ ソ 3 ソ ナ 牛 リ、 E 屹 南 所 久 ソ E 1 1 ~ テ 1 ラ ザ = IV 人 耻 者 度 1 ^ ヲ 3/ 木 行 in 1 7 扱 方 右 申 又 ナ 1." ソ 門 1. ヲ ___ 者 ナ 忠義 角 指 格 ナ ク 付 外 屯 1 3/ モ E リ、 ハ 前 所 り。 IV 别 IJ IJ P = 南 ^ 屹 者、 H 多 テ モ ヲ = = テ テ = 右 申 述 孝 心 行 度 フ 1 P w ク 付 身 1 in 時 祭 v ス ~ 行 得 7 五. ۸ د 如 ヲ 分 改 ŀ w 內 必 丁 ソ × 汉 3 者 ク 仁 ク 何 袖 申 iv E T IV 四 1 行 甲 罰 惠 ~ 人 付 1 1 3/ 叉 方 = 格 シ、 E 7 人 p ŀ ~ = 1 篤 襟ナ 所 式 生 敎 外 生: = ウ ダ シ 3 前

實

ラ

1

行

1

非

ナ

IJ

=

· 程

世

談

·卷

之

六

十五 古 但 所 w 7 シ、 1 ラ r テ 1 31 工 ラ 普 リテ、 如 ナ 31 國 1 7 + E -ズ 大意 ク、 テ、 ÿ 3/ 10 テ ウ ス V 15 テ 町、二十町四方ノ内ニテ、身分 3 リ學 定 ŀ テ 心 Æ 1 義理 ~ 姑 オトナシ 得 師 别 致 拘 ヲ To 所 7 校 滯 酌 ノ外 r 友 IJ シ、 1 = 方角 城下 ヲ 3 3 ŀ 1 汉 ス 3 取 財 法 云 i 間 IV ソ w 7 リテ + 行 得 ナ 者 リテ、 用 ヲ用 E v = 1 ドニ ノア 門人ナ 迹 テ 會 師 及 = 毛 1 活 ヒテ教 n 窮 相 讀 上 3 E 匠 變 テ家 當 y 者 互. 講 N 3 3 = H ス 時 テ 來 ド吟味ノ上、 從 IJ ヲ 所 書 17 = ~ ヲ立 撮 撰 中 ノ用 如 IV 相 ナ フ = 3/ 牛 當 諸 非 b 談 F. 何 力 1. 1 = モ、 テ、教 ノ格式 テヽ ラ 1: 7 E 3 IV 1 1 1 ŀ 軒 ナ ズ 1 强 テ = 3 3 ナ テ 年 廣 2 ゲ ソ ヲ ナ F 3/ テ 授 v 五月三月半年一年モ破門絕交致 ツラ テ、異見 或 1 高 テ E 月 + 力 ラ ヲ申 110 次 下ニ拘 古 方角 及 所 ノ後ニ ズ、 T > -10 __ 異 木 E 1 F. 付、 = 見添 テ居並 法 家 概 難 ナ 21 添 1 ケ所 至 ク、 必 ハラ 事 1 丰 = 學 心 自 ハ云 迹 リテ、 ソ 國 心 = 校 ヲ 然二 ズ、ソ , 所 ナ ヲ E, = " ス E 1 タル 1. 師 拘 ナ モ 丰 ~ E ス 111 ツノ方角近 學校 1." 云 致 テ 匠 難 テ 1 丰 = ノ人物厚ク誠 所 ラ モ シ 自 = = 牛 2 限 1 +1-" " 分 ニテ、 7 ŀ ŀ = 用 ラ 取 ニテ行 總 此 力 指 云 1 IV 又 E 立ルエ 意 勿論 南 7 30 3/ コ イカ ヌ キ子 3 1 ヲ テ 牛 1 1 ホ 1 ナリ、 推 睦 ワタリ 通 ナ 3 = 1. 弟 ホ ナ 夫アル 卽 ヲ 自 V V V 1 = ノ者 1." ッ 1 テ 1. 平 ニシ 3 叉 致 輩 廣 I 賢 力 7 サ 好 + E 21 ハ、師 牛 Ħ 改 夫 ヌル 身 セ、 テ テ ~ ス 7 1 IJ 所 意 シ、 分 ス 姑 r n ソ ヌ 聚 ナ ナ タ容 子 IV 匠 7 師 ジ ク 1 = _ リト リテ _ 10 叉 ウ 弟 細 ~ 並 ツ 3 3 說 シ、 當 云 法 テ、 子 + 丰 T = = 1 モ ナク 其內 情 指 學問 ヲ 時 類 テ n ス ŀ ラ世 重 述ブ 理 總 ノコ ~ 者 南 + 云 3 30 110 ノ年 ヲ V 牛 7 7 二志 毛 1 ~ 界 受 テ 親 近 ŀ 7 3/ 7

ベキコトヲ論ズ。

徒 型 + 萬 樂 後 1 w ラ 7 111 E 酥 校 施 ラ 事 = 1 = 或 3/ 教 ズ _ テ 家 ケ 備 w 1 H ス 1 12 21 3/ 沙 H 律 IV E 共 t. 1 家 難 又 1) 7 度 汰 堯 上 ナ 1 中 = 17 3/ ŀ 1 丰 說 舜 先 リ 量 ナ -勢 諸 名 P IV V. -多 F 衡 -30 1 r 7 士 1 7 時 ナ テ 里 11 w 2 1 1 7 代 大 今 人 1 7 法 1. 碰 ナ 敎 校 7 デ 故 尚 ヲ 1 小 E モ b W w ナ w 皆 吟 教 夏 書 ン\ 1 = 1." 力 1) モ -學 遽 周 殷 味 ノ 二 w r モ 1 モ ス -叉 1 1 n ---1 7 ١٠ E ~ 典 政 學 多 デ P 7 制 學 行 ~3 1 テ 7 浮 校 1 V モ _ 校 17 1 シ、 F 1 堯舜 y 行 末 77 周 1. 7 1 ヲ 10 禮 立 浮 10 7 V 無 强 ^ モ フ 7 樂 P __ 用 華 17. 1 ~ テ IV 1 w 制 學 IV 政 如 ٦\ ١ 恩 リ 7 7 丰 1 1 度 風 當 1 校 ク 7 デ 1 7 コ 學 3 全 3 ヲ ヲ ソ 1 3/ = 3/ 1 -ナ 校 撮 備 助 立 1 1 力 = IV ナ 夏 ヲ in 當 テ 委 風 3 3/ n ク テ 3/ 立 殷 學 唐 P ヲ -15 曲 IV 俗 1 1 テ 周 校 世 4 IV IJ 丰 别 p ___ 土 王 ノ三 人 條 ウ H 7 3/ 1 汉 話 3 ---7 名 倣 ナ T IJ 本 1 7 w 1 -道 代 目 論 IV ナ IV テ -1 モ E 10 = 7 ナ 7 目 テ 1. 21 1 1 17 ズ 7 ク F 虁 見 4 P 3 ~3 1 w ŀ モ 云 ラ -涌 1 本 w ^ = 牛 = 近 ~ 7 舜 實 時 ズ、 命 終 7 仕 ナ ナ テ 來 1 ヲ ジ 1 ジ 法 リ w = = 古 逐 > 7 四 應 務 サ テ ~ T 21 今 1 年 方 樂 出 セッ w 凡 V n 3/ 3/ 7 1 周 -~ 力 席 ズ 類 7 111 IE. 定 17º = 巡 サ 禮 3/ ス 1 3/ w 1 1 全 法 テ 代 狩 3 7 >1 _ V モ 備 ナ 叉 勿 セ 百 1 b 1 NI IJ セ 契 如 ラ 7 姓 白 11 時 1 文 論 + サ 证 大 = 7 夏 1 V 1 町 妙 ク w 備 戴 命 V 所 待 殷 シ ナ A 町 E 故 1. 1 -ジ ラ 人 IJ タ E 1 -1 = 戴 ラ テ モ ナ テ #" IJ 4 3 3 to 禮 司 唐 等 +1" IJ ナ 1." V モ テ

盤

世

談

卷

之

六

0 運 筆 指 南役

居 ッ、 0 テ 武 合 3 虁 p 丰 ナ = 1. 7 21 1 7 IJ = モ E 1 手 學 畧 ナ 此 リ 習 處 校 ス 1 = = 指南 鎌、居 次第 於 テ 教ル ナリ、 3/ 合 テ ナ 申 時 1.0 平日書簡 付 1 1 ~ 全體 弓 シ、 術 E 往 サ リ立 來貴賤 槍 V 術、 1. テ モ オ ノ差別 長刀、 家 ク 中 7 侍 デ 馬 以 ョリ諸向ノ諸法、 モ 上 狮 ナ 1 牛 鐵 111 \exists 砲、 7 1 敎 ナ 火 IV V 學校 術、 110 眞行 工 ナラ 並 夫ア 棒、 草ノ法ヲ教 1111 柔術、)v 棒、柔術 ~ シ、 鎌、 フル ナ 棒 ヲ司 修 1. ハー 理 1 省 說 ルの 劍 r 丰

〇書記役

毎 H 出 席 諸生ノ姓 名 ヲ シ)V シ、 藏書ノ諸式並スベラ文書 _ アッ カ IV 7 ŀ 7 司ル、 禮方武藝等 = モ

0 入費役

111

勤

ナ

y

テ

1

ナ

ラ

ズ。

總 ジ テ Mr. 言 並 修 覆 3 *y* 切入费 ノ出 納 ヲ 司 IV. ソ 1 裁配 ۱۷ ソノ向 k 1 役 3 IJ ノ首尾ヲ受テ學校目

付 ノ下 知 ヲ 丰 7 ~ シ。

0 學 校 守 藏 守 兼 帶 足 輕 格

0 役所 小 右學校 使 内 守、 掃 除 藏守 番 兼 中間 格 表 掃 除。 シ、 足輕格右

3

"

兼

IV

E

3

何レ

モ

學校目付支配。

0

門番

1 ガ ケベ シ、サレバ 明一 役人ノ長短ヲシ リテ 依 怙贔 厦 ナ 丰 ヲ 要 ヘトス。

○學校目付 書記役并入費方役人其外輕者勉支配

學 校總役 人 1 勤 仕 並 平 日 1 所 行 F E -撮 當 1 ス シ 並諸 生 7 デ Æ 及 ブ當 ~ 丰 ホ 1, 撮 r 11

數アル時一人ハ必學校役宅定詰タルベシ。

〇教授役

講 書會讀 ナド 六云 ニ及バズ、 諸生心術所行 ョリ面 々家事 ノ取 行 ノ間 マデ、 親族心友ナドノ如 ク懇

切 = 云 Ł 牛 力 セ、人々實意ヨリ實義 = ツ ク 7 1 7 勤 2 IV ヲ第 Ի ス ~ シ。

〇教授添役

毎

朝 素 讀 ヲ 指 南 シ、幷諸生 平日、 君 父、長者、朋友等 ノ交 ノ禮儀 ヲ 敎 ^ 撮 當 7 w ~ シ。

〇兵學指南役

騎 前 並 陣 取城 取、行 軍、備立ノ法ヲ教 へ、弁平 自 武士 ノ心懸ヲサ ĥ ス 3 ŀ ヲ 司 NO

〇禮法指南役

表 百 ケ條、裏百 ケ條、其外冠昏喪祭ノ式ヲ教へ、幷平日身持ノ作法 7 サ F ス = 1 ヲ 司 w

〇算術指南役

八算 見 -九數 1 法 ヲ 敎 ~ 幷平 日 所帯ヲ 持チ普請 等 ノ捐 益 ノ曲 折 ヲ サ ŀ ス = 1 ヲ 司 w

世談卷之六

經

1 7 n 間 = F IJ テ 幾 通 IJ --E 分 チ テ ヲ 3 7 ~ 3/ 0

○學校ノ役人タテ様。

家 ウ 符 誠 IJ ナ テ -定 ナ X 直 老 召 リ、 惣 -3 抱 IV テ IV 1 = 3 3 1 殊 E IJ テ 說 出 3/ n = 7 役 テ、 兼 = F = r 1 サ 1 立 帶 _ 云 人 ナ n r セ 私 或 n V IV 3 ツ 1 ~ テ、 テ 力 其 事 ヲ営 ナ 218 1 モ -教 ラ 人 大 1 E IV 總 -ナ 札 害 ズ、 7 ~ 1 2 リ、 存 主 多 ili 力 T グ 丰 今 分 IJ 牛 V 15 1 水 ホ テ 役 者 丰 IJ ノ人ナ 1. 一方ノ大略 1. 110 , 頭 1 人 人 7 = 3 7 致 數 智 從 = 1 牛 久 智慧 撰 能 シ ダ 牛 小 フ テ テ ブ 1 ツ T 7 其次 樣 ~ ヲ左 工 ヲ IJ 丰 ~ 1 傳 シ、 夫 1 丰 E 毛 21 0 本 役 或 ノ役 = T ^ 1 人 役 ソ 7 ナ 3/ 1 IV ^ 大 1. w 7 10 1 = ŀ 1 モ 才能、 小 申 ス、 テ 任 1 モ 1 3 大概 必 付 别 ŀ 力 毛 = 眞 用 IV 3 ソ ズ 3/ 二企 1 德器 ノ事 ~ ソ ユ シ テ 7 或 ~ テ、 應 3/ 1 1 テ行 ノ舊 甲 力 7 7 3 7 忌 持 斐 ラ サ 力 1 汉 フ IJ 切 ナ IV r ス 3 俗 V ノ日 IV 嫉 者 -١٠ = 1 v 其 姿 ~ 1, 7 2 ス 毛 ス 用 心 事 = 力 ~ ~3 モ = 至 ラ テ 15 シ、 IV E = 1 IJ ズ、 此 3/ 111 國 = w V 1 テ 等 何 = 7 中 = 毛 或 1 瞽 テ 執 1 1 V = 事 何 ナ 者 1 E -ラ ソ 諸 時 役 r モ 3 1 V 1 21 衆 學 人 役 ŀ ソ IV _ 210 2. 處 瞽 人、 ノ人君 者 術 ナ ~ 3 ラ ヲ IE. シ、 ク、 ŀ 毛 入 ズ 導 = b 3/ ク、 或 他 肝 札 宰 總 應 7 E 相 要 P FD 3 IJ 30

學校奉行一人 或八家老ョリ爺帶

0

テ差略

r

w

~

2

0

學 校 總 支配 總 37 テ學 校 ノ事 ヲ 司 y 細 事 1 承 リヲ 7 4 デ = 2 テ 役人撰 舉 ヌ 丰 サ 3/ 1 間 ヲ第一 1-

生 徒 1 盛 ナ w 7 威 嘆 ス iv = ŀ ____ テ 質 18 山 ン笑 1 北 丰 又 11 哀 1 湛 牛 モ 1 ナ y

半丰 間 = 2 ナ疊リジ P 1 廣 21 = 狹 又 九 程 1 人 制 ナ 水 IV 1." 1 大 ~ 1 抵 3/ 積 ソ = 位 1 テ 處 1 間 高 = __ 聚 下 合 -IV フ ~ E ~ 牛 IJ 3 テ 人 Ŀ 數 急 -1-1 屈 極 1 _ 席 7 ス 計 7 7 分 1) w テ ツ 時 相 コ 21 應 1 ___ 北 -敷 丰二 ス ナ疊リジ 居 ~ 潭 3/ = 0 7 + 等 大 要 1 ヲ 生 餘 用 徒 フ モ 收 ヲ w イ 7 V 1 w IV 定 ~3 1 處 ケ 7 IJ v 1 1. ナ

ミカ 及 ク w ズレ、テ 者 大 ヲ 要下 同 3" 方 = 윱 所 = 3 テ ヲ 示 7 時 ス 1 1 3/ 力 緣 V 張 1. 板 E E 此 IJ 等 高 1 7. 甚 1 末 段 新 ヲ ナ ス V w 1111 モ 深 H 7 3/ 拘 21 高升。 IV ケーし = レす 及 バヲ 1111 下限 ズ 位り ニテ ヲ高 ソ ル下 1 モノ 所 ノ段 高位ノ K 1 1 便 者 利 17 = 酸マ 從 1)

1.

毛

-

其

1

時

H

-

廣

狹

自

由

-

ス

~

丰

為

X

-

1

埓

突

立

7

用

IV

7

便

利

1

ス

~

3/

叉

或

1

身

分

格

别

隔

チ

V

步

モ

シテ凡立ヨ先 ナシ十ヤリ生 リカ萬ウ以ノ ル石マ下日 ベ位デ役 キニハ人コ ヨシ大ノレ 3/3 士 绩 T Y 語 14/ 霄 也 1 H 推 4 光 役 人 以 F 叉 者 馱 腰 1." フ 加 >> シ 懸 今 細 ~

傘

7

7

7

所

ナ

__

念ヲ

入

IV

~3

或

1

草

履

下

3/

但

供

待

三ノ 番 付 ヲ 3/ w 3/ 7 7 王 3 力 w ~ 3/ -旬 讀 7 授 IV モ 講 書 1 通 ナ v 1. 王 7 人數 3 丰 時 > 指 南 1 者、 諸

經

H

談

卷

-5

六

ク

3/

テ、

生

1

湯

屋

ナ

1." 7

1

丰

物

ヲ

處

小 モ 水 12 カ = 1) 力 深 1. 兒 1 111 7 = 7 ^ デ 格 IJ 拘 ケ ナ 3 所 ラ 别 7 7 テ IV ズ、 = 义 行 聚 ~ -隙 力 テ x 1 1 テ ラ モ ソ 1 7 10 敎 間 IV ズ 7 7 P 風 IV ~ = 1 1 所 ウ 牛 r 土 1 モ -心 ナ 7 ナ _ ^ ラ テ 安 ~ 1. V 3 シ、 1 1111 IV 7 モ 110 ナ 多 $\dot{\exists}$ 短 大 里 F 1) 丰 城下 日 抵 テ ヲ 毛 ノ節 沙 1 厭 四 _ 方叉 辨 兒 テ 1 1 推 ズ 居 ナ 當 21 P 1. 1 ナ >1 屋 1 别 H 1 ソ)V ク 敷 ~ 1 2 F 4 ^ 引 餘 1. テ 往 丰 モ ツ 都合 飢 來 7 モ E 13 T ŀ ス = 丰 故、 カ IV P 及 IV テ 所 及 ___ 3/ 110 並 1 ク、 T E" 又 E 概 力 木 7 汉 一ケ 7 1." 13 ヌ = IV 1 n 1 1 7 所 ,目, 所 云 11/1 书 7 = E 力 7 F 七 ^ テハ、二三十 T 難 ラ 合 v モ 諸 IJ ス 又 T ケ テ V ~ ホ 生 V 1.00 シ、 1. 110 3 1 懈 7 モ 路 书 T 意 -j-大 總 數 17 1 119 要 並 E 1 3 往 並 X テ ti 1 ナ 毎 多 來 數 1 IV -所 H 家 卡 7 110

江 政、 1 1) ヲ 1 書 Fi 終 益 2 享 昌 始 r 3/ IV 12 平 和 12 2 7 頫 坂 ~ 1 1 1 + 終 ti ノ學 1 7 弊 改 IV 先 3/ 校ナ 1. 3 IE. Ŧ. 1) ヲ 7 1 ノ學 シ 時 10 3/ 叉 7 IV 20 校 1 數 本所 事 子 4 1 里 能 閣 所 ガ 174 深 1 巷 7 _ 方 JII ズ 數 > ノ小 叉 ノ中 3 百 r テ、 1 邑マ T 次 麻 ニタ 1) 人 布芝邊 久 群 デ 聞 10 10 見 モ ヲ E __^ 行 + セ ケ 近 3 7 セ 3/ 1) 所 牛 汉 所 2 111 = 人 y ナ 工 席 シ K IJ ^ テ テ、 1 1 1 P 講 辈 禮 如 IV 殊 徒 拜 義 ユ 此 ----ス モ ~, 慕 途 IV ス 1 4 府 制 7 牛 7 ノ諸 見 = V 度 b 光 テ、 7 丰 = 士數 陰 鷹 テ 3 海. 7 7 ~ 3 費 T H 1 ズ、 1 始 t 萬 多 ス 末 シ ナ IV 7 7 梁 席 1V w 7 僕 1 = = 1 n 居 從 ナ 1 P リ 7 IV 1 ·E 飢 寬 何 毛 3

千豐敷

ア西島

敷

_

ス

12

1

モ

力

7

ウ

ノノ法

-Second

テ

21

絕

テ盆ナケレ

110

尽

10

7

ケ

3/

ラ

又

毛

1

-

" "

トア

n

~

F t リ 字 ヌ 職 フ 間 亦 自 + ズ E 人 ۱۷ E ~ ヲ 1 游 F 3 然 リ茶 學 何 ナ シ、 讀 1 民 其 ス テ、妻子 國 = 間 1, 本業 V 家 别 L 3" = 湯、 1 1 E 志 輩 ヲ E 1 = 農民 爲 藥店 今 r 以 益 ラ厭 ___ 1 誹 文 n 風 = 1 = テ 3/ -諧 ١٠ 本 所 書 人君 ŀ 1 ナ 流 ク 4 ナ 奴 業 謂 林 小 禁 義 國 ラ 者 1, 僕 學 率 7 薄 110 3 r 理 家 又 F 1 或 厭 間 别 相 力 IV ヲ 1 1 2 シ 通 ハ IJ E ナ 蠹 テ F 7 = 3 3 ズ -雇 薄 ナ 云 w ラ 何 v 1 肢 ナ IV 禁 人 リ、 ホ 子 事 1 ヲ ヲ セ ラ p 1 3 ナ 細 ズ 1. 力 牛 ナ ズ、 ウ 1 -テ F* 職 w 仕 1 力 r ^ w = E 3 = IJ IJ 里 心 = 人 法 18 3 ナ ٥, 力 1 テ、 = 3 竟 木 モ ŀ r F w n 農民 ダ 甚固 1 テ ズ ラ ナ # 出 毛 ~ ラ 漢字 イ __ シ 110 リ 俗 7 3/ 3/ 力 ッ、 槪 ラ テ 陋 ヲ \equiv = セ 何 斷 IJ 7 鄙 風 力 ヌ = サ 1 テ r イ 然 隘 俗 n V 1 モ ~ 久 V 薄 E 1 ツ E ŀ ノ補 w ク V 1 210 1 行 ソ 難 丰 = 力 此 闍 1/2 7 ラ ^ 1 農民 E テ フ 婆 ケ Ŀ ŀ 類 b ス 或 ナ ナ 1 E ヲ V 1 フ p ---コ ソノ ナ ノレ 1 1. ~\V n 切 サ ウ 1 3/ V -ゲ 7 V モ テ = J: 名 _ F 所 11º 眞 種 後 ŀ Ħ = E 禁 ノ風 -印 大 逸 疑 IJ 叉 = 4 ツ _ ズ 判 古今 禁斷 抵 ノ説 ナ ラ 民 1 1 IV 義 等 商 穀 ナ ナ 高 ŀ 彫 ノ豪傑 出ナド 深 人 ヲ _ 7 " w IJ E 板、 = ナ ク 但 3 IJ テ ブ = 深 撮 IJ テ漢字 3/ 世 テ、 3/ 1 モ 木 7 テ 當 テ、 ノ物 1 ŀ ナ 3 F 害 彫 差畧 リ、 云 ス 心 ソ 云 " = w 石 ヲ ~ 何 3 1 = モ カ ١٠ 7 切 7 3/ IJ. 上 ナ 3/ ラ ホ 1 7 ナラ デ IJ ナ ラ 1. ガ 手 リテ、 = _ V テ 1. 木 サ 足 王 力 ホ JE. テ、 ラ ズ ナ テ 誹 7 3 1 211 ス シ 1 ク、 シ サレ 類 町 丰 游 ナ 類 IJ iv コ 0 人 ナ ラ 笑 文 學 セ ス V ス

學 校 ノ制 度 論 ズ

ヲ

壆 校 ノ廣狭 3 117 ŀ ソ 1 役 人 1 ダ テ p ウ、 並人數 ノ多 小 ٥, ソノノ國 フ大 小家 中 人數 13 15 3 リテ 異ナ

挪

11

談

卷

之

六

續

理 ク、 業 朋 ナ 1 1. ズ 3/ + 1 -+ 棄 輩 ク H 12 3/ IV ナ 7 IV 3 ラ 怠 甚 古 = 3 斷 汉 得 y to 7 1 3/ ウ 毛 事 テ ヌ ŀ 3/ 10 r ヲ 1) 毛 17 1 無 輕 ラ モ 218 テ n V テ 力 P = 7 1 學 力 7 益 ~ 7 t " ナ 1 ŀ V 1 111 IJ)v キ 1 ウ 力 IJ シ 1 ---V 10 -背 言 目 7 3/ 3 7 テ 3/ 1 1 ٢ 或 側 事 上 ヲ 力 ナ 1 3 = -7 モ ラ ラ 勿 殊 厭 サ 1 撮 7 1. 7 = 1 E 立 道 ズ、 論 IJ ス 當 仕: ラ ズ 丰 = フ 3 役 IV 理 ~ 3 モ ナ 事 IJ ·p ツ + 其 テ、 羡 イ ラ 起 人 工 V ウ モ 1 丰 1 ~ 文 片 力 害 1. ズ 1) 1 = = ス -思 -H _ ナ 盲 7 T モ V 1% 1 誠 别 フ 1 IV 1 久 110 V IV ナ モ 3/ 草 -깐 心 1 ナ ソ 7 7 1 110 7 3 V 義 父 丰 テ ヲ E V 1 1 1 110 IV ^ 內 --兄 和 P 理 多 _ 1 1 1 1 1/4 ッ、 ッ、 H 目 今 朋 漢 何 = 心 1 3/ ガ 4 農 古 4 事 3/ 友 小 IV V 1 V 1 民 寒 ソ × 所 210 撮 今 1 7 1 汉 モ 3 謂 當 IJ 司 世 容 + 風 V ス 1 學 類 深 故 轍 界 易 或 心 1 T E 7 = 問 政 ソ 毛 _ 7 3/ V 1) ソ 1 = = -甚 義 至 差 叉 = ナ 1 1 F ۱۷ 1 V 何 y, 云 本 (. 多 +" Ŀ IJ 1 圖 理 毛 25 力 業 役 テ 其 ナ 牛 モ 3/ ۱ر 久 ケ 薪 y, IV 1 ラ 本 ŀ 人 1 3 ナ 人 13 机 人 ラ 業 撮 ヲ ス 七 1 1 又 又基、 力 背負 今 ズ、 IV 却 = 取 心 當 1 3 1 丰 妨 泥 テ 披 上 1) 1 テ 3 ス = -所 撮 將 サ 何 V ナ IJ b フ _ -r **背秦** 足 1. テ 當 謂 10 棋 ナ 3 3/ 3/ 1 1 雪 IJ 學 "" 却 ヲ ラ 7 w T モ +1 フ 力 問 フ 12 又 1 3/ E テ 7 ウ 湯 學 文 始 テ 自 3 3 ~ 1 1 1 -云 島 安 IJ 盲 誹 分 モ 負 117 7 丰 思 3 テ 小 = ス h iv 7 モ 工 23 諧 1 1 テ、 天 是 書 善 服 + 1 ~ w p 1 1 IV F 心 ラ ウ ヲ = -如 1 事 ナ 1 三伏 V. 非 テ 1 IV r ズ、 ナ 3 1 丰 1 入 書 ŋ 左 云 IV 2 7 1 ~ 叉 極 テ. ス IV 7 70 ご云 b 1 7 3 家 焚 13 論 117 ラ 埶 ウ 丰 7 1

ッ

1

輕

1

3

T

+

1.

IJ

テ

用

E

ズ、

サ

V

18

遊

變

7

事

1

ス

w

者

3

IJ

1

親

族

朋

輩

=

1)

モ

扱

t

-

7

丰

勢

7

IJ

テ、

樣 \equiv F 右 牛 4 1 リ、 理 E 代 休 疑 分 出 -= = 3 1 思 敎 = 1) 風 日 至 IJ 1. フ 1 俗 學 3 ナ ク = 極 ヲ ~ E ^ ラ 1) IV 方 切 丰 ソ 立 >> 1 ブ 近 點 敎 7 V V 上 何 屯 況 1. 1 ッ、 w 方 ナ サ 1 ŀ 7 世 iv ナ 10 t E = ス 洒 = 皆 集 in 7 4 3/ 1 丰 掃、 , 治 ナ 手 V 條 ガ 4 V 1% 惜 急 1V 云 應 3 而 人 w ラ = 務 對 ナ 世: 1) ナ テ 致 ~ NP 2 E D). 1,0 聖 ラ 話 合 1. ナ 禮 之 F ア 數 代 IJ 7 1 セ 樂、射 面 漢 云 1-ラ 年 1 テ 1 1 4 意 -段 = 1111 興 不 1 ノ世 3 古 後 御 奮 道 7 校 = 1 1) 誠 失 書 外 至 サ 1 ١٠ 昔三 願 = 如 信 1 IV ^ -28 孝 數 E 世 皆 ザ 3/ 7 丰 仰 代 出 弟 ナ 7 1 テ 3 七 ス n 1." ノ盛 力 w 隔 7 IV 敎 = >> 1 H 云 P 行 者 テ 7 ^ V ナ サ ケ 1 _____ 世 7 取 方 ŀ モ n 云 條 E 年 俗 行 多 ナ 110 立 世 ナ 名 r リ、 Ŧi. 7 丰 フ 1 n H _ iv v 出 ナ 人 年 尽 1 1." T ク ~ 君 + ラ F* 來 サ ^ IJ ラ 3/ Æ テ 率 华 w 云 テ 18 今 テ ブ ----龍 全 此 相 P 叉 w = + + 宮 度 體 ノ百 ナ ウ ソ V 木 城 年. 年 + _ 1 1 1 ヲ 1." 政 7 五 Ŀ 休 姓 1 P モ ツ = 限 事 町 3 + ナ 7 日 ŀ E 叉 數 人 ナ 年 w = 1 H x. ナ 3 ~ + = 1) = ١٠ 1 D 7 ラ 極 テ モ 3 年 7 3/ 1 n 效 ゲ ナ 樂 7 7 1 1 1 ヲ # テ " w ソ 功 = 7 7 見 界 集 1 ヲ ス T ~ P 時 w + ナ リ、 ソ ŀ ラ 3 r 7 1 云 1. 1% = iv 云 乘 ラ 此 1: 1 1 コ ~ 小 疑 ŀ 毛 ジ 110 1 = 3/ 次 道 r 3/ ナ 同 テ 漸 Æ

0 今 世 1 所 謂 學 H 1 云 毛 1 百 姓 町 人 ナ 1.0 = 21 堅 7 禁 ズ ~ 丰 コ 1 ヲ 論 ズ

リ、 守 今 サ 1 世 v シ、 110 _ 畢 家 .国 竟 事 問 無 r 1 唱 益 3 力 フ 1 = Ł w 者 ŀ 1 益 種 __ テ = k 8 T 王 基 ナ V 1. IV 將 ~ 毛 棋 丰 茶 3 仕 湯 ク 法 ヲ 21 誹 心 風 諧 得 流 E 及 物 同 iv ズ 者 ジ 牛 7 1 1 其 ŀ 類 希 ナ = ナ v テ 218 12 J 眞 貴 .} 贬 義 委 -理 拘 HH ヲ 别 心 ラ 條 得 ズ -テ 論 ソ 目 ズ n 4 通 (0 ナ 身

要 集 間 30 ナ サ w 力 + ラ w E 者 月 ナ n 示 2 3 p w フ 1 主 ワ b 或 ナ E 10 n フ 所 p 又 1 意 出 ユ 力 妨 ナ IV フ 3 T 11 1 = -一月、五 ッ、 ~ ク E 人 IJ = = ŀ 30 3 1 E 1 シ、 納 7 ~3 久 ナ ナ 1 丰 3/ 月、 テ、 ラ リ、 但 合 擇 親 其 牛 w ス F サ P 者 +)-" テ 所 x 7 4 セ F 3 勿 テ、 ウ 华 ウ 大 自 藏 w V テ 7 V 毛 1 論 年 ナ 絕 勢 仕 分 場 晋 異 7 ^ 110 1 役 其 見 ヲ IV 用 禮 力 7 ソ テ 法 1 -両 過 者 IJ ナ 儀 事 來 添 役 1 3 E 喪 月 T テ 7 ٨ +" ヲ 丰 4 1 y = 1 心 禮 = 見 テ 申 7 -ズ 所 1 w ツ 1 一二度、 答 事 立 待 " 勝 ~ ŀ 付 人 3 <u>ر</u> 法 p 談 × テ 手 ウ k カ 力 テ シ、 チ 事 用 遠 合 並 合 又 力 ク 1 1 = E 3 方 相 木 = 此 " 百 = 3 丰 ス 1 1 家 立 等 思 姓 テ 1 7 3 1 耳 IV 市市 ブ 华 道 < ナ r 業 y 云 = 1 13 1 ^ 事 上 中 初 理 ワ 心 然不 座 3 7 = 114 1." 7 1 三三度 #" 用 得 42 IJ = 4E ヲ 1 禮 = 1 (. 數 心 輕 1 暫 IV 時 類 ナ 云 並 E 1 テ 年 得 7 時 1 p 水 -1. 牛 町 1 Ti. 出 役 ウ 1." 30 如 1 尽 力 力 人 1 度 华 集 賤 精 間 此 IV -11/10 H: -小 7 セ F 學 申 F テ 會 座 時 3/ ス 110 3 1 云 行 者 ~ 力 付 " 3 1 隙 力 事 121 1 或 水 4 叉 定 y IJ 取 牛 1 テ 1 -モ 43 次 1. 手 造 1 x 强 ŀ ナ 1 セッ)V 1 T ラ 1 時 夫 教 西斗 小 元 IJ ス n ス テ 3 役 210 3 1 -= ナ 西 法 43 テ 1 ~ 1 サ F P テ、 多 Æ. 嫉 ~ シ 1. 7 7 時 1 21 ハ、ワ テ 3 シ 云 加 定 深 相 + " 17 1 ヲ 耳 內 内 サ × 油 談 Y フ ク 丰 1 丰 别 テ 近 ヲ サデ 請 間 ラ デ 决 = ~ -何 フコ 條 ク 力 (. 小 感 場 答 7 21 モ 3/ ___ 力 深 段 ナ ズ 43 -1 云 -7 時 = 云 毎 E ク ク サ 時 ッ 節 b E 3 モ モ 論 義 + テ 何 以 ナ H E E to" 1 1 -多 111 力 小 又 集 下 ラ 1 出 ズ 半 V 久 3 老 物 w 力 ヲ ス 4 1 in = IV ス IJ 力 ズ 合點 通 ラ ス ~ 分 毛 1 テ 品 休 ~ テ E ッ、 早 妨 ザ 人 ル 3 通 モ 息、 モ 3 1 1 肝 7 屈 行 IV ス ス ナ -

I. 1. 爲 n 盗 樂 人 テ、 + 法 3 110 1 夫 = H 力 贼 底 度 毛 = + 兩 __ 古今 1 T 1 ス r モ コ 人 ナ 耽 人 H = 村 多 w 心 殺 n ナ IV V IJ 1 IJ 1) モ = ~ ナ 3/ = ナ ラ 3 3 テ 懲 云 V モ 物 1. ナ 家 3/ 3/ V ナ サ 又 水 y 及 + 勘 3 語 云 ソ F" テ 1. 業 1 /B コ 又 IV j 辨 叉 內 7 F 1 1 1 毛 ソ 1 ヲ 時 E 以 百 r ス ナル 骨 根 出 3 2 國 ツ = ١٠ ŋ ~ w 姓 來 p 1 元 所 1. E 1 ホ 上 外 ~ ナ ウ 3/ 教 7 刑 21 1, ナ 惡 X , 1. 教 叉 シ、 -1 b w 1 ラ 事 罰 __ ズ 迁 叉 長 ウ 類 3 -ナ 誠 町 云 7 ヲ 姑 ワ 遠 7 或 1 1 毛 1 丰 + ス = = 加 ク H" 淨 丰 ナ 1 = 2 征 中 風 Æ .25 IV ~ -7 1 IV ナ テ 月 + 僞 ŀ = 俗 N コ 端 养 ŀ 1 7 = 23 1 ハ 政 人 7 1 ŀ 7 僧 理 r テ 中 事 ŀ 事 H 必 云 云 所 ッ ナ 必 1 力 = ナ ス 3/ IJ 1 ŀ = 談 IJ ナ ラ ۱۷ -30 1 ン ナ 3 ク 3 F 2 會 = 議 親 或 25 牛 又 1 U 丰 テ 1 集 = V F: 1 モ ヌ 3 故 殺 3/ F 力 3 1 如 出 分 サ 28 3/ 3 丰 ヲ ナ 3/ 丰 云 T ダ 講 . ス -7 生 來 外 ŀ T 所 水 ۱۷ n 概 F w ス 談 ナ 夫 V w 3/ 1,0 1 1 ズ .25 ^ ナ 殺 榮 コ w IJ ツ コ テ 云 ッ* -NA ラ 耀 猫 1 21 毛 丰 1 3/ 毛 1 サ 隙 サ 甚 云 ナ 117 1 ナ T 大 E 1 ヲ V 町 7 今 テ 人 リ、 事 3/ 1. E 3/ = w 210 1 費 難 ---1 ソ 博 盗 = 云 丰 テ ~3 1 村 道 サ 殊 3 ケ 1 テ 毛 モ + ス 奕 3 ノ内 足 敎 V V 今、 E = T 1 ナ w 7 食 家 7 110 F. 無 in シ r 類 犯 IV IJ E 勞 -毛 1 ラ 益 H 1 = IV 1 7 3 ソ E テ、 所 3 何 云 本 者 ズ 1 ŀ ١٠ 不 制 1 3/ 事 為 テ 義 -3/ T ッ V ヲ ス 或 老 迷 諸 經 ラ -1 7 w 工 w ヲ E 村 分 感 ソ 如 書 行 或 犯 3/ ズ ク p F = テ 穿 1 ŀ 1 ク ヲ = t ウ = シ、 同 者 所 身 ナ E 俗 ス 多 整 3 = 1% 30 両 1 IJ 講 ナ 叉 ŀ 話 V w 1 V 7 3/ 7 人、 內 = 談 事 爲 セ IV テ = 1 21 F 妨 小 ナ 事 見 飲 3 講 7 T ___ ___ IJ 1." 何 家 3/ 1 釋 町 酒 E } = w 汉 テ 7 ナ テ 6 1 ナ 遊 i 28 7 水 ラ -27 V -

ナ 1H 段 ク 21 3 + = F 1 别 條 = 論 ズ

0 中 百 姓 HI 人 T デ モ 教 w ŀ 云 世 話 ナ 7 テ 1 ナ ラ ヌ = h 7 論 ズ

・テ、 210 + IN T ナ 1) 者 = T -ッ、 114 時 3 + 7 餘 7 E 1 7 110 教 1 ス 力 ŋ ナ 主 義 7 力 ガ 21 ナ 1) 食 + ナ 叉 意 1 リ、 ナ 1) 邦 ッ、 學 7 2 百 フ 7 ナ 1 丰 = 古 義 ナ #: テ テ 1) サ 行 開 ス ワ 今 叉 理 ラ 用T 1 1 V + w 4 y 1 今 腹 决 1 又 A 7 1." 故 セ 毛 久 E H 7 " = 1 カ 2 モ テ = T IJ -世 -痛 テ 却 IV 粤 3/ 1 根 テ 云 7 界 ナ 5 本 邨 校 -テ ナ 2 21 V リ 及 1 セ 1 ス 1 或 丰 リ、 百 1 7 7 w 118 云 大 根 家 者 姓 立 V y 世 今 ズ、 類 道 又 元 = 1 田 1 テ サ 話 1 3 理 政 人 1 3 1 力 1 世 乞 必 IJ 7 ナ ナ Y 1 1 事 -ソ ヲ 牛 = 食 云 今 學 7 -1 .7 7 前 3 1 物 非 テ H 問 妨 テ ナ 外 教 7 成 人 丰 = 世 1 = 七 V ス IV 4: 界 運 E 力 云 ナ E 事 110 ~ 1 馬 E 人 1 セ 云 1 E w ス テ 猫 ヲ 類 ネ T ~ ワ 根 1 1 2 7 ^ 犬 取 ナ 210 w IJ ケ 車平 1 1 元 1 テ 7 1) オ 心 思 汉 サ E 3 丰 多 見 -テ 有 T 力 サ 得 者 T IJ フ ク n " 旣 ナ ナ 趣 1 T ワ = 1 叉 -カ * 7 何 問 = 至 21 3/ 4 フ 見 21 人 又 小 丰 ナ 1) V E 敎 夫 モ ナ p 見 テ 3 E T 1.0 テ 家 役 n ツ ウ = IJ 1 V 1) 云 3 -中 耳 7 7 + 理 1111 7 1 1 1 云 傳 IJ 谐 IV 7 " 叉 計 諸 = ス 馬 奔 = 21 H 毛 1 才 7 牛 1 共 1 同 等 4 考 1 V T 讀 -1 1 ナ 馬 30 = -110 ^ テ " 知 IV 3 力 7 1 7 = 追 テ 見 カ 才 = 7 行、 テ、 猫 里 1 E 根 " w ラ 邀 P E ナ 使 犬 ~ 行 本 V 竟 -7 ナ 扶 IJ ダ 大 ヲ 覺 フ 1 " 3 テ 届 持 7 30 間 大 T 1 ナ 甚 ~ 力 ヲ 切 悪 -ツ 道 テ F IV 尤 7 = in 米 又 事 ガ サ 理 賤 力 轉 誤 全 IV ナ 7 7 7 ウ = ~ 力 ス = 極 ワ 1 P 1 10 合 ラ 者 3 ガ p 1 1 受 ナ 4 110 テ 見 E ツ 1 w 誠 カ E

Special Specialists

段 丰 教 H = 6 17 7 3 1 ラ テ フ ナ 28 リ 急 湛 此 モ ヲ = 3 n 1 = v w 遠 1 推 者 テ 施 テ 六 重 1 1 1 = 移 射 T 牛 1 3 モ 行 -1 4 用 3 E 3/ 7 7 ッ 敎 末 w ユ テ、 ナ 條 17 1 n ۱۱ 終 幷 心 弓 ~ 7 ケ IJ ^ 1 1 = 21 志ア 立 條 輕 人 丰 ラデ = 7 術 E -モ ソ 賞罰 7 ク 1 汉 IV = 7 ヲ云、 23 21 シ 1 V 或 皆 n 人 爲 1 ~ 力 モ 1 Z: 故 法 叉 人 疑 等 人 牛 = = 1 k 工 = -出 人 間 御 ナ E 1 ツ 1 3 1 1 六 , 法 力 界 3 1 ソ デ 4 力 21 3 1 德 -今 7 此 行 車 ナ 1 ホ 1 = モ = 1 7 耳 リ 人 \equiv 1." 3/ 才 别 b ナ 運 V ヲ 得 庸 筆 7 ツ 力 4 = E 4 7 テ、 3/ # İ サ ス 條 ク テ w 1 テ テ 愚 7 力 n 夫 嚴 ラ -テ 7 w 丰 ナ 以 フ ---1 1 者 14: ~ 7 如 y ラ ___ 1 力 3 テ 久 1 = -質 IJ ラ 法 此 IJ テ 或 1 3 ス ス ヌ = 刑 テ、 論 = 7 = ~ ~3 テ -ク 1 E -V 罰 敎 人 ナ テ テ 1 牛 誦 3/ ズ 1 = = 1 古 y 1 7 王 T w 4 屈 V b ナク 分 テ、 テ、 = 經 必 110 日 1 -F 3 ツ 故 聖 Ŀ ナ 書 本 テ、 ツ ۱ر V テ、 今 心 リ 德 其 人 如 ŀ 1. 少 = 7 queto Speciality 講 諸 ソ × テ 1 此 ツ = 3/ 25 1 E 六 甚 勿 . 立 或 = E 牛 ジ、 1 ズ 內 别 27 行 論 テ 教 IJ 内 貴 馬 テ シ ナ = = 7 -議 付 玉 叉 リ、 T w 及 别 テ 7 テ 術 V 相 論 德 亦 w 時 身 21 シ E 10 21 3/ ヲ 反 學 書 議 書 以 3/ 講 = テ 力 テ 少 1 ŀ ス 法 引 物 論 此 得 校 + 索 ナ 行 3 1 テ IV 六 文 1 年 ス ツ 1 討 ۱ر 難 ク 7 1 1 者 意 字 别 字 ク、 制 ti IV ケ 究 行 ヌ V ハ 21 ヲ 度 + テ 面 故 本 ナ 年 ス F 1 = 必 -リ 意 酌 _ 7 ウ 1 w 云 1 行 ナ T ソ y 取 目 Ŀ 過 味 ツ テ --E = 1 V 稍 數 4 IJ ズ = 7 V ~ 1 ŀ 毛 4 テ 速 師 朝 易 變 合 J.* テ ヲ ナ 3/ 7 1 ッ、 行 算 點 テ " 重 E -汉 Ŋ ク 1 1 問 末 法 フ 1 風 w 1 コ 7 3 3 刑 車 益 答 引 サ テ、 ~ 者 テ ナ 行 俗 ナ V 罰 ソ、 リ 立 ツ 牛 ŀ ス ヲ 7 1 E r 段 第 ~ Nº v 厢 ナ n テ ŀ ソ ツ = 今 難 本 友 サ 力 1 w 1 × V

經

世

談

卷

之

六

辨 7 7 睦 和 ヲ 別 時 敎 ET. 1% ズ、 テ、 ソ 21 ラ \equiv 1 E V 1 7 1 ナ 1 文 ^ 肋 な 字 30 w ケ テ 3/ 1 サ ソ V 7 柔 義 ケ 丰 ヲ 25 條 自 3 v v 1." 3 F 1 和 六藝 w IJ 然 末 7 1. (. b 云 1 毛 -ナ 7 1 = 1 _ E 3 3/ _ 1 律 n 云 ナ 聖 義 ス 1 テ 風 11 1 1 t 0 睦 義 ~ IV ナ 委 云 俗 1 理 -1 7 仁 牛 IJ 今 ~ 7 HHI テ 重 25 = 21 ス 7 ッ 德 親 中 物 禮 4 IE. 丰 = 30 = 1 1 -1/-" = 行 類 3 IJ 事 ワ 樂 ソ 日 至 = 3/ ズ 7 本 狀 射 = ・テ テ ツ 1 y ク IV 1 ケ 1 云、 上 人 " ヲ 2 義 ヲ __ H 時 丰 御 テ シ、 云 17 書 條 本 ツ 理 -= 汉 11 1 謠、 行 I 數 數 或 7 サ 7 得 或 w 1 義 狀 取 六 所 30 力 夫 ナ 千 家 3 テ -淨 ッ、 ナ 固 考 明 德 何 歲 1 丰 E 1 -謂 瑠 德 質 リ、 方 7 E = ^ 21 ナ ŀ ヲ 訓 璃、 , -云、 益 知 計 -1 ŀ ŀ w _ ^ 禮 本 ラ 古 テ ヲ 1 1ª ヲ F r 1 知 三絃、 婣 學 " ヌ ス 7 今 云 1 E 1 テ w 仁 小 義 ヲ 7 手 ク 20 IV 1 ダ ~ -聖 云、 等 緣 云、 ヲ云、 事 今 行 111 本 IV 丰 流 義 大皷 原 昔 ナ 類 世 モ ス 1 v ١٠ 忠 孝 忠 ッ 周 人 テ 1 = 3 3 ス ナ 和 ナド ッ、 決 知 禮 2 21 ŀ IJ ~ 1 1 ナ 式 恤 親 或 7 رر P テ 珍 7 + \equiv " 實 1 同 7 重 殊 物 家 1 = オ 25 力 コ 類 如 人 3 義 IJ 3 ジ IV ス ソ ŀ = -1 ナ ヲ 厚 テ 教 質 シ、 丰 ク ~ IV / 吾 t ハ v 事 r = 7 フ シ 物 ヲ 日 ナ 益 ッ、 1. 樂 ナ IV 21 F ^ 1 3 21 力 本 r 仁 リ、 六 E V n IJ IV ۱ر ヲ 1 IV 1 面 任 云、 行 周 3 1 3 力 7 w ۱۷ = ソ 自 惠 ŀ ザ 事 土 禮 1 25 1 1 F 3 忠孝 1 賴 0 親 ク 3 1) = 3 云 ŀ 地 1 絕 制 組 テ 友 ナ 切 IJ 法 3 テ テ ナ 風 孝 作 貧 甲 仁 ナ 1 7 深 1 1 シ 俗 1 友 ノ主 窮 蓼 兄 表 知 義 周 シ 7 7 7 七 睦 弟 惠 3 孤 T テ 公 1 ŀ V b 1 婣 底 意 ヅ三 成 テ 弱 1) ナ P 天 1 7 ス 3 任 ナ テ 云 IJ E 下 1 3/ + = 7 30 恤 大ニ 義 物 遙 人 ノ人 1. 次 ヲ ウ ナ V -= ナ 理 7 1 3 云、 " 3 ア ١, " ŀ y, 殊 ヲ チ 勘 云 1 ス 7 w ラ E

thi 學 y Ŧ. 住 間 フ 京 者 7 7 取 渦 " = 1) テ ソ V. 段 1 n 七 7 +} H 7 丰 _ ŀ 1 松 = ۱ر 前 7 松 テ 花 前 7 工 デ 7 國 3 時 家 IJ モ E 工 27 -미 大 與 ク 害 JII ŀ p P ウ 7 云 經 IJ 7 = テ、 チ 1 デ 段 ガ E ソ 7 フ k 1 = 1 3/ 京 ラ セ IV ジ -7 ٠١ ナ 1 7 デ 1 7 \exists E ナ 1 1 IJ ナ 丰 ス リ、 7 丰 b サ 北 故 打 -V 向 -110 ス 質 F テ 7 者 7 意 住 밆 丰 -25 出 ソ テ、 Ш デ 1 1 봡 ---ズ ~ k 3 デ 8 文 テ 1 -盲 名 テ 力 行 聞 -又 ナ ヲ サ 7 以 時 IJ + デ テ 21 3

オ w E 1) 王 甚 3/ ケ V 110 7 1 分 别 7 大 切 -3/ テ ウ T 1 ナ + 7 ウ -ス ~3 丰 \exists 1 ナ IJ

1

1

1

7

=

テ

>1

風

俗

1

補

1

ナ

w

~3

+

益

11

丰

=

1

7

論

ズ

賢學 義 益 30 ナ 1 7 毛 非 今 .],* 理 >1 港 或 ソ 1 術 勿 1 1 汉 世 論 智 1 ŀ 丰 ス >> 1 諸 悲ラ 解 何 全 肝 7 ~ ^ 0 ヲ 要 丰 禮 方 + 11 1 算 得 教 = ナ ヲ ナ 晤 = E 得 リ、 法 テ テ 7 ラ 夜 1 IV 立 自 モ T 7 -7 ズ 叉)组, ラ ラ w 提 1 b 1 1 詞 校 1 殊 木 云 力 ナ 熔 马 法 1." = 1 7 = V -= 馬 今 敎 先 1 7 1. ŀ E >> 刀 7 -~ 1 ナ 1 モ ___ 槍 筆 諸 云 讀 间 7 ス V 等 書 " 或 _ 1 汉 テ DIV 1 1 多 學 T 講 ソ ナ 10 藝 ラ 學 間 121 V 7 1) = ヲ 校 テ 7 ツ 1 H ١٠ 21 1 敎 道 經 IJ ス 先 7 = ----IV 所 書 節 加 17 7 モ v b モ 肝 7 7 7 " 7 ス 丰 P 以 講 講 11 第 要 以 ~ ッ、 解 釋 テ、 テ + ---V ---學 3/ 3/ ス 3 ズ 何 義 テ ソ テ w 間 3/ F V 告 古 理 7 テ E 凌 モ 淺 深 X 行 b 7 1 ソ 智 ス 深 V 1 17 1 V 聖賢 慧 段 ~ ヲ 說 ヲ 7 1 試 キ 丰 ヲ ヲ b 王 ノ眞 定 胚 F Ł 7 ? 力 1 ラ 3/ IV H 求 1 用 或 意 P × w 丰 = 17 T y テ、 ヲ ハ 1 12 1 iv 詩 諸 得 416 同 7 7 質 作 牛 竟 1 ズ 1 ジ ŀ 意 行 文 1 3 ナ 1 = 竜 高 偏 7 テ、 V ナ 1 テ、 IJ 悲 心 等 F 1 11 得 7 說 1 モ 1 久 論 I. 瘤 木 -サ ス 1 10 拙 テ 書 ~ 211 ズ ソ テ 3 講 穀 1) w 丰 7 ソ 論 平 全 = = 1

111

长

界 矢 夫 何 地 牛 77 何 于 13 3/ ユ ソ -30 テ ガ ナ 事 1 T v v ŀ 1 = 毛 -為 111: 泥 天 内 1. ŀ 7 ソ ヲ 挑 -= 道 界 ナ 忍、 相 7 = -久 久 1 E テ 1 1 違 女 極 ラ ナ 至 丰 ガ 反 = 10 = 1 2. モ ナ 4 意 至 ~ IV H ナ ク 此 ナ ナ ス IJ 37 ッ テ ラ w n テ V 前 1) -7 1 1 = 心 平 思 處 1 '見 1 テ 入 又 工 210 1 1 1 . 首 云 故 及 IV 1 日 21 フ ガ 1 = 倘 -朝 尾 ナ テ ~ 1 毛 = ジ 1 -以 白 , 眞 夕 金 -モ × IV 工 ^ 3/ 1 1 テ言 只 實 = テ 身 身 18 人 ソ サ ナ ク 江 ヲ 真 = 神 1 ウ IJ 時 1 力 7 1 ヲ 語 L 戶 眼 道 夫 考 心 ラ 取 > ラ ス 1 道 -身 H IE. ^ 力 +" シ、 V 毛 テ = = ^ 斷 テ、 君 本 直 E ヲ 1 ラ 1) 110 1 3/ 1 1 精 橋 大 ツ 返 家 客 直 1 根 = --2 = ナ 3 7 V 1 7 魂 1) ヲ 事 1 元 V 1 1 テ、 忠 身 E 本 w × ガ 1 E 3 ^ ヲ 10 差 テ 計 中 111 勝 覆 IJ 2 1 b V 7 モ 僞 會 别 " 傾 手 テ E 果 3 ス -ス 1 思 立 城 忠 ナ ナ テ 3/ IV = ユ 意 ス -6 或 ツ 牛 丰 丽 ラ 1 1 至 ク ナ 臣 Y モ P 末 テ + 7 to 1 ラ ヌ 1 w 7 = īī IV 爲 南 至 ゲ ズ 未 ナ ウ 力 w ~3 3/ 1 3 ~ 事 ゲ 極 F 1 練 3/ 1. テ 1) --= 3/ テ ナ 7 君 ウ 向 ス 3 3/ 1 1 1 フ 13 V 1 3 或 P IV 親 ナ ~ モ 3 1 1 爲、 リ、 實 汉 神 家 1 テ IV 110 w V T 7 = -根 事 ナ p p ラ 11 モ 1 = ウ 1 ッ、 , 北 守 心 テ ウ 元 ソ 丰 7 1 1 ~ 7 具 ラ ソ 云 テ = _ 1 7 7 V 3 1 间 眼 皆 3/ 1 1 ナ IJ 刀 " ス モ -久 1 不 管 老 實 フ 力 1 7 7 P 1 ク IV 力 1 者 爲 云 用 1 IV 心 1 意 ^ f 3/ 20 V -差 7 夫 ナ 1 3 モ -IV 1) 110 = 3 1 僞 -别 1) ナ 身 如 ナ 1) 1 丰 7 又 傾 云 7 亦 出 ヲ 丰 = IV ユ 1 7 110 1 城 リ 此 以 聖 13 11 = 1 力 テ V -^ 同 1 = 諸 7 テ 人 客 1 1 IV y ス 1 1 3/ 30 テ Įį, 導 -見 事 1 1 3/ -7 IV 10 1 = 马 人 ジ、 V 7 ス ラ w 3 テ ソ モ 仁 = 1 道 矢 110 1 w ズ ~ ナ テ 義 1 V -P , 南 + 7 in ナ 7 ナ 7 1 3/ モ テ 1 1 天 盡 世 弓 -21 ナ 丰 ス ス 毛

下 1. 今 心 ガ ス 3/ w V E 21 ヲ 及 1 F F 見 如 w 110 1 E テ ŀ E v 1 3 人 統 人 切 學 云 ^ w ク、 ソ ١٠ ヌ IJ = 何 支 表 術 p 出 ノ人 モ 1 ス 218 = 目 V 丹 親 見 痛 ナ 力 ウ ヲ _ w = = 人 -17-心 ケ ザ 誤 ナ 力 ヺ Ъ ŀ 1 2 E 聞 毛 仇 ヲ #" 所 V 1) 3 7 王 V イ = IV ソ ッ、 引 多 テ、 < 18 ツ ケ 1. ヲ ヲ ^ 聞 1 力 撫 ク、 立 IV ク 1. ウ 毛 甚 ク、 7 人 P 合 i IV テ ツ ツ U E ٠٠ 3 治 ウ 自 ŀ 目 點 ソ r 丰 ガ E 1 ズ 17 何 然 道 w 云 力 如 2 人 = 1 V 人 3/ = 思 人 聞 #" IV ユ 七 ۱ر 3/ X = ガ 7 力 モ 僞 誠 誠 心 7 ۱ر w 7 E 10 相 ラ セ 堅 世 叉 9 ナ 7 = 1 = 1 = ++" 手. E 叉 ナ 治 白 7 ١,٠ 空 ヲ ク 1 ガ ノ w 善 = 禁 + 人 腹 本 道 人 = モ U ١٠ 21 F 事 E , 砒 1 2 1. Ł -ズ 3 1 1 il 丰 云 ヲ 暗 時 霜 深 ナ ^ IV IJ 力 1 大 行 I -總 班 ク IJ 丰 = T p ス ス 畧 1 フ 畢 了 猫 義 食 w 力 ŀ ツ + 7 ジ 7 テ、 ٥١ 故、 竟 簡 今 事 パ 1 テ 1 理 又 V ス 誰 偽 毒 故 惡 1 人 7 w V 力 又 IV = 大 切 心 シ、 義 F _ = 1 事 1 P 狼 ŀ 王 害 支 賞 云 得 理 Ħ 1 = ヲ ۱ر 云 病 3 丹 美 渴 ŀ 毛 丰 r ナ ŀ セ ズ ヲ ラ ハ ッ、 ナ 1 犬 IJ = 又 ヲ セ 丰 ツ 1 w ナ 見 テ、 恐 思 ラ w ナ テ 1 久 汉 1 1 リ IV 1." サ 云 IV w 10 w 2 7 1 = ワ 時 ŀ 者 IV ヲ 111 テ = 1 n モ = ŀ 名 恐 情 ガ ŀ ガ 咽 7 ナ 3/ Æ 1 1 1 ナ リ、 聞 力 ナ ナ 如 ヲ 木 デ w 物 ガ ヲ = ッ、 合 念 意 IV ク ク ŀ 1 態 ヲ V ウ 1 總 7 ヲ P 求 點 ナ 110 願 ヲ w 7 --丰 イ 名 IV 達 3 主 ゥ モ w ガ ホ ŀ ス 7 力 聞 大 ~3 テ 意 心 イ w ス ス --3 者 = 實 害 ヲ デ テ 7 丰 3 w >> 3 モ ŀ ŀ E 7 意 以 思 老 1) 力 ٧٠ 7 ス ----+ サ ナ デ テ w 練 出 ヌ ナ 30 力 3 ۱ر ク V 引 w n テ ク、 1 1 1) = V セ IV 7 - > 11P 名 出 立 木 ヌ 1 1 13 コ ŀ 丰 7 ŀ 名 大 聞 如 所 ナ 110 3/ ナ ŀ テ V 2 = 害 y 骨 何 ヲ IJ 聞 ŀ ヲ --ヲ ス 210 ŀ 古 求 ŀ テ、 力 IV 珍 1 ナ _ F 1 人 云 徹 Ŀ ナ 思 ク 重 4 N 3 3 V モ

經

同 ナ 諛 物 ソ 1 = 心 テ -, 7 心 云 ŀ 禁 覺 引 得 主 ナ 功 撮 1 役 ラ 面 調 3 3/ 朋 從 ッ il V IJ 法 意 y 者 令 當 ヌ 7 遣 學 E 3 w w 毛 -1 ガ 方 b 事 テ ソ ナ ナ ナ 問 + 3/ サ ケ 1 1 3 1 3 出 交 1 IJ 7 1 1. 7 7 1 1 1 -力 y 註 外 世 3 世 仕 テ デ y il ガ デ w F 1 嚴 父 得 7 即 話 立 大 調 -モ 文 = 3 今 多 通 テ テ、 4 ナ 法 密 F = ス 1 世 叉 ナ サ IV 毛 力 w 丰 V 1 E = + 辈、 人 行 面 IJ ボ ナ 漳 1 21 __ ス 1 ッ、 ッ、 テ 人 4 フ IV = 4 ŀ 面 21 ス モ 皆善 多 家 ~ 1 1 ナ 10 4 力 1 1 3 il 君 者 テ ソ 7 # IJ カ 3/ + 1 = 仁 道 不 年. 1 V 1 21 力 20 ソ 7 7 7 ズ 4 底 欲 或 右 仕 勝 義 11 1 ウ 1 -F w 諸 -家 ノ調 害 ナ 主 手 忠 力 -立 ス モ 從 意 7 ラ 老 1 1 沂 T V 久 1 = 式 子 自 及 フ 大 世 ナ 法 IJ 1, + 7 2 1 1 事 テ 害 者 然 道 ヲ 合 to IV 210 = F モ 1 或 -點 敎 至 ヲ 1 云 ウ ŀ ガ 3 又 1 = ッ 要 家 ナ 仕 ソ 毛 全 7 ^ " ~ 3 セ -木 リ、 デ 人 出 1." 12 テ 1 X ナ ヲ 17 y, 民 實 眞 人 = 毛 1 ス モ 11º 1 ス 25 1 , 世 ナ 猶 ~ = w -ナ 1 3 1 1 雲泥 害 後 ソ F 淺 話 者 耻 ラ _ ガ ラ 學 ズ、 及 1 -シ、 ス 力 ヌ 生 丰 = = 21 テ、 調 校 小 V. ナ 30 天 IV 21 3/ 1 1 目 古 子 淵 者 全 IV 法 7 + = w ヲ 毛 武 今 者 3 體 ナ 心 心 = 人 立 何 1 1 1 y, 違 1 ヲ 家 叉 ナ 1 12 力 ガ = 3/ 1 V ナ ナ 3 仕 y 1 ナ = 風 ラ = 1 家 ッ、 沂 IJ 1, ナ 立 長 右 テ 俗 = 毛 セ 毛 ラ テ、 義 義 IV 業 世 ラ > 1 V ŀ 牛 1 -ズ、 殊 前 理 ナ 月 通 命 E 理 -= V 兄 合 テ ヲ IJ 日 ヌ 1 IJ 力 manth describe 1 = 百 名 弟 33 力 義 セ モ セ 110 テ = p ス 1 テ、 -第二 合 千 聞 ウ 夫 -^ x 理 7 21 年 實 善 段 點 婦 テ 7 テ 7 モ = 30 文 厚 親 E 1 求 1 人 4 ナ 丰 = 1 3/ 21 症 間 後 實 多 7 ナ n 7 ラ 3/ IV 3 ナ -世 時 ラ 7 心 兼 意 テ 7 = ソ セ 3 F IV デ 備 ナ テ 又 3 7 久 丰 1 工 T 3 -惠 役 ツ E E 1) ナ IJ 次 E + w 7 ^ 思 出 1. 上 人 = 1 2 出 1 10 3 1

誠 導 大 = 明 後 テ、 = V IJ 4 1 -I 三人 君 テ、 成 丰 E 沂 -テ V 1 = ガ = 年 リ 皆 臣 ヲ = 全 希 玉 1) >1 3/ ١٠ 倫 諸 治 備 ナ フ 終 義 ラ 上 ソ テ、 力 テ 意 文 國 x F = 12 IJ 也 理 ズ 1 = ハ テ 法 運 _ 敎 -7 人 3 1 ス _ ŀ h テ 得 段 衣 制 至 to Z ナ w 加 7 E 云 學 食 自 b ラ テ 4 110 Æ ヌ E _ 校 云 然 力 ズ 未 _ 事 下 テ、 7 1 詞 足 7 IJ ٤ 7 = ヲ ヲ -コ ___ ソ 立 1 勿 ラ ラ 覺 潤 ス = V 3/ Z 1 2 チ 論 テ 7 ケ ラ 統 7 ジ 3/ 7 法 ゴ 心 ガ 聞 手 1 " 何 汉 ク セ 1 >1 L 制 1 ウ 其 學 風 本 力 IV 人 ス 及 IV 力 V Æ モ p 校 ズ、 F 士 俗 ラ 臣 + ŀ 1 備 n ナ F ウ 學 民 7 IV ガ ヌ リ ガ 1 3/ ŀ 7 ナ 校 備 云 ヲ 為 テ、 專 ナ 7 7 ナ ŀ コ v 敎 ~ 要 IJ ナ IJ V 1 _ ナ 1 風 1. 牛 テ ^ 面 ナ 7 ナ テ 岡 テ ラ 工 リ、 俗 モ 敎 導 リ モ 山 ハ V 4 又 ^ 或 1 t 誠 -義 大 7 15 110 ^ 1 モ 補 家 1 學 7 理 H テ 且 = __ ソ 1 力 IJ 1 1 1 忠孝 校 x 大 行 IJ ヲ 1 别 V 强 ナ 此 デ 所 切 高 條 = 7 3 1 1 リ、 1 3 彼 仁 政 久 行 恐 7 Tuesda Tuesda V 位 力 Æ ナ 1 治 11 義 テ 丰 或 3/ 1 E IV ۱ = ナ 1) 或 論 此 ラ 上 風 1 7 家 ヲ I 1 1 `` IV 家 方 道 助 俗 ŀ IJ 力 木 = E ズ 1 義 べ -ナ = ナ 及 7 w 1 1 ク 大 ラ 110 理 牛 大 3 助 ナ 1) サ 丰 脉 111 3/ ŀ 1 Ł モ 盆 7 ŀ 7 ラ w 世 ズ、 水 1 7 V ダ 7 云 1 T サ + 丰 1 リ、 = 受 話 (3 3/ ヲ ニテ 王 w 人 ナ V w ŀ 7 2 3 テ ナ ッ、 ~3 1 1," リ、 ユ 4 w ス 7 E ŋ -1 7 -丰 多 モ 欲 ソ 終 ŀ ~ ナ 1 ガ 真 是 3 總 テ IJ 身 孟 心 1 身 ノ、 ١٠ 力 7 ク 思 御 勝 肝 IV = 或 7 テ ジ 子 1 1 心 當 テ學 古 ~ 安 要 心 家 1 1 ۱۷ -手 得 聖 代 A 丰 w ナ 樂 ス ス 7 1 1 1 V 御 人 校 治 君 ラ 主 力 ホ 11 7 3 214 ^ 11 治 1.0 意 幸 1 IV ヲ デ 1 w ズ、 力 民 數 世 限 相 サ 人 大 -皆 覺 ヲ 1) F ヲ 人 細 T 云 引 V 殊 君 w -ヲ 1 所 敎 テ、 1. IV = 张 3 力 __ ゥ ŀ 1 = 弘 卡 國 ^ SII ナ ٨ ^ ŀ IV モ 1 V

經

世

ナ 奢 3 ス 根 ソ # 移 3 7 ---3 IV 者 IJ 7 IV 元 1 俗 V = 1 = 禁 質 心 ウ ホ テ 7 3 1 = 又 7 教 甚 1. IJ 令 力 1 素 p V 3 面 奢 飢 7 サ 1 H 木 110 7 ウ 7 曲 寒 取 力 il 村 守 V 1 7 折 -110 ナ = 力 テ IJ r 考 者 r ナ ナ --7 理 セ + V 3 " ラ IV 28 IV n 豪 後 考 110 + 7 IJ + ヌ 工 7 コ 傑 勢 w 3/ 1 テ 1 4 ~ ^ 1 E -テ 1 云 _ 1-T 3 ---モ 窮 何 至 1 7 7 云 出 テ " 禁 -奢 心 自 テ IV ス 迫 木 ~ 來 分 1,0 得 奢 ~ 7 7 7 然 丰 IV 0 考 ŀ テ 撮 T 人 又 P 2 = 1 = , 當 永 ~ 1) ・ユ 世 T 1 x ---P 今 ~ テ、 久 w t F テ = +" = 3/ 隙 111 世 1 難 1 力 7 丰 テ 備 ワ 質 ~ V ---丰 モ V P 天 ナ 3/ 1. ガ 素 多 所 1 IV K ソ 下 セ 7 7 力 モ 力 7 ヲ = V 7 -サー 1 1 サ ス ラ E F 3/ ٧٠ 叉 T IV モ 汉 ~ ナ IV ズ 1) To 3 . IJ IJ 及 IJ = 1 10 = テ 17 サ 後 内 0 百 1 1 ブ 1 数 ソ 毛 語 ~ ナ 其 人 T ユ 1 E 7 V ワ -^ ツ 1 7 ク IV 1 (-3/ 云 V 實 + 中 ケ ナ IJ V 110 毛 獨 終 下 九 ラ = 1 1 IJ テ 1 1 九 奢 賤 世 禁 汉 + -又 才 T 21 7 餘 俗 1) 法 V 28 1 w 7 3/ デ 衣 身 下 F p p 力 1 テ T 1 食 ウ 1 2 th ソ V 20 = w 7 義 加 1 7 -テ デ 3/ 7 T 3/ NA 此 -源 IJ 1 3/ 1) 理 E モ IV 1 テ -ナ 1 " ナ 所 r 思 ソ 1 7 y 罪 大 ス 1 3/ 3 ~ 3 フ 3/ V 名 13 ヲ 3) 丰 = IV 7 モ -上 杖 + ソ 1 義 故 7 高 ŀ 1 ガ 貴 Z E 7 V 理 1 云 ヲ = 1 旣 撮 1 " 工 V 7 力 7 " 1 3/ -鼻 當 = モ T ラ + ^ 3/ ^ 1 富 答 乏 目 ネ IJ IJ ナ テ 又 7 1 111 先 前 ヲ 者 1) 世 3/ 7 テ 3 v 樂 7 1 1. 3 モ 210 モ ズ

0 載 中 學 問 1 世 話 ス N -格 别 1 心 得 r IV ~ + 7 1 ヲ 論 ズ

ヲ

失

ماحر

又

-

7

w

=

1

ナ

y

0

w

E

ナ

7

義

3/

ラ

又

7

^

=

ソ

1

富

ヲ

失

フ

=

窮

迫

-

至

w

=

1

ナ

V

110

今

1

急務

21

却

テ

敎

^

テ、

富

禁 ナ 學 1 力 7 7 見 共 3/ 云 in 1 令 > + 者 ~3 至 ヌ 2 ^ = -t-" 1 寒 手 110 w Ŀ ケ 面 丰 近 知 論 y ス 心 世 力 7 P ヲ 7 w 7 4 テ ヲ ズ 得 榮 手 自 1) ウ w 10 " ソ 細 長 モ N ソ 分 華 段 治 -= = 丰 聖 己 井 1 ズ -1 至 = テ ナ ソ 故 45 資 實 = 1 w 1 IV 汉 過 次 ラ 長 洲 25 IV V F 心 ラ 1 1 1 21 第 (-中 意 聖賢 汉 又 2" 云 翁 = ガ 力 3 ズ iv テ、 4 1 ナ = 7 ケ = 1 7 = F 榮 ナ y, テ、 1 1 = ジ 失 ŀ = ŀ K 1 耀 奢 行 ナ テ 眞 10 V r ナ × ١٠ ホ リ、 IJ 1 力 110 7 F V テ #" 大 10 意 力 -却 事 1: ヌ 10 n 略 110 1 ヲ w サ 奢 テ 丰 下 前 得 7 1 = ŀ モ = = 耻 テ、 サ 統 1 V ス 云 ザ ----1 ソ ŀ 今 論 力 ナ 110 ^ IV 統 者 1 モ 1 ナ IV 世 サ 禁 辈 ッ、 故 3/ リ ソ 1 1 ア ~ 心 3 1 テ + 1 人 IJ 3 -= ^ ヲ 1) 昇 榮 却 面 テ ソ 父 叉 得 我 = 4 IV 1 4 如 華 ŀ 面 母 4 テ 1 = 如 邦 ソ 汉 = 久 後 妻 1 1 7 4 衣 ヲ 7 此 1 n -1 2 云 il 子 食 オ 內 1 -3/ 人 テ ナ 1 ク 7 分 7 サ 教 ヲ 說 = ナ 古 y 1 = 21 打 1 底 養 7 甚 3/ ~ ^ E ^ テ ソ E ツ 又 y 守 力 テ 行 テ 上衣 テ、 稀 叉 1) 1 毛 10 1 テ、 ラ 義 辭 里 w 7 甚 ナ 迁 + モ 出 皆 面 食 水 汉 理 賢 = 希 y 濶 學 サ IV 1." 何 來 4 7 = 力 拘 ナ 1 F 問 テ 1 ナ 不 7 書 テ 水 殊 思 3/ ラ w 七 分 ソ # v 1. 7. ラ 自 r 7 ズ 7 = フ E 或 1 7 = 當 = 111 セ 由 iv 者 3/ b H 上 守 ツ ナ ナ 死 テ、 E w ~ ナ 世 2 1 ッ、 -リ 多 w 汉 7 者 V ŀ 3 ス 1 モ 云 モ テ コ 1 7 事 13 ŀ ŀ w E 1. 父 心 奢 1 E ~ 7 ۱ر 1 7 教 情 Ħ 3/ ウ 貧 衣 1 望 n ١٠ r 3 E ソ ヲ = F IJ r 妻子 汉 食 7 7 次 以 港 = 3 ヲ 通 1 1 IJ 1 7 _ 施 年. 意 10 力 テ急 俗 25 達 ^ テ 上 不 1 イ 1 ス ヲ ケ セ 1. = 1 3/ 養 送 屯 セ 3 自 ラ 達 見 ^ = 7 テ E 1 世 1) 7 1, 1 治 E 由 n V 3 ス ス -30 ナ 餘 1 1 E 1 P IV 又 n F 術 ダ 3/ 中 法 丰 心 14 7 義 ゥ 云 テ、 = F 1 10 1 度 間 飢 + 說 1 7 E __ ŀ p 聞

部

n デ w 恥 Æ ナ 3 1 ナ w ŀ V 百 心 w 30 遂 = 世 事 = ク 1 1 -自 -テ Ŀ 所 テ 然 -計 ナ 汉 1 武 + 目 勢 10 運 前 1 肉 ナ 長 題 身 3/ 1) 久 IV 然 6 1 ~ ヲ 勝 久 コ 亦 3/ n F. V 12 3 1 ソ 1 , w 3 云 ガ 本 3 モ 增 1 根 111 長 7 護 論 ^ ス 摩 ヌ w ズ 修 p 故 V 行 ウ 1 110 ノ眞 皆 -= 教 テ 1 言 ナ モ ナ 密 -1) 7 法 或 3 1 家 サ テ 1 長 1 V 云 久 110 4 義 教 3 1 IJ 補 1 理 21 云 1 ヲ ナ 深 E ス w 1 7 ジ = 1 3 ラ 3 夏 1 丰 ズ 弱 教 15 1 身 = 非 4 ソ 體 補 道 端 藥 1 不 的 7 義 用 ナ ŀ ヲ

0 世 1 政 1 7 " 1 ヲ 敎 IV ガ 却 テ 点 粉 -ナ w 所 以 7 論 ズ

25 教 V 統 3/ 衣 1 モ 何 素 in 大 學 食 昔 ヲ v 1 要 3 H T 等 3 說 E 1) テ 此 " ヲ IJ モ 尤 理 -1 ソ 治 力 25 至 賢 端 チ 1 ゲ 分 フ x 極 内 カ 法 相 1 而 H 3 ナ 道 7 IJ = 應 後 -死 1 外 w 7 p 1 -教 ス 信 7 フ 今 + ナ ナ n iv 1 セッ -1 丰 ラ n F 1 ナ + T = ~ 云 又 モ v w IV 家 b + = コ 盗 F, 者 故、 7 1 木 b 1 Æ 治 和 古 冶 1 F. -セ -時 漢 IV 國 1 = V 拘 聖賢 殊 勢 者 古 r 平 ジ IV -= ヲ 4 テ 天 者 治ラ 1 11: __ 1 君子 ガ 下 云 ノ信 鍊》 差 迁 八 フ 1 1 セル 濶 九 别 テ、 定 1 學 用 1 スコ 格 20 ナ 法 者 セ 論 教 ク、 3 言 サ = 自己 サ テ 歷 テ 1 IV テ IV ヲ 拘 萬 1 ソ 4 1 ハ 古 ノ忠孝、 1) 二 水* ŀ 立、志 ~ 滯 ガ 欽定 統 3/ 古 テ、 . w テ 1 聖 學 却 1 教 ヲ 1 ノ詞 腹 老 法 仁 テ ウ フ 7 ヲ ナ 肝 義 ナ IV ~ T 抱 = 1. 要 n ノ道 = 1 " 拘 暇 ^ 1 1 7 = 力 リテ、 テ -急 1 P 1 7 フ 笑 務 ス ラ 教 -1 フ 丰 + 交 テ、 -ズ IV 今 木 1 IJ Illi 第 7 世 1. 信 别 ス 7 1 _ 1 用 = 7 條 ~ 3 -= r 思 セ + V テ -テ 21 y フ 古 論 或 ~ 父 ズ サ ナ 來 ズ 家 テ 7 母: ッ、 叉 V 妻子 治 IV 7 E 1 4 ヲ 治 F ズ ガ MI 諳 = 北 後 如 IV h 1

ガ 貸 欺 先 料 F 金 リ、 ソ ヲ ナ ク ヲ 4 21 美 今 制 1. 時 銀 丰 = 足 7 3 1 1 E 蜚 寒 女 統 ス r 团 テ テ 3/ 3/ 21 1 利 甚 物 下 利 高 倒 ヲ w 王 IJ _ -强 爭 ナ 自 上 7 ヲ ヲ ヲ ナ 及 ガ ŀ 3 3/ 盗 + 然 2 3/ 1. テ ~ IJ 如 2 L フ E 3 ガ 者 見 IJ サ サ サ 水* 7 モ 力 p テ 丰 3 目 高 世 嚴 y 財 木 ウ ガ サ 1 法" 水* 术 1 出 リ、 リ、 位 俗 刑 1) ガ 利 w ナ 7 ガ b 細 7 ホ w 來 7 取 4 大 = 3/ > 云 滁 - 3 用 或 或 民 或 邹 1. 何 1 w 7 フ ソ 事 聞 ^ 類 1 7 フ 1 E 2 21 h 1 P 宮 者 種 剝 = V モ 1 w テ 3 力 7 7 ウ 物 私 ナ 飯 1) IJ 17 +" b モ ガ = F __ = 無 後 テ 取 ヲ = V IJ V モ 3/ 1 1 ナ 怨 ヲ E 7 力 賴 リ、 ナ デ _ 1 ス 又 y, リ、 禁 ヲ 3/ 1 ク 3/ ~ ^ 不 ス = 1 段 埓 ナ 移 抱 ナ ラ 蜖 テ サ ソ 3 ___ ズ 官 統 リ、 リ H 7 IV É ì 1 取 7 + 又 ヌ 多 體 涿 他 リ 途 書 7 1. 1 1 = 人 或 7 久 1 ŀ モ ソ ___ フ --1 1 = 情 盜 人 或 T ヲ v 1 ス 3/ セ 1 ^ ヲ 考 催 人 ~ ク w ヲ -風 木 II 1." 賊 = 21 耻 右 諂 我 者 俗 テ --ナ 地 3 モ 3/ 111 -右 华 ナ テ 役 127 7 7 樣 フ 1 3/ 1 (ラ 年 增 或 君 1 如 ラ 1 中 1 ソ テ 義 所 1 其 7 ズ、 = 17 L E 如 ヌ _ 4 1 賣 爲 公 役 ク T ナ p テ、 行 財 利 7 紫 義 或 ナ IJ ウ 事 华加 3/ 7 7 7 1 頭 理 V 7 工 耻 訴 欺 II 7 耀 21 -1 10 L 權 ナ ヂ サ 欺 ヲ 3/ 110 ケ ナ テ 力 訟 丰 樣 輕 總 掠 力 ラ 威 w n 毛 ズ ズ、 ボ = 丰 111 多 升: 行 メ り、 n ヌ ヲ 丰 工 7 3/ ジ 心 邹 F ^ ソ テ テ ラ IJ 丰 1 1 統 種 或 或 中 賄 3 E 腿 V V T 汉 始 今 (IJ = ヌ 1 胳 3/ 丰 1 1 k 1 亚 者 風 難 高 爲 神 21 時 7 7 テ 21 1 終 竊 佛 取 江 俗 題 利 モ -1 111 -P 1 段 7 -財 力 盗 戶 工 觸 右 = IJ V. 弓 非 義 利 企 事. 人 身 IJ 1 1 ^ V 1 矢 流 デ 段 道 理 力 如 7 7 3 テ E 爭 ナ 生 後 起 求 ヲ 1 11/1 ク ク 1 セ 沙 或 ナ 金 E ク カ 3/ テ × -Va 3/ 汰 游 撮 銀 ガ IJ y テ、 A テ 毛 21 1 或 役 役 1 役 L 3 當 工 7 1 女

經

世

談

卷

之

六

藥 身 取 政 车 ナ ラ 27 7 ヲ ズ = 紙 1 過 增 牛 傳 + 分 ナ 7 牛 又 ス = E 7 今 恙 IJ 7 モ 丰 2 ŀ 3/ U モ 3 チ 1 ~ 月 放 ナ 所 同 難 服 ツ × 同 7 云 1 3 21 埓 7 テ、 增 ジ、 テ、 用 力 DI 教 + 7 30 IV テ 飯 3/ ナ 1 ス 3 ノ身 3 7 ナ 王 ナ ッ、 過酒 今 目 合、 -1) n ヲ 1 心 7 30 1 奢 今 得 ナ 7 -ナ x 毛 = ŀ ッ、 ヲ 國 -ウ チ E 繁 テ、 サ ソ ラ V E 長 衣 昌 過 ナ 中 ソ チ 110 1 IV 合 V + , 上、今、 合 物 ジ、 食 或 點 -1111 V 1. ス 1 7 統 或 (. 家 IV ソノ = ス ヲ 7 E デ 段 過 家 筋 着 1 1 1 1 V r 急務 云 先 者 房 7 E 骨 テヲ 日 ナ 4 1 218 リ -治 il 加 本 1 1,0 ヲ モ 7 ハ V = 終 1/4 後 ソ 7 IV 殊 モ 1 IV ガ 1 1 ナ 仕 諸 V 力 及 3 ジ -ケ モ = = -牛 21 敎 同 1 置 格 世 ナ × 1 1 フ 1 或 7 上下 ジ、 ナ ナ 病 ^ ス 同 7 别 1 X 1 1 110 牛 'n E 7 30 1 7 w 毛 1 1 生 世 ナ ソ 跡 ラ 1 義 1 1 = = -思 テ、 理 ワ 1 ツ 話 y 7 モ Æ 1 ジ ケ ^ 7 ナ テ 力 守 = ヲ ガ ŀ 7 何 汉 ナ IV 財 間 人 天 111 7 3/ V 毛 1 y 7 w V 合、 E 分 用 ラ テ 後 1 = K = テ モ テ r テ 平 事 r 1 = ズ -25 1 ソ E ۱۷ y, 窮 不 壽 隨 ゥ 君 3/ フ il B 足 1 ス テ、 養 ŀ 養 分 チ x D' 命 先 3/ = w 2 = 合 忠、 テ 生 思 デ テ 生 生 祖 7 3 V 7 ヲ ヲ 損 亦 ソ 汉 フ K カ 丰 1 ŀ 1 E 暄 ス 7 ラ ナ 百 親 V 1 毛 1) 10 ス -1 IV 繁 補 噬 テ、 鎗 E 太 人 思 心 IV ガ = 義 平 者 無 榮 ラ 孝 フ ガ -> = サ フ、 深 淺 理 _ 病 テ、 ケ、 今 牛 ŀ 3/ 1 ^ 敏光 天 疵 テ ナ 云 3/ 1 110 丰 U 7 = ッ、 者 ラ 昌 分 奢 叉 3 學 或 7 7 以 7 v ズ 運 負 簡 今 1 7 1 -7 >1 IV テ 壽 il 樂 養 戒 小 ~ ナ ナ 國 世 淨 1 7 ١٠ 長 ッ、 力 命 4 ズ、 2 3/ 3/ V ケ 1. 7 瑠 -ラ 久 1 7 x 毛 ユ 取 教 瑞 1 V E 捐 游 病 勝 鎗 21 7 寸. 3 ~ 1. 25 U 7 7 飢 ナ ナ 保 惰 心 先 重 聞 セ r 7 モ w x 7 = v ザ 3/ 7 7 V フ 丰 = テ 1 セ 美 草 110 IV n 1 = 1 110 セ = 1 子 ズ 老 7 者 ゲ 食 物 イ テ テ 孫 双 ŀ IV

0 中 1 人 ヲ 敎 w 1 云 = F ナ ク テ ハ 眞 1 治 平 ヲ 長 7 保 チ 難 丰 = ŀ ヲ 論 ズ。

姓 素 間 金 力 110 ヲ テ 7 學 何 町 ゥ 食 1) = ガ 又 3 叉 校 IJ 3/ 人 物 w 久 ヌ 木 = 人 ヲ ラ 1 N ス 3/ = ١٠ セ 7 腹 輕 立 -ヌ 良 3 ŀ 爭 E 木 痛 小 丰 IV 知 取 く 多 ハ フ 110 天 等 兒 者 ŀ ク ナ t w 1 1 云 美 分 T 義 = ハ ラ ウ 藥 ・デ 女 モ モ 理 ソ 1 _ 又 モ 人 良 1 1 7 ガ ナ ハ 7 ハ -知 w ヲ ホ フ 1 = 1 世 メ V 7 ダ サ 1 ナ 3/ 7 或 ソ、 云 ノ、 ١٠ = 7 ガ 3/ Ł ŀ 中 番 ア 倒 3/ y モ 1 ユ 早 上 テ 椒 IV 自 サ テ 1 1 ^ 下 7 ホ ク T ク 工 人 V 云 オ 奔 ハノ了簡 テ、 ラ IJ ^ 1. ----セ ヲ w 統 ク 間 テ、 リテ 1 7 Ł >> ソ ワ 人間 1 < 3/ ジ Ξ ノ甚 人 7 4 奮 メ ۱ر 又 = 馬、 倒 k モ 1 ١٠ 敎 フ ハ 3/ サ _ 種 p ノ、 V 人 1 IV 牛 敎 猫 テ ^ 2 ŀ 1 1 h = 1 ヲ 犬 怪 生 云 百 = 云 7 至 施 我 端 ŀ V ハ 類 E v = テ 21 物 ٧, ス w ス テ P 1 欲 大 w ŀ 1 ソ 1 ガ r ١٠ 法 ク = ガ 1 毛 IJ ス 1 1 E サ ナ 違 r 1 テ、 外 云 t 丰 1 リ、 フ p -Pa = 1 色 モ ス 3 y 1 ウ ユ 21 義 廉 1 イ 4 敎 1 ナ 1 理 耻 ガ イ ^ 1 ク 1 猫 智 早 ^ 7 ヲ 1 ゥ **F*** r テ 云 b 犬 重 心 慧 ク 叶 云 ダ E ツ モ ŀ 1 王 ガ 1 7 聞 1 出 E ク V 1 チ ズ ナ 早 ۱ر ヌ ハ テ、 3/ ス ガ w ク テ、 ラ N ナ E ク E フ 心 天子 ッ、 教 E 物 ŀ V 1 力 = 1 ナ 同 早 ヌ ŀ 木 = ガ ^ 見 # リ、 3 瘠 テ ジ E モ ユ 7 IJ 事 大 少 人 V 1 尽 E 以 ダ ŀ ラ 4 1 E 11 = 1 下 開 テ、 ŀ ノ、 ヲ 善 集 見 心 ケ 百 シ 得 丰 悪 IJ ヌ w

輕

世

談

卷

之

六

續

經 世 談卷之六目錄

0 威 中 1 人 ヲ 敎 IV F 云 = 1 ナ ク テ 1 眞 1 治 巫 ヲ 長 7 保 チ 難 丰 3 1 ヲ 論 べ。

〇今 世 1 政 27 T " 人 7 教 IV ガ 却 テ 急 務 -ナ w 所 以 7 論 べ。

0 國 中 學 問 1 世 話 ス w ---格 别 1 心 得 r IV ~ + 3 1 7 論 ズ

0 教 7 立 IV 1 法 今 ノ諸 或 1 學 校 1 如 7 ---テ 1 風 俗 1 補 7 ナ IV ~ + 益 小 丰 = b ヲ 論 べ。

0 國 中 百 姓 町 人 V デ E 教 IV b 云 世 話 ナ 7 テ 21 ナ ラ ヌ = 1 ヲ 論 ズ

4 世 ノ所 謂 學 問 1 云 毛 1 百 姓 町 人 ナ 1. -25 堅 7 禁 ズ ~ 牛 = ŀ 7 論 ズ。

〇學校ノ制度ヲ論ズ。

○學校ノ役人タテ様。

0 學 校 7 新 = 造 營 ス IV = 1 遽 = 及 E" 難 丰 7 P 1) 1 モ 教 1 術 11 仕 法 -3 y テ 行 ŀ 10 7 ~ 牛 = 1 ヲ 論 べ。

0 0 學 總 校 30 1 テ 教 奥 7 義 立 1 法 n -ナ 諸 V 生 210 1 1 教 テ 誓 = 從 詞 21 7 + 以 n テ 者 傳 授 21 教 ス 7 n TI] 類 N 1 者 7 3 1 " 學 校 力 ラ 1 収 敎 21 = 力 1 ラ 立 フ 7 テ 7 輕 7 刑 30 7 牛 用 7 フ 7 n 7 論 = F ス 7

ズ。

經

極

難

事

ŀ

ハ云ナ

ッ、

或

家

ヲア

ツ

力

フ

人

=

1

極

難事

ナンド

モ、

第一ノ緊要

b

云

7

ŀ

ヲ知

リテ、

ダ

ŀ

ソノ百人ニー二人モー

統

1

俗

ツレ

テ

ウ

ツ

IV

=

ŀ

1

77

才

ボヘテ、

思

E

丰

IJ

テ

ソ

レヲ

ッツ

IV

7

ホ

ハ千人ニ

一二人ナリ、

サ

レ風

10

世

界ノ事

=

何

事

E

多

勢

ノ人情

ニアハ

ヌ事

ハ

#

K

行

>1

V

ヌモ

1

工

輝

僧

ノ男根

ヲ

+

1)

ステ、修行

ス

IV

心ニナ

リテ思

Ł

ダ

ッ

~

牛

=

1

ナリ。

世

經世談

卷之五終

卷

之

五.

三

1 B テ 樣 M デ 想 1 7 -= 灵 20 故 前 見 ナ A ナ 7 1 -.47 20 7 23 ·v 奢 ナ y テ 滕 サ ナ ナ ١٠ 1 in 4 21 ズ y 時 椒 甚 小 3 手 事 ·v N 2 + 3 サ サ 事 長 210 7 云 1 --4 E 210 , 3/ 大 w 7 E テ デ サ ケ + 110 = v 以 誰 第 凡 故 下 長 v 210 赤 V テ 力 モ 見 上 却 2 111 = テ ス 1 牛 17 21 -ソ 110 見 デ 政 ラ 內 テ ナ 1 T 别 1 上 21 1 テ 内 事 暴 極 法 害 IV 理 ナ 1 E V 3/ 條 -姤 人 第 時 明 屈 1 虚 難 ク 力 1 -= 21 -愚 論 ナ 人 ___ = ナ -1 事 " ラ ソ 女子 輕 テ 1: ナ 1 w ナ -1 ブ ズ 1 ズ n 緊 " 考 丰 ナ 法 w 7 F 3/ V 3 者 者 y 21 要 1 ^ IV 何 又 モ 1 1 E 下 皆 テ テ 謎 ハ 1 1. + ~ ナ 7 必 多 V 1 リ、 カブ 王 7 E 考 1 21 3/ 破 = 牛 盗 皆 必 云 1 面 モ v w 七 王 賊 鼻 身 奢 小 ナ 1 坊 1 4 元 110 何 -1 同 代 云 IJ w 3/ 1 力 來 主 1 血 王 亦 = 樣 先 平 合 亦 7 利 奢 テ、 -4 1. 山 1 7 ブ 點 サ 1." 家 勝 法 伏 1 1 1 1 ナ ナ 榮 y, 愚 テ 手 ナ 風 人 爲 此 w r 21 毛 n 耀 叉 ナ 3 n 7 俗 町 1 v 丰 = 心 = IV 7 カ 人 争 始 人 E 110 110 7 E F. 3 1 -者 過 ラ ナ 力 V -7 ナ 1) 百 3 1 自 华 7 il 國 程 耻 1) -ス 21 7 IV 7 姓 然 テ、 家 11: 7 1 7 行 21 ス 1 110 21 n E 1 悦 奢 皆 p 力 力 亂 思 馴 2 1 7 1 勢 少 ブ w ラ IV ŋ 亡 云 3 フ ___ フ V V ナ 方 1) 體 3 ガブ 1 7 -1 + テ = 心 = " 基、 サ 極 E 起 T 1 ナ 1 王 IV E ス = Ju ナ 水 難 IV 毛 出 r w n = 上 + 今 得 事 リ 故 人 - Pr 7 1 ツ w 1 21 甚 世 T 1) 1 1 上 透 力 = = 4 暴 安靜 ナ 云 至 叉 五 Ju 誰 1 = テ 間 フ 1 虐 y 人 古 1 當 六 政 法 迷 4 i ナ 7 1 2 無 惠 毛 1 4 事 ヲ + F 1 3 ナ 百 伙 目 話 和 事 奢 第 3 立 1) ッ p name Terrorita 人 漢 w FII 7 1 思 出 テ -E __ テ フ 下 --基 3 云 ツ y 1 1 7 テ = 20 7 一二人ナ 世 事 緊 人 1) ~ 益 10 21 オ n テ ス ス 情 3 迹 浴 1 汉 故 力 要 F = 毛 IV w 中 = n 7 ~ 朓 ナ N 7 F = = 述 以 叉 = 後 + 同 ナ 3 1 1 ラ

常 讀 今 2 ブ モ 人 云 サ 3 ヲ ブ 少 -افر テ人 テ、ソ > 叉 顶 F v v ۱ر 力 2 毛 1 V 右 備 世 云 ラ 根 ヲ 力 ١٠ 1 力 w 11 俗 ヲ ヲ 基 力 3 1 = ヲ 4 3 1 1 ۱ر 1 p 几 云 ヲ 學 堅 7 テ 70 テ 1 E ナ 上二 學 者 y, 書 稽 7 古 心 思 嚴 ワ フ ワ 3/ テ 木 間 ナ 古 力 ナ 1 フ p = 3 ---サ Ŀ 深 1. サ ナ ス IJ p 1 110 w 五 w 3 リナ タッ 奢 後 經 1. ク ガ w フ IJ ス 7 = 迂遠 黔 ヲ P 1 IV 1 3/ 丰 2 ヲ = = 人 ガラ ゲ 素讀 テ、 大 耻 ス ٧ د 味 F 7 イ t 1 切 テ吟 法 云 云 IV ナ テ ス フ 力 全體 自 1 或 ヲ w w ナ , = 1 3/ P = ラ 犯 時 道 味 = 1. フ ٠٠ ハ ス ス ŀ 行 根 詩 學 思 人 ス ŀ ナ T >\ \ \ IV w ス 3 本 フ 者 先 iù ヤミ _ y ラ 7 v w = フ テ、 3 入 作 4 多ク テ 必 1 110 P = ズ、 3 リ直 埓 サヽ リ、 肝 IJ ソ " = 1 フ w ŀ カラ 叉 定 出 ナ 7 7 v 要 _ -1 サ " 或 ナ ワ ク Ի 百 後 ۱ر ガッ V w ナ 1 奢 リ多 當 リノ 觸 T 姓 基 y, w = 21 7 ŀ ソ 然 ラ 角 ヲ ŀ 町 b 流 1 ハ サ v クラテ、 デ 座 ナ 1 人 ナ 3 ス ズ、勿論 3 テ 23 1 定法 ナ 敷論 リ 忠 w ヲ ~ モ IV ソ 法 モ 0 字 嚴 シ、 孝 丰 ~ ノ道理 = 210 老 終 ナ シ、 ニテ、 透 力 1 1 3/ 用 聖 力 書 間 v 人 7 ス ク = = 賢 リニ 捨 ١٠, F." E 物 法 ナ v 3/ フ 30 ヲ ス ノ道 ワ 用 馬 若 モ ヲ 力 = ヲ 7 丰 テハ v 1 引 捨 仕 w 1 H n Ħ ユ p ヲ 11 110 111 ヲシ p 者 入 ク セ = 丰 w フ 深 = 1 雲助 ソ サ ネ 法 ili -V モ E 力 ク 2 ナ 3 或 ノ道 1 N 得 ス -11º ヌ 20 p 3/ ス ナ ナ 自 1 ~ 21 1 7 p w 並 7 w フ ラ 講 7 テ < 理 思 然 フ ŀ 1 ~ = 武 ŀ ヌ 或 釋 ノ 二 フナル フ = ヲ = >> = 備 + ス 家 大學、 會 p ツ -ス 1 E jν テ、人 = ヲ ツ フ ブ " 讀 3 1 w 1 ۱ر F ١٠ 辈 人 大 ヲ -V ナ 7 モ 7 云 3 民 論 圖 ナ テ r 4 ガ ソ 1,0 1 E L = メ 語 w 肝 y 行 ヲ ヲ 7 1 = 1 ŀ -F テ フ r 始 ナ 云 ~ E ス 要ナ 心 **=**/ 10 法 7 ١, ナ 道 べ V ッ テ 1 汀 ッ、 吟味 リ奢 1. ノッ テ ッ 力 1 1 チ ŀ 理 V 素 白 非 T フ 1, ŀ 12

經

難 直 誰 相 力 牛 218 金 ケ 談 銀 3 ス ---1 其 金 3 v E ~ 1 ヲ F 上 y * ナ 力 カ . E 身 ス ラ = 31 1 w -上 人 ズ L モ フ = 法 奥 4 E E E 7 誰 ア 即 ナ 證 ナ 1 F 受合 施 ヲ 裏 文 3 丰 110 3/ + ラ 7 ED 力 1 = 受合 70 故 ウ 文 ヌ y 立 合 フ = ヲ 1 王 テ加 ナ 第 = 1 加 3 1 多 IV 判 書 テ F 判 故、 __ = + ナ スノ 1 ス テ、 1. 日 故 3/ IV 暫 念二 = テ、 ŀ 者 云 E 時 = P E 念ヲ 過 ス 後 面 V 1 ナ 4 木 ヲ < ノ都 倒 キト ナ 入 窮 21 ナ ナ ヲ 世 IV 合 7 IV 云輩 ノ中 モ ヲ ス 1 -3 凌 IV 1 工 25 1 = 法 ~3 1 +" 力 1 至 困 全 ヲ 丰 3 To y 容 窮 ナラ = 7 1 1 テハ F 3 ス 易 ズ、 1 别 丰 ナ ~ ズ、 -條 辯 風 IV 丰 3 奸 計 = 儀 ナ ソ p IV ジ ッ、 論 ウ 1 邪 V = 力 ナ ネ ズ ス 曲 七 ッ、 其處 n 力 n 1 力 3 P 3 仕 IJ 潰 ŀ ウ IV = F 形 テ 者 21 1 = -7 ___ 風 ナ ッ ナ ノ内 ス 朝 俗 n ブ IJ IV テ、 __ -3 w 毛 = 夕 ナ 1 1 1 25 = 多 流 鼻 w P 毛 ク、立、 1 毛 多 デ 通 1 ナ 全 先 毛 r ケ y 7 V 50

〇奢侈ノ風俗ヲ止ル法ノ大意。

的 + ウ n 250 世 力 1 " 1 力 法 法 y 上 7 y 3/ 工 ヲ _ 1 毛 7 7 統 1 力 ザ 逐 3/ ~ V 朝 テ デ 年 110 w 第 1 ヲ 心 華 タニ 待 根 __ 麗 第 21 1 -= 21 一人情 上 ナ ナ 1 俄 y = ナ IV = 及 ラ 及 3 ナ 210 IV ŀ = 7 IJ ウ 故、 人 1 際 難 ツ 前 3 限 ケ IJ 1) 自 = ナ v 力 自 然 E 丰 1, 論 木 ラ 1 7 毛 テ當座 行 ウ 3 3 1 サ 汉 フ ツ ナ テ y IV V リ、 k 後 通 110 1 ッ、 k ŀ 7 7 觸 1 テ = トノ 1 漸 久 流 Ի 1 = 3 4 3/ 間 テ、 7 ヲ = 7 = 人 嚴 ケ 無 is 1 事 4 = 得 立 1 朝 ス 1 r 心 世 ツ ~ _ n シ 夕 + 根 = 3 フ ノ故 ナ ノ改 F y 21 = = 210 3 ニア テ 9 テ、 力 × IJ テ、 人 y ラザ 3 V 立 " y 4 觸 自 7 サ 鼻 V 7 流 然 3/ 110 1 w 先 210 r 3 1 質 二 力 13 v リヲ 榮 1 素 7 端 JF. 耀 =

4 足 文 自 a 3/ 久 カデ 汰 容 牛 y E T 2 故 n 7 ナ ラ -由 1 セ カ 3/ ラ 易 1 V 有 ナ テ 1 3 = 3) 1 ズ ス 7 10 = n E 金 リ テ 事 元 -力 テ 人 有 3/ 1 p 人 ナ 1 1 金 テ モ 報 Æ E 4 细 フ 1 次 者 不 7 子 N 力 ウ 厭 信 相 手 -フ 1 E V 7 カ IJ 萬 = 義 ナ 21 通 w 苦 E 横 何 故 1) 17 7 ズ ワ = T ズ 1) 1 限 1 华 金 多 -7 w ツ テ、 心 w 汉 セ 月 持 銀 金 木 カ 7 ク ソ サ ケ 1 毛 ヌ -= 腐 貸 デ ^ 1 E V 義 向 薄 V ヌ 至 7 借 木 故 ラ 力 ス 損 後 110 -E 7 ŀ IJ ズ 返 窮 1 ^ ガ 失 日本 或 53 テ 1) 1 テ 工 1 公 サ 極 濟 ナ 1 息 子 ナ セ 21 金 ^ 事 モ ズ J: F. 貯 ザ ソ 1 7 1 牛 1 -子 容 限 訴 間 4 w 7 カ ^ モ IV 1 自 揃 諺 易 訟 月 慈悲 1 3/ w = 次 ナ J 1 然 ^ 都 -年 = 3 相 IV 21 = n 21 1 流 カ 人 增 所 合 毎 ヲ 談 1 モ 至 1 1 -木 通 1 = 謂 度 ラ _ 1 極 ナ 1 1 ツ r テ 手 3 多 テ 延 T 术" ナ 1 V w 7 1 ク E = 引 7 ク 惠 大 ~ 1 デ 3 ^ 其 現 ワ ナ -11:" 外 相 事 1 フ 1) テ、 3 モ 以 在 リ 次 力 IV 救 違 力 流 3 1 ナ 1 F y + 21 = ナ 1) IJ 10 何 3 フ ク 通 ガ 1 ツ、 種 1) 及 又 别 尽 心 ナ ŀ テ 7 赤 元 手 編 w E A E" ラ -毛 テ 不 3/ 1. 1 = 1 笠 風 人 力 人 深 ズ 自 ク、 モ E 1 情 1 T 俗 ク、 ___ 1) ナ M. 毛 由 タ、 金 覺 受 盖 ヲ -72 T 約 證 金 心 17 ス モ 失 叉 T 後 7 3/ 文 1 IV 束 テ w 錢 ヲ ナ w 云 功 サ E 17 力 ソ カ 云 1 1 = 7 丰 故 金 人 限 汉 類 不 テ ^ 1 ナ b w 叉 人 IV 種 -年. 4 月 外 埓 處 ナ 7 1 -1 テ、 ス 信 = 4 E 1 ヲ ザ IJ in = テ ヲ 牛 1 ナ 1 義 IJ 疑 セ w 1 工 モ 1 1 拂 1." 故 早 80 演 1 殊 7 7 山 ~ V 流 E = 云 障 大 ケ 1 +" 心 1 -1 ۱ر 1/ 通 = 貸 4 ヲ V 金 力 ナ 惠 毛 七 如 裸 ア 至 w 1 云 ^ 借 PIP 1 サ ナ w ク 1 _ 3/ 類 w -及 __ p 貯 者 ス -ip + ガ 1 ナ 7 ナ ナ テ 通 デ 故、 1 1) 7 ~ E リ、 少分 ッ、 111 IJ 深 1) 1 ŀ 風 事 却 テ 多 無 渊 1 7) ヲ 11 17 俗 = 毛 テ ソ 甚 利 手 7 證 沙 JE. ヲ 至 T 3/ 3

A

人 7 7 = 力 ١٤ 暴 ~ r 虚 IV ヲ 施 7 b ス p 事 ウ 長 ナ ケ w V = 110 1 别 = 論 誠 ズ 1 ~ 政 事 3/ = 1 決 3/ テ ナ 牛 = ŀ ---= V 7 救 フノ 法 亦 ソ

見 5 + 11." + 上 心 3 70 久 北 助 10 ウ ヌ V ポ n AND 1 深 第 ブ 僧 多 ナ 見 110 F 不 1 7 力 ケ 力 右 仕 21 w 1) + w テ V 3/ ク義 救 類 類 合 風 1 1 7 1 210 ラ P 7 長 7 俗 3 1 = 1 又 理 心 + 親 故 亂 ウ 1 3 ラ テ 衰 體 ナ 間 戚 極 = = h ヌ -入 = 再 3/ ナ 叉 r w -7 心 窮 金 テ 見 ラ E* 取 w 21 錢 21 迫 4 = 過 テ ユ 夫 隣 ズ、 取 寸 ナ 7 信 3/ n 國 直 y ヲ ~ V テ、 テ ツ 義 E 者 程 大名 v テ 今 = 3 力 ナ 7 金 テ テ 或 又 1 7 H + E n 報 立 心 金色 高 1 > 拂 故、 >> 毛 3 何 .总 家 ツ 中 助 文 --E IJ 今 ナ 拘 力 21 亦 1 10 = " ス 世 人 必 1, 7 跡 w 1 25 ヲ 120 ~3 者 サ 1 ラ ス モ 1 7 丰 テ 3 -諺 ウ 毛 ズ w 7 1 流 TA 力 モ 小 -= w デ 叉 ^ = 又 先 通 金 ク、 1, ス b 3 ナ 3/ ___ 12 = T 銀 ラ 人 ~ 者 ナ b E 久 毛 3 剩 リ、 = テ ナ 飢 = IV 3 r 丰 ソ、 親 金 流 饉 テ y 1 牛 1 b 子 銀 通 ソ -類 交 及 テ 力 1 ナ 米 多 世 1 3/ v ソ 1) E E V 沙 故 3/ テ > 穀 牛 -E = 力 又 人 惠 非 汰 施 其 風 ŀ ヲ モ 又 p 贈 7 毛 = ス 1 n 俗 1 IV ウ _ 受 至 用 者 1 リ、 ナ 者 時 家 厚 ナ リ、 13 ^ 2 1 モ 毛 親 3 7 費 火 ツ、 110 ナ 10 組 類 人 1 災 連 w 7 人 3 入 4 1 叉 親 惜 -テ 中 叉 信 7 モ V セ -7-材 +)-1 2 7 28 7 "直" 11 ザ 兄 心 木 町 難 催 緣 ナ 水 1 IV = 弟 恩 義 人 1. y 自 7 邊 3 1 3/ 外 竹 百 7 7 懇 テ 1 テ 1 111 中 近 世 轁 厚 石 姓 救 意 不 1 ナ 潍 = 丰 1 11 ナ 母 ラ 義 1 フ 1 (年 威 輕 久 中 7 1. 70 子 者 F ズ 俗 7 ナ 7 + ウ ナ = 30 ナ 7 忘 177 老 ナ 耻 テ r 1. n 1. 汉 E ~ " 云 3/ N IV

7

y

13

w

アリテ

救

~

惠

2.

ŀ

1

~

F

=E

其

惠

ヲ

受

及

n

者其

恩

7

威

-E

11

w

-

24

7

ラ

步

者 ッ テ、 ナ ラ、 歷 云 ッ --ナ ١٠ V V 23 元 n ナ 吸 史 y, サ F* ナ 18 Æ 7 9 富 デ 手 ソ 7 F. 1 1 ナ 7 モ 3 Ł 片 テ (. ゥ 人 = V カ = 屯 ナ 1 1. 1 待 質 サ 叉 テ 牛 ラ 7 廻 K 水 -1 出 方 商 合 故 F. ナ IJ ナ 7 ۱۷ n V 生 6 賈 皆 せ w = E 元 テ ۱ر IV 1 久 借 卽 ガ 利 テ 富 テ 1 3 h E リ下 利 + 金 倍 不 ナ = 1 3/ 人 = 1 テ 事 潤 分 Ŧi. ヲ 叉 = 平 ラ 1 = ク 1 v 其 利 買 為 ヲ 年. 又 直 ヲ ナ ナ E V ١٠ ١٠ リ 功 3 4 七 ケ 人 內 IV = 倍 久 = 3 V 買 年 力 情 ナ 吸 デ ナ 運 3 = 1 7 1 豪富 世 4. テ、 不 ŀ 7 7 又 世 E E 力 V E N 出 年. 態 平 7 w E 取 __ IJ 1, 者 多 置 叉 種 時 ラ 利 1 ス 久 モ 1 7 1 間 + 極 -者 事 7 = w IV ツ ŀ 4 V 人二 百 金 ク 政 IJ 1 1 1 ウ ナ 4 = 1 1 端 損 3 _ 4 必 ナ ラ ナ 事 7 1) ŀ 1 倍 五 出 云、 返 失 全 1. y 爭 7 E 7 ヌ ノ富 人 ヲ ク w 7 ユ 考 ケ 3/ ス ス = 叉借 取 至 ウ 始 何 3 3 ユ ~ = E ^ V ŋ ^ 及 テ 7 ナ ŀ 方 h IJ 18 3 8 y ナ 商 貸 テ、 小 ナ w 210 モ 何 1 毛 リ、 ッ、 テ、 故 買 倍 + ク 4 又 = 1 推 ナ 算 サ 3 軒 T 争 1 4 Æ Ħ テ 道 1, ラ 7 用 テ サ 利 ナ JI w 1 -1 シ 六軒 ナ 其 分 ラ IJ 甚 ズ " V = 利 1 1 ラ y. ズ、 云 富 ソ n カ 18 益 3/ ŀ ガ w 古 七 人 T モ 4 ウ T 1 V 丰 如 1 ッ、 年. y 語 惣 軒 ッ ゥ モ (V 1 此 21 = 分外 ナ 戰 片 數 = 1× シ ۱۹ 1 -١٠ ŀ 借 其 早 テ)V 倍 此 鬪 __ E 1 ソ 7 ナ 商 年 I. 金 貧 俄 長 ク V 1 1 K 1 1 IJ 築 袖 夫 賣 買 利 數 1 人 世 IJ 長 1 1 利 富 耀 善 r 3 ス = 者 IJ = サ = T 1 拂 分 ナ ヲ 舞 IJ w ケ ۱ر -28 V 毛 110 F テ、 自 不 事 ラ 23 E = = 1. ナ ナ 1 カ 皆富 多錢 ズ、 外 テ 義 IV ナ E モ w IJ F 豪富 衰 元 ŀ 右 者 ラ ヲ = 21 3/ 善 フ 貧 益 手 ヲ ナ フ E 又 1 曹 ラ ·P 叉 サ y n 4 如 毛 1 3/ 金 者 貧 リ、 丰 F 古 ^ = 7 又 1 1 1 富 多 多 ラ ワ 1 ナ 1 3/ 今 25 毛 Æ 富 世 N 1. 1 -13 V X 1

經

世

談

祭

之

 \mathcal{H}

續

+ y テ、 3 ラ ズ オ 术 工 ズ、 誰 p E ソ ノナ リニ 從ファ、 世ヲワ 汉 IV 7 1 = テ皆困 窮 1 基 ナ "

貢諸 利 元 合 間 1 ソ テ P 4 7 V eq. テ御 第 ŋ 分 n デ ノ 一 1 力 w ス = 大 利 ラ 時 アフュ 四 IV 役ラスマスニモ 高 力 ŀ 110 倍卜 普 息 ナ ソ ズ 八、上 = い減ズル 力 云 請、御 ゥ 1 貧乏者多ク + = y 3/ 水 ~, ナ モ テ 1. ヲ 力 = 下 = リ、 ナキ 間 所 = 勘 1 1 V 火 カヤ テ、 7 定 云 = = 叉定 消 E 賤 合 ウ to 3/ 亦 3 = ナ 中 ウ + リ又 不 フ ナ テ 1. フ = 必 1. マリト ナレ ノ時 利 ナ モ 足スル時ハ、必ソノ村、 IV ス = = 借 ヲ テ、 V 下云 = a Va 1 1 21 ツ 金 金高 從 ドモ、長キ内 V 1. 1 ス ハ必大阪 云 ŀ 3 3/ モ、 + 1 + フ テ 亦 + 2 十年 テ、マ 叉其 ノ多 = 1 分 間 F. IV = 分ニ過 力 = ナリ、又町 ヲ 1 少 ノ商 中 又ハ十五 四 リタル 合 半 ハ莫大ノ金子 スく = --Va 金 ス = + デ 3 人ナドヨリ借金ヲスルコト定マ 110 モ IV 元手 ハ又臨時不意ノ費アリテ元ノ如ク、 タル y 力 21 豪富 迈 7 テ高下 年 人 y ナ ŀ N. 叉近鄉 增 借金い、一年 シ、 110 ニモ元ノ一倍 ノ商買、 テ半金 今 ノ者 力 サ カト 世 サ 所 リニ 木 1 = 119 7 = ノ富人ョリ、 、元手少 定法 殘 吸 IV テ商買 ナ (3 n 7 Ł y ラ 下云 ナ 1 b 限 r トナルベシ、 テ 又 ケケレ ッ、 = ラ = ~ E V ス テ、領 類 w テ元利 1. IV 1 如此 - Nº = 米穀 -七、 + モ E テ、多 必借 F ノモ 分 T = 八、今 大 貴賤 リト云 w 皆 ---= 1 リテ足・ テモ 7 7 濟 サ 抵 外 物 = テー y, 1 高 ナ F 成 時 1 = 金銀 ホド 又借ラネ 下 ナ 利 ナ ソ + 大 1 合ス y 1 年 ン n ŀ 共 力 名 Æ ナリ、 ノ利 云 ノ外吉凶 = ネ ノ官 毛 r n テモ 年 1 借 テス 1 IV 1 = 玉 210 數 7 八高 ~ 金 1. ŀ 叉百 ナ 年 借 IJ カ + 7 升 カ シ、 3 ラ y 定 非 1 7 リテ間 1 進 人二一人 リテ段 返 ŀ 年 然 常 姓 叉 ラ 又 法 v 7 E 叉定 ノ年 公務 ノ費 = IV 1 E ウ サ 毛 =

皆 放 太 寺 故 全 費 馬 1 何 1 111 率 滇 論 置 E n w = 7 モ 水 益 逸 右 集 身 府 テ 追 ナ 1, テ 3/ ズ 其 代 Ŧi. 1 參、 遊 24 亦 × 13 ガ 毛 フ 力 金銭 無 F. 1 錢 3/ E ヲ 1 3/ サ ア 益 前 大 テ 华 IV 東 7 ナ ホ 3 " 址 無 後 今 樂 1 7 國 y, w 力 TI 1 " 7 費 散 參 大 商 念 Ŧi. 1 7 -* = 1 1 叉 r ラ テ 造 賈 1 日 ス 3 r ス ナ 7 宫 富 費 n 3 神 程 Ł 1) サ -1 次 7 テ、 嶋 佛 利 道 7 7 IJ 1: 1 H ジ ナ -加 參 ŀ 參 ナ ナ 分 = E 毛 7 テ 丰 IV. 論 坊 參 此 飲 4 講 7 ス 7 7 1 = 張 數 主 品品 大 啜 大 = 1 w -ズ ガ 云 1 m 3 4 山 峰 西本 時 山 1 所 ス モ 處 w = 不 條 伏 參 麥 諸 7 花 w 飽 T __ 1 聞 r 妻 1 又 或 ŀ リ、 助 デ 驰 3 ウ 3/ 1 ソ 諸 身 3 1 h テ ヲ テ 3/ Jv .. 1 文 丰 1 旅 延 多 榮 _ 叉 ナ E ナ ナ 重 E 或 = 外 限 籠 妻 -7 E 耀 フ v 1 ケ 1 不 播 多 祭 ラ 屋 取 ナ 1 1 ヲ E IJ V 爲 磨 ッ 筑 金 爲 禮 ズ ナ 牛 ス 迎 r F. × 1 銀 1, y, 波 叉 7 b w w = E nº r 何 3 Ш テ テ 1 1 ヲ 處 國 如 = " IJ 麥、 蓄 分 莫 女 全 水 = I r = I 此 テ テ、 大 限 ツ、 子 1, P 大 7 3 V ~ 輕 1 湯 テ 亦 力 和 3/ 不 7 Ti. y 無 類 丰 伊 金子 r 相 テ 益 其 殿 1 x 汉 者 勢 大 IV ソ 應 女 ス ガ 山 ŀ 人 = 1 麥、 參 子 都 3 w y 1 1 ヲ モ 7 E = テ 序 借 貧 b 7 ナ 出 T 7 ラ モ 會 モ 金 il b 1. 西 1 H" 3/ 3 IJ I 3 テ諸 -テ 得 ナ 金 丰 テ 1 年 IJ 1 國 3/ V 何 リ 毘 テ 者 其 分 諸 "" 如 1 110 7 En 羅 v 國 或 F 限 ケ 0 w 汗 國 半 毛 右 五 站 參 右 相 E 類 = 1 フ 相 N ~ 7 仕 名 計 年 流 1 數 テ 1 應 = 馬 丰 12 K 來 所 七 ナ 如 [sn] 事 4 T 1 3 1 1 家 ij 高 7 年 ラ 持 妙 テ HT 7 P 蘇 ~ 游 參 見 事 稼 1 J. w 參、 野 モ F = A 1 ナ 覽 長 下 = H ソ シ テ 嫁 金 1 グ 村 ラ 麥、 數 霧 1 义 ケ 1 1 3/ -ス 14 4 返 島 支 F _ 7 w 力 ナ ۱۸ 白 = V 度 善 叉 濟 3/ -テ V A = 210 IJ 1. サ 光 野 別 Mi =/ 1 Tourish . 12 7 1

Ħ

3

-

7

4

留 共 然二 7 1. 7 或 叉 발 is 詳 ~ ラ .7-ズ、 y 誉 1 ラ 私 29 HT ケ 樂 20 -F. テンノ折ニハ芝居見 程 牛 + 存 -11-1 人 論 耀 E 朔 v --テ E° 地 n × 百 1 路 望 30 1º 1 改 アレ 前 3 外 ユ -1. 姓 テ、 æ, ス 中 Ŧi. n 後 " 住 ナド 左 n y 節 > 何 710 = 五 1 2 T 故、 左: 費 句 j V 日 リ上、 者 デ 9 1 北 2 ナ 25 ナ 毛 y 莫 Ŀ E 1 v ナグ 7 如 多 1. ŋ 的 170 -1: 難 大 ٦ 1 = シ、 難 當 此 力 殊 y テ國 ヲ 日 限 義 -}-テ リフ -五 ケ モ ナ 1 ス -IV " 1 V = 物其外 v 說 n 七日 仕 ッ ナ テ 1. 夕所 7 派 V 1. 事 , ナ = V n , 1 = 人數 モ = 當 云難 V , ヲ 1 ~ = 4 = 毛 通 登城 バ、今 ナ 間 サ 打 H 1 ナ ソ y ノ多 -莫大 ステ隙 = 名 サ v 1 + シ、 v 7 ススル輩 1,0 6 飯 酒 更長 + 力 ~ 6 好 少 無益 モ 米 肴、 京 (-3 3 乙 28 1 7 ヲ ラ ノ祇 ガ爲 身分 1 = 誠 4 モ、 E ツ 赤 21 ナ ズ、 心 1 1 3 = ノド 飯、 費 30 ブシ、 リ、 ナ 置 得 ク云マ 無益 = 1 年中 × ン 7 ラ 7 高 養染 E 名主 , 江 莫大 n 25 n 下 1 入コ 又遠 ノ費 諸 外 戶 V = ~3 デ 7 = 費 庄 或 r E 1 1 牛 毛 1 1 3 大造 リ衣 3/ 1 近 4 肺 多 無益 y ナ = ナ IJ 屋 テ、 E 1 田 テ、 3 1 シ、 y テ ナド ナル 懇意、 服家 所 = ŀ ナ 定 ノ費アルコ ンノ處 _ 三王、 4 + 市申 13 勿論 = x 3 鎮守 月 居 = 事 3 v ス リ家 ナド 3 ŀ 緣 分 亦 佛 警固 2 n v ノノ若 ニテ ヲ 類 大阪 氏 -事 定 屯 並 亦 ウ ラ飾 ナ 神 = ナ y ŀ ノニ > ニワッ付 事 中者 1. ノ祭禮 3 1, 1 タル V ナ 爲 殊 長 天滿 大勢 n ナ y 下云 25 テ ----ケ F 費 フ 共 遠國 法 ス 1 V モ 聚 ア 方 ナ 天神、 E ~ 元 事 此 テ、 力 110 F. 25 n 角 T y テ 事 交替、 1 ナ ホ 男女ト 别 " 來 運 1 年 = ナ ラ F. 25 = 堺 無益 リ、 111 Ŀ 3 中 古 ij 210 E 論 叉 ナ 物 1 y 尤 多 1 叉 久 牛 ズベ Æ 北 HI ラ 成 稻 テ 行 ハ参勤 ,v 人 1 * 處 後逗 ズ、 費多 一樣 = 荷 E 4 ヲ以 7 E 質 同 ナ To 云 毛

出 ナ 叉 テ 3 テ ナ モ ナ 412 Æ ク ナ 勿 モ y 間 仕 ラ 表 7 テ 1. 論 大 21 + 1 Æ v 事 百 110 リ、 名 論 110 ナ E 1 3 = ソ ۱۱ 四 今 仕 大 y 合 高 ナ 1 ジ ナ V 度 夏 榮 貴 リ 拾 五 抵 テ 1 H ۸۷ ラ 110 武 -= 耀 モ 兩 **公三** 7 E ズ ヌ ノ内、 1 然 四 3 冬 毎 供 益 匁 1: = 7 1 四 年 + テ ^ 廻 ナ IV 毛 1 E コ 力 3 装 + 7)-" 新 ソ 久 ナ -E 又 ___ V y 半 믺 度仕 411 制 足 1 束 タ V 1 衣 IV ラ 規 = Ŀ カー 服 度 ~ 益 ŀ ラ = デ 1 ズ 28 -前 ナ 仕 テ 立 ナ ヲ ヌ E 1 -1 人 澤 田田 制 改 イ 表 V. v 力 y テ 赤 = v 110 數、 云 力 度 ŀ n 1. 1 Ш 1 E ザ ۱۹ E 五 ナ 倘 = ナ w 汉 ナ 毛 7 IJ V モ 3 1 y リ、下 出 年 並 w w v 以 ŀ ~3 T E 110 3 + 諸 物 來 間 21 3/ ガ 18 3 7 1 1 道 天下 諸 間 年 如 力 ス -= 3 = ノ間 = サ ラ 合 乃 具 或 7 ~ テ ŀ ユ 着 至 ヲ持 數 シ、 ザ 1 モ r ナ IV r V 1 w = # 大 多 間 110 フ w y モ 工 ズ、 心 Æ \equiv 故 政 夏冬ノ分ヲ 年 アル 1 = 牛 = ノハ 得 叉 亚 四 r ヲ ユ ^ サ モ 7 ク故、 少 ナ 用 ŀ 士 五 ~ フ P 右 V 4 IV り、 4 w 1 双 ナ 118 7 1 IV 工 = 奉 皆 リ、 外 人 倍 直 物 1) y' 1 ナ 段 度 H ナ 公 モ ソ 毛 3 -毛 ナ -ラ 衣 入 ク 高 出 r k サ 3 毛 17 J* テ w -用 日 出 デ 服 1) 直 仕 V V ~ w 力 E 下 ナ 增 1. 本 破 仕 1 テ フ 110 = = 7 力 費 ラ 用 素 テ ノ素 着 IV ス ス 王 V モ 7 ケ 時 襖 E 冬春 テ 意 無 w ヌ = V -13 襖 麻 御 亦 1 ナ Æ 垢 7 ۱۰ H ス ラ 故 用 上下 役 y F. 主 事 ŀ w ナ 年 110 故 唐 F テ、 意 人 是 v 人 = 1 平 4 ナ ナ 類 ノ深 /\\\\ 三 ノ前 帷 ケ ハ 、 3 新 日 1 大 困 兩 1. t -V _ 1 1 3/ HI 云 名 110 窮 **シ**/ ス 衣 ナ ナ = イ 7 ク ク、 ナ 别 以 テ テ、 几 10 1. モ 1 力 = 1 H 遠 本 間 1. 云 下 1 -水 3/ = シ 論 麻 F 慮 15 ナ 1, 1 モ 類 ١٠ 1 = テ ラ 云 1. ナ r 叉 = 70 ソ ス 丰 ズ 粗 T ^ モ 着 勤 ~ 1 ウ _ IV フ 相 T n デ 可 テ チ 及 シ 木 ノ役 Ŀ ~ IV E コ = 28 7 E 然 物 物 219 綿 ネ ナ F 牛 3

經

111

談

ナ in n 1 ŀ ガッ 云 詮 今 議 = 至 210 力 1) IJ テ _ = テ V p ヲ 制 2 = 3 止 ŀ = IV r 1 ラ 法、 ズ、 及 委 10 禁 曲 法 1 = ヲ ŀ 牛 21 E* 事 1 長 7 1 ケ テ V 過 110 料 别 ラ云 條 = 論 付 ルノ、 ズ。 戶 結 ビ閉門ニ ×

釉 n テ、 7 テ 物 第二、 物 + 多 先 布、 = ノ直 年 ŀ 萬物 木 段 ナ 3 綿 ノ**、** y v 1. 高 1 鍋、 或 下 直 E 直 4 = 釜、 所 V 大 = ナ 格 テ、 4 IJ 瀨 世 = 昔 久 1-テ 戶 物 IV 必 力 밆 用 7 材 y 年 モ 1 HH r ア 木、 ノク リ、 V 10 ラ 並 米 野 穀 叉 シ E 菜、 9 ノ外、 = ソ 國 間 魚 __ 1 = 出 炭、 物 所 r サ 元 = 1 類 薪 テ 金 ヨリ吟味 錢 モ 其 味 時 モ 處 噌、 = 今 ス = 3 醬油 V IJ 21 3 110 华 y テ テ 力 年 運 油 7 ス = ~ 漕 紙、 IJ 毛 テ背 足 7 3 筆、 ラ 7 V 步 ナ 3 110 y y, 油 IV 高 F 蠟 直 駄 槪 云 送 燭 = = ハ ナ E 100 y ラ 絹 云 ス カ゜ ~ 13 4

冬袴、 hu 13 デ 花 第三、 ク モ 7 8 ナ E 1 々新規 紋 丰 3/ ŀ -故 付、 ナ 掟、 ツ ソ " 10 作 1 二用 此 綿 " 法 費 其 入、 ナ 叉 意スル時ハ、タトへ 内 大 " ケ 20 造 袷 テ = 條 仕 テ、 八、江 -來 1 帷子、 力 云ハ、 リノ 姑 1 IJ 1: 7 ナ 諸 テ、 ソ 1 ラ 奉 1 士 1 ケ條 極 外 公 1 シ 甚粗 衣 小 FI 1 3 立 進 合 服 ヲ U 羽、 ガ ア 1 ナ シ 辈 1. ゲ 汉 力 テ云 叉 シ、 = 1 ラ ハ 一 如 25 サ 然 旅 ~3 丰 IV 裝 シ、 IV 3 1 年 束 = ッ、 力 麻 ソノ 火 1 ナ 幼 Ŀ ス 事 w 下 米 餘 ~ 輕 1 华 テ 21 裝 ゥ 丰 分 大抵 無 ラ 東 侍 益 毛 付 = 或 狩 ノ費 ヲ E テ 袋 シ 1 F Æ テ ソ 東 3 定 ノ餘 夏 考 ナ 丰 タ 1. 羽 V ŀ n 織 モ 取 110 20 衣 入 合 逐 = 冬 服 IV 1 V 羽 1 セ = 亦 7 織 テ 論 數 1 3 夏 ナ 7 ケ條 ズ 、其 ッ、 袴、 毛 IV r T 7

3/

E

3/

相

ナル

品二

テモ、一年ノ宛行ニテハ、

足

ラ

Z

ホ

1.

1

ナ

w

度 火 小 至 リ、 木 ア 汰 ŀ V y -3 = Y ナ 兒 K 綿 "" 7 1/2 事 y 1 7 干 皆 主 新 今 ナ 習 3 テ ナ E y = 10 1 彩 送 染 高 出 玩 4 = 7 7 3/ 及 1 1 色 問 朝 ク、 合 y = IV ブ ŀ >> = 3 書 六 予 上下 種 物 セ 1 p 尽 テ F 百 後 夕 -徂 テ 111 紗)V ۱۷ モ 4 ガ 1 如 = ナ 覺 匁 3/ 1 1 ___ 來 E 1 セ 綾 + ラ 物 リ、 7 = 故 統 + I' I. ス 1 灰 羽 イ ラ ŀ 政 __ = 安樂 カ V IV V テ 示 P 不 デ 損 ナ 3/ T 談 1 デ 3 = 1, ナ 重 テ 都 便 ラ 1) 1 w ジ V ナ 1 1 E リ 思 告 以 合 ノ序 ズ 1. ヲ 汉 = 綾 染 用 繪 ナ IV 來 テ p E ---= = 又 室 リ、 ス = = 7 毛 1 7 ク E 王 >> 1 Ł ナ IJ ア 用 鳩 委 ラ 先 ~ ナ b V モ 1% 巢 ク 百 百 ~~~ 年 1 ~ テ 1 ス 曲 E 1 3/ IJ サ # ラ 士 ^ テ -1 テ E _ 1 度 1 ノ高 論 リ、 E* 久 E 1 力 7 = 匁 21 好 1 ナ 畢 某 P Ħ + ラ セッ 3/ -F 云 3 y 又 1. テ 出 直 竟 然 ガッ タ ~ モ 1x = = 大 手 思 7 賴 ナ E IV テ ス = E H v 湛 シ サ 名 今 物 入 ~3 __ 心 ٢ 1 y 7 ラ 込 Ŀ 110 及 2 テ 1 = p 1. + 20 テ + 1 奥 羅 ツ ^ 云 世 E E ラ = w 1% テ 火 グ 力 人 方 紗 w 久 V = 1 E 3 1 如 テ 其 消 細 IV 次 n 1 ŀ 10. 心 如 3 = 此 處 ア リ、 IJ 得 别 外 = 力 E 1 工 此 御 テ、 IV 只 y 多 1 ナ 3/ IJ 1 To 10 -物 懇 役 又 デ ~ ナ ア 7 目 テ ツ 3/ ナ ッ、 無益 飯 意 丰 テ バ モ ソ w 人 ズ 前 IJ ナ 染 右 食 丰 ~ 1. _ 1 1 ユ 云 榮 昔 桃 7 如 y ノ費 -1 又 丰 æ = 力 耀 淮 ブ節 內 リ、 t ユ 牛 7 , 3/ 1 重 = 造 皮 -ナ + 3 -_ ラ ジ 11" 誠 ŀ ネ テ、 次第 羽 何 テ 付 v 2 テ 力 ク、 ^ デエ ۱۷ ۱ ---誠 1% IJ 1 織 证 テ 210 1 都 茶又 劉能 重 世 ワ 家 出 と = -= 70 = 夫 1 精 木 110 諸 來 人 ケ ツ テ、 人 3/ ١٠ 10 形 妙 テ 大 3/ E E ۱ر ス 3/ 3/ 榮耀 ラ 百 菓子 IV 用 名 ナ 次 1 IV ク ナ ソ 3 3 马 便 故 iv IV 八 7 ク、 意 V ナ テ -[-矢 1.0 ナ E 7 1 Æ 1 3 m] TIT テ 數 25 ブ 好 故 1. 1 3 = ノ沙 ヲ 1. 火然 ూ 毎 度 日 = ナ 12 1 ナ

外 第 y 商 外 砂 ١ -50 笛、 12 チ 95 3 30 ク 皮又 物 人 ナ 2 + テ 力 木 + ス 大鼓 小 物 出 ~ 1 v w 毛 ズ 地 E ~ 7 物 テ 袖 味 ナ IV + ス 1 110 ~ 25 アラ 度 限 木 ۱ز 3 語 茶 トテ三十タ シ w フ 1 7 線 繁華 7 綿 牛 湯 セ 毎 1) + 1 3/ E 力 淀 F 3/ -ナ 7 テ 7 ~ 誹 面 叉 普 7 V 1 力 1 -1 7 汉 諧 ナ 白 水 木 1) 地 ラ 1 21 25 w 處 車 上 1 木 花 潮 37 ナ 家 テ 押 3 -3/ 京 y = 衣 類 柱 1) テ 花、 戶 テ 1 1 又 モ Ŀ 銀 染 サ 裳 物 1 ナ 3/ y ヲ 1 1 ナ 盆 -高 六 Élli 7 7 テ IJ ナ T ガ モ w カ 畫 (-IJ 用 1.0 伊 處 中 牛 -E 3 IJ 染賃 云 大 -ガ 4 目 萬 V = 3 モ 3 恭 阪 쁩 2111 テ 里 IJ T H 3 E 1 1 付 好 今 黑 Ŀ 將 IJ r ノ染 1) 含 21 1 1 ア 荷 繪 __ 極 IJ 村 テ 179 1 又 1 基 分限 價 T 色 IJ 付、 in 宿 ツ 3 上 1 ス ナ -ッ、 ノ亭 力二 " 7 7 t = ガ ~ 1 10 E 問 -備 百 7 4 又 0 3 1 5 V ッ、 今 F 八 灭 前 今 E 7 - 1 -ナ ツ E 町 デ 思 + 井 ケ 1 1) ヲ > 1 1 1 人 玩 ۱۷ 木 緒 蒔 E フ ス ナ 目 n 汉 1 1. ブ 力 次 綿 笑 n 叉 繪 7 义 T 1 E 1 = V 7 n デ 117 7 21 2 + 21 E = 1 7 極 青 ガ、 上 大 サ 家 1 --ソ 1 ガ 至 -V 内 テ、 和 ナ 中 上 貝 1 居 IJ 3/ 毛 ナ = + 用 HI 諸 " 下 1º 多 -1 w 21 7 テ -ホ THE . 品 其 リ、 ナ 用 1 E ナ 道 ~ 7 , 1. H 叉 ユ、 1) 1. 7 -娘 及 具 7 ナ " ナ テ、 此 ---w 1) = 3/ -1 ソ 1 下 ガ ラ 衣 サ サ 都 師 ~ 几 1 E 3/ 外 110 白 裳 正 ガ 天 駄 3/ IJ 叉 V 厅 1 麁 -(. 勿論 1 テ -1 年 井 足 今 田 1 1 忽二 云、 テ 今 駄 テニ 前 1 テ 1 E 含 疋 木 錦 力 ナ 1 諸 E = 1 1 1 商 ハア + 綿 4 物 大 都 弘前 ホ 1 白 手 國 = 人 三三 F 1 7 南 名 1 3/ ズ 木 1 1 大 " 京 浪 ナ 釘 丰 = " -京 城 1 E -ラヒ 用 一个 テ 匁 染 1) 隱 モ T テ 7 F A 驚 リ、 着 横 用 凑 ナ 7 1 E -3/ IV + 鄭 註 者 御 テ 絡 1. 毛 替 1 小 テ、イ 児 告 후 ソ 力 文 7 1 ノ類 1 7 F 次 服 7 同 セ Æ 10

世 故 年 7 間 n = 第 ~ E 統 足 か 四 涿 ラ 貧乏 ザ 1." 年 w 奢 故、 上 者 麗 甚 F 多 第三、 7 3 ---+ 統 ナ ユ 如 N 掟、 = ~ 此 從 1 第二、 作 フ 困 テ、 法 窮 又 7 = 萬 25 及 ス 仕 物 〈豪富 來 高 w 直 y <u>ر</u> __ ナ 3 右 ノ者 ラ テ 1 2 7 = 告 3/ 吸 ケ ۰ در مست H 7 E T ŀ = 年. 3/ = ラ 力 1 ア w ラ ク 1 ラ ザ ラ 故、 ズ、 w 3/ = 3 第五、 2 間 ツ、 , -故 風 r ス Fi. 俗衰 ~ フ ケ テ 金 條 錢 無 ^ r 人 益 E リ 4 1 費 信 今 第 義 多 华 ナ #

丰

H

ツ、

ス

~

テ

流

通

T

3/

丰

故

ナ

y

世 今 類 ナ 髮 履 7 L 21 ラ 第 櫛 110 ヲ 1 = 3/ 笄 昔 テ ズ、 1 ヲ 力 + u 11 横 IJ 敷 Ŀ J. E 25 髮結 世 鲖 簑 多 13. 緒 ナ 1) 3 n 間 具 笠 力 IJ 13 E 1 3/ 迄 鍮 7 1) 7 110 7 F 統 ラ ガ 云 = ス ラ 3/ = ガ、 テ、 風 叉 ヂ 叉 E ヲ 今 買 俗 ۸ر ヲ > 1 今 7 E" 增 奢 染 用 紙 フ 1 床 IJ 廉 1 長 T 木 E 21 昔 テ、 付 丰 疊 基 ナ 3/ ス セ 21 ガ ソ 7 油 1," IJ 3/ 或 松 長 月 ヲ 3/ ナ ŀ + 明 1 今ハ 用 + + 1. 3 ŀ = 竹 叉 衣裳 幾 云 ^ 21 Ł ノ皮 > 傘、下 7 度 7 モ 1% 3/ B リ 子 ガ 7 V ŀ 1 ナ # 用 云 七 力 1 1. 火 駄 今 E, 皆 用 = " V 斗 -足 17 テ ŀ E ^ ۱ر ナリ テ 象牙、 リ付 駄 或 ナ 百 ザ V 3 ク、 姓 y 7 13 > ナ 3 用 ソ ヲ 3/ 町 3/ ガ 13 鼈甲、 用 錢 + 1 ュ ガ 人 今 7 > 上 ユ、 7 ナ 老 セ 告 出 今 人 >> = 1. 3 叉昔 白 ナ 竹 1 1 毛 3/ 20 ガ、 葉 長 元 1. 銀 E テ 1 皮草 ヲ用 今 33 結 1 = ۱۷ 20 汉 物 麻 11 織 ユ = テ 1 油 テ 語 履 1 ユ = ヲ ザ > -燈 或 + ユ ヲ 7 3/ ス ^ 普 自 丰 叉 n 1 w Ł 110 21 7 身 雪 E 者 ク 2 23 > 淨 ヂ F, 告 = + 駄 T 多 T リ、 ウ IJ 2 n ウ # 3/ 20 付 此 ラ ワ y ン 3 ۱۷ 又 叉 油 ラ 玉 カ 7 ツ 1 昔 告 ラ 1 ダ 7 ケ テ 3 3/ 用 -用 n J° ス ナ 1 1 25 年 板 ワ ナ w = ユ n 1. ラ 1, 敷 1 テ、 以 7 毛 ガ ナ 告 用 云 3 來

200

世

談

卷

Ŧī.

聖 信 用 ス 1 = 210 E ~ ツ、 明 睯 亦 ズ ヲ r 予 IV ナ 任 F. n 1. 1 大 子 ~ 22 = 1 30 モ ガ 人ア 意 心 テ 如 シ、 ガ 1 ヲ得 至 謀 キ者 T 7 如 今 ラ 11/2 ラ 丰 IV ヲ 210 ノア 微 テ、 7 110 力 ナ 1 ジ、 實 賤 ,w 3/ ソ 君 何 者 難 ゲ _ = 民 テ論 窮 1 3/ 水 牛 3/ 1 志 時 _ 迫 力 1, = テ 體 似 莫 サ = ズ セ V 臨 ノ義 1. 大 ~ ラ ~ 及 ソ ッ、 堅 E 丰 v 3 1 1 テ、 ク、 テ、 ゥ 費 = ŀ ン 民 T ~ T = 1 叉前 ノ爲 ン ラ 右 愚 N v 法 誠 木 v 3 ナ ノヤ ヲ 6 110 = ŀ IV = = ア 君 大名 ノベ 者 7 ゥ ラ 智略 7 命 3/ ナ = 21 立 ノ第一 及 110 > -to w r w ラ n ラ 命 論 諸 7 IV 1 N ス モ ズ 意 難 7 ~ 丰 -役 r w 丰 ヲ 事 F 人 牛 b IV = ナ 3 毛 1 ヌ ソ 3 力 ŀ リ、 ŀ 7 心 1 モ 21 得 , 心 左 サ 故 世 3 得 能 ホ 3/ v 1 ラ = 以心傳心 1. ク、 力 110 3/ 憚 ズ、 叉 狼 此 ラ v r 下 ン 狽 1. 處 ズ、 何 v 民 1 = 3/ モ 110 V テ、 至 告 ŀ 上 毛 ---云 y ___ y 1 = = E 右 後 亦 統 1 テ E 1 天下 人 1. -3 1 心 1 患ヲ ク 服 君 1 1 7 1 天 ~ 宰 智者 ウ 3/ = 大 1 下 ズ、 永 テ、 相 ナ 7 叉 政 ナ 1 r w 大 眞 y Ŀ 1 y ナ 1 = 勢 財 ヲ 3 1 V -

0 諸 方 b E = 逐 年 段 k 困 窮 ス IV 起 ツ五 ケ 條 r IV 3 ŀ 7 論 べ。

人 19 ١٠ 水 百 窮 諸 テ 世 災 姓 迫 方 = = モ 3/ b 出 r テ Æ サ 7 _ モ = 統 逐 又 テ 者 燒 年 -失 困 方 段 E ア 窮 1 3/ 4 富 困 N 4 7 叉 窮 H 3 1 ユ 25 b 3/ 疑 掘 テ、 110 及 井 力 力 フ者アリ、 告 " ナ 戶 1 w ۱۷ 土 處 左 ~ 中 w V モ 勿論 多 デ ナ 21 0 不 1, 力 足 N t 1 -17 埋 力 ~ 毛 キ世界ニ サ 牛 2 3 -11° テ 7 -世 w ナ 東 金 17 1 テ 中 钱 或 ナ 年 ノ今 3 Æ = 久 T 西 以 3 サラ 或 N w + 金 ヤ モ 內 錢 如 都 = 左 27 此 21 破 ナ 毛 ナ 船 7 田 y 右 舍 210 1 テ ノヤ 金 7 Æ 錢 y 1 大 =, ウ 力 7 ナ 名 Ш ナ 海 諸 n v = 積 3 Щ 士 110 1 3 = 毛 貯 沈 方 E 町

外 T 法 內 大 调 7 者 n 只 1 15 活 ス 壬 , 名 種 Fi 諸 n ラ + 用 . === -7 -+ ·· 4 1 サ 故 3 至 1 役 1 -ス 1 1 ウ 身 御 フ 1 ナ w w 3 21 Y 1 非 年 = 代 1 21 政 必 7 2 テ 1 v 7 71 ナ 常 其 机 事 1 ナ 11) ラ 210 V 1 1 y 富 .0 分 + 得 ズ 7 1 1 1 = ١٠ 限 立 E テ、 ナ デ 年 有 テ ソ 7 H ツ リ、 X テ = ツ 7 1 1 1 20 1 1 -1 謀 ナ セ ナ 足 A 間 7 不 1 3/ テ 1 叛 難 右 ヲ 大 1) 3/ 相 テ ヲ 君 1 21 4 1 テ テ IV 雁 名 事 段 私 財 7 V ソ ソ -汉 デ 頃 7 ナ w T 7 4 ナ 7 用 1 = 1 間 身 1) ナ 人 驗 IV 21 10 = IV 1 丰 7 テ -ナ 代 サ 7 7 1 = テ 如 1 1 12 =7 合 大 7 = 1 IJ 1 ツ 15 ズ ~ ~ 取 一十" F 水 ナ ソ 下 ナ 1 3/ V 1 1 3/ 3/ テ E 早 テ、 民 w ۱ر ス w 牛 7 1) E 1 -費 ナ XI IV 國 志 21 3 3/ 7 荒 彼 所 統 丰 7 r 7 永 財 3/ T = 1 加 此 等 論 謂 F N ナ 7 用 サ = 1 1 ·Z E 富 心 非 n" 多 1 P Jr. 7 w = 110 3/ 目 障 ナ 常 頃 窮 畠 F 有 服 ~3 T 7 间 前 儉 ナ 1) -7 1 ス 牛 汉 水 = 3/ 7 費 1, ナ ソ 命 w テ 1) 殊 約 21 7 = 練 F 1 T 1 セッ IV 行 7 = = 1 1 -1 慮 w 痛 行 V ラ 水 ナ = ~ 1 7 1 ~ T r 大 力 3 + 信 カ 以 八 フ w V 1 及 . IV 名 -萬 常 21 1 7 ズ 木 IV w 3 7 叉 御 Ŧī. 10 1) 3 1 ス 1 w Ш 7 H 7 童 リ、 身 普 外 年 ナ ナ 21 牛 F 師 1 7 王 E 代 右 請 1) 1 r 立 -1 1 丰 モ T 1 前 E 1 年. ス 難 7 w ス 多 IV 和 w 代 7 ケ = IJ 力 1 w 力 窮 ~ 3/ ツ コ = ウ 樣 1 V テ ナ サ 1 3/ ŀ IV F 1 15 老 110 ナ 1 w 基 ~ モ E 7 ~ -ナ 1 V 中 w 愈 汉 1 力 ガ 全 テ w 3/ 水 7 110 衆 自 御 急 防 w -ケ = ~ 4 伙 難 今 條 1 ŀ Ŀ 修 1 此 ガ 3 -= V 存 獨 成 1 工 = ナ 1 110 段 v 3/ 1 1 1 -寄 0 江 ~ ナ v 内 法 意 1 = 21 就 借 110 ナ 戶 小 大 行 至 里 1, -ス E -IJ 7 何 名 3 銀 1 y 竟 w 1 毛 H 1 輕 當 -當 時 テ 2) E ソ テ 1 v = ソ 1 2 E 程 時 云 サー 公 極 7 1 1 1

Kret.

世

談

卷

之

 \mathcal{F}_{i}

2 用 ラ ナ -永久 n 毛 力 1 セ 4 , _ テ 木 後 入 ク 7 y E H + 皆 古 誠 n ノ常 ウ テ 示 210 ŀ 力 -111 -人 + 3 1. I. ナ 7 21 1 = 1 ナ 遠 . 成 +° 1 大 y ij ___ = 產 夫 類 quality Name and 木 テ、 方 初 木 同 力 3/ r 此 -4 ŀ テ、 ナ 本、 ナ -ホ w 等 = 3 1 3/ 21 大 不 書 テ ク 1. ス v 1) + w ~ 木 1 初 舟 IJ + H ソ 七 牛 類 -丰 7 = _ 法 盡 ソ 力 然 ナ 1 1 本 1 1 3/ 3 -ナ 內 ナ ヲ 時 y 1 七 F カ 力 1) IJ 3/ -1 頃 ク、 工夫 サ 1) 7 ナ +" 1 久 ---及 __ 3 テ IJ 本 3/ リ、 车 w ス m = + 1 ラ 後 古 Щ 至 者 ^ 71 1 w 汉 3/ ズ k 1 = サ 勘 y 汉 110 7 牛 タ モ 7 モ P 1) + --大 ラ テ 1ª 定 13 1 w 3/ IJ テ ス n 薪 木 大 3/ 丰 右 力 21 7 ガ バ、大抵量、入以 ~ 3/ 1 7 遠 大 全 木 力 110 サ y 段 テ IJ テ 1 七 力 目 7 r 方 -1 1 3/ 10-100 10-1-100 4 = 八 不 前 7. IV ナ ソ 7 IJ -7 3 ナ y, 薪 足 ヲ 論 4 1." 111 P 1) 1 3/ 1 IV ウ 舟 人 工 17 勘 不 E 汉 モ 3/ ズ 2 y, 過 合 テ、 IJ 定 足 送 初 IV w -~ 點 處 爲出 通 ナ ナ 又 3/ 1) 久 -1 薪 遠 n IJ 丰 利 ŋ 7 征 V セ モ -1 古 故、 方 テ ズ、 テ H ナ 汉 1 3/ 3 210 ノ法ニ 3 頃 w 丰 3 木 丰 身 及 + y 7 H # 鹽 IJ ラ 儉 人 IJ 21 w 27 3 ナ 舟 五 數 年 薪 倍 娃 4 セ 1 ナ 約 1 相當 12 + 汉 7 = 1 ソ 1) 餘 3/ + -E 4 7 本 足 y 1 テ 久 ス テ 行 T 1 モ F ス 1 送 人 後 3/ ナ w ~ = n F 1 1 t n = ガ 云 Щ テ y _ 1 IJ 3 21 1 テ、 + 本、 遠 汉 ソ ~ ス 如 1 1 毛 1 フ 初 诚 大 古 元 叉 IV 1 = シ 1 牛 7 = 三十 金 上 テ 計 木 ___ 1 1 1 丰 -毛 段 器 ナド 丰 -17 减 ~ 木 有 7 IJ ナ 窮 鄉 公餘 量 本 IJ 1 30 3 = 4 1 n 皆 濟 山 年 3 1 T T V -^ 1 ~ 1 艺 後 增 其 基 w 次 又 E -7 7 1 3/ 云 木 數 本 人 t 7 ス -7 n 久 -3 > E -防 110 多 1) 1 汉 n 1 年 3/ 1 n 1 1 人 倍 云 IV 力 +" 人 2 7 カ 7 H 7 1 + 111 威 過 ナ 汉 ホ v 1 1 21 y 1 4 1) 1. 叉 111 毕 7 セ 1. _ il 次 木 1) 牛 =3

衣 出 テ、 T P テ、 1 年 7 小 1 n オ E = 册 木 ケ ゥ 日 ŀ 云 云 類 v E 方 V 全體 テ、 沱 成 金 ラ 過 毛 モ _ = = 日 べ 食 長 ナ ヲ テ 1 21 又 = V 干 定 物 今 數 ウ ス w 木 物 p ナ 11 力 T 1 ゥ -風 + 年 心 成 w 1 IV IJ P n ス 儀 家 金 百 得 テ 大 ウ 產 7 21 T 1 = ~ 居、 艘 沂 抵 甚 業 ^ 7 r ジ テ ス __ 山 テ り、 郡 ナ 1 丰 E w T 1 毛 1 1 金 Ш 告 出 諸 向 叉 運 シ リ F I 近 銀 ヲ 别 村 ク 道 F. 7 來 丰 七 X 1 1 銅 T ナ 具 殊 1 ŀ 丰 タ -= P 21 1 又 鐵 ソ 論 輩 仕 n y 1 リ 1 ウ モ ---力 ŀ 諸 如 急 ナ 過 事 T ズ、 = 1 先 E __ リ、 明 式 如 ラ = 分 7 -1 = ナ 年 __ テ、 力 順 年 叉 出 ナ F ズ 1 此 山 w 1 金銀 サ T ~ . 1) モ 1 4 21 如 故 ス 3 次 百 w 丰 力 V = w = 力 1) 荒 w ク 工 所 IJ P 年 1. 手 丰 1 p 又 錢 生 7 Щ ゥ IV E ツ = ~; IJ = ウ E 地 1 毛 ズ 故、 テ ヲ ナ 1 パ 入 テ 1 ツ モ 數 近 ツ n 用 多 飅 ヲ テ 丰 3 ツ \supset 10 -力 所 <u>ر</u> リテ、 好 不 ソ 7 ク E b Ł 华 是 >1 ~V 穀 煎 テ 自 ナ 3/ 1 2, = デ 歲 ズ、 ツ 時 出 物 由 リ ガ ズ ハ V P 計 1 10 段 叉 ウ 12 ス w デ ナ = 1 ウ 丰 不 處 H ケ ソ K -ソ 1 ~ E = 汉 w ダ 長 ナ 足 テ 畠 ì v V E >1 W リ ヲ 皆 ソ (, T. y, 110 F 3/ オ 3 ク E = E 売 云 テ 丰 1 T 百 IJ 7 T 叉 1 カ モ IJ 用 1 ~ IJ 生 1 V 1 IV P 21 U 內 賑 仕 フ モ 不 3/ 丰 1 ズ ヌ 博 者 丰 ウ モ w 法 ナ 難 せ 足 IV E 1 奕 者 ナ 1 薪 y, 義 T モ ŀ フ r ズ、 ツ 1 手 ヲ V 21 迄 テ IJ 1 ١٠, w = ١٠ 犯 自 1, -3/ テ、 手 ナ 外 毎 近 H チ = ハ ナ シ 然 E 力 w 畠 ガ 人 年 丰 ナ 1 1) w -初 後 游 自 遠 所 ナ 3 = 1 シ フ テ オ = 稼 伙 年 工 ラ 女 カ 所 1 1 1 如 ゴ + 山 患 Ħ -ラ 毛 サ NP 1 3 ---IJ 耽 77: 田 仕 前 手 7 ヲ 此 V IJ 丰 ヲ ----畠 痛 リナ 切 111 セ 72-丰 1) 1 ナ 1 生 ッ 故 什 出 年 × 7 ソ 7 1) 汉 7 ジ 普 ノ外 Ш 出 n 切 サ ヲ 來 テ 1. テ D Ш + 7 サ b _ ヌ ----ヌ 3/

時 自 华 諸 切 游 テ 云 = 五 1 w H " 伙 事 女 ヲ 何 丰 1 方 1 = = 1 算 7 或 b IJ ア ナ 吶 7 P 1 云 ッ、 都 牛 ナ 或 r = 用 1 1. -時 毛 勘 人 百 合 1º テ 家 n ナ 27 V タニ 1 "" " 鼻 ヲ デ 定 或 云 毛 7 y = 兩 1 ナ 害 云 家 妨 新 新 3 r " 木 1 = サマ ッ 先 高 テ 1. 1 ナ 力 E -V 1 -立 金 ナ 經 直 フ T 1 ソ ١٠ N 丰 1 (. 3/ 算 銀 IJ 濟 テ 山 ソ 3 ス v 水 = = 力 テ、 用 7 F. ナ v 7 P 1 n _ n = 3 ス テ 1. 准 ホ > -牛 ホ = = ワ ウ = テ、 五 テ、 1. 1. ナ w 1 山 30 金銀 ッ 130 テ 者 年 1 1 IV 3 ? ス 3 1 IJ 赈 給 金 月 拘 七 + 1) 3 ク 3 1 Щ テ ナ 錢 銀 1 掘 年 ŀ 1 フ 牛 + 1 ١٠ n ナ モ ク モ 無 IJ r IV E ホ ナ ス 7 1. 回 = 過 遙 1, 1. 用 = 年 1 1V 1 岭 ~ 新 F 外 出 味 丰 = 1 1 1 丰 1 1 心 v r _ 高 ナ 云 得 土 7 210 IJ = 7 w シ 7 出 リ、 義 7 直 ナ = 7 テ ス 地 w ~ 1 b V 見 F 行 ラ 牛 = = b = 半 E V = 110 = -テ、 モ テ、 屆 r 11 云 = フ ズ T 1 大 V 汉 今 リ、 下 ケデ ŀ ~3 亦 日 長 ルユ 金掘 年 H 落 1.0 ナ 3 ソ V 數 分 デ IJ 9 或 1 1 1 1 ~ 1 ス 有 1 內 ~ 人 處 ۱و ツ 21 サ 家 w ノ人 -材 短 テ 類 4 ツ 3 餘 + 10 = ヲ = 近郡 夫 IJ 丰 入 力 E 木 歲 7 丰 r v モ 何 デ y **計** = -7 1 7 p ソ ツ = ۱ر 水 近村 行 111 テ 日 IJ 算 日 ウ 1 力 不 ŀ 力 1. +" テ 1 勘 = テ 用 フ 1 時 フ 足 モ 內 ラ 金 歲 定 ウ E 1 ノ百 ۱ر 3 4 T 1 莫 ズ、 Ti 錢 切 = ク b _ 工 = ナ 王 w 大 啊 出 テ 自 卽 姓: E 1 1 = 10 云 7 然 ソ ソ 殊 1 3 E 長 不 日 時 = ~3 F Ξ 數 ノ外、 ノ外 7 = -+ 足 -テ 1 キナ = 外 不 全 1 兩 長 不 ウ = 3 21 テ 體 立 ナ 便 b 永 テ 1 7 ツ 町 足 IJ 一切 サマ -利 行 ヲ云、 モ、 久 7 1 IJ v 歲 ワ 見 110 阿 工 汉 フ ツ 力 人 計· リ、 ラ人 (. 內 3 商 1 21 ツ 月 有。餘 日 # 年 111 y ^ = × 人 丰 數有 4 ノ働 殊 兩 ス 1 ŀ テ、 ヲ ナ 110 テ 今 ナ 過 ナ 1

姓 近 告 加 10 3/ ナ ナ テ U 1) w v 4 1 テ、 物 丰 出 ラ 諸 IJ 110 3 3/ 7 1 ガ 7 --食 村 成 IJ 菜 方 永 ズ 事 3/ + wa 7 * 下 用 モ サ ナ 17 ŀ 人 3/ 1 75 ナ 3/ モ 納 多 -ラ テ、 E 都 落 IJ 水 テ 1." テ 小 1 右 テ 7 合 今 1. 1 利 3 蒔 150 7 モ 割 テ、 ナ 後 ソ ソ = 1 ナ ナ T 25 尽 1 如 米 IV 3 惟 潘 1 1 >> IJ 3/ IJ IJ ツ三 华 所 價 間 7 = ナ テ P ク 堀 3/ H 3/ ナ 貢三 甚 = 1 7 益 テ、 王 E 及 力 地 y 分 合 ユ 地 埋 IJ 引 w 3/ ナ 114 7 通 分 Ŀ ^ -頭 1 E 3 \exists 1) 及 ス 3/ 年 y 他 通 尽 17 告 w 术 ナ 1 3 w 1 ソ 7 IJ 島 IJ 4 漆 セ T 1) 郡 IJ テ 1 -1 多 紅 7 7 シ 下 7 久 3/ 毛 林 IJ -願 1 花 n 多 力 7 少 w ---1 ŀ 18 210 # 田 フ 納 紅 諸 7 元 110 莫大 セ ゾ 4 力 7 1) = 通 京 ` 20 納 花 金 或 テ IJ 1 ŋ シ = 甚 ~ 多 叉 如 = 薪 ガ 子 w 1 3 2 1 ユ 3/ 直 IJ 便 後 1 ナ 7 1 X サ ク w ŀ w 1 年 利 落 段 * 1. H サ 力 w 脚 セ _ 3 云 ナ セ 所 大 增 手 IV ---3/ -3/ 1 屯 尽 テ、 諸 y 當 ヲ = 利 t ス -1 力 -IJ 地 F 紅 1 方 テ 丰 3/ フ ~ 1. 11 w 3/ 大 頭 落 花 テ 子 3 テ = 3/ 毛 力 ガ 7 悦 分 7 昔 3 E ナ 3) IJ ガ 1 3/ P イ 百 リ、 + 費 漆 7 E" 1 見 ダ 2 カ 1 ユ 姓 如 出 タ 利 年 IJ illi 出 ナ 水 汉 毛 ^ 1 多 殊 頭 4 テ w モ = 7 1, テ IJ ッ、 勝 r 七 納 ガ v 1 -3 ス 1 1 3/ ナ 手 リ ソ 下 叉 價 力 ソ 1) IV 11 = 10 1 -後 ラ 1 申 H 直 1 7 -1 ソ ナ 米 十 下 當 米 Ŀ 叉 IJ 渡 ŀ 畠 E -ノ n 他 w ナ 時 モ 數 1 せ ナ H 3 ハ 1 ~ 内 告 出 J 年. ラ リ、 收 ガ = 3/ Z 1 = 1 所 1 高 = 終 " ŀ ズ、 納 1 ガ E -ソ 農 ŋ 過 ソ 1 カ 21 3 = = 畑 少 1 高 111 减 1 告 具 普 1) テ 3/ 力 ソ 丰 b 上 類 + 出 ソ 3 處 4 丰 7 1 1 ١٠ 7 3 木 多 ラ ダ 水 跡 良 ナ w 1 馬 P ラ テ く 古 7 紅 沂 ズ 縣 V y H T フ ズ、 ク 花 郡 1. ナ 古 漆 古 デ IJ = 木 ナ 田 1) 紅 E F. 不 E ナ 1 毛 根 ソ 根 7 y, テ、 右 ラ分 性 花 足 自 ヲ ウ = 9 1 1 百 時 間 漆 由 汉 E 水 工 21 ---1

· 100

デ 永 以 上下 サ 7 n テ ソ ス 1 3 + ッ 4 人 法 づず in y 2 ~ E ク テ 1 F 1 V 利分 或 年 (引 防 T テ 1 サ 才 4 テ ---1 心 目 應 +" 條 n = 丰 7 7 毛 ^ ン 多 テ 差 前 _ ガ ツ 3 6 1) = __ 1 1 人ノ 叉 多 困 2 别 ケ カ 7 1 1 1 10 時 後 得 自 ŀ 窮 ア 丰 1 牛 ヌ 1 3 __ = テ、 百 IV 分 ナ 身 仕 7 ナ テ、 テ IV = ス ナ ッ、 姓 E T + 物 時 手 法 知 1V 3 IJ 中 起 成 ソ r ŀ 1 IV 工 27 廻 T ツ テ ノ地 IJ テ 1 = ~ IV 3 1 IJ ソ 4 1) 1 别 テ、 如 力 並 1 Z テ 1 = E þ 悔 = 頭 大 7 110 次 奥 1 云 E 1 永 E 要五 = 田 跡 セ 力 1 IJ 方 7 モ 3 天 テ 久 願 盡 1 畑 = 向 1 3 IJ ^ ^ V ノ常 毛 ヲ 7 t E F 1) 110 E 7 ケ サ 次 及 出 相 速 I 良 ナ 儉 防 條 國 3/ V E° 產 1 テ、 應 テ 夫 田 n 約 ズ、 所 グ -1 條 力 b 云 1 -E ŀ ス 7 ~ 7 ---ナ 又 = 田 法 n + 行 モ、 サ 毛 IJ ツ 3 n IV 17 八 チ 值 ブ 亦 IJ モ半分畑 ナ ホ 2 E 10 3 3 タ 方 リ、 1 中 事 テ 1. 10 3/ 3/ 1 ŀ 5 1V 色 1 テ " 4 長 1 1 モ ナ テ ヲ ガ、 都 出 容 ナ ッ、 シ 久 1 + ソ 4 别 工 合 方 E 易 差 = n カ ユ 110 1 夫 = 直 年 アル 大 改 事 IV = ナ 別 -^ 予幼 論 ス 3/ 4 IJ ヲ テ 次 要 n 21 = 毛 ~ ヲ云、 ズ テ、 米、 ウ テ 目 力 ア モ コ 1 15 弱 シ、永 へ、藍っ 右 條 Ŧi. 前 取 毛 p 1 V ノ時 ソノ田 大 F. ク ウ 人 = = ケ 1 1 今時 豆、 IV 久 別 條 1 如 3 w ア モ 人 ヲウ 故 + 類 ラ T 1 1 ク -1 麥 常 中 事 高 論 IJ 何 ヲ = 27 ズ、 V 物 へ、紅 直 ." ヲ テ、 或 7 4 モ 28 產 E ズ 語 作 ナ 困 ソ 同 ŀ 1) 3 181 3 24 = ス 拂 次 n 花 1 窮 7 テ 1 次 3 1 V ソ IV 先 何 IV 如 ラ 高 叉 考 1 3 3 7 1 モ ヲ 分 リ、 ウ 多 起 大 7 7 ŀ ノ了 = ソ ^ 聞 ナ 抵 合 ケ 21 毛 1 ~ 3 7 y 1 及 年 紅 IJ 简 ラ 显 數 7 IV 4 條 ŀ 3 ス n 人人 貢 花 力 ウ p ノミ ズ、 + ナ 條 ~ 3/ 1 3 -內 毛 ケ 7 又 -フ IV 4 シ、 以 1 末代 條 全 ウ サ ナ IV テ -7 4 = 爲出 r 納 ル ヲ ^ ナ 3 E 1 サ = 毛 3 リ、 グ 7 テ 種 1 7 ツ 1)

刀 多 7 誠 人 テ ジ -= 28 21 タ n 1 往 表 ナ テ 7 テ 1 v 云 モ = 1 ^ = 來 向 1. 觸 モ 1, 志 ス ン 3 1 = ヲ 公 1 引 七 モ IV 1 1 -云 = V T 1 辈 或 法 ١٠ 工 渡 ケ 3 デ 3/ 1) 3 ッ、 當 公法 道 N 力 1 テ 多 テ ソ _ ソ 3/ 座 金 シ サ ラ ナ 1 自 1 1 ク テ、 銀 ヲ守 分 多 家 1 4 チ ス 7 > テ 身 限 ~ " 風 又 ١٠ 4 ヲ 7 牛 1 金 故、 先 ラ V 身 却 大 7 テ -3 1 2 -間 サ 1. ヲ 1 ズ、 1 通 廻 テ ナ = = E ŀ 入費 モ 無 IJ E = 术 1 リ w 1 ソ 合 益 テ r 人 IJ w 7 ホ = V 內 並 民 1 毛 r ヲ IV 1 1. モ -水 證 奥 r 費 ラ ラ 省 樣 ~ 7 セ 行 ソ 1. _ 方 キ、 リ = セ ケ 7 ノ w 大 ズ、 ---テ 1 1 向 テ、 益 w V 抵 益 = ١٠ 10 勿論 ٥١ ソ 或 h 諸 ヲ b T 3/ 18 + 遊 > 1 = -畢 >> ナ 事 111 7 ラ メ 力 運 女或 金 7 1 岭 ズ、 竟 ___ ネ 7 IV ザ 丰 Ŀ 兩 V 銀 取 味 艞 Ш テ、 V = = 諸 30 21 E ノカ 所 師 締 ŀ 1,0 ス ス = ŀ 博 役 全 ヲ ナラ ~ 多 ツ ~ モ > 1 IV 奕富 ナド ク 仕 丰 -云 テ > シ シ、 7 7 ア リニ F, 1 ズ、 0 今 人 事 y E ヲ 閫 3/ 3 當 難 y 儉 無 1 ナ 1 > r + 7 紙 y 人 サ 益 世 ナ ソ 時 約 ク. ツ 手 = 幣 ノ外 テ グ サ 7 V Special Special -1 1 メデ ヲ 21 無 ナ 費 經 迷惑 テ 10 + 3/ 7 非 ス 芝居 用 無益 1 益 濟 力 モ T ŀ IV 補 玉 v 定 ナ w ٤ -7 = > r F F° テ、 フ 費 ラ IJ + 畢 = ナ 觸 ナ 1 = ス 時 モ -1. 費 流 w 1 w 3 竟 ヌ = 、今時 w 1 常 ヲ 法 八 經 7 力 7 15 = 3 IV E 7 時 1 ナ 九 濟 ŀ 1 ソ ナ V = P Щ w ヲ ヲ 2111 1 " 叉 1 1 7 v 1 F 1 常 緊 7 岭 1 師 シ 仕 時 ヲ 外 1. 1 21 皆 テ 力 要 道 吟 諸 法 味 何 -1 モ ١٠ 毛 仕 甲 17. ナ 1 味 7 ソ 事 = ス ホ 1 = 事 Z ヲ フ テ 取 1) 1." ١٠ IJ = w ス 1 1 r 牛 七 人 儉 取 入 テ ---7 1 IV V サ 5 類 P 高 1 ノ法 君 約 法 w w 118 近 リ 力 7 役 ズ、 3/ 久 11 7 力 1 1 (-諸 曾 高 15 ヌ 國 人ド w 行 F 1) 又 總 引 n 又 7 7 役 7 フ

毛

Ł

丰

カ

ス

IV

IJ

=

テ

モ

=

۱۷

ŀ

ク

屯

1

ナ

テ

ツ 角 手、 或 1. 出 I カ IJ 1 下 ガニ 手 萬 ラ 皮 夫 汉 7 ~ -3/ 百 賣 -入、 萬 或 ラ 補 (-サ 衣 諸 兩 ス 21 姓 叉 サ 服 出 ~ v 屋 E 兩 毛 21 1 华 町 ス テ 公三 I. 210 水 敷 r 3/ V = テ、 諮 (. 所 早 人 貢 金 夫 ラ 12 1 藥 草 7 等 T 詮 道 叉 7 ソ ヲ 150 物 1. 1 ПП 平 リ、 定 ノ備 力 74 ナ 具 3/ 21 3 成 利 H IJ テ 領 生 ナ 木 V 水 V ツ貨 諸 食 出 此 1. 參 7 10 IJ 内 1. = V 以 役 等 目 デ 物 勤 3/ 1 力 モ 1 址 3 工、 入 迈 テ 產 -等 +" 前 交 21 地 丰 運 皆 濟 補 物 高 分 新 7 境 或 ラ ソ 上 叉ハ 當 限 1 1 7 ズ = 3/ ヲ 1 目 ナ 7 段 時 Щ 考 外 ス \mathbf{H} 1 7 w = ~ 用金ナド 應 其 = IV Щ 畠 か 要 ~ -ス ~ 1 3/ 害 外 至 7 r 類 テ 林 ヲ 家 シ、 7 30 IJ リ 開 以 テ、 等 ヲ 材 1 1 御 V 或 婚 110 テ 第 家 木 丰 テ 火 1 云 或 人 諸 消 中 禮 7 起 ス ----家 华 1 ウ 器 北 役 E 3 21 ス 牛 -中 付 普 全 燛 3 + 用 所 御 F E 3/ ^ 3 給 、物 叉 手 7 -分 笑 禮 驛 普 IV 1) 才 ハ 分 町 41-際 或 發 限 請 毛 1 p 云 1 1 成 ア 切 人、 諸 1 21 3 __ 相 ザ 1 內 沙 金、 ッ、 -云 百 御 人 應 法 或 ス w E 丰 商 I. 叉 事 毛 3 1 F 手 21 水 リ、 所 或 或 人 諸 傅 1 21 1 1. 3 3 1 借 ノ仕 諸 野 ナ 叉 21 21 丰 テ 丰 等 1 ---ッ 鄿 米 職 院 ス 111 1 w セ 1 ス 云 叉 事 海 貴 神 等 萬 + * 1 1 1 1 其 者 7 ワ 111 分 姿 佛 テ 1 1 网 ブ 1 = 普清 手 横 學 ヲ 他 サ 1 KX. 1 7 -1 1 七 侍 傳 F. 獵 ヲ H 禮 大 渴 ------1 21 題 = ナ 金 -111-等 名 1 木 ナ 21 4 修 4 名 交易 銀 1 E 1. 华 w IJ 覆 役 T 1 1 語 都 テ、 ŋ " 7 ナ 分 = 力 7 IV 3 ~* 賣 汉 4 叉 銅 費 1 21 ラ 木 1) " _ テ、 ---取 買 ナ 21 汉 21 w E 3 b 3/ 諸 都 鉛 リ、 E 1º ラ 45 1 3 工 間 x 叉 7 方 利 或 7 w 力 H 1 --Щ 合 TI 21 E 切 1 7 21 セ テ 納 业: 1 苗 富 沂 此 江 P 7 具 2 2 ۱ر 戶 学 戶 サ 或 萬 リ 1 魚 處 馬 毛 示 ソ 又 滞 7 7 术 鳥 勝 ナ ナ 具 1: 兩 IJ

デ 或 五 爲 F 優 ラ 1 備 家 カ ズ 云 V v 爭 軍 ヲ IJ テ ナ デ フ 亂 r 用 1 毛 ۱ر 1 = 仕 -ツ 1 又 1 = ---云 畢 大 世 カ 7 モ 法 1 V 知 デ 竟 根 ---フ ナ T -時 今 本 ナ テ ラ N デ 1 世 IJ b ١٠ ズ 7 1 說 少 心 甚 尽 1 = 得 3 云、 ラ V ソ ダ ナ -テ、 端 1 ク 1 ¥ ナ V 識 最 頃 Щ 町 114 w 金. 慮 上 X 師 3/ 1 ~ テ、 r 至 ナ 銀 ナ 3 3 I w 極 1. 7 1. 7 w 者 事 前 3 云 1 1 1 ~ ク 者 王 [ii] 長 シ 1 E 今 IJ 際 通 心 ケ 3 b 同 H 見 用 得 1 心 v サ 意 テ 云 -セ 110 テ T E 甚 **ハ** 别 ナ 31 或 w 力 = 危 洛 IJ 24 家 ~ = テ、 無 數 半 ŀ w チ 丰 1 財 テ、 テ 事 = ケ 7 7 賤 ソ 條 女 用 ŀ ŀ モ 永 ナ 平 3/ ŀ ヲ Щ = テ、 交易 丰 ナ P 師 リ 久 1 今 利 27 3/ ツ __ 保 テ P 左 世 ヲ 1 カ 1 道 論 爭 ラ フ ナ V チ -行 國 難 T フ ケ ズ = ズ 24 家 p w 牛 y ŀ ŀ v テ、 V ウ 故、 1 イ 18 コ テ 何 ナ ソ 財 ŀ ^ 或 愚 用 IV 7 1 1. ホ _ 淺 家 大 テ、 凡 1. ヲ モ 1 7 意 ア 1 V _ 1 輩 r 殊 シ 詳 Щ 智 ツ > ッ 虚 丰 -心 師 力 --ゥ 心 力 何 · E 得 ア フ ---フ 者 ラ 得 IV 時 ズ。 ク 3 者 リ、 者 ラ P -1 ノ賓 テ、 カ 7 ~ 1 シ 所 テ IV ラ +" ソ

0 財 用 7 治 w 大 意

(-

1

中 ~ = 定 財 半 1 諸 法 物 ナ 用 7 成 ラ 國 ŀ 治 デ 高 ン テ、 w 7 >> 1 收 1 ナ r 誰 法 約 ~ w 4 量入 テ、 モ 7 高 2" = E 金子 應 7 以爲 V 3 3 = テ、 " IJ ツ 拾 出 汉 モ 年 萬 w ŀ IJ テ 石 中 = テ 其 木 ŀ 1 三萬 拂 身代 1. = テ、 1 方 等 兩 大 ヲ 諸 今 名 間 ŀ 更 E 式 _ = テ、 别 T 台 ノス IV セ 總家 高 ~ 1 1 丰 ナ b 7 所 中 丰 ツ ス 1 w モ 1 7 ア 給 1) -1 テ、 w 分 ナ ヲ 大 ~ V 除 ジ 數 F ス ~ + -毛 家 テ テ モ 算 今 中 1 諸 15 外 用 1 世 ク 拂 _ 1 物 合 主 = = 成 r 人 フ 2 ス ~ 4 F 1 藏 + 丰 IJ 12 所 入 處 テ 7 > = = b テ、 ナ 古 日 + w 本

持 根 ガ 物 1 又 ナ 同 ズ 3 7 12 b 3 = 重 テ、 諸 ッ、 1 ナ 力 + 37 F 25 Æ 21 -心 品 ケ ホ 死 10 = 汉 -1 モ 畢 命 百 1, 1 得 -17-テ せ。 V 3/ 10 10 カブ 上 ナ ラ 事 竟 姓 18 T 久 ナ V ^ -水 天 目 力 1) IV = # 210 リ 18 12 ス 3 1 耕 者 テ 金 大 子、 金 者 丰 P テ ~ 2 1 古 作 钱 21 銀 1 テ ナ テ E 殊 ホ 7 21 --雷 公方、 更 ヲ 人 21 þ 毛 1. リ、 1 7 21 積 米 竟實 终 金 重 邹 チ 21 3 毛 1 壹 銀 諸 士 自 久 力 7 サ ガ = フ 7 大 然 ラ テ 升 通 侯 ホ E IJ F サ 1 1 V 名 重 1. ナ = 7 HI -牛 ス ^ 用 1 1 JIP. テ、 多 宵 ナ 勢 IJ モ 7 七 12 1 > ソ セ 物 及 叉 ナ 1. ナ > -7 3/ 1 ズ 但 有 職 汉 r --リ、 ソ IV 1 3/ 111 20 -ラ 地 F テ 金 人 久 又 用 1 V 12 毛 3 類 110 1 = 錢 極 1 IJ 13. 又 7 3/ 1 1 人民、 テ 物 9 諸 意 彼 ナ = h 力 r b 7 HH 7 何 此 1 酦 鍬 .4 IV 7 モ 1 w 推 作 家 政 政 鎌 サ ヲ = 木 -V -便 金 1. 1) 何 1. 時 3 7 事 車 ク ^ ス 1 農民 冶 利 銀 ラ 時 ラ 中 E 不 出 1 力 4 1 用 r r ズ、叉 第 云 13 自 ス 12 1 7 21 爲 重 n 至 テ E Special Districts IV 田 -1 重 極 所 誰 毛 毛 1 ツ ---1 21 ナ = 金銀 皆 緊 心 T 用 ズ 便 不 7 4 ナ 10 ノ、 1 金 ラ 7 要 IJ ズ w w 利 便 モ turb questo ヲ テ、 皆 海 利 錢 _ 又 ス ナ 10 w コ 1 -ワ 物 物 譜 云 物 3 合 金 泊 ガ 7 1) 1 ガ テ テ、 ナ 錢 ナ 漂 1 力 木 1 ス = = 1 國 -云 テ V W IV 7 31 リ、 V 流 3/ 中 皆 此 中 NA 珠 丰 w 7 ~ 7 木 1 = 輩 デ 交易 鳅 位 Ŀ ~ 玉 丰 1-3 1 3 貯 太 テ 金 ナ 丰 力 E 鎌 -3 毛 3/ 1 ヘラ、積 銀 IJ 45 デ IV ナ テ 11 w 1 同 ガ 以 道 + ナ 重 1 ナ 21 コ = 3 31 第 4 寒 F サ 商 畜 土 ラ ナ V 7 力 1,0 7 7 平 218 IV 1 = 1 IV 1 日 V 人 1 -數 宵 1 民 B 力 心 210 1 カ = -= 第 ソ 當 商 テ サ 得 賓 ナ T 金 力 = -叉 錢 ナ F. 1 買 又 7 1 -IJ 1 金 大 交 テ ス 7 ラ 1 絕 1 IV フ V 21 1 銀 名 上 資 易 力 ソ r IV = 又 又 テ 1 世 大 事 ラ ナ セ 1 ン 皷 F b ス 3

物 金錢 交易 デ 所 厄 次 海 度 地 ラ ^ 21 = 通 JII 度 毛 7 1. ^ セ 難 E -1 = 右 得 食 警 出 IV 用 7 七 ナ p 1 21 -1 本 限 道 有 1 物 細 1 リ、 沈 w 3/ セ フ 如 意 汉 7 金 7 毛 ---工 3 IJ = 芝 家 テ ク 1 P 1 w ナ 永 w = 1% ナ y, 叉 通 モ ラ 地 ナデ 3/ モ ク w V 1 21 V ナ ク 金 -厄 亦 手 久 V 1 Æ 行 21 ラ ナ サ 所 難 六 ラ 218 汉 -工 海 = r ス ٦ 用 JII 通 ズ テ 入 IJ w ^ = b V ク w 多 云 テ ナ 止 钱 ソ リ、 1. 3 w -モ = ソ -) 沈 ク 外 リ 1 ナ T F V 21 モ 子 7 車型 通 ۱ر ---ラ 1. y, ナ 1 t 2 畢 y, 病 41 用 サ ナ 孫 云 フ 丰 行 ズ シ 竟 右 ラ 金 Access -足 V ス 1. テ 1 1 皆 犯 用 銀 勿論 邨 + IV 110 ___ ヌ 1 通 厄 サ 准 躰 交 人 者 意 棺 丰 ガ __ 1 用 2 飢 易 本 多 難 內 船 3 7 ナ ŀ 1 1 ス y, テ デ 手 內 汉 意 テ 7 1 3/ ナ = 1 n 道 IV 内 IV 3/ モ ナ Æ = = ガ 彼 相 近 庫 1 寒 w 今 入 = 7 モ = 主 地 グ 1 雁 牛 所 チ ŀ 大 E iv 1 1 V 意 内 判 世 御 故 文 以 テ = 110 -力 ヲ ٧٠ ナ テ 金 -座 化 埋 黄 力 フ 俗 = ١٠ リ 死 銀 -納 叉 誰 金 船 1 IJ セ 金 × 1 3 頃 前 難 銀 ナ ナ ヲ ラ ŀ = 1 4 X 3/ 交易 汉 テ 王 牛 Æ ラ w 1. 1. 10 --1 力 w 用 蝦 飛 云 云 3/ E 7 H V 1 w -テ、 テ、 者 7 意 夷 云 7 ナ 1 1 1 F. -數 1. E ナ 力 物 物 3 ヲ 地 ~ 3/ ソ 大 君 15 テ -V ホ 7 ナ w 云 Ь V 21 1 札 力 赴 百 ヌ 1. 開 + 如 ナ 名 1." 1 金 ラ 風 御 7 誠 丰 " 年. 1 力 1 V モ 銀 9 外 ズ、 金 出 土 時 1. ヲ 汉 V ケ = 錢 w 根 有 歷 金銭 用 3/ テ 1 = モ -歸 內 霧 7 ガ 時 至 金 w E 210 元 1) _ 出 萬 翼 家 濕 次 カ ソ and a Z 1 ス H 東 物 大 水 T デ 110 ŋ = 2 1 1111 1 w 感 數 庫 世 厄 災 月 テ 飛 H 交 w 後 ジ モ 调 金 易 中 T P = 難 _ E 1 病 人 4 出 テ P テ n 1 w フ -ナ 0 後 數 度、 爲 ケ = ___ r 7 坝 ・デ リ、 = ツ 飲 菜 ザ 碎 华 7 1) 1 ---ガ V 牛 食 3 テ ソ ケ、 年 21 ン ŀ 4 w = 1 = 食 其 習 世 V 1 1 3 卽 E =

經

世

談

卷

經 世 談 卷之五

〇國家ノ財用ヲアツカフ者ノ心得。

根 1 1 ス 1 E w E 毛 _ 齊 朽 旨 用 w 元 力 凡 7 E ソ 今 チ F 7 1 ヲ ガ 7 ŀ = フ 本 考 損 F 如 3/ 1 3/ 1 w 3/ 世 テ、 ナ ナ 時 ラ 意 ズ IJ 7 V 210 w n 汉 V = 又 = 21 = テ、 財 テ、 者 金 命 物 210 ソ 3 12 多 銀 用 1 ŀ = 3 = テ、 飢 天子、 便 シ ン 缝 1 ŀ 力 E ナ ナ 云 宜 1 ^ 汉 1 次第 流 云 テ 7 y ダ + N 25 公方、 時 皆 物 1 通 物 7 毛 金銀 爭 ナ ツ 3/ = ^ ス 71 食 風 サ 力 210 w フ V 大名、 萬物 次第 7 フ 錢 7 110 ^ V 以 船 . 地 1. 1 = 1 . 獄 交 E 1 7 = 21 テ 7 ナラ 高貴 浦 1 第 易 ノ沙 飢 = V 1 ナ 賀 y 7 V 亦 久 _ ズ、 汰 w r 亦 1,0 ノ御 1 通 y, ^ 時 モ 賓 自 w 世 ズ E 寒 庫 7 由 1 1 = シ IV 1 食物 牛 銚 爲 愚 便 毛 V 力 = モ 次 利 時 モ 子 凡 w 1 ス = . 故、 第 ナ = 1 IV = 1 --輩 風 其 百 IV 七、 モ 3/ 1 7 重 物 云 實 姓 F ラ T 3 町 松 寳 ナ デ 水 寒 ケ ヲ ^ 21 牛 論 世 人、 前 出 1. 1 = V 3 物 時 7 ~ 1. 3 = = E ズ 乞食非人ノ手 毛 1 ナ V ナ r P 13 3/ 毛 テ y 衣 ラ 110 IJ 丰 w テ、 長 物 服 又 = 及 7 = 金銀 故 崎 3/ 1 ナ w 1 -決 ラ ソ E ナ 工 ^ w 7 錢 y, ノ上 9 故 毛 1 ^ ~ -1 . 元 至 ナ ソ 通 次 眞 , ッ、 = 行 IJ 3 = 7 w ス 1 外 T テ ~ 1 v 毛 ス 1 財 百 世 Ŀ 何 テ IV 同 3/ 21 實 滯 年 ノ愚 ナ 力 毛 = ソ ジ = リ、 -7 F ナ ナ 毛 IV V アラ 過 凡 ソ 牛 取 6 7 ク = 金錢 第 ノ輩 流 ソ ギ 力 v 1 ズ、 故 テ 通 1 ^ -ソ

經 世 談卷之五 錄

○國家ノ財用ヲアツカフ者ノ心得。

○財用ヲ治ル大意。

○諸方ト

モニ逐年段

々困窮スル起り五ケ條アルコトヲ論ズ。

○奢ノ風俗ヲ止ムル法ノ大意。

談 卷 之 五

縺 世

成 ヲ 心 有 中 = 25 人二 就 心 ナ 力 1 用 __ テ、 2 ガ ク ク 21 無 人二 ケ ナ 7 w 1 用、 サ 扚 ス モ w E 7 テ セ ~ 要 用 子 1 出 故 丰 用 捨 1 長 來 ナ 等 何 灰 ス ラ 搔 無 7 又 水 1 w 用 差 時 7 1. 7 110 1 禁 F ノ職 别 如 10 3 r ナ 丰 y 明 丰 ズ IV 以 業 テ 1, IV ナ ~ 1 行 上 扚 ٧\ • = ガ IJ 2 ウ 1 3 子 21 E w 足 面 シ、 烟 椀 ツ 1 輕 ラ 草 要 4 ナ 1 底 7 用 = 1 又 ŀ ヲ ナ 勝 テ 1 力 牛 to -ナ 1. 手 フ 7 IJ 3 ۱ر 1, 五 誰 テ 1 = ス 撮 ア 人 云 菓 灰 4 V 當 播 w E P E 子 又 七 事 ~ フ P -7 > 日 製 ナ 人 = w 3 3/ 定 ~ ク 毛 = シ 3/ -組 X 3 百 テ 3 ヲ . 合 文武 7 文 力 モ 勿 力 ス テ = w 論 P ス ~ B 有 L 工 . 時 w 3 何 17 用 * 夫 木 將 r = IV 7 7 サ 職 棊 物 1 1." w n ナ 駒 テ 1 ~ 3 毛 鍋 禄 y 、之等 ヲ造 シ ~ 1." 釜ヲ 3 百 3 膳 E IJ Ti. リ = 鑄 以 文 H 1 准 椀 ŋ w 下 烟 = ジ 管 E r p ١٠ ŀ テ 世 必 フ 汉 ヲ 1 考 話 ナ n 21 如 フ n 職 r 7 n 丰 V 業 類 ッ 21 v 1 1111 膳 250 1 7 1 1

經世談卷之四終

拂 武 1. Щ Ui 名 ナ ナ 7 王 V E ス 尽 7 目 ラ 1. 底 リ、 y 士 1 行 7 ~ ス 21 獵 某 泟 テ ナ 7 屆 = w 111 ----子 拘 輕 叉 デ 賤 士 r ナ 3 如 w 力 東 サ 丰 高 3) 故 ガ モ 3/ 1 IV ナ ١٠ F 此 諸 覺 面 內 ラ 丰 1. ナ 直 川 3/ w 如 1 業 ズ 士 民 h 文 = = ^ w モ 7 v 此 類 テ テ 心 武 110 ナ ナ ~ -E F ス = ---. 世 蝦 近 得 有 ŀ, w 丰 テ 丰 王 丰 高 テ、 夷 8 多 居 用 處 Ŀ ~ F 丰 7 ŀ 首 要 草 折 ケ 7 华 1 必 T ク 3/ 地 w 世 ナ 用 鞋 警 數 ナ 助 用 F 7 w V IJ ノ人 固 評 ソ IJ 1 1 ~ 110 1 ナ モ -及 鎗 証 事 8 物 ナ 毛 3 議 F. 1 1 1 w + 時 人 持 備 1 1 ク 7 1 1 甚 = 1 上 邨 江 叉 カ 17 4 1 ____ V 3 -賤 1 助 道 程 r 又 數 戶 7 七 21 ١٠ = 丰 ナ 12 賣 物 引 大 百 士 八 E 上 及 首 = IJ テ T. r 1) 出 1 ~~ 3 ~Va 7 火 姓 E セ 燃 İ デ ナ デ テ 7 A ナ w IJ 1 ス 10 ザ 節 夫 不 左 17" 通 7 1. y, E 牛 L ۱۷ = w テ デ コ T 百 ŀ 3 自 ナ プコ 行 ----業 限 奢 足 = ク ク 人 ----١٠ P w I. 由 1 1 ナ 諸 時 時 7 -~ テ テ 1) = k 1 內 價 省 定 ナ 力 ク テ 2 職 ス 7 1 E ゾ 要 常 六 ク 申 IJ F ス ラ 2 1 V 毛 些 新 含 テ 費 ヲ 用 價 + 毛 w 1 ~ ^ 盡 得 ? 19 四 メ 輕 1/3 用 多 3 = 3/ 田 ---テ 文 + 1 1 1 3/ 丰 サ 牛 w IJ 面 助 鍛 3 難 サ 重 = 1 1 中 = 1 3 4 3/ ク 倍 自 樣 冶 ŀ テ ij ___ ス 士 ツ 1 3/ = ٥٧ ~ ナ 多 ス 百 分 王 大 1 力 ス 4 = ナ I. 别 ラ 心 ナ ダ 丰 1. フ ~3 ク セ 文 1 用 條 テ 如 得 w ١٠ ŀ IV 110 y, V = 1 7 デ 勿 心 = 1 木 7 ^ 7 V 此 論 足 論 r 諸 モ 1. 1. 1 N ガ 1 7 Y ナ 輕 多 世 w 何 ス 高 王 何 ズ ク 物 V 1 V 心 В 底 滞 入 水 3/ ~ ~ 水 直 1 111 足 1.0 サ 1 價 H 1. 用 = ガ 3/ 丰 者 草 用 岩 ナ 輕 賤 テ 拂 多 ケ 數 = 力 ナ 鞋 百 文 倍 IJ テ 底 3/ 1 ŀ T 底 3/ 7 10 輕 宜 叉 戰 テ ヲ 丰 I 1 IV ス E -= 作 業 諸 引 + ナ ナ 爭 ソ IV 丰 >1 力 ~ 8 物 輕 職 1. Ŀ リ = w = ホ 1 1 7 3/ 海 品 云 時 ŀ ŀ 丰 ナ テ サ ŀ

7 7 ナ 1 次 7 時 オ 世 1 " IJ V 業 ナ 1. ク ス 力 屆 ス 10 IJ __ = = ~ Ŀ ヲ ヲ サ T ~ 7 ~ ク IJ 七 E 7 ラ 當 テ 牛 IJ モ ソ V + 1) 牛 21 E 及 -見 テ 業 3 1) 1 1 ŀ テ ラ 3/ 7 家 禄 程 民 當 宛 自 = ~Pa ۱ر F ヌ 25 10 或 中 事 ナ 百 足 E 行 ヲウ 然 1 力 1 モ ۱ر 體 父 ラ ナ IJ T. 又 1 = フ 1 1 役 ク ケ 諸 母 風 勢 多 ス 3 = 大 毛 人 衣 宛 官 聖 俗 = 職 テ P 尽 = 3 210 ŀ 新 n 行 金 ナ 不 ヲ 人 デ H 3 ナ 食 > 銀 任 人 同 田 1) ヲ 4 ダ V 1 ソ リテ ノ費 遣 世 外 >1P 必 開 君 = 10 7 r ズ 1 下 發 跡 力 3 w 7 t 中 21 3 1 上 ノ間 道 リス 家 者 7 浴 治 ナ IV E 2 _ ノ物 リ外 丰 y 中 ~ ~ 面 3/ ス ハ X = _ 多 玉 r ヲ ソ IV 3 力 V 4 ヲ 合フ • 農 召 IV サ 丰 1 フ ラ 百 1 盜 今 滁 叉 時 作 或 I -70 3 1 ^ dill. ザ モ 使 1 厚 諸 ナ テ 30 w 7 ۱ر = = 間 業 邪 下 時 フ IJ 刑 テ ク 臘 丰 1 禄 = 難 罰 謀 武 シ ヲ營 1111 1 1 3 1 7 合 7 テ、 物 自 士 ナ 10 力 サ 姦 ス = w ハ F ラ 7 IJ 行 計 然 IV ナ V 3 者 ヌ 百姓 y, 竊 ズ、 テ、 7 ガ 110 ナ = ツノ産乏 フ 民 モ 多 E 此 ユ 1 1 1. -P 兵 サテ 7 ソ 等 企 奪 久 Ŀ 禄 1 ŀ 3 利 人 テ E 力 1 1 v = 八農合 1 3 7 剝 世 又城下又 今 不 ١٠ 1 7 テ = 3/ IJ 爭 世 r ナ 面 利 力 +" 4 E 足 1 ۱ر フ . 掠 子 ラ ラ 7 = 汉 ヲ 4 モ ソ 1 7 テ召 勝 自 貪 孫 ザ 補 y x V ソ 又 姿 1 21 手 然 IJ 1 IV (E 7 面 V コ ヲ = 城下邊 產 テ 1) 丰 -1 (-= 1 4 ユ 禁 テ 今 武 . 1-廉 業 1 ナ = ^ = 或 セッ y. 甚 心 H 分 世 士 フ ゲ = 址 1 ラ 1 ナ 得 話 ス V 3 1 2 セ モ 1 = 賄 V 1. 钱 薄 衣 ~ ワ テ w 牛 汉 3/ F T 賂 シ 武 者 = 食 ナ 3 ヲ 丰 w T ク 力 IJ 7 ۱۱ 住 樣 武 士 F 1 ŀ w v テ r IV 1 貪 云 間 兵農 控 IV ス ナ IJ 邊 ŀ = ---~ 210 リ、 樣 妻子 n テ 或 云者 牛 7 7 E = 者 嗜 禄 合 叉 今 1. ナ = 合 モ F ۱ر 立 商 世 今 21 Æ 1 iv 1 1 モ ス ١٠ _ 殊 補 養 テ r ナ ナ 賈 1 1 w 力 ١٠

H

地

王

ソ

v

ナ

ケ

v

3

=

21

+

ŋ

丰

7

1

4 サ 人 力 セ ク T モ 木 w 洣 ラ 1. ナ 又 ス 1 ~ V 子 感 隣 高 110 フ 1 ズ w * . 云 ナ 或 7 ŀ E 7 = 道 ŀ 同 ソ 1 + 1 他 1 ホ 卽 ナ 理 t 力 或 毛 3 V 1 餘 天 フ (毛 = ツ 1) -1 地 ナ 毛 人 儀 = 1 ---ナ ナ 7 F 1 丰 3/ 4 = セ 7 胸 故 テ ラ ガ 心 汉 IV Name of 1 買 ナ 丰 ~ 大 子 v -當 相 取 ナ 又 1) = + 木 21 應 w w 世 1 1. ウ b 亦 樣 同 ツ 力 1 本 1. 難 __ カ 儀 通 意 云 30 7 n P 1 -用 ナ 不 事 7 7 フ ナ 7 山 IJ, ナ 3" __ 自 カ w 帥 丰 1 y, 者 丁 ス 由 = ナ ケ 7 テ 1. b w サ E ŀ 21 V 時 7 左 1 ナ 1. 1 V 力 深 ケ 自 願 所 ナ 1. ケ E ۱ر . 爲 E ズ 威 フ 17 4 V 人 聖 彼 1 テ 1. ン = V 利 賢 此 T 才 3/ 111 Æ 100 V (. 白 君 相 w テ 1 V 1 ソ 意 丰 1) ス = 尽 Jj V 高 n 1 聖 ガ N 7 b 1 7 . 賢 洪 木 體 分 直 = ÷E 7 利 水 1 -1 毛 1 1 3/ 3/ 當 人 テ 永 ナ 3 心 7 1 テ -治 然 君 求 人 人 + 1 世 ナ 道 p 2 ۱۷ H T 久 X 1 ラ 天 テ 7 フ w w. ヲ V 親 者 心 引 NP 地 AIP. 3/ mp. 久 縣 鄰 略 ナ 3/ H w 7 w 手 IJ テ 1. 唰 或 1 10 --人 前 1 牛 1 1 ナ _ æ ノ心 自 他 水 テ 心 y フ 1 7 商 然 誠 或 1 ヲ 1 ホ 1 7 大 ナ 1." -1 ス 3 2 オ 考 ナ 意 公 IJ ~ = w 1 1 フ 7 人 共 利 1 + IJ ~ 3/ w 合點 7 ナ 3/ テ 1 E = 時 意 迷 T 1 心 1 V 惑 ラ ラ 1. r 3 --

0 家 中 小 進 1 者 百 T 諸 職 7 營 2 制 度

7 y, 21 今 ソ 殊 + 1 1 扶 諸 v -良 大 助 210 名 法 輕 -衆 善 1 丰 諸 17 政 費 皆 七 士 戰 ナ 1 ^ 宛 テ 4 國 行 v 1 餘 諸 11 21 . + 事 7 萬 分 ウ 1 費 事 4 -用 自 ナ テ 國 然 間 IJ 7 ---力 = 奢 合 1/ 又 ノ風 IV E テ カ 汉 3 俗 y, w ヌ 故 IV = 甚 ウ モ 微 ツ 1 ソ 禄 P 1) 1 行 高 ナ リ、 テ w = 東 者 應 3 或 セッ 年 7 1 ズ 大 1 家 L 名 3/ 力 衆 1 3 1) モ _ 1 八 諸 >1 1 宛 殊 士 2 7 更 15 行 马 1/3 7 ۱و 42 矢 藏 丰 年 1 b 入 亂 11 1 1 收 7 モ ~ 5 + 納 汉

經

倒 高 早 仲 4 = 2 丰 A 向 Ì r y ~ ~ テ 多 ナ 1 n 7 1 1. 7 カ 1 間 屯 = 商 海 合 年 ~ ナ 7 チ 毛 7 1 b = 1 卸 送 點 テ 買 番 V w ナ ナ ヲ ŀ サ 毛 其 y 定 ナ 7 ~ v 18 小 w 牛 r 3 V テ 物 大 持 丰 月 カ 4 國 w v E ス 15 . 樣 番 格 1) 18 セ 丰 <u>ر</u> ر P 1 1 7 ___ 者 等 其 3 不 播 7 兩 1 ナ 1 1 又 出 難 自 州 自 者 盛 ナ テ 順 力 サ 樣 V 1. ヲ 衰 由 鹽 r ッ、 才 身 番 7 來 牛 ス 1 分 y. 鹽、 雇 ~ ホ 叉 iv Æ ۱ر ヌ ン = -ノ外 1. チ 故 テ モ 3/ 1 ズ E 2 フ 後 商 8 仙 買 テ 持 y 關 1 1 V = テー 臺 入 自 買 行 ナ ユ **ハ** サ 東 219 ツ コ 21 ~ テ 1 7 然 7 ~ IJ 1 1 1 司 却 屹 問 年 仕 * 綿 ユ 1 L = セ -3/ テ 自 度 權 ザ 用 屋 立 丰 入 ナ 木 = Y 權 今 次 デ 然 上 1 捨 綿 w 1. 1 IV ガ ソ ヲ 故 時 ヲ 第 3 ツ = シ 1 ナ 1 I 1 ŀ リ定 世 金 得 小 テ 類 1. 或 ク ŀ = y 賣 彼 高 不 1 -ズ = ス 3 = 3 7 テ テ 云 多 × 地 Ħ 類 3 ス ~ 210 V b 77 自 7 世 テ 由 テ 行 カ 丰 ナ 丰 3/ 1 7 由二 カ 相 y, 問 後 IJ 者 1 カ 司 ソ ス 1 V ズ、 場 屋 中 ラ ~ ナ ナ 1 = プブ = ノ ナラ 問 並 勿 商 リ、 利 シ 7 ヲ 自 ズ v テ 定 ソ 荷 買 r 屋 論 然 害 ナ ズ、 問 始 數 買 叉 叉 ヲ y, 1 × 间 y 1 1 向 何 賣 才 勢 深 仲 3/ ナ 屋 入 21 1 統 ノ商 拂 者 水 7 出 7 ナ ク 間 水 w 1 コ y, 考 1. 立. 間 底 7 1. 1 力 1 v ガ 金高 掟 人 間 迷 w 屋 _ b 毛 ٥٠ ^ 1 分 屋 テ ズ、 惠 雇 近 ヲ 叉 7 p ۱۷ = 勝 遠 何 必 或 世 フ 黎 ۱۷ 24 v = フ ソ 手 年 办 ス 用 ソ 所 所 ۱۷ ソ E テ ン V 次 要 世 , ナ 召 廻 1 1. ~ 1 3 ___ 1 3 Ŀ 事 第 テ 用 仕 用 或 態 w 1) 1 1) 3 3/ X 小 持 當 III ヲ ___ 1 IJ ~ Æ 事 1 = 賣 產 通 ス 物 來 テ 老 番 同 或 屋 7 牛 ヲ 屈 ~ ヲ 物 樣 練 新 厭 ŀ = n = = ۱۷ ŀ 禁 限 밂 テ 用 ナ ヲ ŀ ナ フ 3 = 4 3/ 仕 差 + r 疑 ジ テ 汉 v テ 7 w w ヲ 勿論 入先 賣 辨 者 ~ w TIL w ナ 18 = 商 遠 シ 出 ~ 者 ス シ ソ ズ 1 = 限 金 人 所 ~ 面 ケ w ス ۱۷ Æ

賣 w 出 ナ -Pa デ 9 ス 所 1 通 サ 1 直 y V 段 高 10 ŀ 7 ۱ر 、高 賣 テ 叉 出 直 仕 3/ ハ 入元 七八ケ 程 經 下 直 テ 月下 後 = ナ = 直 始 7 ١٠ × 尽 四 テ w 五. 引 時 ケ 早 下 月 ゲ 速 r w = 云 ハ引 7 ホ 1 F* 故 下 ナ ゲ y, 仕 ズ、 入元 故 根 = 元 = 定 テ 高 分ヲ 42 7 华 仕 = 高 人 ~ 直 久 テ iv 利 华 пп ヲ 华 h 得 下 テ ル 直 P = 21 7 テ y V 亦 E

里 ラ 其 竟 高 姦 直 術 ナ = y ナ y タ 叉 n 2 メ買 7 待 テ E F 利 云 ヲ コト 貪 n アリテ、 ŀ 代 呂物 r 多 ラフ キ時、買 ル代呂 入 物 V ズ ヲ 多 シ ーク買 テ 111 ステ世 = r V = テ 排 自 底 然 = ナ = 甚下 y. 间 オ 1 = ナ " N 力

七 關 タ 東 1 時 小 判 __ 兩 割 銀六 餘 + 目 = 定 T V 1. モ 中 或 邊 1 銀 相 場 高 F r w 故 小 判 ----兩 六 + 四 匁 1 時 b 五. +

ヲ

待

テ

買

人

w

1

=

ŀ

何

V

毛

墨

竟

21

姦

術

ナ

y,

叉

金銀

錢

1

相

場

1

チ

ガ

Ł

=

テ

損

德

1

别

r

y,

汉

ŀ

218

IJ

1

1

21

1

チ

ガ

E

r

n

故

銀

付

1

首

段

=

テ

21

,

金

高

=

3

テ

大

ナ

IV

甲

Z

=

ナ

w

ナ

y .

钱

付

直

段 ナ " 1 モ 勿論 1 錢 問 相 屋 ナ 場 7 1 チ b ガ E 力 E 等 p フ = 1 モ 皆 = ŀ ア ナ w 7 3 デ 1 力 ナ ナ y, 1 力 又 勢ナ + フ 1 V 類 1." モ 7 1 " 問 1 屋 問 屋 = 拘 仲 間 ~ ラ = ザ テ ス IV 時 IV 3 23 ŀ 多 ソ + 1 向 = 1

+ 中 = テ、 統 = ソ T E 力 ヌ w 故、 自 然 = 姦 術 小 丰 7 ŀ ナ り、 時 -E IJ テ ソ 1 向 1 商 人 問 屋

ナ

商

人多

7

ŀ

E

時 1 自 然 ノ勢 統 = = 引上 テ、 一ゲ引 畢 竟 F 人 ゲ 力 = 叉 r ۱ر ラ 多 ズ ク買 F 云 人 7: V ŀ 1 ス = 丰 1 買 1 3/ 入 w v ~ H." 3/ w 類 サ 1 7 V 118 チ 問 7 屋 フ テ F 云 _ 樣 モ 1 -上 ナ w 3 リ定 1 × ソ ヲ

ŀ

3 1 E 7 " 問 屋 ナ 7 テ ~ 多分 ノ代呂物 ノ賣買 = 通 用 甚 ア N ク、 叉 ス ~ テ火急ノ用 = 3 - Q# N 3 1 7 n

+

テ、

ソ

v

(.

1

掟

ヲ

V.

w

=

1

却

テ

3

P

3/

力

ラ

7)-"

w

コ

ŀ

T

y

サ

v

1.

毛

問

屋

1

云

毛

1

ナ

17

7

1

ナ

ラ

又

其 1 商 德 價 云 1 7 此 大 7 n 1 買 寸 賣 方 利 ŋ 向 屯 大 通 E 力 + 110 = 物 ~ 其 7 1 F 1 in 物 力 -1 ۱ر 書 甲 得 此 所 云 ヲ テ ナ = 1 ナ w. 117 IJ 問 問 狀 時 等 4 テ 云 1 = 6 + n + V 人 屋 屋 物 テ 1 = 1 3 + -PIN = E 7 掟 差 元手 此 テ、 1) k F w 1 上 7 1 持 當 []] 云 此 大 117 云 别 1 ~ 3 立 多 出 用 屋 ١٠ 統 r 牛 >1 3/ 1) 力 -۱ر 何 撮 引 浮 坳 P 3/ 何 V 7 1 F 70 3 代 テ 云 船 早 當 J: 110 フ ホ -= 1) 沈 7 賣 呂 ゲ引 持 彼 1. 3 速 E = E 3 111 T ラ テ 170 ラ 時 物 w P 方 IJ 1 屋 出 文 今 仲 下 仕 1 ズ ナ ズ ~3 w ス = H 買 111-ゲ 入 大 1. ソ 間 ナ 1) w 3/ モ E ソ 持 多 ナ 1 y, y 1 E -1 ス " 1 向 類 統 テ 丰 w 求 テ 及 w 1 來 _ 向 ノ用 損 利 前 義 ス 引 y 毛 2 ナ ŀ サ -ノ所 害 問 ~ IJ E æ w E ^ 後 21 V テ 此 r 事 ゲ III 1." T IJ 屋 --110 1 4 今 テ、 テ 賣 金 ヲ 仕 HI 1) 方 w 30 毛 = 3 何 1 得 彼 多 入 事 商 = カ 1) -リ、 驛 今 非 渡 15 方 元 方 7 1 4" -Y E 13 K 賣 利 ナ 1) 常 テ T ス 牛 1 1 -何 1 價 テ 大 7 必 y IV fiil ! 111 r V -7 1 人二 III 買 他 ナ HH 力 利 テ 12 210 1 ズ 1 V 屋 高 人 損 w ۱ 故 T 王 1 1 7 拘ラ テ 心ヲ 小 附 1 大 下 ~ 显 110 T IJ 7 小小 定 ダ下 抵 買 買 IJ 竟 ス テ で 1 ズ、注 罪 テ 车 位 分 用 定 牛 又 1 -賣 竟 何 直 直 分 p 均 1 6 1 --役 = ス 利 文 テ 1 段 1 ウ 1 3 人 セ -V 所 w 時 ス I 等 利 利 ナ テ 格 3) ヌ 1 -ナ 商 ルヲ テ 夫 定 IJ モ 5111 ナ 7 = 1 = ~ v 人 仕 高 P r 1 T 17 15 y, ۱ر 1. ^ 皆 又 利 入 ラ 及 IV セ w 17 = 毛 7 遠 相 ナ 此 定 尽 IJ ヲ ~ T 7 ヌ = 17 其 應 所 w 外 得 x 1 IJ ラ 7 3/ 7 3 義 物 或 _ 1 汉 1 汉 F = ズ = w 辨 曹 叉 ヲ 李加 ナ ス w p > w 1 7 買 定 里 損 ~ 毛 フ ١٠ 30 毛 = 1 IJ F 直 遠方 テ ジ 必 竟 テ P ナ h NE ス x 7 高 商 y, w + 姦 段 T 彼 力 w 17 V 其 n 17 術 高 方 IJ 者 w ガ、 人 V -没 為 賣 叉 外 217 下 E · 21 1

· 200

居 廻 知 X 网 15 賣 1. 3/ 困 ナ 21 1 3 テ 窮 非 盛衰 " テ 245 IJ ケ 7 1 凌 テ 明 扱 ナ H 常 者 テ -V 3 割 白 1. 却 1. 7 1 3 110 7 ラ 大 1 = 考 付 米買 ij 家 考 -7 テ ス 格 入 = w テ = IV 3/ 1 w 並 札 ソ F ~ 明 1 テ w 惠 毛 7 7 1 = フ 7 ナ サ コ ナ 1 ~3 F 頭 セ 1 水 y, 1) J. 1 ス ラ 却 1 1. 割 テ 3 ス -3/ ソ ナ w 9 テ ズ 3 NB E テ -IJ ソ モ 1 V 13 4 費 迷 - 78 金 -何 E 3 (. 1 3 思 惠 テ -111-錢 7 ッ サ 上 3 ス = T 牛 テ 割 テ 1 >1 p = 次 ヲ -= 3/ 别 红 救 町 ナ IJ 與 却 I フ 什 = 力 E 未 = 1: ナ IJ テ テ 海 1 フ テ 夫 1 w 心 ŀ ナ 行 惠 甚 申 平 w w 3/ JII ~ 1. 云 7 叉 類 ナ 付 テ 1 不 日 1 V 郡 用 云 上 胩 獵 1. 平 扱 段 = 3/ w 奉 w テ ナ 百 フ 3 21 w 云 フ ヲ = 行 --7 1) ナ = 3 1. ~3 ワ 叉 姓 = 1 前 諸 賜 1 1 r ŋ -丰 ケ 1 1 1 ナ 貧 由 1 事 1) W __ テ 王 汉 才 Ш 云 譬 ケ 付 行 富 軒 7 17 1. 林 メ ク ~3 1 V w w 才 E 7 ---1 1 7 ナ 高 力 餘 p 111 8 人 = モ ツ 下 V V 1 1. ラ) 分 フ 大 牛 難 (. 用 何 E > ズ 役 ナ 家 町 ソ 或 P 1 テ 丰 ナ 1 鎚 三百 n 1 人 更 w リ 人 1 7 1 1 如 類 時 商 段 ナ ~ ナ 用 商 F 3 多 1." 此 文 R 3 7 ソ 賣 IJ V 人 = -岭 段 丰 1 110 " y, ナ 諸 1 V 21 E 甚 ١١ ١ 199 w 味 ッ 力 b ソ 1 IJ 1 職 = 5 p テ 3 ・ナ 姑 テ ッ V 3 1 431 ク テ 次 = テ フ ガ ナ 類 1. ク 1) 1 7 ガ h r 第 ラ 云 易 1 及 云 1 __^ 7 14 ソ 2 7 TA × 時 事 ヲ ズ 兼 = 3/ 7 13 貧 V 114 1 ズ -1% 久 -1 饑 0. 3/ p 呼 町 H ·E テ -3/ テ w フ 坐 牛 僅 力 類 畠 ソ ス 牛 久 1 = -上 借 凶 1 サ 申 持 4 1 V 分 1 テ (. 酒 付 災 村 高 = V 屋 フ 何 45 ナ 個 ス ナ w __ ~ 1 方 [IX V y 救、 H 7 7 又 收 __ テ 1. 毛 -シ 全 I. 3 町 IJ モ 1 時 大 1 1 體 禮 7 夫 左 叉 數 3 1 4 4

0

ス

~

テ

商

物

1

問

屋

ヲ

V.

in

=

心

得

7

n

=

1

ヲ

論

ズ。

不 扱 主 ソ 3 チ 文 y w Æ 年 1 E = 27 少齊 1 分 1 從 7 フ V 7 申 召 町 27 所 吟 今 6 フ 君 デ 27 仕 w 叉 付 v 人 物 ナ ナ ~ 味 臣 1 1 25 テ フ ズ 1 之 21 小 ラ 商 町 y 1 隔 吟 人 3/ 1 = 1 情 身 . 人 3/ ス 買 云 テ 加 年 味 ۱ر 汉 也 今 分 同 大 毛 仕 ^ ク 小 1 サ ŀ -1 格 段 1 入 江 行 大 抵 18 3 ス 7 ^ 云 毛 滁 ナ 家 ヲ テ 金 戶 1 小 コ 改 ~ 18 毛 分 屋 ナ リ、 藥 町 高 高 ソ V V 3/ Æ 此 x 1. ケ F 敷 = テ 金 店 1 = 1 ヌ 意 名 テ 政 持 久 r 勿論 テ 高 3 1 ナ 岭 ナ 樣 + w IJ F. 117 ソ ŀ チ = E 味 21 y, テ 毛 = 多 仲 ナ ガ テ ス F 1 町 21 r 近 家 セ 召 間 所 召 + E 毛 2 人 丰 ソ w 持 習 1 者 仕 使 t r = ŀ = ~ 1 1 N 1 b 云 ウ 分 テ ŀ r フ フ 自 + 7 屋 徒 限 ス 人 ナ 者 y 人 1 >> ナ 然 1 V 數 商 敷 1: 商 V 70 1 _ = 1 y, 1 持 110 大 F 多 1. 買 人 概 フ 姿 ス 却 多 樣 ナ 25 小 モ ~ 7 1 = 毛 --借 ソ テ F 11> = v テ 1 ۱ر = 3/ 3 3 種 il 順 1. 屋 V 岭 段 何 3 此 モ IJ H y (. 4 テ ノニ 得 事 y 毛 味 類 ナ = テ テ 名 1 金高 y 難 ユ E 取 屆 1 障 7 主 差 1 T " + 3/ 3 扱 丰 扱 7 r サ 主 别 力 テ 华 ナ 1 力 1 ス w 庄 云 木 從 T 多 ガ ソ 1) ヌ V w ナ 屋 V 华 w フ 同 1. w ケ V ^ ガ y, F 樣 程 ソ 時 l. = テ 年 V 毛 扱 3 名子 モ 1 . E 1 1 210 -V 1 フ 1 今諸 . 當 姿 中 - > 内 此 ナ 者 _ 町 自 其 大 然 ナ = 近 丰 內 毛 ノ心 -入 水 人 或 外 w 所 抵 所 王 ソ 1 E = 百 勢 者 F = ŋ 吞 盛 r 1 モ 1 得 4 1 y, サ 1/3 テ ナ 姓 毛 离 大 段 ナ Æ 衰 1 _ ナ 心 3 1. = y, 買 シ、 テ -E 1 1 T 多 F 云 得 吳 甲 y 7 V 或 w -强 丰 以 サ 百 類 = 18 服 Z w r 毛 3 1 家 テ 形 姓 r E 4 -仲 1 w 店 IJ V テ 段 __^ 中 テ 六 P 毛 10 功 110 間 y, ナ 樣 分 ヲ ヲ 質 七 ッ 亦 カ 者 此 叉 V 分 别 扱 段 段 同 = 何 又 ナ 店 ___ ۱ر 18 ス 15 フ 理 所 3/ 樣 ジ 類 w ナ V V 1 N デ 分 次 テ = T 者 179 每 F. 店 --

纏

世

卷

之

四

觸 體 ナ ŀ 3 -毛 n T ŀ 3 廣 " 廧 唱 1. ŋ ラ テ ア ナ V ۱۷ 役 w + p ス 110 7 7 V -4 1 -町 ~ 或 チ 110 1) N " ス 3 人 何 人 7 1 ヲ + 4 町 ガ 7 3 = 人 フ 1 ソ 用T 3 3 ス デ ŀ 廣 テ 云 テ 人 ナ ŀ 3/ 毛 1 ガ 1 廣 都 先 = E = ~\p -3 1 E 朝 . テ ナ フ 1 IJ 毛 云 + 城 何 y, 夕 7 汉 限 叉 或 IV 3 果 E 下 中 事 四 N ラ 2 31 1 -政 方 サ 上 ナ 1 = 毛 汉 3 ズ r 都 風 1 y, ユ 1 1 1 ズ 21 3/ 本 往 明 說 心 + 1 E シ 牛 風 此 來 世 テ 智 服 ヲ 7 ガ __ = 重 等 7 國 ノ人 サ 久 r = セ 1 慕 1 y 誹 1 ヲ 毛 w E 又 ヲ 事 3 始 內 謗 r モ 毛 = E 17 • 惑 ア メ、 次 w 1 -3 = = 末 城 ア ~ ナ テ n + F 1) フ 目 下 安 時 樣 ヲ 丰 y, モ ^ フ = -邨 前 1 ヲ 210 丰 テ ŀ 1 = 學 同 役 思 F 云 1 -E ス 1 ア 方 ヲ y 立 ~ ズ 大 1 ブ 1 ジ フ 勢 退 樣 n テ -フ = = w 3 法 此 洪 ハ、イ IJ 1 ナ = 1 1 ケ 毛 欲 自 自 ヲ ン 類 水 ラ 3/ v F v, 恶 行 然 セ 然 1 ナ 7" 1. ナ 力 中 フ ザ 1. 1 1 w y モ フ -事 勢 姿 叉 時 町 末 n -7 3/ 1 目 ナ 人 ナ 1 21 世 = 1 21 ナ 當 y, 役 姦民 1 n 推 云 ン 1 1 V 世 7 ヲ ガ 云 1 テ 1 人 10 新 サ テ 東 1 = 丰 = E 1 商 都 越 常 r 知 フ V 汉 或 1 = y 施 城 度、 N 110 n 人 n ヲ ナ 1 端 テ、 町 サ モ 下 ~ 23 7 y, 1 人 諸 叉 1 1 1 3/ メ = ofe 町 , 町 + 1 デ 士 ラ 叉 = ŀ 21 方 云 人 人 叉 誹 不 IV 21 Æ 1 ヲ 數 早 百 覺 E = 1. 7 1 ア 種 觸 ___ + 世 起 毛 7 姓 類 -人 里 " k ラ ナ 1 聞 1 = 3/ 職 力 口 云 1 ス 毛 几 ツ 3 w E 隶 フ ナ 方 人 = 4 ケ 1 = U ٢

0 町 人 百 姓 1 モ = 段 ヲ 分 4 ヲ 7 說

1

法

第

1

難

事

ナ

n

~

0

几 何 事 = 3 ラ ズ 數 多 ケ V 210 同 3 モ 1 = テ モ 7 ノッツ カラ段 品 1 チ ガ E 7 N = ŀ 自 然 ノ姿ナ " 物之

難 恶 F. 事 サ 及 y ス フ V 天 = = = 富 7 1 容 ~3 卽 胩 シ、 w ブ -28 E w 3 及 ナ ナ = 易 + 容 21 17 3 ダ = IJ 次 訓 IV テ ラ ブ リ、 ケ ナ J. ナ 3 易 1) 1 ヲ 肝 ラ 者 7 >> H 衣 ズ ---= 1 = 子 要 行 起 種 叉 食 3/ ŀ ソ 1. ズ Æ ۱۱ 細 テ 何 ナ T 3 ソ + 1 E 4 7 1 憫 7 營 迷 商 ヲ y, 此 テ 1 地 カ w V 1 詳 手 第 處 難 種 サ = 憨 1 ナ 人 ~ 3 產 足 7 サ 7 ケ 丰 3/ ŀ 汉 3 1 __ = K 論 不 世 物 テ 人 ツ ナ テ V 1 1 h w 業 自 勝 = 7 カ = ズ 1. 云 73 ナ リ、 ソ 君 然 物 ナ 有 ~ 所 1 工 w ヲ 手 モ 毛 V 字 者 叉 遽 或 1 3 用 3 ナ 7 ヲ = 21 云 運 賄 ズ 1) 相 右 y, Z 毛 -1 1 __ 直 п J: 多 E 4 赂 禁 出 種 フェ 1 王 勿論豪 物 段 類 觸 V. ヲ ナ k 17 3 3/ 7 = E 以 3 テ 成 テ 7 1 7 ラ w V w -, 引 サ 故 自 力 ソ テ 叉 王 ン シ 落 Ŀ 傑 求 交 1 ۱۷ F 1 ソ 3/ = 41: 易 或 構 叉 ウ 禁 y ゲ 1 ツ L 心山 b 1 書 落 . 役 或 ナ 得 サ 1 w 100 ス 所 力 ^ 金銀 贿 叉 1 テ IV = I 7 1 人 ハ = 7 ス 上 類 產 7 P y T 1) 胳 F コ 3 21 E 惣 申 札 7 7 米 云 IJ IJ 1 1 1) セ モ 役 以 洣 立 テ 帛 遽 テ モ ズ 取 = 3 7 狂 人 惑 右 テ テ 同 サ IV ŀ 扱 ナ Æ -歌 E 法 不 利 樣 不 他 容 -7 = フ IV 1 3/ 自 盆 ナ ナ 6 便 或 1 易 下 = 類 21 7 ケ 1 利 to 由 7 IV V 3 ナ 1 ŀ -V 數 役 ガ 失 IJ ラ 1) ナ \Box ナ 毛 110 -12 110 . . 交 構 歌 V ナ 3 フ 1 モ ケ V ズ 人 如 時 職 IJ 易 r 13 ナ 1 E 18 1 = v -テ F 此 ア ス w 云 モ 丰 77 7 218 Y 21 - > 農 デ ス w 何 Ŀ w ~ 由 ワ 1 = 慮 物 嚴 含 ソ 13 ~3 民 丰 4 __ w h 1 定 用 ナ 大 T E カ 3/ ナ X = v 21 ク 法 及 1 ナ 1. 봡 略 テ 1) 1 3 向 V 商 叉 骨 テ テ ソ 前 7 ブ ケ 商 114 惑 IE -7 概 带 人 コ V 1 V X 折 ---手 構 忽 何 b ŀ 1. 述 3/ V テ 3/ 四 1 1 テ 手 ナ 17 ナ 王 毛 T 民 ヌ モ r w E = デ 3 _ 凍 ソ 共: ヲ p 1. y, 3 21 云 1 11 テ 町 借 云 ヲ 商 云 ウ b 餓 1 = 定 行 價 云 求 賣 迷 20 人 -コ = E w Y

今 人 人 當 フ 근 V 細 虚 民 屯 r ヲ 容 3 澽 Æ 1 = = 12 然 ナ ラ 竭 r 易 1 多 隨 仕 限 = ナ IJ 内 25 ズ IV 次 ナ 3/ 3 制 形 + V 7 1) 1 1 = テ 10 ラ 1) テ 中 テ 210 ヲ 力 世 飲 2 テ 商 # 7 以 テ、 任 r ナ 多 = セ 酒 山 = V 冒 w F 1 ソ ズ IV ヌ)v 云 遊 ク -7 故 1 + 分 3 1 IV = E E 類 樂 油 謀 25 3 -商 内 , b 1 商 7 1 ヲ ナ 齒 y, 時 皆 -1 當 1 ナ 人 1 工 1 毛 1. 人 ナ 有 1 八 然 運 3 y, 思 = ~, 云 ク 百 = = 好 來 V 類 , 千 _ 7 金 3 = 出 E 7 12 上 デ 元 從 丰 合 錢 3/ 1 世 里 w 逐 T 3 1 æ 者 手 25 次 7 ス 7 = 1 1 E 泰 皆 1 力 遠 3/ w 1 費 r 1 3 ~ 1 = 1 公 如 智 メ 177 ラ 1 3 3 道 其 安 p IJ 3 モ ナ 慧 ザ) 皆 1 b 此 ス サ 7 處 30 ナ 智 ŀ 毛 v 商 往 1 n ナ E 1 デ 7 V ラ 慧 サ ス T 110 ウ y 人 1 7 反 風 别 ス、 次 7 n v 故 ^ ^ 毛 士 ス 俗 3 - Second 第 時 人 1. + r 此 = ソ 1 ナ 7 IV 事 智 = 21 君 3 モ 辈 7 = V IJ 1 15 3/ 態 慮 進 E 率 種 ___ 110 禄 IJ E モ = 7 2 = 7 面 商 ナ 相 __ 厭 1 縆 久 隨 = X 21 1 汉 ラ 年二 4 人 = 數 3 3 w ハ フ グ ッ " 智 デ H 1 = 1% 者 テ 1) テ ズ ラ ノコ 役 虚. 欲 17 年. 眞 貧 21 1 3/ 丰 1 3 人 1 セ ラ ナ T 1 テ、 利 1 商 -= 31 云 h 3 110 內 ブ 3 力 義 骨 1 牛 人 ナ 7 IJ 1 n , ヌ V -理 ナ 者 只 得 折 = v E 所 218 職 世 人 E = V 3 3 利 1 iv 1." ソ ユへ、 遙 ガ 目 人 110 リ、 = 德 法 1 = 百 モ V 多 , 21 云 = ガ ۱در = 1 6 1 當 身 何 ク r 商 所 ナ 何 ナ 內 次 槪 心 9 時 Ŀ 亦 力 ナ w 人 3 亦 1 -1 如 服 自 11 1. 7 木 IJ 事 9 1 1. E 心 3 進 嚴 引 富 ラ 110 此 サ ヲ Æ ア ナ 得 難 進 3 真 3 丰 1 1 及 il T y, v N r 牛 テ 2 3 r ワ w 1 110 21 ガ w 1 y ナ 3 ゲ E ガ 今 = 云 者 3 事 ク E 如 テ y 限 カ 1 1V 面 E 力 丰 1 w 小 7 此 官 T 難 世 20 智 = \exists 4 工 ユ ^ 牛 心 y ナ 職 F 慮 V 1 ケ 7 = = 輩 服 ラ ヲ 分 モ テ テ 知 V = F 農 せ 7 商 抑 ソ 四 又 1 1 鄙 1 智 虚 ナ

是ヲ 目 ナ 心 權 佚 1 18 我 衣 ズ + 18 3 y, 當 ŀ 前 奴 得 威 ガ 食 1 ŀ ŀ 抑 心 思 隷 然 知 ナ 少 重 思 1 心 = y n 中 サ 如 ク、 ノ町 4 政 -2 フ 1 Ŀ = 非 迷 1 7 テ 談 如 name (married 任 7 = 3/ 云 惑 本 人 左 服 Ŧ. w ナ ク 力 = 1 -t=" フ , 多 F. ナ 取 公 F = ヲ ス 毛 ズ ラ 3/ ヲ主 云 思 軍 論 分 大 毛 ケ w 誰 IJ 又 テ 所 フ 1 扱 人 フ V 農 ガ セ 4 28 タッ 事 事 1y, ヲ ズ T フ 1 18 最 Æ = 1 \equiv ス IV 7 N = v 同 = ク E 毛 Ŀ 利 IV 夢 テ 事 左 日 1 尤 ŀ = 7 3 ŀ ___ ヲ貪 事 法 モ 1 テ 扱 ナ 情 自 _ 1 V 3 前 ナ 度 フ 然 デ E w ユ = ŋ リ、榮耀 y, 根 條 分外 者 テ、 畏 シ ノ勢 ~ b 3 = ソ 敬 ラ 7 元 -1-1 = 論 ソ ズ 取 前 世 フ 3 ナ 土 ナ ス 1 ノ抑 類 披 榮耀 w ヲ IJ ズ 心 條 y, リ、 1 -人 ソ 好 力 得 心 E テ -3 行 IV ノ上 4 百 コ ソ 3 E 1 y 毛 ナ = 1 ト云 フ 1 ナ 7 30 云 ナ ^ テ ナ 丰 V V 大賈富 7, ナ = ŀ 7 18 植 y 數 ガ ユ 7 3 . 仕 詳 4 = 難 如 V IJ ^ 百 IV 形 數 長 年 name Named N ク、 今 ヲ 何 V 1 年 Æ 丰 ガ郎 + 人 貴 月 セ 事 18 來 > 商 1 毛 7 ズ ナ 年 今 渦 = ヲ 马 世 毛 1 1 F, 1 人情 地 諸 習 行 ラ 改 ナ 矢 w ナ 1 -惣 = 獄 家 程 ハ ヌ テ y, 3 V y, w ジ V 染 __ 沙 ノ沙 ノ臓 行 V 毛 毛 21 = テ ヲ慕フ 逆フ 士 テ、 ノト h ソ 汰 フ 町 3 ١٠ 何 テ、 汰 V 人 元 ナ 1 E 及 農 = 樣 云 ラズ、 難 後 內 1 æ ナ 4 3 = 金次第 事 = 富 仕 赤 1 ク -I ラ 士 1 F ナ ヲ下 法 子 ナ ٠, 云 及 ズ ノ三 1 = y 迷 官 ナ IV I Ŀ H 毛 w ナ テ、 法 惑 1 ノ、 民 下 者 ŀ 1. 1) 7 E 職 y. 云 白 面 1 云 F = ソ 7 3 ホ ۱ر 行 容 思 髮 , 轉 皆 王 心 ナ 4 ナ 1. フ 職 心 易 業 得 事 IJ 1 舊 昇 公 V 1 ズ 人 得 デ w __ ヲ 又 業 平 N Æ 3 _ = 農人 テ 4 及 1 3/ 換 カ 3/ テ ヲ ヲ = 牛 コ 難)V 1 守 樂 勿 ク 力 ウ 改 1 V = E 丰 3 論 自 テ w = 工 y ŀ ナ w _ ナ 所 テ、 ナ <u>ر</u> 然 = 及 F 21 殊 ۱۷ ソ = 以 安 分 今 N 21 ナ , ヲ = ŀ -18

事 + ス ~ Ŀ ホ 24 ッ **F*** y 1 テ 段 n 7 處 强 1 者 町 1 = = 大 盛 心 7 Æ 7 ナ 人 1 離 馴 百 商 T 汉 IJ ナ 1 士 IV w V 人 1 IV V テ 豪 地 中 者 者 ~ テ 毛 農 ソ 召 段 3/ 毛 21 1 深 事 少 20 F ナ 1 1 豪 云 サ 牛 7 ケ 7 1 フ 農 羡 去 中 毛 モ V V 人 1. 110 セ IV 1 2 = -テ 數 ~ 此 ヌ = = Æ 毛 等 者 至 ŀ 及 牛 1 萬 3 Æ ŋ P 1 NA Æ 容 段 テ -ケ y ズ 1 易 世 ر ۱ テ = = V 人 中 至 11 r ナ E V 1 第 ラ ラ 多 段 中 デ V ザ 亂 ズ、 騷 110 ___ Æ ク 1 農民 累代 大 世 w ナ 1 ガ 形 諸 商 1 3 = 丰 至 ク 7 土 方 方 = サ ١٠ y, 着 下 肩 リテ 7 1 = 海 段 ヲ 1 ナ 10 1 陸 叉筋 ナ 人 ナ セ 1 V 1 1 豪農 ラ 聚 110 V 4 通 ブ 甚 骨 ヲ . 10 y 用 今 n 强 强 手 亂 E = モ 世一 事 3 7 = 世 1 七 寒 雨 及 1 1 ツ = = IJ 决 ナ ケ r テ 風 毛 210 テ リテ 殊 + 3 w テ ナ = テ ___ IJ 自 コ 毛 IV = ナ A 弱 妻 1 ŀ 汉 コ 由 大阪 ラ 每 子 1 21 w ナ 人 ラ ズ、 後 叫 IJ = ヲ 妻子 榮 辦 ズ ナ = = 堺 彼 テ y, 丰 1 ~ テ、 7 モ 難 其 時 7 ナ 3 町 處 安 ソ F* 久 = 人 テ 子 至 1 1. 1 1 1 富 E 孫 故 1 力 3 ラ 3 + 此 商 ケ テ、 15 安 110 > 倍 堵 ヲ ス T ナ ホ

遽 見 3 力 末 フ 今 テ = 人情 世 ヲ , E 華坚 法 1 本 第 7 7 1 ズ 動 0 IJ 亦 -IV. カ 1 サ HT 1. 事 難 サ 方 重 7 ナ 事 10 7 ヲ 丰 リ、 視 IV ナ r E 樣 y IV ツ 1 農 ١٠ = 力 = 7 ス ナ 21 フ " 聖 本 n 心 3 始 事 賢 ナ 得 1 = ツ、商 肝 3/ 1 = 道 要 w , ナ べ = 賈 難 y, 3 3 事 1 IJ 末 ナ " テ ナ w 1 國 3) = 難 家 故故 ŀ 事 ヲ 7 治 -1 3 云 古 w 17 フ 1 3 心 事 IJ 事 得 DU 業 テ、 民 1 7 新 1 カ 7 内 -V = 施 = 1 E テ 云 IJ サ 1 ユ 商 w F 賈 مد T ス 7 " 力 N 最 Ŧ = = 後 I 政 夫 町 -1 列 方 本 ヲ ネ ヲ " 7 重 テ、 ケ、 7 7

備 徒 E 民 9 者 下 力 犬 1 ナ テ フ 1 1 侯 大 3 7 心 ナ 猫 1) E 1 = 知 = 分 内 名 疎 心 盡 -H* 輕 1) w = ÿ 樂 王 7 難 皆 小 4 ヲ ス V 1 E ~ -名 嚴 ナ 政. 根 E テ 1. V 7 1 30 丰 1. 3/ 者 心 腿 ラ 町 1 1 11 ダ w 毛 本 = -衰 丰 普 人 云 ナ 工 ブ ス V 1 2 ヲ ソ 農民 ノ富 何 テ 時 w = F w 丰 王 7. -1 云 乘 處 故 ッ ホ 朝 P 3/ 1 始 下 . 事 國 1. 力 汉 ^ 3 1 1 = ツ 自 徒 y, 頭 家 親 テ テ ズ w 13 T -= E 者 成 伙 IJ 公 人 毛 P 分 w 3 -ス 家 論 或 勢 目 民 何 モ Ŀ 至 水 -時 3 w 家 事 変 愛 F セッ 1." ヲ テ ヲ 1 1) 7 -3 y, 安 堂 り、 ブ " 21 ナ T 1 3/ ス 1 3 盛 忽 ゲ 戴 E 樂 分 15 IV 八 V IV 3 サ 接 テ 自 ナ E 人 丰 110 7 7 1) 1 3/ 1 離 情 ヲ 1 嚴 云 外 w 7 = V ワ J.º 者 重 奪 救 心 蓮 遂 弱 ソ v E -= ガ 薄 睽 ナ 毛 1 ソ 1 丰 ハ 1 ク 3/ = V 武 1: 根 心 ク、 テ ナ 1 7 F = IJ V 1 本 本 家 本 p 親 7 ソ 士 2 v 3/ 地 ヲ 萬 全 ヲ 25 7 7 ス 切 F 1 1 -丰 セ 目 志 權 疾 重 ソ n T + ナ ナ 事 地 汉 3/ 農 苦 F 前 勢 ラ IJ 置 7 w V " V 丰 E テ、 ズ、 安 故 奪 F ノ安逸 T 氏 力 IJ = 1 1 1 徂 テ 情 1) 云 = w 3/ F >> E ナ -來 テ 心 工 ソ 通 ヲ V テ 7 7 3 " 殊 テ Ni 1 w X 7 ^ 1 3" 得 3/ V 後 政 民 盡 Ŀ E ラ = 力 ---7 力 w + = テ F. ザ 談 ソ 1) ŀ ヲ サ 弓 ヌ 7 朝 21 v ナ 馬 1 w 1 = = 1 又 1 w 1 地 110 衰 決 11/10 テ 古 故 ナ 頃 ユ 七 毛 3 1 F 大 業 今 117 3 ナ ^ E IJ ナ 1) 1 3/ 名 7 永 y, 7 4 遂 E 起 ナ テ 1 久 = 輕 主 Ŀ 1) 久 メ 3/ 毛 w モ 1 = V 1 デ モ 同 君 今 ナ ナ 人 雇 IJ 1 小 = 30 文 y, 代 再 B フ 名 世 ラ 人 汉 30 臣 賤 學 及 事 E* 1 主 1 21 y 1 1 丰 1 20 大 11: 古 P テ 力 3 P ナ 1 = ズ = = 名 詩 命 馬 1 F y, 云 ŀ -1) v ŀ 復 1 云 フ サ 小 ス 歌 7 ヲ 1 ソ = 4: ナ 4 7 名 抛 ナ ス r E V 1 ~ ナ ·7* ラ 1 ラ 世 略 源 馬 ŀ ŀ テ 1. チ ツ V w 重 四 ナ Ŀ 33, 云 次 18 3 ズ 3/ =

事 流 ケ 1. 家 31 1 H t æ HI 事 1 -ス 又 Æ 毛 督 ^ v = p チ 人 類 テ ~ E 豪農 者 格 218 ナ テ ウ 郡 及 7 E = モ 2 富 别 怪 F 1. ラ 生 繁 7 ナ 村 1 1 1 7 衣 3 -ス 思 農 農 並 IJ 心 V v 貧 寸. イ 築 ~ w 服 民 得 民 フ 17 久 1 .~ 1. フ 汉 類 風 3/ 者 w 7 地 1 7 H 1 1. E w w + 子 瓜 七 13 奴 木 -IJ ---者 小 当 ガ ク r p 毛 隷 出 テ E 1 土 輕 ヲ 自 進 本 ウ 町 1% ナ ナ 1 w 然 女 110 1 末 IV 7 如 次 故 w 人 民 IJ N. 者 子 to 始 1 ~3 3 1 = F 7 テ _ ト云 +J" 賤 ナ 别 1ŀ 丰 取 8 E ヲ 7 ラ 1 其 農 w 7 ヲ 3/ ス ナ 自 工 1) 重 テ ~ 1 V ۱ر 3/ モ ~ 极 ラ 1 1 然 民 輕 牛 自 ズ 3 1. ラ ナ テ --11/1 110 力 -7 1 1 外 ŀ 王 ズ w 町 本 地 ケ E 7-丰 ズ ナ 1 百 3 7 3/ 久 人 = 7 所 7 w 勢 人 農民 IJ テ 4 居 次 V 姓 1 輕 知 ノ情 ナ 金 之 農 並 汉 厭 男 テ w 1 1 IJ 銀 小 民 家 富 w 靡 フ _ ヲ ス ~ 毛 r 7 ナ 3/ 7 心 ヲ 生 肾 ヲ 自 w 3/ 3 w サ 目 IJ 輕 7 弟 7 -7 ラ 樣 = 久 21 テ 敬 ガ 木 終 1 ^ P 如 末 IJ = = 農民 ケ 町 畏 -3 IV w ユ 此 ナ 世 制 w 1 n 人、 ス 賤 者 21 " ユ モ 度 モ y 1 1 IV 百 1 汉 商 3/ IJ ^ E 1 テ T 政 ^ 心 情 姓 商 * ラ 2 テ 人 -1) 1. 事 自 田口 人 1 T 其 3 牛 3 ナ 心 7 サ モ 1 然 人 イ IJ F リ 1.0 1) E 身 得 威 習 and the 7 = 1 ~ イ 起 ヲ - 19 風 7 テ ツ 21 E 費 風 如 218 ~ 7 IV 1 繁 + 本 ソ ナ 1 儀 E . " 此 110 = 2 菲 何 末 ナ E ~ 3/ 多 ヲ 貧 鄿 戰 1 コ 力 都 1 4 3/ y 1 7 V 7 國 多 ラ 3/ 1 地 館 别 總譜 ラ テ 木 7 州州 貧 モ 1 手 叉 自 3 1 又 = 7 城 汉 鉳丸 潰 車平 丰 T 弱 富 3/ 凰 住 モ 子龜 然 7 F 叉 # + 風 足 v 17 知 ~ 3 ス = 思 FIL 者 者 今 テ 1.0 7 凑 榮 7 テ 如 w ラ ノ州 フ 毛 ヲ ウ 世 泥 1 1/2 者 ナ フ ズ 類八 此 工 云 サ 遂 NA ケ -= 1 "幡 半 w ۱۷ ^ ナ 論 ~ and a テ テ 町 = E 中 者 制 -JHy 湎 デ デ 制 懶 セッ 髮 次 テ 人 數 -度 21 7 モ 目 ザ 士 惰 身 度 却 職 3/ 1 1 E 5 2 政 ナ ガ v 1 7 7 11年 -5 人 政

叉 云 ザ ザ、 1 何 7 テ カ 心 4 E 3 * 過 目 加 方 ナ 1. w ŀ w -4 農民 郡 al' 华 者 士 y 毛 ~ 力 ナ # = 1 7 諸 テ 多 y 人 村 テ 立 ケ ナ ١٠ 1 大 E 左 除 ガ 人 類 ヲ 7 ソ ツ V 1 3/ 甚 ネ 5 名 大 力 V 丰 1. 君 r P 1 3/ デ 今 テ 地 或 フ 水 13 ツ 1 汉 毛 150 カ 1 大 重 手 テ 廣 3 或 F ~ ラ ŀ ソ IV ガ 云 牛 ナ テ 代 フ 大 w 110 1 = 丰 4 = 大 ~ 7 ナ テ、 金 或 農 故 __ E IV v IJ 樣 錢 略 A 見 IJ 過 ガ 3/ 7 1 = = F . 大 立. 43 本 テ 珍 ŀ 毛 1 テ ヲ ナ = 云 以 抵 + 重 ナ r E E 1 難 æ 1 IJ 地 ク、 7 テ、 ラ 日 寸. ~ ナ ___ ス 農爲本 力 樣 六 廣 士 ソ 退 w w IV n モ シ 商 餘 地 1 1 V ~ 或 丰 ŀ 1. -3/ 必 假 云 心 廣 地 人 30 シ テ ノ三 モ F 1 得 数 1 五 水. ŀ 毛 7 = ---7 1 農民 農民 農 穀 ノ農 ヲ 今 云 民 叉 或 ヲ ^ カ 1. 城 1 町 J.V 民 ヲ ナ ^ 7 又 今人 民 IJ Æ 3 產 " 渦 人 w 1. 下 7 カ 3 华 第 、人民少キ 1-3 町 丰 セ 力 F* 1 -ツ ク、 9 所 ラ 移 サ ズ、 Æ 云 4 1 カ ---毛 耳 商 ナ 大 1 ガ ホ y 1 v フ ۱ر 農 郡 主 ナ ソ 賣 ク 者 218 故 ナ 1. 久 = 其 1 民 村 1 ナ 7 ラ ナ 丰 ナ IV 1 所 訍 或 道 農 廣 F. 本 ッ IJ モ ナ 7 18 = > -强 ナ 絕 ij ダ 丰 ^ IJ b 1 1 威 ナ テ ラ 諸 此 ア 1 昔 大 ヲ ケ ダ ١٠ 又 風 ッ、 以 7 處 デ w 3 = 10 w 事 -V ナ Ĥ . 所 IJ V 18 テ w رر 次 1 = -3/ 然 家 ナ 第 x テ ナ テ、 テ ナ 四 __ ~ ツ ッ、 人民 貧 或 民 力 中 ジ 丰 ١٠ ケ --V ス 農民 立 商 = テ 110 w h 3/ ŀ 1 v 聚 丰 ナ 無 ツ 知 E 何 賣 ŀ V 云 1 テ ナ 人 IJ 行 デ 或 IJ 10 1 3/ 水 -E コ 居 農民 島 迷 利 v テ 1,* = ク 1 1 E 110 立 荒 其 Ŀ テ 1: 惥 w 1 义 力 ナ 7 一農工 ŀ 親 ^ ~ ١, ŀ ス F. 不 ク æ V 郡 1 廢 便 切 四 F 丰 工 ナ N 毛 ナ 端 民 村 ^ 毛 p ガ 1 丰 商 ŀ w V = 1 1, 鋤 藏 大 ノ内 必 フ ラ 的 u V 1 7 1 ŀ E 威 ナ 鳅 切 中 列 フ ジ、 入 r ŀ シ 28 風 ナ サ シ、 モ IJ ヲ 毛 方 シ ナ = ス 凑 F. 叉 乏 持 多 7 7 ラ テ 12 ŀ E IV

經

世

談

續

ナ 平 和 線 此 1 ヲ テ . E 1 書 學 御 1. 等 1 賢 1) 7 T 处 1 樂 1 宫 者 il > 7 = 21 21 1 1 身 草 無 ヲ 大 显 ナ IJ ソ = 中 3 好 意 點 1. 紙 竟 = IJ E 毛 1 出 久 稱 嗣 劣 サ 2 力 ヲ 3 物 -類 得 テ n y. ズ 3 セ w テ F V y 牛 7 大 ナ ~ テ、 3 3/ 1 假 仕 7 3 名 ソ IJ = 丰 1 ガ 名 1 學 叉 F 1 ^ 衆 V 列 常 世 優 君 尽 殊 6 ス 間 ス 女 態 w 王 ス ~ -V = = 1 傳 者 書 不 丰 テ 奥 テ IJ 1 = -男 方 r 德 1 毛 E 4 毛 ヲ ハ . 俗 老 眞 讀 女 r _ ツ ヲ x 1 居 重 儒 練 鏡 思 y, 1 ス 2 力 _ 亚 + 拘 玉 7 2 サ 1 3/ ナ 21 腸 賢 叉 w 玉 及 F. 1 1 1 E ヌ 楷 ラ 裁学 テ = ヲ フ w = 1 n 縫人 テ 今 其 者 テ 學 書 好 ~ p ズ 聖 3 大 左 ヲ 3 丰 ウ = 1 = 1 賢 人 仰 世 右 抵 毛 E 7 玉 7 = 事 非 ナ ノ意 F 1 セ -3 = E 1 知 女 知 肝 テ ク メ w 足 v 房 ラ 力 3/ 歷 要 1 ラ v 110 = 雲泥 達 仕 史 ヌ 小 IJ Æ ズ 丰 ナ 1 學 叉 事 テ y 1 ŀ 3/ 1 モ 學 鈑* 歷 1 ナ テ w ソ 1 1 E 違 叉予 書 9 出× 問 y 小 然 10 1 1 云 t ナ 後 女 說 知 1 ナ h 1 房 多 ナ 1. 女 フ 1. ナ 弱 IJ -= ナ 常 冠 y テ 1. モ 1 7 1 1,0 丰 数 デ 用 47 敎 ŋ 1 1 モ -1 7 樣 物 誠 봡 時 テ ŀ 3 7 E 3 = 語 ナ 1) テ N 施 = 1 >1 毛 E 北 浩 7. ~ 3 y 3/ テ + 足 7 V 玉 事 洣 漢 戶 行 11 3/ ^ 1 v IJ 樣 y, テ ナ 惑 字 干 = フ 1 人 7 ヲ Ł 力 ~ w セ = V 1." 知 3 IJ = + 丰 1 3/ サ ^ 世 テ E 力 = モ ŀ y ス v 琴 (-俗 見 水 册 10 テ ス 1 イ 聞 × ~ w 毛 1 ラ -1111 y 幼 大 毛 セ = E = 味 7 抵 君 w 1 1 少 v 3/

○郡村ヲアツカフ心得。

代官 郡 村 = 1 ヲ 3 r ナ 7 ガ 力 渡 フ 3/ 3 王 1 フ 國 家 ~ + 7 治 3 ŀ IV 第 -7 ラ 1 基 ズ、今世 ナ 110 ノ人ハス 人 君 李 ベテ、 相 久 物 N 者 1 本 别 末 3/ 心 テ 得 深 ナ 7 + 心 故 ヲ 用 町 E 方 テ ヲ 徒 T 7 = 郡 力 代 J

統 ナ 依 般 7 切 ゥ 箱 E 21 ス ŀ 力 何 b ナ 怙 * ナ 何 v = 加 = ~ 1 屯 セ 2 1 ス 最 w 不 此 テ 油 書 210 サ 方 テ 7 力 ズ ŀ 事 服 屓 ŀ 無 势 1 E 單 1 T ヌ 汉 イ 人 御 ナ ナ 觀 _ 3/ 何 益 y w E 君 莫 10 ^ 1. テ V 法 音 + 不 ホ ガ ナ 1 前 , 1. 大 費 汉 3/ 110 F カ 自 氣 1 1. 牛 -節 9 云 Æ w 玉 寄 高 3 セ -由 P 1 1 者 儉 サ テ 省 毒 フ = 進 金 牛 ウ -~ 容 深 p ヲ 1 V E ク r = 7 ナ ナ 汉 易 (. 7 フ 云 3/ ス to 何 テ テ n F v w 心 = --ツ IV フ 力; モ ガ = 1. ケ ソ 口 7 テ 及 1 ケ ナ 必 -1 フ 1 E 1 條 7 留 障 テ ラ 僧 110 -1 r 猩 7 1 V 聞 1 x ズ 出 王 210 ~ F w A 17 = 外 1 ---來 . 牛 王 何 緋 人 13, ~ 1 V _ -テ 統 フ 7 行 情 ス 拓 黑 1 3/ 丰 >1 モ 何 諫 ~3 ~ 永 1 施 棚 1 2 1 モ -ナ 家 テ 1 2 丰 ク " 勿 r " V 1 1 ラ 心 IV 1 論 ラ = ン 21 力 本 金 ナ 又 3 ヌ 7 7 1 行 IJ, 7 1 7 3/ 君 加 具 ズ IJ 勢 ツ 者 ŀ ナ デ 1 1 丰 1 ナ 1 ン ナ " E y, 不 1 w 身 サ E = 1.0 力 1 7 ナ V ス 身 服 r 常 V b 7 云 ホ V v 110 = ラ 此 持 シ 深 1 w ١٠ ワ フ 1. 110 F ŀ 9 又 等 心 T IJ 縆 覺 3 7 力 ソ ク ソ 事 E 殊 1) 1 T 30 w 手 1 \exists 1 1 1 ^ ナー 13 間 諸 IJ 更 1) ケ V 7 w 向 ヲ F 汉 7 ク テ 方 君 飾 -V ジ 入 F ŀ 1 v . 至 1. 儉 役 3 1 . 面 E V E 18 或 萬 寵 y IJ 王 左 ヲ 難 白 ソ 人 テ 事 妾 21 示 必 1 ナ + H 丰 ソ V 3 諫 附 取 21 (-金 1 = 1 7 所 3 グ 7 1 - % Z 败 至 添 y テ 玉 銀 此 以 ラ 1-= 忠 w 扱 b テ 汉 間 y ナ ヒ = 3/ E 1 8 1 テ 固 ナ E 事 10 耐 云 7 y ナ 1 u イ 外 樂 1 w also <u>ر</u> ر フ ソ 酌 フ 10 15 E 臣 ^ デ 樣 7 n > 得 サ r p E V 牛 1. T 君 ŀ E 女 Ŀ テ 事 小 1 V フ 18 V -モ IJ 愛 役 1 自 18 1 ナ 18 7 1 テ 古 御 _ 共 人 ラ w 次 F 却 3 怨 水 今 溺 其 18 ナ 11 テ 3 I 1 日 テ 1 7 魚 多 得 1. リ、 V ~ 心 1 3/ ŀ 用 U 招 意 1 丰 テ 甚 並 110 1 1 -3 交 例 + 今 大 叉 挾 ヲ t 美 = 7

經

經 世 談卷之四

○奥方ヲアツカフ心得。

籠 テ、 遊 9, 1 1 1 E ۱ر 1 E 害 內 云 ナ ナ 桑 ナ 21 Ш 4 奢 甚 手 + ラ ヲ テ サ 牛 丰 1 1 異 五 爲 雕 ナ 君 時 元 ズ モ P ~ 1 華 年 心 ナ __ フ ス 1 _ 1 = 萬 多 費 美 助 君 P ナ ナ n 3 1 仕 事 7 P ラ 及 3/ ス V = 1 = 事 IJ ナ フ デ 自 3 210 F E 1 テ 7 在 P n = 21 1 IJ ソ P V 外 " ナ シ、 > V = E V 力 或 ナ 4 1. ナ ナ 力 y, 7 = = 持 其 省 リ、 IJ ŋ E モ 1 F 大 役 吟 8 難 多 他 及 力 ナ ク 名衆ノ奥方 味 ~ ソ 人 7 又 V ス = 210 力 ナ 21 7 テ ~ N 210 + P v 1 者 亦 中 7 ラ 和 . 事 w テ w デ 歌 世 ワ サ ~ -= ___ ۱۷ 少 ハ ハ ー ナ ナ 御 生 7 + ケ 1 ヲ = F 詠 ガ 宁 多 3/ P 7 モ 7 云 ラ 殿 奥 ナ 2 n 7 7 1 家中 E 勿論 方 全 . 人 ナ ラ 丰 b ノ生 双 倫 無 ク 云 叉 V ス 1 紙 1 身 國 牝 美 F 益 モ 1 = 重 ヲ讀 涯 家 衣 內 1 雞 = E 1 P 役 江 費 服 ヲ 是 ナ " = 戶二 3 1 亂 夫 鳴 7 テ 7 牛 = V 者 、琴三味 之褐 ヲ 力 w 210 及 V w テ身ヲ終 -當 , 凌 ザ 亦 1 n = モ y, 和 時 君 1 木 グ = 1 對 9 ١, 漢古 國 1 云 線 1 1 面 美 遊 或 勢 持 テ ノ樂、 1 21 ス へ、ソ 樂 中 事 r 味 來 大 w 諸 黜 ヲ 名 サ y _ 1 1 7 神 テ 跳 1 食 耽 向 少 P V 1 1 賞罰 君 奥 佛 Ł デ 1 シ IJ IJ モ . 中 • 古 深 玉 + 方 = 1 容 何 但 信 水 + Ł = 1 T P 1 易ナラズ、近 帝 權 ノ不 手 テ 心 3 1. __ 1 身 叉 奥 統 Z. ナ ヲ 7 チ 1 自 入 向 專 1. 7 w 21 1 ブ 色 風 皈 事 曲 動 フ w 水 = = 俗 妹 ヲ 15 テ テ モ E 力 ~3 3 三 ナ 甚 ス * 好 = ナ テ + H ク、 內 + ツ 1. 戜 所 ヲ = 木 3 3 云 家 妥 年 テ ŀ F. 丰 助 V 1

○奥方ヲア ツ 力 フ 心得。

〇郡 村 アヲ ッ 力 フ 心得。

可 カラ r ツ 力 フ 心得

〇百 1姓町人 ŀ モ = 力 ネ テ段ヲ分ケヲク説。

家 中小 進 ノ者百工諸職ヲ營ム制度。 立

〇ス

~

テ

商

物

ノ問

屋ヲ

n

=

心

得 アル

-1 1

ラ論ズ。

經

11

談

卷

之

四

タエズ如、此シ終ル者百人ニ五三人アルベシ、第四法、

經

世

談

卷

之

=

終

哭

第八法トモニ百人ニ一人ナリ。

第 六 法 工百 ハ今 1 世 _ モ 多 7 r w = 1 ナ w ガ 鄉 士 ノ変 ラ以テ E 3 y E ソ V 6 1 セ ワ ア ラ 110 隨 分 = 行 21

32 ~ 丰 = ŀ ナ 3)

7

=

ŀ

シ

第 行 七 法人浮 v ズ、 八个 又無足 ノ世 = ノ人 E ヲ Ξ 不 リ人 東 ナ ア n w = = ŀ ŀ 多 ナ + V 7 F. ~ 人 E E 親 ダ 類、 ノマ 知音 ヌ = ナ ŀ ŀ ナ y 1 111 上ョ 如 此 ŋ 1 七 = ワ ŀ ア 7 y IJ テ、 テ、 ソ E 1 11 ウへ 7 28

者 第 且 容 ス E* 何 易 歸 方 八 不 ブジ = 法 7 束 w モ ^ __ 暇今 出 3/ = 何 ス ~ 丰 テ 1 1 ノ世 見 ŀ ナ 丰 毛 テ 出 IJ ツ Æ = 良 = ナ x 身 1 1 7 才 如 = 王 ナ 多 非 此 ノ人 n 210 ナ ク 行 ~ ノ者 7 n 25 ヲ 望 丰 ۱۷ ユ 堅ク 苦 故 ハ内 n 2 ^ 者 ~ = 3 禁 暇 X 語 7 7 ズ 自 ヲ n V 2 w 分 1. ۱۷ 1 = = 仁 ッ = モ ŀ ŀ 他 7 君 7 × 所謂 良相 他 1. 或 工 國 モ ズ -人 ア 出 3/ 1 ~ n テ 心 テ 出 ノ手 此 = モ テ = アラ ŀ 法 力 モ = ナリ、 r V 3 ワ ズ、 丰 n 1 汉 ズ = = ス 才能 . サ 1 1 7 ナ v ヲ E ŀ アル ŋ 110 1 ナ ۱۰ Ի 所 牛 流石 者ツ テ妄ニ 故 毛 ア 惜 ノ國 後 w 丰 人物 ナ 年 ユ リ = = ~ テ用 ヲ ナ ゥ 暇 扨 V 3/ 人 18 ヤ E ラ ラ ナ 招 1 フ 手 ズ、 力 V ザ = = v ワ テ 無 ŀ V 再 21 ダ 能 18

望 右 = 2, 五 者 八 2 三人ア 法 13 7 1 力 内 ナ w 當 w ~ w ~ + ~ 世 シ ナ 3/ = 1 テ V 次 1. 次 モ 行 -モ = . 第三法 ۱۷ 21 上 第六 w ~ 3 リ容 1 牛 法、 百 ۱۷ 人二 + 易 地 -= 五三人、 申 サ V ^ 付 亦 7 百 ヌ ラ 人 7 第七法 110 F 故 第 四 1 百 + Æ 人 法 人 X k V ナ = y, 好 五. デ 三人 2 Æ 所 r 百 人 ナ IV _ ア ノ内、 w ~ ラ シ、 ~ ズ 3/ 四 F 次 3 次 五 = ^ 第二法、 + = ŀ, 人 2 第 毛 7 デ 五 法、 7 21 = L v = 百 ۱ر V 人 望 ヲ 1

經

世

談

卷

之

Ξ

219 威 3 ŀ ~ モ = ヲ = = + 仕 差 21 ヌ 1 7 F 3/ 却 官 = 由 IJ ナ 配 テ = テ ŀ 申 25 テ リ、 Æ ス 1 仁 ナ 付 心 . ウ 25 v 人 家 r 我 如 V ソ 210 1 1. ソ テ 或 中 何 ヲ 所 摠 ナ モ 1 P 1 = b 爲 行 テ V 3 T ۱ر 3 今 先 養 IJ テ = 110 テ ヌ 住. r 世 永 モ = 類 便 フ 8 處 代 多 ラ 諸 利 1 7 暇 產 ズ 21 事 p 1 力 3 家 業 ラ フ -行 チ 7 ソ ザ 元 七 立 = 1 ガ 勿論 1 只 親 申 難 10 w フ 人 意 類 付 牛 ク 水 7 モ 方 地 力 1,0 何 ~ 1. E 他 事 P = ヌ 1 ナ 3/ , 7 テ 國 國 3/ IV y, 屯 有 力 上 7 毛 = ソ -難 人 ネ 3/ 毛 テ 第 = V 丰 ヲ テ 左 出 11 21 八 7 承 别 ヲ ナ ナ 1 汉 = サ 本 " 毛 ク ラ 3/ 丰 1 思 ヲ 人 テ 他 故 ^ AIR 114 當 0 容 21 テ ク 1 國 ザ 飢 願 易 暇 大 ~ 座 何 金 寒 暇 ナ V 3/ 力 = コ ラ 子 218 ソ ス 1 = V . 手 何 申 ~3 ヲ 18 v ١٠ 當 預 ス 付 工 6 丰 V 3 軍 ~ w 毛 1 コ ク ケ テ 遭 ナ 用 モ ス 1 1 威 國 等 衣 ク ~ = 3 家 難 中 食 テ r 1 3/ P 節 1 義 ラ 2 毛 1 1 爲 勿論 サ 人 營 申 ウ ズ = 遭 = ス 1 1 п 毛 ナ 减 ナ サ ヲ IV 1 3/ 25 N 次 得 ナ p ズ 3 w V 第 7 3 フ IV × ~ F° ザ ナ 立 ŀ w 1 E 丰 毛 11: 仲 歸 時 Æ 咸 N 1) F ナ 悦 他 中 人 云 7 IV

右 八 法 1 內 第 1 法 21 ス 六 F 空 閑 1 地 ナ 丰 處 = テ 行 28 V ズ

第 法 奉當公座 21 世 禄 1 家 中 r T IJ = 多 丰 處 = テ 20 ソ 1 內 = 仕 フ ~ + 者 3 ケ V 214 多 7 行 21 v ズ 0

第三 法奉又 公者 21 世 禄 1 大 進 多 丰 或 = テ 21 面 4 家 中 毛 r IV 1 ^ 多 力 行 21 2 ズ

第 第 四 法學者 法 南指 學 ۱د 校 今 1 外 1 世 = = テ 毛 多 針 勢 醫 1 本 甲甲 道 弟 ナ r 1, 12 -~ ナ 丰 w 水 者 1. E 1 多 人 3/ 21 3 多 沙 7 H ۱۷ 21 T 行 w 21 T n 30 13 4 + V ナ 110 y_o 誠 -希 ナ IV = 1 ナ "

七 重 六 校 フ ~ 用 支 中 + テ 3/ ツ --且 . 配 仕 4 ŀ name No. or tip = 7 I + 1 七 -不 餘 制 兵 遨 六 x IJ 水 21 21 1 I フ モ 浮 學 百 テ 申 作 1. 義 ~ 加 P セ ホ = 諸 等 I. 遭 增 X E 又 1 ナ 腿 ナ 1." 丰 w 事 諸 者 者 + 用 同 ~ -1. w 3/ 1 7 1 有 拘 子 次 樣 職 1 ハ E ~3 人 モ 15 2 仲 用 今 細 第 人 3 3/ 申 7 V 21 1 人 萬 當 -物 ラ 付 10 ナ 1 1 1 -1% 欠 事 ワ y 座 諸 基 テ 書 ズ 7 力 w ス モ 合 名 ++" 奉 流 支 1 V 10 ~ 7 7 何 サ 將 若 大 代 公 西己 21 モ 3/ 1 7 1 1 家 棊、 黨 或 0 抵 或 V 如 J" = 工 V 職 ナ 华 中 願 等 格 111 モ 丰 1 1 21 1 F -學 子 差 百 茶 # 别 派 = 1 1 E ナ 1 3 校 禁 湯 出 添 拘 益 人 細 派 1) 水 1 取 IJ 徒 功 1." 人 _ - quarte = ズ 久 ナ T 1 次等 テ 仕 ナ ラ ナ 挿 ラ N. 7 テ 上 T 3 上 人 フ 花 1/4 1. ズ n 3/ ガ ラ 力 p = ナ 3 9 召 7 モ ~ = X 111 ル y, E IJ 但 テ ナ 牛 但 亂 主 出 ~ 1 + ソ 1 王 間 硝 文 人 工 丰 ナ 舞 70 = ス シ 3 V 雇 武 テ、 ^ 木 人 ~ 6 V ---子 V 工 E 合 燒 ラ 1. 其 相 11 3/ E H 1 Ŀ テ 1 • 数 外 叉 . 4 3/ ~ フ 談 = 仕 3 當世 茶湯 第三 Ŧî. 外 不 7 1 7 1 1 1 コ ŋ フ 體 游 F 仕 1 1 王 1 V 用 ~ 毛 役 道 ナ 藏 暇 E 不 = _ E = V 1 3/ セ r 自 具 具 學 時 出 人 デ V P 21 21 7 分 又 勤 ナ 校 K フ IV 110 力 工 = ス 身 T 1, 叉 ツ 次 奉 ナ = -~ x = -分 IV 第 第 テ 及 公 1 1 1 テ 3/ 力 汉 IJ ~ 1 餘 賴 類 敎 -テ ナ 几 ナ w -4 1h 21 7 p シ、 涌 第 V 義 ス 1 7 1 1 7 ズ w V > F 禁 11 ナ 几 1 ~ 12 V ス ~ >1 第 IJ 家 モ ズ w 丰 繪 付 3/ 丰 = E 3 鄉 五 支 或 ナ 老 ~ N テ 7 書 21 ス 7 1: -四己 3 ŋ 以 主 21 5 印 ス ~3 -E 1 1 ١٠ 留 人氣 ~ 下 モ T ---= 刻 3 姿 醫 論委ズ曲 守 勿 テ テ テ 重 年 IJ ナ 者 ナ 論 年 ラ 居 與 指 指 本 1. __ 丰 六 〜別 w 賣 校 入 役 ソ 汉 南 公 1. シニ モ ~ 當 年 1 禁 ŀ 文 ス ラ 人 1 -V \supset モ 2 6 固 重 在 叉 間 ナ w ズ V Ł E ズ 第 學 役 第 仕 有 方 2 1º 7 1 w ~ 27

經

世

役 類 3 -以 游 人 21 外 民 -7 E = 力 ヺ 時 去 E V y, 4 何 ヌ 見 木 = 届 1. 1 商 ナ 賈 サ E y セ r ヲ 8 減 テ w 時 叉 = ズ 民 7 10 w 失 間 ナ 1 類 21 v -ズ 不 110 心 風 虞 叉 俗 " 1 備 時 7 7 改 怠 -7 從 ラ 心 2 步 フ ガ n 次 テ w 4 第 p ___ サ ウ 4 ス ナ 1. 帳 w --心 類 モ 方 -槪 漸 ケ 3/ ~ w 4 -丰 -3/ 1 年 ナ 7 = 1 丰 月 ラ ナ 自 ヲ ヌ 待 身 " 7 並 テ 1 大 ソ = 成 テ V 1 ス ~3 長 シ、 グ L + ソ 如 1 此 -Fe 1 8

C 世 澈 1 家 中 1 弟 叉 1 次 男三 男 7 P ツ 力 フ 法

浪 叉 軒 ナ 及 y ~ = 毛 大 # X ラ 丰 E 21 v -同 献 坊 故 過 禄 兩 力 ホ ヌ 人 樣 ナ 主 才 1, ネ ズ 1 永 者 y, 器 r 1 1 次 叉 山 大 T r w 21 男 役 伏 IV 親 小 力 1) サ 21 介 il 者 族 ナ サ テ ナ F 男 懸 1. 他 モ 4 汉 21 V 毛 何 力 ナ V 3/ r T 家 _ 1 子 y 妻 ナ ナ デ 3/ カ 1 y, 出 養 孫 7 + y Æ 妻 精 ソ r 子 相 E E 子 或 此 1 n 毛 1 3/ = 續 等 內 家 P 汉 ナ テ 3 3/ 21 諸 , テ w セ 10 21 力 1 汉 輩 新 + E ナ 職 7 1 凍 1. 7 軒 ス 1 ソ = 25 營 サ ナ 召 餓 28 1 -= 家 出 運 ユ w 几 = 3/ 111 1 當 テ 及 ク 五. 7 3 ~ 1 サ 兄 凍 ケ 軒 世 ブ 及 + V 者 禄 y, 叉 餓 = -1 V F. 過 大 21 1 21 ヲ = 1 Ŀ 親 姪 法 V 毛 3/ T w ナ 4 類 ス 叉 IJ ホ ナ 1 1 恩 告 姪 小 ガ 37 F y, v 澤 淮 F 死 ノ代 r 木 ク 難 サ モ 7 1. 7 1 1 V 受 跡 輩 義 7 1 1 210 V -其 7 ナ デ 7 10 w 21 = 次 役 慮 何 相 コ n E F E 男以 介 役 ヲ 時 1 續 7 IJ • 世 E 介 ス E ス 行 ŀ 男 F ナ w ナ ŀ = N ソ = 繼 ナ 子 數 ケ ナ y 10 コ v 扁 人 F カ 1) ŀ v E 21 218 テ 毛 此 ズ ナ 至 T ナ 1 男 輩 妻 終 r 1) 7 丰 v 家 自 子 ヲ ヲ V w 1, カ IV 然 無 ナ 7 F モ 毛 ヌ 3 + 軒 E 足 E y w ŀ = 心 ツ ソ ナ = 218 ۱ر ŀ 得 十人 醫 ナ 云 3 ソ v リ、 者 N テ Æ E ŀ V

遽 待 1. 或 ガ 云 ~ ラ 又 V 3 ~ 110 7 叉 ++" ~ 醫 段 3 -3/ b 21 7 21 E 力 ~ n 改 木 者 郡 + 大 3/ 1 毛 ラ = + 4 村 7 此 蟲 ナ P 2 1 F = ズ 1 = = 病 w 云 力 ウ ~ 3 加 ヲ ---3 次 1 1 田 害 類 1) 力 减 恐 元 テ = 心 y 人 r 第 其 ラ ラ 得 畑 委 -ソ 7 テ 氣 7 = V ヲ 見 枝 療 ナ 曲 城 1 ズ テ 經 山 中 IV ヲ ズ 穿 時 合 補 治 林 IV 屋 1 ۱ر 7 = 7 テ 鑿 形 誤 ナ 7 1 ス 21 21 = v 施 E ス ス F 氣 水 1 3/ 叉 1 ~ ナ IV ラ 7 iv テ サ 災 テ ガ 1. y 殺 21 -王 = Ł Im ガ ヲ 木 道 洪 サ モ 七 T 1 1 如 ヲ ス 力 210 皮 此 橋 殊 調 3 ズ 110 類 水 7 成 V V 7 企 長 類 ナ 汉 更 モ 110 w 就 21 ヌ サ 或 1. 肝 類 r ナ IV ク _-叉 ŀ セ 丰 此 w ソ p 1 要 日 種 丰 20 21 テ #" ナ 處 樹 ~ 火 1 ウ ソ 1 ナ . 時 E IV F. 災 通 早 1 3) 3 = -1 日 家 目 3 7 ス . 76 P ス 力 y = V ク 數 前 -1 F w 8 此 テ P 1) ~ ヌ E 木 1 ス 7 火 r 類 等 急 テ E 3/ 經 il E -3 丰 N. 7 IJ 1 0 洪 目 養 -1 ガ 7 1 7 3/ 木 21 <u>___</u> 大 甚 今 サ 力 春 ケ 水 1 フ F 110 目 21 抵 ~ = テ 1 藥 3 ナ = V 1 ヲ 7 ガ 前 流 誰 丰 テ T ソ ズ ツ サ p 如 V y 7 = 阳 毛 1 3/ V E ~ チ 3/ 7 3/ 力 テ V 時 塀 カ ナ r 夏 ヲ 3/ 21 ラ 1 又 ナ 叉 7 ラ 1 ヲ ラ ラ 外 IJ 毛 7 T ズ w IJ 及 破 力 待 待 3 感 P ズ 又 テ 21 210 = 力 y, 彼 n 頹 ナ チ 毛 何 ナ ガ 叉 w F ヌ 1 處 テ 病 = = 破 w 1 時 1 E 樹 何 w 橋 漸 事 b 1 7. = _ -木 -亦 3 ソ 移 ナ 1 叉 邪 ナ 7 心 E 3 K = 1. b V y, IJ 3/ 類 得 皆 テ 埶 IJ 21 = 21 E 1 6 テ ッ 又 ゾ 行 w 枝 E 7 r テ 110 城 無 再 霜 3/ 1 1 フ モ 汉 ブ 涿 永 w F 益 别 云 亦 ~ IJ 雕 久 7 フ = 節 1 誤 ノ神 牛 木 H 恐 ス = = 類 1 1 町 4 如 暫 ナ 後 n 畑 3 ナ 1 ブ V 21 割 7 祉 此 ナ ヲ 7 F IJ 火 IJ IJ テ -70 ヲ IJ 佛 造 r 急 ヲ H 1. ツ _ = デ 仕 閣 n サ 直 1 ブ w 或 汉 = v モ ス 直 時 ナ 事 ヲ ヲ 行 总 ス 家 7 テ v 3/ F 2 减 忘 ナ 1. ヲ ヲ 7 110 フ t w

校 然 得 力 7 = 7 E w 屹 ŀ ナ -心 ヌ 7 3 1 其 度 サ 此 w テ 教 w 23 意 ナ 威 誠 ス p ソ モ F 7 ŋ 風 ~ フ 心 = V 10 -6 心 得 至 -3/ 1 -3 學 ナ 得 ラ 治 ナ w 如 下 校 木 100 タ p 1 in = 7 答 極 7 7 IV 210 ~ 1 フ water Specially 作 7 扱 者 教 ナ 3/ E _ F 申 法 1 フ 7 ス 云 ^ n 役 申 細 付 ナ t w -110 木 10 IJ 付 フ 力 1." 4 テ 4 = 1 1 1) 3/ モ 1 10 ~ 1 驗 华 者 别 題 ソ 3/ 1.0 丰 -心 條 校 毛 テ uum harrista 7 ^ 1 3 得 1 デ 1 テ 7 -21 1 論 教 年 -出 心 7 モ ___ 1 怠 得 月 デ テ ズ 7 大 100 來 テ、 車 内 ラ 兼 カ 12 7 根 又 计" 六. ズ 逐 工 1-=2 4 1 1: ŀ 仕 w テ 111 ^ ス フ 1 7 立 觸 N ナ E p 1 = 思 自 後 フ 7) 7 _ i 1 7 1 改 流 召 身 右 = = F 畢 略 漸 7 ---ナ ス 1 7 3/ 党 加 1) V ヲ 毛 ソ ス V 4 于 嚴 1 1. テ = ク 180 役 大 7 ソ 7 モ 工 K ---A 心 w 抵 3 V 1 3 ス ヲ 6 H. テ 次 汉 = テ 丰 Zo 1 感 -3 3 = 10 p E" 氣 E -1 ソ 7 ジ 力 丰 差 出 5 2 不 -木 味 分 V 自 違 配 3/ ~ ナ テ y 1 1 テ 習 ラ 人 E 犯 ス テ 11 1V 改 F + 君 E 1 w -20 懇 y, 者 時 7 テ 派 ナ 3/ X 切 扱 役 >1 牛 25 >1 1 少 F H -1 ソ 內 -フ 水 人 1 役 1 1: 3/ 及 速 デ 1 4 子 心 モ n E A 7 -1--用 弟 入 改 + 1 王 モ -1 IFI 捨 1 力 F 3 10 7 7 -自 學 ナ ナ 10 7 Æ 22 丰 4

面 4 撮 當 ス w ホ 1. -ナ ij テ 後 1 7 1 ナ IJ

遽 類 _ 或 成 家 ١٤ 就 7 治 H 3/ 難 0 E w 遽 ス 丰 7 テ garde market 3 1 改 7 1 21 多 _ 力 2 身 w ズ 3/ 7 1 = 速 1 1 1 ナ --~ 1 ラ 改 1. 1 モ ^ ズ 2 1 ~ 民 E 3/ 家 時 1 7 大 ヲ サ 治 患 得 v w 7 及 1, F 除 ラ E チ 7 牛 110 ガ 去 必 1 フ 間 改 リ、 テ _ L 1 時 大 ~3 汉 7 利 1 丰 待 7 E = 起 1 1 テ 施 7 或 3/ 心 + ナ デ 惡 IJ w ~ 人 21 ŀ 出 力 7 モ 來 退 ラ 大 ザ 力 ケ 業 ヌ w 善 w ナ = 人 w 1 7 7 ガ 7 1 故 論 P 勸 リ、 ズ 2 -N

瓣

世

談

卷

之

 \equiv

等 體諸 テ州 仁 in 法 1 1 7 7 3/ 2 21 1 同州 イ繁 il ŋ 7 風 1) 令 風 21 3 1 ス 12 云 シ豐 シ菫 者 テ 得 政 好 P F 風 n 俗 小 = ト饒 カノ = / 習 リ地 次 令 叉 y 7 俗 少 7 3/ 1 2 へ土 大 1 義 JE. 第 Ŀ 風 好 ナ T 7 7 次 3/ タ地 其 理 テ江 n IJ 第 P L IJ 3/ 面 -3 リ大 關戶 1 風 恩 3 7 テ 中 1) 7 4 1) V = 妄 東叉 べ諸 情 州薩 " 數 男 ナ ナ 取 P ス 3 ニハ 1) テ州 會州 多上 7 今 n 17 年 7 P テ IJ 女 w 繁卜 津此 -ク州 E 世 1 1 3 衣 ナ甲 111 1 w 単モ ナ智 新 キノ 後 心 F"7 下州 -1= 1 FIG 7 力 コ邊 1x 佛 亦リ 地大 風 早 ユス 榮 IV 1) 家 心 E = 21 1 此下 多抵 7 ~ ナ 俗 速 得 + 耀 1 ガ 7 -V 風聞 シ同 出 示 風 治 1. 5 ラ アユ n = IJ 7 7 7 1 H E x +殊 リ奥 九 安 r 不 IJ 1) 力 3/ n P V 1 信 2 = 豪 皆 1) 7 1 ザ テ ラ IE E フ 7 3/ ユス ズ 本 デ 自 w 不 氣 ŀ = 7 1 不 r IV 叉諸 士 然 皆 義 云 義 7 ス E Z 風 久 1 風 ハ州 ナ ラ 無 至 好 w 如 P = w 地 = 1 仙上 P 禮 毫モ 或 7 ガ ヲ 風 1) 風 行 111 = = 21 1) ナニ 皆 人 肝 IV 俗 俗 1 7 F -H 3 1 下多 ナ 要 無 風 7 所 古 崎京 ナ 耻 ~ 1) F 殊ク 總羽 ナ都 傷 俗 二丰 ナ 生 ナ IJ ザ 3/ 4 3 w 州州 下又 甚っ 分 1 IV 房最 ナ 多八 IJ IJ 1 iv E -= ス シュ 州上 云 1 風 シ長 限 風 1 サ 12 P 1) キ甲 テ 1 飲 力州 我 -}-テ IJ ナ ヲ P 3 風 連 E 1 樣 傳 誹 游 7 此 IJ 酒 諂 IJ 7 1) 1 3/ 心 上 3 隋 1 1 風 涑 美 ラ ナ 2 フ (A) 茶 奧諸 IV 得 味 テ 1 俗 何 放 ラ 3 -3 ズ 湯 州州 習 華 7 木 ヲ 化 1) 逸 7 人 木 æ V 東ノ 8 10 il 插 貪 取 ヲ 美 P 210 改 ス E -北凑 今 嚴 得 榮 1 % 花 好 1) w 12 T + n 親 E 1 海ク 1 風 耀 久 7 1 " 地 7 3 3 邊然 常與 X 法 亂 7 武 力 P 12-1 -L +1) 州州 君 Ŀ 舞 己 下肥 邊 3 1 ナ E 3 1) 事 風 ナ伊 字 殊前 下洋 1 テ p 7 ナ 1) 1) 1 ŀ P 臺相 二長 相 二郡 第 職 難 テ 狂 好 L E フ ス IJ ナ州 甚齡 丰岩 汉 内 自 業 ド浦 IV 言 210 4 -コ城 177 w 殊賀 邊 ユ郡 テ 然 7 風 下江 下 心 -Z 淨 二义 人 二州 怠 10 風 俗 A 13 -利 -21 甚ハ 7 珊 牛勢 其 生 シ仙 テ 俗 n P 欲 IV 7 F E V コ州 璃 服 風 等 爭 者 風 1) ユナ E 1 ズ 1 1 端 法 ナ n ____ 鬪 - 諸 欺 P 上 P 7 セ 3 21 同國 令 IV 皆 ズ 1 風 味 1) 7 的 3 + -Lo シト 0 47-人 俗 缩 拘 7 7 + モ 諸モ 僞 不 J'

リ、 y, 岭 相 全 由 ズ 3 牛 味 出 心 ク x = ۱۰ 1 身 サ 昧 1 力 付 ~ 力 ス ヲ ノヲ ナ ナ * ガ V 牛 1 尽 p ルオ y, w 110 7 ゲ 曲 フ v n 井 ノ者 ~ = テ 1 所 多 勿 智 聰 折 3/ ŀ 1 ノ分限 論 アル 明 中 7 ク 7 4 左 申 輕 フ 力 1 _ 蚌 人 ナ v 出 丰 3/ 汉 丰 = テ 町 = 渡 サ ケ w 1 1 3 見 テ 人 者 Ł 1 ガ V 7 リテ、 大體 百 E 1. 3 18 1 3/ 迷 姓 途 役 テ 毛 1) ____ ソ 7 人 惑 目 ナ 中 1 云 久 毛 H 毛 ノ智 1. E 職 丰 ~ w ナ _ V 心 智 >> -H" テ 分 牛 1 丰 -得 障 慧 ナ デ ٥٠ モ P = w 面 汉 限 役 拘 V E P E フ r R w 目 T 1.0 w ウ 云 = 4 > ノ業 者 w 前 ラ 王 心 7 1 = E 17 古 = 者 ズ、 出 1 ソ ヲ 1 7 b 淺 F , ツ 見 3/ 7 人ガ ス < ナ 智慧 身 ケ、 聞 兼 + V ル所 y 分 テ 3 セ 7 百 = 71 取 ŀ 役 島 7 埋 人 _ 1 俗 聞 1 次 下 n K ١٠ v r 1 諺 ヲ論 111 間 テ ^ +" ソ 居 w E 用 テ差 ニ三人寄 E v w = = テ 多 申 セッ E ・・ノ智 皆 = F 大體 渡 玉 ク 出 ズ ŀ ナ 如 r フ 3/ ス 此 y 何 置 力 1 V n = E 木 所 N テ ŀ カ 110 屯 T 1 毛 F. 文珠 滯 ナ p 力 >> 1 丰 アリ E IJ 3/ ナ 者 フ リ、 E IJ r y, ノ智慧 1 ラ ナ = 1. 3/ テ w 人 格 丰 ۱ر 又 モ サ E = r E -1 别 勿 V P 7 h 外 論 持 ラ 1 210 1 デ -フ ナ 前 多 云 ズ 1 何 E H 云 = " 遠 事 丰 = 7 E 1 丰 3 役 明 多 出 毛 ŀ ŀ 7 唐 = 7 面 君 1 丰 = 1 w ナ 3 = 督 拘 ナ 自 前 ラ 中 7 ۱ر ヲ

ナ 4 E 申 ili n 出 ユ 7 基 ^ 汉 暗 ラ ス 劣 ~ 18 丰 1 誹 ナ ソ y, ナ V 丰 6 1 如 此 111 = ナ ナ 重 ラ ラ 賞 ズ 18 7 ス r 人民 10 汉 E ~ 恩澤 自 尙 身 叉 ヲ ソ 1 ウ 才 1 ク 智 人 w 25 -サ =2 E ŀ ホ 1) 限 1, テ ナ = 21 丰 ナ ス ク グ = ŀ ŀ サ ナ 毛 V y = 或 取 中 r ガ 1 智 テ 慧 升 ガ 進 手 サ 前 ス ノオ IV ナ 智

1.

種

=

E

云

E

出

ダ

w

後

E

ソ

1

1

7

〇土 民 1 風 俗 ヲ E ク ス w

經

世

談

卷

之

倒 難 申 者 恩賞 7 1) モ 210 絕 丰 F = 貴 非 3 云 觸 ナ 至 + 21 毛 3/ ラ 分 諫 ナ ブ 7 V 1 ---1) ___ 百 ~ ヲ 7 7 番 ナ テ 110 y 3 1. 子 人ニニミ 論 納 IJ 1 2 毛 w 1 E 鎗 親 -從 T ヲ 25 力 ズ n 7 ソ E 族 n 1諫 勿 p V モ IJ 1 1 1 3 論 君 フ = 力 21 1 七 110 25 人 如 y 道 7 ズ 難 小 = ソ 1 汉 V 流 _ 毛 大 廣 モ V = ク、 n T, 事 r 家 6 勝 樣 テ 叉 人 V 力 F 1 中 w 非 諫 ラ 手 云 1 目 ソ 云 1 力 ノ者 分 曈 見 ズ 心 次 1 × ~ V 1 ナ 第 以 向 サ 古 得 ナ T 3/ 毛 丰 7 家 X Ŀ E N ス 3 用 + -= デ 力 サ IJ 老 ヲ 汉 1 1 w 毛 E 3 1 1 侍 書 者 用 深 テ 10 云 v IJ 3 ナ 云 賞 テ、 速 3/ 付 7 人 7 210 1 ゲ 水 賞 1 君 1 モ ス セ = = 1. 丰 定 其 ス 申 口 テ せ ~ 美 ラ 1 ナ P 式 出 申 上 テ ~ ズ セ シ n 身 ナ 7 定 重 出 IV 切 テ 3/ w = 1 n ヲ 法 サ 役 腹 テ w = 21 21 如 = 專 何 ナ モ = V 1 b 小 ナ 7 1 要 書 者 ナ F r 此 218 ナ F. V V _ ラ 多 y E 1 付 210 -7 7 ١٠ テ 1 云 道 云 ザ 目 力 テ 丰 ス -付 用 ~ テ IJ V 21 家 + = E 3 毛 限 出 + 廣 等 及 毛 210 中 力 テ E 3/ 3 由 y 7 ラ ソ 210 n 1 1 N 諸 者 テ B. 求 類 il 直 = 何 V 1 ズ、 今 諫 得 達 21 V 士 ズ 1 L = 木 8 家 事 力 力 サ n 世 ス 1 1. 3/ = ~ サ 內 +" テ 從 禄 ス v. 1 久 モ 2 牛 道 リ、 遠 " ~ T 1 7 答 沒 = 1 4 收 ナ テ 慮 w 力 丰 由 -7 其 諫 定 7 T ウ ナ 1 3 コ セ 諫 ラ 他 諫 力 F × 1 7 ク ケ 1 ラ 7 曈 V ラ ナ Z 1 7 1 w モ ズ 1 ~ 役 平 先 y + モ フ 21 = 又 番 P P 丰 諫 ~ 人 祖 IV ス 1 過 直 ウ 1) 丰 由 1 1 君 w 23 鎗 1 達 分 諫 多 跡 テ 力 = m モ P 7 木 勘 六 速 達 1 限 IJ 明 ケ F. モ 毛 × 辨 君 斷 改 面 3/ デ 3 ~ テ V 1

0 ス ~ テ 心 付 及 w 3 7 7 云 E 出 .12 = 7 職 分 -拘 ラ ズ 貴 賤 7 ^ 水 テ 十 n = ŀ 7 論 ズ。 3/

テ

汉

10

速

=

云

E

出

サ

3/

2

n

ヲ

最

Ŀ

1

計

1

ス

~

3/

人 Ŧ. P 毛 ヺ 七 iv 取 1 前 次 ナ ナ 力 7 1 = 1 _ T 4 ユ 者 デ 勝 IJ ラ 7 = 1 手 w ヌ 1) w ^ 毛 8 . 及 1 ソ 7 P 時 -1 = サ 事 3 ゲ J. 1 1 1-..... ۱ر -內 -3 ツ 113 Ł 7 1 3 今 難 A 15 -種 IJ 1 ス = 世 心 1 義 21 力 1 E W 4 立 110 及 得 11 1 IJ 1 V 1. サ テ 愚 テ P ŀ 勝 21 r 1 民 デ 滯 リ、 ^ P E 手 ズ 不 難 P 1 7 F = Te b ラ F テ p 力 申 15 届 丰 毛 . ナ モ ナ = 111 力 ホ 出 1 自 ク 1) 1% サ 1. デ 面 云 10 內 ラ 有 1 1. 又 1 7 4 仁 得 下 云 1111 E ガ V 1 quarte la comp 1 勝 明 心 テ 面 3 E モ K 答 詳 難 手 輕 1 ス 4 丰 1 君 13 勝 義 7 丰 3/ 2 = F 思 云 HT テ 丰 w 7 手 = P 人 Ŀ ナ テ V E = V 1 フ リ、 筋 出 7 1." 百 ヲ コ E P 怨 サ ナ 汉 姓 21 1-1 E 決 13 1) P 難 7 ナ 2 1 10 義 思 1. 10 1. 7 3/ 3/ IV 力 何 テ テ 七 ~3 フ 21 フ F 又 何 申 ナ 1 P 1 3/ 3 モ 上 n 力 1 V 1 1 w = 多 ナ 7 1 ~3 _ __ n = 3 y, E 力 E P V 丰 = ケ ŀ ナ ラ 得 IJ 1 1 E 1 25 ク、 デ 仁 11: ソ 3/ 11 ス ズ 心 ス ハ 君 ナ 窮 1 ラ 丰 自 ラ 所 如 w ナ ナ ズ P 聞 身 ラ w ナ 此 P ズ ^ テ ~ 7 ソ ス フ NP モ ス 却 心 テ + ナ 1 w = 3/ = 子 得 時 申 V テ 1 Ъ w 遠 下 ヲ 渡 7 = 3 テ ~ 1 慮 民 モ 力 + ス y 7 甘 1) 人 ~ 及 w 毛 V 1 立 爲 ナ = 丰 w ヺ 丰 3/ 3/ 七 逐 IV = 7 -詞 丰 カ

3 7 云 古 2 = 3 誠 1 IJ = 臣 左 0 F = E 目 至 r P 見 w w 以 IJ 7 ~ テ、 デ 上 V 1 輩 大 君 難 諫 番 _ 失 7 鎗 事 云 行 21 1 T 3/ r E 出 p テ 1) 軍 或)V 7 中 1) 3 = 失 テ 1 1 仕 政 口 ___ 番 上 ソ r = 鎗 N _ ナ ヲ テ E フ IJ ソ 王 書 1 E 1 大 非 付 E 2 功 ヲ = P テ 1 P 身 ゲ 毛 ス テ 直 ~ _ 人 + = 達 セ 1 曲 V 命 ヲ 3/ 神 ヲ ス L ス 加 グ 1 サ テ 1 丰 御 w V \exists 遺 7 -1 デ 訓 7 云 ナ 論 モ E 7 出 P ズ。 IJ 3 諫 1 + 諫

ili

得

ナ

ラ

NA

F

民

E

心

服

セ

+1."

IV

=

1

1

ナ

3/

1

3/

IV

~

3/

經

111:

談

卷

之

Ξ

自 ラ 1. ナ フ ク E 1 テ ス 210 .7 1 1 3 御 難 " 時 テ 甚 E テ ズ 然 1 E 1) 1 V È 爲 ヲ 行 ナ 耙 依 -義 ズ 得 21 人 怙 違 多 1) n 1 力 ソ ン ヲ 1 君 ノ仁 ソ 難 人 10 量 乙 1 w 7 7 ズ V 3/ ~下 難 牧 ユ 7 IJ 1 7 1 屓 1 1 25 意 1 恩賞 果 叉 義 テ 13 又 1 3 ^ E 1 民 7 多 速 職 下 丰 il ナ ス 3/ 及 ス 21 7 ウ 難 ラ 京 7 力 1 5 ~ " n -7 1 養 ケ 爲 者 云 4 テ 4 義 失 v ズ 2 又 E フ テ 自 + サ 210 如 上 フ 1 12 -11 E 1 1 ガ 3/ 此 身 分 分 申 1 出 ナ 云 * = = 職 ラ 容 救 7 勝 出 IV 1) フ w 1 = 1 ノ上 ナ ス 者 碎 7 9 易 7 ナ 通 手 w E 11 リ、故 (得 仕: ヲ + サ IJ 力 1) ズ -1 = ノ仁 テ、 9 筋 重 テ テ w 1 1-1) 力 1 恩澤 申 E サ 1 モ 7 ク 威 モ = --心 賞 下 出 X ナ n 家 1 E 7 21 V = 自 ヲ 牧 E 難 t 御 7 T 214 +" 1) V ス 1 变 然 安 為 惠 F ラ 1 フ ヲ w n ラ 7 12 = 云 有 7 1 1 2 ズ 3/ 3 3 E 者多 = 下 取 云 7 難 F ~ 1) 面 モ 1 ---. 中 今 甚 サ 上 力 倒 次 7 牛 セ 7 ク E 第 15 者 思 1 木 ソ _ ヌ 切 王 = V 10 仁意 取 支 1111 (" 廣 Ŧ 1 丰 毛 1 毛 E -丰 奉 F 丹 ナ 力 ウ 决 丰 1 政 = 1 ワ 被 役 ナ 民 ヲ 功 1 V ~ 1 y, 1 7 V 汉 訴 感 仰 A _ 3 1 1 1. 1 1 1 = 13 得 弘道 . 工 人 出 p V カ E ナ 3 E = テ ナ 1 7 ウ 1 7 1 V 3/ 1 = E 出 末 テ E 118 下 力 ナ IJ F. = ---_ ス v 上 P 目 世 心 7 V T ~ 及 L ^ 1 1 賞 歎 ヲ 7 テ 1 ゲ 丰 申 n 如 v 7 = -< 劊 云 者 チ 行 ツ 110 1 P ナ 11 出 7 + 3 1% 扱 哀 7 6 ス 3) IJ 1 ~ w E モ 出 下 耳 恩 種 4 3/ 7 フ テ 1 1 10 2 * 云 汉 デ 7 或 汉 カ V 1 = ~ 4 7 下 聞 多 思 E n w 111 力 E 戴 P ズ 3/ 天 出 3 者 者 下 ヲ E 1 7 I, ナ 7 + ナ 如 E 難 焦 F ナ w .7 殊 又 7 中 7 1 T 3 不 深 10 此 深 ___ ラ 義 サ 3/ 1 = 1 = 外 屯 力 通 力 + 下 箇 7 3/ ス テ 7 3/ 21 3 賞 遠 云 il ズ ラ テ 云 n テ 4 1 2 ザ 下 慮 出 時 私 2 n = 何 21 -モ 玉 1: テ 及 民 入 3 n IV T 物 亦 21

〇目安箱訴狀箱ノヲキ様ヲ論ズ。

サ 謗 V + n 1 -= = 用 者 故 法 沂 テ V 1 1 木 次 110 ナ 等 世 E E -1 -第 姓 8 迷 V r 目 = 1 Ħ 名 ヲ 疑 惑 118 類 安 F 1) IJ 潰 箱 - 1 歷 里 サ -テ 21 = 居 私 テ テ 爈 必 近 3/ ス 訴 申 丰 ナ 7 狀 21 w 1 ソ 書 怨 餘 箱 出 1 7 w 1 載 心 義 言 誠 n F 叉 3 1 云 = w 1 1 ナ 1 -2 = ア h 依 ナ 出 心 1 1 + 毛 面 x 估 y, E n w T 1 コ 倒 書 7 テ V 1 人 w 1 載 情 ナ 3 人 ヲ コ 1 3 1 君 ラ 7 姓 P 丰 12 V V 110 名 宰 テ ザ 7 n フ ソ E -F 察 相 IV 牛 ナ ノ言 里 = 民 目 F 3/ E 1 V 居 1 始 安 . T ヲ 1. モ E ヲ 1 箱 人 詳 言 出 3/ 3/ モ メ 毛· 載 訴 4 牛 n w 王 = ۱ر 狀 曲 1 毛 何 X フ 1 モ ス 箱 勝 F 折 何 V 1 ~ = F 手 情 私 ヲ 水 牛 ŀ 3/ -= 考 テ テ 汉 1. ヲ E 1 ナ 1 云 IV 怨 1. 3 通 w 3/ モ = E ~ 時 云 w V 7 T ^ 39 出 ヲ 抱 テ 難 シ 25 E 1 V . " 出 取 有 ___ 110 丰 1 丰 定 誣 端 . 難 ヲ ~ サ IJ 图 言 牛 ナ 用 依 1 通 X セ y, ップ 由 ヲ -7 怙 テ w ۱ر ズ 思 陷 善 w ヲ 1 丰 7 1 妄 情 Æ 事 1 1 w 1 1 設 下 n ソ ナ ス 1 1 -21 患 4 行 ン 上 1. w F 1 1 上 者 ス = E F 1 1 3 言 人 + サ 牛 ナ IJ -10 古 起 力 V + 力 -毛 - Carlo 1 ス 時 ザ 從 心 几 1. w 7 Ŧ 得 五 w 4 ŀ w " = Æ 時 或 分 テ 云 ナ ŀ 21 1 = 罪 諫 7 7 ッ + 6 21 21 慮 皷 觸 速 n 2 ン ナ

達 ス IV 1 助 1 ナ IJ テ 下 民 1 利 F ナ IV 7 1 多 力 n ~ 3/

下

情

ヲ

人君ヲ 人牧 0 細 ŀ 云 民 1 牧 難 義 1 21 7 4 3/ 馬 1) テ ナ 1. 速 = -草 云 力 E 出 フ Æ n 者 1 7 ヲ 云、 重 7 今 賞 云 ス 馬 ~ 屋 丰 别 = 當 ŀ 1 ヲ 類 論 ナ ズ y, 别 當 1 馬 ヲ

220

世

談

卷

之

Ξ

養

フ

ガ

職

欺 此 用 訛 ナ 7 フ 毛 7 木 -~ 1 n 失 等 1 用 心 + ヲ y ~ 1. 3 丰 3 \exists n 用 1. 人 ナ 4) 1 虚 辛 E 力 T 21 1 7 事 -11-" w ズ 法 IJ 木 テ サ 風 7 w 法 ۱و 1 ナ w 故 -210 -1. 力 俗 7 モ 1 -2 權 限 1 罪 年 1, ナ r 力 7 1. 1 ラ = IJ ラ ラ + モ ナ 7 7 七 術 3 云 __ 3/ 年 陷 目 亦 テ 蜀 ズ 木 フ 1) E 1) 3/ 1 此 含 付 三 ナ 事 誠 汉 道 F. 1 テ w 意 民 ス 沂 者 ヲ 7 华 1. x w = 毛 E コ 推 7 Ŧ ~ 1 所 7 小 V ナ 21 3 3 ---無 嚴 政 テ 成 テ 1. テ 3 毛 1 + 丰 ス 1) 益 7 7 法 1 テ ナ 1 = テ 長 3/ 1 自 1 心 意 權 ナ 7 テ 7 ナ 3/ 1) units Named = E 11 ラ 得 親 由 申 7 IV 汉 モ 失 1 宜 21 勝 兒 ナ 渡 久 ~ __ w 久 ヲ 1 コ 21 1 Ŧ. 1 定 法 w 王 子 サ" 牛 3/ 1 3 V 丰 3/ 恶 7 人 恭 + 1. 亦 3 力 = 1 ヌ n 事 觸 ス ナ 7 所 卽 モ ヲ P 1 モ 1 セ モ)V 渡 -ナ 3 ラ 周 力 丰 父 7 フ 云 3/ -習 次 7 3/ 3 110 禮 ン テ 母 V ~ 17 = テ 1 10 E 相 叉 見 = 1 7 ~3 力 110 3/ 1 立 テ -モ 意 -. 談 當 7 ネ 成 同 3/ 3/ 遽 習 法 表 7 長 p 1 ス 3 7 テ V 丰 之意 [11] E -失 扱 力 ~ 7 セ 如 2 110 3 = テ 制 斗 31 ナ ズ 此 y 7 _ 21 1 3 フ ヲ 3/ -申 チ イ 1 n 10 1 ヲ 11 ス 1 推 フジ テ + ナ 觸 ヲ 17 及 ナ 7 E -ス w 汉 從 3 北 時 得 ナ n IJ ŀ 1 牛 3/ E v 21 + 1 7 テ +1 11º E 力 如 3 3/ 21 21 力 = 又 井 悪 1 至 210 7 丰 ス 見 無 IV 此 IJ 1 7 真 內 時 愚 H 惠 事 IV 又 知 -テ 用 1 學 1 習 チ テ 至 1 1 4 = 1 民 多 w 腐 校 間 頑 心 1 見 3/ ナ 11/2 2 1 ヲ ク 7 暫 儒 得 兒 出 不 1 n + 1 1 -子 1 合 細 P ~ 如 --云 ラ + 東 時 殊 1 ŀ 干 J. F. 惠 民 1 フ 牛 丰 E ヌ 7 I 3/ r 得 前 ナ TF. 云 事 教 1 = E + V = テ w 相 政 7 力 ラ 心 1. 1 E 3 1 1 = . ~3 含 手 ナ 父 扱 2 1) 多 1 行 得 E セ コ 丰 y 法 _ 母 w x E 面 7 7 汉 V フ = 告 ス ヲ 丰 ヲ v IV 7 次 = 7 汉 h ŀ 儒 汉 ~ 低 テ w 7 t 1 フ n = = E + 7 カ 者 畏 用 E 術 ナ 工 w フ 1 3 .00 " 意 何 ラ 用 n 1 IV IV ユ = ナ ヲ 1 1

薄 下 易 古 " テ ナ 3 云 -云 3/ 5 -1 今 F ラ b 7 睽 人 多 和 天 ズ 通 10 V 分 又 地 氣 漢 力 ズ ク 1 2 110 ズ、下 時 氣 子 邨 下 ナ 1 3/ 力 y, 身 降 上 モ IJ 細 1 丰 T 富 F ラ = 1 1 T モ 3 7 亂 リ、 賤 亦 +1." 旗 L 3 心 情 者 外 地 IV 17 7 得 1 1 20 魔 サ 叉 氣 者 才 モ リ、 ۱۷ 玉 上 次 否 E E 7 3 L = E ---テ 第 1: 騰 IJ T ヲ ? F ~ テ 名 テ ゲ 下 w ス 牛 モ -シ 貧 或 テ 取 怨 7 " n 7 -IJ 數 夫 ナ 7 ŀ 家 P ケ 3 ク E 奉 ナ テ 泰 ナ ノ亡 百 婦 +" ツ ۱۷ IJ T b 千 カ n IV 和 ズ、 滅 否 X 名 E 合 フ E ホ F E 寒 1. テ " ス ス 1 ス = ナ 下 ナ IV ケ F IV 1V 1 E 1 時 義 テ IJ 1 y, 7 ツ モ ユ 7 情 滯 テ 通 ナ ^ 1. 21 1 下 後 相 卡 T ナ ス ズ 血 = 情 n T K 應 7 ___ 7 IJ v 流 枯 始 3 デ ---1 1 1 ス = ナ 身 義 六 1: テ ナ 通 v 毛 驚 上下 Ŀ ス 凋 F 110 = 7 IJ テ 或 7 E w 3 3 通 E x F 榮 時 衰 セッ P 丰 E ノ ツ 萬 天 ズ フ K I ^ 1 ^ ナ テ 積 落 坳 下 3/ ナ 3/ = 1 グ 茂 テ ラ 1 1 IV 7 w 25 痞 永 Ŀ ナ 力 飢 = ズ 1 IJ 榮 下 ク、 7 ク安 ツ 寒 3 1 シ 1 テ ナ ヲ 頭 ナ 誠 w 1 ^ 穩 難 力 痛 IJ テ ツ = 次 3/ 嘆 ザ . 花 目 ナ ナ b 義 1 1 迷 眩 天 前 ガ サ IV +" ١٠ ~ w 惑 ノ別 誉 量 r 110 地 3/ 丰 7 = 出 造 百 r 3 1 21 + モ 1 y. 姓 ナ ナ 1 化 1 25 ヌ 7 w テ 役 y_o ク、 w ナ 1 云 モ E ___ 揆 目 ナ 3/ 1) 人 = 如 此 天 出 y ナ ナ 毛 þ 氣 周 モ ナ n 1 1. 7

〇カクシ目付ヲ論ズ。

サ 拔 フ 77 2 F. 7 7 E 1 3/ Ħ = 口. 付 1 ~ 誠 -7 ヲ ツ 說 推 力 T 3/ フ y テ =1 行 1. 末 明 フ 世 君 1 悪 良 3 習 相 = テ、 1 1 時 ナ 不 _ ス E 遽 ~ ヲ = 牛 犯 民 = 3/ 1 F テ 非 -7 義 アラ V ヲ 7 Œ ズ、 罪 サ -2 1 陷 h 力 3/ ス = イ n b IV = ナ 1 21 V 7 11 1 E ナ 時 政 1. ١٠ 21 > カ 民 セ 7 ヲ ヌ 子 3/ 7 目 1 b 付 如 ナ ナ ク リ、 F.

經

世

談

卷

之

=

輕 力 せ = + ズ V 1 w 婦 3/ 30 ~ 人 玉 亍 3 -人 嫉 フ 君 妬 7 サ 自 フ テ 1 情 ラ ナ 明 聰 1. = 君 明 K P 7 30 テ IJ 失 テ 4 近 外 フ V 習 E 110 樣 1 . . 1 辈 遠 者 __ ナ 臣 4 7 1. 用 親 1 服 心 E 3/ セ 服 玉 7 ヌ 取 セ フ = ~ 扱 ズ Ъ 3/ 牛 E T 王 テ = リ、 或 T 1 ラ 哥 叉 1 = 1 ズ 21 _ 力 致 心 v = ナ 得 1 V IJ 7 = 7 デ 難 w V + + ~ 1 ナ 丰 ۴ 丰 F. 7 云 = モ 1 E h ナ 出 ナ 7 1 IJ IV V 外 11º コ 樣 下 b b 情 P テ 1 扱 自 IV 1 E ラ ~ 3 身 P = 3/ 達 3 ヲ

役 テ 7 向 = モ n 名 間 7 A 今 ラ E F. 4 3 答 ザ 松 7 21 3/ 1 1 1 1 次 手 111 歷 ナ in FII 23 ヌ 1,0 第 何 w 面 3 -1 3 長 談 7 0 水 1 種 7 テ 事 IJ 起 歷 サ 君 崎 10 モ IJ _ A モ 度 多 テ 段 サ 事 臣 3 1 7 IV . IJ 6 重 ---7 = 7 E = 4 京 或 丰 テ 1 -7 F F 都 或 役 1 7 r 1 = 3 1 P 情 ナ 人 江 3 力 IJ ン w 1) 1 戶 申 テ 喝 = n 1 IJ 1 b -ナ 出 中 手 見 テ テ 7 y 1. 容 書 通 w 7 人 テ 1 = 工 者 易 サ 付 經 下 及 1 37 E 君 交通 片 難 7 V 觸 テ 民 IJ = 20 存 (. 言 流 7 何 7 1 1 寄 通 上 情 3 1 3 V 家 テ 1 滯 事 1 3 ----3 1 用 43 中 通 ナ 難 T Ŀ 7 y, 分 被 y 1 IJ ク モ __ 辨 諸 テ 花 _ 441 通 = 久 叉 テ 士 出 算 ズ ŀ 達 F IV ケ 1 25 10 1 = ク 3/ 云 難 3 丰 -E 3 -1 3/ テ y = 力 = 通 丰 b 毛 丰 及 毛 ヌ モ ズ p ソ 15 1 ヲ フ 力 110 w L n 1 1 H T " ズ 1 如 深 28 10 -ズ 37 力 下 何 力 云 1 ク 城 力 百 ナ 3/ 事 又 1. IJ フ 3 1 E 3 姓 IJ + モ 毛 7 7 v コ MI 云 110 = 同 1 3/ ---1 1 御 1 人 30 Ŧ: 時 ラ t 7 刻 出 E ナ ナ 丰 T ^ 座 n 1. 中 ヲ 或 y 2 1 r ズ 故 膝 移 思 = 21 . 1-IJ テ 涂 召 テ 元 ス 3/ ス . 上 = ~ 月 中 IV 1 諸 7 下 1 デ H 云 7 E 思召 役 7 w 文 デ ソ モ 3 經 E 通 1) 人 -1 書 申 1 1 テ テ 1 E 1 F 披 引 諸 間 = 山 出

並 外 弟 ++" 唐 × E フ = 21 テ E _ 1 モ 追 -次 取 樣 君 ラ ナ IJ 1 丰 セ ~3 テ 第 卒 有 腹 人二 玄 丰 恩 モ x w 1. 3/ V 1 . 人 7 テ 宗 難 = r = 1 = 水 人 大 足 數 感 1. 17 1 1 w テ ----3 E 1 言 思 殉 身 時 利 預 = ヲ ヲ ラ ズ 1 1 25 多 命 踈 1 1 13 ザ 死 w 3 7 ケ フ 1 見 詞 ナ 遠 滁 7 il ~ w w = ^ ヲ 1 3/ 薄 IJ 者 y, 汉 テ 7 ~ = 1 ヲ ス = 山 薄 y, テ テ、 心 人 シ 多 力 カ 1-7 1 外 前 ケ 亂 動 1 n ナ 3 丰 ク 諮 忠 君 樣 家 王 和 何 ~ w 丰 ____ V -自 葛 中 漢 = 7 3/ 1 110 1 誠 V -大變 至 亮 論 伙 ++" 顏 1 ~ 1 1 ヲ 7 平 多 諮 古 大 汉 IJ 汉 出 iv 真 ズ 10 7 難 守 日 テ 忠 今 卿 w 師 w ク 士 コ 7 10 ---如 モ 表 V 21 1." 誠 ŀ 1 毛 7 >1 3/ ハ 志ヲ 差 勿 評 ___ 1 デ 毛 1 久 如 3 17 -1 情 論 沂 宫 習 志 别 方 7 p 此 E 1 w 變 忠 心 習 ナ フ 恩 ナ 173 1 モ = 1 1 近 セッ 衰 土 テ、 潢 大 v 7 1 府 25 誠 quality Squaredip T + 習 士 ナ 1, 守 ツ 丰 13 · 2 ---1 IV w 1 人情 衰 リ行 皆 -p 毛 n 1. T 故 ナ 1 111 1 コ 自 爲 ŋ フ 2 w 大 屯 Z 1 邹 事 思 玉 然 テ ۱ر -汉 事 1. = y. 外 £ 勢 海 末 阁 ナ E 1 1 \exists = 遭 七 . デ 親 樣 代 v 1 iv ___ 7 T 1 遙 槪 時 扱 サ 情 外 1% 3 1 --1 モ 1 1 -人 見 云 テ 士 n 薄 樣 ナ P E 1 = IJ 劣 名 情 7 テ 1. w 取 -T ユ >1 又 E 1 V 云 扱 T 3/ 3/ ^ b 役 = = 力 事 IV 皆 近 = ゲ 李 w 丰 ナ テ T 1 E モ p 外 图 親 鲱 及 1 ___ 暦 7 如 V 1 7 フ 家 樣 誠 リテ 外 踈 ^ キ 1-ケ 此 丰 110 ^ ナ 中 玄宗 ナ 從 力 樣 厚 1 1 _ V = V 要 臣 忠 ウ 深 蓮 絕 IJ _ F E 又 1 18 害 モ F ラ 力 7 テ モ 4 n = 義 1 合 敵 15 W 近 姓 7 il 1 7 ゲ 15 E V 驶 習 同 大 立 名 難 古 ^ IJ 3/ テ 1 7 1 格 甘 用 テ ジ ヲ 卡 メ 人 ガ 1 1 w 時 X 殉 高 テ 及 王 言 + ユ > ۱ر 七 E 凰 報 死 數 滁 1/2 玉 百 10 ^ ナ = 1 ---セ 道 ナ 陷 恩 r 7 ジ 7 1 1 丰 工 ۱۷ 少 受 卿 取 = 中 玉 リ ハ 多 君 ズ 1 = 久 志 テ 17 兄 2 ij 1 = >> 17 ヲ 1 披 ŀ

= \$77

者 難 人 = V テ 110 1 -1 HI 儒 世 -者 人 及 = モ v 1 P 1 3/ 世 计" . 3 行 者 人 110 IV 7 1 3 w ヲ 1 罪 ン IJ 1 1 身 -3/ ~ 1 ス ナ IJ 1-P テ ~ V モ ラ 1. テ 聖 ズ E ス 畑 賢 丰 7K 學 今 1 練 1 老 道 111 ナ 1 學 用 1 モ w 罪 用 者 = 1 ナ 久 或 1% ~ IJ 家 1 1 --ヌ 7 又 r 用 モ 元 1 ツ 1 = 10 力 F 汉 世 フ 云 1 用 ザ 人 E 來 1 = N ----IV 1 1 槪 立 20 3 尤 難 力 -心 3 至 21 得 極 F 却 ナ w 才 1 モ w テ 3 害 ^ = 甚 y, P 1 ナ ナ = サ y w ガ (. V 3 子 1. 1 多 モ ガ 3/ 今 如 + 3/ . 1 丰 I 學 サ 21

座 事 ni ナ ナ 7 3 大 IJ 1 5 = = E E V 列 久 1, 名 P 思 21 1 同 庙 數 採 淺 1 1V w モ 名 37 -モ 17 31 E 11 情 當 テ 萬 IJ ナ 近 何 0 近 家 談 薄 習 丰 然 V 石 10 智 中 合 ナ コ 1 1 7 1 輩 家 1 大 取 外 ナ ナ 1 V 名 ナ 樣 1: 1. 丰 1. 扱 ヲ -以 聚 セ 王 リ モ E 11º モ 1 沂 親 E . 王 7 ラ 1 = 習 テ 1 1 = 7. フ 3/ ツ v 者 自 外 久 モ ~ 1 ク 力 v 樣 昇 思 足 然 テ 大 = n 比 テ ナ 7 輕 ---4 1 E F ヲ 論 テ 云 毛 b 町 如 八 恩 w 容 僻 3 人 此 惠 7 3/ ズ 易 白 1 ナ 7 7 何 1 4 姓 ツ デ ナ 事 T = 3 1) 目 IJ ^ + 1 10 モ IJ 七 . 見 4 恩 1% 1. 7 丰 或 樣 深 7 IJ テ 近 コ ~ 大 1 習 7 E モ 1 3 情 奥 亩 名 7 1 7 IJ 1 w 力 2 高 E 士 厚 -サ 表 サ 用 家 格 7 21 17 朝 ズ 事 取 1 h T E 别 -左 深 ヲ 扱 モ 7 -1 殿 得 厚 見 云 E 毛 云 官 • 中 T サ 7 聞 E 1 外 付 21 IV IV 内 3/ 3/ = 云 樣 テ テ ~3 ケ 1 1 = 勢 馴 分 -丰 18 1 染 及 叉 ナ 外 别 力 + 7 110 h IJ IJ 樣 P ヲ 1 1 . 陪 ナ ズ ナ ヲ 7 w NA 出 普 踈 y IV 110 工 7 臣 馬 遠 1 = 7 ~ テ 1 今 自 1 1: 軍 1 力 17 = 供 21 ナ 書 3 伙 思 ナ ソ 大 サ 1. ナ 丰 力 1 フ 1 家 + フ 1. -3/ テ t 又 + ナ E 7 及 フ ス 7 1. 1, 7 何 IV 3/ = 1

家 品品 此 ラ 1 ガ 3 叉 用 近 力 1 y = ラ 志 世 11 ネ 1 カ 21 4 ラ 1 1 = ス 輩 誰 何 デ 人 歷 熊 w ナ 臥 テ 70 1 28 w 代 者 某 澤 修 4 1, 游 ナ ---久 フ E 尽 7 先 了 行 14 7 ヲ 珍 -+ -V __ ス 1 デ . 3 テ ナ 牛 重 制 介 3 2 ユ 又 1 1 心 7 何 誰 V ス ナ =1 セ 度 毛 荒 7 勤 ラ 或 10 1. ŀ 1 ヺ゙ V 21 1 ŀ 井 图 加 家 顏 ---稱 或 ---ケ 1 云 面 w = 白 行 修 濱 鲁 = ヲ ホ 4 1 1 1 セ 1 テ 石 結 事 行 湯 公 F. ラ * 我 1 ラ F ソ ナ 文 ナ w 3 又 80 -1 1 ^ 1 1 F 書 用 誰 7 生 力 テ 何 IJ 汉 7 E 1 IF. 1 徘 者 第 書 ザ 知 E 久 23 w 1 V 味 外、 ラ 捎 者 徊 IV テ b w 毛 1 V 3/ ---1 3 名 儒 ナ -IV 力 r 心 二 ス 7 1-V 全 昻 IJ 流 得 者 テ w ラ E w 3/ w 3/ 力 書 • 1 ワ ナ 稀 國 テ HH テ , 毛 -白 3 手 學 第 1." ナ ソ 中 7 或 生 ソ 3/ 人 平 批: 家 ク ブ ナ ナ 云 リ 1 1 1 w b = 1. 支 國 华 諸 1 1. ١٠ H 云 = F 1 百 人情 y, 叉 類 1 事 3 7 1 1 ŀ 1 4 ジ 學 詩 掟 頃 摠 ヲ 21 1 -1 ソ 間 叉 名 平 人 テ 3 -3/ 仕 V 王 _ コ ウ 所 デ 1 21 置 ス テ 日 預 1 V 1 b 内 都 世 ŀ 用 サ 111-1. 誰 古 人 心 丰 IJ 學 百 7 = ラ 用 モ 4 跡 1 1 7 1 ガ テ 世 間 ス 問 ケ 功 久 1 = -姓 ナ -心 態 得 テ 1 ス + テ 町 1. r 17 = ヲ 1 = 力 答 學 誰 IJ E ナ name Name of ズ 1 ツ 地 人 7 ズ ク ヲ . ~ 風 寻. テ 民 ブ 1 1 ^ 3/ = ラ 用 答 唐 ヲ 汉 テ 丰 ス 7 汉 1 V 諸 7 110 人 = 人 7 ~ r F n 10 詩 1 . 例 誠 才 7 3 久 ワ T 州 テ. 21 モ ヲ 1 テ テ 學 詳 俗 目 チ _ 1 31 IJ 1 W モ 1 來 遂 牛 E" + 儒 事 3 ガ 唐 ナ コ -ソ 1 チ 1) ~ ŀ = 誰 物 4: 1 H ケ V 名 天 1 ス ナ 耳 本 1 3/ b 1 語 = V 說 器 n 1. 宋 叉 交 18 丰 毛 ヅ゙ 地 ダ 1 8 當 量 ス Æ 詩 r チ E 何 IJ ケ = 21 1 世 報 文 1 ヲ ŀ + IJ テ ~ E 7 3/ V _ 7 以 ナ テ 恩 才 テ ス 1 好 地 = b 行 學 IJ テ y + Ш 產 ソ b 1 E L = 1 間 事 b 物 者 IJ ~ 1 家 サ 1 ス 水 E 如 書 ナ 内 迹 世 v = 3/ w 1 1 1 =

樂 か 世 難 公 テ 慢 中 V --11 3 3/ = 世 111 6 r ラ 儒 人 云 テ h Æ v IJ 7 ^ ラ テ 此 事 出 ス 人 用 テ ス = V 老 クロ デ 指 修 等 w 7 ズ 劣 類 テ w D' 9 w 藪 3 書 南 行 1 Æ 毛 7 il w 王 者 隙 醫 物 1 7 ソ 肆 ナ 7 ナ 骨 3/ = r ク 老 1 1 1 儒 テ 折 E 3/ 1 3 3/ 3 IJ 前 餘 3 負 IJ 者 テ 1 E 1 -ブ r ラ -1 ケ ソ ナ æ = ク ナ 如 ス -恭 論 + 者 挑 in 1,0 此 1 ~ ラ 1 3/ 7 外 利 凡 サ ~ = ナ 30 丰 1 ~ 7 ズ 離 貴 將 種 + 7 IV 此 IV ホ 3/ V 1 -3 六 7 貪 棊 HI 者 10 久 如 勝 IJ 114 1 3 種 然 藪 ク 人 1/2 P 1 ŀ y n IV 氣 茶 難 臺 ナ r IJ 先 テ 3/ = v 3/ 3 1 0 湯 テ -- 3 v 1. 能 力 口 義 工 v 1) 生 10 出 世 7 1, 此 人 ^ E _ E 1 = -捕 您 濡 叉 モ \equiv 此 ナ 7 3 モ 1 w 9 H 性 花 種 者 HII 37 ナ ١١ 3 13 六 コ 不 Ш 者 ソ テ + 質 T 3 IJ ラ ス V 叉 淨 內 國 爲 1 y, 自 ヲ 1 叉 2 _ ---ズ 大 1 下 瑠 五. 儒 家 T = 由 " 種 ス 1 段 前 \equiv 瑶 六 者 7 7 IJ 鄙 ス ナ w b モ 迁 T ラ 1 者 半 × 種 1 = 久 w 1 \Rightarrow 畢 講 Щ 者 者 テ 7 1 ۱ر w 七 = 品 内 多 業 味 竟 釋 カ 八 1) 3/ ス T ナ __ 4 線 真 儒 \equiv フ ~ 1 y, 1. 種 1 -1 = 畢 內 老 テ ヲ ~ テ ナ 1 3 ۱ر -毛 元 農 牛 西草 人 P 送 1.0 カ 竟 IJ 20 -y, 用 辻 人 民 分 剪 手 儒 テ E 1 w 3 ネ F 講 南 先 IJ ツ 1% -= 如 屯 1 -モ 花 1 4: ۱ر 此 釋 輕 ~ IV 1 -ス 人 21 1 學 ナ T 3% 諸 重 者 1 ~ 3 E 3 1 1 ラ 多 間 類 ラ 牛 セッ 職 壓 1 1) ツ Æ 毛 +1+" 11/ 金 問 T ナ ズ E 7 1 ラ 人 7 1 1/2 IIII 1 y, 銀 IV IJ V 1 3 1 25 = テ 等 答 茶 1 F. ^ 7 T 7 衣 1 1) 1 書 . 食 力 T 1 7 人 110 只 * V 7 モ 21 家 밂 = w ナ 元 儒 何 ッ 1, P V 口 1 松 其 家 b 7 = モ = 7 ヲ 丰 者 毛 1 1 ナ 思 招" 善 内 云 约 1 3/ ナ ナ 毛 3 +11-牌公 叉 者 V ナ 7 115 Hi 17 1. 17 悪 フ 7 210 y, 人 思 テ 17 邪 1 E 7 E 1. P = 我 y 學 p 人 久 ス = フ ナ 27 ナ IF. 邦 我 别 态 者 フ 7 IJ v ス y サ

己 聖賢 程 有 ナ テ ŋ テ 17 ツ w 難 朱 ラ 7 ヲ 1 = 樣 私 經 內 ŀ 毛 IF. 牛 又 ___ 1 亚 格 書 r 17 ナ 種 ナ モ = 7 平 竟 3/ ラ 言 74 丰 歷 1 w 1 督 道 テ 書 故 史 工 7 ズ b = 民 學 人 ~ ナ 心 ~ 1 先 物 T I 道 用 ソ 小 1. 3 V 生 學 丰 ヲ テ 7 3/ ヲ 1 -1 ス 中 人 3 7 及 114 1 1 大 名 ラ 1 Tarelline Territoria ス 近 T 17 3/ 1 聞 思 ズ 77 フ テ テ IJ w IJ = 儒 學 罵 者 錄 テ 1 3/ 1 實 等 或 利 學 テ 術 = w 21 高 徂 欲 心 20 1 1 = -V 誤 人 力 7 獨 種 21 丰 r 來 導 學 我 門 者 v 7 1 N " 1 者 徒 事 自 慢 木 ナ ス 3/ ナ ク 己 テ IJ 7 時 ナ w 1. 27 = 學 -. 者 此 流 重 3/ 28 1. E 但 儒 大 T ブ テ ナ 心 1 1 意 儒 淺 1. 王 京 類 ソ = V 1 用 深 云 テ 7 = 屯 210 省 1 學 所 稱 訓 テ ナ 大 大 ~3 -小 話 ス 老 3/ 行 3/ E 17 -= 害 -立 L テ 意 ~Ve -1 h 道 叉 ヲ 云 チ 義 13 ス r モ = 足 學 者 サ ナ 7 ガ 7 = 3/ V 8 以 代 詳 世 明 先 3/ w E 學 潔 サ 者 テ 尽 7 = 生 -= 世 ナ w w シ モ = F V V -見 7 テ F. ヲ 1 P 呼 T ク デ 講 用 云 モ 日 識 IJ テ ブ 性: 引 ナ 力 學 ガ モ -窮 善 立. ナ ----ソ 此 ラ 13 y ナ 3 仁 チ ク 種 " 7 理 內 3/ 10 然 -H" 義 學 人 力 久 7 1 = 間 何 1-= w 力 種 又 10 V 1 論 r 1. E E w F 時 何 21 独自 者 云 1) 廣 サ V 1 T モ 1 -沂 明 デ ナ テ -深 V 1 V 來 4 3 7 E 7 ナ 22 テ = -多 议 興 + T 1 1) 23 身 心 7 孔 " 丰 屈 J r テ 1) ナ 叉 孟 A. ナ 1

云 云 右 軍 . 1 書 外 , × 7 = E 1) 3 E 歌 ZI. -似 戶 1 尽 = H w テ 1 者 サ E ナ 內 IJ 儒 1 IJ 莉 者 叉 ナ 1 y, 京 云 P = 叉 y テ 書 1 计 E 家 HAG 家 野 釋 刻 增 F 者 云 1-ナ 寺 r 1." y 枫 ヲ Ш 今 毛 雞" 1 學 希 僧ウ 者 ナ 等 7 F 1) 7 對不 1 * 聞 頭 ^ 工 F 7 及 3/ 講 講 w 者 釋 釋 E ヲ 1 T 水 切 7) 賣 3 3 ス 以 セ w 1-毛 -合 ス 1 ヲ セ w

道

學

先

4

-

E

膺

物

T

w

故

油

剑

1

ナ

ラ

ズ

-

第

ン

1

膓

7

3

7

見

又

+

テ

後

信

ズ

~

3/

經

世

談

卷

之

==

老 110 7 慢 ヲ IL b 1 = 7 -地 B 云 時 . 自 ガ 1) 1) IJ 心 或 種 等 V 1 軍 1. テ 叉 4 3 テ 1 學 モ 得 政 書 7 流 者 益 間 先 詳 テ 出 7 E 25 ス 1 7 種 牛 得 叉 修 精 行 人 ナ 7 -V 3 = 行 = 云 110 失 111 1 ソ ヲ 25 ス p = 31 10 從 俗 或 ヲ 郵 云 7 ス w 1 義 * 2 論 學 求 人 大 w モ フ 1 ----子 理 7 E ^ 9 3 君 種 抵 者 亦 テ セッ 1 久 ナ 7. 3 1 1. 叉 我 叉 同 ラ 同 物 ヲ 力 w 叉 得 何 役 慢 我 世 ヲ 30 21 w 語 汉 7 モ 主 役 ヲ 朋 儒 慢 2 ズ ス V 1 1 21 1 養 學 學 或 頭 显 儒 7 7 老 1 3/ IV 3/ 者 化 ナ ブ 者 3 子 テ 1 = 7 世 21 粧 儒 1. 3 ヲ 同 テ = 7 F ス 1 1 11 = 學 學 漢 云 # 學 P ~ 得 官 云 31 1 3/ -字 問 テ 判 ブ 問 3 ヲ X フ 7 ナ v 総 思 111-孰 害 E 3 ナ 古 ヲ 1 w 1 3 v , 牛 語 午 物 云 +" 7 1 E 1 1. 7 10 ナ 9 中 治 テ 1 モ ŋ = 毛 7 3/ 3 ナ -儒 右 親 以 亂 1." ヲ テ V 7 1 IJ 好 7 交 鼻 高 書 ノ三 ヲ 益 1 3/ テ 1 1 杰 ヲ ス 洂 3 力 言 r 云 y 7 3/ ナ 當 公 先 3 種 ~ Ħ v 3 大 1) 或 學 座 文 聲 叉 3 茶 テ 7 サ 7 1 1 ١٧ 盲 ザ 用 問 世 俗 身 取 ナ シ 21 人 T 7 官 儒 E 物 V = 1 IV ŀ 7 1 種 ヲ 1 片 靟 210 云 書 途 詩 肩 者 E モ 1 モ 1 仰 間 ス 汉 付 1 ヲ 名 ヲ 文 ヲ 覺 1 -ナ 养 怒 ~ 淮 聞 整 ナ 7 1 1 = H ~ 毛 P. テ 爲 子 合 ラ il 稱 ズ 1, 3 2 ヲ 3/ P 或 我 害 ナ ウ 汉 セ テ 3/ -1 方 ス w 21 宗 内 w ソ 1. テ E = V ケ ~ 善 -自 . 我 派 者 117 人 = ス 1 = 3/ 3/ 書 3 3 養 好 慢 3/ n ガ 1 = 王 E 力 7 IJ 能 道 父 此 顏 7 用 3 2 n V テ 文等 7 所 7 文 類 1 7 1 7 b D' 31 學 我 撮 種 思 V 盲 心 T 3 ・テ " 1 ブ 喜 當 ヲ 得 僧 y 1 工 ナ 1 H 1 -才 心 間 書 徒 IV p テ テ ŋ 久 IJ = ブ = 者 n 毛 ~ カ 久 = = 2 ヲ モ 矜 事 修 合 事 害 + 種 7 n 21 = H y 驗 奉 所 夕 = 3/ ス セ 不 3 V 7 7 學 9 公 丰 亦 習 1 1 自 V 7 3 4)-問 醫 7 叉 = ·Va 害 ヲ IJ = 由 ٢ V

0 今 世 1 所 雷 儒 者 3 7 1 國 家 ヲ r 7 力 7 ~ 牛 用 = 立 チ 難 卡 2 þ ヲ 論 ズ。

俗 賢傳 書 ヲ テ 毛 リテ 悼 Æ = 毛 招かべい 世 師 子 今 沙 v = 初 都 1 亦 至 1 樂 1 2 野 世 學 益 人 ナ w ソ 1 h 史 别 學 1 = 1 7 F w 3/ ス -稗 辈 儒 人 デ 者 ナ + 種 = N 編 1 老 者 ラ戯言 暗 IV 足 ヲ 古 E = 時 r 許 貴 F 記 V 1 I 書 E -族 云 IJ 子 1 ツ 3/ 古 1V 臨 メ四 ナ 大 E 畫 世 テ 百 モ 1 = 111 y, 1 家 學 本箱 家 心 T 7 = テ y 書 者 老 得 H 何 1 7 -招 唐 佛 テ F 第 1 久 V 必長篇 云 叉世 云 + 詩 7 種 w 3 異 7 選 1 事 = 雅 = 端 得 等 數 書 生 ラ詩 1 摺 人 1 ノ書 短 害 7 テ 11 2; 肆 1 本 ŀ ヲ 句 何 ヲ 儒 7 P 寫眞等ヲ 云 間 1 ソ ナ y, 讀 ク ۲, 作 者 或 ナ 1 ノ門ニ ク IV w ヲ IV h v 21 テ ヲ 者 何 風 ソ ヲ 七 テ = ナ 流 事 3/ V 稱 1 F. 毛 7 足ヲ運ビ 聚メ、 ラ 外 毛 E V ツ 10 ス 人下云、 ヌ . 書 醫 多 7 シ ~ T モ 藥、 或 シ 藪 ヲ 聲 ッ 3/ 或 ノト 先生 讀 3 ハ論 調 力 テ教 八奇草、異木、珍器、怪物 花車 本 3 ザ _ 用 ПП 心 F 漢 語 神 種 n 汉 ~ 得 格 云 博覽 学 ヲ 學 ツ 授 1 左 -ヲ 自 誾 = 或 筮 ケ、人 傳 思 ソ 滿 3 3/ ŀ b ハ僧 7 相 識 世 1 iv 3/ 毛 E 焦 學術 人 稱 ヲ 說 テ 法、 _ T 徒、 7 自負 蒙 y, 先 1 ス 7 天 3/ 名 貴 F 生 ~ V 文、 1 求 目 シ、和 ソ 害 ヲ ŀ シ、 客、 等 風 ナ 學 足曆、 呼 等 1 1 花 ヲ 歌 7, 人ノ ラ好 用 問 18 ナ 漢古今 講 人、 雪月 n iv 1 __ 地 解 心 酒 心 3 E = 1 理 3/ ノ莚、 種 得 7 ナ ダ X b ノ書、 其名目 1 ナ 風 テ 1:1 ソ ラ E w 見件 慶 角 F, 者 = テ > P ズ 中 平 H ٧ 等 " 1 E = 連 經 產 生 ラ ___ 1) 1

經

世

談

卷

之

=

經 世 談 卷之三目錄

0 今 世 1 所 謂 儒 者 多 7 1 國 家 ヲ r ツ 力 フ ~3 丰 用 = V. チ 難 + 7 F ヲ 論 べ。

〇近習外様ノアツカヒヲ論ズ

0 君 臣 E 下 ノ情 隔 リテ 下 民 ノ情 事 £ 二通達 シ難 + 7 r ッ 力 フ 7 1 ヲ 論ズ。

〇カクシ目付ヲ論ズ。

〇目安箱訴狀箱ノヲキ様ヲ論ズ。

0 細 民 1 難 義 ヲ 3 y テ 速 = 云 E 出 n 者 ヲ 重 ク 賞 ス ~ 牛 = F ヲ 論 べ。

0 0 目 ス 見以 ~ テ 心 . 1-付 1 毙 久 諫 IV 7 7 云 1 ヲ E 云 出 E IV 出 = 1 iv = 口 b E 職 -テ 分 -モ 拘 書 ラ 付 ズ = 貴 テ 賤 モ 直 ヲ ^ 達 13º セ テ 3/ ザ 2 w ~ 牛 7 ŀ 7 ヲ 1 論 ヲ 論 べ。 べ。

〇士民ノ風俗ヲ正クスル説。

0 0 11: 遽 祿 = ノ家 改 IV 1 3 ノ弟 1 ナ ラ 次男三男 ズ b モ 7 r 胩 ツ ヲ 力 得 フ 久 法。 ラ 110 必改 4. ~ 牛 = 1 ヲ 忘 ルベ 力 ラ 4)* w = ŀ ・ヲ論ズ。

下 手 鄿 7. + 22 17 吟 1 = E 100 3 カ ヴ y 云 1. 味 +)-" 技 技 技 ")" 1 ヲ ル答 墨 變 遨 モ 77 1. ソ V -3 ガ テ テ 長 y 力 カ モ ナ 9 1 ^ * ズ y. 其 ŀ 小 " w 7 長 者 テ -V 3/ 德 德 3/ ۱۷ n ヲ 21 器 ~ ア F テ 器 大 ₹ 0 ラ 得 段 = 3 = 至 17 安 IJ 1 1 位 ク、 ス E y 3 テ テ 重 " = . サ ケ 1 7 24 殊 天 orga E _ モ デ 更 ナ 下 3 テ 德 ラ 第 貴 ナ ^ 器 y. ズ、 E w __ 叉 重 = 1 甚 人 内 1 25 1 或 ナ 王 ズ 1 V 小 貴 + y, 中 IV 誤 ナ 水 E" 1 重 1. w ナ ダ y. 者 人 ŀ = 1 ズ ナ E ^ b 勿論 技 ナ 110 w 1." 朝 藝 丰 = モ 德 類 テ ヲ 1 ŀ 器 內 ナ 7 丰 1 推 ガ ノ大 が重 丰 7 サ 得 7 テ 考 ナ 7. フ 手 V ナ . フ F n 云 者 才 w 才 ~ シ、 能 能 德 ۱۷ 1 人 德 ラ **ハ** 21 次、 器 此 ij 君 ラ 醫 率 T 分 者 ブ 技 相 IV 别 数 者 ノ上 IV = 1 目 昧 ŀ 1

經世談卷之一

終

經世談卷之一

段 分 H 7 7 v 7 E w テ ŋ 德 樣 20 小 大 才 器 3 1 1. ナ ~ == 1 7 1 毛 y チ テ 毛 E テ H 13 1 シ、 衆 能 德 21 7 テ 才 ソ 本 ガ E 1 1 器 フ 1 1 ソ 7 德器 v フ ナ 上 3 用 ス 能 ナ = -ナ V 1 3 6 P 7 ~ ナ IJ = = 1 E 4 ヲ 事 岭 ウ テ 立 21 3/ 7 ナ ナ 3 V 使 才 ン 味 立 ナ 9 _ -テ 17 7 IJ 工 110 ニレ 1 能 1 7 差 輕 ~3 7 テ H 2 モ v 才 人 2 1 E 别 其 才 3 + ヌ 1 1 10 來 各 能 牛 末 諸 3 T 任 其 能 7 21 王 ヌ 中 = = ナ w 害 F 士 任 技 = ナ 7 モ y H 其 ス ~ 藝 技 7 -毛 3 -ク 、技 1 德 IJ 器 n ナ ŋ 3/ r 遨 汉 r 1 ŀ P 器 テ 以 v w ラ ナ 汉 製 V E ナ y F = 如 9 久 1. F 德 ホ 又 ラ ク ク 1 云 概 E IV 此 技 1, モ ナ 末 25 ヌ 1-T 1 밆 テ ---* E 1 1 y ソ ナ E iv 1 モ 鋫 明 4 21 1 7 ナ 义 7 y 才 V 事 人 -云 君 1 1 6 德 . 21 b 1 能 末 ス 1 毛 段 1 E ナ 高 器 ヲ テ 役 人 才 ナ 20 1 格 難 毛 位 3 7 1 付 7 -1 能 7 IJ ス 良 r 3/ 大 210 技 17 至 1 E 9 1 1 汉 ナ 相 ij 献 分 堪 辈 叉 ス 数 IJ 3 大 ラ = 4 デ 1 别 7 ii 忍、 テ 技 立 學 ナ 2 -3/ ズ V 毛 重 モ 3 蠘 . 30 3/ 7 ク ラ 1 = 18 ス 一惜 按 テ 丰 テ テ 大 才 斷 才 達 1 ナ IV w 戮 德 V 1 Ħ 王 > 7 能 能 1 4 3/ ナ ズ 重 ソ 3 用 1 3/ 難 大 1 モ 1 今 ナ IJ -3/ V 1 器 17 3/ -サ 無 7 モ 云 丰 6 用 テ 以 寸 間 --T _ 1 7 他 今 授 F Ł E 難 デ T = 1 Æ ŀ 器 技 人 . 醫 皆 w _ 合 ラ ナ 德 ス E 1 1 割 輕 = 者 大 * 器 多 ズ フ ガ IJ . 1 P 技 當 較 1 才 丰 1-1. 云 = v 1 ク iv 7 数 n 鍋 7 能 貴 21 E 人 類 r 1 ズ 木 輕 論 IJ ガ 大 1 フ r 君 E 1 ブ IV 1 1. 長 人 7 + ス 大 ナ 宰 技 w E ~ 1 3 才 短 君 用 7.1 V 7 w ~3 間 相 能 丰 3/ 能 宰 . 1 疵 E 1. NA 能 3 -大 1 E 1 拙 相 テ ---1 合 1 ~~ サ 將 云 ,2 長 1 交 r 第 " r 1 ナ 7 7 ナ テ " ~ 短 任 w 12 如 ラ ナ = 1." 1 v . " 1 像 =7 1 力 此 ス ズ 1 20 P ス P 110 E 劣 飛 ナ 1 w ŀ ---P ~ 110 10

言 3" 25 誠 y フ 二有難 事 尽 10. ス 英明 ラ + 入 臣 1 = 君 ŀ 1 甚 ノミ -テ、 難 忠 3/ サ 臣 F ス ヲ 3/ 用 モ n 數 所 IV 白 ナ = 年 1 v ノ太平 11 1 ナ 1) ソ ラ、 7 1 開 功 庸 丰 -番 王 晤 鎗 ノ君 フ 御 -德 毛 = 22 ノ験 7 退ケ サ V 1 ラ ·j IJ 奉 IV b 存 丽 ナ J. 祖 り。 多 1 1 卡 E ナ IJ Ł 3/ サ = ŀ V 18 r 諫 IJ ア V

○徳器 P 才 能 ŀ 技藝 P 三ツ ヲ 混 ズル 者 ノ者 フ誤、 並 人ヲ 用 フル -此 ノニッ が輕 重 ヲ E

ク分ツベキコトヲ論ズ。

職 才 人 デ 小 *JE v 1 直ナ 今世 能 人 叉 ガ ナ 1 = 1 德器 次 ヲ 技 說 ホ = ナ jv. 第 法 IJ 見 鋫 1 y. ŀ 甲 人、懇切丁 人 ナ テ w ヲ 3/ 鍋 图 乙アレ 混 君 テ リ、公事 E 得 平 鏡 宰 フ 狮 ジ サ テ 相 心 氣デョル人、律義ナル人、廉潔清白 ナ ナガ 德器: 1." +" 功 サ 7 1 寧ナル 訴 盲 人 者 ス モ 鏡 認 Ξ 才 n ヲ 1 磨 1 人 能 ガ ナ 用 サ 人、容易二 1 同 亂 功 = b E 18 统 然 者 舞 E ___ V 丰 ガ F 7 樣 1 E 狂 云 E ナデ テ 徳器ト --1 手 配 Fi ~ 腹タ 心 ソ ノ類迄、 F 手 V 1 得 1 ノ米 ノ、勝 算筆 云 디디 1 13 今 ヌ ヲ分 IV 7 姑 人、 手 大 大小高下ノ次第 者 ガ 扱 ク 多 財 ルヲミ 1 3 義氣 ファ 9 極 ナ 用 シ 1 1 n 1 ノク ハ 别 3 人、 ツ 聖 11 IV ク心 7 3 =, 人ノ如 リマ 马 3/ 勇 丰 云 ウ 馬 服 猛 人、 ___ ワ 才能 ハ同 力 シ サ 剛 力 ク、 槍 テ シ Ш ス 强 v 上德器 ガ ١٠ ジ ガ = ルノ、 ナル 小 21 達 上手 崩 汀 ス 慈悲仁 丰 ラ ノ極 3/ V 人、 ノ、 ザ 重. デ 1. トノ別アルコ 汉 恰 德器 ハ朝 モ 1 1 6 作 发 1, カ 悧 F. F 事普請 フ ヲ ケ E 云 ナ 7 7 力 7 丰 論 7] n 3 1 ミナ 丰 人 -1-V y, ガ ブブ モ ノ仕 人 得手 1: ナ 旷 ŀ セ 技勢 ヲ 手 親 ス F. iv ヌ 法 细 切 ~ 1 ダ 云 人 七 ナ ガ テ百 IV ラズ、 ト云類 ナ T 類 15 リ、才能 jv 下云 首 y, 20 者ノ、 人、 工 1 大 或 坐 ~\p 7

ラ 類 數 理 T v 19 y 1 E ケ テ 戏 7 、或 小 7. 或 210 力 多 ヲ テ 3 n Jo. ソ 簱 心 人 y 家 テ ラ ケ 人 富 自 1 落 ヲ 破 扱 7 7 v 1 V 久 源 思ラウ 然 -1)r 禁 暴虐 ノ輩 書 助 ル v NI E 3 V 1 ゲ 役 テ 法 1 毛 = 1 勢 ク 1. 人 7 1) 或 7 ナ n 3/ 1 15 E >1 -退 札 力 威 犯 n 1 1 丰 諂 己 テ IV 撮 叉 = 4 3 ナ 王 3 7 p 1 ノ者 必 1 去 當 = 1. 久 テ フ 1 1 10 定 勝 , ~ 7 慢 w 3/ 省 E 1 E = ヲ 手 1 破 ズ 手 E 亦 テ 思 7 3/ IJ --取 驗 7 諂 P IJ E ヲ 輕 長 T ラ フ ソ F ナ 21 -溢 7 7 1 ヌ ジ フ 1 = 1 IJ, 力 n 或 底 者 楽 1 ソ IJ 11 ジ 1 1) 3 上 家 7 下 力 耀 3 ノ害 3/ -如 ツ起 親 = 第 ツ 木 叉 w 7 テ ヲ 斯 7 E 3 ブ テ、 剝 21 力 地 = 7 ナ 心 我 IV 3 3/ ナ 1 セ +" 獄 1 ŋ V ナ 7 7 氣 -肝 iv 大 朋 x ワ 1 ユ 叉 1 ŀ + 求 V 要 抵 沙 テ 輩 7 水 古今 ヌ 3/ 役 ハ 1 X ナ 堪 汰 1. ヲ p 1 1," 1 人 ヲ テ y, 欺 忍、 = ウ 人 丰 モ 1 云 U 氣 -1 大 ナ 1 金 + 7 27 -例 1 サ テ = ナ 詐 惠 或 w 21 ナ 次 13 力 面。 入 テ y. 內 第 中 w 7 IJ 3 1 ラ 丰 忠 n = テ 憐 1 = 連 1 1 1 直 7 E ク 3 盜 事 ŀ = V イ V 1 J/. テ + 1 1 ١ 衙 或 何 1 1 17 ~ ナ テ 者 7 7 下 = = 威 w 助 思 1 = = V b 21 ١١ 所 テ、 諺 1 ス モ ク 3 Z E 全 110 力 E 洣 ラ テ 行 7 心 n ス 1 (多 ラ 17 甚 惑 ズ ヲ ヲ 牛 如 反 1 + ズ = T 1 " ナ 1 华 1 3/ ク 3/ = 直 故 V w テ 5 ナ P 3 及 ナ ナ 月 ソ r 人 サ 考 V w フ テ 1 IJ 7 J° 1 及 相 君 テ 7 址 或 b ŀ 7 11P ---ズ v 又 率 徒 却 ŀ ナ w = E = 18 7 ス 相 黨 7 10 貧 諸 事 7 2 テ 7 귮 自 n 深 富 退 7 仕: 役 ス 家 ラ 110 E 3/ 7 故、 7 結 出 行 ナ 丰 人 强 17 1 虚 風 E" ス 法 7 毛 爲 ラ = E 1 フ 勢 下 7 肺 工 俗 モ 3 E 1 = IV x 至 落 F 7 ソ ナ ~ 2 1 ヲ -1 _ グ 義 受 上 補 3 7 1 3 n N 7

24

J.

270

丰

テ

E

深

7

3

1

所

以

ヲ

3/

y

B

n

者二非

v

100

進メテ

用

n

ŀ

E

大

=

任

ズ

n

=

1

ナ

- 20

又

7

^

-

昔

多 家 少 必 人 加 サ 或 依 1 ス 外 = 1 = 7. ナ 其 4 ノ情 テ 家 怙 n 越 サ ズ 7 1 1 之 家 衰 明 品 人 人 1 -3°w 1 ~ サ 遠 疵 風 弱 白 ヲ 中 屓 = 1 加 百 目 萬 ヲ 恶 俗 千 ザ 此 サ ナ E ---11º 大 3 人 ケ 倒 押 7 人 丰 = 人 ユ ナ V 或 瞞 丰 テ 難 ナジ ナ T × IV ノ内 v 11º 7 3/ 家 諂 ク云 百 y iv F 丰 1 1 V 210 r 人 者 V 自 工 毛 7 15 九 7 フ 大毒 3/ テ T 然 者 7 ガ 1 デ ラ モ 7 3/ E ザ 立 デ ナ E 九 人 取 b w E V Name of ۱ر ナ V 间 丰 百 中 必 テ V ~ = = JV. _ 人マ 升 n 110 牛 身 越 段 次 人 3/ ジ 21 イ 21 9 . ヲ 力 進 ラ 10 ヲ = p I 1 諂 E 孔 富 デ 太 7 テ、 人 讒 ^ ウ セ ŀ フ ナ スベテザ、 皆諂 聖 テ 貴 不 p 1 21 謗 --者 シ 諂 Ŀ 1 テ 安 皆 7 モ ナ ブ ス テ E 鄭聲 、諂 慕 === 巧 ク、 = E ١٠ 下 w 必必 ッ大 申 ズ 段 2 E = 1 萬 淫 繁 世 危 立 工 ソ V 1 ŀ ナル ワ 又 榮華 娃 急 昌 ノ人 人ア ^ テ 悪 7 サ n 者 IJ 忠 厭 ノ音 JE. 長 人 Di" 1 E ハナ 1 21 場 直 久 w y 1 ヲ E, 3/ = 7 上 7 用 ウ 樂 ノ人 丰 3 王 1 = ツ IJ シ Ի = 目 終 ヲ守 テ ラ b 至 ナ v E 1 1 3/ 同 ラ p 九 テ JV IJ 出 = 21 可」是 3 次 諂 自 千 テ 33 下 ۱۷ n 工 v ジ 久 云 3/ テ、 首 人 始 然 落 ク 丰 ~ 又 E 1 Ł 3 ナ 下 ヌ p 7 7 1 1 テ = ス 出 137 ラベ ۱ر 者 ウ 世 デ 甚 目 Ł 古 b w テ、自 + 皆諂 十人ニ __ 故 ハ ト 1º 1 ソ -- Carlo 1 Ħ ウ テ x V ヲ 覺 3 IJ ス 3/ ^ 、遠。佞· 耳 テ引 ~ 讓 然 チ 丰 フ 人 n w 7 -y, ___ 者 者 ブ 諂 ス サ = il ---3 人 v, ナ 開 退 1 地 丰 7 = 面 或 テ ク、 V 後 諛 ダ 自 フ 人 IJ ス + デ Ė 然 送 テ 20 ゲ テ ナ 20 V _ ŀ 讒言 忠 本 ナ 1. シ 1 3 V E 21 b 1 1 ŋ ナ 勢 意 人 由 ナ 千 3/ 丁 力 王 1 ノ玉 民 j 疎 y ヲ 丰 n 及 ノ道 = + ナ V ^ 退 ヲ y, 7 1. E ホ リ、 1 1 1 V E 沂 艱 七、 湛 厭 寒 ケ 內 ゲ 難 F n 3/ 苦 ガ ラ 世 久 + 九 IV フ サ フ "J _ ナッ、 ナ IV 右 ケ V 1 モ 百 3/ 7 1 7 國 者 中 t ŀ 180 w 人 中 ŀ 7 210

澽 败 邪 故 7 E 7 ~3 自 +1 + 10 F V ソ Ľ 城 蠹 テ 牛 然 ナ -. 1 w E 1 1 1 1 物 國 人 倒 狐 ナ 賊 如 力 1) ス 故 牛 ---3 ネ 者 7 社 1) 此 7 廉 1 w 12 10 T 其 テ 掠 7 風 退 サ = 鼠 云 1 耻 3/ 1 內 緪 死 驗 テ ナ 文 7 丰 雇 俗 ケ = F 蠹 奪 至 1. -ブ. T 仕 7 计" ソ E 風 E 害 テ n 形 直 ラ 汉 久 1) 1) テ Z 1 E 衰 者 蟲 牛 サ 110 h 1 b 1 ---ズ ~ 忠 寺 0 7 汉 7 叉 1 テ 1 F ^ ~ ズ 云 命 盖 首 取 1111 13 w F 21 ^ 或 僧 1 1 數 故 蠧 家 テ 樹 y テ 政 ~ E 7 1. 1 絕 目 役 道 說 或 1. ナ r 木 -1 モ -深 益 叉 前 朋 塞 法 1) + 7 21 V 25 E = 學 端 輩 サ 1 ス 111 N 7 P 1 1 -1 是 國 校 自 禍 1 ソ w 如 云 又 = 的 內 長 非 家 テ 1 或 廉 7 ^ 妖 +" 7 7 1 崇 害 設 1. 大 ク 1 ナ 耻 1 1 セ 1 1) 21 補 蟲 根 坳 ナ 3/ 1 風 我 ナ ケ E 1 3/ 1 * 終 力 ナ 7 丰 1-風 1 1 ガ 1 V X 1 . 腐 1. 經 云 先 ナ 水 ナ 付 1 E p 衰 -類 ウ 或 書 1." 1 丰 = ラ モ 25 ス 1 V v 10 敗 立 立 ---ナ 1 w 毛 テ -110 ズ 21 -諂 家 養 177 テ À ガ V ツ 1. 及 T 遺 講 自 叉 ナ 者 フ 中 ズ ブ ~ 如 ~ 4 實 者 3 F. テ 己 爐 3/ PIP 然 7 7 セッ 3/ 1 中 突 ガ 至 7 役 3 無 テ 1 V 3/ E 2 中 ヲ 及 不 賤 益 モ 3 丰 巾 極 人 x 3 永 養 存 去 倒 着 ナ 3 テ F 1) 1 w = 3 命 . 分 内 久 生 ナ 風 1] 3 12 ヲ w 3 3 遠 人 折 痛 1 = 1 -フ 30 n = 7 3 鴯 生 押 ソ ナ テ 7 サ テ 7 ナ 3/ 11 1 1 命 導 ラ + 種 y ダ テ 損 w モ ズ -1 4 容 ナ 數 終 テ 牛 チ 故 w 4 力 IJ 19 ス 撮 或 今 易 蟲 w 7 力 何 テ サ -IV 諂 忠 當 1 木 枯 工 ップ ナ = 7 モ モ 1 11 J. 講 事 ラ テ 1 進 直 世 w 果 1 フ セ 1 深 者 枝 10 談 變 ズ 7 テ 7 3/ = IV 1 或 7 今 × 葉 丰 親 r 2 7 sparts Sparseris 心 -L 家 至 n 故 故 次 上 遠 IV IT T E 1 1 3/ 茂 俗 心 ナ n 1 1 n 1 计 2 王 w 古 ナ 物 道 1) 牛 古 ガ 5 T IV Y 7 21 3 IJ ケ。 道 ء 難 1 7 计 1) 君 1 21 Y 111 7 溢 . 率 害 速 理 E 力 7 1 \exists 3/ V 1 相 佞 V 云 Z ス 3 ラ 何 -210 -1

運 ŀ 深 女 之 者 7 モ ダ 21 又 1 n 7 3 ゲ 拙 考 覺 p 云 云 n ヲ 風力 1 17 1 1 テ ウ 失 ナ 耻 身 譬 笑 3 王 17 ^ = ^ 7 諮 " テ テ w 12 丰 -7 1 1 = E 3 7 ナ 败 病 ヲ ij 3 7 = E テ -誹 耻 次 覺 1) P n サ 思 遊 モ w 1 1 w T 1 テ 先 ナ 1 7 鋒 ~ 女 故 E ~ v 1 七 先 祖 T n 7 4 3 IJ 210 ヌ 1 中 7) 譬 -客 IJ ナ L 手 Z 7 ŀ 3 人 用 IV 其 211 ^ 1) 1 3 リ、 3 際 7 1 忠直 E E P 111 ラ 弱 1 1] 3 1 汉 ザ 1) 111 昔 141-樣 撮 巧 E 力 ヌ = ブ 丰 以 ナ w 木 質 者 出出 ラ 1 3 F F 1 = -ラ 人 F 道 テ 席 3 7 3 1) 毛 T -3/ 力 r ズ 21 服 或 弱 7 ラ 1) 致 n テ テ 7 3/ 自 V 塞 父 藥 家 テ 1 IV ズ 111 1 力 然 110 人 兄 養 +" テ 敗 ス 王 1 ソ 日 偏 ---Ľ 生 テ 叉 夜 サ 1 111 1 30 1 汉 ソ 屈 自 忠 智 實 1 w ス 1 __ >1 -7 V 1 自 前 基 (0 者 w ラ 略 世 ソ 7 心 V 人 -論 虚 外 話 又 心 1 1. 1 v 7 ツ F 諂 ナ 弱 人 E ナ 王 1 7 ズ 7 1 21 V 云 手が 入 ナ 丰 ナ 風 7 77 w ガ E 1) テ Ł 俗 信 智 故 1) テ 管 魂 丰 IV F ク 1 耻 起 セッ 略 E 牛 ヲ E 7 -1 ---コ F 亡 嚴 友 ナ 忠 風 1 1 ズ w ハ 1 × 1 セ ナ 人 故 グ 流 ナ 7 直 8 IJ 3 w コ -又 1. 3/ テ テ 丰 モ 1 7 取 1 ラ 1 p ラ E 1-勵 本 他 片 諌 T _ 1 及 ス I ウ リ、 ズ 汉 = テ 心 意 1) 21 佞 3 = 7 1 ---カ 八 w 工 ス 玉 = 人 1 地 モ 1 ナ Fi 鋒 世 人 者 九 _ T 者 12 コ 1 = > w 外 先 IE ラ 2 E 木 21 = 1 _ _ 1 F = 感 丰 I 諂 ツ 任 ガ 力 3/ 云 7 = 110 ズ 1 自 -1 力 = フ 弱 ^ ナ 7 丰 ٤ V ズ -病 浙 習 外 テ ス w 7 7 汉 V ス 7 ガ 世 信 テ リ、 ŀ = w フ = 1 = 3 110 1 醫 耻 末 7 コ 7) 3 ツ モ = 1 V 7 フ 者 失 テ ブ 和 中 P 中 ヲ ŀ 汉 3/ 1 3/ テ 7 忠 漢 淺 E 3/ n + ラ 7 7 ナ 古 111 ŀ ネ 知 10 昌 1 V 7 療治 誰 ク 運 7 今 3/ 志 1. ラ 3 王 耻 云 1 拙 用 n r 力 7 モ ヌ E 1 コ ---ナ 目 事 1 1 ナ E IJ 1 ナ テ 不 = 3/ リ 4 遊 + ザ 迹 1 21 + ヲ IJ 1 通 1

牆

步 打 ラ ナ 3 2 w IJ T ク カ テ 7) E 1 家 1) セ = 投 老 P F 1 ナ 叉 7 = 7 ŀ y 汉 21 出 ナ 3/ 權 七 IJ = 頭 テ、 9 7 3/ 1 此 奪 人 テ 間 1 1 黑出 H 1 w 11 界 陟 威 1 限 ガ 賞 罰 1 7 1 1 容 振 p 1 易 1 七 フ テ = --7 萬 心 己 ツ 1-得 事 丰 E ۱۰ -難 봡 テ 1) 自 出 委 丰 身 任 H 7 w 17 ŀ = 1 ス 手 (P 云 w w 7 3 1 工 人 モ 1] 耙 ~ v - 1 テ ダ 1) 1 前 間 及 + 10 名 林 ヲ IV 合 自 條 答 1 ラ 1 1 3 1 權 サ = p 柄 テ ウ 1 大 ナ ナ 7 1 權 据 1) ス V 1. w w 7 人 毛 ŀ 21 大 7 -細 體 称 前 務 卷 7 1 w 全 7 3/ 7

氣 尾 ズ、 丰 ス = ナ 者 = E 7 P 凡 入 7 人 1 P r 咸 U テ 君 ラ 家 3/ ナ v 1) w 7 テ V 丰 110 1 = 及 爲 テ、 重 大 0 21 10 官 人 盡 諂 = 丰 組 我 諂 ナ 途 刑 ナ 合 身 4 フ 勝 罰 w 者 = n 1 1 1 手 衙" 升 F 爲、 者 -V 1 ヲ 不 進 F 1 行 7 國 21 目 爲 賤 諂 家 同 今 フ 家 ガ 身 = 30 = 3 フ = 4 1 ナ 害 テ 者 ス 1 大 1 爲 3 榮 乞 w 30 9 小 水 T 7 = 誰 耀 ナ 食 1 1, w サ x ヲ IV 甚 人 H モ コ 3 w ^ 七 IJ = モ セ ガ ŀ 事 ナ 1 ス 1 ザ 1 3 3/ 此 v 行物 >1 ~ 7 n E w 丰 110 ヲリ テ ズ 3/ r ナ 3/ 21 ユ 0 ス 勝 ラ IJ サ ナ 牛 ク 手 人 12 又 1% 1 7 3/ 者 民 __ 3 w 3/ 云 ナ 諂 1 1 1) = 丰 フ 利 ナ 者 1 w 1 1 コ 7 ゲ 德 後 ナ 1 1 コ 1 1 白 7 丰 丰 1 n 7 考 1 目 書 論 國 ナ = 7 ガ 才 w 家 ガ ナ 1 IJ 术* 1 ズ 7 諂 ケ w 7 盗 1 工 テ 利 願 賊 七 ス 7 1 賤 人 = フ ~ Ŀ 1 7 ナ テ 3 3 3 3 心 y, 諂 禁 欺 w 分 17 IJ 得 丰 3 1 フ ズ モ 明 テ 害 目 者 嚴 ク E° w ラ 今 3 = = 7 1 -心 禁 ナ ナ 心 1 V 3/ w 法 底 ス n 3 3 モ E ŀ 7 テ 世 21 To 論 ヲ 君 デ 才 = 前 行タ 30 甚 ズ カ E モ w = V 1 1 ダ 3/ F il 首 犯 親 1 V 1 3/ 云 ラ 1

ナ 21 " サ v 119 少 3/ E IE. 3/ 丰 人 21 誰 K E セ 又 = 1 ナ v 1. E 世 1 政 事 風 俗 T 3/ 5 v 110 自 然 -習 21 3/ 1 ナ

或 已矣 打 ŀ 任 ノオ I 3 = 丰 w 2 10 3 大權 T 人 IJ 工 ナ セ V ノ棟 17 7 y, 愚 リテ 種 1 7 1 P 足 力 __ 7 人ノ 委 々甲 云 y ヲ 頑 1 梁 F ノ遺 セ 1 テ 大工 E = フ 任 玉 此 ナ 及 7 家 棟梁 シ p リ、 Ż 界 ス 3/ ^ E w ソノ上ニテヲリフ V 老出 テ事 IV 人 ウ w p 大 ノ大格ヲ定メテ 21 ヲ ソ モ、 辨 足等 ウナ 注 ナ E I 1 或 1 1 頭 云 ヲ 3 IV 油 文 成 中 3 ヨク人ヲシリテ 者 難 V ノ人ニ = 1. 13 斷 1 功 = 7 ラ 1 氣 通 = 7 牛 ナ 行 X 7 ザ _ 1) ヲ 3 1 t 17 ハン 視 ヲ 奪 ウ 12 >1 骨 丰 人 ツケテ -テ 知 、大數金何 アラ 大工ヲ 7 ナ >1 3 出 才 リテ V F 7 リ、ス v 集 來 V w ス --v テ、 撮當 ズ、 故 1. 木 文 委任 委任スル故ナリ、孔 其身自ラ見 7 V 撰 110 ケ Æ キト 黜 F° 今時 最安 年久シ 企 存 E" ス 7 陟 百 3/ 王 テ 力 分 w ツ 家 -給 兩 ス 1 w 丰 ŀ ス セ 1 來 w ホ フ 7 所 作 丰 牛 丰 7 7 才 3 廻 1. ---= V 下手 後 謂 ١٠ ١ 料 1 牛 b 投 IJ 削 1 1 -家 ハ有 テ ナ ナ 王 出 リテ ワタシ 21 後 注 リ、 ヲ出 老 其大權 1 我一人ニテ惣職人人足 V 人君 文 汉 = 夫子ノ先聖大舜ヲ稱 ド 任 1, ラ n 注 テ 7 サレ タ モ V テ、 成 ノ職 101 7 叉 モ 八我二 文三 1 ズ、殊ニ分外ノ褒美 功 月 久 若 ~ !!! 21 ズ、隱居老婆ノ如 ソ 7 ナ 1 ホ シ 出 い無ニナリテ、 合フト 1 V 極 1. v テ 巨*、宝宝 身 握リテ人形 亦 頭 致 家 1111 _ 汉 次 ソ 徒 ナ テ 1 第 ラ造 100 合 ノ身 リ 成 廣 人形 = 1 > 就 狹 委 シモ 云 ザ)V 3/ ノ差別 ___ 間 ス 人二 任 力 ノ如 フ _ = w タマ ~ 取 1 クシ ヒテ、恭」己而 ソ E ス ٥, ŀ E 牛 1 1,0 ノ身 ナ テ 7 1 w セ 注 ラ 1 ナ ŀ E テ身ヲ終 ラ 仕 **ر**ر >1 ズ 文、 申 ١٠ テ ソ 己 行 IJ 揚 1 __ ヌ 渡 今時 V 土臺 テ 逸 ノ人ヲ 人 思 モ ノ善 コ 丰 樂 大抵 ٤ 7 = 7 テ、 7 正南2 ナッ、 立 所 柱 テ 生 w 汉 ŀ 撰 者 長 謂 ラ ス 殺 __ 3 ス 1 ユ 面而なれ 家老 與奪 行 大 成 ジ、 F. iv IJ 牛 又 E 小 難 テ 法 大 P 7 7 ŀ ŀ

經

+ 力 ズ ŀ 24 ア 1. 21 n ッ、 叉 毛 = 其 21 ソ サ 器 人 1 V ヲ V -(0 用 P 1111 17 3 IV 1 ラ 7 V 役 ザ = b 人 第 1V 1 3 = 人 IJ __^ 相 7 テ 1 應 用 大 3 1 事 w E 人 テ F ---ヲ テ、 丰 用 治 1 E 1 久 w 1 ラ 力 1 =2 v F ナ ^ 1 ダ 賢 1 w n 賢 德 ナ 1) 故 明 ラ P ---1 iv 又 君 ソ モ 君 = 1 1 __ 或 ナ テ テ y. ヲ 毛 モ 全 7 ソ フ 衞 V _ セ v 1 人 ラ 靈 1. 公 1 V 手 1 1% 21 役 w 無 -道 テ 人 1 治 孔 3 1 君 ナ 聖 2 不 = IV 1 相 1 テ 7 雁 E 才 1 7 ナ E 1 ナ w シ セ ラ 7

事 人 士 人 -ナ、 ソ 1 攻 斯 1 才 後 25 1 3 頭 足 智 世 或 ナ 1 15 1 Z 驷 リ 邨 牛 7 T 定 1 1 -下 人 大 1) ---1 w 打 テ T 將 者 君 E 0 = 3 次 2 人 其 13 ヲ E 臣 1 チ 力 才 撰 肝 萬 鐵 テ 身 廣 F 難 ス 長 前 人 确 7 + F. 智 -+ w 勞 大 或 テ 委 1 -30 r 1 1 將 7 頭 久 ス 中 1V 任 7 丰 ル 者 數 ナ 7 w V E 3/ 21 簱 者 8 1." IV P ヲ ヲ テ 推 身ヲ 云 士 奉 E 任 其 7 丰 111 3 卒 行 撰 人 用 才 フ w テ 勞セ 物 民 目 器 毛 E" ス = 3 大 長 テ 1 1 1 w 7 ラ ズ 7 將 柄 多 充 任 b 7 7 w 3 V. 分 __ 奉 用 1 F ク 10 テ 人 テ 行 力 7 ス -21 -7 功 自 T 漏 1 13 ズ 3 1 7 手 小 力 17 丰 ラ ラ 汉 V ナ ナ 其 力 荷 # ラ Taken I 7 1 ズ 3 至 9 才 ,7 駄 1-IV 力 21 奉 能 行 T ナ ラ 7 E コ 3 1 7 7 行 1) 又 ウ V 7 Z 用 ナ 10 w 1 7 = 大 IV " 故 如 體 力 1 命 1% E 7 # 多 令 テ 1 3/ 1 ヲ 0 何 物 7 國 ヲ n 3 ^ セ 並 Э 中 論 3 頭 110 1 ラ V 1 小 待 人 1 #" 王 _ 1 ズ 事 ナ 奉 君 4 セ w 3 3 ナ 3 11 行 1) 17 111 7 1 惣大 其 畫 等 以 1) 皆 1 漢 下 器 自 ソ 10 夜 農 將 身 -V 力 何 1 休 高 (. I 差 T ナ 木 又 息 商 加 久 四己 リ、 1, 毛 セ 賈 3 7 n 1 3 ズ 才 將 玉 人 頭 ソ ナ 1 E . 類 [14] 多 7 T = 1 リ 將 下 見 y 力 智 V テ、 臣 出 デ 久 ソ 八 ナ 1 役 方 w w F 3/

仰 ジ 或 1-ア ナ 少 7 7 ソ w ス 28 汉 シ 見 テ 經 ガ 7 1 ~ ツ ~ ケ 111 1 ク w 3 衰 用 テ 成 始 T 畏 丰 力 V テ E テ 7 ソ 多 權 テ 1. ~ 人情 功 ナ フ 升 E w _ 1 1 屯 王 ク 1 -7 > IJ 1 進 E 1 才 實 法 前 ナ 7 フ 1 P = ナ モ ス 7 人 大 人 力 逆 ソ n 1 ラ 1 F w 丰 用 永 民 君 6 凡 セ フ 21 = 1 モ = = 3 E ヲ 申 久 テ 人 術 1 テ IJ, = 2 ŀ 玉 君 r 如 1/2 1 始 Z 役 ク ナ b 17 -フ 法 終 舊 英 IJ 牛 7 ク 3/ 國 人 w ١٠ E ŀ 人 明 = 1 力 ナ E Y 丰 = 中 F w 丰 情 7 事 情 騷 岡川 サ 丰 r フ = 7 E 1 21 ヲ 1) テ +" 幽 ラ = -V 者 ナ E ŀ = 衆 難 人 逆 逆 怪 110 ヲ 1. = ズ 1 ۱ر 1 人 ク、 情 ナ ソ 3/ 高 フ フ L 3/ 心 云 1 モ 佃 事 ツ 位 テ 1 服 リ、 フ 7 _ b サ 或 器 逝 其 F T ケ -V 21 セ IJ ホ IJ 叉 引 至 法 1 21 E フ ___ デ ソ ズ ナ 1. 人 立 テ T 1-左 ラ P 1 7 毛 3/ 3/ 怨 人 概 容 ス = 11, 1 ダ ナ V テ、 w = ~~ 179 17" 易 1. 110 w IV デ F テ 3/ w 1 = 人 7 類 怨 遽 ナ モ ソ T 力 ナ 丰 = ク サ ラ ラ 7 多 叉左 IJ 17 1 1 ۱ر 3 -V 暫 器 7 輕 多 4 ズ 工 V 高 _ ソ F ヌ ラ 7 ネ 時 V モ 位 丰 3/ = E T E ラ 此 人 足 デ - 7 T ス E" 何 11 1 2 = 1 所 テ 7 後 V 君 輕 ナ 汉 ソ ~ シ = 1 ナ サ 權 何 モ 方 7 力 w 1 7 ボ 1 H y, 位 H ラ V 1 心 IJ 1 ヲ 1 E リ ŀ V 前 家 ザ ヲ テ ソ 力 P 1. 丰 ス 3 H 毛 授 山 或 老 10 1) 1 7 = w E w 終 大 火然 才 見 ケ 人 出 ソ E 3 >> 7 コ \exists = 害 德 IJ 1 君 1 依 デ デ 1 V 又 1 ٠, 良 ナ + 人 牛 _ 怙 ソ = ナ ١٠ 1 = 害 法 y, ١٠ 7 り、 人 7 感 テ 依 取 ソ 1 1 P F テ 沙 形 怙 立 段 P 服 P 力 1 ナ w 人 p E 汰 鼠 デ 3/ ゲ 3/ w 4 ス 1 n ~ ウ 自 如 テ 用 力 ~ 屓 ŀ _ 用 _ = 事 牛 然 升 1 テ 17 w w 3 V 3 _ 七 ヲ 力 害 何 £ IJ F. 所 -或 力 進 ŀ IJ 毛 或 家 サ 7 丰 テ 毛 1 テ モ 1 1 1 子 3/ 家 人 工 T 見 明 才 ۱ر ŀ セ 21 = ヲ ラ 才 夫 w 1 月 斷 衆 德 7 ス ラ 3 V ズ 日 3 T ヲ 7 + 1) 日 1 ヲ 人 ズ モ 工

器 多 ウ 籠 樣 Ŀ r n 榮 V 牛 3 3/ 難 云 量 ガ ナ ŀ 力 ナ 耀 = 1 7 ŀ 7 テ 丰 E サ n テ 110 ~, 1 1 七 w ヲ 才 3 7 21 1 ナ 用 心 モ IJ 力 テ E 3 ソ 事 德 大 牛 鎗 下 1 丰 n 1) r " 學 或 プジ 1 F ナ 多 者 長 IJ 7 身 1 = ス 3 ク 問 3/ 12 h 抦 テ ~ ウ IJ 3 3 1 IV 在 E テ ヲ 1 汉 テ 叉 云 1 ナ 力 役 1 セ 117 ^ ダ E ラ 10 ガ 4 111 7 1 ۱۱ ザ ソ 1 丰 Æ 7 我 内 久 ズ = ソ フ 出 其 V = V 1 中 叉 テ 七 = h 1 w テ 1111 身 家 3 1 テ 畢 役 ^ 7 申 . 敗 多 = 艱 IJ 器 y 竟按" E ツ 目 實 德 汉 渡 F 難 V 1 力 量 P ラ 仕 ナ 擇 -10 ス -7 7 ラ ゲ r 山岩 ソ Ł 精 或 損 貴 承 1 1. ズ、 ^ F. n 用 子》 力 家 1 IJ 魂 3 17 出 30 E 汉 E E 膓 10 王 ヲ 7 ナ 11/10 1 ナ 士 n 小 ス 1 テ 同 2 7 人 久 1. 21 v カ ヲ = ~ 或 ソ E 青菜賣 者 樣 × 1 IV ラ 重 丰 210 1 1 -21 V ナ 11 ヲ = 人 至 1 7 2 ナ ナ 1. 叉 身 IV 心 汉 F = 3 ナ リテ ズ 力 1 モ 1 モ テ ナ 10 牛 ヲ ナ IV 細 先 3/ 百 ス r 取 丰 IJ ス ク ナ 民 1 役 ノ智 自 ~ IJ テ 3 次 テ F. 殊 + 3 1 身 = , ク、 テ IJ 家 首 云 疾 1 指 -慧 r -叉 役 下 尾 1 苦 家 ヲ 7 7 y = ツ 内 ソ 7 E 7 知 ス 3 折 1 柄 7 " テ 1 緣 1 牛 役 ク ス ス テ 1 間 モ 1 w 7 X 智 人 ナ 尚 叉 IV ツ 人 w 1 3 ホ 者 = IV 慧ナ 7 1. 以 ラ F 何 1 1 7 王 F° 合 Æ 7 目 P 7 云 益 1 x ズ 3/ V V ス 3 ŀ 利 牛 IV ガ フ ヲ ヲ ラ -E デ ルユ ナ 1 = E ス 手 ナ 世 7 毛 フ ズ 世 モ < テ F 1 ~ デ 禄 E r n セ E へ、白 ナ 1 ヲ 1 牛 1 = p ~3 テ 故 1 1 シ 凡 判 引 . 眼 工 1 テ ブ 牛 家 9 _ T 庸 7 人 V 用 力 110 人 2 ワ サ = ソ IJ ---晶 ス ノ目 町 形 故 n モ 人 ŀ ガ 1 サ 生 2 劣 工 人 器 ナ 身 1 ナ 7 = ヲ 7 V 1111 1 n 3 = -ケ 1. 企 家 多 ス 量 富 7 輩 r 21 E 云 貴 V I ン w 7 ナ E + 7 劣 申 叉 存 110 類 ヲ 1 全 中 丰 オ -テ " ソ 渡 V 7 7 念 = フ 毛 ボ ホ ---い 馬 n 1 ŀ ウ 3/ モ 1 ^ ۱ر セ 1 = モ 駕 身 2 P IJ ス チ 同 ナ 得 = 1) 1 ズ 21

ラ ズ、 214 馬 人 ズ 前 自 君 圧 書 身 及 1 I. 醫 所 w. 人 者 作 1 T. Taraba Taraba 7 モ 技 拙 T モ 数 ラ 3/ 大 槪 ラ ズ 1 末 形 ケ = 心 1 テ V デ 3/ 7 3 盡 モ ラ 丰 大 w 3/ 3/ 將 テ ラ 8 吟 ++" 1 -味 ナ 同 V ラ 110 ス 30 w IV = 人 115 F 1 道 7 >1 ---. 理 I テ 世 ラ ナ F. 3/ ソ 1 醫 1 テ V 0 用 4 者 w 7 1 1: 1 = = 試 手 不 1 審 11 b 毛 F 尤 ナ 及 手 至 1) x 極 難 ス F 時 明 1 7 1 ナ ウ 軍 何 n ナ 法 ~ 事 ク、 V = 毛 3 ソ 压 自 K 1 左 大 身 1 格 畫 ^ -T テ 27 1 ナ 3/ ラ 毛

ラ w 1 = 1 ナ ŋ

0 家 柄 身 分 = 拘 21 ラ ズ 人 ヲ 又 丰 To ゲ 用 w = 人 情 -逆 21 ザ w 法。

ズ、 擢 或 尹 ガ 俗 1 ス 周 故 圧 フ 大 デ 人 ^ 7 小 問 公 圧 1 -テ 1 名 高 人 容 テ 1 7 或 如 日 易 位 立 1 H 1 家 + 人 1 丰 V = 7 民 古 大 ラ 用 7 圧 1 V 書 情 才 7 ズ E 命 = 术 督 家 怪 セ ラ 大 = ズ 德 老 y, 或 逆 明 w w 7 フ T 植 1 1 1 ズ 21 必 故 君 事 ガ 1) 前 1 代 怨 故 形 古 ノ人 7 ~ ---惠 敗 = 3 3 圧 3 4 ヲ 或 ゲ ij 1 7 ソ 1) 家 用 禍 11 大 テ 1 3 >1 業 ソ 定 柄 E 7 ---w -玉 行 陷 木 或 例 7 1 -The state of 成 フ テ IV E 3 1 1 功 F + 就 ١٠ ナ 7 = 世才 IV V 3 牛 1 ヲ = -類 V V. 處 7 テ 7 ナ ク 名 3 1, w 3 命 -^ 3/ 拘 7 ジ -P = 2 3/ 後 4 IJ サ ウ >1 w 故 番 世 ラ 穩 ラ 7 7 (ズ F -頭 V = 毛 3 デ F 3 能 1 3 門二 如 士 テ 家 _ 1 ソ 1 地力 ズ、 傳 成 及 柄 サ 3/ 牛 7 E E IJ ^ 1) -1 農商 論 テ 强 亦 次 to 3 1 セ ス 1) 1) 衆 E 家 IJ 禄 ズ テ P テ 2 人 1 徒 -- 3 命 7 3/ y 1 specific Specific 力 汉 テ 心 2 ズ V _ 3 至 7 1) w 10 力 w 7 テ、 時 其 服 _ ソ 12 又 IJ テ 7 1 才 ス 丰 __ 21 才 其 所 ガ T ソ 7 IV > 7 相 邦 謂家 デ 德 7 1 1 用 應 今 X ~ 1 13 -從 能 世 愚 F 柄 T w -フ ラ b e 3/ 劣 1 21

伊

1

1

17

111-

淡

卷

之

21

及

風

テ

幣 7 跡 ズ 21 ŋ テ + ナ 年 役 メ 1% 21 = . 73 n T 算 ヲ 教 テ _ E リ、 n 7 人 者 此 精 ラ 1 ラ 勘 年 7 7 3 = w ^ サ 事 文 T w 者 喻 ズ 7 ツ ヲ v 1 コ V y 大 入 1 1 カ 6 ヲ 3 21 1 ケ 210 īi テ 將 涯 用 丰 ナ 年 4 7 7 v 25 人 ジ E 槍 1 V E 1 IV 1. サ 殺 ナ 牛 E 君 役 軍 人 與 類 = 劒 向 過 ラ 3/ セ テ 7 21 目 君 1. 法 テ 奪 P 郁 + ガ +" ヌ 1 ソ ナ 肝 3 _ = 1 モ 1 テ E 7 毛 Z 1 叉 テ V テ ス 用 要 3 ス 3 7 カ 1 カブ 身 ١١ NA 1 丰 ク ~ 不 IJ ナ E 1 フ 諸 無 惡筆 大 y, 軍 ^ ŀ ツ テ 得 事 3/ テ 藝 筆 事 略 用 3/ 力 手 2111 w 1 = 1 -= -テ、 ___ IJ ~ 役 ナ 故 1 立 E -テ 1 テ 力 手 馬可 王 馬 n 3/ 人 ラ " = ^ 21 七 1 組 前 フ 7 ガ ・ヲ ソ 叉 110 1 人 Æ 祁 3) 1: 惣 役 人 1 1 E 3 3/ 1 17 自 筆 1 P 卒 所 替 君 丰 ク 3 3 r 向 F 能 ラ フ -作 引 ゲ 1 ク テ = ヲ 1 4 E 其 能 書 1 力 才 申 = 1 1 = 7 7 E -術 書 モ 牛 丁 テ IJ ワ 付 見 得 110 = 1 W name Name and 3/ 1 =7 引 兵 弓 P 云 1 屆 手 ウ ケ 者 達 V 1 卒 ラ 鐵 7 テ 不 ケ、 E 77 及 ノ馬 七 難 ヲ擇 1 自 1 ズ 他 届 1 w 4 外 ク、 職 吟 才 由 1 ナ モ 力 ソ r ガ V F. 1 7 ス 分 IJ +" ラ 器 病 K 3 v 味 皆 110 . 1 IV ナ = 7 ラ ソ (" 氣 111 7 2 其 ソ 中 末 吟 7 答 V V 1 ズ 1 テ ナ 人 V 基 身 7 r 世 2111 イ 味 IJ 12 = × (-墨 ラ 戒 庄、 木 右 算 7 ヲ 1 21 シ 3 ウ 職 ネ 美 人 < 31 竟 法 メ、 テ -久 1 チ 目 ラ 7 1 圧 君 類 ラ 役 自 -目 T 或 # iv 多 得 p 1 3/ 7 力 義 ラ 利 力 里 7 手 V ~ 3/ ヲ 7 テ 别 ス 1 7 モ セ 竟 人 申 110 3 牛 モ 1 P 久 當 3/ w ナ テ 本 7 心 ソ 4 ガ ^ 力 100 n 付 1 IJ ザ IJ -P 1 得 ラ 時 1 丰 ケ カ 力 或 本 器 坊 n ナ チ ズ 人 力 ワ 1 ヌ 1 大 人 y 分 其 ガ 量 产 君 1 又 1 IJ 五 n 妙 = ナ 勘 第 ゲ 1 E IV -ナ ヲ 月 手 重 人 役 1 w 定 ナ _ ---7 7 IJ 見 -論 君 僻 テ F 丰 方 1 1) 1 3/ 月、 出 サ 云 職 職 テ 7 1 1 = ナ ス " V 難 来 E ナ 手 分 廐 3/ E 1, 丰 1

出 勝 今 勢 目 H 家 本 ナ E w ツ ヲ 中 サ 同 = _ = V ŀ 毛 1 118 7 30 1 3 能 義 F ---3/ = 天 權 日 F 理 3/ ۱ر -H-° 子 柄 ナ w = 3/ ラ ~ V 25 ヲ IJ = V. 取 又 + E 110 -叉 者 ナ 力 IJ 諸 終 戾 ソ IJ ^ 21 侯 IJ サ -1 難 中 主 = 1 1 權 モ 丰 1 ---1 9 カ 臣 ス 1 7 歷 7 7 -F V ナ 7 ナ 圧 k Ti 1 + 1) ソ 1. w ヲ 染 タ 力 汉 ^ ラ 强 人 IV 文 -後 3/ V テ 1 1 君 情 テ テ 多 1,000 再 至 威 モ 丰 = 1) F. ヲ 1 = テ 動 1 汉 力 ソ X 1 = 7 テ = 變 役 テ、 君 1 = 何 X F P 30 難 事 ン E ス 1 首 ク、 -毛 1 v 自· 尾 ラ 210 ユ ++" . 殊 由 ヲ ^ 君 ナ 大 IV 7 _ 論 臣 年 ラ 切 P 月 ウ 相 ザ = ズ 7 ス -爭 w V 經 ナ w 110 1 -テ 心 ili 七 w \exists 自 1) F = ヲ -然 人 生 テ、 ナ ŀ 君 ジ b w 事 唐 ナ テ 1 1 身 ソ 1) 3 = 古 來 Æ メ 3 V 3) デ モ n 毛

0 人 君 大 權 ヲ 握 y テ 細 務 7 77 " 力 ラ ス V 30 丰 7 ŀ ヲ 論 ズ

樣 親 テ + 下 自 奥 身 人 P ソ 1 = 方 職 君 IJ F _ 1 納 大 分 立 權 _ 入 家 抵 テ ヲ 柄 戶 勝 督 y ヲ ツ ヲ 何 テ 握 手 ノ子 1 ŀ 久 臺 撮 21 L y IV 所 7 當 テ w 10 才 人 藏 ŋ 大 1 ス 發 方等 進 云 w -1 奪 上 小 E ۱ر 人 下 細 進 1 21 3 = 務 IJ ナ w 1 -テ 家 文 15 3 ヲ V Æ 证 中 リテ 110 3 ジ 君 諸 并 " 丰 人 大 製 不 百 力 7 = 姓 同 ラ 1 1 上下 1 仕 町 1 ス 21 手 N 人 前 T IV 1 = 公 寺 w 1 條 體 工 云 事 社 ~3 upon Uponsilis 丰 7 論 訴 山 テ ケ 失 F 認 伏 必 V ズ フ 10 1 其 圧 P 12 17 = サ 外 如 w 公 1 1 種 7 110 V 邊 牛 故 丰 ナ 4 3 1 P ナ ソ 丰 1 V 勤 y, ウ 1 P = 圧 ナ 7 外 サ -ツ 1 IJ 3/ 種 力 テ ナ サ 朋 姑 k E ス リ V r 輩 ~ 11 7 17 今 IJ 親 テ b = \rightrightarrows 族 待 或 テ 1 テ V 鄙 家 7 1 1 人 デ 其 交 大 君 細 ノ 向 P 名 = 1 1 小 位 ソ 4 7 ナ ŀ 事 1. = V 21 21 近 隱 云 手 居 (V 習 居 者 デ ٤ テ 臣 外 Æ T

經

世

談

卷

之

首 權 第 申 ズ -1 ナ ナ ナ 增 丰 1 事 尾 柄 1 出 力 リ、 n 權 流 , ヲ 12 叉 ワ 3 才 w セ ナ 申 罪 21 = 柄 = + 通 不 ン モ ١٩ テ ス ガ リ、 7 ス 付 = 1 者 案 __ 心 1 フ 7 ~ ワ ~ 度 21 ス 役 故 通 E 丰 ソ 內 テ 權 テ ~ 1 ガ 柄 人 IJ 權 右 1 V 柄 手 牛 1 力 7 = 其 事 -ソ 1 次 3 柄 1 7 七 1 __ 1 V 役 歸 1 聽 テ 失 握 如 IV 1 7 = = 17 E 役 岭 人 人 失 3 木 -1 1 フ IJ 7 21 人 1 テ 人 入 テ 閉 テ 3 味 4 -フ 10 111 君 氣 ウ ナ 1) = 7 7 ヲ 殺 門 力 21 1 1 主 = 1. 13 テ ク チ 人 1 ナ 次 V 與 7 手 人 1 君 申 云 n ス ۱ر 丰 奪、 V 1 2/2 1 ----ラ 者 迄 1 7 力 P 付 3/ 汉 E •= ズ テ 木 首 黜 ク フ モ = ス セ w = ン 度 裁 110 ナ 尾 テ _ 聞 人 E フ ----陟 柄 1 斷 終 T 丰 届 叉 7 或 云 ス 進 ^ T ヲ ス _ 3/ t Z w 21 安 テ 退、 人 1) モ 1 IV 丰 ウ 大 柔 多 21 逸 = =1 汉 = = 何 者 槪 見 弱 部 = 1 F + 1 丰 何 モ b カ E F = 3 ツ 事 屋 1 毛 = 1 人 汉 ナ 事 = IJ ナ セ 3/ 思 モ = 1 4 住 V リ、 事 ソ ツ y ザ テ 聞 テ 24 フ フ モ ワ ナ テ 皆 1 7 頭 テ 上下 3 w 3 ツ ガ V 21 柄 役 役 セ U y 手 E ヲ 1 モ 110 7 ッ、 F テ 人 年 人 テ、 ^ フ ク 存 或 1 = ガ 追 21 1 テ 月 ナ w チ 家 手 テ 分 毛 刀 首 生 E 7 P. 面 自 = ヲ 1 = _ = 脇 黜 尾 殺 ワ 皆 ~ 1 ŀ 倒 ナ テ 3/ = 由 差 黜 ケ ガ テ IJ 3 Æ ヲ 丰 F ワ ラ 牛 -1 ラ 存 陟 4 後 21 ナ 牛 ナ 1 21 ガ ズ n 7 12 分 ラ ラ 力 思 21 1 ワ 心 w 1 7 力 8 110 何 ラ 重 ズ = E フ V 7 云 1 F 小 7 骨 E 1 E E 丰 テ 4 權 1 21 刀 ウ 牛 1) 此 テ 折 = ス モ 人 *: 柄 柄 力 疱 方 -F 丰 ナ 1 ヲ ヲ 13 = = 7 1 ナ 力 人 ヲ 厭 力 引 = 1 握 3 テ 7 1 1 ラ n 7 IJ 君 役 及 ズ、 E フ ナ V IV ガ 工 ワ 人 ^ 1 1 力 ラ ワ 手 10 1 3 皆 F リ、 耳 T 10 ナ 云 又 ヌ シ = = 3) 云 役 テ 叉 F 仕 _ ナ = ス E V 3/ 類 終 ガ 人 E = 1 事 21 リ、 久 n = ナ 入 = t ナ ウ 或 多 ナ = 又 y, > 次 1. 21 v チ 家 + v 故 加 ŀ =

亦 有 申 加 ラ 10 ナ 1 E 3/ 畢 ラ 付 = ザ 丰 得 ^ ボ 次 竟 w IV F v 73 w IJ IV 臣 事 7 p 人 1 110 セ F p 君 ウ 1 ナ IJ Ŧ w 1 ウ 云 役 云 概 1 1. 7 フ - sem - seminar __ 罪 意 ~ 人 モ P 王 -3/ ス 下 ナ 7 IJ 7 丰 20 ---IV テ、 リ、 深 テ Ŀ ナ ケ 類 V 7 w リ、 ク ナ 毛 1 2 主人 捐 サ 恶 ۱ر リ ゴ 7. 失 サ 云 1 V V 7 テ 4 = 110 1 ___ w H 3/ K 物 損 通 條 ス 右 1 丰 テ ~ 110 失 1) 7 1 1. 7 >1 7 ズ、 テ T 7 云 又 ス 1 +" 1-1 ゲ モ 義 = ~3 ス 取 7 テ 其 7 テ 1 = 2 = 賞 IV 役 1 テ、 1 1 ١٠ 7 P 役 ス 論 難 定 7 ---ウ K 人 12 ナ 義 ツ 3 _ 誠 V 3 _ 1 難 牛 7 3 w ナ 12 -ク テ テ、 心 大 1. 刑 1) 仁 ケ ラ E テ 罰 得 聖 悪 -V 亦 ~ 折 役 IV 力 1.0 7 -1 テ 右 申 人 p ___ 有 7 1 モ ۱ر 1 付 ウ フ 1. 難 w w 7 汉 v E = ス = w + E 毛 或 内 1 1 3 何 思 1 7 1 >1 V 召 云 __ ^ L >1 物 7 7 E ケ 小 王 210 ナ 7 7 ナ " 右 11 同 w 3/ 1 w デ 又 小 ジ 1 (" 1 E ~ 君 ス >1 用 3/ 7 云 シ、 民 役 Z ナ 捨 " モ モ p ク、 人 ---3 ナ 1 與三 體 7 ウ 1 ス F. ۱ر 私 嚴 出 下 其 心 ~ 1 ナ 欲 テ ヲ 有 重 7 3/ = w 用 押 テ E 難 役 = 1 ---岭 領 7 義 人 E 7 斂之臣 丁 味 ナ F 17 テ ヲ >1 用 蓝 7 堪 1. 何 力 7 云 捨 H 忍 1 1. ---5 瘟 ゲ 限 7 類 云 7 テ 毛

0 人 君 Ħ ラ 權 柄 7 握 3 テ 人 -奪 >1 V V 3 丰 心 得 7 論 ズ。

7 E 人 人 1) 君 秤 = 自 1% 1 類 曲 w 人 ナ セ リ、 ラ 1 自 v ス テ ラ べ 1 權 テ 7 柄 物 1 7 身 1 握 目 1 w 藁 ti 1 人 1111 >1 云 形 增 7 7 毛 V 1 ~ >1 日 大 Fi. 然 切 貫 _ 1 目 7 義 T 10 E ナ 石 王 >> リ、 = 加 w 貫 增 1 權 者 目 ス 柄 13 10 ナ ヲ 丰 リ、 毛 失 P >1 權 フ 力 E 時 F 1) = >1 >1 -名 輕 v 力 1 21 重 ケ 死 7 3 テ 罪 殿 >1 裁 樣 カ -圳 w ス 1 ス 道 N. H n 具 丰 1811 ナ F V -リ テ テ E 今 何 家 1 毛 7 チ 力 V

=

1.

E

ソ

1

如

7

-

テ

コ

"

百

石

ス

丰

1

E

ATC.

世:

酸

卷

2

居 ナ ウ w 考 近 邦 3/ -1 7 12 書 ッ 意 意 人 汉 30 7 テ フ = -1 國 深 ラ 考 ナ 7 1) 1 ヲ V T T K E 感 テ 园. ナ 7 110 叉 w 汉 次 n 7 E -得 此 左 ラ 1 ス モ 1) 13 w 3 x 23 1 思 サ 1. ワ T セ __ 1 ク Y 218 1 丰 太 端 ラ 召 統 デ 云 ザ 七 ケ 3/ モ p P 平 精 甚 1 7 ラ 何 或 21 v = V 1 ズ サ 1 有 人 微 心 1. 111 E 110 I ズ 3/ 1 世 2 民 難 P 政 7 武 力 汉 モ 1 b 汉 10 = 皆 奥 事 留 運 P ラ 1) ケ IV E 1 此 r E サ 事 義 ラ サ V 1 上 义 長 明 E 叉 1) E 甚 左 F" テ 久 IV ナ 7 1 V 1 言 テ = 有 深 H 威 w E = 大 3 7 1 To ス um V 守 存 デ 難 ナ 1 111 7 1 ク = h 至 ラ モ 意 リ、 テ 1 牛 ク 1) 3/ 21 3/ n -E IJ 如 外 思 1 7 ラ イ 毛 ~ 1 7 テ 百 此 以 今 至 サ 力 シ、 -8 E V ズ 姓 21 ナ 1 ソ ヲ テ 幸 力 テ -10 ラ 聖 リ、 7 ----人 政 渦 +1 r 1 3/ 久 = ズ 賢 7 揆 1 御 戴 君 10 無 7 事 +" w IV モ V 復 1 ---趣 汉 世 ~ 事 憚 毛 = 力 -3 3/ 出 才 T 下 意 及 1 = w w 1 丰 1 T w デ ラ = 人 世 人 祈 P b 1. ラ 所 7 . 21 术 玉 ++" IV 泣 及 ナ 右 3/ 君 危 1) ナ 稿 丰 E 7 3 力 1 テ 玉 ア V 1 久 7 V 風 1 b 1) 110 7 趣 又 F T 3 立 七 w 110 21 V E 或 胸 テ ラ 何 1 t モ 7 10 人 ユ 時 1/2 決 替 __ 云 所 永 ジ P U 3 4 N J° = 3/ 針 1 中 1 謂 民 牛 7 1 P ラ ク = P 仰 テ 立 繁 F 間 E 心 中 7 才 1 ŀ モ 1 非 7 w 類 為 得 ラ ナ 昌 4 = E 7 10 -崇 1 p 世 = 汉 玉 ズ ^ -ソ ク 3/ = セ ウ IV 君 多 替 = ウ ツ フ 1 リ、 3 汉 V ラ 毛 -3 諸 時 " ヲ 丰 w 1 ユ モ V E 予 17 役 立 隱 及 1) 21 ~ ___ V ジ 10 家 自 予 T 力 Y 10 不 IV 1.0 居 × 1 力 六 年 n 然 願 肖 1 E 1 モ 中 3/ 毛 1 又 輩 意 读 云 = 7 y 何 w = 1 願 1 人 下 説 カ 具 1 コ 3 力 110 1-フ 服 E v モ ナ 民 世 13, 眼 難 1 7 ラ 牛 ナ 1 1 T リ、 君 T ザ 7 時 = 1 3 1 E IV w IV 民 者 E w 人 IJ 力 3 何 ~ 者 聖 E 上 取 \exists 10 君 ナ 1) ----3 3 V シ 體 賢 隱 汉 1) 7 -IV 7

論 行 デ 配 月 義 7 テ 3/ 1 n 工 3 7 然 世 廣 理 x ŀ ヲ H ۱ر V 1 E ス ^ 1 尋 什 哀 テ 1 ナ 增 7 サ 知 君 ユ 難 ラ 云 繁紫 リ 過 常 中 モ ラ 民 不 公 3/ ---^ 3/ 義 テ E 不 叉 ギ 1 足 = ヌ 1 __ 1 ナ 體 徹 云 サ 1 テ 人 3/ r 1 E 足 ス 7 リ、 廣 義 及 風 1 法 3/ 3/ 1) 1 ナ w V 21 w 1. 狹 サ 故 III テ ナ 力 3/ 13 w 7 7 用 難 或 汉 E ク ヲ モ ソ E ユ リ ^ V 下 經 今 T 如 フ 1) 丰 義 3/ X ^ 哀 有 テ 思 IJ 此 テ サ 3 3 -ス 3/ 1 V 公 廣 F 若 P フ F ラ t 木 1 210 w IV ノ本 1. 理 自 ウ 時 7 ヲ 7 1 ソ ク 4 對 吾 然 ソ 汉 " 益 不 1 1 ス = 1 11 意 ナ 迁 E V 3/ x w = ス ス 足 _ = 猶 P 崩 遠 百 不 力 時 テ E 1 w リ、 ガ ナ 7 21 必 時 ナ 喻 即 姓 徹 5 21 V 1 足 7 下 酒 么 テ 足 w 久 = ١٠ E -1 V 如 V 池 F F 法 テ 配 何 7 111 君 21 1 K IJ 1 驰 什 肉 T >1 工 1 ヲ ^ 1 益 E 不 -林 廣 ラ 人 損 與 何 1V 110 モ 不 _ 足 ガ 相 士 沙 立 1 ジ K 牛 サ ス 不 其 _ ___ 3 違 榮 手 徹 1 1 テ 汰 干 V ヲ 水 ナ 足 3/ 3/ 華 信 1. 狹 上 211 也 7 w フ 1 1 力 汉 百 築 用 御 上 = 速 ク _ カ w 1 1 IV 姓 w 益 ホ ウ ナ 云 = 丰 +" 云 ----= = = 不 I 崩 立 I ス 立 道 人 w ス IJ 1 ^ 古 ŀ y 力 足 故 玉 w w 1 IV 1 理 1 = 今 w 當 空 君 ナ 3 17 フ 3 1 -ヲ テ 和 孕 御 孰 ~ = 力 华 F 不 テ リ 3/ 漢 婦 其 3/ 足 與 F 21 1 1 1. ラ -1 1 實 高 Ŀ 人 猶 ナ 足 1 配 セ コ E セ 歷 腹 凡 意 3/ サ ラ ŀ 1 7 云 汉 1 K V 史 7 1 益 3 不 7 ヲ V ~ w w 1 ^ ヲ 剔 成 滿 下 デ デ 3 7 P ラ 丰 ナ 1 足 3 ラ 败 什 丰 道 足 ウ ス V E 3 木 リ、 4 3 テ -11-低 誰 ナ テ 1, 理 IV ガ 1 3/ 1 視 下 鑑 サ ナ 者 7 E ナ w K V 汉 コ IV 4 10 ナ 1 7 p モ 1. 1 V 3/ 7 1 W 什 木 ヲ ナ リ 方 ナ フ 3 E 1. 1. F フ 1-1. ナ セ 云 w ク ~ ガ w ^ モ 王 V 1 汉 ワ 增 義 丰 法 IV > 31 毛 カ 111 暴 答 ゲ 7 IJ " 道 决 7 3/ ソ P ナ = 3/ 7 下 用 ナ V ダ 力 テ V フ リ、 理 ŀ 3/ 下 w IV ラ テ w V 1 1 21 1 ナ E

ATT.

續

F

1 3 N H 7 雇 1 取 ナ 1 せゃ V NP E 力 コ セ 1 ガ フ 件 1 誠 云 -心 深 -ナ 7 il w ヲ 1 b ~ 10 君 X テ 21 爲 7 民 丰 7 = ^ 立 E n フ h ~ 云 丰 1 = b 義 ナ ヲ 1) 3 ク 3/ w r 3/ ラ ザ n

0 君 民 體 1 意 ヲ 3 ク 10 得 諸 役 人 V デ E 3 ク 曉 3/ ヲ ク ~ 丰 7 1 ヲ 論 ズ

此 有 魯 論 久 ケ テ 丰 E 毛 = 頃 岩 難 天 カ 君 v × ŀ 君 魯 110 義 = 地 デ 3/ ソ 民 21 答 百 出 或 自 ラ ス 哀 及 1 L v 人 姓 公 然 F IV 汉 リ、 + = -又 テ 杰 治 1 7 1 IV 1 1 21 1 周 十分 年 間 哀 道 執 ツ 徹 1 法 云 易 貢 ナ ナ 公 到! = 1 E y 平 -年 行 +" ノニヲ 7 w ノ問 = 1 1 下 1 增 饑 テ ナ ナ P ガ フ 云 7 ッ、 用 政 フ 3 w 君 損 21 答 事 1 テ 此 不 テ ~ 徹 民 3" 今 n 處 此 力 1 ^ 足 1 ___ テ ガ V 上 體 ラ 意 3 E 如之 體 E 1 定法 有 1) 丰 ナ ナ ズ 7 -ノ義 -割 T. 岩 1. w 3 地 益 毛 夫 者 = ヲ 何 17 7 1 3 -ス 3/ ナ 說 ツ ツ F >> 3/ = 合 無 1) 1 y T 云 千 ラ 7 テ 3 出 卦 知 ^ テ 古 7 IV ハ (0 ズ リ、又 12 7 安 r 取 年 V 1 3 ۱ر 高 損 作 格 IJ 1 柄 テ 見 ジ ナ -1 = 尚 或 3 テ P 言 不 V V 分 名 T = 1. 孰 ナ 書 家 100 ラ ノ __ " y, ソノ 不 云 -7 ---ケ ズ 意 F-作 テ P ス 1 ヲ サ 1 法 物 惟 ナ 1 丰 _ " E F 1111 V ヲカ テ リ 邦 成 F 7 力 1 權 ~ 111 木 損 ソ デ E 不 フ ソ 謀 F 出 足 ^ 本 1 ナ 7 3" 21 1 智 1] テ ナ 作 固 テ 7 V 及 丰 [H] 狮 古 納 哀 邦 F 程 w 1 毛 1 答 ナ ノ如 w 油 云 公 1 7 ヲ E 1 10 1 法 取 益 目 7 1 ^ 1 21 大 云 7 1 Ti 笛 III-云 ス 前 毛 大 意 類 名 徹 意 用 樣 1 = ^ E ナ 7 -= 掛 n 丰 ノ法 3 丰 ١٠ 1 3/ T テ 外 引 テ 次 7 IJ E ヲ -ラ 里 古 丰 配 益 聖 ウ テ = 及 _ 聖 間 腎 考 フ 3 竟 w F = セ 17 + 名 人 1 = 同 11 V 1 ラ 示 制 意 合 道 3 I " ^ 110 E V 夫 ナ 里 ナ テ E ケ 7 1 ~ ラ y, リ、 E 力 リ、 竟 汉 モ 1 v シ、 H 大 ナ 木 iv 永 ス 1.

書 分 敵 中 サ 本 明 X E -1 ズ、 1 モ 24 ナ 仇 自 Á 云 君 1 7 テ _ n = 1 1 和 汉 敵 然 汉 ナ 義 21 1 1 7 V 1 セ 1 職 撫 思 合 210 6 工 ラ 1 1) ナ 17 = 亦 1 リ、 分 木 風 E E ス 3/ 1 1. V 我 テ、 暴虐 氣 ヲ 玉 テ 3/ 1 汉 -ナ -則 思 心 ナ リ、 力 7 1 w = 1 后書 致 w 身 テ w v 3 b 1 = 10 モ 虐 0 時 ヲ P IV ナ セ 丰 Z 111 __ 21 所 七 礼 戒 7 日 ザ 致 ズ ナ フ 3/ 21 1 我 -12 テ ガ ナ 雇 ス 1 __ 3/ 有 1 則 百 家 爲 ク 汉 H 取 1 V E 7 ガ E E 讎 甚 多 7 110 本 110 T 7 及 本 1 1 3/ 1 T x 滅 テ 民 危 ソ 力 或 丰 ク = b 30 云 ノニ三 本 强 中 テ X 17 牛 = ス 邦 21 1 詞 為 中 ソ ラ ナ ズ 7 1 7 沈 ナ 21 ___ P 矢 致 君 ラ 1 7 ラ -F F. リ -IJ 理 者 立. ナ + 致 汉 E = 1 臣 セ ズ -リ、 本 ラ 2 # 1 + 7 1 窟 丸 汉 = 1 小 義 役 w N 1 E ザ E 1 v ヲ " 片 Z 3 ヲ 人 里 3/ 日 E サ 减 110 V 3 7 13, テ 1 手 亡 ナ 丰 汉 1 110 >1 1 110 y 3/ 人 矢 力 冤 F. 風 7 力 1-11 w = 1 V 义 云 君 テ 弱 ワ デ 1 7 士 nam Specialis V セ w 110 義 怨 テ 13 ガ 夕 テ 王 + V -1 人 = 7 ヲ、 折 至 テ 15 ズ w Æ ヲ 君 Z 21 1 7 ソ 人、 -虐 ナ 1 1) 助 ラ 1 毛 1 1 君 ク 折 盡 3 ソ 13 ス 7 E 3 久 7 又 1 . ク 長 IV ナ 1 tuent Spendig w 1 ス 1 w 3/ ス 夏 < 者 力 テ、 ~ 或 1 21 -= ~ リ、 V 樂 時 T 弱 1 3/ NI サ 1 1 4 容 矢 E 殷 w 3/ 左 -^ 2 7 V 2 湯 带 IJ 易 7 テ ナ 騷 F 13 ス 1. -T テ + 人 丰 1 ナ 折 ク モ 亂 モ 1 = ク 般 仕 親 敵 7 ラ 本 テ T 7 1 w = ス 約 先 大 1 事 1 11 或 1) 答 モ ガ 28 V IV 必 \equiv テ 抵 周 궲 ナ 20 ラ w 如 汉 21 2 + 1 定 幸 武 ス 1 7 1. モ w -1 3/ 1 + 跡 w テ = セ ラ 同 本 E -1 3 1 テ 1) ガ 役 1) ワ 無 或 渗 1 ス ジ E __ 本二 仇 仇 加 _ 忽 中 E w __ ガ 事 シ、 ナ 然 處 敵 サ ク、 或 安 1 敵 心 __ IJ 其 テ 穩 民 誠 V 本 木 中 1 1 --唐 全 思 1% 事 ナ ナ ソ 110 ップ P 1 1 --民 世 仇 理 N 7 w H 21 w T 1 水

人 百 民 1 外 3/ 7 テ = 5 百 义 v 2. 骨 文 逆 E 勢 F 3 國 君 多 # I 民 力 E 7 + = 異 1 臣 -1 1 之 1 錢 思 爲 w 7 = 國 自 , 别 Ŀ E 爲 時 7 仕 君 人 21 F 水" F 當 = = 徒 伙 +)-" -1 事 1 ナ 作二之 テ 民 ^ V. 1 ノ爲 1 仕 テ、 V. 道 IJ w y ナ 24 E P 次 T チ 事 テ せ 25 y E V -22 w 次 21 4 師 1 人 天 = サテ 君 馬 .010 ガ = 必 テ、 IV 久 モ v ト云 F 地 7 1 b 加 ラ ラ E ス 1." サ 自 ソ 世 1 7 = 11 1 n 1 フ 盜 E でも、 テヲ ^ 然 -1 人 テ、 牛 ハ ŀ ~ Æ 云 內 1 人 ツ 1 3 云 1 道 牛 E 7 ホ 力 下 ク = = 多 牛 ~ 7 21 21 F 1. ᅰ! IJ デ E 1 フ 民 勢 中 久 ッ 3/ 3 サ ナ 大 ナ 7 ~ > ノ爲 1 _ ラ ラ 1 1 1) y, v 勢 ナ 1 丰 72 者 モ 4 親 17 力 = 111 爲 半 P V ヲ -T ガ 故 , ナ n フ E 何 = V 1 君 ツ 1. 頭 3/ = IV IJ ナ 7 V 110 + ク 師 同 1 丰 リ、 钱 ヲ E E モ 1 ソ 111 (爲 民 27 ヲ 中 ラ 1 道 1 1 如 1 ヲ 立 = garli Sprendy IV チ フ 1 中 7 此 3 ツ 出 iv モ 1 覺 = 10 to 汉 重 1 = -w ケ ŀ 尽 長 V ヲ 7 E 重 ^ 大 2 ス = 7 云 卽 者 多 テ、 w E 1 か 將 ズ 丰 義 丰 ノ子 1 " フ 3 = 君 道 IV V P 久 長 ナ 親 テ r 思 1 な 21 = 理 リ 久 w y 者 ラ 民 1 n ^ フ = 1 1 w 毛 1 খ ナ ナ ク 1 中 1 自 博 ナ 者 子 1 3/ シ、 リ、 爲 E ^ 3 然 = リ、 奕 T 力 息 1 1 ナ テ ナ 1 y ウ 12 サ 21 p E リ、 寸 1 テ、 馬 自 3/ w チ 7 數 ウ 1 v 力 チ 1 力 然 工 -今 T 丸 叉 = 210 久 爲 10 多 n turn. モ 1 心 4 金 日 -F 頭 = = 7 勢 IV 人 7 得 日 雇 1 モ 别 ソ 古 ノ人 1 p 君 E 親 王 大 1 取 當 1 ナ モ 力 1 久 フ 名 世 3 カ 1 頭 今 ナ ヲ ル 久 4 w IJ 高 セ 7 人 = y ツ 1 モ E T ソ 人 ウ 多 永 " カ 牛 ケ ナ 唐 1 3) 1 <u>ر</u> د ケ、 ナ 力 ズ **=** 3 ヲ T w 人 モ 天 1. 自 ŀ 力 J. 7 7 E H IJ ----降 Z モ、 文二 テ 11 7 ^ 揆 3 1 本 尽 下 人 耻 + ツ 3 ŀ 20 Æ コ 1

3

汉

息

1

心イ

· y

=

テ

耻:

カ

3/

1

E

思

21

ズ、

職

男 父子 民 テ、 人 ナ ソ B 次 求 ソ 2 w 1 人 4 女 ヲ w 1 1 ヲ w 13 W 3/ L 名 1 ソ ズ、 ヲ テ 人 馬 ヲ 人 w 1 N E 丰 形 高 云 1 3/ ス 7 3 モ セ 1 İ 心 道 骨 故 r 次 ツ 位 N. 工 ソ ズ 3/ 1 T 沿出 テ 馬 " 3 T 70 5 _ 七 ヲ 1 IV 层 淺 w Ti. ラ P 如 カ 外 7 V 7 セ 汉 1 偷 ~ 3 1 110 V V ズ タ ク 10 E ナ 1 7 Ü 7 别 テ、 7 1 汉 ~ = ヺ 3/ 1) 2 -外 道 X テ 役 當 12 70 v J" 牛 1 王 牧 配 夫 大 目 ツ ソ -1 7 21 3 1 I 夫 天 云 旅 君 追 ナ 艺 妮 1 ŀ 110 L b 工 媚 頮 ラ 丰 地 = 7 シ ナ テ、 1 1 Ł 25 E 道 貴 首 テ T Z + 硘 テ、 ナ リ、 1 1 E 道 自 ラ 家 ッ ナ " 尾 ソ セ 1 シ " 天 然 ズ、 民 扶 古 ア r ケ、 中 L ズ リ 馬 大 ケ 地 = 持 叉 21 1 3 サ テ、 誠 難 ダ 大 事 1 IJ ヲ IJ 1 ۱د 1 テ 自 誰 名 チ 贱 X ク、 = P モ 領 1-10 ソ 陰 天 給 然 君 7 7 1 3 ラ 2 内 心 1 700 陽 地 ケ 金 ク ヲ ナ 3 モ ガ 丰 3/ 1 人 ケ、 自 高 人 人 町 v IJ 工 _ 7 V テ 7 牧 テ 生 然 牧 w 力 家 1. 7 E ٧٠ Y b 叉 貴 小 E 1 ノ道 T 百 シ Ł 1-毛 w h 云 忘 テ、 7 云 民 云 モ 3/ テ 丰 姓 V E 31 ガ セ ガ 王 ナ v 7 1 X E 古 爲 牧 難 ソ 4: ŀ ソ = 久 1 1. v w E ゲ ナ ノ意 3/ ヲ 丰 3 1 1 ノ聖人ナ + -1 b 20 -形 ナ テ ク 立 3 7 V w 28 ۱ر 人 ヲ ク、 ヲ w テ -形 ス 何 = 人 ナ 逆 子 テ ナ ~ 3/ 及 及 = 1 ノ了 稿 别 1. テ w 20 v b セ X E 25 V w **父子** 鶬 1 君 當 # - N 110 3/ w 3/ 1 7 簡 -7 -畜 ^ 7 别 1. w 1 1 ---1 才 ゥ 尾 自 テ、 當 馬 w 1 3 丰 1 生 王 F 覺 道、 y. 然 人 7 ヲ 久 3 ヲ 心 _ 1 1 = ウ 民 職 ヲ 爲 V __ 1 T 7 テ w ٧٠ 天 男 始 分 大 久 王 ツ J" 1 コ 1 = 1 アラ -名 地 n 力 女 r r ツ 力 ナ X b 25 立 ヲ 人 及 テ ケ フ 高 1 ス ナ ツ w ズ Ú 父 形 ヲ ヲ 君 力 ガ 爲 永 ブ V 1 ~ 體 1 ズ、 1. 3 ヲ ク 1 ۱ر 11º E >> 3/ ヲ ナ 職 ツ 如 3/ ズ T 力 + ズ = テ、 役 人 ŀ ソ テ、 y -分 ソ b ケ 此 思 目 君 ス 20 = ヲ r

VH.

366.

世

談

卷

之

有二 民 城 V ヲ ヲ -恒 富 大 il 繩 V ナ ス 張 w 1 ~3 1 工 b Щ 云 力 毛 ラ 師 3 ナ 1 ズ 汉 ナ F 此 リ 或 義 ^ 家 110 ナ 民 城 ヲ リ、 业 ヲ 7 教 請 或 ツ ユ 力 ナ 永 フ 1. 12 7 1 = r 名 多 何 " 聞 水 7 力 1. 風 1 フ 材 流 精 作 神 木 法 = ナ 土 仕 7 費 石 IJ 事 テ、 人 數 シ、 夫 4 骨 却 職 7 テ ヲ 人 v 大 共 ヲ ヲ 害 IJ 力 テ 111 1 ケ ナ テ ナ モ w 此 7 E 1 甚 細 繩 15 大 條 張 張 切 ---E = 1 チ 力 モ = ガ ラ V ザ +)-" F E ナ T w 故 **y** 0 11 V 18 E 丰 3

不 人 義 -3 7 V 家 自 生 希 ブ テ ス ナ 長 7 中 代 由 ホ V ラ 難 人 大 1 F. 110 3/ 1 質 人 功 小 ズ 義 君 严 崇 ナ 4 名 人 高 0 ス 久 或 1. 人 久 3/ = E ~ 下 IV 殿 叉 テ テ 云 何 人 君 7 1 排 夢 樣 數 人 1 7 夕 v 皆 鎗 3, 君 w 1 1 D --力 H 先 者 -21 7 7 毛 1 モ 民 花 民 E ナ 工 V 1-1 3/ 3/ x 心 力 テ 7 盆 w 1 1 y 1 爲 爲 御 量 ___ 玉 p 1 = h 樣 子 ナ w = ス 1 = 1 = 樣 テ 立 サ 君 7 = 3/ 1 -IJ 數 出 ラ 1-7 チ テ IV 7 E 1 萬 入 御 テ 7 王 立 ス 1 7 應 意 石 フ 或 -ラ ツ 1 旣 r テ #" ブジ 對 # Po w 叉數 云 力 = ス V 1 ツ 1 家 x ソ Æ 天 臣 義 N ^ P 督 リ、 7 + 亦 110 1 地 民 7 子 萬 多 1. 丰 自 1 T 3/ ナ 孫 石 然 1) 汉 7 1 n コ リ、 者 上 難 久 1 べ 1 1 1 V 道 ヲ w 戜 大 ~ E 丰 7 _ 違 人、 叉 名 毛 所 到 1 " = 皆ソ 世 背 フ 高 7 1 久 ヲ 1 領 云 ヲ V 何 ヲ 2 永 10 E 論 ラ ツ ズ 龙 v V 3/ ナ 力 力 0 1 -+" 1. ザ 心 王 ナ V ズ 10 70 子 云 又 生 リ w 得 巷 者 = ラ 孫 類 1 V 王 利 落 今 1 IJ 丰 -ナ 1 1 風 傳 益 = 1 w w r 10 1 ヲ 覺 ナ ガ 世 ラ 0 ---H ^ リ、 1 2 w E テ = ソ 30 サ 時 永 人 T 何 1 或 與 人 ソ 水 及 17 君 20 V ラ 繁 w フ ン 毛 h V 1 楽 先 名 生 力 1 -力 ズ 24 家 或 3 丰 加 " 何 得 何 中 テ、 テ、 1 汉 ケ 久 = 噩 力 配 1 3 n テ 從 N

非 ザ 煖 好 心 フ ŀ 又 ン ヲ 久 7 1 V 云 テ、 心 分 -De 不 E 7 V 1 3 3/ 210 衣 ナ ナ 18 ガ 18 1. 7 叉 ウ 自 自 1 逸 y 1 加 ゲ 面 3 7 力 = 1 " 由 然 居 次 金 リテ、 IJ = ナ 1 4 -E = 力 10 前 プジ 横 身 ナ 毘 盜 旣 w -ナ y 無 1) 目 者 羅 持 w 病 ク _ 1 3 ガ 久 ツ、頭 富 敎 參 人 ユ 人 何 = E p テ モ IV V 見 計 則 多 矣 ソ 3 ワ E モ 1 金 1 近 而 工 7 1) + 1 丰 ガ 7 人 ヲ 1 人 テ 外 奢侈 叉 善 ナ 分 E 7 V 於 力 = 3 倫 光 教之上 w 不 ŀ 久 1 ---禽 " 工 = 後 p 仕 寺 遊 1 ヲ 7 テ 丰 脚 力 テ ス 道 學 曾 惰 ウ ---合 參 E il 7 7 I. ŀ 7 ナ 道 >> = 1 F 工 b = 云 テ 1 1 失 批 費 云 ナ 彼为 1. ナ 汉 理 Æ 4 E 1 V ッ、 y, 忍、 w E = 無 ナ 1 ヲ w 頭 麁 フゴ 刑 ナ 故 テ ウ 毛 w 益 3 治 身 人 末 サ 法 1) 叉 王 ブ 1 7 工 1 而 ノ不 教 ---1 難 V = r = ス ア ۱۱ 3/ 7 敎 ス ナ 分 -ク、 n 2111 E ナ ラ IJ b 之ト 埓 w 3/ 4 治 陷 時 鎮 テ 7 ザ 諺 p ガ + V 國 不 多 守 知 IV モ V = 21 ウ 3 1 110 云 和 漸 自 ラ 18 1 > 1 1 王 富 工 云 = 要 皆 祭 -貧 然 ザ E 1 4 1 -ナ 足 = 11 道 教 ソ 金 禮 親 IV = F 1 n 1 IV 衣 銀 溢 ナ 丰 1 衰 1 1 7 工 故 ヲ 7 食 民 丰 外 等 統 大 E 工 ^ F 1 3 1 足 ヲ 工 人 IJ 夫 テ 7 1 奢 切 云 __ ラ モ 富 ini 婦 後 費 侈 君 心 ^ 1 3 ツ E ·#" 永 人 知 自 乖 兄 無 ヲ 1 V -ス x V IV 7 三禮 道 弟 好 難 外 丰 1 木 ス ユ 1 恒 7 ٥, 離 親 有 1 H IJ -1º -1 ~ 2 節 產 ツ ^ 民 ۱ر 類 地 餘 ナ ガ 1. 2 V 1 云 10 " 緣 風 云 則 ヲ ナ 親 分 ラ 7 7 力 者 賣 效 叉 俗 無 4 w 1 ヌ = V = 1 ズ 1 朋 審 恩 工 ソ " 1) 1) ガ ŀ 1 1 恒 云 輩 叉 家 モ w 力 ナ 人 ナ 2 = 王 -}-心 情 心 E ŀ + I, 道 屋 ナ F. y リ 丰 V テ 得 テ デ 理 敷 テ 1 1 1) 1 -7 有一恒 並 只 テ E ۱۷ 7 7 ス t K 故 欲 報 皆 親 深 質 美 ウ ツ ソ IJ 义 德 1/ 風 ウ -田 1 ズ 1 ク -10 飽 産 無 中 衣 7 ヲ ラ 俗 ~ フ 3/ 7 加 T 食 丽 食 鈩 理 IJ 丰 1 ラ 17 E 7 --1

親 得 守 1 誠 3) 7 7 ماد. ラ サ ŀ ア = V H テ 族 坳 テ > 大 24 1 ス E. ホ ダ T V 富 太 後 チ 朋 p. 1. ル 平 ツ 1 = 1 1 食 扨 テ 云 足 平 n 辈 力 7 ^ 毛 = T 1 ナ 至 7 共 デ 110 ブ 1 p 1 24 ---24 1 17 學 1 云 ズ ラ 病 ヲ ス 1 フ = = 3 極 7 至 忘 者 跡 ++" 睦 IV. ~ ナ Æ ズ 人 IJ F 分上 先 X 心 丰 圧 ラ 7 1 IV ジ 1 w = 歲 + 永 床 又 心 得 1 1 モ ク 1 V 悪 手 御 ナ 年 ガッ ヲ IV ナ 1 1 V 1 -心 親 備 自 リ、 1 代 牛 堅 110 ウ 如 ツ 3 21 悪 藥 15 兄 固 7 チ 3/ テ ラ 10 F モ 行 敎 有 弟 誠 ナ r 1 丰 モ ナ 7 臥 21 叉 T ナ 用 誠 道 IJ 心 25 ユ シ 7 IV テ w 今 富 大 白 得 IV テ p w ス IV 1 -E ノ人 サ ナ 風 切 ウ 心 小 人 ナ 7 1 牛 1 1 兒 T リ、 ス リ 俗 毛 1 21 -= V 1 カ 25 ナ ガ 有 210 作 絕 1 簡 ŀ 3/ 仲 ナ 马 後世 饅 先 治 E 宇 食 ス 道 1) F n 間 矢 8 統 ヲ ナ 頭 云 = b 1 -時 鐵 = 俗 恐 前 テ 如 ナ ヲ 7. 1 1 3 モ 炮 モ = 3 敎 要 唐 人 此 ジ リ 1 = 2 V 人 鎗 毛 民 道 法 衣 w ス 毛 = サ = 淺 飢 y 長 富 服 頭 テ ガ n 27 H ヲ ヲ * 難 刀 I V 民 本 深 後 守 r 足 IJ 7 モ 1 寒 丰 3/ ナ 麁 r ヲ ツ ナ 1 モ IJ y テ 識 丰 70 工 1. 富 富 y, ガ 力 ナ 汉 テ 相 病 遠 750 ウ 7 1 ラ フ リ、 P 足 n 怨 ナ ヲ 慮 腾 E ŀ -IV 1 Ŀ 生 ス ŋ = 3 又 モ 1ª ナ 7 ナ 動 俗 اد 時 ナ 1 = ソ 圧 7 ズ 富 y, IJ w T 1 夏 ソ 1 毛 = 牛 3/ w 3 7 IV 足 民 111 有 IV 冬 凡 至 町 フ 1 = 圧 1 ヲ 7 ヲ 誠 ツ 道 力 ノ備 1) 人叉 27 = 1 學 俗 1 治 ナ 敎 ナ テ 21 1 1 1 7 問 1 3 太 風 其 ラ 必 世 不 w ナ 21 12 = 云 セ 衰 + 俗 事 平 病 婦 ノニ ク、 又 1 時 知 3 亂 至 叉 女子 E 7 1 ナ = 力 1 1 風 風 極 IV 7 テ ツ ナ 善 1 毛 _ 1 世 君 統 ズ、 ŀ 抔 = n 力 = b V 事 = III. 1 云 ナ 心 テ 3/ T 180 7 7 1 ŀ 7 1 -得 永 7 ク リ、 -飲 愛 il " 1 ソ 1 工 -11-" 居 Æ 民 知 ナ t w 1 L b 食 3 汉 富 富 宅 道 30 IV 3 丰 テ リ x 面 毛 y リ、 理 リ 足 w 3 悪 テ 7 V 4 L 25 足 親 5 ヲ 1 ス 事 + 心 毛 4

Æ 古 モ中 E ス 丰 ŀ 同 ジ # ŀ -テ、 時勢人情等ノ變 二拘 ハラザル所 ノモ ノナ "

〇國家ヲアツカフ大繩張。

魃饑 或 善 4 シ 4 ズ ス 日 n T テ身代 治 事 シ ~ 1 ジ 凡 男女打 テ、 飯 古 TH 叉 饉 7 111 + ヲ H ゥ 見 士 今和 方 7. 兵 1 Ŀ 4 ラ 當 'n 民 亂 ヲ 云 毛 -7 4 離 破 ラ 共 等 漢 ッ E 3/ 4 =E 怨 4 洪 F. サ 散 上 IJ ^ =, 1 1 常 2. 運 災 或 水 心 1. テ 1º ٣ 3 E 坐 1 早 游 力 テ ナ モ モ 3 7 = 1 心 = 繁 樂 諺 魃 救 ナ + IJ 或 牛 ヲ モ 饑 者、 放 昌 1 ラ 明 テ E " = ナ ク 饉等 助 ズ、 H ア 蕩 所 3 E 1 7 V 巧智 覺 謂 ナ IV 食 IJ -218 上 ラ 親 善 ノ變 心 サ 3 工 親 フ 安堵 テ、 ズ、 族 ~ ナ 下 A 1 事 -Ve ٥٠ ナ 越 = 朋 丰 w 心 ヲ w ヲ 1 アへ 芝居 ク、 後 却 貯 者 韭 ヲ ウ 見 思 テ 合 ナ ラ IV = モ ٧٠ E ____ 分外 子 110 ク、 = 六 面 3 セ p Æ 生 セ 或 テ 21 久 4 3 ナ ワ 又夏 長 + 民 E 3 9 1 惡 1 = ク、 ノ博奕 士 崎 手 奢 = ガ 事 1 ソ V 民 生 前 飢 國 7 ŀ 毛 3 = ヲ ヲ 云樣 居 r 極 耻 救 ス 君 勝 寒ノ患ナク IJ V 宅 及 骐 役 久 - No V 手 メ E w デ 榮 ヲ IJ 防 ٧,٥ w ヲ ナ 事 人 1 テ單 耀 モ 丰 w 或 +" 心 4 ヲ ヲ 1 赈 ラ 耻 次 21 3/ 110 = ヲ テ ア 面 亂 路 ヲ ラ 物 事 離 F, ŋ ۱ 17 w · 女其鄉 フ 小 テ 1 IV 4-人 ク ۱۷ ŀ V V 旗 心 着 叛 = 力 ~ 全 汉 7 ス 1 テヲ ŀ = ヲ 如 キ 11 ク 體 IV モ v アゲ、 ヲ シ、 或 土ヲ安ン ヤ 心 ナ 1 _ 1, 1 云、 テ、 ク、 思 風 ナ 1 V モ 衣 云 他 1. ۲. 丰 儀 モ、 或 全體 服 ~ 國 イ 貧 3/ 1 3 叉 ジ親族 カ ヲ シ、 2 力 シ ク、 -E ٧٠ 竊 冬至 IV 力 出テ營 ナ 1 キ 7 仇 盜 +1/2" 風 者 治 シ ル 汉 = 敵 川輩 リ美 劫 儀 リテ 難 ダ 力 70 __ P 1 盗 7 義 至 10 w 3 w 如 如 食 ナ ノ間 h U 綿 IJ 國 -ク 此 世 ナ テ 洪 ヲ 3/ ス 入 E ŀ 怨 ノヲ、 ク ナ リ、 身 云 ノ人 力 ~ 水 モ ۱۷ 3 w ラ ラ 着 4 早 睦 牛 7 ~

經

y 事 事 尾 牛 7 意 = v 1 ユ n y y チ 败 IV 行 故 モ テ ナ v ナ 3 2 ガ V ٧٧ デ ヲ 目 力 n v 3/ 3 迹 U 力 3 七 古今 徒 行 前 ラ 1. 力 T 3/ ラ 1 1 = 汉 7 法 力 w T 迹 7 フ テ 毛 V 1 ۲ w v 不能 --聖 冒 或 所 = 110 3/ ŀ 3 モ = 大 テ、 第 叉 眞 賢 明 或 牛 テ 丰 1 1 r 名 家 柱 世 E 21 21 七 = 1 1 IV __ 以 ナ 7 根 Ŀ r 大 人 37 ヲ = 汉 1 3 = 1. 自行ート云、 7 1 1 リ、 意ヲ 君 × = 元 3/ 1 + 1 云 ナ 人 家 27 1 7 " 1 3 前 = 者 良 士 心 得 カ 力 ヲ 何 老 3 = モ -ソ 亭 ラ 得 考 法 フ 劣 1 3 ナ 云 V ズ , 眞 枉 力 1 F* ^ 7 3/ = -E IV ガ 性 テ 柱 道 薄 テ、 評 根 テ、 iv 7 如 誠二治 3 1 質 ナ 助 モ ソ 华川 元 1 w ク 30 7 1 y, -大 後 ナ ナ 1 セ E 7 1 2 皆 大 前 I 心 ナ 我 4 = w 1 ラ IV 平 愚 者 繩 心 得 ク、 1 國 故 1 --1 V ノ道ニ志 劣 得 譬 金 ソ 堅 張 テ、 古 家 1 ナ -暗 > 固 7 違 或 3 久 I h 法 毛 ッ 弱 主 繁昌 ナ IJ 3/ 汉 及 3/ 汉 1 1 1 1 意 學 形 ラ 船 力 1 w 丰 3 w ソ アル 人 置 間 ザ ナ 思 所 ヲ 4 IJ 迹 ナ ~ 1 1 内 ラ 柱 ラ b V 3/ 110 テ フ ア ナ -者深 3 受 y 218 牛 ザ 心 泥 1, テ w = 3 -ナ -仕 チ V 得 ヲ 取 故 3 × セ ۱ر n 7 -法 誠 ガ __ 110 1 1 普 叉 3/ > 久 心 = 日 + " 當 政 請 心 1 7 ^ 25 1 7 ヲ留 21 骨 デ 臺 w 事 當 世 云 力 思 ス E P -故、 行 ナ ラ y 折 w 座 人 フ 1 ラ 其 2 テ 迹 ŋ 7 ガ 民 事 者 = 1 ス -11-0 却 立 政 名 ~ 時 勢 モ IV 如 7 テ E グ V 牛 勢 事 人 ツ テ ヲ E 1 r 聞 r モ V F. 所 備 , 情 枉 テ X 1 行 7 テ 1 汉 V 毛 = 害 情 迹 心 1. 英 11/2 久 y V 3 -10 1 テ、 出 力 腹 書 1 w -21 2 -モ 飞 明 E 眞 從 ナ IV 事 拘 多 コ ラ 通 7 ナ 1 3 此 TE. 柱 讀 w 1 フ ナ 1) 薄 1 達 7 w 3 事 テ リ、 毛 性: I 3/ ナ 出 丰 y セ 3 1 IJ F 色 y 故 1 自 ۱۱ 力 汉 テ 質 ソ ズ 唐 甚 自 サ 4 ラ w 公 7 己 3/ 1 1 3 然 湯 E T ++" 土 親 ッ 覺 流 1 il V テ H 臺 n 3 w 110 切 > 得 1 7 工 1 モ 本 崩 ナ 政 政 首 3 ナ 7 1 T = ŀ ---

覺 地 名 者 長 N 柱 焉 人 7 1 V テ、 16 = , 7 久 者 君 12 1 ヘテ ナ 1 1 ŀ v 1 外 云 云 ス 云 1 ガ ナ 入 -|--11 JE. V 、參 替 民 者 11 心 IV 1 フ 1/2 -~ w 3/ 工 意 シ、 1 7 誠 或 ガ カ 25 1 ^ 4 勤 E 難義 ナ 子 봡 テ 知 [ii] 如 ラ -ヲ -ソ ク ラ 孫 先 深 ジ 叉 + 11: 3 モ シ、 上 1 #" 真 永 궲 ク b 尽 ケ 3 V 公 外 次 ル故、 治 故 ナ 久 柱 ク n 3 V 3/ 110 公邊 邊 n 1V 人長 ヲ __ y 110 丈 L 力 -34 to 數 自 保 君子 家 夫 テ 7 w n 人 ノ勤 L 民 者 萬 然 中 後 = ツ h 21 --7 之德 力 ヲ 殿 我 人 ~ 3/ 石 -21 = 1 20 3 惠 其 君 テ 云 ^ ノ宗 _ シ 22 1 遁 7 IJ V. 朽 IJ 士 政 人 = 2 1 >> 得 テ V 111 行 人 風、 及 1 領 事 1 扣 倒 地 難 、家 ザ il 役 跡 君 110 ズ、 ノ子、 ヲ モ 毛 w 小人 キ役目 n 受 1 モ IE 目 政 IE. ナ 1 ズ ノ費 惣ジ 薄 事 15 3 = シ 7 1 之德 町 ш ソ 傳 1 テ 1 ク 1 4 1 用 下云 テ 家 人 3 行 IE 得 27 1 v ガ ^ ナ ハ草 民 テ、 百 親 テ、 跡 43 3/ 218 3 E 1. 7 姓 又真 ノ爲ニ身ヲ勞 ノ貯 丰 役 力 モ 1 E r ŀ 己 r 諸 其 人 ワ 1 ナ ワ -42 12 ヲ 云 不レ デ ノ榮 先 ナ 柱 役 ~ ガ ケ w シ -1. 人 汉 祖 モ 枉 P v = JE 叉君 至 v 耀 風 ル 21 E 1 20 210 h v 10 リデ ŀ 金銀 鎗 1 其 折 其 ヲ 儀 11 = モ、 ٥٠ Щ 間 下 79 シ 先 フ 々入替 外 云 H 必 ٧٠ 7 心 旁 役 力 年 = ヲ w 1 ナ 1 其 V 國 材 ノ惣柱 ヲ 合 自 力 手 ラ リ、 7 心 110 ク 貢 傳 木 ズ 1 由 E ツ 28 得 臣 テ B. 課 一十 民 叉 ナ -1)-3/ 3 ナ 27 忠 = テ、 役 10 桁 牛 V ヲ デ セ w モ V 25 ナ 3 其 テ 惠 骨 緣 7 PIP 2 ザ = 1 110 JV. リ +1 人 觸 SE. 三蹇 損 T 增 折 1 __ b IV = 買 本 君 至 7 V > 3/ ŀ 1 毛 3 F 1 流 V 先 物 造 思 3/ IF. 次 iv フ 久 1 ナ 有 第 3 約 成 21 ツ、 w V E 資 ナ ス 3/ y 第 デ皆 チ 好 叉 課 リ、 老 1 キ 7 -= 人 凡 役 ラ 時 者 ŀ 7 24 テ 1 1 借 17 運 1 得 凡 民 人 4 毛 ク ス ^ F 变 E 職 君 修 永 IV シ ガ ダ 今 ヲ -或 有 フ、 ナ 等 r 重 ク 分 如 覆 2 w 1 及 1 F 大 眞 世 行 ナ + 1 7 7 N 運 1 3/

經 世 談 卷之二

0 國 家 ヺ 扱 フ = 眞 柱 1 士 臺 1 r w ヲ 論 ズ

47 内 盛 破 歷 10 v 3 ラ T 氤 亦 'n 1 壞 五 y, 110 ズ 4 五. 水 後 如 定 4 ス 1. 重 久 毛 重 3 冦 國 軍 17 H -IV 屯 1 n 等 j 1 至 塔 效 3 杆 ガ 本 1 F 塔 i 縣 1 IJ 1 如 1) 毛 r モ 云 1 1 騷 >1º テ シ、 傾 眞 引 古 V 上一正正 眞 動 心 柱 ~ 7 JIP. -モ 則 柱 破 放 -F. ス 時 折 今 E 卽 壤 枉 七 ~ 今 IJ = 25 V E 力君 日寺 リテ テ ス、一 道 年 テ サ テ ナ 波 其 1 柱 軍 月 mj ラ 21 ~ 七 戀 弱 王 ナ 1 或 ヲ _ 1 テ 或 ス、 幸 故 經 下 定 云 勝 H -70 n E = n 1 テ 74 矣 敗 叉人君 テ = 3 亦 大 時 旁 漸 及 = ١١ 7 1 7 然 風 皆 1 = 六 毛 n F 4 111 リ、 至 大 1 ズ、 1 ١٧ -____ ---久 人 9 地 甚 時 П V 3 器 テ w 震等 君 7 110 大 諺 4 1) 3/ -故 者 ナ 塔 7 將 = 事 77 = = 所 甚 必 7 緣 = 所 = 17 1 フ = 代 r 1º 速 テ 来 Æ 門 w 1 v 2 = 幣 -ナ ナ 落 傘 + 25 3/ 1 7 數 -1)-" 减 ラ 力 モ 皇 v チ 物 1 多キ -4 ズ、 嘛 建 語 v 3/ 1 儿 テ、 P 落 其: テ ス y, 25 3 ナ AF Ģþ 後 眞 忽 扇 1) チ V 君 有 其 柱 時 或 テ 1 -= 1 暗 極 = 至 1 ヲ 折 破 鹿 國 毛 大 主 破 内 17 3 IV 目 V w ŀ 1 風 1 壤 運 治 210 ~ N 云 ガ ヲ 如 大 2 亦 3 力 110 如 肝 亂 家 E 2 地 救 則 ズ 17 ラ ク、 要 邦 盛 1 ナ 震等 該 ŀ (II) フ ズ 1 衰 仕 1 v 1 脖 叉 治 置 ~ = ス ノト 110 人 ノ綾 ^ 或 73 破 亂 必 3 w 1 君 1. 漸 壤 其 主 ラ テ ۱۰ 1 1 久 -老 総 ++" 全. ---人 4 ス、 義 入 T w 故 w 君 1 7 ナ ---者 ~ /* 其枉 眞 扩 身 -或 人 1 リ、 -樂約 時 个 弱 柱 持 w 7 ŀ 7 必 枉 32 -Z ich V 1 次 IV 何 0 7 平清 y 全 得 y = 1 E 3 至 倾 1 7 b 3 =

0 威 家 ヲ 扱 フ _ 眞柱 ŀ 土臺 F r N ヲ論 ス。

0 國 家 ヲ アッ 力 フ 大 繩 張

〇人君 タル者民 ノ爲 ニ君ヲ立ッ 12 ノ義 ヲ シ N ~ 丰 = ŀ ヲ論 ズ。

〇君以一 體 ノ意ヲ ク心得諸役人

3

7

デ

モ

3

ク

曉

3/

ヲ

クベ

丰

7

ŀ

ヲ論ズ・

〇人君言 自ラ權 柄 ヲ 握 リテ 人二 奪 1 V V 3 牛 心 得 ヲ論 べ。

〇人君· 0 家 柄 大權 身分 = 7 握 拘 y ۱۷ ラ テ ズ 細 人 務 ヲ 7 3 又 牛 " カ ア ゲ ラ 用 ス V n 3" = 人 丰 情 = = 1 ヲ論 逆 ۱۷ ザル法。 ズ。

0 臣下 = 委 任 3/ テ 其才 器 ヲ 充 分 = ١٠ ダ ラ 力 3 2 N = F ヲ論 べ。

○諂 フ 者 ジー國 家 ニ害ア iv = ŀ 此 Ŀ ナ 牛 F 云 フ = ŀ ヲ 論 ズ。

)德器 ト才能ト技藝ト 此三 ツ ノ者ヲ混ズル者 ノ誤、 並人ヲ用フルニ 此三ッ ノ輕 重 ヲョ ク分ツへ * =

ŀ

ヲ論べ。

1

世

談

本 經 濟 叢 杏 卷 =

覺エ 心 1 = 工 ナ ナ テ テ ク盛衰 巧 n ソ 丰 愛 1 類 心 = 2 驗 > 戴 犯 = テ 歷 シ ク心 ノ別 皆衰 然 テ 1 谷ヲ ŀ 明 ス ナ ク、 丰 亂 ラ 3 ラ前表 テ ŀ 力 E 眼 明 ケ、 父子 = ナ 3 -游隋 入 IV ナ ラ 夫 リト ラ 婦 w = ソノ 1 ヌ 1 _ ナ シ 3 3 = 外 テ F V w F ナ ~ 利 ナ 1. 1 y モ、 ッ、 シ ヲ 親 -貪 族 今時 此 w E V 等 = デ 3 ラ辨別 ノ學 深 ŀ E . ク理 ナ 者 情 1, ヲ察 八古 1 薄 1 t = ク 禁法 今和 ス フ 心 ル人ナラ -ガ 漢 歷 ケ、 ヲ 史記 守 ノア 或 IV 110 錄 リ様 ハ諂 ŀ ナ 1 古人ノ 1,0 = E ~ 或 ヲ 深 15 モ ク 3 1 ア 心 賄 2 y ヲ ナ 谷 -サ ヲ 1. モ 3 恐 ~ 汉 セ V テ テ -IV 10 拘 古 考 廉 1 耻 事 IV n 1 時 = ヲ =

終

堅 生 云 , + 律 3) 人 ナ E 1 木 y 夕 É 占 後 義 ク、 相 力 3 þ 21 218 -17 深 畠 膴 ナ 地 7 往 1 V E 7 10 _ 7 厚 デ 密 作 IV 統 デ 何 --17 來 力 E 保 行 欧 大 植 5 24 方 IJ 1 17 3/ = 3 4 テ 五 風 久 風 ツ 次 3/ 廉 テ 王 7 儀 = 1 奥 神 IV 俗 = K" ラ 詠 出 ware Named to -耻 E E 事 作 ラ ツ、 張 ATTE. モ 木 V 1 七 x ユ V 1 容 祭 y, 益 デ 1 4 1 il 及 カ IJ ヌ 禮 容 易 テ 城 テ 1 E E I = 1V 3/ 3 荒 壤 並 易 樣 屋 7 F h 1) 17 E ナ = v 倒 法 思 廢 1. 美 根 落 = 7 形 ナ -V 突 败 IJ 7 ナ 1% 並 云 付 3/ 7 ナ IJ V ハ 守 -H" テ IJ 1 ナ TILL 昌 = V 力 汉 リ、 v 難 テ 毛 テ # w フ 17 y, 丰 祉 セ 12 廉 見 真 7 ナ 相 ラ ナ ガ n 1 佛 又 7 書 誠 應 址 -E 1 故 リ、 如 E 1 ズ 下 治 畢 鉢 前 終 3/ モ 1 叉 ---3/ 敏光 繁 細 ナ 竟 植 牛 サ 平 ス 1 = --ŀ 昌 述 出 樣 故 11 上 昌 1 民 V 1 毛 1 ~ 木 義 T テ 人 ナ ナ 1 214 F 夕 _ 1 ス ---省 驗 ク、 永 理 --w IJ サ 1 ク V ソ 1 花 世 人 供 ナ 1, ヲ サ 3 1 モ 4 1 3/ 力 リ 衣 丰 國 -1 ヲ 廻 1 1 1 To 次 Æ 13 奢 所 職 服 者 士 後 丰 >1 毛 w 1) 11 謂 民 雕 業 人 目 ナ 城 2, モ 1 水 1 開 敏光 下 盐 漸 民 1. #" ヲ w ヲ 1 1 1. 1 点 . 美 家 丰 昌 整 大 ダ 1 1 4 1 1 ^ 居 君 町 1. 木 X ダ ラ ナ ス 金 1 -1 ス 形 銀 衰 w E リ、 ~ 4 フュ モ 7 __ ヌ 3 ガ 見 私 T ナ ヲ テ 1 7 #" 屋 ナ 1 1 始 如 費 爱 411: テ ラ リ、 窮 IJ 1, サ 21 根 V 益 辟 毛 ネ 10 3/ 1 2 ナ ス NE 3/ V 戴 家 枝 ナ テ モ 少 1,0 ク = 1. 周 1 廣 9 丰 立 居 王 葉 w 工 ŀ 1 3/ 王 ŀ , 人 ソ ク 足 テ 是 E 派 >1 ナ 垣 狹 E 7 民 諂 等 立 2 败 茂 ヲ 大 1 V 7 ナ 役 1. ナ 心 好· ツ 1 IJ E F v E 21 人 飾 汚 質 IJ IJ 益 勿 ソ 1 10 T 7 10 論 分 7 丰 賤 E 1 x iv 1 w ズ V 恐 3 誠 テ 者 テ 種 1 或 博 テ 3/ 限 是 奕 IV 心 中 Щ E 丰 = 11 1 4 3/ 氣 2. 往 從 ナ テ サ 樣 1 ナ ヲ 7 林 游 1 ヲ 永 リ 昌 病 1 7 ク、 來 丰 フ 3/ 毛 女 = 通 茂 人 テ 3 4 事 テ ŀ ヲ ۱۷

終 人以上身 = 7 談 9 ナ = ガ ナ 自 叫 大 y 身 ク 在 害 1 210 = 畏 11) 利 1 ソ b 3 ノ至 ナ 云 難 K 7 1 ナ 外 w 去 7 極 惡 = y ラ ۱د ナ 叉 寒 1 任 木 IJ 3 ス 尽 凡 210 ス 力 或 w 1 ナ w ク 家 亦 ^ ラ 1 __ 1. 110 ヲ 任 又 シ 治 醫 -7 セ 汉 者 テ サ IV 1 3/ 故 IV モ 1 -3 病 邪 b 畢 力 油 人 ナ 1 竟 又 斷 n 7 别 w 1 人 ス r 2111 ソ = 7 V 力 1 F 人 110 力 IJ 心 P 大 フ = = 得 w 病 テ テ テ 1 F 埶 = 七 所 司 至 ヲ 重 7 行 30 畏 役 w 1 = F 任 ユ w __ = 1 r ~ 1 ズ テ ナ ナ 毛 12 n 力 y, 7 y, 同 任 1 サ 30 フ セ IV 內 ナ = ザ テ = ŀ 賢 = v w 1 伏 110 ナ 愚 1 故 y, ス 邪 人 必治 n 中 君 IE. 語言妄言 熱 庸 1 _ 平 辨 九 テ 1 1 份 經 别 E 功 更 率 サ 1 7 目 1 ス 相 ^ ナ w 大 = = = サ 1 ホ テ ナ E ズ、 ナ 1. 取 2 N

0 今 時 1 人 1 國 家 1. 壑 榮 1 心 得 汉 w ١٠ 却 テ 莱 微 波 亡 1 始 = ナ w 1 云 = 1 7 論 ズ

中 3 角 事 = 1 流 祭 1 1 力芝居 自 登 通 禮 7 殊 或 城 ナ # = 1 ナ 夜 哥 1. = 城 者 1. -舞 威 -下 T 妓 ۱٠ モ E 1 1 立 兩 見 3 壑 = 町 派 昌 ·V 1 せ 7 k .= 云 物 金 = 1 -誇 結 ガ ナ 銀 1 ナ 1) 如 1." 構 ア ^ 1. 主 .7 費 7 モ 12 23 君 ツ 繁 7 21 Éi 城 並 7 昌 或 3/ 壁 屋 = 3/ テ 中 3/ -役 形 テ 種 汉 1 瓦 K 叉 w 士 4 屋 ノ輩 剩 ナ 1 1 民 根 神 博 答 P. 男 裏 ·E 社 奕 1 女 ヲ 屋 力 類 佛 游 美 ナ V 7 閣 女 ヲ 3/ 服 デ 7 見 1 1 7 毛 y 普 類 自 テ 力 立 , 請 次 國他 ザ V 7 壑 丰 デ E IJ 10 1 昌 美 居 モ 蚁 丰 JL. 盛 宅 此 4 1 畫 人 = 1 2 = 王 願 7 夜 行 22 4 1 フ 往 ナ 大 入 ナ 1 = 告 7 來 V = 7 1 9 17 b = 打 力 ナ 作 B 絕 Ш テ = ッ 得 上 作 y P 林 テ ナ ズ 7 H y 他 7 3/ 畠 F ナ . v 國 商 E ~ 3 繁昌 殿 鷹 買 .1 1 テ 者 場 9 賑 1 1 壑 ŀ 供 獵 _00 4 何 云 昌 H 驷 場 噪 方 7 7 y 金 > + , 羡 樂 3 家 銀 神

1. 魂 事 事 1 n ズ . ~ 7 n ッ 2 IJ 3/ 3/0 所 所 ノ者 11 牛 IJ ŀ E サ -7 3 ス 叉 1 心 右 力 + 7 セ 1 1 ス ۱ر ~ 忠 " 百 振 r 或 -7 又 w = 7 V テ ラ E 云 1) 人 舞 1 w 110 ユ 百 1 ノ 役 出 所 所 並 ヲ 六 3/ 7 3 ~ 1 ソ _ 何 人 T 思 求 自 招 F. 7 7 人 x サ 久 1 ダ 亦 j 然 テ 3 1 モ 3 iv ナ メ w _ フ 1. w 邪 テ 天 11: 並 7 ソ = 1 1. テ 7 E 者 行 出 拘 緣 親 然 相 1 ス 叉 1 1 1 人 ナ ワ 人 ナ 似 入 1 心 ١٠ w 20 7 3/ ナ 1. 1 及 y, り、 邪 如 術 情 求 ラ 舅 ス 3 テ 1) 術 モ IV 7 人 中 ヲ 7 ズ ヲ X 真 心 テ __ 醫 狐 家 結 ソ P テ 3 種 7 1 刷 7 モ 1 リ、 果、 者 狸 V 17 ス 17 ^ 1 NA 付 具 ソ IV w T テ 山 1 IJ 1 ソ ~ 眼 = 17 伏 時 サ 人 獲 化 IV ツ 1 1 3 1 Ł 1 所 坊 7 ス b ١٠ = V 1 1 13 明 3 力 Ħ 鱼 主 爲 w 1 . 1. 1V 1 7 者 ス 又 3/ 者 ガ カ . モ 島 ナ _ 1 200 ---~3 w _ 善 油 1. +15" 偏 テ 及 义 モ 3 又 邪 テ P = 何 ナ 性 チ 7 1 12 1 T 其 ラ ナ ŀ 人ヲ魅 人 蒙 何 r iv ^ V = 7 1 -1)=" 人 P w 人 拘 ソ 來 IV = 110 1-V -者 y, 1 V 1 ナ 又 b E 力 T ~ ラ 1 信 13 111 樣 花 T 叉 シ 21 珍 #" 力 ズ ス ۱۷ 祭 用 3/ 大豪 ラ 極 紛 IJ 纳 ラ 尽 IJ ŀ 7 唯 ス 3 油 ズ、 b 1 ラ K ナ H x 3/ 1 n ガ ソ 傑 IJ 斷 毛 ^ テ V > 1. 3/ IV 親 ダ 1 1, E サ 7 T IV. 3/ 丰 1 = 3/ H 族 シ 人 求 モ ク 10 11 ナ V w To E 3/ 妻 ---テ +" < 1 サ リ、 1. ~ 丰 1 = ヲ × 大奸 安 容 ラ 行 モ テ ij 人 ナ IE. v E 1 1. 易 庭 才 ラ IJ T 贈 1 22 フ 3/ = 緣 1 對 モ 者 1) 前 智 IJ ズ 3/ 丰 w = 云 I 献 叉 1 丰 X ス ス ~ 1 T <u>-</u> 7 IJ モ 櫻 . 至 ~3 見 w n 7 7 ---V 1 1 ズ 云 者 者 對 テ 名 盛 118 誠 ナ IV V 1 工 Ł 奸 難 類 自 P 何 何 ナ X ス 1 聞 V 人 君 胸 邪 w ラ リレ カ I" 丰 110 ヲ 毛 v レ、 概 其 辨 以 宰 210 心 中 1 ナ 同 h 又 作 テ 2 腹 别 テ 30 功 = ス 相 3 モ IJ 花 皆 見 六 爲 我 ヲ ~3 -1 3 1) 肝 7 郭 限 幻 IJ 出 サ 要 見 7 テ ~ ŀ 1 ガ ス This ウ ヌ ラ 及 V ナ 好 ナ ラ ナ ラ 7

愼 子 精 斷 必 洪: 7 + ズ ス 5 ス v 親 目 w 邪 牛 膽 ナ ヲ 七 w = 1 W + 210 人 過 利 入 サデ T ナ 1 7 テ IJ 迎 中 25 其 思 權 1 E 2 云 w y 半 IJ サ n = 所 + ナ テ 叉 威 テ -E 1 7 E ホ F テ 由 ラ 好 邪 危 出 及 1 7 3/ T 1, T 疑 六 自 上 新 3 身 人 丰" n 110 1 IV ブ -1 テ 1 + ラ 身 者 F. 1 ズ ~ 3 1 -1 3/ 導 緣 王 ッ、 人 ナ 生 Æ ノ智 恐 1 3/ 7 ク 8 詩 恐 + , ジ ^ 1 3/ V 3/ ス V -王 歌 謹 n 力 サ 心 ス 1 テ V ~ +" サ n 文 是 及 尊 害 フ 愼 + V = 21 テイ ラ V 學 非 卽 ウ 時 者 F° 齫 18 _ E b 劇 1." 21 黑 4 過 テ ナ = 1 21 ソ 1 E 齡 談力 3 E 白 殊 硩 ス 1 1 IV 久 ス _ w 3 晤文 或 牛 更 心 w 言 故 目 马 口言 牛 1 ヲ w h 辨 家 其 馬 别 耻 者 利 得 7 其 -F 7 别 3 1 道 刀 定 チ 罪 7 = ヲ 1 1 = 1 害 テ 3/ 邪 槍 論 テ _ 見 口 殊 = 1 >1 モ 難 毛 b 言 事 出 1 ナ 等 ナ ズ P 7 ズ 更 閉 ナ 者 精 開 丰 w 重 ナ 同 w 1 21 N チ w 1, 業 y, 人 人 17 ス = 力 ヌ ス = シ、 隱 云 7 騎ウ w r ~ 3/ = = E 1 ズ 3 1 1 y, 温が 長 叉 テ 拘 T テ = 毛 7 テ y 21 " 天 雨 y E 數 ン ŀ T 21 勿論 勿 胸 ガ 君 當 ラ 可力 爵 多 1 w 久 論 中 胸 之 或 心 相 然 ズ IV 牛 ヲ 1 = 文武 悪 大 1 1 說 得 底 人 P ソ 1 21 實 7 + ナ 義 雲泥 何 ナ 7 ソ 1 テ 1 1 10 分 ヲ 1 IV 人 i ナ 1 ナ 旣 21 = = V 道 叶 ヲ 論 = テ 人 テ 110 3/ --ヲ = 1 V 遊 明 丰 b 餌 差 テ、 合 F. 君 E 7 伺 3 ナ 露 力 1 其 君 +" 1) r ヲ 2 E 王 1 サ ッ、 in サ ザ 權 n 事 相 心 ラ 久 21 ス ソノ 4 10 10 右 重 n 威 カ 21 3 11 10 3 ツ IV 3 w 甚 役 E IJ 1 3/ = ナ 1 IJ IV 1 E 1 輩 心 ナ 1 テ 出 E E + ŀ 邪 邪 L 飲 意 人 1. 牛 IJ ソ ヲ 及 1 云 ヲ ~ 人 X 付 食 7 テ 7 = 1 1 V w アゲ ナ ナ 丰 E 伺 踈 1 好 遊 ソ 心 E ~ 7" n 此 IJ 7 ナ 樂 丰 3 フ V 略 v 1 テ云 所 ナ 1 ナ ス テ 力 取 V = V = = 毛 y, = 由 明 ナ デ ナ y 210 3 ~ ナ V ス テ ~ v テ 亦 サ IV + 1 -1 3/ E = 槪 孔 テ 物 判 默 謹 邪 7 ۱ر 1 ナ

折 者 奸 ~ ナ 7 力 w = ŀ 1 4 = 1) 端 ラ 1 淝 見 使 テ y 力 7 ス Æ E 4 T 荷 ナ 吾 木 ŀ ŀ w n 3/ E ウ y, ス -擔 樣 ラ ガ テ T 21 E = name Specials y + 1 # 思 ラ 云 伍 者 + r P 及 地 ŀ 3/ 又 福 ン テ y 案 E ズ y, 4 人 知 = E 1 1 w ۱ر 首 テ、 學 内 誠 セ E ズ 疑 所 1 = = 尾 但 內 力 フ 術 1 E ŀ ナ -__ 1 害 7 疑 此 外 用 ヲ 1. 4 V ナ V 人 3 -論 ツ IJ 110 外 il 汉 ---表 70 r 1 V E -ク 淺 段 牛 IJ 惠 ラ 久 ナ -t-" ガ n IJ 嚮 ラ テ ワ テ ズ 5 サ 7 w 1 b + 1 草 1 别 Ł w ŀ 邪 21 3 テ 又 1 7 汉 = 御 者 罪 長 今 人 ナ = ナ 牛 人 1 コ 用 10 論 丰 7 1 1 ナ ナ 7 1 w 1 = ズ 君 IV ゲ 云 世 驱 車匹 ナ IV ŀ ズ r 1 V V 1 1 y, 所 1 丰 ~ r 1. モ 重 俗 JE. 110 御 類 長 邪 = ヲ 必 ナ 王 3/ -12 モ 氣 逆 -故 辨 ソ P 1 7 ソ 風 7 コ 末 君 April 1 第 邪 15> 21 V 别 1 v ナ 1 俗 1 之 力 A 御 又 1. y IE 7 ---1 ス r 4 悪 ガ w 1 P 氣 ヲ 王 21 别 N 3/ 1 1 大 小 = 日 ウ 察 b 3 E 長 = = -+ -抵 1 ナ 事 那 -1 1 = ス 1 7 世 ズ 7 タ、 ソ 1 諂 甚 3/ IF: 類 w ナ IV 7 1 w 思 1 ソ テ 理 難 中 所 ~3 ~ w フ ナ ウ -心 フ V 湄 者 ラ = 牛 = 7 IJ 事 3 r -故 術 1. 是 7 ヲ 力 7 1) 1 才 ナ 7 1 7 求 リ 何 ナ 1 21 ナ ラ E 勿 ソ ŀ IE 察 1 y, w 何 論 事 E ヲ 3/ テ 1 毛 21 取 3/ 者 組 牛 1 Ŀ 及 3 短 E v 1 及 y ヲ 是 御 出 ソ 力 所 w モ 7 路 チ ヲ b 所 云 尤 疑 越 モ 3/ 同 -ガ t ヲ 1 1 r 害 b 力 テ ジ E r フ 行 1 愚 Ł I IJ 迎 迎 n ナ 7 狀 ナ ナ 3 テ = テ 迎 7 出 ナ ジ ŀ チ w w 1/2 1 V 君之惡 君 7 君 デ ザ 内 者 頭 1 w ガ 7 + 之 V n 云 外 セ フ ホ P モ 7 悪 之 ヲ ソ 王 2 テ 表 足 1-= I 1 惡 用 君 叉 > 1 裏 ŀ 1 r il V 健 E 1 IV 長 得 = 7 1 ス b IL r 7 ナ 7 益 7 御 IV 見 v ŀ w in 術 21 ソ 誤 v ---君 ŀ 爲 君 7 -力 110 ナ 1 = b 又 ~ 之惡 v 骨 デ 飛 ラ -1 4 1, 奸 ナ 力 3/ 心 條 ナ ナ 邪 ヲ ス + 誰 脚 X E 1

用 Ŀ テ ソ 短 E 3/ L B 毛 由 1 7 25 25 用 好 ラ 得 拾 > 7 +1." 利 ~3 又 毛 1 -= 深 ナ 伍 向 用 達 w 1 手 ナ = 力 3 E V 立 深 拾 ラ 7 丰 牛 ラ 7 大 IJ 3/ 1 = 1 者 考 事 ズ 不 難 チ -ナ ナ テ N 丰 又 ズ 難 若 " IJ 7 モ 得 28 20 V 1) ~ 1 + 8 書 用 目 任 手 3 丰 ス + 110 " 大 V 者 諂 古 + 利 事 付 1 ~3 E ナッ = -1 110 類 テ 外 難 テ 難 人 テ 21 人 フ 3/ 21 = 大 筆 奥 者 得 1 テ モ 事 丰 -丰 モ ス 樣 支 ソ 女 ナ 力 申 1 惠 手 V 1 ~ 21 -1 配 ザ 1 中 y 人 テ モ 付 ~ E ワ ~ カ 小 事 w 組 ラ T 力 1 T 1 1 w w 4 4 子 向 者 次 デ ガ テ 1 力 又 ヌ 3 7 v 試 向 詞 IV ヲ 如 7 1 1 ナ 1) 圧 1 1 1 = 人 扱 役 用 或 リ、 -~ ナ 7 1 7 w テ 近 7 15 立 人 家 ソ E 3 -V 10 V 大 ソ 役 用 1) ス 習 r 汉 1 Æ 1 力 ホ = 事 1 大 1." テ 並 類 リ、 -E グ 又 1 E 驗 1 用 難 害 諂 何 V 又 必 重 職 10 = 得 r 役 勿 ホ 7 テ 人 長 义 1 E 1 フ 1 w 手 -難 貪 ナ 隨 1. ナ テ 論 力 ズ 1 1 E -目 世 者 副 E 7 w 3/ w w 分 ソ 又 テ = 3 下 者 1 役 其 者 7 所 間 7 3 1 1 テ 事 ア ヲ 個 IJ 差 重 3 7 10 h 1 事 1 其 取 役 别 = = 2 21 知 别 --1 3 金 統 熟 1 ウ T 、短 條 " 叉 明 F 牛 不 銀 ナ 1 7 所 所 = ク 1 1 -3/ 叉 得 家 論 ラ 力 事 7 米 11 テ 2 7 -1 賢 - = 筆 人 210 7 帛 T フ 中 1) 1 ズ = 3 モ ナ 等 役 1) 人 百 力 -1) 12 w IV V E ラ P 欺 7 ツ 7 テ 通 姓 7 15 E 見 モ E IJ 110 1 テ 力 ケ 任 7 1 1) 1) V 智 1 ラ 全 外 テ デ ナ ス 1 + ナ 助 小 21 v 又 7 I 難 用 詞 事 w IJ 役 相 p V 1 事 v 在 夫 役 ナ 應 義 ス -AIR -1 压 1 = 任 r + ヲ 害 ソ 用 統 ~ 1." テ 10 = 7 ス w 者 用 試 ナ 力 ス 1 = 丰 = カ 1 V ~ 人 ~ 長 目 E ~ V テ 20 工 111 1 又 V 3/ 3/ 目 難 試 鍛 7 " 兀 1) 丰 利 ŀ テ 1 付 慮 者 驗 鍊) 存 3 7 1 多 云 + 111 叉 檢 ズ T 1) 分 圧 テ ナ ソ 1 T V 1 人 外 使 テ テ ・ラ ス w 20 モ N 圧 1 勘 人 デ ナ 大 事 Sales Sales か 7 毛 チ 獨 小 -1 辨 用 1,0 ガ 共 ਚ 1 抵 事 口 1 テ 1 =

當 y テ 代 心 時 r 勢 w ヲ モ > 3 7 3 IJ 3 IJ 見 テ V 110 事 誠 ヲ = サ 行 七 25 1 3/ 7 ---才 28 時 力 中 3/ 丰 1 道 事 モ -多 力 ナ 3/ 9 1 +)-" サ W V 110 = 聖 1 賢 ナ 7 1 眞 誠 意 = 聖 ヲ 賢 E 7 1 道 心 得 ŀ テ 1 其 フ E ~ 3/ = E

臣 下 1 賢 愚 邪 IE. ヲ 3 7 辨 别 ス w 心 得

17: 害 y T IF. 7 竟 是 テ w 3/ 直 云、 3 F ۱۷ IV 1V = 久 = 臣 者 明 由 F テ ナ ナ 叉 = P 10 愚 白 2 1) 卽 w IE = w 1 1 = F 是 賢 易 テ 7 1 3/ 1 = 1 1 X 云 所 ナ 7 愚 3/ + ス 才 所 謂 者 y, 君 途 古 邪 ウ ガ 器 邪 奸 ナ ナ 宰 今 E 1 ----量 德 佞 相 w ア ヲ 如 IE. モ V 1 ナ 邪 器 ヲ 愚 1. ^ ク 21 久 IV 3 ク 云 智 德 ナ 才 毛 w 7 17° 7 -用 者 器 能 事 1 n ナ テ 3/ = 徒 者 等 等 y, ナ 1) 1 -ソ 7 立 r " 7 テ 行 ナ 1 T __ 1 難 y, 7 實 然 黜 リ、 w ソ = 和 25 丰 il 陟 ユ 别 1 漢 w 21 V 7 德器 條 眞 大 ヲ 7 ^ 圧 進 1 1 云 差 其 格 蓝 是 退 ガ ワ = 1 定 賢 辨 邪 3/ ヲ ヲ 才 7 ス 别 ス 法 云 知 别 能 ナ ~ ク 7 ナ w F 别 牛 ナ 3/ ナ 3/ n ^ IJ 丰 1 7 者 所 是 ---難 牛 17 110 心 7 b v 論 睯 1, シ、 者 論 底 ナ 7 人 1 ナ y, 君 ナ 根 用 ッ、 モ 3 ズ 7 ズ , - 1 ソ サ 必 IV 性 幸 w V 賢 テ ナ 或 者 古 相 1 7 V IF. 1 存 才 " リ、 7 JE. T F ン 3 第 1 7. 分ヲ 賢 能 才 3/ ク シ ۱۷ 1 ---仁 賢 才 愚 能 ブ 3/ 極 1 T 7 云 邪 IJ 愚 器 意 職 ヲ T テ ス 明 3/ テ ナ 邪 分 Ł IJ ジ r 1 21 21 出 才 君 IV IE テ 3/ ナ x IJ N. = 督 テ テ、 w 能 7 自 1 3 ユ F 大 德 愚 己 稱 = 力 ガ ソ -F 法 器 或 ラ 云 口 T ナ 3 V ___ 3/ (. 身 腎 上 113 ~ r w 天 w 汉 21 良 者 F 1 ソ n 故 丰 IJ w 1 達 者 人 邪 心 テ ヲ 1 = 1 1 D 者 相 治 存 叉 用 得 别 云 = -V 叉 分 亂 ヲ ン 3 1 1. 3/ モ = 所 稱 安 1 ヲ テ 邪 テ IE. 汉 3 1 文筆 云 或 E 行 危 w ナ E ŀ ツ ス ~ E 家 7 IV = 3 1 w 王 b 出 者 才 心 3 1 力 丰 = E 1 セ 自 サ 大 能 底 人 r 墨 ナ x r ラ

害 ナ 急 其 事 形 全 古 テ n E -= 21 相 次 迹 末 ヲ 數 7 法 7 テ 7 x v 1 手 用 辨 行 世 世 盃 = テ ナ 力 圧 -1 其 洂 7 用 拘 7 遠 丰 ズ 1 = 1 ス -聖 時 傾 辨 道 ナ 送 眞 事 ~ N 10 7 3 人 賢 勢 得 ラ 意 丰 ~ ケ、 ヲ リ、 1) ズ 1 民 爲 ヲ 趣 力 1 7 テ ~ 1 1 テ 青 聖 聖 得 ラ 道 牛 7 ナ 1 3/ 7 1 3 樓 人 愁 書 ラ 賢 y ズ ヲ テ ナ +" セ 1 1 1 苦 慕 サ 定 島 - IN 1 " 馬 1 書 遊 法 其 法 迹 火 紙 ラ フ w P = 法 ヲ 1 1 急 家 輩 X 島 又 7 = 27 = 吝 讀 サ 1 字 w 君 徒 綱 用 5 1 1 25 嗇 V デ ^ 騷 用 拘 事 率 斗 3/ = 7 n 1 法 圧 1 動 相 聖 炭 尋 ツ 事 ヲ 1 1 ヲ 人 時 賢 當 ラ ヲ 常 1 E ケ 21 E 學 勢 T Ŧ 决 小 ナ ザ モ テ 世 17 1 1 費 w ブ ヲ 姿 法 軍 ウ テ IV 3/ 1 3/ w 7 ~ 1 3/ ナ ~ 17 荷 俗 テ テ ナ = 2 譬 7 ラ ケ 辨 IJ w リ、 丰 3/ ソ 法 7 3/ 3/ ズ V 110 事 テ w 3/ 3 " -ズ 今 2 3/ 圧 若 然 其 疑 從 何 ケ 4 7 ス 多 人 7 テ 事 w 說 3 如 1 E V 及 フ ナ 7 1 其 前 ナ 此 ----1 1 丰 王 w = 用 ラ ۱۱ 行 儘 後 時 シ モ ナ 1 T 1 1 初 文章 45 時 w 劣 7 IJ モ -21 3 猶 凡 w = 用 ナ V 多 N = ~ E 力 時 ヲ 古 20 ザ T 7 IJ 汉 3/ ク = w 7 典 見 聖 候 0 デ , 時 ス 久 w 力 1 V テ 寒 = 1 多 法 IJ 途 ナ 叉 10 3 1 7 書 乘 暑 法 テ 用 大 中 7 = 久 = V 3/ 翰 ヲ ズ 7 誠 筆 心 拘 事 = 七 E 1 求 述 ヲ w 害 斗 得 但 7 1) IJ 1 -~ 調 勢 ~3 w 求 7 奴 僥 俗 及 7 テ 110 3 次 ナ w 1 書 倖 書 其 1) 僕 w ナ × リ、 法 先 F = ス 真 墨 用 付 ヲ 1 25 付 1 堅 同 其 意 走 誠 凡 7 1 尽 = 文 IV テ 眞 ジ、書 固 章 事 ノ事 覺 7 求 ラ フ = b 1 息 意 得 ~ 腐 モ ^ ^ P 3/ x 1 災 7 翰 ザ テ 法 T 五 儒 13 IJ シ 11 n 7 求 4: 定 迁 ナ w 家 1)V = = 3/ 上 然 故 式 ~ ス 濶 1 -3 ۱ر w ~ 遭 ~ 其 y ナ ヲ v 3/ 1 ---1 3 3/ 論 紙 徒 却 文 テ 輸 說 丰 3/ 段 用 其 然 縷" 事 殊 火 叉 ヲ ---7 テ =

7

結

E

付

テ

3/

w

3/

1

ス

n

樣

ナ

n

事

E

r

IJ

3

叉

汉

F

^

110

帆

力

ケ

テ

走

IV

~

牛

舟

毛

繩

=

テ

Ł

7

樣

ナ

IV

事

E

7

叉 道 ズ セ 21 1 V 3 至 時 1. 毛 1 世 7 勢 p 210 中 3/ y, ヲ 風 毛 1 w 21 1 1 20 片 テ 1) ナ 1 ナ 7 拍 E 俗 1 學 ---+ 神 デ 道 = ク IJ 手 ナ v 子 3 7 文 者 無 V 1 V Æ 28 ヲ 京 3/ -其 不 7 益 叉 周 風 " IJ 何 モ Æ 3/ V 儘 ソ 通 1 鞠 日 流 烈 = 公 折 事 ラ w 3 曹 -3/ 1 古 盛 ヲ 1 ~ r 工 w 3/ モ 1 武 3/ 4 7 作 法 屋 = 少 1 7 7 w 1 ~ テ X 1 起 3 根 焰 事 V ナ JII IJ 1 吳 V ナ 俗 1 3/ テ 迹 IV y 盛 合 3 形: ヲ ラ 1 國 シ 吏 其 7 周 1) + ナ 云 18 21 又 7 m. 11 靈驗 用 百 叉 = 俵 " 醴 V V 開 7 1 京 漢 " 天 w 1 17 本 7 110 3 尤 或 丰 1) r 7 下 1 モ 210 王 ツ T 時 1 百 學 至 -洪 時 王 3/ 111 勢 3 崩 イ IJ 28 世 椒 ナ 臣 中 1 テ ナ テ 天 丰 莽 ヲ ス _ 不 1. ナ 民 補 チ 軒 消 常 F 考 1 -天 7 迁 w 7 7 道 F 3 下 ~ 1 理 1 主 ~ 1 ~ 1 7 騷 .44. テ 勢 ア w -7 ヲ 定 w 1 祖 ナ 張 ガ 落 ラ 率 2 格 3/ 21 w ア w -1 IJ 3/ 31 丰 チ 力 リ、 ラ ズ T 相) ۱۷ 1 1 ナ 勞 テ 流 激 ザ 21 ズ T 及 1) 3/ F 昔 V セ 衆 テ IV 3 IV IV ス 110 ナ IJ Ħ. 秦 3/ 或 者 17 故 人 テ 時 IV IJ 1 伯 邦 x 有 1 尊 王 ナ ---b 1 w 勢 = 1 周 或 = __ 崇 難 間 1 勢 勢 所 リ、 莽 P 1 1 テ 家 或 牛 1 ス ^ ナ ナ r 6 1 天 21 1 1 7 時 N 間 y, 時 Æ リ、 w 時 F 平 難 勢 ナ 勢 1 p 中 王 7 モ --ヲ 賢 儀 P y, 勢 遠 叉水 叉 ヲ ス _ 周 1 E 讓 1 1 IJ ナ 7 百 合 1 禮 7 ナ 道 1) コ IJ ナ y 落 其 ラ 折 本 IJ 所 ザ 1 1 テ V IV 1 柔 ザ 外 舊 w w 1 w 秦 荆 人 事 ---叉 事 矢 IV 1 17 18 法 = __ 3 伯 用 甚 神 花 7 卽 ユ 家 7 ナ + 聖 1 7 IJ 多 = = ノ下 ラ 平 T テ ^ 用 -21 ^ -臀 ナ 1 丰 ナ # 111 力 11 身 全 資 E ガ 牛 1 汉 本 1 リ、 ス 體 IV 汉 水 デ 德 E 1 V 义 1 酒 道 1 大 1 "J" V IJ 大 20 P 去 覺 ナ 勢 時 宴 ソ 火 IJ _-1 格 ----IJ 1) 工 1) 分 テ 勢 Tank Tank ナ ヲ 事 T P 國 テ 斷 1 汉 ۱ر 1) 克 ラ ヲ ^ 15 水 " 家 髮 1 時 12 +}-F 及 テ 上 -ス IJ ズ 3/ 7 中 文 輩 V 戶 又 折 勝 w 合 ラ 亂 w = 身 ナ 110

利 E 權 生 T 共 w = 次 工 1 ~ テ -ヲ + 7 ナ w n 故 1 = 殿 1 ナ 樣 IJ 3 IJ \exists E 才 V 7 -デ T 人 3/ 21 丰 權 1 威 云 = 心 オ ナ y, サ w 家 1 老 = 1 1 7 イ ^ 3/ n 110 殿 ~ 樣 3/ 0 3 IJ 1 1 p 3 ケ V 1.

意 テ y, 王 ŋ V ヲ 3 X 本 21 辟 情 見 " T 7 昔 110 1 又 物 深 雅 サ IV 得 今 テ 胩 力 E 1 m 泮 其 昔今 ラ 勢 13 ク 1 v ズ = 宮 故、 答 學 儒 行 當 ヲ 210 3/ 室 1 民 時 n 術 者 3 0 1 28 # 衣 制 今ユ 移 ラ 7 -心 b 1 時 服 務 富 法 稱 事 統 次 勢 = V ズ 其 日 力 ラ ナ ス モ ス 210 3/ 1 ^ ヲ 用 外 ++" 大 n 人 及 1 テ 事 1. 3/ 普 治 日 1. 術 樣 人 先 = ラ w FE 21 用 法 ノ法 ラ 事 7 思 ナ 力 王 思 ウ ズ 1 1 論 1 ナ E 1. 21 1 " 3/ t 器 事 7 事 法 V p 1 n 1) テ ズ E 物 今 -内 ヲ 1. ラ カ 古 V ~ = 3 至 7 1 欲 2111 過 E + ラ 六 法 V ----デ IJ 世 井 ス 次 7 + テ 21 +" 1 テ モ 惣髮 --y, n H 知 迹 = 久 n 法 古 10 v. ス 1 什 ラ w 7 -ヲ 徒 風 カッ 類 是等 治 用 1 ズ -1 1 1 ヲ = サー 1 12 ナ " 初行 7-フ 賞 古 V 形 所 ス ナ ij IJ w w 1 21 美 1 _ ラ ~ 商 髪 謂 1 -ナ 1 21 跡 3/ 用 ラ 似 罪 ヲ ズ、 人 刻 3/ 3/ 蚁 7 唐 w 如 2 1 力 人 家 20 10 舟 用 x 事 事 看 多 此 ス 7 w 1 1 求 E 力 1 ナ ~ 板 害 ヲ 3/ 3 = 7 唐 が剣 3/ ナ 思 IV テ 7 俗 心 今 出 b 土 牛 ラ 疏 生.今 E V 人 1 得 ナ 1 w 事 1 ズ , 脫 派 類 世 ナ 1 久 1) 法 7 迁 民 y, 目 權 聖 -= N -之 好 = 濶 テ 聖 7 力 賢 -威 27 世 ナ 2 教 徒 ナ 7)-" ツ 可 賢 況 ヲ 1 ラ 者 w 反 7 w 1) = 以 意 1 p ナ 笑 1 樣 .7 1 聖 道 ウ 唐 テ = 1." 古 1 1 法 V 賢 7 -7 T 1 事 之道 甚 ヲ 文 ス 行 n 普 1 ラ 3 以 人情 3 議 雅 事 IV 迹 + フ -ツ 丰 者 ス 1 1 1 ヲ ヲ ナ 立 ケ w 外 上 平 E 得 v 求 モ 1. テ テ = 逆 1 110 ナ 賢 T 1 n テ 1 久 E 1 學 t 1. ナ 聖 E b 1) 7 1 w ~ 時 時 校 罪 8 ラゴ IJ 賢 法 勢 論 -.12 勢 其 ヲ 事 21 人 ジ 1 7 毛 ---ズ。 建 左 剩 真 姿 ナ = ナ ナ 1 H T

時 何 7 1 用 フ サ 冠 1 ナ テ 3 y, = 岭 中 + 軍 V ŀ V 111 ナ フ 실실 3 1 V 味 多 モ 法 又 ナ E 1 百 v = セ 110 玉 -道 ソ ラ 21 丰 ザ 位 小 年. 1) 110 1. 25 テ 1 故 ナ 1 相 其 ナ 1 力 功 ク 7 10 1 7 V 時 者 1) 權 得 萬 功 IJ ラ -功 1 1 110 世 . 事 = 邦 料 又 テ ナ 梁 ザ ヲ メ ナ サ T 王 但 王 V 1 T 玉 7 田田 丰 Y V 1 黎 攝 今 X 17 平 圧 V ラ フ 何 1 故 AVI 1 圧 IJ 民 圧 1 夜 1 耳 空 行 汉 1 21 何 右 今 於 テ 魯 戰 ス 云 IV 7 = ス 言 -Service Spanning 大 場 平 死 7 檸 * 1 說 無 IV 7 9 E 儒 事 デ ~ 如 時 督 ス = 大 _ ナ 法 1 施 者 17 7 治 至 ナ 君 w 1 ラ 雍 = 1 リ、 3 ッ 醫 病 -E 1 子 テ 丰 F V ズ 雖 in 2 者 17 丰 111 T 人 3 1 3/ 7 得 21 ウ 3 テ 司 1 與 功 フ w 1) 1 ^ V 下 車 其 云 ケ 174 テ IV 樴 何 3 水 3/ -力 方 毛 才 手 ヲ 媚 吏 モ 1 ナ 1. ヌ 補 1 尤 則 權 ナ 3/ 力 = サ 權 T 1 = w w 1 ウ 110 之 ナ ラ + 位 IV ラ ケ 位 E 1 3 平 引 丰 1 鲁 ザ w 至 3 V ナ 3 IJ 1 ŀ テ 丰 1) 7 大 IV 國 4 w 1 1 11 21 3 下 大 斋 藥 1 ユ 竈 大 1 1 V ^ ~ 7 7 義 手 治 眞 ナ ^ 蕃 111 21 邨 汉 IJ 3/ -1 平 ヲ 道 無 媚 此 息 1 ナ V ナ 重 F 害 上 压 日 + Ŀ 云 ス 1 用 w E" IJ 7 = セ 醫 1 行 ۱۱ 1 ---水 F 1 E H V V 論 真 ズ、 1, Z 7 E = 20 1 叉 17 12 118 王 談 天 T V 位 1 1 大 1 7 V 1 ŀ コ 或 兵 ラ F 政 デ ŀ 汉 1 ヌ フ 1 = 1 ^ 家 家 3 1 績 心 ズ 俗 ナ 用 1 ナ 王 云 110 率 得 -1 ^ 談 1 ---語 IJ r 1) 王 V 安 故 ソ T NIN テ 義 IJ 汉 110 相 モ 格 堵 ラ 座 事 7 中 w V 大 = 僧 故 江 F 敷 ŀ ズ = 權 + 委 都 孔 F 3 王 = ----臨 ナ 吏 1) y 通 佛 聖 功 子 柄 1 內 w 兵 ス 3 宰 ジ 人 司 1 7 檀 ヲ IJ ワ テ ~ 之大 大 經 叉 家 握 7 織 ŀ コ _ 1 丰 聖 難 IJ 前 ŀ 1 2 ラ 吏 ナ テ IV 1 拙 間 テ 7 經 家 今 寳 天 IJ -_ __ 21 1 城 ŀ __ 子 叉 テ 1 テ 丰 老 小 B 3/ テ 1 皆 道 取 T 堂 毛 _ 高 位 -As ١٠ 21 1. 聖 埓 理 備 ワ 罰 小 位 大 委 3 上 丰 ŀ 3 督 ヌ 吏 司 モ y 21 1 所 7 1 7 T

經

世

7

家 手 良 搦 企 ヲ 1 7 1 = 3 y ۱۷ " n 眞 1 運 醫 那 7 補 ナ w 7 ^ = 1 饑 サ 意 動 7 テ 惡 1 ツ 共 フ 1 IV ツ ^ 饉 V 養 ガ 7 才 イ 5 7 3/ p 3 1 弓 騷 214 者 病 テ 4 3/ 3/ サ 1 フ 111 ~ ズ 無 亂 矢 流 ラ 牛 1. T 7 7 1. 7 3/ ^ -事 1 = 除 ザ 誅 y 誦 ス 時 IV ナ モ テ 1 沙 安 、承 21 治 p 戮 敎 牛 ス w w 4 IV 穩 走 汰 叉 ウ 身 w 13 ナ 7 IV 21 3 = 氣 IJ 1 = 或 立. 7 1) 25 1. 7 -モ 1 3 平 湯、 硘 饑 27 養 養 誤 1 21 1 3/ テ 1 H 手 IJ ス 饉 I. 陷 藥 y 人 P テ フ P 見 分 ~ 21 騷 テ 夫 民 ヲ IJ 脑 ス ヲ = = テ 二 配 ケ 迂遠 亂 歸 湯 ル 1 喻 1 3/ 1 前 彼 手 22 IJ 害 テ ス = 7 ス 3/ .25 1 テ 組 7 + 3 導 ~ テ 類 ズ F w ヲ ŀ リ心 1 力 救 3 テ 除 7 心 T 3/ 牛 ナ = 1 w IJ = E 火 歸 用 得 y, 1) テ ス 7 ツ 常道 臨 x _ ガ 急 3/ ス E 飲 久 1 7 此 +" 時 ケ IV 食 故 テ 1 メ 1 力 n ソ w ヲ ヲ ワ 1 大 ナ ナ r 風 1 7 = -施 水 2 力 1 ス 藥 以 リ、 事 無 y 俗 リ、 1 急 勿論 ケ w 7 シ、火急騒 事 テ 力 テ r ヲ 1 引 x 1 1 精 凡 ナ 聖 用 安穩 N = 大 鱼 汉 1 聖 ŀ 賢 攻 7 氣 w 又 定 事 忽 10 = IV 賢 墼 7 牛 = ケ 1 1 ナ ŀ r セ 1 時 道 助 至 動 p = ス 1 x 1 7 w ズ n 道 非 1 ソ フ 1) 7 ナ 21 モ w 7 ス F b 孝 用 1 亦 テ w 1 7 = 7 1 丰 1 力 n 時 良 悌 Ł ス ス ソ 1 批 7 1 ^ = = ۱ر 難 黄 醫 忠 時 1 T F IV -IV 火 F. 1 h 救荒 サ 信 如 丸、 P y, 3/ 1 21 = 1 地 E 3 人 非 IJ 1 1 ク 3 ŀ P ナ 益 7 道 心 常 濟 武 力 ソ r ソ -ラ " テ 或 養 得 IJ 氣 民 備 ケ _ 1 1 1 110 力 害 , 症 人 P 湯 w ゔ E 1 ソ 兵 1 水 フ 病 者 心 y 謀 7 1) = E V = 1 V 7 = テ 去 來 從 類 思 7 プ 6 ソ ソ 1 21 力 F 療 y, 力 全 w ヲ ヲ V 2 y 力 フ ケ r 體 用 ラ (. (. 利 テ 工 ス 術 = V IJ 亂 法 w 7 7 1 E w 7 E 1 風 興 或 定 テ ガ 7 ヲ デ V w 1 1 心 亦 如 リテ、 作 仕 者 儀 改 3 ス せ = >> 聖賢 事 形 漸 1 法 法 1 テ x 丰 ズ 3 ٠٠. 取 體 或 又 ナ T 7 3 ヲ r ŀ K

世 時 見 用 IJ ヲ 1 ヲ テ N 丰 w = 3 1 見 平 所 聖 是 法 -モ = 7 捨 ~ 1 テ 賢 督 非 大 用 ナ V. 1 = セ 丰 ^ 1 云 所 4 什 ナ 1 E 1 ン リ ザ 7 Ł 1. v 道 行 大 斷 IJ 7 1 テ 紬 3/ 毛 モ ---v 意 物 貢 法 暴 h 7 用 ナ 1 110 3 ガ -迁 ナ 孟 難 著 法 後 v ヲ 1 3 捨 7 ス 1 遠 1) IV 得 形 世 テ 1 T ス 3/ 1 ~ セ #" w 叉 云 如 1 1 セ 丰 -21 = w 又 平 論 物 至 3/ 7 ŀ 此 牛 L 1 IV 1. = 平 テ 經 成 h 云 人 ダ ŋ -7 ス ~ 心 P 間 兵 資 濟 1 1 古 10 1 得 1 1 ナ 12 ナ 大 法 費 農分 1 -今 今 錄 1 通 モ y n 道 合 事 丰 IJ = 1 毛 = 1 -1 論 暴 作 21 21 1 小 r 1 21 p 時 七 V 礼 事 定 又 3 虐 毛 ウ 縋 テ 3" ヺ 13. ラ 3/ 寬 察 後 E ナ 力 ++" 免 1 什 1 1) 117 ヲ ----緩 今 ラ 1 ラ 酌 モ テ 1 = w 3 31 21 ナ b ズ 故 1 者 聖 ス 中 " 7 ラ -3/ 汉 定 心 1 IV 甚 ス テ + 人 h IE IV 1 天 者 得 其 免 占 1-高 出 ~ 1 1 3 w F 7 如 下 之 -久 テ 腐 牛 10 ~ 1 ス 1 F w 3/ w 的 如 法 故 K 儒 中 1. 1 1 1 ナ 1 テ 21 モ 1 此 モ 3/ 毛 云 制 1 = v 1 無 良 時 1 泥 _ 小 210 說 1 論 ~ = 過 事 勢 今諸 法 法 共、 テ 勝 定 = T 4 T unn Turniti 則 安 似 平 ヲ IJ テ = ヲ ズ 1 手 免 桀 什 穩 睯 1/ 甲 及 3/ 3/ 方 7 3 里 不 1 ラ テ 又 用 w 何 1 IV -Z 17 ノ法 1 肝护 衆 大 ズ 今 r E 及 1 モ 3 w V 時 意 意 = 1 人 1 = w 王 7 則 中 = 事 ナ ۱ر 歲 俗 モ ヲ 但 1 1 b 貉 1 行 1 體 悦 得 道 w 聖 定 其 役 法 ヲ 道 ナ 力 7 7 F. 人 ナ 免 人 V 1 E 理 3/ y ---~ 7 從 210 p 7 ヲ 丰 1 " IJ = 難 4 丰 用 煩 フ イ ソ ブ 力 IXI 1 殊 1 ラ ケ v 7 = 力 歲 勞 r 7 2 V E 1 云 ズ V 1. 外 ナ 力 ^ 1 ヲ 用 其 IV 說 E -218 T. ザ + ザ 考 ナ 叉 IV w 3/ モ 7 T -----時 n w w ^ 者 牛 必 2 ŀ 孟 拘 什 3 马 腐 ガ ナ テ 1/2 定 __ XI ナ 子 1) 1 ---矢鎗 儒 y ` 法 叉 王 歲 免 テ 3 V 1 = 3 世 イ 私 云 後 1 ヲ -1 110 21 IJ 長 所 1 力 立 甚 高 論 夏 世: 多 7 1 7 _ 人 爲 檢 刀 ナ 概 v w 7 1 F 3 F

聖 賢 1 道 何 V 1 邦 何 V 1 時 = 毛 行 1 V ザ w 7 1 ナ 力 叉 迁 遠 = 非 w = b 7 論 ズ

1) 加 鮮 化 然 得 用 ナ w 3 w ズ 聖賢 ツ 論 琉 力 尽 E v 1 1 = 1 道 徒 難 7 牛 球 ラ 1 w 114 モ 云 代 唐 者 全 ザ 7 ナ P 安 -= 3/ 1 道 y, 南 IJ ŀ ~ 1 フ 力 形 T 7 1 IV リ、 法 唐 迹 7 3/ ナ 21 交 1 -1 三 制 趾 故 毛 行 = w テ = 毛 3/ P 圃 代 拘 21 テ -^ 1 7 毛 1 1 故 7 稅 唐 唐 唐 土)V 如 1 3 1 1 V = V 什 聖 者 難 1 7-ラ 地 1) 1 1 丰 告 至 後 天 テ P ク Ŧ. 力 丰 ----1 n 1 極 21 勿論 1 何 聖 リ、 古 1 世 地 1 1 = 告 ナ 法 數 自 賢 P 唐 = = V V w 虞三 千 白 ナ 7 毛 然 b 毛 210 1 テ 7 平 眞 ス 魯 年 同 ソ 人 1 ナ w 告 F ナ 代 人 グ 風 意 时 1) 3 1 = 1 ナ 1 後 3 法 F 3 サ 氣 亞 1 中 7 1 天 ŋ 中 ノ丁 H 111 7 SIL 1 制 -7 3/ 地 制 從 盛 蘭 テ ラ 本 --1 -E 7 自 用 道 簡 陀 内 1 t 七 力 450 v -----然 H ス E 墨 行 テ -ヲ 1 w -1 1 難 n 本 如 行 故 竟 21 3 モ w 1 1 風 如 尤 牛 + 君 ナ \equiv 21 = E 毛 V 7 氣 丰 H 玉 代 1 ŀ 7 = 1 ヲ 1 IJ 3 = -本 全 聖 七 b ナ 重 e P モ 3 7 從 3 r 平 賢 IJ w り、 1 3/ IV 云 1 E 三代 y テ 賢 風 7 30 力 ~ _ 1 1 H 今 デ 勿 父 勿 1. 法 テ 1 3/ + 1 7 本 論 論 道 制 9 ブリ 日: モ モ 21 時 -今 遙 唐 1 1 1 中 7 サ 1 1 事 自 兵 殷 平 IV 亚 士 土 -3 3 V -體 然 ヲ テ チ 3 110 ス 21 地 督 ヲ 1. = 農 别 今 夏 テ 力 1 1 3 同 自 毛 ガ 3/ 風 -ナ ナ 1) 3 己 今 ス 1 3 ٢ 1 y 寓 92 氣 妻 天 シ 如 可 7 1 テ 1 久 ラ 今 3/ 流 世 IV 工 地 此 子 テ -30 7 百 從 ~ 自 7 ナ ヲ 力 モ 1 義 -7 = 姓 也 然 時 至 フ 方 12 1 ラ 大 21 1 = ガ 學 ガ 1 日 = ツ T 意 ナ IJ ズ 力 軍 卽 風 ラ 者 テ 3 本 21 ク 21 7 V 數 兵 平 周 10 氣 1 7 3/ ズ ス 110 V -資 T ラ ラ 1 テ 110 丰 モ = 2 28 ナ 從 殷 17 類 叉 天 决 车 1 毛 ズ 加 1 道 此 n ソ フ 力 1 カ 地 3 1 1 3/ 朝 = 後 片 1 ナ 同 自 テ 21 1 1 ラ 心

自 用 劣 出 沂 ~ 汉 25 > ソ フ、 V 求 V 3 ラ 剛 圖 世 ŀ ラ v 1 テ 3 3 7 メ w 奮 誠 明 著 ŀ Ł w IJ 明 17 風 志 w = E 今 ツ w テ 实 斗 E 1 1 1 1 セ _ 水 ナ テ 覺 云 世 1 X 干 魚 1 w = 5 1 集義 崛 君 白 E -云 ユ 君 ŀ 歲 山 會 1 V 7 起 難 交 テ フ ナ _ --1 F 人 110 遇 新 時 新 テ 云 世 和 ス 3 E = V ヲ 同) 世 +)* 至 井 學 書、外 風雲 1. 樣 w 太 ナ 俗 筑 = サ w ラ 術 モ 郎 千 ス = ŀ 剛 故 T V ズ 後 ノ會 殿 成 = 3 同 王 書、 學 宁 誤 明 IV 211 汉 ۱ر ŀ ^ 37 -循 千 可 大 誠 殿 7 1 10 _ 7 w 7 1) ___ 木さ = 一情 君 學 テ 度 首 1 歲 得 有 ナ 1 E 於 鐸不 今 ナ 或 剛 ヲ T 3/ F 難 1 テ 7 夫子子 ッ。 時 問 故 IJ 明 ナ 1 = 云 丰 但 ŀ ۱ر 時 等 ラ テ 至 容 1 1 ホ 所 ナ 眞 3 事 1 君 3 = w 以 易 = 1. ~ ッ、 丰 = 業 テ 丰 ナ T テ 7 ナ 聖賢 = ナ = 相 相 人ノ モ IJ 汉 デ テ ラ y 王 ۱۷ 其 手 今 リテ デ 0 手 テ 其 モ 見 オ 他 ヲ ノ意ヲ 終 學術 H ヲ 天 其 出 耳 ワ ナ 學 得 甚 目 求 F 目 -セ 牛 君 サ 術 王 前 事 ヲ 130 メ 其 1 1 3/ 7 w 得 JE. ١٠ 尊 驚 玉 功 大 人 _ 力 b 臣 1 ズ 3/ 汉 見 政 信 要 ١٠ 口 210 = r カ 7 朱 IV 丰 績 熊澤 w 10 7 = テ ス 1 ~ IJ 名 人 得 ~ 7 舜 膾 古 3/ テ ナ 1 儒 _ 聖賢 テ其 カ ア 了 所 ラ 炙 今 水 水 ラ r モ ラ ラ 介 爲 w 魚 セ 1 1 ヌ ラ r ズ 才 名 ヲ 1 ١٠ リ 歷 E 1 1 E ザ Z 意 サ 1 信 ヲ 士 ナ 史 交 1 セ 1." IV y, 7 ズ、 T Æ ナ シ 任 ヲ ナ ヌ = モ 故 云 得 ラ 故、 リ 力 ナ V 3 七 3 荷 H ~ 汉 其 甚 1." w テ ١٧ 3/ " 且. 力 w セ 外 希 白 毛 = _ 國 \exists 歎 ١٠ 卑 ラ 眞 y T 政 或 家 人 ナ = V 政 ノ至 阿 ズ 儒 介 務 其 21 1 3 w -務 1 E 水 政 事 IJ 3/ 君 1 1 = ナ 政 1 志 夕 才 力量 カ 戶 俗 功 ŀ 其 28 才 IJ モ ア ^ V ナ 臣 7 1 ヲ ヲ ~ T w テ サ T F* 光 古 新 リ 立 同 28 乏ク、 IJ ナ 1 V 介 穷 今 IJ 王 w 時 丰 人 1. 大 書 カ 卿 吾 = = = 3 ۱۷

真

E

=

叉

卓

玉

邦

生

=

1

君

IV

モ

其 以 重 故 ガ 信 4 ナ ~ フ N 3/ 3 E 君其 役 君 人 通 仰 ラ 1. 久 ナ r v iv IJ V 時 E 110 110 E ナ 次 3 IJ ス IJ = 1 其 ラ 千 w 思 所 臣 テ n -> 叉 大 諂 謂 君 デ ソ 者 百 大 者 P 3/ E 力 7 = 客 抵 フ 直 1) ナ ナ 1 1 人 力 12 13 1 V 儒 內 今 叉 テ 牛 心 モ 心 丰 = w 中 ップ 21 薄 H 得 其 真 ナ 1 = = _ 1 -誠 = = 云 時 儒 _ 世 叉 テ ク、 5 1 V 15 E 10 V 者 萬 -1,0 人 V = T = 及 + 深 眞 モ 或 世 生 古 12 儒 210 人 モ + 1 內 儒 誠 7 今 朋 左 y 君 7 者 V ~ -E = 信 1 1 憂 出 -輩 F 牛 1 ソ 1 = モ 云 シ 7 常 人 云 华 同 1 E ソ w 7 1 1 ~ テ F 非 役 首 志 時 b 1 1 E 分 1 1 牛 ソ = 儒 學 ナ 尾 7 1 容 毛 7 云 ズ T 者 r 1 1,0 惯 易 云 者 者 E ~ 水 w デ 道 w 1 今世 1,0 1. ~ ŀ F 人 3 3 2 -E H ス P 得 1 云 IJ 1 3/ 君 E 7 T -人 30 30 忌 意 君 難 者 3/ テ 1 E r w ヲ = サ 所 學 深 其 3 力 臣 IJ 力 3 力 _ フ テ 相 謂 者 几 嫉 ラ 君 1 ナ 3/ 1. V 故 3 其 世 遇 儒 民 ズ 1 F 毛 牛 E N チ --7 云 者 及 貴 テ 1 E w 力 其 デ ガ 役 千 學 者 水 ソ 1 F. E" ^ 1 1 君 モ ~ 魚 百 者 世 其 1 信 1." 云 7 モ w 7 + 人二 1 叉 1 他 時 E 1 = 1 亦 ズ 者 IJ 丰 9 交 同 自 E 25 云 1 = 1, N ŀ 木 モ 出 己 坊 7 人 r F 時 ナ 毛 -1. P イ 二人 ツ、 頭 主 ガ ナ = 1 3 IJ リ、 28 IJ ナ 身 生 數 Ш テ ス 1) 1 汉 1. テ IJ 見 世 人 ヲ Z 7 種 伏 ラ ス 7 7 E 出 誠 デ -17-~3 -IE. 1 T w 種 -V ズ 其 韶 亦 ナ 時 聖 志 テ V n 4 1 3/ w 1 臣 聖 花 賢 フ ク 7 牛 110 21 1 ヲ V = T ナ 容 b 天 皆 人 賢 心 w 28 3/ A 1 1 3/ 7 道 F 下 9) ナ テ 易 君 大 類 A ナ 21 1 道 消 歲 或 後 槪 ~ T 4 ナ r 1 1 7 君 中 人 テ V ヲ ラ = y 3/ ヲ 3/ 1 1 = 11 其 テ 民 條 枉 誠 信 N ズ 丰 7 1 = w 7 度 -殊 家 聖 者 w ヲ テ 仰 --1 老 叉 詳 督 -1 1 ナ r ナ 力 亦 得 テ セ 名 意 萬 ソ リ、 ~ ッ 甚 ザ 力 IJ = 1 難 __ テ 論 聞 道 途 1 ナ 人 -IV h ~ 13 丰 外 叉 數 得 者 7 丰 7 テ 10 1 = 所 ズ _

聖賢 7 我 サ 間 我 テ 人 毛 ス ナ テ v 牛 3/ 信 亦 1." 人 T 1 218 カ 7 = 7 v サ 其 貴 君 志 1 合 加 丰 = 仰 15 1/0 1 1 テ 任 道 此 p 他 7 牛 サ 7 ス E E H 其 所 云 ウ 明 真 3/ -ヌ ナ セ 丰 = セ 1 生 リ、 ナ 7 7 テ テ 7 フ ŀ 1 力 -1 v 長 事 聖 千 210 ク、 7 b ナ -24 1 = -1 ラ 新 謀 督 殊 故 耳 テ 百 7 面 1 21 H 後 倒 利 一千 行 力 ---E n 人 -1 カ = 聖 先 家 入 段 故 道 ナ 益 w 1 7 = ゲ 至 督 内 祖 中 V 1 n H P ガ b ---1 何 y 故 長 致 7 テ 牛 1 110 w 1 3 -紅 奥 V 內 道 深 3 y 1% E ジ ~ モ 葉 ガ サ 以 容 テ テ ヲ 丰 7 1 = 10 貴 モ 7 V 行 信 信 來 有 易 17 人 b 久 7 同 1 ۱ر 卡 w 服 數 來 + 云 フ ナ ŀ ズ ナ 3 1 ナ 代 故 ラ ラ IJ ナ IV ス 7 云 7 1 V 仕 ザ デ 1. ヲ IJ 1 w 7 終 テ 分 道 ŀ 云 力 或 來 w 1 = H ١٥ر 25 表 チ -7 家 故 + 容 b フ サ w 丰 1 唱 21 住 E 容 木 7 易 君 丰 E 7 ^ チ 汉 居 3/ フ 信 數 民 易 ナ 1-所 1 21 -IJ 10 w ナ V 却 丰 以 年. 1) = 3 ---10 1 自 1,0 者 1 ズ 爲 取 テ ナ ナ 難 ヲ ウ ナ テ テ 3 云 3/ 純 不 17 1) リ IJ ^ 7 21 ケ 7 テ 17 又 思 難 テ 力 ツ 辨 相 __ 2 分 疑 V -ラ ナ 7 當 P フ = + 3/ 3/ 110 ナ 110 1 E ラ テ ガ 所 力 ナ IJ E E 勝 惑 w 7 11" 佛 以 來 來 行 17 IV 1 w 7 手 頃 フ 叉 有 IV ナ ŀ - = w w b 7 we V --24 心 者 年 難 叉 今 國 7 リ、 E ŀ テ 1 ナ ソ モ 家 貴 生 世 法 E ソ 1 モ IJ. E IJ 17 T r 來 老 得 p 3/ イ 1 ---1 安 聖 IJ ッ、 千 ゥ ソ 或 E 云 w 1 力 H 樂 百 賢 又 詞 丰 -フ 年. 1 1 1 = 女 叉 覺 存 7 人 = 3 何 ヲ 1 人 1 E 屯 色 道 ナ 何 ガ IJ ツ ナ 君 ^ 如 分 = 1 V 游 氣 此 w E 王 ŋ v 7 w -1 V __ 樂 ____ 行 テ 故 テ 時 117 7 丰 ガ 7 3/ 111 ---1 入 人 智 誠 術 末 仕 過 ヲ 7 E 3/ V 7 思 家 (" IJ 惠 ヲ 世 ナ ~3 7 置 +" モ 1 -13 × 代 Ŀ 中 1 フ ラ 來 毛 = 1 + 3/ 才 替 出 志 1 E ŀ n 如 デ ---丰 1) 1 71:" テ、 道 者 通 111 ラ ヲ ラ 牛 ١٠ P 1) 1) 頭 云 ナ テ 達 ケ 人 ナ 3/ 2 iv テ 王 =

趣

二八

經 世 談 卷之

0 聖 晋 1 道 1 世 = 行 1 V 難 牛 所 以 7 論 ズ

惠 力 深 世 1,0 カ 叉 * 毛 n ^ 六 普 ナ 7 7 ナ 产 + = 1 1 1 0 婦 大 7 宰 ア + E 丰 n 27 E 今 力 1/2 女 名 21 7 相 ラ + ~ Z 百 子 何 云 " モ ラ 丰 17 ナ 1 4 晤 聖 用 人 110 1. 次 力 ズ 1 n 男 サ 賢 緣 = 力 云 n 弱 3/ = 細 五 IJ 類 7 丰 25 -5-V -1 1 道 民 + ナ 三人 7 110 ŀ 1 1 1 I 思 中 者 古 ラ 毛 n 牛 1 1 載 多 果 7 世 ナ 7 ヌ モ 3 木 -7 T テ ク IJ ナ 1 = 難 IV 3 7 君 行 者 4 ナ ル 21 行 IJ 1 木 ^ - 3 書 リ、 稚 德 7 7 -長 フ 1 力 膈 告 w デ 11 ス 丰 20 21 1 量 剛 白 ソ ナ ラ n 頃 1 1 p Ħ ブ 7 人 7 フ E P 明 21 V V IJ 故 リ、 希 110 w ナ 1) 1 7 = 大 ス 以 心 ナ 名 モ -示 w 云 1 得 方 明 IV 1. ガ E 3/ = ソ 3 21 丰 1 1 1 ナ 1 力 28 7 w 1 -他 者 7 7 -ソ テ ヌ ~ V T 貴 其 テ ナ 1 210 7 w 丰 1 -カ ッ、 婦 生 多 家 真 時 ソ ブ F ナ p 女子 李 H 7 ノニ = 長 1 ウ __ n 況 ナ 3/ E ナ ス 1 3 者 1 愚 y, ラ IJ 人 丰 7 w P F ケ b テ 人 ナ ソ 云 モ b ++" 3 V 3/ 者 聞 其 121 1 V. 云 w 1) 110 21 テ 才 了 婦 入 フ ナ 7 外 狂 E 次 女子 智 ラ 云 細 7 ナ 17 1 V 言 久 眞 114 サ + r E ズ 3/ 1 叉 -弱 -世 IV ス " V 1 -~ 1 諸 (-界 仲 1-ヷ 3/ 3 1 = 物 3 云 役 間 テ 11 1 v 五 丰 1 V テ 者 迷 人 人 3/ 何 r 3 ナ 4: -間 才 得 テ # N 1. 7 モ 毛 フ V 安 サ 1 智 7 7 1 7 1 モ 1 qualit Specielo 人 1/2 7 To = ナ 1 1 ナ 人 V E テ IV 3/ 3 3/ 7 作 IJ -V 人 丰 Æ テ + 1 _ 1 V 23 1) 7 君 人 云 セ + 1 圧 ソ 7 ヺ E 者 畢 7 # テ 思 ツ 1 1 モ 11 E 學 益 今 人 7 牛 r F 12 フ 1 竟 奥 n 君 智 1 木 x 3 ^ F 1 3

經 世 談 錄

〇聖賢ノ道ノ世ニ行 ンレ 難キ所以ヲ論 ズ。

〇聖賢 時 勢 (ノ道何 V v ズ ノ邦 2 テ 古 何 法 V 1 1 迹ヲ 時 = 用 毛 N 行 ٧٠ > 國 レザ 家 ノ害 n = ŀ ŀ ナ ナ リ聖賢ノ意ニアラザ ク 又迁遠 ノ術 = 非 ルコ w ŀ = ラ論 ŀ ラ論ズ。 べ。

〇臣 下 ノ賢愚邪 正 ヲ 3 7 辨 别 ス w 心 得。 0

ヲ

ラ

〇今時ノ人ノ國家ノ繁榮ト 心 得 B ルッ 却テ轰微滅亡ノ殆 = ナル ŀ 云 = ŀ ヲ論ズ。

超

世

談

卷

之

論 益 或 1 219 皆真 于 ラ 僥倖 3 ナ 24 當 ザ ガ + 至 志 1 世 ---N 7 聖賢 者 ネ 愚 7 3 1 ナ 事 ガ ノ言 w ラ フテ 務 人 ノ意 荷 ズ、 君 ŀ -明 人 云 宰 ヲ得 且 害 卑 ノ訾ヲ ナ 相 1. ズ、徒 陋 ヲ IJ モ = 示 ナ ŀ = 3 云 力 ス 3/ コ 三聖 テ、 テ 共、 ^ = V 取 1 y ヲ 一賢ノ言 畢 國 捨 少 毛 3 竟腐 1 ナ ザ 家 亡 力 E n 3 = ヲ耳ニキ 儒迂滯 ラ 所以 y × 施 永 ズ、 1 3 久 テ、 ナ F ヲ 予 " 欲 ノ論 1 保 斯 ス、 依 口 ラ理 民 -ツ = ~ 古 アラズンバ、 = 唱フルノ 言ヲ連 カラズ、 補 人 云、 7 w 患者 ネ、 3 1 二ツノ F ナリ 聖賢 千慮 曲 絕 士 テ 者 如 必 權 無 1 有二一 意ヲ以テ當 斯 詐 同 3/ ジ ŀ 1 7 徒 云 說 力 得 或 ラ ~ = ズ 力 V ŀ 21 テ、 古 ラ 世 1 ズ、 果 今 1 _ 徒 施 -^ V 共 博 テ 3 ス = 或 1 達 V 3/ 萬 術 水 其實 力 3 ラ ヲ =

文政五年壬午冬十月

仙臺鼓缶子記

ザ 聖 術 以 ガ 所 -テ 力 24 3 2 賢 昭 平 -テ w 力 ŀ ツ ズ 1 古 於 者 然 3 書 生 " 1 1 4 力 1 法 テ、 何 多 テ 頗 數 及 1 ^ V V 聖 平 所 ラ テ -1 1. 1. 浩 + 3/ 賢 賢 拘 爲 況 獵 卷 コ 3/ Æ モ 3 修 治 ヲ 0 夫 21 V 2 p ソ ス IJ = 己 型 考 終 過 n 7 1 = w 7 ŀ 人 精 者 心 = 資 治人人之 V フ 1 +" -1 1 微 其: h ヲ 1 IV ^ ズ -ハ 道 能 書 奥 几 存 树 = 1 1. 野 書 經 蘊 旨 + 家 ス 1 ヲ E 道 史 ザ 禮 池 ヲ 濟 ヲ 7 餘 w __ 稗 = 以 推 居 悲 窮 今 年 7 w 世 2. 於 編 務 テ 1 ヲ 7 日 3/ ス 2 = テ、 1 馬 幼 亦 3/ 用 1 テ 1 = w ŀ 道 論 ヲ + 數 4 w A 1 亦 F = 3 異 御 數 故 + 能 7 間 y 1 10 1 端 學 年、 ナ 如 治 窺 能 ス 华 3 7 ۱ر 1 遺 w IJ + __ 1) フ ズ 問 2 ١٠ 書 7 7 雌 所 ソ 忘 1 21 w 3/ ズ、 7 ~ 百 3 7 叉 事 1 テ 事 3/ -3/ 間 -ジ 力 口 接 ソ 所 テ 於 iv 王 1 ク、 我 謂 世 V -テ 的加 = 1 h 3/ 共 似 成 1 絕 7 = 讀 ソ ___ I 風 事 身 壯 チ 至 文 P 久 2 1 y 于 ヲ 所 者 テ 7 百 w w = -於 頗 讀 敢 旣 諳 ダ 7 1 1 3/ 1 テ 志 書 往 デ 書 數 テ テ モ 3 記 ヲ 伽 談 紕 儒官 7 1 7 ス 中 コ モ 1 間 齬 得 繆 語 記 七つ 力 1 = w -テ當 聖 (孟 ス ズ、 自 V 7 r ^ せ 1 賢 員 w IJ 端 1 詩 ラ 7 ズ 己 = 時 以 能 書 1 3 17 ズ _ = 意 備 1 規 易 諸 = 1 テ 3/ テ ۱ر 諸 多 身 施 矩 テ、 自 春 ラ 自 ズ 子 ۱۱ 史 ク、 以 ス ラ w 悔 -秋 1 1 = 晋 者 平 我 書 テ 中 及 E ダ ŀ 至 ソ ヲ 亦 賢 身 10 亦 4 ラ F, イ IJ 當 ラ 視 久 程 1 自 3/ ソ 小 ^ 1 テ 法 規 律 世 朱 IV w 煮 1 F. 2 3/ > 1 故 矩 大旨 = 氏 -ッ w 3/ 力 毛 幼 迹 施 テ = 7 = 1 心 丰 是 ソ 合 書 讀 -ス 1 ヲ ヲ 時 人 得 拘 子 能 留 1 1 7 ۱۷ 1 乙

經



經 世 談

櫻田虎門著

然、 31 13 索隱 n 1 三日、 (1 1/1 テ、 管子、 秦二 司 始マリタ 馬 法、 皆六尺爲。步、 n ト云 = ハアラ コレ ズ ラノ説ニ 3 v 210 -六尺爲」歩ノ一句へ、 事 1 序 = 記

妻子 冬則 八家 毛 之宅、未"甞言"廬舍, セ 3/ 詩 諸 + 210 或信 家辨 飲 畢入,於邑、轉徒靡、恒、 E = 耕 1 E 食ヲ持 也、 夫ソ 餉 八家、 日、 1 餉 テ、 公田 1 3 各隨 廬舍 1 > 無用 田 處 廬舍之說、 其便、 也、詩中、田 三往 = 4 ノコ 歸 = 111 y テ 食 耕 ŀ r 合、之爲、邑、 民必不、樂、先 始於班 ナ 久 3/ 夫 リ、 テ 二食 有」廬、僅 IV ~ 3 農 丰 21 3/ 固、 夫邑居 シム 7 ŀ 田 諸儒固 叉曰、 王國、民立、法、、必不、如、此、 IV 間 也、 ナ 憩 3 ッ、 ワッ デ、 又農邑 息 以一在」野在 中 是耕 田 力华 畝 = 之 與一國邑一 町 遠キ ノ隙 所、 ラ處 中国、 故 ヲオ 五 = ' ナ 不」同、 畝之宅平 各分"畝半 ッ、 3 " 飲 食 モ 叉日、 ヲ 古今共二耕二 H. 3/ 原可」居之 公田 以 ッ 耕 1 夫 如 合二孟 3 中 往 春令、 持ラ往 1 來 廬 地、 子 1 勢ヲ 舍 餉 說 民星 アリ、 ~ 便"於農功」或 = 省 然孟 出 妻子 煩勞 7 在、野、 餉 ナ 子五 居住 y, ノ甚 トハ 畝

公 田 說

百 ŀ 唐 歩ヲ 面 書ヲ ニテ、 ۱ر 五. 里 三百六十 一尺ヲ歩 參考 ŀ 驛道· ス n コト ナドハ ŀ 歩ヲ里ト w シ = ١٠, 三百 古ノ・ サモ 大概 ス、 一歩ヲ里 アル 如シ、 ソノ代 宋以 ~ 人歩ハ尺ヲ論ゼズシテ、 シ、 下 ŀ ノ制 ·皆同 ス、 度 ソノ外人間 是唐 ジ ニアワズシテ、 是宋 ノ十里ハ、今ノ一里五町四十歩ニアタル、 ノ十里 = 通 用 ハ 古法ニ協フナ スル里數 依然下周 今ノ一里 ハ ノ六尺ノ歩ト y + 依 四 然 町 ŀ -3/ 當 テ 合モ 人 IV. 步 然ル ノナ -宋ハ五尺ヲ步 テ __ y, ツ 是 モ y, ۱ر = 制度 ノ故 \equiv

テ、 長 サ 唐 暗二 ١٠ ノ五 今 古制 尺ヲ 1 尺 步 = 1 八十三 合ス 1 定 JV. x 一分餘 ナ B y w = コ 是二 ア ŀ A ~ 付テ ル 蓋 モ ソ ソ ノ時代ニ玉尺ト云、古尺ヲ持傳 周 ノ玉尺、 ルメ六尺 7 7 步 サ ŀ = 唐尺 セ w 7 ノ五尺ニアタル故、 1 明 テ " ヘテ、眞ノ周尺ナリト思へ 時尺ヲ用テ制度ヲ定 "

=

諸

ス

古,者、 出 ["革車 今ノ 論 七 兵法附 一乘、 書 中 ノ司 然則千乘之賦、其地千成、居地方三百一十六里有 穰苴於其 馬 法二 中凡一百五十篇、號曰二司馬法、 ~ 右ノ文ナシ、 昔ハ 百五篇 、符法冠"皆六寸,而輿"六尺八六尺爲、步乘"六馬,ノ文 ノ書ナルガ、今纔 此六尺為」步、至成出,革車 畸い 正義曰、 ノ篇數ナレ 史記、 齊 バ、脱漏 威 乘 Ŧ 皆 使 大 彼 セルナリ、 文 夫追論 也。

語

集

解馬

融日、

司馬法六尺為

步、

步百1

爲」畝、

畆百

爲大夫、

夫三爲」屋、

屋百

爲通、

通百

爲」成、

秦始

本

記

制度

ヲ改

タル

處

=

數以一六為一紀

アレ

六尺ノ步

ハ始皇

E

ツ始

リケ

w

ヤウナ

ッ、

然ニ註ニ、

譙周

ガ日、

步以,人足,為,數非

-獨秦制

田

說

丽 3 リモシマルナリ、 是ナリ、 里 間 井田モコノ道理ナリ。 ノ御保留 間ノ路、 宅旁ノ徑、 ミナ定間ノ中ヨリトル、故ニ五畝ノ宅ニテハ、定数

五畝	五畝
五畝	五畝
五畝	五畝
五畝	五畝
五畝	五畝
同	同
[ii]	同
同	同
五畝	五畝
闻	同
同	同
同	同
	畝 五畝 五畝 五畝 日 同 同 日 五畝 同 同 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

四家魚、舞、二鄰魚、保、三保魚、里、合二十四家。

」鄰起數、五 三井二十四家、同居。一里,而一井八家、左右前後、綴爲。一保、夫二十五家爲 五相乘、遂使、同,,并八家、不4得,同爲,,鄰保、披裂參差、至,,于異,同、豈先王之制 里者、 蓋從、五家爲 也哉、必

是管仲子產以後之法矣、不」可"以語"盛尚之制"

路程ノ長短モ、ヨキ程ニ見ユレバ、正説トスペシ、然レバ周ノ一里ハ、今ノ三町三十六間ニアタル、 短 7 7 謬 E ュ 禮 誤 ア 3 記 7 21 3 E リ起 y. 制 又 F 二、古者以。周尺八尺、爲」歩トイヘリ、 7 ŀ リタ 3 多 Z ル數ナリ、周ノ八尺ハ、今ノ五尺七寸六分二當レバ、アマリ長スギタリ、路程 及 シ リ、 叉田 司 馬法二六尺爲」歩ノ文アリ、 ノ廣狭 モ百畝ノ田今ノ二町半餘ニ當レバ、一人前ニハ廣スギタリ、 諸儒 コレニテハ人歩大小ノ中ヲ得テ、 多クハ 此 _ ヨレリ、 然二步 ハモト人 田ノ廣狹モ、 1 イカ 兩 ノ長 足ノ サ

里

二百五十九坪二

ナッ。 五畝ヨ一區ニシテ、

邑ニアリ、

孟子所謂五畝之宅、

樹以」桑是ナリ、邑田兩處二區トスル説い、非

一百八尺

十八間

大十六尺四寸十四間像 同 畝 同 同

長サ七十二間八百畝、田ノ徑トス、一里ノ長サ二百十六間ハ、一井ノ徑ト比ス、所謂方里

保、

公

田

説

一北

周徹

五千百八十四坪 + 四歩ニアタル 町七段二 百 畝 畝

是ヲ周ノー 間 里ノ長トス 方二百十六

井

同

場倉廬

圃困含

同

同

同

同

百畝

[ii]

同

通,力而作、特在,公田,也、 助徹所。以異一者、在。公田耕穫上,而已矣、徹者 私田則 不、然。 通也、

公田八家、通」力而耕焉、不॥必井」畫、

但廬舍、倉困、

場圃亦用』九九分之一、如』助法。

譬井" 畫公田百畝, 爲" 九區、區各得" 十一畝一一、

八家各占,一區、則公人實為,什一,也、非,十一分而畝,

、所謂廬舍時憩息者守」之小舍耳、非二畝半之廬舍。

實爲一什一。

公

田

說

井

七十畝 同 同 七七 同 同 国 場合 質 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

八家皆私"七十畝、同養"公田。

公田七十畝、又井,畫之,爲,九區、區得,七畝七々、其中爲,廬舍、倉囷、場圃、外八區賦,八家,

耕焉、

殷助

四百三十二尺 七十畝 七十二間 ス試しレニナス方式

三千六百二十八坪八

方三百六十二尺餘

六十間餘

夫受、田、長十畝博十一畝、合, 九區, 爲,一井,焉、則井亦狹長矣、後人以,周井之正方,也、多意,

殷井亦正方、

蓋非也、

学

方三百零五尺餘

五十間餘

四百三十二尺 五十畝 七十二間 三百一十六尺三十六同三十六同 ス試五 レニ**十 が** カラ 二千五百九十二坪

夫受、田、長十畝博五畝、

2

田

說

爲』定數、以,其二十,爲、稅、豐凶不,增減、故上之所、取、常均而下有,苦樂之異,也。 其貢稅以"數年之通、立"中數、譬豐年三百、凶年二百者、以"二百五十

電電

三七四

晶

公

H

說

7

E

傳

寫

r

IJ

テ

3

カ

1V

~

2

二說詳考

シ上

-

テ、

E

3/

幽

齫

アラ

110

重テー

查

7

加

^

ヲ

ス

~

H + 作 田 ŀ° テ 或 亦 7 7 1 及 3 n ŀ 公田 畝 7 1 ナ 百 助 20 v 21 Æ ズ 10 ナ 養 力 公 ッ -218 リ、 畝 也 7 H ヲ 10 中 夏 助 老 ツ IV 公 1 7 1 通 徹 7 r = H ~ 吾 通 田 ナ 31 1 アレ 助 八家 貢 IV ナ 1. 3 及 シ、 聞 1 シ、 1 1 テ ~ 廬 法 內 名 1 4 TV 3/ 7 110 是 耕 作 場 什 百 = 3 E 21 1 = 1 -分 + 1 ヲ = + 才 ス リ、 24 11 般 テ = ソ ナ 力 畝 7 ユ 1 1 畝 3 --ŀ 銘 = , 稅 サ ツ ~ 1 テ 1 3/ 廬 IV 1 1 界 1 畝 場 班 內 舍 ス # 4 21 E ^ 限 テ、 ソ 銘 固 所 七 數 殷 古 -3 = 7 **1**° 畝 ヲ 引 テ、 1 周 來 リ、 1 1 4 1 = Æ 助 立 公 ッ ワ 取 = 盛 類 ツ 1 畝 田 設 住 通 + IV IJ ナ 1 10 王 地 1 亦 华 ナ 分 ヲ 居 畝 -1 = 義 r IV テ 1 徹 " 內 思 名 == 21 及 制 7 w ~ -= ナ 及 非 在 シ、 ク、 テ テ、 稅 ヲ フ 7 7 7 n 田 4 18 37 n = = 1 3 ス ^ 毛 周 ず ナ 堯舜 サ w w 1 V 1 ナ = " 3/ 誤 元 + + ~ w = ソ 水 ソ テ 23 V 公 來 說 叉 べ 准 工 1. 3/ V _ 1 1 ズ、 周 田 シ、 ジ、 方 分 通 残 賦 工 3 = 里 IJ 稅 7 ソ = ^ 1 3 IJ = 百 手 -起 + 力 八 21 V 3 1 ---1) 1 代 畝 射 地 畝 y, ナ 輕 + 法 7 = V 7 ___ 學 畝 ヲ、 = 7 ヲ、 以 7 7 分 ヲ 通 テ V 習 黌 因 デ 之 21 力 ヲ、 テ 力 110 ス 3/ 先 7 般 IJ 觀 -__ 作 テ IV __ 1 1 1 序 井 儒 ズ 思 -= 入 八 毛 IV = 1 = = 庠 計 當 九 九 大 家 ツ P = 7 V 1 1 貉 說 般 # 1 白 = 30 數 小 リ、 耕 -名 殷 y ッ 畝 テ、 ナ 貉 ナ -シ、 = = 7 リ、 ナ 什 1 徹 叉 1 1 1 3/ 1 力 制 九 場 IJ 道 地 老 徹 法 日 ------伙 21 ソ 地 17 ナ 人 面 7 1 ナ 毛 = 3 21 IJ ッ、 恐 1 前 養 名 リ ル ワ 公 旣 w IJ = 中 久 7 ナ y 7 15 テ 7 田 + -1 1 質 IV 但 > 八 ŋ ズ w 何 畝 3 21 1 -般 中 家 九 1 ハ 7 7 輕 ナ 1 F 1 分 什 云 25 ノー 1 力 右 + V 分 3 21 毛 或 八 リ、 ヲ 中 ヲ -ス 1 210 = 家 ツ ナ = 通 云 = V -1 1 1 分 公 ナ 當 私 P 敎 周 3 ゴ 又 3 V

里 私 助 通 ラ テ 叉 Ŧi. 耕 E T 7 1 ナ 1 ~ 如 畝 般 y \ 畝 テ 1 4 ヲ 又 ス 3/ ŀ ズ ŋ + 私 分 7 ユ 7 助 1 テ p n 25 1 ナ 墻 迁 テ、 分 何 + 事 云 周 叉 ۱۷ ス E 居 公 ッ ウ 7 テ 徹 F フ 27 牛 常 先儒 治 114 公 休 サ 田 ヤ ナ = 1 1 = 周 解 3/ 私 制 テ 息、 1000 4 3/ b 1 人 農 予 際 ナ ŀ 毛 7 7 E テ _ = 27 實 云 限 夫 臆 定 先 テ、 ヲ IV 3 勤 1 毛 八二畝 以 儒 ナ 料 テ ~ 3/ ~ ナ 1 L 井 勤 八家 ク、 ッ、 シ、 辨 丰 ナ n ヲ テ 7 夜 九 情 分 1 論 = 1 V 30 百 1 半ノ墻 ____ 喻 ワ テ 毎 7 チ __ 210 V 邑居 ズ 畝 --枚 1 朝 人 7 7 力 n V E ヲ 今 フ、 觀 ラ 釋 ナ チ 1 V ホ ツ ---= 更 シ、 力 下 ŀ° 1 田 ズ v テ -3 所 歸 -諮 テ、 般 ヲ、 ナ 百 1 ラ 13 1 = w 或 11 叉 " 7 人ハ チ 畝 V = ナ 3 經 夫 ナ 我 我 110 涌 テ 1 v 1 21 y, テ -骨 私 耕 百 力 八 文 1 1 3 E ラ 田 周 田 畝 家 テ 田 力 サ E -ナ ヲ 公私 ズ、 耕 推 人 ノ詩 オ 知 七 ク カ w 1 --_ 私 ツ 1 住 IJ 119 テ 1 ~ ス E w 1 旁以 損、 畝、 五 テ、 田 = 田 ---力 V ~ 1 1 差 ラ 義 畝 作 雨 110 シ、 工 1 别 = 我 或 右 銘 差 外 テ ズ 7 n b 7 ^ ナ 7 取 アル 右 田 别 元 " 21 ----H ク、 公 骨 難 テ、 公田 來 八 ナ 周 7 -1 ۱۷ 田 = 區 + 耕 說 舍 5 1 1 ズ 八家 非 テ、 遂 盗 徹 徹 1 N 畝 ス ハ v 畝 條 德 ズ、 及 法 法 ス 11 1 ŀ 110 1 ---三我 公 云 隆 ッ゛ p 7 F r 力 = >> 同 ナ 田 H IJ 井 周 云 ----ツ 1 -又 _ 私 ヲ、 決 中 中 及 = 1 人 n 1 モ ~ 1 耕 サ ノ廬 公 人 1 ŀ ~ ナ 1 ッツ 111 F 3/ 2 家 喻 云 八家 テ 田 ナ テ 1) 3/ = 又 3/ 收 然 ツ 含 ~ ŀ ヲ、 = w -1 2 元 > 公 ~3 田 舍 丰 叉 ---力 ナ ŀ ラ IV 分テ 田 八 シ 收 ズ E V ナ ヲ 我 t 來 時 ソ、 今 芸 iv 110 ウ 穫 殷 ヲ 田 人 = 八 然 芸 ナ 排 = 云 3 ŀ 1 モ 1 ナ 人 徹 人田 時 制 1 ソ テ 11 3 3 1 3/ ス リテい ナ 耕 徹 右 ナ 1 1 工 1 ~ 3/ ヲ 所 力 公 傳 3 3 ス F 10 ŀ 1 云 事 始 場 叉 ヲ 云 公 um umb 21 說 21

2

囲

10

食 IV ナ 以 設 y, 返 田 3/ J° 大 7 テ ヲ ラ 中 事 1 テ 必 抵 1) H 1 1 E 農 ザ 叉 テ 涌 大 觀 事 南 品 畝 7 = = 事 家 勢 皆 里 力 手 ス E w 百 抵 -畝 -内 近 餉 V テ 1 最 南 Ŧi. 畝 7 IJ b = F 甚 北 引 AND 21 中 畝 九 ソ 於 云 1 ス 1 --, 農 ナ 受 之 ケ P × w 越 ナ テ ~ = 色 リ、 宅 月 オ ソ V E + IV F = 夫 25 久 18 1. 4 y 何 V w 1 1 4 Æ = ---餉 往 ソ 間 110 1 南 舊 南 事 云 ヴ 田 八 田 畝 ッ -來 不 1 畝 說 1 ナ ス 25 E 間 ナ 0 r 家 地 p 1 便 37 4 w 3/ 釐 實 --7 利 F ッ、 7 + 1 7 h 7 -移 手 r 屋 内 南 7 1 ラ 7 = ソ 1 1 晴 五 ナ Nº IV " 南 ヌ 又 ヲ 1 ---1 3/ = 居 受 ケ ~3 नि 1 畝 主 外 テ 5 ~ E n 7 温 宅 鄉 IJ テ ~3 ホ -3/ 溫 IV 1 F ユ 1 婦 凉 字 黨 F ナ ナ 1 ^ + 時 1 3/ 叉 墻 女 北 y 州 ___ 1 IV = _ p 1 儲 1 多 所 7 制 家 ユ 閭 畝 1 F テ 先 分 便 彼 牛 w ナ ~ 7 1 -1 1 -南 桑 邑 女 利 IV テ 7 E 7 3 = 毛 (婦 畝 居 東 及 7 P IV 1) ナ ツ 7 工 モ 邑 樹 女 IJ 牛 -7 七 THE 1 1 1 ナ 童 邑 -H 中 南 畝 家 テ、 力 1 21 7 F 宅 外 中 子 夜 1 ク 塾 畝 1 10 1 r 空宅 輩 婦 空 庠 道 = サ ナ 1 1 F モ 1 iv 空 迈 辨 踈 七 T 坐 IJ 如 序 K ナ 婦 ハ (. 宅 當 家 ナ -IJ ナ 7 1 1 丰 1 食 農 力 農 迁 甚 教 y 方 ヲ ガ 1 1 --ラ 漫 -事 事 手 ^ 夫 3/ E ~ = 農 桑 ŋ 温 繆 東 田 ヲ 3/ 四己 年. キ E 1 テ、 閙 ラ ア 中 戾 飲 时 3/ 里 夫 1 3/ ス 毛 北 躬 1) テ ^ n w = 1 1 1 3 3/ 其 法 制 丰 ナ 中 1) = ス 毛 ナ 讀 1 1 ツ、 制 餉 行 田 時 7 14 1 = 1) 法 1 ---2 ザ 居 隅 宅 概 及 = 間 ナ ナ ス 7 1 式 7 經 旁 リ、 ラ 1 3 = ~ w 1 = w 3/ 持 ナ 文 婦 ナ 7 + 1 4 モ -IJ 1 邑 出 以 ス [6] 1 T ホ 女 y 行 = 4 見 -館 ~ ラ 1, 中 始 -テ テ 汉 1 = 食 p 耕 故 右 驛 六 3 1 -終 及 リ 110 1 事 ナ 议 w ス 1 理 F. 7 1 21 = 便 通 (IV 子 通 置 ッ H ソ Æ ŀ y = 利 井 テ 11 ナ 地 7 = 1 v

公田

說

答

宮

生

人 傳 中 叉 諸 デ 力 Ł 214 1 排 井 ラ 道 H , ラ N Ŧī. 1 and a 宿 宅 " 畝 具 間 斥 1 田 V ヌ 替 說 之宅 1 桑 者 雞 及 ス = = 法、今少シ = n 豚 オ IV 7 110 r r 說 リ農 樹 力 狗 力 樹 7 五 リ、 彘 テ、 ヲ \\ ______ 之以 11 = • 畝 テ、 聞 事 - Pa ズ、 畝 百 デ 煩 = 7 1 桑 分明ナラズ、 宅 ノ間 信 戶 残 华 3/ >> ラ二畝 サ ラ ズ + v 1 ŀ こ、二三月 宅 九 D' ズ IV r 3 110 移 × ケ月 F IV -= 半 テ ノ第 テ、 ヲ、 邑 足 ス 班 ~ = 中 又 1 定說 先 四 テ、 固 田 シ、 = ___ 1 Ŧi. 儒 Ŧi. ナ 宅 1 1 = 畝 ハナキ 釋 邑二 ッ、 戶、 臆 r 無 ナ -1 3/ 料 IJ 益 居 IV 宅 テ 居バ 殘 ~ ソ 1 1 ŀ = -ヤノ旨承 田 財 1 云 ナ シ、 ŋ 1 ۱۷ 間 夏正 A 留 リ、 " モ ヲ 非 1 い三ケ 1 リテ、 費 何 w ズ、 樹 カ、 <u>ノ</u> ス ソ 1 ル、諭 7 班 1 = V サ 嫌 邑里蕭 月ナ 月、 ナ ソ 固 1 = ラヌ桑 フ 幾 ク如 テ 1 1 V 故 リ、 藝 南畝 110 比 11 1 二、邑 文 7 條、 儒 ク 天 V ヲ \equiv 說 ッ " 下 家 志 -釆 大ニア 宅 ヤ 右 人 俶 時 中 1 = テ蠶 出 ノ牆 烟 想 載 1 21 1 農 テ、 r 1 通 像 ヲ ス ヲ養 y F 絕 1 = w 民 -3 大 ラ テ テ -E 1 E B フ I 云 ナ 7 桑ヲ / 70 IV 21 ズ 農 21 " 商 Ш B w モ 宋 事 誤 ゥ 例 ナ 間 + ノ、 IV ヲ、 賢 春 1. ナ T 年 月 1 = 3 w ヲ 夏 IV 九 T 禾 ----1 始 班 ヲ、 田 稼 华 7 ノ交ヲ主 1 ケ V 月 事 210 V 氏 ŀ ナ ヲ = y o 古 シ、 -18 ナ 納 兩 1 __ 家財 取 リ ア 來 度 IV 受 然 ヅ 田 用 1 V 'n

公

田

說



公

田

說

中井竹山著

終

統日本經濟叢書卷二

清書仕指上申候、以上。

寬

政十一年己未

十月

此一冊十月三日中山備前守殿へ持参指出申侯。」

原甚五郎

立

6 を好 A 别 22 わ 申 仕 候ては家内人別少く候ても高持候者は人夫を多く出し、 候、民は土地こそ實に御座候、 12 人夫出 させ候事 は古法に候 民心質に土地 へば右 の通 御 の實たるを得 改被 以成候て 至極 候て育子も行 可 一然候。 めいわく仕候て土地を少く持候事 はれ荒田も開 け可り申

人夫 御 免 0 事 a

6

夫御 免可、被 至 極 出 精 遊 仕 候、 候 者 尤其年 12 は 切に仕度候、 ケ 年 0 内 人夫何ほど御 怠候者には人夫餘計 免 と可以被 一仰 1, C 被仰 付 候、 付 但 候 其 は 华 7. Ö 勉 出 勵精 0 21 72 より 8 H 來 宜 年の 人

月 k 村中 神 事 多さ 哥

先年 市申 事 少年 候 别 事仕候様に御達被」成候は、庄屋方よりも取扱よく可、有」之奉、存候。 7 を 7 庄. 許 0 より 8 屋 者 L V 方 神 不 わ 五 へ神 中 事 < 人七人黨を結び、 は 成 候 事 事 有來り候へ へば皆遺恨 をね にて一切休 か 23 候、 共近來民間怠惰勝に成、月中度々神事御座候、 に存 2 日無」之て 庄屋 、重て かして寄合候で飲酒、 3 右 V も成 の畏有」之ゆ たづら 不」申 事 候間、 V たされ ^ 不、得、止 博奕、すべて風 月 候 に三度程 若 許 者又 容 5 奴 俗 0 たし候、五月六月は 婢 神 0 神事の日は終 など其 破に 事 12 仕 能 村 度候、 成候、 0 寺 日耕作をや 祉 奴 庄 处婢持候 田 人 屋 植 方に ^ T た 候 者は 0 7 め 五 7 前

右 見平左衞門當六月中相果候處、 遺書中反古の内筆記有」之、 上策の草稿と見へ申候に付、前件の通

鹤

續

村々も存 寄 0 事書出 させ 可 中 事

村民人材もわかり庄屋役等御撰被」成候ても人物わかり申候、庄屋は手代にならひ候て大切の役に候問

不 "容易」御 撰 被 成 度候。

勝 倉 民 藏 0 事

右 0 者 御 郡 力 17 7 は氣 12 入不」中ふりに候へ共、人物沈深にて度量も有」之候、 其筋の御役筋に御 使 U

被 成成 候 T 可宜 奉 丁存候。

人別 0 事

出人別は屹と被」成入人別は勝手次第に被」成候は、人別も增過可」仕候、當時出入共に至極六ケ敷候ゆ

他 或 0 人足を留 田兼申候、 ス人別は町在共に其支配へ

断申出候のみにて

濟候で多く 外人も入込可」申

候。

百 姓 の商 人に 成 候事

油 新 72 12 商 新 に始 人 21 成 候 事 候 御 事 免可」被、成候。 屹 と禁止 被 遊 度候、出 家に成候も願 の上ならでは 不,相濟,樣仕 度候、 但 遊

人 夫の 事

等

は

是迄 高 わりに御座候所以來人別わりに仕度候、左候は、土地を多く持候を本意に存出精可」仕候、 高 D

樣 公仕 候へ 下三 用J 人多 21 人 ば他 仕 段 12 候 候 度 故 21 1 は も御 人に 候 御 8 田 V 畠 目 鄙 見 歸 多 D く持 L け 格 3 本 B 階 御 業出 候 6 級 祭禮 n 御 者も人歩 授被 精 候故、いろく 供奉、名字 仕 候 成 T か 候 叉本 ^ は 御免、 1. の如 候 勤 0 事 計策 勉 問 く良民 不。自· 屋 0 格 を以て取つ 術 など其 由 12 21 立直 給金 可相 外 6 階 も高 どき果ては他 出精 成一候、 級 有 價 0 之 21 樣 成、 且. J. 候 叉 終 により民館 病 國 共、百 12 ^ 人等 は B 田島 出 有」之困 姓 候樣成 21 0 0 は 階 荒 無過 級を 燕 書 候、 25 0 B 奉 者 至 座 公を恥 奉公 授 6 候 賜 候、 5 21 上 候 出 中 奉 候

一上屋組頭撰候事

樣 役 被 に當 Ш ~ 共 T 田 仕 横 如 時 御 目等 候 相 付 當 者 庄 政 成 候、 屋 12 22 時 事 候、 は 12 被 0 0 夫だけ 樣 且 8 仰 御 可相 庄 H. 72 付 3 屋 屋 7 6 村 0 は 12 12 成 合 庄 成 御 成 4 御 人物御座 合 候 屋 勝 12 直 力有 組 手 ても て存 21 をよく 頭役に 成 之樣 勤 寄書 候 筋 候て ~ 精入候 仕 付 ^ ば 仕 出 候 45 12 庄 度 精仕 大抵 7 者 候、 屋 は、 \$ へば自家は困窮に成候事に御 と成 候 貧民に候 5/ 村 大 へば 役筋 政 抵 0 奸 自 御 出 瑣 事 分家 へば不 25 精 細 有 仕 成 之 の農事 t 候 事 被被 被 御省 7 候 遊遊 3 T |仰付|候 廢 自 ら被 自 候は 怠仕 家 分 0 0 ど人材 座 成 候 經 勝 經 候 間家 候 當 營仕 手 7 8 B 向 道 庄 行屆 候 大 B 0 屋 者 略 相 貧 8 候樣 と可 相 本業 困 應 分 12 なるも 25 叫 一思召 成 42 成 申 8 候、 川 一候、 精 0 候、 申 庄屋 入候 12 す 候 斗 殊

鶴

見

九

皐

遺

策

南 み 下置、非 1 巡 仕 ケ所 候 見 仕 T 常の備被』仰 武十八位 無 右 頭 類 0) の吟 精 づく其場の守兵と御定、 兵 味にて武 付 出 一度候、 來 可 申 技一術に秀し人一人二ヶ所程づく持寄に仕 御家中の内にても御撰定其所々の惣司 奉 存 其所の郷士等へ武器は御預、右の者一人へ田島三石づ、被。 可被 一仰付 ケ月三四 候、 度づく其地 ケ月一 度斗づ へ参指

一入穀 事

右只今 間 候 御 事 12 免 て御座 迄は御禁止に 無」之様に仕度奉」 候、一通りは公大ならぬやらに心得候へ共、御先代よりの御定御深意有 候所近來御ゆるめ可」有」之哉と人々申ふらし候、 存候。 此事決して御免候ては不二相成一 」之事にて御座候

御 國 產 0 事

織 物 御 或 中 12 T 出 來 候樣 に仕度候、桑木荒地に仕立申度候、諸士 中宅在町 共に屋敷界に植 にちせ申 度候。

毛 見 0 事

に仕 步 民 散 食にも足 間 田 候、 耕 作 作 いりも相 皆 植 御 り不、申樣に相成候、農人骨折にて家産を破候故つとめて御植付に精入不、申散田 付 不 相 收納の御 止可、申候、毛見の事勸農の第一に御座 成 一候節 損に御座候、 は千辛萬苦仕やうやく植付出來、 右 の所よく心得毛見仕候者種子歩食ほどの考を仕 候事。 其田に毛見願候へば手代 候様に吟味仕候 共 見立にて種子 作 りと申

7

丰 代 共 へ御 達 書 0 大略

- 御 郡 h 12 預 5 候御 政 事 方 0
- 士 地 方 得草木植立の変が 事心
- 御 請 仕 方 0 事

5 條 0 儀 存 寄 不一相 包、 存 分 12 可"申 一候。 出 候 申 出 候 ふり合により 候て 夫 八々分職 田 被仰 付 候而 頭

郡 奉 行 元 a 御 達 書 0 大略 元人同

列

12

も内談

不」仕封印

12

7

可申

出

此度人 右 0 害 0 通 21 成 h 21 の材器 T 候 存 7 寄書御 御 德 12 化 より 取 0) 分職 妨 被 以成 12 候、 被 候 仰 は H. ジ其 付一候儀は 手 代 人 共 4 0 0 立身與 至極 材 器 大切の儀に候、其材に不」當候者其任に居 8 廢 相 25 分 かっ Ш 1 申 6 候 候間 其上 內 々成 にて人物御 共 相談 不 仕 撰 分職 可為 候て 被 申 仰 は御 付 出 候。 政事 成 功

21 t 6 夫 k 御 引 立 可被遊 候

申 前 候 件 樣 のごとく に成、 下 頭 の情 元べ 等へ屹と不」被 上に通じ不」中様に成 仰 :付一候ては、 可」申候間 下の 右 の通御定 申 出 候 事 被成度候。 內 見 仕 候上、 我氣 に入不」申 分は 削去

屯 $\overline{\mathbb{H}}$ 0 事

鹤

見

九

1

遺

策

應 島 t 6 夏 海村 迄 ケ 所 斗、淡より 勿來 迄五 ケ所斗。 烽火臺御立可」被」遊候、 民 中 膽 氣 あ る者を御 えら

不 候 8 :相 受、可 成 隙 為 候 0 樣 肝宇 物 21 出 斷 頭 候 大 山 不 將 申 77 候 心 成 得 不 鄉 0 心 者 士 得 御 並 0 列 座 者 -候 候 等 は T 10 召 B 連 物 猪 頭 隱置 より 獵爲、仕度 候 屹 は と制 1. 及候, 物 JE: 頭 諸 0 其 士の内より 不 命 調 2 法 B 21 用 相 不 も望の 成 申 候 候 事 者 は は 10 物頭 以 來 12 能 斷、指圖 出 候 事

姓 第 12 を 7 一放 勢 選 火叉 を 子 打 72 造 田 L 候 畠 21 不 * 事 猥 荒 申 L 12 候 不 候 事 事 仕 但 す 猥 L 21 農隊 ~ 民 7 家 21 物 21 T 頭 V 當 0 入 人望 指 候 揮 事、 候 12 T 食 隨 召 事 N 連 候 は 候 大 事 7 將 民 8 0 間 不一苦 前 0 21 婦 7 候事 人 仕 見 候 など、よくく 物 事 21 出 酒 を 候 禁じ 事 禁じ 田 候 = 事、 申 मि 含 申 弓 候 候 鐵 百 炮

御 郡 御 代 官 御 役 屋 敷 御 定 मि 一被 成 候 事

93 候 右 149 役 T 役 右 所 費 所 共 0 そ 通 72 21 省 御 7 近 用 來 定 便 被 御 濟 利 用 候 成 3 21 T 候 御 罷 罷 ~ 座 歸 成 ば 候、 候 候 間 7 役所 も、 兩 村 役 役 ~ 叉一 所 人 察 共 共 候 役 度 12 7 所 記 4 8 錄 呼 t 等 数 6 出 龍出 仕 配 0 舞 役 符 候 所 來 候 た 候 7 ^ 8 B ^ 8 ば 土 往 立 今 藏 t 來 御 6 H 0 立 御 費 罷 田 用 歸 遠 と被 B 近 被 明 0 遭 村 H 成 候 叉 12 と伺 御 1 城 6 候 下 里 樣 同 ^ 77 出 \$ 成 候 御 候 樣 座 は 71 候、 成

御郡奉行手代の事

10

は

普

請

方と定

申

度

候

泰 10 因 15 候 は て三 大 切 0 22 御 役、 御 分 け 人材 夫 御 4 25 撰 勿 被 論 一仰 0 付 事 度 22 候、 御 座 = 候、 段 手 は 代 17 of は 右 御 同 樣 政 事 0 儀 方、 21 77 御 座 は 候 士 間 地 奉 方 行 毛 ^ 被 見 木 仰 植 付 立等、 材器 \equiv

遊 失 度 誤 候 も出 知 外 行 候 間 取 T 恢 Fi 人 にて事 は 御 役 馴 金 御 L 発、 人 ~ 御 御 扶 任 持 L 取 可」然候、其外 の分 は 被 為名 は御 供役 候 內 何役 御 賄 より 被 下 成 度 共御 候、 雇 但二十 12 て、人 滅 より五 數 御 定被 +

几

ti.

歲

迄

*

限

12

仕

度

候

藝 勤 定 Z を 可 戶 6 候樣 以、 在 番 に御 御 游 中 撰 候 \equiv 人 供斗と御定 被 ŽI. 12 成 戶 1 候儀、 家 往 來 來 武 被、遊度候、在 は _ 士 馬 人召連、 0 12 本 7 E 意 炊 12 F 夫 番 化、 存 は 中御門出 候 御 すべて 間 黑鍬 何 事 の内より御 一人の儀 物 B 人 儉 省 約 成は晝は 候樣 可 相 かし被」遊度候、衣 12 勤 格 被 別夜 候、 仰 定 付 中出 府 度 0 候、 人 人 屹 類等華 0) と御 大 指 勢 51 諸 止 美に 3 可 士 受 0 被 不 無 内 遊 申 之樣 12 候 T T B 12 8 御 重

一諸士士著の事

\$ は 8 御 批 小 E 家 健 中 か 12 御 12 御 5 藏 可 21 城 = 不 入 F 罷 ٤ と被 近 成 在 成 同 候、 ^ 土 12 著 成 相 兵 そ 72 12 成 H 候 强 被 す 樣 遊 地 る 行 75 候 高 被 の第 はど人 72 遊 隨 甚 策 U 々譜 X 21 _ 村 华 御 代 座 4 21 の家 7 4 候 を 收 地 來をも持、 渡 納 行 申 無 有」之諸 度 之 候、 時 自 は 左 士 分にて耕 Ŀ 樣 0 1 分 12 6 候 は 御 皆 作 ^ 借 ば 地 の手 米出 百 方 12 姓 傳をも仕 候 8 御 樣 な 直 17 8 し豐 仕 U 候 度 間格 ス X 候、 厚り君 0 地 捐 别 身 益 行

一郷士の事

臣

0

親

しみ

21

山

相

成

候。

是迄 御 郡 奉 行 巾 支配 0 樣 に御 座 候 所 は 先手 物頭 の指 引に被上遊、 諸願等をも 御 先 手へ 指出 候様に仕度

御 家 中 妻 女の

0

事習候 料 家 樣 外 **多**會 21 III を禁じ 被 仰 付 被 候、 成 候 貧家 事姓 12 亂を防に第 T 諸器調 77 兼 不候者は 御 座候、尤衣類等夫 其 かっ 1 0 役 人へ申 々服 微製に隨 出 無利 候樣 足三年 に仕 賦 度 候、 21 入用 常に置 0 物

調 候分 程 御 借 金被 仰 付 度

御 家 中 宅 地 彊 界 0 事

其節 宅地 桑木 彊 以 界 出入 にて界墻 來 改 多候 候様に仕度候、御改にて界墻仕 可 T は争 仕 候、 訟 の基に御座 兼て其用意仕置 候間御目付方より改遣候様に仕度候、 候樣 候時 なにと御 桑植 艾 達 候樣 可 火然候の に被一仰 付 度候、尤來 是迄出入御座 年 何月御 改 候分は御谷 御 座 候 間

御 供 役 0 事

藝御 ᇓ 御 TE 國 引 秀 者 立 候 21 0 者 T た 御 柔 8 撰御 術 12 8 8 供 得 宜 役被,仰 候 御 者第一 座 候。 付 75 度候、如」此御撰 御 撰 被遊、 其外 被 刀法 成候はど無靈の人は自然と耻入相勵候様に罷成、武 秀 候 者 御 召 連 被 遊 度 候、 兩 番 より 御 徒 迄 0 內

交代 役 在 番 の時 同役 交接 の間 物 入多、 度交代在番勤候者は終身の貧苦を懷き申 候、 此 所 上より 別て

御世 話 有 之樣 12 仕 度 候

御供 先にて御鮮義 又雨天 の時御 長柄等 の勤は御進物 番の役に候へ共、御國より急に罷登事馴不」申 内は

者 12 者 無 指 は 調 出 别 T 法 勝 12 せ 手宜御 相 可 成 然 候 候、 樣 座 候、 25 酒 可 看辨當(但茶 被 仰 烟草の火斗 0 付 類 候、左 叉外に同 指出 樣 無之候 伴 し茶炭 相 廻 6 ^ の類 ば酒 候な は惣人數出錢 を茶 ど吃 と名 と御 付持 禁 JF: にて調 被成 出 候樣 申 相 萬 度 成 一候、 回 相 中 背 給 仕 候 候 の者 は 12 石は順番 右 役 0

次 男 三男 分家 0 事

遊度 御 先 收 年 納 候 新 歲 0 田 家 以 减 御 B Ŀ 打 候 作 出 0 事 6 被 次男三男は は難、被、遊 兼 遊遊 候 者 候 12 御 は 繩 分家仕 候事 其 以 村 來 と奉、存候、 にて 0) 候様に 百 姓減 材木被一下 被 申 依 仰 候 て人 付 新 候樣 度候、 田 別の増加仕 0 に仕 分 貧 不 度候、 氏 殘 17 候 本高 左候は は 事 分家 は ^ _ 御 ツ自 の時 朝一夕の 返 被 然 農具等相 遊 12 人別 候 事 12 求候程 B ば宜 は 增 行 可」申 < 屆 金子 候 トレ 奉本 申 御 共 借 候 當 被 間 時

御 家 中 ^ 御 借 金 0 事

て損 永 高 二十 6 Ŀ 年 0 8 田丁 年と成 賦 T 下 D 12 6 兩 HT 成 21 程 75 共、 候分、 7 御 7 指 損 五 如 年 出 17 人 かけ候 限 此 E L 程 被 御 事 より づ 近遊 定 偏 1 へば利 なる 被 御 御 候 金御 V. 成 は 御 可 候 1. 分に 出 取 大 被 て可」然候。 扱 L 抵 仰 17 被 て埋合、 行 奉 下、 付 わ 存 た 候 候、但 過分の損に E 3 此 可 にて B 中 御 0 は 力 か 共 丸 し出 と奉が存 ----B 22 人 至り 御 し被成 77 損に 7 不 候 千 成 申 萬 兩 候分當年よ 候、 程 八次 永 づ 先年 华. 1 郎 賦 か は 中 等 L 指出 り御指出 出 Щ 12 屋 T 候 候分 12 損 つも 被仰 粍 不 L 77 3 残 被 成 12 成成 付 取 候 7 候 候節 ¥2 は き候 上よ は 10

は

1,

金

被 御 海市 熟 游 龍 中 度 成 12 候 T 1641 敷 は 但 THE STATE OF 候 年. 兵 若 四日 0 0 Fi. il + 人 得 4 年 田 以 切 畠 前 無之樣 を 迄 光 は L 御 候 犬 21 事 取 見 嚴 か ^ 重 候 U 21 2 御 卒 申 禁 事 伍 JE 御 0 可 座 办 被被 H 候 合言 由 遊 傳 候 聞 葉 仕 等 百 候 0 姓 事 右 t 常 等 6 4 0 御 事 子 敎 25 指 示 T 無」之て 出 軍 不 法 申 0 御 は なら 急 民 25 間 は

水 馬 0 事

0

婦

女見

物

21

出

申

間

敷

候

事

民

家

立

よ

6

申

敷

候

事

脏

度

H

被

仰

付

候。

12 水 馬 8 指 12 馬 闸 寸. 仕 水 候 候 を爲 程 者 ^ 0 者 被 周! 21 仰 置 は 付 申 水 度 馬 水 候、 乘 馬 候樣 乘 但 候 鄉 21 樣 人 可被 22 共 被 12 仰 南仰 乘 付 付 世 度 候、 候樣 候 但 77 水 尤 仕 を 馬 度 習 は 不 御 41 應 よ 者 6 は 御 水 借 指 被 南 0 遊 人 候 12 樣 賴 12 仕 候 度 T 為 候 乘 御 家 平 中

諸 役 交 代 0 事

H

8

B

足 21 定 候 候 仕 間 府 事 度 す 勤 御 候、 ~ 御 座 T 候樣 御 交 勤 役 代 3 見 筋 21 phi 变 被 0 樣 候 儀 21 游 12 は 分 候 付 -6 は 右 间 候 1. 0 不 T 3 趣 =存 江 勤 申 戶 筋 辨 Ŀ 水 ___ 候。 候 戶 樣 ^ な 共 體 5 fo 12 表役 相 候 成 T 0 t 川 勤筋を以 ろし 申 候、 Di 御 6 て了 70 役 人 候、 育什 中 御 は 候 别 政 ^ T 事 ば、 交 は 代 _ 江 所 21 戶 T t 水 申 6 戶隔 合 出 8 候 絕 樣 行 12 届 21 E 候 仕 不 樣 度

表 役 月 寄 合 宿 0 事

买 今迄自 分 0 宝 12 會 集 仕 候 處 食 事 等指 出 無 用 0 費 B 御 座 候 間 中 山 殿 御 借 被 遊 會 集仕 候 T 新 役 0)

物 戰 12 F 共 田丁 頭 場 は 同 町 火 出 樣 火 方 火 は 消 21 0 無用 御 時 か 等不! 罷出 內 城 は の人多くては却て 1 近 5 下 火 町 L の時斗の御定と見申候、すべての御定有」之度奉」存候、但貳町四 諸 者の 士 外 は は 何 防火仕候ても不」苦候へ共、火方役町 處 切不,能出,候樣 12 妨に 詩、下 成 候 HT 事 出 12 火 御 に仕 0 座 時 候 度 は 上町 候、 右等 諸 士 何 0 火消罷出候は 御定 處 21 御 詰 可,申 城 中 御 マ早 غ は 御 3 速相引 定 一方の出 紙 被 21 成 は 候樣仕度候、 有 度 火にて、火方 之之由 候、 火 事 12 候 場

|博奕の事

申 段 是迄 刑 候 御 12 達 被 御 被 禁 遊 制 成、 候 御 事 座 夫にて禁を犯す者御座候は 御 候 座 ^ 候 共 是非 向 12 御 相 此 li. पा 不 被 申 候、 遊 以速に死罪に被 候 過 は 料 1 御 等 法 12 度 T 御 は 省ら被 决 」遊侯はど、十人を刑するに過ずし L T 相 遊 11: 候 申 て、 間 博 敷 奕斗 候、東 は 照宮 以 來 B 死 博 刑 奕 て相 22 被 者 止 遊 を मि 候 死

法令多過候事

罸 あ L まり 12 T 被 大 禁を 如仰 法 令多く 付 8 御 破 用 候 候 捨 21 7 至 は 無之樣被 5 何ほど篤實成 可 申 成成 候、 候は 是まで 人に ど令 御 7 行 \$ 見 禁 濟 小 JE 17 事 と申 の禁 成 候 12 分 は 至 は 犯し易き事 6 不 पा 殘 申 御 奉 省 有」之候、常 き被」成、 存 大 0 事 法 を破 12 成 候 候 人は T は 屹 覺 と嚴 えず

講兵の事

策

T 農事 8 す 1 み、 荒 燕 0 田 開 發 0 事 B to 2 6 可 申 事 12 奉本存

一公事方奉行御立可、然候事

役にて 懷 頗 は 废 德 是迄 12 事 から 共 21 ら自 0 御 候 6 25 患 决 を 成 2 < 郡 は 然と本 相 1 12 ば、 廣 手 0 聞 公 < T 候 代 强 ま 事 止 尤 よろし 段 申 H を 公 訴 T 1 中 御 業 畏 事 訴 候、 21 12 訟 役 評 21 は る 21 出 成 御 候、 料 富民 < 念 議 無 T 候 交 郡 してと鬼神 り申 御 之、 B 如 0) は T 方 其 Ŀ 座 3 此 人 も大 叉 21 念に 分に 御仁心 候、依 12 善 候、 庄 7 4 候へば郡奉行手代共もよほど閑暇 家 抵 屋 取 悪 堪 なく 訴 等 のごとく、 產 は 扱 分 て公事方 す を破 人 を 非 0 誣 明 訴 口 7 \$ 處、 罪 法 出 にても Ŀ は 候者多く 破 21 0 候 21 賄 手 6 陷 事 奉 8 すべ T 胳 賄 代 5 にて多く小 史 行 0 申 0 胳 共 館 御 de て手代 成候勢 述 患 Ŀ 心 0) 立被 ^ 間 無心 兼 資 そ 得 相 4 候 2 不 怨 成成 廻 は に御 足賄 の意 B V み 民 元 有之之 L た 0 泰 * 在 學 候 は 座 21 L 候 胳 \$ 者 町 負 書 下 候、 候、 8 候 L 12 寺 0 を得、本務の方に精入候様に か 付 付 依 0 ^ 評 役 社 惣て 12 其 82 多 共 候 て、 論 別 等 7 \$ E 5 ~ 21 T 迄 共、 巴 小 5 25 成 山 理 力 廉 B 答為 民 12 は 候、 横 非 決 H 直 の心 2 雕 相 目 曲 其 0 獄 阿 散 且 など 直 **争**てとも 仕 省 0 上 恶 諛 仕 勝 をも正さずし 事 用 兩 仕 22 候 L てとを 申 _ 上 ナ < 候 者追 申 度 切 成 裁 訴 手 付 叶 25 候 * 候 代 U) to. 好 候 は 取 訴 有 仰 次 間 共 T 7 す 回 披 3 第 多 離 1 Ĺ 訟 は 內 T 候 相 候 散 态 0 人情 濟 T 候、夫故 樣 成 は 事 E 行 ع 無 爲一仕 ビ偏 志 并 大 0 念 0 の事 御 抵 を 常 F す

火

事

0

時

備

0

事

鶴見九阜遺策

御政事には大本と末葉と有」之候事

なく と奉 合も隙 を立 大 下 大 立 不 風 具 本 4 ン存 御 吟 地 師 申 根 成成 候 取 味 震 出 元 候 に同 左官 候、 來、 用 8 を 0 御 指揮 中 患もなくば 有」之て、 依 じく 大 直 などし 田 7 も不 君 風 不 普 候 21 ン被 は普 請 申でとく、 御 逢候へば吹倒 行 奉 材 請 遊 政 屆 快よく 行 事 奉行、 木 候 候ごとく、 棟 を 8 T 梁 撰、 引立 は 御 12 其任 御 末 命じ、 住 造 年 され 葉 川 居 御年寄 作 中 答 25 0 8 候、 美を 梁 地 微 14 候、 可 形 候 は 事 より築 叉 盡 相 棟 \$ 衆怠なく下をよく は 其上の末事 々其 L 日 梁、 成 0 御 候 H 候、 撰、 御 家 7 月 直 郡 L を B 4 且 官 改直 年 奉 池 命 は如何様にも御行屆 叉 * 行 L 令 月 棟 授 F は し不 手入候て 過 梁 御引 6 地 6 候 たとへ 申候得ば不 候 n 形 内 立 候 0 1 17 多工 ごとく、 も忽に 2 其 は 下 御 家 任 政 料 4 21 破 * 事 傾 0 相相 堪 可被成 夫より 費 申 E 申 0 候 家 成 L 柱 候 出 7 作 候 候の 曲 響は 候 B 以 B 事 6 候事 怠惰 御 4 候 は 丈 T 不平 夫 12 片 大 政 C نے 戶 時 12 事 1 0 障 0) de 丈 8 人 も出 材 地 存 はさ 右 夫 御 7 木、 0 17 打拾 0 12 T 立 家 は 通 は

近 此 は 御 政 事 向 4 别 1 瑣 細 12 過 候 4

りもなく 村 4 庄 屋 候 組 頭 何と など勤 ど 大 候 體 者 は 0 4 ___ を重 ケ 月 12 0 被成 內 11 H 候 斗 て、 j 御 其餘 用 17 は御省略 か 6 候様にて、 に被遊度候 小 民 左樣 も右 に候 に準じ農民 ^ ば上下閑暇 0 疲 将 12 限

陷

見

九

阜

遺

雜



鶴見九旱遺策

鶴見九皐著

更一度是をもとめば、 農師と成て勸農の道をさく、訴のみちを塞んとしかいる。

丙寅冬十二月

蓑 正 喬

誌

るところ、方今にあはざる所も多かるべけれど、農事の大綱はて、につくせりといふべし、苟も農事 此書、成島先生の著述し玉へる年より、嘉永の今まで、一百餘年を經たり、されば書中に說き玉へ

に心をゆだね、經濟の學に志さす人々、忽に見すくす事なかれといふ。

江戶半閑齊主

人

あり、

發明する

歲 る人もあり、すべて荒巌には後へをつくべきことを、早く定むるを上策とす。 八九寸計に生じ實を結ぶ、數石を得て食とす、又近歲早麥と云種有、年に三度の實あり、 へて、麥とおなじく植て、三月末四月始には豆をとり得ることあり、是を水跡へもちひて利 の利 急に備るは有形の儲蓄、不用の用なるべし、又甲州邊にて、麥一升の種にそら豆二合をまじ 也、 上總表に、 けかちわせと云有、六月末に米を得、惣じて如此、事も、かねてしりなし置 是又荒 した

火 食して能 有故 凶飢の跡にては必疫疾あるものなり、草食するが故なり、又変こがし水を以かき食せしむ、 に熱病となると本草にみゆ、にんにくをうへ置き食せしむべし、疫をさくるのみならず、 消 民蔬 此物

ば即死す、ゆるやかに食せしむべし。 餓境に至 て俄に食せしむべからず、 かゆにても製し少宛食せしめ、或糝にしてすいむ、飽しむれ

と早かるべし。 凶歲 のみに限らずとしるべし、いづれも豫備をなす時は、人を救の術人にすいむべし、 には山野の草木まですべてなきものなり、人の手とじく所は、根をあわせてとりつくせばな とり用るこ

荒敷の術、みづから通じて行はんとおもふはせまじ、只仁人を得るを第一務とす、人をえて是を に荒政 要覽と云書あり、唐土古今の荒政をのぶ、良法のこす所なし、もとめてみるべし。

の多し、五ツ、是みな事に先だつの一事より、萬事順になりしものなり、子思日、事前に定むれば蹶 くせし故、人に氣滿てらゆる心なし、四ツ、政事善なる故、上方諸方の大商共、助力をせん事を願も 人なし、三ッ、人の腹氣滿てとぼしからず、飢饉には人氣先うえて、口腹是につくものなり、 政をと

ずと、明鏡をかけたるがごとし。

萬石の一萬石なる時は、飢饉といふとも、さのみおどろく事なきことなり、しかれども國その人なく、 養ふとも、貳千五百石なり、如此みなやしなはるくものにあらず、千石あれば、十分なる者なり、十 ~ の也、 三好氏、 不學無術 のなり、 し、扨萬石の人。一石一人とみて萬人なり、一日の食五十石とす法なり、然ば萬石の下、五十日を 一萬石の下にて、 人の占て出し方をうし とぼしき家をみて、かす者は仁者はしらず、常人の情のなき所也、 此 の政、婦人の仁を行ふ時は、彌施して彌不足なるもの也、たじ人をえて任するを上策とす、 術をもて、此時民を活せし事、 百石の儲米あれば、飢者なきものなり、其故何ぞや、人の假借は ないたる物みな出る、 まの あたりありきとかたる、 占るにうめば也、 叉曰、 且青草も生じ、 百石の米にて千石をうる 飢は五六十日 変もいでくる מל へずと待も に不過も

蕎麥をうへしむ、いふがごとくまさけり、五反の所へ八月末是をまくに、其年霜やそくして、長 東去 る戌年大水の時、八 月一 日也、八州の地青草なし、大師 河 原池上氏に示して、 水の跡 故。

食にすかればなりといへり。

用ひず、 定免にす、如」此する事十年、郡中富て家ことに貯を餘せり。

赦荒

貧者 路を得 ある故に、人も亦己を利せず、賑給する、二ツ、人情和悦し私をなさず、むさぼらず、餘慶の穀をか 故、これを賣りて大利を得たりき、國内に一人も米を占たる者なし、是上下の情なり、一ツ、 所 坳 事 主殿頭、 數 なきてとなり、 所々にあるを見て、國中の男女を籍し、 をか もなく、 救荒の術、 百萬の民、 は食し盡 て、 領地 わしむ、案のごとく秋不稔にして、 領分一人の飢民なし、 事にお 西國虫災の時、 を おもひしよりも穀物あまり、 甚その事をいそがせ給ひし故、漸春の飢に及べりし公民、一人も怪我なかりき、 洪恩に浴すること近くみし、剩金銀を侯家に貸させ給ひ、莫大の御救ありし事、 事に先だつを要とす、 くれた 草根、 樹皮 んる領地 夏のうちより、 其始霖雨夏をわたり、 海物みな盡ぬ、 はみな居ながら飢民を見殺したり、 たとへ事にあたり、物の吟味とどかずとも、早く救とさは、生 穀俄 釣 國中の穀をしめ、不足なるをみて、難波表 後には家中へも、麥等役にしてかり食し、 命 公穀運漕してこれも救はれし、五十萬石といへり、主 に騰踊せしゆえ、遠近の國穀をしめて出さず、買べき ありて、急に 秋に入りし後、俄にてりて稻葉みなかれ、 攝州、 如此豪富は占斷 難波表の儲穀を、西國に轉漕 して穀を出 12 米を餘しける 人を遺し、穀 上に恵 虫付 松平 前後

貨を分ちて云こと至當なり、食貨二ツは國の大事なり、 玄扈先生日、 大學に生」之者衆、食」之者寡とは食を云なり、爲」之者疾、 此柄上に在時は國强し、蓄積も行はるべし、 用」之者舒とは貨也と、食

賈誼の云、蓄積は國之大命也、知言といふべし。

めを課し、 4 つみて麥とし、終に籾にかへたり、十年を超て、聊社倉の趣ありき。 勢州邊の諸侯に一老吏あり、社倉にもとづきて儲蓄す、其人綿密なる人なり、始一郡の民に木の 海物を治しむ、 つみたる時、 舟載して他におくり、 栗にかへ積置してかし、 息を收む、 段

其 秣、 侯家には人をえらび、 息十が一を納む、 銅銭、 甲 州 の諸侯に一臣有領所を治む、 繩蓆等の 是を貯て米萬石、錢數千貫を納む、 物をえらばずつみ置、その物江都に貴き時は舟にて廻し、 是に任し心の儘に行しむべし、 國中のあまりある物と廉に買置、諸物貯置、たとへば穀、薪、 いづれの所にも、 讒口の爲に敗せられて中絶す、 儲蓄はなるべし、 郡中乏しき時はかし、 可惜、 只人を不 すべて

を選ぶ すれば、 本多家の支族に、播州に小侯有、領地甚寒險也、大名主二人をえらみ、 17 兼て此 郡 中に令し、人々に大名主二人をえらばしむ、入札を以これを定、二代を無しめず、 人の跡は誰と定め、これを職とす、山方、野方、河方、 利を興し、害を除き、 東西を司らしむ、 下吏を 其人死 始其人

知、人を得ず、人をうたがひ人に任せず、こくを以ならず。

仁民の心なき故、 百萬に餘りし人餓死するを目前に見し、哀むべし傷むべし。

6 凡豊年打續さたらば、 もかなはざるには、信をうしなふべからず、是變形の蓄積なり。 かならず凶飢ある事をしるべし、豫め其備をなし、 豐の餘を圍置て可な

友人商霖、 相州酒勾川二萬石を司る、貯麥の法有、 その大略

堵 民 富家の庭につみ、虫鼠の害なし、守人を省く、 路 分 0 商 L 出さずしてこれをえたり、 L 金本あり、民のものにもあらず、又民も半を出す、 て富民 通ぜず、是をかして民を活せり、此法官に申さず、 と民假借し 一の息を出す、 霖俸給の餘を割て。 、民に屬して司しめ、 いさくかも害なし、古の義倉、社倉よりも、 氣 强 をして、 1 利八、 官吏しる事なく、 十石 如此する事數年にして九百石に及べり、後酒勾川洪水、民家流亡する事急なり、道 大家 麥百石をかひ置、麥秋をみて甚 宛其庭に積置しむ、 の貯は廢興あり、 耗損は富民の餘慶を用ひ、 扱郡中に諭し、 一粒の私 春給 下に な 叉百 し、 石を買 利四、 せざる時は、 ある故此の事なし、 當時便なり、其始少惠のみ、年をつみて安堵の法な 利七、 古きを以新にかへをくも、 分散して置故、火災盗賊 吏私する事なし、 私の用度を用ひ、進退心の儘なり、利一、縣合 しめ、 廉なりし年、 貧家たとへ飢渇に逢ふとも、 出して是を貸し、麥秋に至て納しむ、十 まじへて圍むく 利九、凡利のみかくのごとくあり 金 一兩にから麥七八斛 利二、倉廩の役な あ 是をたとへば、 らて 其人に B 貯麥ある と安 一所に 任 也、 廿分と 留る、 此金を 利六、 利三、

ず、 必も三 事 天下の半に及ぶ時 る 後を憂る心なき時は、 して世 然るに 亦然り、 L の徒、ロ T, 2 金あればいづれ 劉陶 周官大司冦の條下に、國用を四分にして一 豊金銀 如 五 年 此 只財財 安により積行時は勤めずして大をなす、 此 耕 内祭□□にとて十分一を用 近 萬石を餘す、 日、 3 ならん、 して一年の食を餘すべからず、是は大計を云ものなり、 貨 25 0 民百年貨なくとも一日の食なかるべからずと、金銀は世をわたる橋なり、食は平居のど の事 國 み は如 虫災 22 すをのみ の時にも数はるなど利 大抵 L 何ぞ穀あらん、 0 て軍 如何ともすべからず、古聖人の法は、古暦のごとくにて、今は金をつむ + 時、 萬 信 を指揮 V 石の一 を人にうしなはざるは無形 金銀 ふ有、 萬石、 を持 すべ 勝負此 ひ、喪事 愚なるの至なり、世過奢になり、 て立ながら、 けんや、 萬石 中 口 12 して、穀を儲ふる事なき家歴 0 以下に用ることあり、 千石、 金あ 寓すなど云も不通 分を以國 しかれども民を救ふ心なく、 飢死 り穀 百石 の儲蓄なり、 L 有てこそ、 の十石 たるを見聞 の儲蓄とす、 なり、 の論なり、 凡右 守に 只 かならず四 萬石に百 \$2 \$2 の制度を以い 國空虚にして、不實さかりに も戦に 諸侯諸 以變に備ふ、 々あ 國 戰爭 眼前 土 も利 石の儲むるは至て安き 分が一 5 國 0 の飢 今の 時 有 ことに の利 ふ時 残るべ 至れ ~ に當 は他に買べし、 けれ、 世 0 は て人 軍 みを思ひ、 21 り盡 L 百萬 からず、 事 こにしか 飢歳も を講ず 4 T せり、 如何 穀を 石に

譚

續

て 始よく立ぬれば民まどはず、萬法にならひて公事出入なきものなり、これを司るは名主の役、其 百年の後如何と見るべし、害なさを旨とす、一時の利にくらむべからず、領主の法も公なるべ

なり、 べし、 れ、これを玩ぶ、心にしみ髓にしむ、これみな桑間濮土の遺にして、人心を損し德をやぶる、 がたし、 これを口ずさめば 不孝、不貞、 りても亦ゆるび、風俗これにはしる、若き者、女子、婦人、心を注し、耳を傾け、泪を掩ひ、 て、力田を勤しむるは、能風俗なり、 弓を射、 人心物に感じて謠ふ、鬱を散じ思をのぶ、あらぬ都のつくり事を田舍にて謠ふ、其害尤かぞへ 縣吏の教なさにより、 遊手、亡賴の者相和し、家を敗り身を喪ふも年々多し、教なさに因てなり。 馬を乘、刀鎗をつかひ、鞠、茶湯、能囃、誹諧等民武器を弄し、花奢を事とす、 放埓 の風を媒す、 動鍬に力なく、耕のはかゆかず、 萬私の道を立ること法のゆるびより生ず、家々の子孫、よくい 一郷一郡の治にも、志ある輩は心を用べし、惰慢の音なる故、 近世、淨瑠理と云もの、都鄙にはやり、淫風年々長ず、偶禁あ 抑、所に付たる風俗歌は害なし、 土風をもしる 農夫も ましめ 涎をた 農の妨

せずといへり、みな本業にうときを恥かしむ、聖人の民を治るの心法をしるべし。 をうへざるものは槨とてやは桶なし、蠶をとらねものには帛をさせず、絡つむがさるものには色をき 周官間師 職に云、凡民六畜をかはざれば祭に牲なし、耕せざる者は祭に粢盛とてもり物なし、木

生を語 寓居し 官 事 術のごとくおぼへ、 V よましむる、以の外なり、近來通俗の俗語とも、元來狂言本なるを誠の事と覺えなし、 ふ事 訴 吏これを防べし、 訟 を明暮に示し、 0 n 7 相續に ば 衆を集む、 後生 常に加 一を願 此計 只親には孝、 U. 専ら譎道を教導き、人情を傷 儒者 5 靈驗 彼策など、 人を害し我を利す、 醫者、 を語れば神を信ず、 主には忠、 人事 和尚 に用るもの多 手習師匠、辻講義にもてれを說しめ、人の子をそてなはざ 兄を敬し 甚以よからぬ 内に主なさに詐 ふ者也、 し、 弟を愛し、 民は牛馬のごとく、 浪人無宿の僧 事 なり、 夫婦 道を聞て人を謀る智をつか 民 正しく、 は 精を貪り、口を糊するの輩 木 地 内に主なきもの也、後 な 朋友ら る にし 孔明 そつかざれと かじ 張良は、 心ある 幻

古周 の時 は **撢人職あり**。下のよき人を當て役とす、 民間にて公法を下の心得ぬあれば、 とき聞

するを務とす。

る

を良樂とす。

今の五 人組 は古 保甲の遺なり、 これ を嚴に相 むすばしめ、 風俗 を正すべし。

を てあり、 おし T へ、組 かっ i 陸 奥 の郷約に、出入相戒 出 を 羽 邊 相 にては兄弟契と云事有、 救 U 相示しあ 過失相規、 はす、 組ごとに長あり、 相救 思難相恤等の六事今もありたし、 の遺 風存 せり、 誠道 取興 講 と號 してよし、商霖、 L 風 遊びと云事今所により 化を得 相州 にてゆひ

村法 は 大切の 8 0 な 6 郡 縣 の法は、時に省略改變あれども、 村法は世 々かはらず、 村法

農

調

拾

穗

刑罪 艾 教、 或先束縛して刑所にてゆるし、立園みて罪人を椹質にのせ、刀の先を橛にゆはへ、押切にせしむ、其 死 るく事を大事とする事、 を嫌ひ、無賴の身と成て、産を失ふなり、韓非子が教、人に身を慎み、法律にかいざる様に、人情より るを若き者の表とし、人の婦女を掠め、博奕、角力、拳法、諸勝負を玩とし、かりにも力田をなすこと 何ぞ父母妻子を事とせん、 す、其は は文なり、民のごときは一生の慎謹、生をおしみ、子孫を思ふを第一とすべし、孝悌、 罪 鄉 さめてかへり、 たり、刑名の徒すらかくのごとし、聖學といふ事、世遠く教亡び、人郷里を離れ、父母 民に學文などさせぬ 12 みな生を養ふの教なり、 あ の者の子弟、刀を拔て屍をうばふ、皆逃亡す、その跡にて其血を親類の身に塗て、泣悲み、 教をなすとも、 る時は、 て天下の命令をも重んぜず、 刑を司る者 是を埋葬すといへり、 謹 るは、よきてとのあしき事なり、 でおもふべ 聖人教の源也、老死までに他國せざるを史記にも良風俗とす、 如此なる時 □を取 民生をおもんぜざれば、 き事なり、 て出 國家の法をも輕視す、 は、孝悌の教、古聖人の糟粕とみて、萬人中に横行し、意氣をたつ 弱風とてわが國人は笑へ共、治國 へ或は逃亡する事ある故、酒を多く飲ましめて、切人となす、 老子曰、民常畏、死、 鬪爭を好む、 論語 況や家に在て身をすら塵芥となす 可使因、不可 奈何以死懼」之といへり、 遊俠悲歌をもて、 の術は 使知之也、 しかあ 男子 忠信、 るべし。 治を司る人、 とよらするは の墳墓 0 時 朝鮮人 禮樂の 面目と 20 12 は、 别

よし、況や虚文を學び、利口につのり、官命を批評し、名主長者のいふことを聞ず、ことに軍書など

功なさをしる、くはしくは東方農準に著を以、こくに略す。

解を以敷つべし、打潰してやしとす、蟹みな網の目にはさみをかけてかいれり、是山田の地にてやし とせば、 なきを求て、 海濱の田に蟹多し、 比なきものなるべし。 H 一畦にはる、先夕に田の蟹を追て、田中をさらしめ、跡に網を設て、其夜蟹をうること 夜々來て稻苗を鋏切る事有し、老農の言を聞て、池上氏なるもの、古網の用

もの、防がたきものなり、 をほり、 但 へ入たるはことによし、八王子にて例をみる。 水をのむ せんくずの粉にしたると、まちんとを合せ丸薬とす、獸肉の内へ入置、山犬くらへば卽死す、 岸を切立て、田地の通路を切、そのうへにしかきをゆへは、害する事なし、狼、山犬など云 田をあらすこと甚し、狐の皮にても、肉にても、少し斗をく時は、作物をあらさず、或大溝 時 は蘇生す、 おほく六畜を害し兒子を損ず、會津邊にて、藥を以これをとる、其術妙也。 又是を工夫して蠟丸となし用ゆ、水をのみても死す、 このしろを焼て腹

鄉約

き事なり、 日 本の 漢土に 風俗、 戰國の餘にうけて、人々武を貴び生死を輕ず、是經國の大瑾也、武士の外には用な は文武官を殊にす、官人といへども左文右武の道を分てり、 **亂に戡は武、成を守る**

譚

拾穗

ず、 21 は、 てやしを用るにも、植物にも、相通じて用ゆべし。 \$ さめをく時は、
雷鳴にて
も震せず、
又疫癘なしと
也、
關東にて、
こぞの雪は、
富士 夏かけ 但 關 東諸 山 陰所 方、 て残ること、ためされしをしれり 々には、春雪 地下春冷ゆること明らかなり、畿内等は、これ相變ずることをしれり、此心すなはち のみ残る、 都下にても樹木深き陰に、 去年 の雪は残らず、これ 春の雪を地をふかくらが 地下の寒暖 かは の外に残るをみ n ちて入置時 ば 也、 これ

一

豊年を先しるべきこと、田に青蝌蚪多としは豊年なり、水のこやしとなり、又水暖にして陽をふ めばなり。

<

- 古來よりいへり、又牛馬の増減を以、村里の貧富を坐してしるべしと、古西山氏の傳也。 を得 べし、 民の力あるは、牛馬をかびて人力を助くるのみならず、糞乏き所、草わらをふましめて、こやし 關東は馬に宜し、 關已西は牛によろし、地 の寒溫による、牛に熱牛なし、馬に寒馬なしと、
- に二斗ばかりを得るなり、 彼 さる也、 地 汁の少さのみならず、汁一石にて糖一斗弱なり、駿州、紀州 にしては棄るごとく生ず、此かたにては、風霜を掩ひ、甚大切にして植るといへど、おほくはく 近時薩摩芋といふ物、所々に植られけるを見き、少は生ずるといへども、薩州のごときはあらず、 莎糖、南國にしては、汁を得ること甚多く、汁一石にして、五斗の糖あり、 所謂天度の違、地の味もおほくたがへり、是に詳ならずして、作物勢して の邊は、汁もやく 3 武州 ほく、 21 糖も一石 産するも

地 地 なり、三十四度の内には雪なきものなり、漢土と吾畿内、兩國度を同じくす、よりて雪あればよく、 なよし、 「氣をおさへ、虫の子をころしてよし、坡老雪の詩に、飛蝗入地應千尺といへり、一寸雪あれば、蝗 にいる事一尺なりと、 漢土の農書に、臘月の雪を三度みれば豊稔なりといふ、これを三白と云、天度三十四五度なれば 紀國邊歷々分明なり、なし、かきの類、何にてもよろし、此度を越たる國はしからず。 古の農書にあればなり、關東北よりは風寒强し、雪多さ年 は、春 のいてつよ

の田もて、年々ためし見るに、先生の語にたがはず、冱寒の年は麥段けて麥田空地となる、春と とにかく其土地をためし見てしるべし、春ふる雪のやがて消ぬるは、麥にせいをそへうべき土を いへども残雪をほき年は、麥かじけてひいでず、菜類も西北を深くふせがざれば、一朝に涸む、 # 範按、 農書に記せしに違ふ事多傳聞と、土地行度の違ひによるなるべし、 余、東· 上毛に一頃

霜柱立ちて、

麥の根

ぬけ、以の外なり、外の作物はよろしといへども、

麥不宜

なり。

益なりとす、關東はしからず、春ふる雪のやがて消ぬるは、麥害なし、事の次に贄言す、 れけらし、周詩にも、 の氷室、松が崎などにも在氷のためしとて、禁庭に奏し、豊凶をトせられしなり、氷のあつきを賀せら 近世是を惱にす。春ゐて强き年、殘雪深からば、春飢渴を思ふべし、 凌陰におさむと有、氷のおものを供するの類、いかなる事にやととふに、氷を 但貝原農書には、 古には字多 春 の雪は無

おさへてよし。

穗

人時 は 海邊の桑、 蚕を害せず、 鹽氣 實をうつすの工夫のみにあらず、 ありて蚕死す、しかれども桑なき年は用様あり、是を真水にてよくあらひて、か 鹽風のあたるを水にてとることを考たること妙

都下に來れば赤なり、花實なきも根は信州を上藥とす、 物 は 不 足に して宜事もあり、しなの芍藥は寒山故花なし、里にうつせば花 角をなをして牛を損すべからず。 あり、 根は なはだ白き

なり

早く 25 俵 種 もなさものなり、 よろしからず、 何ほどの炎天にても、 して股 に入れ * 俗に穀米、 Z か るがよきと云は手 せ に青毛 るは てもやす、 彼 岸の なき時、かりしほなり、青毛あるに苅は損なり、是も根、四十九すぢ地に入といふ、 寒中に二ふしと云、小寒、大寒に此心あり、はえて三ふし已上五ふしなり、七十 溜井、 右二條或老農の傳也、 內 扨 長流水をかくべし、ほり井は、植物庭木にても、 12 三日程はたもつなり、 3 極 まわらぬ故なり、 ろす る、 事也、 溜井 に入、 物じて植 畿内邊には、井をほりて自 種より百日らへて、 天日に當て、 關東は地下冷る故、 物、 根 0 土をよくあ めきりさせ、 七十五 水かくるはあしく、 5 12 21 中洗をするなり、扨清 日にてかりしほなるものなり、 水かくる。 て植れば、 かじけてあしく、 甚 各 地 别 ほり井ことに をうるほし、 是風水の違 めてほし、 五日

果を仕立るも、暖國ならではあしく、三十四五度の地は、 みかん、 きんかん、 九年母、代々、

み

也。

盤 5 畿内、 を江北に植れば枳となるよし、周禮にいへり。 L かな くわ < 基 みる事なし、 L ふること、 よろし 甘味 12 もなりし、 陽谷 野物 是は 0 暖 飯にして甚多し、 くれ竹、くれのおもなど、 類、 より寒 うまも亦胡馬也、 紀伊、 からざる證 あるものなり、但實入すくなし、 を園 の声は、 元來南 皆西 物によりてあるべし、いづれも試て其證を取べし、 但一 物とし、 土 へうつすはよろしからず、されどうつしてよきあり、かぼちや、ふり、ばうぶら、すい 三四十年來、 方火氣 住 南 二三尺めぐりに生じ、 なり、 地 種の野稲あり、類して是にあらず、 薩摩 方の 種々萬變の 但味のおとれるのみなり、今も赤米のまじれる米あるは、 の地の物なり、梵天國など云米西國に有、 華音なり、蒙古鳥など日本に甚た多し、唐大又しかり、 胡麻 種 等 なり、 にては甚 段々に 胡維蔔 みな吳地より來りしものく、今にあるなるべし、根をうつし實を傳 法あり、 V 小になれり、 づれ よろし 質の太さ拱すべし、 胡 是亦天度のゆへなり、すべて寒國の物、暖國へらつさばよ も關東によろしく生ず、 人力をかりて、 瓜 胡椒、 0 類は、もと達旦 是は人力の及ぶべきにあらず、 龍眼、荔枝、 事別傳あり。 非常 日本壹岐の竹嶋の竹 地 東方にて實をなさず、 の物となる、又地 或は水物を陸物にし、 特に大粒にして實入倍 蜜柑 の物なるべし、 烏糯子など云もの西國の烏升也、 胡椒、 龍眼 地氣なり、江南の橘 種物 此種の混ぜしなるべ 胡 0 應否 の字 T 肉 かしは 暖 の類、みか せり、 山 を帯 もあることな 草木のみにあ 地 0 桶 を海 3 物 關東に 寒地に 21 77 も手 物と てし 九

淺草うなぎ,丹後鰤、 きた III n を用 かたに用べし、油かすは寒なり、酒の糟は暖なり、 る水 しとせし ふ事 る時は、 を 江都の 河魚、 溜をほ T. 天下の物みなこやしなり、吾、故にこやしいらず、物みなこやしなりと云、水もこや 大に地をこやしたり、田を作るも葉を劑 邊に、 海魚、 りて多く貯しめ、或は田地 越後鹽引、 舟路遠き所有。こやしにくるしむ。其地酒を製する所なりしかば、米をと 水斗、 皆此 潮 斗の所は味宜しからず、 理 也。 のあまり水を汚下にたくへて、これを土ごへにかけ、 きらずば土を和すい 3 ににたり、 汐と水と交る所、甚厚味あり. 叉料 其物を知て其地を察し、 理におなじ、 配 劑鹽梅あ

ならべて、にるべくもなかりし也、一 < 0 此 大暑 る 時 てやしを强くして、實入の力を助べし、 **麥は廿五莖までは、しげるものなり、** 22 V たるまで、 花のつやはなはだうるはしく、 こやしをせず、 草 秋初つぼみをみる比よりして、ほしかをくさらし、 一木までも、 其親は五節あり、ひらみて有、 さきに籬翁といへる、菊花を造るに妙をえし者 其道を得ると不得 しべらすく、 並强 ~ 5 植て七十五日にして脏む、 此 いやしからず、 粒 な 水こえにか 他 あ り、夏 0 花と

の間に、 本なり、 種を通してうえ試むべき事、すべて土地あれば、物の生立ざるとい 鶴のはじめて含來りて生じたること、 珊瑚米、とうほしと云など、西國には殊に多し、赤米なり、 日本姫世紀にみえたり、 岡穂につくれり、質取甚 大甞會の祭に、ぬき穂ある事 ふことはりなし、 稻 の始は芦 おほ

を思 なり、 し、汐入の地蘆葦を生ず、甚長大なり、汐のみの所は、かやもあしも甚ほそし、屋根の具には可な り、古 申 拾 是みな人しく雨濕を見ず、陽氣を含むが故也、地濕をすひて栽る物を助る者なり、屋上の煤、 り、又よしの 上のこやし也、 年數 也 るよしを申す、 ふが の閣老、如此農事にもくはしかりけり、又汐入の地はべきりてはい水を入る程なるこやしな 沼 1 此 如し、 新田などは、にが鹽ことによし、みな味を調和する心なり、 物 百 火を發す、 金の利をなす、 類岡にあるは甚小なり、所をうしなへばなり、 京三稜 然ども烟草に禁ず、 しからばわれら申うけなんとて釆地 堂塔不計火いづる事 とふ 告御 城に鳩おほか 莎草 鳩の糞、たばてに甚よろし、淺草寺の鳩の糞 ぶかしら 此故なり、しか の類、 りし、 水に 御矢藏所々掃除すべしと、 につかはし、 あ るに此糞 冷田 れば五六尺なり、丘に には鹽俵をふみい いかにするにやと問 人の肥、 烟草のこやしに 甘膏 古土井 攝州 梁 るれば、 れば數寸なり。 に飽 し玉 に舟 大炊 E ひしとな U **M頭殿御** 載 こやし L 時、 無

水仙 菊、牡丹 0 類、江都の地にあはずと云、是天度のよりのきにて寒温あればなり、予東方農

糖も甘く酸味を生ぜず、近くまのあたり見き。

砂糖三十六度を超て、沙すくなしといへり、

南

あ

たとひ糞

を悟

るとも天度をしるべし、

よりて、

駿河

の蔗は江都より汁多く、

準 する故なり、 を著して是を辨ず、 此 心を知 こやし地中にて、かみきるか、かみきらぬといふは、寒暖 る時 は、 萬物みな肥となすべし、予曾て海邊にて、海物をこやしとするを難ず、 を違、陰陽、 聊表裡

數あ 切と、不切との違なり、日野菜を作るに種のかぶを多く切れば、葉和かに真なし、是はまのあたりみ 年にして變ずと覺しは僻事也、又彼人近江蕪を作る、是亦天王寺のごとし、特に天王寺にまされり、 有、一年は丸し、二年目にはしからず、三年にして此方の蕪となりき、宮重大根 ぬけと入とを分つ、法ぬけと云はまろし、地上にぬけいで、生ず、入は常の蕪なり、是またしりねを をえたり、 是みな土によらず、人工なり。 りて利なさ故に、 種菜を移しうゆる時、しりねを深く切る時は 如此大にせんとする所にては、一反三千に過ずと云へり 天王寺燕を作ること 丸くなるといへり、 はじめ關 も右 0 如し、 東に て作 種は る者

- る 乙丑の年苗多からし、果して水ありて苗を流す。 苗の あまりとしは必水あり、水草 勝て草生早き故也、水あるとし水草先生ずと古語にいへり、 去
- ては土、草をかみさらず、三四月の間、元のまくにて土下にあり、萬のこやしを違へる事如此、天度 L のよりのき、寒暖を違へばなり、大抵山畠には海藻類何にてもよし、青きほだわら、あさり、蛤、ほ か 上方にては緑豆、緑豆、れんげ草などをまさ、うち返し、こやしとす、早く腐ればなり、關東 はもとより也、 松に鹽蛤の汁、こやしなりと云も同理なり、反對の理を悟れば、萬物みなこや 12

里諺に云、百日雨にあはざる土に超たるこやしなしと、壁の土、縁の下の土みなこやしなり、

て 盗みけるを、 萬石の米を損ず、いねこさの事、四拾年來世に在はじめ、河内の穢多、人の稼を此器を持てよる~ ことに民の苦なりけらし、今此憂なし、此盗は不測の利を残せり、然ども種穀にはあしし。 或時みいてられて捨置しより、人々製し傳へて便なりとす、 古は秋霖禾頭甘を生ずと

尾 袖、 も子かさきてよろし、關東にては男のみぞうゆる、 と答、獨笑して去き。 くらゆると云、 中國より西は、女子田うへをなす、若き女のしないたる指にて植る故、根のあた 田うへ笠などいひて、 गा の邊、 幾莖にふゆるやといふに、多くはそのまくにて侍る、あるいほ十莖計にもなる所あり 一莖三本うへ、十二三莖となる、王子邊にて、 心に艶冶を含むゆへに、 生氣早苗にうつるべし、萬の事 はかゆくを本とする故に察せず、 田をうへし老夫にとひ あやかるものなり、 り和かにして、稻 ことに田うへ小 し時、 七八本づ

T 手傳ふなり、 一町の田は、三人作りよし、二町にては五人、馬一疋、是より外は手まわりよろしからず、女も 物を得ることおほし、 すべて大作は麁末也、畿内 税はずくなくいたす、上方の作、 にては人一人に、貮反作などいふこと有、 ことにくわしきことをしるべし。 畠 も甚少くつくり

ねけ 穂は、石まじりの 上田 27 3 ほきもの なり。

萊菔を種るを見るに、一反に三千餘

なり、甚大なり、

上方の人みて其宜を云、

江

都

の郊に出て

攝 州西成郡 に本庄氏といふ者在り、農事をしる、日、彼土にして一反に、一萬本づくを得、甚細也、

三

もか 質のうるほひ しらざるものは、からの枯るしを待ほど、風雨にこぼれ猪鹿猿鳥雀 * 6 Ļ 22 を拔く時はね す所よし、 か 立ち 熟せるは、 るべ 変は れて 穀あり、 へて・ 細根 稻莖根とかるしなり、 野 しかるに温熱雨つきあしければ、急に ぬけあしき米となるものなり、一合一銭を減ずれば、 商霖相州にてこれをためす、一合にて一匁ほどを違へり、粒重さは生氣 根へはらせ、 梅の熟せる色のことしつやあり、 土に の目に に随てぬくるなり、 麥よき此故なり、 も見 克 小根 VQ. あ を生ずる爲なり、稻は りて、土に入こと三尺といへり、このほそね下へさし入ゆへ、深く耕 稻粒のよくしまりてかれたる時を、苅しゆんとす、葉に青 土の下より段々にかれてほにおよぶ、 此根下より又くさりて、都合百七十日ありて熟す、 陽氣 地下よりのぼ かるし故、 之に に反す、 其色白くなり、これを干 のため 陽氣地下へ入時にある故、稻つぶよ るい 一石一貫目を減ず、 はれなり、 12 よりて変はよく熟して ぬす 又雪をよろこぶも上 まれ 損 あ 萬石 ある るが たると云、真 試 にか 0 釈 0 故 災 なり、 らかぶ 孙 ありて か 苅

あらく當るが きたる るもあり、 種 穀 古來升目とい は、 はうちたるもあしく、 米 故 21 なり、よく農事をつとむる者は、立穂とて、よき穀は各段にみゆるをとりて、種とす はよし、 ふ事 種 作。 12 は あし からはしにて女のこさたるを良とす、 て、穀必ず少く、しゐなおほし、鐵にて損するほどはなくとも、 農家 心を用べし、 稻てきにてて

云へり、 痰 によろしからず、又癘疾を生ずることもあり、唐がらしを折々食する時は、この疾なしと栗本 土によりてゑく芋を第一とす、鹽こもを切てなへの下に敷、ゑご味を取て食すくりの如し、但芋 本草に芋一畝をうゆれば、米三斗を減じ、萊菔一畝をうゆれば、米三斗を費すといへり、關 左醫

東の者大根をかて物とすいわれなき事なり。

はじめたる物なり、こやしを用ひて毒をぬき、其種とりて人の食とはなれり、萬物山生、野生、田 Ш 17 生た る芋 かりにも食すべからず、大毒附子にまされり、人を殺す、元來此芋をとりて、畠にう

生の功能かはれり、おもふべし。

世 すくなし、 1範按、芙蓉先生の此語不易の論也、山生は功能するどく氣つよし、野生は性もろく土氣を吸 土性の强きをうけたる故なるべし、田生は肥土を吸ふて長ずる故に、味宜しけれども氣 薬物菜品といへども、本性の功能を奏することあたはず、こくに山芋を辨じて、三等

皆同じ、誠に達者といふべし。

30 只 かならず糞土ほしかにかぎらず、草もこやし、水もこやし、土をも沙をも鹽をもこやしになすべし、 大場のは徳をかるやうあり、春のほこり夏の茂るは天のこやしなり、秋のみのらせ葉を落し、冬の n 總じてものく熟不熟、歳にかくるといへどもこやし第一なり、こやしの事天下の物みなすべし、 凋 むは、し、めて春來のこやしとなすなり。

早 L して恐るいあり、 の考あり、一概を以てすべからず、或遠國の種を替て作る、甚よろしき物といへども、民なし付ず 縣 令 勸農の志あ 只舊種をのみ用、 る人、 心を用ゆべし、 泥めしりからは少づくも 是も又天度の考第 植て試むべき事、 也、 かるた 圖 說 别 農にはげ 傳 あ 50 T といふべ

12 蕎麥をとる事、濕氣なき所に露をよぶの法なり。 をつみて焼ときは、其下に水を得、 111 畠 か を作 や野を焼ときは水氣を引ものなり、 るに、 燒畑といふこと有、 野合にて行軍に水をとるの法なり、 する者也、漢書に火田あり、畑の字書になし火田の字合 水氣元來相はなれず、今試に野中に穴をほり、 やき灰こやしと成とな やき畑をしてふりまさの栗、 B へるは 内 に薪草 あやま

A. 早歲 早 に水 12 田 Щ 田 のこたり場は冷る故出 よく早は惣じて田によろし、 來あし、 雨多き年は糞をながして不作す、 雨ふれば故水をなが して暄になる故、 農事 は 種 4 稲たちこなら の惑あ

老農に間て解べし。

あたいめ子を生ず、 芋を植るにごみはよし、 て引立よし、 土 地 により 長じて兩畦の間根によせてごみを入、こやしとす、土を上におほへばよく、地 冷ゆる所にては子は多からず、故に厩こえ宜さいはれなり、關東 からをかり、上にわらを置、雨霜切 馬屋でえは上方はよし、 關東にてはあしく、 口 にいればくさりいる故 芋さかさまにうゆる、 也、 叉 にてはごみごえ 地 21 より只 床が 中を

本づく、

たてにわきをとり去もあり、

能芋をつくれば、一莖に一升づく子あり、民食これに越る事な

常也、 を用 之 野 第 5 にす、 は 一しるべきは天度なり、一郷のうちにも、 l. ひ試 か な はく、 田 へり、すべて農の事千差萬別あり、一概を以て論ずべからず、 甚和 7 麥をしてよさ所 利民 糞壌も品々あり、 美なり、常の芋に水をかくれば、ごりつくものなるに、 0 心の より あ 5 せば 相州 地の 限 なき利 燥濕 ふり砂ありし時亡所となる、 により 澗 Щ あ かは の南は暖に、 るべ り目 あ 5 山の北は寒し 各その人に間て播殖すべ 土民石間に芋をさしは 地 土によりてか に寒暖あり地勢に陰陽あり、 木多き所はらるほ くの 如 さみて し、 或 ひ、不 は 畑 一変は 水ら I. 夫

と云、 來 豆 凡 を聞て、 物三 て虫なし、 旱場 胡 物 予前 麻、 條 種 に綿 これ を合考て 0 年湖 からし菜の類は、 皮 をな を作るに、 虫は子殻の外邪にとじまれるより、 あ る 中 試びべ に稻 L は \$2 0 熱湯 を植ることを試む、 し、 綿質を熱灰にまひり、 にさつとい 鹽梅 皆皮なさはなし、 の實を植て生じ、 n 形の しば 角豆、 如く出 日にほし蒔ときは し蓋を わくことをしれり、老農の秘したる法なりと傳ふ。 綿質を試み、 來 刀豆の類、 か たり、 IE CL てしたみ、日に 糞 海人の子どもより湖に でを用 森氏かくのごとくして作す、長く出 日まけしなし、 ひず穀をえた あてく蒔 9 是を物にならはす ~ L て浴 其 法 小豆、 别 見 大

なり、 すべて 同じ種なりとも、 物 た ね は 年 4 所をかゆれば出來よろし、稻麥もとより也、 21 か ふるを法とす、 地 味 に正 あり、 地を嫌ふと云事は、其物 種類おほし考て植べし、 其 地 をから 歳に水 せば

分のみ、 D 自 B 孔 たりて費なく、 然古 3 子 夏小 老の農草木鳥獸のめじるし種々口 斗柄 正 をのべ 今も田舍にて、 の建によりてさだめ給、 地の寒暄によりて早晩 E るかん 是が 時鳥鳴とき田を植へ、鳴鳩鳴時豆をうゆるの俗 爲なり、 呂氏春 友人 あ 決あり、是第 八商霖酒 6 一秋七十二候も此用をなす、みな農の時およばんことをお 歳により 包 111 0 一の秋なり、農事諺文後に付 時、 て時 5~ をつくるも 時に 2 < 0 なり、 n あり、 古曆 只 此 甚古義をといむ。 V) ___ 件 元も、 は 萬 中星 或 12

とよ みて民をすい ほ としぎす己が 8 て田 五 をうへしむ、 月の聲すな 5 其年 山 質のり佗國にこえたるよし 田 のさな ~ とりなむく n 2

成、 何 ほく真あり、 種 L より の物とて生ぜざることなかるべき、但地 0 油 みな三年斗の古種 京 江: 出 等 師 のなり、米穀は古 た 古 八幡午夢は、越前大野より種を年々とるゆへ、牛蒡 近 る 種 鄉 此心得なり、但百姓意思とて、已々がなしえたるをのみ是とし、人に問事なき大に業を 山の手 は あしく、實をとる物 、根赤み有、味甘し、わき枝 邊、 を用 種は 胡羅蔔 ゆ な はだあ よってしんなし、是寒國 は 萊菔甚よし、 新 種第一なり、物種心をもちゆべき事如此おほし、胡羅蔔といへど、 L 菜は にのみまか の種はしんあり ふるきをよしとす、 只 風味京都邊におとれ + て 0 種 農に 葉にて真にのみなるなり、 子 地 を暖地にうつす故に、 に生ぜざれども、 通ずる者なさゆ ことに地をかへてつくるはよし、菜 り、地氣つよく、紫土おほし、 HIII うへ、勝 をかぎりて 陰陽 新 n 4 た 相えてよろ る 名 産な

耕をはじむ、 今已に五百年に及ばむ、歳差あるいはれなり、蠻夷の曆は、甚詳密にして閏月なし、季をあやまるこ 八州 かし、 時に

ちくれざる

を農の

急務とす、

耕稼の

みち、

天の

時第一なり、
人工是

につけり、
風雨、

水早は
人の 吾十二月に在、唐土は正月にをけり、思ふべし、民多く暦を準とし、草木昆虫の時を告ることを知らず、 ふ事、 ふことなきが如し、季にあたりては甚おそきことあり、今の曆は元の至元に、授時の曆法をとりて、 こと第一なり、唇道も元來時を民に授るが爲なり、 しるべきにあらず、されど農官の職、天文をも知らずんばあるべからず、延享丑寅の間、火星日にち とをきかず、 春 0 秋外傳に、 F にのべ 地 暑熱例に超過し冬より春にいたり、火災頻々たり、去る戌には彗星芒をなす、 年 々所 洪 水ありき、 土脈始て發し、地潤ひ、古き株ねくべき時なり、耕は此時急にはじむと云へり、古の制 闘を置に一時半時の歳差にて、一月を違へ、再三に及びて春も夏に入の類あり、其言天地 たれば略 々にきけり、 農正の星をみて、土氣のはじめてうごくを知り、節に先だつこと九日、國中に令し、 如此兆も、 しぬ、近時播殖時におくるくことおほし、さるにより草生はよくて質入なしとい 是節季を審に考ざるよりなれり、 しる人あらばなどか備をなさべるべけん、たべ天をおそれ、時を慎む これにおもふべき事あり、節のごときは、大やう違 享保迄は閨唐士とあへり、 水災を主どり、 延享甲子の閏

農

譚 拾

ときかず、武の川越に奥貫の翁といへる老農あり、一木を切は一指を切とおもへと子孫を戒む、心あ n に云へり、 る 霧なきが故なり、 といむる人なし、 ならずや、三都下火災、 る姿をしるべし。 かな、暦 尙べし、 の始に、 夕立といふものを見ず、 京師邊四山しげりし昔、なもふべし、雷も雲霧厚きゆゑにや、昔今のごとく震する 古來は春木近在より出しも、 此方にむかいて木をきらずとは、一方の木氣を相續する神道なりと、熊澤翁が書 諸山 の木 中比空し しぐれはいかにふり行くものにかあらん、山氣うすく、雪 の、しかのみならず、たやすく切はらふことを好み、公私 今あることなく舟載して數百里より來る、 世 の かは

n 目こまやかならず、 、共、大木あり、物て耕作は石のらへにも仕付やらあり、其事別著す、古今に 木 山 中の木は 春日の杉は、疊四五疊の餘あり、 檜多し、 皆岩のうへに生ず、 鮹の足のごとく根を張なり、 根に入ること一尺ばかりなり、 如此ならざる檜 故に風折むほけ は、木

種し あれば岩にも松は生にけり、戀せし戀はあはざらめやは

なり、人の九竅に毛を生ずるがごとし、くはしくは山林源にしるす。 どよろし、 これを自然 濕なら山 木を植れば山に水を生ず、乾く所は汚下に木を植てよし、 にほらせ、或山上に水あ にても木を仕立べし、其法、 らば、 Щ いふにやおよぶ、其左右 の八面に谷すぢを付て、迂囘 に木苗 草木は谿間にあるよろし、其所 を植置くべし、ことに杉な して捨をくべし、 大雨 時

なれ み Ш 類その路をつぐものなり、 しげり、人足いたりがたく、 にても、 5 木地引をいるし時は、 山土風雨になだれ、谷をうづむ、河とこを高くし、 猪鹿のかくまりと成、田畠 山財のきて、いつのまにか、覆盆子、荆、あくさうなどいふものし をあらしぬるも、 人まづ不利をなして、歌 堤を切るの害これ より

木とい れば 地 つの < 里永久の害をなし、天命をそむき、民の子孫ほろぶること多し、 類、 のむ、 下我國に 0 名 薪木におはるし故、都にちかき山 人居 るが + 雜木 實 町 相接 ば、 里 故 を 比するもの 山 0 は 「の名の 21 地 3 3 河ばたに立べし、 でほく結 四 Ļ いづれ ならば一町 里 是を防ぐ術なり、 8 鷄 Z 犬の によ時 なさも亦一害なり、すべて利害は繩をなるが如し、 の所にても切はらひ、 世 な 12 聲 < は、 あり、 づく十年に 達す、 山 に入りて切出すと、嶋人の心あるにとひて嘆息す、 とりて青やに 根をからみ、 日 近 國氣 本 山 千王代に 々は、 切べし、二番ほやをかるべからず、 を養 の材みな盡 株をほり、 は度 みな法なく切あらし、 0 水かけの憂を防ぎ、下かり薪 ふのみちとしるべし、 かい 々都らつしと云事 は たり、 し 田をひらく事あり、岸かけ、 民用 しかのみならず、遠國 大利 あ 今江 年 永々禁ぜよ、泰平 あり、 るも 一々洪水 都 0 古木大木は帳に付事、遠き慮 百餘載 これ 又十年にして切べし、今は雑 なり、 の用をなす、 あ 又山林 りて、 島 治 小なら、 水運のよろしき、天 平 k 山崩 0 12 Щ Ė つきて 榛の木 薪 屬 de 久 ながれ < L 木 しく、 の媒なり、村 ぬぎ、 前 方十 水 人奢侈に 茍生多 21 て、昔 邊 柴の 比す 里 0

し、 きるべからず、小木そだつことなし、下かりせざれば木の 節となる、山のそばなどことによし、 5 りと古人もいへり、杉はことによろし、生立やすし、 ては兀山となり、小知行に所々に此例あり、 酮 ゆめ 山 12 をか 四 壁の樹あるは、家の利いふべからず、手足をうごかし仕立べし、十年の計 (泛々として世を送る人、 り伐 はらふ、 雑木はとも あれ、 山もちたるものは苗木をせざらんは無術なり、 出: 微物 良材 にもしかざらんや。 かくのごとくあれ 其葉は薪手を以てかくべし、刄物 利なし、風 ば、 をすかさず、 水 脈 絕 T 水 かを山 民大やう目 かりに は樹を植るにあ あしく、材の 上 12 71 も大木を かず、 前 を利

は

監者山人にはかられて永久の利をうしな**ふ**、可惜、深

其夫、 の草 3 薪材 奴 は て、 ことに なさに 上なきてやしとなる、 老者 L に至、 天 これ 時 包 苦み、 抑山 1 あぢ 物を暴殄すといひて、 肉 凡 養 子 21 みに 薪すくなき地の貧民は、自らなし覺えて、 食煖飽 を用 の后、 孫 地 のつとめとして、是をひろひ、 3 は さめず、 かたは木多く、 におしゆべし、 みな火 毛のから、 よろし、 U る 居室の用をかく、 甘美な はじめて火の化を世に施し玉ひ、 8 12 孰 のみことくし、 たる、 雨濕をお 0 扨草 栗、 る者 用をなす、 凡 年を防にたよりあり、 わら 也、 今もわがことをまたず、農に老たる民は、如此して、家とみさかゆ CL 世界に生ず 金銀多邑はことに 地より生ずるものは天恩なり、 ほはず、 え、唐きびの Ó 和 しかるに人々處置の不足にして、勸農の人、 類 さて、 2 游 は灰となし、吉田灰などは藍に用て甚妙なり、 12 手飲博に 乾し用ゆることをかさて、 る物皆天の賜物なり、 火熟すればなり、 朝夕の わら、 類みな薪 此 のみ日を送る、 かやにて熟せるもの、 煙をつくく、 風 衣うすきとも忍ぶべし、平田の民、地 天下人畜皆熟食をえたり、今にして一日も廢すべか なり、 0 松の落葉をかき、枯れ枝の一をも、 用をなしぬ、 薪 婦女紡績をことくし、 柴の 田 其物を用ること、一家の主 これをつじまやかに. 一旦蠶 4 ある所は を用 終に木を伐 只租 不利なる時は、 芋, ることは、 税に わら 栗、 な VQ 撫育の心なさに て薪 糞 は かを第 團 絹帛を 12 れ、或 子、 とし、 米 和 肉 とりおさむ 大に窮するの類 L 得 は 0 N 嵐の木 とす、 場 文 或 民 人心をもちひ 類 るの によりて薪 所 か は 总 生氣 懈 W 地 物 により よること るは 萱芦萬 る教 方は、 にか 0 21 して 類 つよ Ź あ あ 木 \$

是を を定む、 ばうてとなか 奥るは 田畠はもと世 又輕く 天に代 れ、三年 付 る事第 一界の有なり、人君民に與 る なり、 租 を発し、 一なり、 論語 21 古田 六年まで輕き租をとり、 恵すれば費すとは是なり、 ない ふるも思澤とおもふべからず、いづれ たりて位定まる、 地 是大 成 新 + 法也。 年にして、 開 0 地租 * 經界をいさしか正 輕くすべ の所 Ļ か 地 なか 民 0 し、税 力をう らん、

四載 不論、 は n 給 今の金を出し人を聚め、急に田ならんことをいふ、駐者の術にて新開地をうり物にし、 12 N 元の あはせてしるべし、但四公六民は古法なり、五々の取といふ事、人情の薄さより出、 收 1 72 公家 納 四 0 永世 時、 海 0 5 7 法取箇付等は東の務、人々しることなれば、此書に記さず、雪、月、花の三書 歸 の利のみをい 議ありて地を開く、民には官爵を授るの論、郭守京上言す、行はれず、人是をお 服 經 の害なり、 せ 歷 5 し給 心 21 論ず しの ふの あ る み、 類、目前の利として察する人なし、下策の下なる者 るに足らず、 人は深く考ふべきことなり、 金銀、 貨 古夏禹 財 を費し給ふことをさかず、 王 洪 水を治め給 富國安民の術、 ひ、天下 みな民相 ていにといまれ 0 土田田 にし 續 を ひらき の道のみを志とし て、 地 我は を傳 給 るかな。 田 0 開 + CI したが じい 不開を 開 L くて

材

考を第一とす、戌年滿水の時、江戸糞諸方につかへ、舟の通路開きし故、葛西邊、糞土を急に江戸よ 下田を肥し私を取、地の位人情より變ず、天然の地味なるべけんや、吾故云、地に上中下なし、人に りたのみひかせけり、是を田畠に一面に置たる農どもあり、其年菜の葉やけて、 よること
これが
爲なり、
されどこやすとて下す、
ほしか等もあまたになしては
詮なし、とかく
陰陽の 俚諺に云、 百日の糞よりも田 に寒水を引けと 是最上のこやしなり。 其邊は甚不出來なり

N な 貨を土地 一年に不利なり、三分七分の法、永久の利也。 有を以て無にかへ、多を以て少きにかへ、交易の道を開き、通路を山川にとり、 みな田は公私ともに不利也、石高のみにしてよろしからず、田公私ともに當分利あり、 にうましめ、諸民のすぎはひを宗とすべし、是開土の目算第一なり、田三分畠七分、民の利 利を海邊に取、

を開 便 則 5 利を残すべし、 えたる良法をとらば、 我 開 不」能 地を民にさづけ、税を年々得べし、如此なる時は天下の空地みな開て、 は ·墾の法、一體今の地方と別傳あり、別書あるが故にこくに陳せず、禹王の御詞にも、 國 の爲也、 い動也とあり、 是勸農の人ありてなるべし、只與ふる事を先とし、得ることを後にし、永代をかぎ 一己の私あるべからず、民も亦手を懐にしてうべきにあらず、つとめて永久子孫の これ開土の心法、上なき者也、其術 其用無盡なるべし、 小利を貪る時はらべからず、遠大の心を本とすべし、地 は無量なり、 人々土地によりて、なしお 倉廩 府庫 年を追て滿べ 不」利山於人

豐

都下 近郷にて は、畠を宜とす、 田は 無用なり、人の利にあらず、 己も不利なり、 您じて山にて村

を仕立、

都に稻を作る、

變通

21

あ

らず。

ほ 床 ては の跡 暖 國 昔 赤土 は 0 野 土 は 甘 ^ 山 Ü な土 0 寒國 崩 n は 人 は 白真 苦み 江 の跡、 土 あり、或澁 同 かき 斷 黄 か 5 士 4 8 類 あり 0 L か 有 6. かな氣 B 海 p 0 跡 H 0 砂 あ 惣じ るは鐵 は 硫 7 贵 高 Щ Щ の下、 きゆきによらず、 0 近 所 鹹は 12 T ふり 海 の跡、 な 地 H は 3 砂 一髪ず 利 跡 は 黑 3 ynj

こと有 は、 る、 きは みな陰陽のことわりなり、 n 水を引ことにて事たれり、 ば、 にてれをみるべし、高地に水をかくることは、 下地 方 田は など こなれ 角 今をみ 水 0 事 カン 0 上地と成、人工にある也、 かけほ 前 いづれ T 12 田 T 2 畠 昔 を知 0 して位も變ずるなり、 のこやし、 6 地 21 ~ 一偏なれば物生長 汚地 L B 郭大史が元の世 水 には なか 竹籔 うえなきも らし 水をぬく事を第一にす、 0 石 地 8 77 みづから肥ることなし、 んや、 にて、 畠もし 0 な な 5 せず、陽 7 6 秘 かり、 江 水 地 を引 々中 Ш 都 中 には陰をそへ、陰 より 水 玉 を直 川上 の秘 然時 た 出 る に引 も四 あまり汚濕 水 なる故に、 は用水は至極の賓なる間、 た る事 21 てもし 百 V 今昔 る 里 \$2 ば 唐 爱に には ば、 上田 は草木枯る るべ かっ 12 5 在 陽を對 とい 冷田 し 0 錄 する事 地 ふを となり 水 な 5 せし 1 は もの 不能 見 屈 地 T n T Illi 如 を開始 ば、 なり、 此 る心 稻 L 、先平 な T こともあ 甚 にすれ 5 引くと これ に第 下 か 和 地 AJ 12

となり、

昔の下田今上田おほし、

上田は取强し、

故に年々こやす事をえず、民その不利なるが

故

71

L 事 12 て質を得 て大に富 も三度 なし、 其下より生る内にてよさめを一本も二本も立る、十年にしては長持の材と成、廿年餘にし までは る事多し、 る者あ よし、 6 とりて油となす、よき木は一本に一石斗容して、油五斗を得、 凡物つじまやかに 其 跡 は瘠るもの なり、 永久をはからざるは、 作 人不、入すて置 て大利 大に得 あり、 る事 なし 下 總國 D が世 關 切たる木 宿 45 12 9 4 此 めを立る に術をな あらし

ふりはつる身に社またね櫻花 植をく宿のかたみともなれ んと思ふは今の人情なり、後世に残さんことをおもへ、定家卿、

8

醉 枯る・ H ごえを入置 る 17 22 拾べし、 ものなり、籔とならば、 よりてよろし、 畠を害す、 日と云、 あしく、 水地 十年枯 不然ば籔つくる者なり、竹の食なきが故なり、籔をうつすは東方ことにうつる、溝をほり厩 の畦 すべて梅雨の前よし、 水口 時は、みなこなたに移る、西家栽竹、 無用 には榛の木ことによし、 は竹の根しげりて、 21 松山 床深き所竹ことに大なり、 0 地 に植べ 松林 かりにも大竹を切べからず、筍小く成、 ある地 し、 桃林 土を喰つくしたる後病とて生ず、此時切洗し、 少しねさしめ上を少しきりて栽べし、 は其田下なり、やにしぶの類、土を害す、 ほこりやすく薪木に便ず、風水のふせぎ勿論なり、松の木は田 は害なさの 山 東家往筍と古より云ふなり、植 のそばなどことによし、竹に みならず、花質、用をなし、 女竹に男竹らゑ変ゆべ 冬のうちねをうゆ くるめ、いてふ、 大木なし、竹を 湖 しゆ H 0 根をも所々切かへし h あ は五 12 る からず、 所 月五 るもよし。 は、 植 栗の 日、竹 る やせ も地 類、 籔

心思

粒

二年の 5 物じて 新 田 土は堅實なるをよしとす、力ありて作物仆れず、河邊下一里は の所 は よし、 三年 目 12 は 地 力

な
と

ろ

よ

、 後は下地と成、 作にゆだ 中 其上は んして糞土を欠ゆへな F

L L の場 とす、桑なども地 地 を開 にては、方角を定め垣ねを仕立べし、楡、柳、木槿、卯木、何にても、 の法、 山を後にし野を前にし、巽の風を切るやうにすべし、或其方 によりて、 さしめのさくものなり、 蠶する 所に T は 甚 利 か さし に林木を立べ 50 8 0 さくものを宜 吹通

さし B へ入をく 0 なり、 めの法、 時 尤すぢかへてさすべし。 は、 各冬至 萌 る者 一の後、 なり、 寒中 枝を切、 に是をさす、 めを二ツ も三ツ 十本にして一本もはづるい事なし、 も持 た る枝を、 D 6 31 T 能 < 何の木にても付 2 み、 緣 の下

q V2 か 垣 る、 AJ ねの高さ、 けて、 ことに野土しまりなき所は 地 四五尺もあれば、一町ほどは風をきる者也、上をふきこす故、 年 々に損ず、 已上。 垣ね第一なり、此地關東 おほし、 此垣なきときは土を吹たて、 栽物 の根をお る事 をま 2

4 6 しとす、 人なき 大抵 根の勢倍して長ず、此時きりすてるもよし、 花をみてうるは _ 間 地 にて に一本ほどづいなり、 は 林畠を開く、 しか 三年目には五六寸めくりに成、六年程には間々を切すかして、下駄 6 VQ ことに をえらびて枝をさすべし、 めを出す時、勢よきを一本たて、 桐畠 よろし、 水 氣 あ 大木と成 らばことに 残りをかきて捨べし、 7. 便なり、 實 5 CK 仕 たじしく 立樣 下 つく 其年 桐 をよろ 0 のな 間 用

ば、 は畠 なり、 の類
るやし
によし、 みの類を入れ、 田 中に井をほることあり、水をかけて土地をやはらげ、こみをしてくさらしむ、水かけよきはさら もうるほ 地を三尺ほどにうなひ、十文字に溝をつけ、其間かはく所へは、藻草を入、 か なる 下地 ひて上地と成、こやし等は土によりて一様ならず、三年は廢す、鍬下の免これなり、生 半年ほどにて打かへし、 も上地と成、又畠 但たばこに禁物なり。 を田 にするも半分かきあげ、 年 には みな土となる、 三年 上は畠、下は田となし。 にして植べし、 濕 かくの如くなれ 地 21 は 水を引とき 馬

て、上々田となる者なり、土色地 水懸りよきは水田によろし、土の色にかまひなし、 味 は畠に專いふことなり、已上。 水によりて上地ともなりね、 況方角水引方に

ごり河 の上 下 に石 商 なり あ は 霖が傳に、 る田 用 水の は、 海 の玉川のごとき清水は、たとひ水かくりよくてもよろしからず、第一新開地に不宜、 至 地 小石まじりは田によし、 極 かはく事なら故らるほへり、石水をふくめばなり。 なり、 水の度に 。
ねこみを置て地をこやす、河原の砂きらつくものあるは、 紫立た るは 上田 黄は これに次、野土黒ほこは 下 な 河用水 り、に

上地と成い 老農關 石まじりにかならずあるものなり、 みなこれ 氏が云、 中田 土味口に入て甘は上田、關東近邊は苦味を帶 なり、 滥 味あるを下地とす、 地に力ありて却て善地なり、 野土 は 何の 味も る所多し、 な 鹽氣 甘味あるは力よはし、 此 澁 味 あるもあ をつくり ¥2 或跡 く時 は あ

は

\$

ほし

黄土は柴土に亞で上地なり、烟草によし。

ば、實よくとまりて、梅雨のうちもおちず、都下にて是を試む、違ふことなし、京都八幡 土をはらひなとしてくさらしむ、根絶てこやしとなる、余一秘法あり、こくに不載、小石ある土のし のめくぎとなす。 まりよしといふ事、甲州邊にて樹木、果實とまらざる地あり、石なき地なり、小石を木の根 **養萱の根を引くには、** 八幡 は石 寒中よく打かへし、 山にて、竹至て堅緻なりといへり。 兩方へさくを立、こほらせて、春になりうちかへし、 の竹、太刀 へいるれ

12 なり、但砂なき所のねばるは上土なり。 まとふは上なり、 森氏 の相土の傳、 まとは如は下なり、凡めくら砂とて、黒き沙ある所、土ねばりて鍬につくは惡き 白眞土小石まじり、其石に土まとふは上 なり、まとはぬは中なり、黒眞土も石

つ時は、 るは、上田 東方より水を引田は、下田も年々上田となる、生氣の方なればなり、 予按、めくら砂は關東におほし、信州邊にもあり、富士、 其潤下の地、草木までも澤をうけず、 も年々下田となる、 地 脈を絕とは、水脈なるべし、 陰徳を損ずる理なり。 蒙恬白起等が傳にみゆ、 淺間の昔の燒沙なるべし。 南北是に次ぐ、北 水脈一たびた 西より引た

此 な 水によりてなり、 品あり、 る 所 は さみ 21 たまり いづれ 1 眞 + 小石は又勾倍はやく、中石は又早し、大石のある所は、勾倍逆落の所なり、 あ も耕して鍬鋤にねばりつかず、 たるなり、 るは、 士 白真 12 高 1 下 是に同じ あ らて、 じ、 泥 但 土も さくさは上々地なり、 赤 土は山 厚薄 0 の皮也、 跡 あ 3 自は 眞 士 山 むらさきだちたる土あり、 は 0 Ш 肉 土を 也、 逆 洪水多少により 流 L 南 黒ほこ 0 汚か -

なり、

ねばりあるは山のわかき土なり、ねばりなきはこなれたる土ゆへ、

Ŀ

々田

青黑く けん・ 貯 B へて・ 0 なは 其跡 あら なる ゆりさだ Щ をみてその始めをお は B 12 n 0 も有 な 72 6 めみれば、 る 5 12 かあら 後青 平 行 砥 12 山勢澗壑自然に もあ T となる。 もふ、 Ш 5 勢 金石 凡五 世の告は世界皆河なり、 波 瀾 色の 等の事は別 0 あらはる、 か 土色、 たち あ 見す。 りと、 上に されば山といふも海底にいづれの世 いへ 蔡元定造 る所 11 土水 の理に 化論 に漾 ひて海 12 L 7 V ^ **b** 海 21 人、 底 /:-12 潮 盆 T か 水 中 と合ひ、 にかあり 25 L 水 あ 泥 を

きち n をうな 0 地 田 舍 10 ひ交 甘 の歌 B 味 生 胡 へて耕 なし、 ず、 羅 謠 蔔 12 たじ眞 等 葛西 よし、 L 又沙まじ 綿をつくるべし、小石ある地は何ほど地下なりとも、 土の は眞 綿もよし、 り真 显 土豆がよい、 は出 土に、 美なり、 桃 大根 0 きさら津 口 よく 18 味噌 燕の あくも 12 よき事 は沙 して美味 Ö 地 なり、 は にて大根 あ 5 粘らざる故 もし粘 沙 菜がよい、 地 ざる眞士ならば の豆 12 根 は味 昔の河跡なり、 是風俗なり、豆 入 よし、 變ずることな なべて こま 上 か 根 は な 入 ある づれ る沙 しか 2 か

農

作 陽あり、上陽下陰は良田也 下の陰よく上陽を助くといへり、萬の事試みず、よか√考へずして、耕 め 分 にとまりて、上をやしなへばなり、葛西邊、菜のこやし上下よりかくる、床深くして上にのみ達する 後よく糞をうつるは、下地も上地となる、地味の事下に述ぶ、床をかすべからずと云ふは、糞氣此床 りて 上新になりて耕地は瘠るものなり、深耕淺芸といふを見て、これに泥むことなかれ、土はこなれて、 の不利をなすべからず、吾不」如、老農」と孔子ものたまへり。 床も淺くして下へ達せざればなり、これ土俗の自然になしもぼへたる良法なり、呂氏 は床淺く關東は深し、武藏近郷、上下野州等、みな四尺三尺にいたる、此床をかへすべからず、 なり、大和、河内の邊にては株をうち、穴をうがちてこやしをつくなり、眞土ねばりちほく、下 春 秋 に土 に陰

黑まつち、沙まつち、黑ほこまぢりの眞土、赤眞土、白まつち、附へなつちの事。

上 中 下相交れ り、田畠ともによろし。

林野 て、 の法 は萬簡易を用る事要なり、地なり田成てのち、位は隣郷を見合せつくる事也、今上中下の土とし 貢に 開墾に便す。 を合せて九段なり、 土を九等とす、 されど是は賦稅毛付の準とする事にして、専ら上の位をい 今の地方にも畠を上、中、下、下を畠四等、田をも同じ等とす、凡八等なり、 ふに あらず、拓土

.) 黒まつちは、洪水のとき野土に薄くゐこみを交ぜて殘る所にあり、沙まつちは、河どこ勾倍ねるき

野土 黒ほことも云下土なり、田によろしからず。

7 徑なるが故に、薄やうのものしみ世をかざね年をつみて生々す、 是 野草 は草原、郊野の跡なり、地變じ時らつれども、自然に本質を存す、抑々郊原、草葬 根を深くし、 實を殖て地氣、 地味、地濕みな是が爲に蝕せらる、當州武藏野の如き、萬古野 地味甚らすきものなり、

U おし のは月の入べき山もなし草より出て草にこそ入れ

行郊 山 130 3, 日 々は 大根よし、 るてとを、後津逮秘書に、陸子淵曰、土有"涯」文、水有「漾耳」とあるをみて、古人旣に此論あることをし をへかわきて嚴となる、鐵槌して碎くべし、因て知る、山の盤石攀岩も、みな土のかたまれるものな 一土を迸流せしめて所々に残す、地上六七八寸なり、そのこまかなる事、帛をもて篩したるごとし、 あ 地に多し、 凡水逆行せし所は、野土をうつみてしる事なし、 る ひは、 みな開きて民居となる、武に野土多きは是が爲なり、然るに去々戌の年、關東洪水ありし時、 自 但し大根に苦味あり、 然の道に近し、 古畫にも殘る俤、 凡野 土はいもをうゑてよし、 野稻の事は別傳あり、野土はかならず床深し、久しく作りこなしては牛蒡 かくのごとし、今は泰平日久しく、 陽気うすき故に、 蕎麥尤もよし、 地味寒なればなり、床の深さが故なり、凡宮と渡 地下に黑ほこ岩あり、 栗黍の類何に 生齒 日々におほく、 ても、 野土 一は高 野にて自然の 燥の所、 府にちかき所 物 或 をう は平

譚拾

穗

續

世 て、民永業を失なへり、心ある吏は是をよく腹にあちはへて、國初の法にかへし、 **うつりて縄つまる、此後段々變化せば民餘力なく、山野、海濱、開くべからず、開發古法も又變じ** の富るを詠ぜ 一の利 澤を残すべきことなり、其辨別見ず、すべて税は寬なるこそめでたきためしなれ、 る歌 12 拓土をつとめ、萬 萬葉、戶口

みつが物はこぶ丁をかぞふれば二萬の里人數そひにけり

仁徳天皇をよみ奉る歌、

高き屋にのぼりてみれば煙たつ民のかまどはにざはひにけり

べし、 其地の陰陽、高下、所により、方により、河海、 引うちかへし、 色、 てしるべし、 夜水 地味、 土を相するに秘術多し、大略三等上中下なり、たとへばその地にいたらずとも、三段の土をほり 1: に宿 0 なり、凡つちに上中下段をある事は、みな水の溢れて變地せし跡なり、 0 種々の口決あり、然れども本來の土の儘にのみしては、地の力限りあり、人力をえて水を せしめて、其土を握り、 しまりなきはかたまらず、 上沙にして中土有、上野土にして中真土、下砂なる 植物を考へ、糞壌を以て地を變ずるの法あり、 かたまるか、かたまらざるか、 ことに砂利 山岳の遠近、 おほき野土などは、 今唯土色の大概をあげて、 人の多寡により、 あり、遠方よりとり來る土ならば、 ねば 幾日水に宿 りあるなしをみて土味 人氣緩急にて、一定 地の淺深、厚薄、土 せし めても、 ねばり をしる

よばず、 百 戶 富なり、 不 四千七十八、唐 みゆ、 數 人 0 2 只 111 元 III 漢 の料なり、 古 歷 の養だにはかくしからで、民日夜に勤苦してたらず、 及、 高 十三萬六千四 田 代 地 林澤、 12 口 田 理 數、 八百二十七萬 0 法誌に、 す も亦 明 口 載 地 唐書には、 八十五 の多きは、 は漢よりも多し、 館 る 當今三百 あ 民の富饒すること前後 所 減 入交るゆ 5 漢時の封境を擧て云、東西九千三百二里、南北萬三千三百六十八里、田積一億四千五 ぜり、 百 の戶八百四十一萬二千八百七十一、口は四千八百十四萬千六百九とす、 萬 地 H. 東西 三千 今日本の地方東 頃、 廣 Ŧ. やつくし、 これ 千三百六十頃とあり、 ~10, 歩を反とす、 L 我一町、是大数の按に十里は、我一 餘町 九千五百十里、 とも 戶 也、 然に漢の戶數は、千二百二十三萬三千六十二、口數 開發すべからず、 口 は に漢唐の 唐 今是に倍 六十日の不足あれども、 西、漢に比すれば五六千里、南北も三四千里とすべし、 凡民餘力なき時 比 12 準なり、一頃は 類な 不 南北一萬六千九百十八里、 及 極盛にして、 々す。 し、 これ 大數地方十二分か一とみて、 四 只三千二百二十 其一億二百五十二萬八千八百八十九頃は、邑居、道路、 吾土 百 いかなる故ぞや、 は、 华 0 古になき所也、 は 元氣、 古三百六十歩を一反とす、三百六十日 地を開くべき様 は 國初は繩延なるが故に、 ては年々五穀すくなくなりて、 此に 九萬九百四十七頃 蓋漢 田千四 基 そのくちも是に及ぶことなし、 H の時 なし、 3 其開 百四十萬三千 年貢甚 古 年 より 發すべきは三の は五 稅 は開くべ せ 戶 ゆるし、三十にし 民潤 は の多き 千九百五 戸敷漢の半に 八 澤なり、 百 五畿 國衰 六十 の食一 12 現 + るこ 九萬 頃と の田 t 或 世 道 0 \$

증

に書付 ど淳吏 醉生夢 水 聖人 て、 有 5 な をうけたれど、 21 すわ のことをつじりなし、 九 して農の道を知らず、 今既に耳順 0 ねる者 吏た ざに 古道 死 制をよみて、 の名口碑にあり、 悲むべし、せめて農事 の官途 る は今に L - 世, 人萬分が一 て、 にちかく、心にとじまることを反古のうらにかたはししるし付ね、 ねぶれるがごとく、疑團すくなからず、 22 8 勘農、 かなはず、 符合せるおもむ 涓埃 或は成書をとじむ、欣承すべし、予壯巌縣吏の諸老に會談し、 もとることあらば、國恩を報ずることもやと、禿たる筆を倩て、寒窓の燈下 その 督責の甚しき、 IH 墾 0 あまれ 方衲鑿圓なるを以て敷、古へ西山氏、伊奈氏、村越氏、辻氏、 國 の談をもて、 荒政、 恩に報じ、 るを拾 きを考て、 振滯、 文書の嚴重なる、鬼の如く神の如し、公衆の御爲いかにやあ 職に ひて、 飽煖にかへ、民の疾痛、疴癢云々たることをおもひしらば、 君徳を下宣通ずる 東方農準、 かなふに 農譚 拾穂といふ、 やあらん、 後東西南北に經歴せしてとをある 山 林 源 の道 吾家 今の 水 源 一事も講ずる志なし、 呂覽、 なら 地 方などいふは、 V2 濃 事 B 0 は 諺 天文學、 文など、 無用のことしい 或は老農の教 みな下 史學 U 池田 是併 開土治 あ は 氏な 官法 吏の 古 せ

延享丙寅の冬冬至前

字然居士記

拓

土

祚を ひて、 Ļ 8 んや、 下 3 U 叔 も憐 知らんや、 0 繁昌 日 和 世 一足疾生 二世に及ばで亡ね、一州一里の守たりといふとも、此分辨あらざらましかば首領をた のべ 融する時は人の人たるが如し、 足 21 むがごとし、 て用ゆべからず、 是を稱 は 周 領 人民手足をく所 民を芥蔕とせば、 おぼつかなし、 けら、 公成王 知 下 己出 元來 せば人全人にあらず、一歩もすくむべからず、そのたくり路人に及ばんとす、豊止事 ある人は心を用ゆべし、されば使令の手をえらび、人を得る事肝 にありて首を歩ましむ、 すれば、 威厳 にをし 一郡一 Lip いは の道 につ 體の理 罪歸する所あればなり、 政令は躾也、刑罪は教也、條例は行儀也、みな仁心よりなし出さば、 ^ をつとめて、 民を荷擔 んや人類 なきが如 給、 0 民も又これに報ぜん、 6 七月 なり Ļ 頭會箕歛し、 一同 し、 の詩、 然るに足の下にあるをくるしめ、休息養になくいたみをと 中は腹心をも養へり、足は民なり、 百世 首上にありとて物をとるべからず、 なり、 是印授をおしむにあらざれば、諂諛容悦の臣のみ、 公を輕ずるとそしる輩あ 民の艱苦を君に告給、 の害を残し、 上下あるは 法に 民報ず 今の知縣は諸農の事は、 断じ、 不 る事あらざれば、 勿體なくも當世 運 强 人情をとはざるは、 5 運の 至仁至忠とい 事情をしらず、 み、一視同仁あるを民の父母とす、 を翦狗とす 夢に 天工これに 腹 手 あ ili も講 はざらんや、 要なり、 は りてとるべし、 秦始 郡 ぜず、 る 國恩 國 の族、 の己に か 0 法を破 は 如 の本をわすれ、 收斂年 農を治るの職 る し、 0 其報 何ぞ忠 B 4 答性すら 此 吏 りて税を おそるべ 奉 々に には 道 0 八 ず 子 をえ 百 ず、 上中 2 孫 0 る

辰 譚 拾 穂

總論

はで郷 薄く、田野あれ、國用竭るにいたる、 0 6 L 戶 民稼穡をたのしまず、 されど人を養ふものは食なり、われも又これを食す、 なはる、 大事におよぶ、古史龜の鑑あり、故に人牧の道民を子とす、父母の子を思ふ心を、民に用る時は、 田宅までも占取し、富は日々にとみて、貧は立錐の地 口 も殷 분 は 仁民 我 里をはなれ、逃亡せざれば、非爲を事とす、豪富の徒其費に乘じ、金を出し息を取り、 止 農を治るは君子の職なり、食、農、君子三のもの相傳へて成す、夫君子仁民の志なき時は、 質し、 民の下に む事を得んや、抑十一の税は聖謨 事にあらず、 の道をとはず、 國用 ある、訴る所なきを以て、益偽にならい、 も給すべし、老子日、 その治も 食も亦殖せず、天下の至寳つきなんか、吾徒も泰平をたのしむことなかるべ 民の愚、 わが職にあらず、 動もすれば士君子を欺くの 若其間、凶險うちつじかば、 欲」取則先與と、 也、民を富しめて、其父母妻子を養ふ時は、風俗美しく・ 何ぞ棲々としてこれをいふや、 食を殖するものは農なり、吾もまたこれにやし なきにいたる、かくの如く傳轉じて、不」可」諱 至言なる哉、「貧戾の吏はつとめて 智を巧にし、一己の利心には みとい 妻子をうり、農器を沽却し、 ひて、 嚴 峻 を用ひ、 吾以答ることなし、 せ、風 收飲 山 * 時 その 以 林よ 俗甚 には T

東方農準解

き、萬簡易によればなる事をしるべきなり、天道如」此、愼で窺ふべし。 干の萬古に傳へ、雅子も是をあやまらず、夏葛冬裘、自然にまかせて、人の催をまたざるをおもひと の盆かあるべき、 のみをもとくし、 病 心を付べし、民と民とは同氣相求て感じ安し、死すまじきもの死すること、食あしければなり、天刑 は 内に あるもの、 しかのみならず貪暴の法をなして萬世の毒をながす、 目前姑息をつとめて、人を草芥のごとく見むと至りては、婦女子 外氣に感じて孫 する者也、 大悲の心あらば、などか救護 抑法を立るは易簡を貴 を加へざらん、但 の仁を な B な、支 一人收斂 何

行、 政 右 やまれるものは、大方の訂正を竣のみ。 既に著論有、 0 風土のよる所、 吳中 記 聞是 風 土記 に附す。 自外輿地 0 類、 東方農准の大概也、耕稼の事は吾手づからなすにあらず、 洪範 各土の風土一概にいふべからず、 の書 ト盤別に 歳占の類、何ぞ限らん、みな一家のことをなすもの併考べし、そのあ 口決あり、 五行志のでときは、辯論なきにしもあらず、 准を取て可也、 星占、 老農に問にしかず、農 分野等の諸説 H 先輩 Ŧi.

乙丑之冬

芙蓉道人識

擇 びし人を宰とし て、 如何 樣 12 も不」可」や」死と命を嚴にすべし。

頂

8

X

事

はしるくことなり、

皆人飢かいりて救が故に、

救の術及ぶことなし、

或は人別諸色吟

どの凶年にも、 存 味 す、 27 日 又朝家 を送り、 此 無難なるものなり、松平主殿頭西國虫災の時、 又は吏の下吏多くして、却て民をなやます媒と成、萬の事先謀事をなせば、 時 事に先だちて穀を運し給 ひ、御料一飢 人なか 此法を用ゆ、 りしをみき。 拔群 のし るし口碑に 何ほ

法 0 不 利あらば、 凶年の時より改むべし、利生富國 の法を残 し、 凶を償ひ、 禍を轉じて福とす

右 H. 條 大 略 也、 但人を得るを第 とす。

夫水溢 潦 り心 \$ 人の怠りかならず罪あ ほき事 水汎濫 を用 N 歲 は堤防の怠慢、 に製品 ふべ するは人の過によらず、 なき者也、 Ļ 有 或は井をほり、 是叉天譴なり、 年谷不熟は勿論なり、 若くは多勢を矯て新開を貪るに生ず、策て戒むべし、 5 叉旱の後は しかれども救護 河を導き、 如何ともすべからず、貢を免ずるの外なき者也、 かならず風 或は水溢。 水車 諸器を作り、人工を以て天を助べし、天の 雨 の術は官長 暴す、 或は水損、 收ることをとくすべ の職 或は旱魃、 也、心を用べし、 山つなみ、 或は疾疫、 L されば旱魃は燥地 水損 早損 久霖等にて, 或は風損也、 は 誦 はその始よ 儘 筋 血にせば あ りて

の凶にして、

濕地の利あり、高燥の地に心を用ゆべし、疾疫ある時は醫料をはやくそなへよ、食事に

十日 土 保 5 8. に儲積あるは 伍を正し、一躰とし、相救の道を教、法をたてくよらしむべし、凡飢渴の難 民從はず、 に約すべ 一季あらたまれば土毛あり、 し、是を養へば民は死亡せず、 不信によりてなり、 更なり、 あらでも養の術有 先人に利生の法を授與し、たとへば小邑小里たり共、ゆいをたて、 麥も生ず、 绝 大抵二月より四月までなり、其内融通 視民の心淺きが故に、仁政行屆事なし、 一郡の長も心を用ひなば、などかすくはざるべき、 一季にすぎざるものな 平均 思惟せば之れ監 の術 有、

大抵 爱に陳す。 五十年に一凶、三十年に中凶、此外十年內外小凶あり、 年 0 めぐりによりて、 聖人の時といへども、凶荒はあるならひ也、それを救ふを有道の政と云、 かねて備あるは免るくなり、凶歳 の處置

者

也。

- 一國の法、 利 生の道を務しむべ 禁令或は大倫 し。 に預り、 或は强盗殺害の外は、一切に除き、 取續迄は差発し、 勝手に
- 富有 0 者を藉し、 飢民を分掌せしめ、用度を藉に注し、 來歳を待て返濟すべし、 尤約を堅くす
- すれば、 一村 民の 鄉 12 不利 ても なり。 長者をえらみ、事を主護よりいろはず、下の便利によらしむべし、上より今

東

方

準

續

をく也。 の憂なきものなり、 となり、 然ば雪にとられ、 極 寒國 出地、 は不 高 利なり、春雪ことに不可 根 極星高さ地方にては、凶兆也、是を糺す事數十年、 き年 拔ること多し、 あ 5 かならず雪あり、 抑雪を豐年 也、 土 寒氣多國は、 の瑞と云事 て付て麥苗 ___ 麥を播事節に先立て、早くすべし不 かる、 概の説 暖 數所數人にとひてしる故に注 國 なり、 は は雪の消 三十五 ることはやし、 度已下 0) 地のこ 2

- 55 ば 邊に 八月前 先だち、 あ 秋 天度 水あ て りて に雪ふる地有、春三月夏四月まで、なほ雪の降地あり、九月に既に雪をみる地 晚稻 おくれ 6 の違は、人力の及ぶ所にあらず、只是を窺しり其事をとくしてさくべし、たとへば奥羽北越、 穀あ 飢ざる良法、 七八 て、寒早き地 る事、 月に稼 倍す * 天工に代るもの 破る、近歳早わせとて六月に熟する種を植、 るがゆる、雪をうけ には早わせをうへ、遅き地には晩稲をうゆ、 なり。 て苅 0 類、 何ぞ 競愚な よるや. はなはだ民を利す、 是を農家 上下 總地 の工とす あり、 方、 , 是より水 ともすれ 此氣節に 羽 州 0
- 帶 一三ケ國 人に 差 天下一般の飢饉と云ことなし、歴史の載る所明かなり、 别 及すの風俗なさは、融通の道ふさがる故也、或は其志ありても、 21 より四五ヶ國なるもの也、享保丑年初、三十三國虫災に逢し也 1 如 此 是故に餘を以て、不足を捕ふ時は、天下利すべし、 日 本 大飢ありとも、华には 百餘 しりへを恐れて、今すれど しかれども民只一己を利し 年聞 ことなし、暖帯冷 不 可過、 或は

ずるは ず、 移 し 糖を製して多く砂をなす、武州は 5 直 ろし 25 土 蕃 丰 0 あ せば 天 但畿内はよろし、天度侔く風氣相似たればなり、 、武駿は一二度のよりのきに へども、 衍 7 0 文家 せず 共 法 直根なり、陰中の陽を得るは横生す。竹節參となる、莖、葉、 吉野 21 27 しかず、 合て 0 かじ 菊も亦 霜を成に多少あり、 說 0 にこれあり、三十六度已上の地、蔗草糖をなさずと け Ш 中 7 生立が しか 是天 土 熊 野 の二百餘 然の 八 た 鬼 し、 地 山等 郎里を違 味、 7 因て砂糖の産する地方を推すに、南國暖地天度下れる所、 或は みな いさくか汁に 農桑の 味ならびに霜の多少、 消 首 へばなり、 す 根 也、 源 質も 12 酸 紀は南方に 通 總てさつま芋、 味あ 叉し ずべ 他州漸人工をかり、養を以て花咲とい 5 か き理 6 霜をなす事、 也、 して北 日至 薩 州 牡 尾張 の晷ともに、二分强をたが 西 甘蔗を生 丹元 0 一概の論にして、とるべからず 大根、 子ともに差別なし、 山 は 中にあ 或 唐 す は 花な H 粘 野菜、 す 糾 ればなり、 3 藩 駿州 12 H 天王 8 本 亦 0 只 0 試に佗山 寺 藷 せく 地 ことによ 燕 根 は 21 酸 あ のみ横 周 應 地 味 終 せ 8 25

已上 一數國、 風 土、極 星、 出 地 の高低によるの例なり、 自外は推て是に准ずべし、 大抵佗の諸國三

+

[]4

Ŧi.

度

より

三十

七八度

0

間

也

食なり、 天三百 今の三百 云 十 度 一歩は 也 古 文禄後に改まりつるよしなり、 制 三百 六十歩を里とす、 日 本 古にかへすや道なるべからん。 の昔、 文武 令是によれり、 三百 六十日の一人の

東

方

準

法 を擴 店 n を開かば、 をひ を採 からず、 によら らかん、 しめ、 人を h 事 只その 年の不熟に 救 利を 麥黍 をし ふべ 山中 引 を以てこれを贖ふときは、彼是ともに利 B 0 21 あはじ、 是無形 あ ある大材獸皮、 6 是則 0 穀食のみにならひて、かならず飢饉の憂を残すべし、 地 國 利なり、 0 海 利なれば、 上の魚藻を物に換べし、 管子 日、日 其 富商 道を妨げず、 は國 71 して、 の資也と、 今も都 沙中に金を生ず、 通 貨 0 智に神なる人牧あらば、 術 の富商監者 を施 して、 或 あ 謹て墾開 その りて、 は 酒 邊 を以 鄙 彼 を 0 地 ててこ いる 我 利 25

畿內 な 3 人 50 牧 へて 紀、 t に近 ME. 6 阿 細 きは畿内 る B 民 まで 豫、豐後、 可なり、 地 に傚ふ、 の利 彼に 筑後、 12 四國 眛 あるは是にとるべし、 し、しる人なし、 九州相 肥後等の國、 通じて、風 稍 古より 暖常に係る、 其利擧ではかるべからず、 氣の同じき事をしらず、 しか 5. 是を畿内に 凡 度の等をしらば、 比すれば、一度を違 相ともに隣をのみ模傚す、 不熟 の利 穀種 かならずなき謂 を通 3 風土 地 を

五 菔 L は苦く、 て知るべ 行をもてこれを推者は、 肥 後、 以西 薩、 隅 人参薩州に産す、 は 0 甘し、 地度三十一二度なり、 辛竦は是に その理をえず、耳學の徒に多くあり、 餘州にあるは苦味あり、 反す、 南方 總て五味 暖 帶、 の五 我國 方に属することをしるべ 0 日光 極 也、 信州ことに苦し、陽中の陰を得て、 因て事實を擧て、 廿土 一は味 甘 物 12 Ļ 宜 惑を し、抑 L 釋 か く類 n 關 ば 以 とて・ 東 の萊 生 3

澤とな 見ず、 爲 來 0 沙 政 \$7 汰 0 る業とい 國を宰する人、 6. 家 0) 7 77 狐狸、 增 す ふに泥み、或は己をのみ利せんことを計 益 72 n L 豺 て、 て、 狼 心を虚にして人才を用ひ、大邑小邑、 上下 利 所を得、 あ 爭 n 利 ども興すことをしらず、 善材を長 0 風 俗 を旨とする故 養し、 禾黍を生じ、 り、人を利 事ら 廢 地 荒 姑 貨物 豊永久爲民の義にあらざらんや。 野、 息 目前 する 土より産する みな鹿 の道た 0 事 猪 8 0 利 る事をしらず、 として ふしとく の道を 塞 甚 な AJ. 6 L 富國の 4 山 惡 は 林 木 收 源 狮 0 別 籔 歛

木 9 火 豐章 0 日 運 木 原 21 0 + 乘じ 緯度、 0 Ħ. 瑞 て、 穗 0 盛、 0 地 發 或 0 三十 生の 2 十二三度 餘 神 盛 代 0 15 盛 21 3 に及べり、艮 事、 有 は V 萬 地 ^ らし、 或 度三 にすぐれ -より 五 Ŧi. 坤 六 谷 度 名 たり、 に接す、 0 0 孙 L 12 る 地 L 土 L 0 て、 一の位 如 五 此 金 みな得 なりい を生ずるも、 上 4 づる 田 たり、春氣は東方日 な る 稱 de なり 土の Ŏ な 位 畿內 全 H 五 出 n ケ の始 ばな 國 0

夷に 尤甚 を務 知者 易る 奥初 T 捨 は る 0 其 型! る 几 0 0 地 办 土の A 12 十度に餘 は、 は 活 是を 廣漠 用 L 三十 かじ、 0 礼 潰 以 なるを見 る所 八度 T 法 人を養 凡 な 々不 5 捨 より四十二度に 3 て、是を墾せば國 今蝦 毛の地多し、 ふの 時 は 得 助とし、 夷 0 萬 地 法 及 開 皆し 蝦 ~ くべ 魚鳥獸の肉を得 を廣 3 夷 か か 0 地境、 なり、 ļ らず、 むべしといへるは、 つて 寒更に 雪 開 L 7 < か 深 とも る きてと、 强く、 土俗 77 變 麥 事 果 易 事情 足 年谷實ることな 地 0 0 n 類、 道 により を勤 に汪 りとするの間 夏 秋 T なる 8 夏に 0 T あ 0 L 及べ は 花 有 者 を V 12 以 世 地 6 あしく土 得 理 是は 寒氣 を不 3 無 所 12

二九九

東

東方農準解

臭の 路 ざる あら ع 唐 か 手 せん 廊譚 0 爲 度數 所 v ば、 んことを願 旣 な を助 事 6 な ふべきなきことをしらず、 に易をよみ、 5 うることなし、 に基さ、 を恐る、 農の 3 共 0 食算、 みに ¥2 時 凡民政 是故 21 旁天文の書を概見して、 凡曆 して、 及ば 季節、 12 世に傳 の聖作に及びし事は、民用を專らにす、其術 大地全輿の内、 の急務ならんことを、 んことを要 實用 置淫 をわする ふる者、 ある とす、 招 は易 差等 人の國に係れるを除き、 たじ面 くことをい **须理玄妙** の細 すべて天文曆 心にうる所あるがごとし、 綱を提げ目を略して、 事 授 口 12 0 たむ 至 奥に達せず、 決と號、 T 術、 は L かれ 專門 測 今より盛な 量 僅に ども 推步 家 眼 に附 西敦 録する所左のごとし。 日本風 是を行る 0 は 耳 誠に 天下土地の利を L 術 天文に融通 ることなしとい 83 のみにして、 土の宜を照し、 説せば、 大道 夫 古曆 を限 し、 人或は は 5 上天 興 民 地 へども AT 12 理 に透徹 空蕩 子 哥留多線 時 0 沙 載 民に を授る 概荒 0 とら 論 せ 利

利 理 四 第 -害は更なり、 度 凡 まで の準 111 界 也 は、 0 大 各熟 地、 民人生を答し、 次 21 東 地 不熟 勢 TH 赤道 12 より 地 75 の下、 子孫を長ずるの基本、 よりても、 Щ 嶽の 畫夜當 遠近、 分 種 21 寒暑平 高 よりて 下 8 均して、五谷みな常に熟せり、其二十 是に係れり、 गा 水 人巧 0 利 12 潤 よりて 然ども士民意愚にして、世 衝 嚙 \$ 海 品品 濱 0 k 魚 あ 鹽 ることなり、 漕 運、 餘度 農 々なし 是地 事 より 0

壓 則 親諸 准 地 山 故 上之事 也、 則 流 襄 能 准 无 陵、 侯、 觀 也 故 所 者、 觀 於 以 所謂 水 蒸 水 无 印 其 取 面 則 取平之名 以 平 准 准 騰 費 智 地之係 爲霧爲 也、 則 准 mj 不 隱者 地 不 可 有物 可 田 勝 以 天 雨為 得諸 也 而 窺 中 譬之宮 有 用 人皆謂 則、 經 霰 水 緯 猶 用 焉 室、 於 汚而 水 不 在 彈 水之為 水乎是觀、 水 山 丸 能 九層之臺、 地 此 勝 之在 上 就下 而 坎 物 盡 斯 空 也、 而 中、 始 凡 盈、 聖之 上下 方圓 十二之樓、 得 不 旦萬古 知善 方隅 准 面 割之无蹤、 矣 斜整 稱 上 靡 待規矩 夫 而 者、 不 所 拾准 地 亦 不皆 不 迁、 合同 夫一 有 宜 寒燠、 乎 准 在、 何 上下 繩 无 滴 取 縫、 其 而后 易 所 露之圓、 4 物 亦 稱 在 未嘗 宜 华 者 成、 地 而 四 平 平 以 Ŀ 之凹 始與 異 維 但 有 水之全象哉、 亦平 通 其 水 水哉 、物逆、 者 宜 物 之一 合異 靡 軒 此 4 之、 不之 4, 君 定不 子、 田 得 凸者輊-怒而 始 而 番 平 易 呂 象乎智、 與 而 語 E 激 建 之 天 萬 称農 不 則 決 氣 在 包 國

中秘書少監鳴鳳卿子陽甫題

17

磴焉、

梯焉、

皆取乎准

也、

是乃農准

之所作乎、

書不

盡

言、

而

默

而

契者

得

之。

東

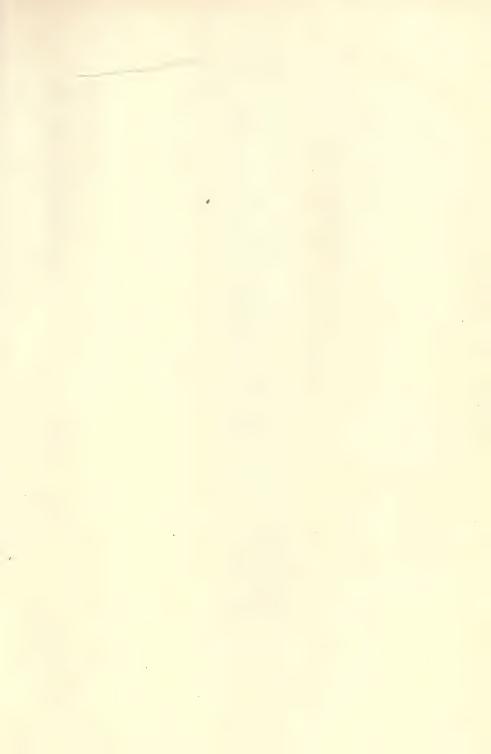
方

農

準

自

序



東方農準・農譚拾穗

源

鳳卿

著

爲、火所、燔之患、焉、 因鐫"之梓、欲,使"子孫,傳,其意於無窮,而已、世之君子、

之此忠厚之志也。

寶曆三季歲舍癸酉三月穀旦

東都神尾忠厚謹跋

此書也者、我先大人、宦"遊東都,而所,購求,之本也、 后世之者、豊忽」之而可乎、因以,此言,題足焉。

天明三癸卯歲冬十有二月

東奥和道識

四民格致重寶記終

補"其闕略、而是"正

四民格致重寶記之跋

わへ Ļ 盖 し業を述る事、 世の廣き事業是已 し此書の旨、生 而無、益、死して徳の殘る事無則は、徒に木石の朽琢るに似たり、 是皆平昔勤勞之諸士諸役の に止まらじ。 間 12 周還而集て又我管見を交、 大成すと、 故に數年心 言 日乎未だ にたく

公務 の隙に遺漏を集て續書と成べしと思ふ事然り爾、子」此正光序を成す、 始有は終有 べし、 故に自

此書の跋、神尾氏包暠自書。

于時享保辛寅七年十二月十五日

四民格知重寶記跋

也、 易、行之惟難也、 夫治圀之道者、 其書 成而藏」諸中笥一久矣、 無、若、安、民也、 寧可」不」敬乎、 廼今忠厚閱、之思、之、所謂五品不、遜、 噫嘻貽,子孫來世、可,謂,慈惠,矣、雖,然不,可,無,虚,於為,水所,溺 四民格知重賓記者、 家大人嘗爲二子孫、所 編選一也、 敷,五教,在、寬之餘意也、 H い謂い盡い心 知之

Ш

尺

格

致

重寶

記

之

跋

度申斷 迷惑、仕繩打衆も不詮義になり、かさねて改め繩入候は大切之儀に候間、まへかど右の考へ可、然事也、 したい、 に見せずして、 も候は、食養をとげなをし申べく候、自然徒なる百姓達の無」之を相違有」之と申出候は その清 其清 り、若違無」之候は、曲事申付べきむね申わたし、 遠所 帳にてよみ合、ひろい、念を入致、野帳と相違なく上中下の位むば不」付候て、村中百姓を呼 一帳を百姓に渡し、奉行を付談合いたさせ、歩違問違名違所付の違有」之也と相 12 帳仕立 も訴訟申するのに御淸帳極り候間、帳奉行へわたり高帳さわまり候得ば、 帳奉行の方へ違し村を立候あとにて、違目候得ば百姓迷惑仕、繩打衆のあとを 其上改め違目候はど直すものなり、 7. 动 百姓も永代 前かど急 清 若違候處 帳 百姓

右之條々撿地之內晝夜心に懸、萬事無。油斷一愼み肝要也。

べし。

共 田 先 の中の嶋畠てゑ汁も引、人馬の通ひも悪く、作毛も悪く有之物に候所には、より申すべく候得 此 考 へ有」之べし、 但し人居近、 大きなる嶋田は、 中にも上にも見分しだい、 大方 は下畑たる

南 12 森をうけ候 か 又は屋敷廻りにても、竹木盛り日影の處は、田畑共に耕作出來かねる者に候、

たとへ上田のならび候とも見合、 中にも下にも打もの 也。

斗い少しも縄をゆるやかにうつ物也、 新田 場有」之て、田の中に百姓屋敷を構へ居申者は、廻りに木竹をも植、屋敷構も仕物に候間、 屋敷の撿地つまり候得ば、以來百姓あ のり付か ねるもの 也。 見

0) 也 屋敷 撿地 右 同 之儀、 斷 廻りの竹木しげるに、又は竹などもはへ出申ものに候間、 是又少しはゆるみを打

B

L さず候得ば、 L 0 中下の頭付の心覺もわすれ、其上每日の帳どもかさなり候得ば、二三日も四五日も其村に逗留 ひろい、田畑の寄をもいたし反高を見、其日ぎりに埓を明けしかるべく候、一日油斷いたし候得ば、 又は過不足田 檢 地 打初 勘定清 てより其日うち候をば 畑上中下のあんびおちつかず、迷惑いたすもの也、 帳出來ざるものに候、 帳に付、たとへ夜ふけ さやうのときは其村の百姓繩打衆、 候共、 野帳にて其夜のうちに歩掛、 きのようち候なば今日清帳出來 永々の逗留 迷惑 上中下 いた 5 た

四

民 格

致

重

变

記

日二日打しま以候とも、 大切の撿地に候間、成るほど念入らるべき也。

なら時 仕候時、 野 は中を下 帳 行當 上中下を付候時、ていろ覺へをいたし、一郷のしめ仕候時上多き時は、中になおし、下すく る事可」有」之、 直し、野帳を以、さし引仕るやうに心おぼへ仕るべき敷、左なく候得ば一郷のしめ てれは大事に存じ、 心を付ると付ざると、念を入ると入ざるとの二つな

9

頭

0

分

別專

一也。

でも損失なく、萬正路に可」有」之ため也、然る所に不功者の繩打組し、 し、氣あらなる仁が其上念入ずして、百姓歎、鄉村も悪く成候やうにいたされ候得ば沙汰 撿地 繩を入撿地仕候得ば田畑廣き迫きもなく、上中下の位達わぬやうに、扨又一郷の百姓年貢役等ま の時 は末代のために候間、道堀のせばきを少し廣く仕度など申、ならびに林など道川すぐに 又はおこりい かり無慈悲の人與 いの限り なり。

仕度と、 所々名主百姓訴訟申におねては、せんさをく遂げ、其分竿を除くもの也。

義を遂げ、 早損 場 所の代官手代に以來相違なきやうに急度申渡除くもの也。 有 」之溜池仕度と申か、又は水いかり場有」之所、落し堀川除など有」之所は、見分のうへ詮

片さがりの畑中にも、 北向などは立毛出來かね申ものに御座候間、 上の場成とも中下に仕る物に

候、但し所によるべし。

上中下の位付に、 真土と野土と砂地と段々功者の入事也、高見のそり畑と、ひさく所の濕汁み、

然るうへは横なわをば、その一組の頭か、功者なるもの打もの也。

違ざる 場 叉田 う大事にいたし念入るべき事。 をうたせつぎ竿にて改吟味仕候へば、 竿取 畑 80 うち仕廻ひ、宿へ歸り候ても少しも隙無」之に於ては、初心なる竿取 の打やう惡しく候得ば過分は違あり、 也 萬事 頭の心得詮義吟味肝要也、 日數を重ねて右の詮義にて、 殊に初心なるもの竿取の時は、跡より又つぎ竿にて改、 一日に二三度ほどもつぎ竿をいたし改め、違 初心なる竿取 おば幾度も五拾間六拾間の も後には ひ無」之や 能くなり

殊 き義 の外 何事に は、 過不 及の違 面 も入る事に候得共、 Ŕ の考にも可 ひ有」之べし、此段は書面諧しがたし、 有 事。 撿地の時腹立ざる行を仕り然るべき也、腹を立候て縄をうち候得ば、 口傳有」之、腹を立候てはこくろも混亂違有

申 付らるべ 公儀 より Ó 7. 撿 々に至るまで百姓に何にても非義成事申かけず、 地 は 正路なる儀第 一也、其上諸人の手本になるものに候間、 面 々制しならびに法度書 成ほど念入れなわ打に の通 5

0 H 名主ならびに宿などの田畑おば、緩くうつも有」之べし、又小口をも利き、面くせ悪き小百姓など 一島をば、 强く打もの有」之べし、是頭よりのしめし肝要也。

愼

み肝要也

繩打は急ぎ候得ば 必違有之もの也、 いかにもしづかにてくろをゆるやかにもち、人よりたとへ一

四

民

格

致

重

我記

物のあしきを植候得ば作毛あしき者也、 く能作毛に作るもの也、 又上田もこゑをいれず、草おもさいくくとらず、鍬入おも細々仕らず、苗、種 しかれば毛の上にての上中下の位分明ならず候やうなる義、

見分功者入ることなり。

あり、 繩を入候に付、殊の外檢地を緩く打もあり、又殊の外切詰て强く打、百姓迷惑仕るやらに繩を入るも たは百姓に成とも、 頭 脇 此考へ中々書面に盡しがたき也。 並に竿取り功者 誰に成とも、撿地の仕やう能々聞候て繩打候が能く候、不功者にて功者ぶりに仕 にて能者斗りは無之ものにて候、不功者なる者は功者なる者に能 々問聞、ま

縄を打 候 に朝と晚と、雨風のときと、深田淺田の所と、段々らちやら有」之者也。

< 切詰て、 山 田 鹽 强く打 入 場野放れ地生のあしき田畑は、竿の入やう少しゆるく打もの也、上田又は屋敷廻りの如 候ては作人迷惑するもの也。

有」之もの也、なりの惡しき田をば立廻りし、雨方より見分候て竿を入るしもの也。 田畑ともになりのあしきには竿の入やう有」之、竿の入やうしらずして縄を打候ては、 善悪違い

也 間數帳 田畑により長き所を打候て、何拾間よばることきの聞ときちがい、または帳のつけ違有」之もの に書付る時、二度三度も能々聞とどけ付べき事。

立縄は少し違候ても苦しからず候、横なわは少し違候ても、長にかくり過分の違ひになるもの也、

鄉村 を請 取其村 へ入、まづ郷境以を見廻り高何百石の所、 田畑 屋敷共に何拾丁有之と大積りを

見 分い た 扨又 E 中 下 0 場所を念入れ見 分仕 5 繩 を打 de 0 也

E 中 F 0 位 を 付 候 12 土の 見やう、 毛 0 E 21 7 見やう、 屋 敷 廻 6 叉 は 野 田 山 田 色 マ功者 入る事 也

屋 敷廻 らに F 田 あ 5 野 田 叉 は郷 は づれ 12 も上 田 あ 5 此 段 書 面 21 書 L から た

位を作 が有 事 を付、 何 ほど出 可」有,之、 E 高 るが 中 此と 候 下 過 大體 か の位を付るに 分 里 4 21 叉は引込候かと大積 也、 出 は 竟 頭 候 頭 よし、 脇 然れども跡 0 ならび 分別また 頭の心持 叉 に竿と は 功者 過 々の上 段々あ 分 らを勘 77 5 0 入る 中 17 引 込 下 5 B 事 候 相 の位 定い 先跡 時 談 也 たし、 は、 V よりも可」有」之候、 々の た し、 帳 Ŀ 扨頭 奉 中下 行 正路 協等を以、見合と引合考 0 の反帳を書 12 かたより穿さくに 仕 儀 又跡々の上中下の位より引 肝 要也、 式 今度 此 あ 詮 0 N 義 なし 上 いたし、 行當り迷惑仕 中 に上 下 0 E 中下 反 込も 中 帳 0 下の をば る 位 H

き年 早損 上中下 B 場 の田 可 方力之、 あ 0) ま次よき時 位を付候に、用水 これ も考が は、 毛 ~ 0 場 Ŀ 入 0) 田と早損 る事 よく出來 也 候 場 もの 0 田 心也、 と此 用水の場雨しげき年は田ひえ候て、 見分を以、 上中 下 0 位然るべき也、 出來 たと へば

下田 も能作 人 0) 2 2. を \$ ほく入、草をよく取、 よき苗を植 ^ よき種物 を蒔候得ば、 上田 のごと

74

R

格

政

重

变

記

を付べし、桑を作る村は籔もしげるもの也。

まで買とるとなれば、 21 村 なりとも本田をつぶし候事は禁止と云へども、品により斯のごとし、 し萩種をまく、 行男女共 拾壹貳枚ほどづく織り出 駿 州の に莚を織、 內 12 一度植候得ば年を追て次第にしげる、毎年刈取雑穀のからにまぜ薪 高 千石の村あり、 次第 勘あるべき事か。 に鍛錬して武人相 Ļ これを賣 草刈場もなく、本より山野なくして籔なければ、下畑下々畑をつぶ りて度成の年貢を拵ゆる也、 つみ、 壹人はおさをとり、 一村のわら不足して近邊のわら 壹人は指子をさし、 然る間夏成の 年貢 に用ゆる也、 不 足故 夕なべまで 、少し

撿 地 仕 樣 覺

惑仕、其 0 撿地 は 位 五 繩打一組に大體四人を以有」之もの也、 違、 一十年 の仕やう悪しく、たとへば壹反三百歩のものを間違、貳百七拾歩も有」之様に繩を入れ、又は上中下 郷村の能なるも悪くなるも、百姓の身上好く成もあしくなるも、撿地の仕やうなり、たど撿地 報 年貢不足の時は其作百姓身上つぶし候、末々まで數人の百姓身上つぶし、其一類のもの歎悲迷 も百年 以天罸のほど不」可。勝斗、しかれば繩打は大事のもの也、依」之撿地の仕やう有増記」之。 ・も三百年も五百年も後々末代までも、此水帳にて高を結び年貢役等まで仕るべし、然ば 其頭をする者撿地の仕やう不鍛錬にては、よろづさし引 水帳

じけて作物質入少なし、其外野山に餘計候はど、大竹、から竹、しの竹、籔を澤山にはやし、末々地 普請、又城の破損、江戸屋敷の普請、家中の諸士ならびに百姓等までのそれ。一に應じ、 づくのたりにもなり候やうに心懸ありたき事也、 かやうなる事は、主人には御存無、之事も可」有遠 普請の節少

慮にて、仰付られざる儀もあるべければ、代官郡奉行の働可」有」之歟。 新籔を植るには、竹を中ほどより切候て植申す事、古しへより世に多し、尤見分は吉といへども、

西 の子生ずる事遅くしてしかもすくなし、 或 の地 ごくろは 知らず、 關東の地面には中より切多くは枯るくと也、たとへ根よくつきたり共、竹 末を切らざれば多くつきて、笋も快く はやく 生じて 茂きと

也、つぎ木などにも此てくろへあり。

漆、桑、茶其外樹木を植さすべし、若又禿れ百姓の上げ地など候はど、他領の者なりとも、 あ 山ぎし、 畑堺、野原などに何にても植むかず、屋敷近邊しへさもなく、 楮或は麻、染あい、かやうの類 を作り出す所の者をまねき寄べし、尤地心によりて相應 うつけたる村などには、 桑、漆或は

せざる事有べけれ共、大方心を付べしと也。

ぎのために畑の廻りに小堤をつき、其外わけもなきものをうへ置く也、又心得ある村にては桑を植 きて、其わざにて夏成の年貢を濟すところもあり、桑は初夏女童子のしわざなれば、 關東 0 地 一面は大方土輕くして風吹ば土をふき立、作物の根あらはれてそだち實入弱きゆへ、風防 よく見分して氣

弯 拾 21 しの補なひなるべし。 をらへ ケ 年 ケ しげるもの也、 多 45. 25 立 0 過 木 町 一候得ば薪 候得 四方グ は上臺所、 ば十三年目の木なり一本にて三四把づつ有」之候ても、 松 た 1 ゆべからず、三尺に壹本 毎 林 松薪ほ下臺所の入用たるべし、枝木は家中丼に百姓等に下され候得ば、 年 12 植 は別の木を不」交して松斗りが吉、實うへ生じて三年目 立、 十ヶ年 過候て十一年目に づく植候得ば、 は 初 貮町 年 0 四方に 林を残 拾七把づく年毎 らず は五萬七千 切拂 に植べし、 六百 其 21 後 切申候 本 21 植 は たとへば また 申 是も少 1 なく 也 小松

- H ば 4 0 一作 秋に 江戶 諸 子 0 木 くらた は三 より 松 の實植生して三年 原 百兩程と也、いかやうの林にても其所の賑ひに不」成といふ事なし、 五 12 六里 る後 て初だけを取、 か 北 25 又地をうなへ返へ 一在 目に置立候に、野原柴間 所 彼在 有、 所にて賣」之、江戶の商人來て買」之、右の村より賣出 此近 邊 し候て に松林 植 多し、常には 申 のあれ地 候得 ば、 に其儘らへ候得ばそだち 松葉を取て薪 おほく付 てはやくそだ に用ゆ、 然れば地 初 つと云 おそし、 秋 す所 にな 方支配 れば村 30 願は の初だ < 0
- せべ 地 面快ゆへに草木もよく實のる也、 き事 百姓 也、但 大小ともに屋敷に竹を持ざれば、 し其 屋 敷 0 西北 の方しかるべし、 又西北をあけて東南をふさげば、夏あつくして冬さむし、地面か 萬事 に用 東南 事 を開らきて西北 0 かくる物なれば、 を別 れば、夏す 少し づくなりとも ぶ敷し T 冬暖 籔を植さ 成、

役人は諸品

に氣を付勘辨有べき也

せべからず、地頭山は時分々々に朶を切らせ、 間 飢指衆又郡 L 賣拂ひに致事も有」之、身木は家中の諸士足輕等まで、屋作など仕候節には下され候事有」之。又し き無」之百姓、屋作仕候はいとらせ候事有、郡奉行の指圖を請切らせべし、 1 々を切といへども、松林はうすき所へ小松をうへ候ても不」長して、終には枯る、もの 古林には公儀 切拂 奉行代官の郷廻りの節薪に用ゆべし、 ふもの也、 一山、地頭山、代官山、百姓山など有」之、公儀山は落葉を搔き取より外、下刈もいたさ 其、跡に又小松をはやす事も有べし、代官林は枝を切り置き候て、上下: 其朶葉百姓にとらせ候事も可」有、 身木は方々造ひ所多ければ、少々の事には切るべか しげりたる所を見合せ、 又下直にして家中 也、 然ば片は 御鷹匠 御

らず、百姓林は下刈枝葉は其主にとらせ、身木と筋目なくては切らせべからず。 Ļ は 也 と成、木もふとり、植ざれ共萓すすきの類とのづから生じてそだち、木の質もおのづからはへて次第 り置 そだち候て以後時分に枝を分らざれば悪し、松の枝は身木のきわより切たるがよし、 新 木毎にケ様にはならざる物なれば、 木ぶり悪しきは切とり候とも、又は別地へ植かゆる事も可、有、いづれも實生より三年 林 ·仕立るには用木のためならば松杉しかるべし、三尺四尺宛間を置植べし、 切、其残りたる壹寸を身木のさわより皮をむき候て置候得ば、入ふしになり木ぶりも能なる 栗、榎などとり交候ても植べし、落葉をとればそだちおそし、 只心得のために斯の如し、又薪のため仕立候はど、くぬぎ、 とらざれば 次 くさりててやし 第にしげり候 杉は枝が 目に 植

べし、此外色々の心遣ひ、其時に至て可」有」之もの也。

依さ 者 也、 竿打 ある事 少も油斷不」可」有といへり、其外雨降、 せ 候は あ 5 ン深田 隨分目をはなさずてくろを付べし、取分横竿は少しの延ちどめにて大きに相違ある へも ふみこみ、地心を了簡いたすべし、帳付学取の役人百姓等にふかく賴まれ、 風ふき、毛の上の撿地心得可」有と也

0 く候とも山顔水損などにて、次第にせばまる田地 所 21 田 もよく~気を付け進退有べ 、畑當分地面せまく候とも、外に荒間或は銀山などありて、しだいに廣く成地も有 或は日影などになる 地抔も有べし、 しと云 ~ bo 尤中下の所にても年を追て上地になる所も有べし、 3 有べし、 又當分上 地 なりとも 末 K は 林籔 べし、 などにお かやう 叉今廣

矩 のかね、 田 畑 0 委細は算爼に見へたり。 檢 地 は大方右のごとし、 其外何撿地にても、 微細に歩をつもるときは各別也、 算法弁に規

林之事

こなら、 に百姓の嫌ふ事也、行々は百姓の勝手も能成候やうにいたし、山野についへ無、之所專 野原のひろき 松、 杉等 の林を仕立しかるべし、 地には、先地普請に用 场 かやうの事は るため、雑木竹萱など植置べし、其外薪のために、く 百姓もほねより、其らへ草刈場もせばまるゆ

歩竿の長さ壹丈貳尺貳歩也、壹尺づくに目をもるべし、 又其近邊の御代官の竿の長さを寫し用可

然數。

き半

りにて打也、

但歩行を定べし。

竿の持やうは我立たけのあての高さに竿をとるべし、打やうはひぢを脇に付て不」動して、腕さ

田 畑 V かやうの願にても横と縦と二竿に打申候、 但し縦を先にうたせ、其真中ほどを十文字にな

るやうに横竿をうつ也、 是非二竿になりかさぎ事あらば、 縦横の外に其歩ばかりを量りて、 增步幾步

と水帳に書事もあり、又なわにて打もあり。

歩をつもる事なかれ、大きに相違あるべし、但し地の上中下は別にあ Ш 畑 0 **撿地は登りざまに打てば歩積多し、くだりざまに打てよし、又山畑などを見分ばかりにて、** 30

繩打 一候節不仕置なれば、ひいき偏頗ありて私欲あるもの也、此ゆへにまへかた、なわ組の者にか

たく誓紙いたさせしかるべきか、文言はさまく一有べし。

物也、 道せ 此 まく打 B へに繩 計 の詰りたるは ては總じてゆるく打ちたるがよし、 百姓困 第 する物 也、 諸事 御料 心得其時に至 私領 ともに 反高 て可」有 に應じて、 之數 役目 あ また懸る

きては、其砌出合たる百姓やかましく訴訟しげる故、上中下の字を作りててくろおぼへにばかり書付 繩打 のとき功者をゑらびて筆取に定べし、 地の縦横、 地主の名、 ならびに上中下 をあら は て書

割符 渡 L は 道 少の L T の遠近をはか 25 仕 高 候に、 不 致 下なく申付べし、 L 自 候 由 得 に成村も可 _ ば、 日 るべし、 21 なり 幾 人にて 少も 了有、 た 又其普請故勝手よく成村も可」有、或は少しのためにも不」成所もあるべし、或 け情 過 何 又 普請の場所を渡すに、道に遠近あり、善惡あ を出 程 不 一及あれ 出 す 來 de V ば、 0 たすべきをわきまへ 也、 諸人の恨み多くし 然ば 其人數 12 7 为 て萬事 たき _ 日 0 時 普請 掟の は、 障 を見て以後の勘辨すべし。 り、土に 場 りになるべし、 幾 人 輕重 27 成とも請 あ り、能 叉 普請! 負次第 々勘 場 辨

+ 拾尺 目立 程方 米三斗 目 歟 砂 拾一 壹尺 貫立 目方 米三斗貮升目 程

石 拾一 七尺 貫立 目方 米五斗目歟 水 七貫六百目 米貳斗三升目歟

栗石 六尺 立方 三千貫目 程 米壹升 三百三拾五匁か

右普請割の算法は委細の品算爼に見へたり。

林か、 總じ 地 て川除 頭 林 t 3 当 請 出 すべ 12 は Ļ 杭 扶持 木 葉は 米 篠竹、 は 守 護 よ かっ P 6 田 一被下 なは、 歟 かやうの 類入る事 也、 竹木、 かっ や等は御 公儀

は、 はげしきを以てよしと云へり。 普請 奉 行 0 事 大よそなれば、 百姓 油斷 いたし日數を送り、 耕作おくれて諸事についへ多き物なれ

撿 地 之 事

人手間、諸品についへおほかるべしといへり。 りにては おぼつかなき事也、かり初にも大分入目かいるもの也、萬一しそんじ候得ば、金銀、ふち米、

といへら。 石原に杭 を打時、石しげくして杭の根入かたき時は、松木の杭を打候得ば、何杭よりも根入よき

候得ば、水かくりかぬるなり、水縄は長さ壹町大方也、貳町にこしらへてはたるみ有、繩拵 ざれば切れ安し、蠟を不」引ば、しめりてたるむ、ふとき筆の軸よりは少し細し、 いたし候は 總じて 地 ど、水をもりて勾配をはかるべし、用水又水道を付るには、 形 の高下を知るにも、水の勾配を求にも、水繩にて是を量り、 水もり肝要也、 勿論地晋請又用 また細過ては切れ 勾配 に念一入 水堀 ねるく など

がみなきやうに用べ 壹里 も貳里も其餘もあるには、敷居に水を入て水繩の下におく事もあり、勾尺は木にて作り、 Ļ 竹にはさみ見れば、うごきふれて惡し、權りは百目の玉よりは大きし。 ゆ

安し、ほどよきを了簡すべし。

水繩しめりてたるみありと思はど、紙を所々に付る事 も在」之。

足をよせ、大勢にて致事もあり、勿論百姓のいたまねよふに、高百石に付幾人とわり懸可」申、觸也、但し により三月節旬ごろまでも可」致か、長引候ては耕作の障りに成べし、普請の多少によりて領分より人 人足積りの事、井堀堰溝川除普請、正月十五日比より取り付き二月十五日限に仕廻ひ然るべし、

横 其 12 Ė 竹 22 堰 12 は 0 築切は 7 竹をならぶ \$ しぶち 皆萱 る也、 v 33 口 たし申候、 に仕 扨 又枝 立て 其竹のおしぶち仕やら口傳あり、萬一も杭木など打てはたまらぬも よし、 木 21 て築立、それ 初 12 は 先榎 より萱にて仕立 か、こならか、水つよき木 る也、 萓 は 成 を以て 程初 口 __ 重敷 おばそろい、

0

なり、

竹にて仕立るがよさ也

JII か 中 0 年 總別 77 k v たし、 羽口 0 出 の仕 水 すぐりかや のよふすに 初に は枝木竹を敷、 にて初 よるべし。 口を その上を萱羽口にてしらゆる事也、 いたし申候、 羽 口は水さわより三尺程 萱のあしきおば、ふみてみ も高 く築といふとも、其

柱 1 置て、其上へ 本杭 屋 をつ 6 N よく打 は 竹 幾重も竹をあつる の本 てよし、 をつよくし 竹は て、 しげくならべあつき程よき也、是も年々竹をあてべし、古竹お 也。 間 程 づく間 を 3 き柱をたて、 其柱 21 ひか へ柱 あるべし、 でも其ま CL かっ

竹萱等 つか をこらせ候 7 水普請は其道に馴て、たんれんなくばあぶなきもの也、 ひあそく候はど、人の居家成とも へば、雙方 0 ため 77 能 也、 引破 ふるがやとてもよわ り、羽 口 21 用 べし、 りには 水は急に出るものなれば、 其代 なら 5 X 12 de は 叉 0 其書 也 請 12 よせ 其節萱 たる

家におとらぬ切者あまた有」之、初而築切いたし候はど、たんれんの方へ相談しかるべし、推量ば 33 口 21 T]1] * 築 切 事 は、 古しへより伊奈の家 77 切者多し、 世間 4 な 此 傳をまな び得 て、 今 は伊 力

- 川よりとる用水は水口に口傳 あり、 石川などは年 や出水之節瀬かわるゆへ、 用水かしり カン VQ る事
- 川除 堤 は 少し 0 蛇穴あ 6 T 多 出 水 0 時 切 る 1 B 0 なり、 此 ゆへに年 々檢分之上弱手 Ď 所
- 上置根腹付普請可」有」之と也。

あ

5

此

ゆ

^

17

Щ

口

を付

候

とさ、

其

堀

0

[p]

21

目

當

あ

- 分に のさ 論 そふ事 仕 71 わぎ う手 用水 多さ Di 負 + ---は早稲前 など出 8 郡 TH ^ 0 然數 な CA れ 1. 來して公事 後百姓我儘 ば 4 兼 或 日 々の 其 を にて井堀を築切、 心得專一 みだれと成 V 72 し、 也 肝要の し事も在之と也、 しか 又はほり切る事あり、 時分いとまをついやす事も有、 れば用 水不 足の 總じて水かけ論 時分は、 是によって懸水之節、 其郡代 には 小 より 百 L の口 姓身をすて 堰 番 論長じて一村 不 百姓共 付 て水等 あら 口
- JII を 堀 廻 ず事 有、 3 いめを打とき、 **地形の高下によりて川筋を廻し打** べし、 叉堀 口 0 付 P う前 0
- Ш 川を築切す 77 て築て はた 事 (B) 6 まら 兩 V2 もの 川ば 也、 たより羽口にて仕出し、川 又とうゆ v П 傳 の眞中にて築切べし、築切の場所に口傳 あり、
- 2 は違 堰 普 ひ築やらは 門 0 事 JII よく を 築 切 候 得 6 共、 共 十年餘もこらゑ候 あ 女 6 水 を用 水 にとるを堰とい いもの也。 3 此堰 の築切はとり分、 つね の築切

ら收納よろしき也。

地普請之事

正月三ヶ日之規式過候はど、急速に 日限をゑらび、其家老が郡奉行所へ代官方寄合せて、 堤川除

堰等の普請弁に年中執行の沙汰を可」極と云へり。

其所 の用水の體を見て、不足の地へは井堀をほり、又惡水はきかね年々水損の地あらば、 檢分の

うへ ある 瀦井よ ひは惡水をおとす堀か、あるひは川除、つくみか普請有」之べしと也。 6 取用水 はみな口水門也、 堤を築て水門を伏する水の用なき時は戸をたつる爲也、

水門の

前後萱羽

口

に拵

CI

是を袖

羽口と云。

瀦 井 に悪水おとし堀をほるべし、 高さ水門の水きわを以てこれを推し、 落し堀を付て惡水を落さ

ざれば、堤切るくことあり、又水いか りて水損あり、 水門も破損 す。

上 ~ 右の用水井堀にも水門を臥ざれば、悪水のとき悪し、但し堀口に水門を伏てはよわみか、口傳。 かたむきては出しの根かくる也、 堤 III 欠總じて弱手の所へは、出し堤を築べし、出しの鼻川下もへかたむきては破損 此ゆへに大かたすぐに築たるがよし、 但しはね出し請出しに しげし、 叉河

口

傳有之。

けづり、 V とまなき事なれば、大かたの儀は正月中に仕廻い然るべし、正月には又堰ふしんなども有」之もの E 月三ヶ日の規式過候は、縄をない俵をあみ莚を織り、 田 地 へか しる溝 の普請、 家 0 破損 などいたすべし、 二月になり候 七日 過候は、農具の破損又は麥のさくを ^ ば田をかゑすゆ 次

は 所なく、 常 々油 作場への道路、古しへは廣く候ても年を追て田地へ切こみ、道せばくして牛馬行違ふとさは 作毛 到 なく申付べし、 もふみ損ざし、 是地普請の先達なり。 橋あしければ 人馬のあしもあやうく、 彌作毛損ずるもの 也 道橋 0 破損 よけ

なれば、冬中よりこころがけ有」之べし。

叉は n 付 者ども拾 共、品により半分か三が一なりとも、出水のちからに應じて其者に被下度事也、たとへ足輕小者又者 其 無主木か其沙汰を吟味すべし、また所により百姓のひろひ上る木ども不」残守護 私 後 領 方川ばたの 12 N 褒美あり度事也、又若往行 至 かくす事有べし、 一て不作 者共出· 法無之樣 水之節、ながれ木其外ながれ物を拾ひとる事有、御用 總じて破艘舟 21 V た し候て、早 の舟破艘 の作 法、御 H いたし候節、荷物ながれ寄事有」之候得ば、其近邊 其沙汰仕るべき事 公儀 **海壁書** 有」之、其趣を聞合て無日より急度申 歟。 木 か地 へ取上げ 頭 木 か 給 府 賣木か ふ事 0 あ

れば、 N まづ百姓を力づけ、奢を止めてついへをふせぎ、耕作に油鰤なく情に入させ候得 つ竟 は 百姓をおぎなふ事 を本とすべ Ļ 足なへて身ゆ かず、 百姓 疲て其郡主 すい び は し給 おのづか ふとな

四

民格

致

重变

記

然 米 る也、 力 しわ 77 の種 して、 關 下總國 を植させ、念を入て耕作いたさせ候得共、後々には上々の米になり味もよし、 東 りになる 0 近 地 國に幷びなき上米今に作り出す也、 布河村といふ所は水入の場也、 形 もの は 水 いか 也 50 たとへ一日二 田 は常の苗を作 日道 をへだてたりとも、 故に前々より赤米を作來、然處慶安の比より始て白 り候 自然にはかやうの事もあれば、 へば、水にまけ苗かじけて、たち 船路 の遠 近により是又勘 跡 か 々の儀也とも一筋 V2 るゆ 美濃尾 辨 へ赤 あるべし。 張の米同 米 E を作

費にはなるまじきか、 外質入よし、 種 豆 州 ほど質取 21 て壹 しかれども相應より四割程すくなく實取候也、 候はど、 人 百 姓 取わけ刈豆などは人馬の夫食、叉は田畑のこやしいづれにもよき也。 あり、 わらを薪に 冬中 相 いたし候か、 煩 ふゆへに畑 叉は をあ らし、 田 のこやしにいたすべき望に 漸本 しかる時 腹 して は荒地 正月の あれば何をまさ候とも、 末 12 候へども、 麥をまく、 是は何 思ひの

17

はあるまじさか。

H 隣 種 成 候 の小分といへども、長じて後には大分の身を失る事世におほし、つねらしょく防ぐべき事也。 4 0 て銭 IE 0) 月 者 惡 迄も 事 そ には月待日待の場にて、 失の 出 隙 來 をか みならず、暇をついやし家職 して一村 1 3 0 やうの 煩 となり、 當座 仕置兼て急度言 耕作 のなぐさみとして双六ほうひきなど事輕 の時 を忘れ、正 分段 ひ渡す かに と言 月を打過ぎ二月中まで おくれに成、 へども、 名主の 年貢不足 眼 をし L も勝負しげり、 く始り、次第に て不 のび、 计 訴 初 訟 は壹文が しげし、 終には 2 もく

物 姓 三四四 3 唐がらし、 ふなんを得 してうとく成 すべし、 候 成よく をとぐるとなり、 ケ年 富貴なるものは少なしと云へり、又國所により作り取 而も德分見べし、然ば江戸へ其日歸りの百姓は存の外の錢をとり、諸品に手廻し 江 戶近 少の間も油鰤あれば私欲さし出、がまんをたて邪やほくして末代の疵をかふむり主人までか は不作せり、 草花類を作り候而も利徳有」之となれば、まして壹反に付永貳三百文程の地には、 邊 るとなれば、いくへにも可」考と云へり。 給 者は無」之と也、又小給人入合の知行に高貮千石程 の地 ふとなれば、専一に嗜べき事也、 は壹反に永五貫七貫、或は拾兩程の地も有、 かやうの 餘村よりは 所 も國 不 一々有 作少 べし、 々発高 がまんはみな欲にまよふがゆへなり、能々分別すべし。 然る時は Ļ 小 役 地頭代官の勘辨仕置専一也、 の懸り物品 いだす村々有」之といへども、 ケ様の地にても、しそ、たで、ほうづき、 の村 あり、 4 3 しといふとも、 日損 場にて拾 百姓不」渡して は多しといふと 取 困 ケ 年 窮 D けふべん な 0 何を作 內 がら百 17 は

江戸より漸々二三里六七里ほども隔たる所は、作物に色々心得有べし、荒地山畑勿論下々畑などの

雑穀の實入あしき地面には

れく 候事。 野老 山 0 V B せうが みやうが 公子 てんにやく 牛房 ねぶか 徳損有害有、物は作らせまじ此外にも徳有ものを作り、無

かやうの類ちも作ら せ 夫食の他足にもいたし候やらに心を付べし、少しのさし加へあれば、大分の

12

民

格

致

重

實

肥

續

談の上仕やう有べし、 諸納之皆濟仕候時 去ながらかやらの次第につき永く未進の例に可」成とぞんじ候はど、たとへ壹 一分は、 あまりきびしく取立候得ば、百姓禿れ候事もあり、是等は名主とよく相

人斗り禿るいとても、

れば 其有徳なる百姓に代官の見せ能候得ば、奢りてあしき物とあれば、したしくは近よせまじき事也。 させ候得ば、 べきよわ の者米金を借 彌 壹村之内に富貴なる者あれば村中のたすけになるも有」之、又其村次第にすいびする事も有」之、そ すい微せり、かやうの者には代官の心得にて名主に請おわせ、一割半二割を高にして借用いた り百姓の年貢にさし詰り、借金仕候得ば四わり五割の利足、 代官の心得とあるより慥成ゆへに、一割にも借す事有」之、初秋に急度返辨いたさせべし、 し候に田畑を質物にとる事おほし、是不」宜が殊更高利也、總じて田畑の質物は 郡代へ相談の上、後例に成らざるやうにてくろへじしと也。 三割よりもかろきはまれ 如 也、 何あ 然 3

ち かるを百姓の上げ地など有」之候 かほど有」之を知り、或は種夫食の入目、或は人手間のかしり、 心付可」有と也 んをも 地 方心得無」之者知行方を賴り候へば、田畑一ヶ年も手作いたし候事 不、出事悪なるべし、たとへ筋目の役義等さしかへ候とも、隨分いたわり候て困窮無」之様に 得ば、 自分の勝手を勘へ手作 いたし、 萬役等の入目などを可」勘 殊に百姓をさしつかい あり、 是は壹反に付穀物 ため 候て、 也、し

其家の代官方金銀の手廻し不、仕が吉、是大秘事がよくをはなれ、ひいき不、仕、道理にこと寄、裁許

べし、 新 叉 田あらばたとへ取は不」付共、何の年の起と免帳に書のせべし、三ケ年過候はゞ少づく取を付 品品 により五 ケ年 取らざる事 ずも有べ Ļ 新田 には 古荒の おこりものあるべし、 是も免帳にのせ

三ヶ年 以 後 12 取りを付け、 本田 にむすびて古荒 0 高 を減 ~ し。

刈田を見るには、稲のこぼれ多は上作也、 少きは下作也、 又刈かぶの平にしてきれい成は上地な

5 ふろくにしてらねだち、 朽ちわらの おほきは下さくなり。

稻 籾に筋あ のわら 5 かくす事 其溝あざさは上作也、 あらば上作と知べし、下作のとしは藁のちいさきをいひたてにするもの也。 ふかきは下作なりと云へり。

茶 多 h 0 有之地 は上畑といひならは し候へ共、一ぺんには有まじきか。

撿見仕! 舞 候て取付け、又免許之儀は其家の郡代、 代官、 撿見の役人に勘定奉行立合、 吟味之上免

相極べし、但田畑上中下七段の目錄を以て可」考歟。

八 文言 月半 は 過ぎに其家の奉行より村々百姓方へ、御公儀御法度之趣を申付、次に其家中の仕置申付べ 其 所によりて品々可 方之、 諸事誤無」之やうに百姓安樂に身持仕候やうにと也。

撿見 取 付 之內、 金銀米錢 の納 所之儀 は油斷なく申付べき也

家 中 ~ 物 成わた し方は納 所相應に渡すべし、 一日も早き手 廻第 なり。

米大豆賣 拂 候は 10 世間の並を聞合せ、上方奥州廻り作等の儀を聞合勘べき也。

觸さびしからざれば、 百姓油斷して雜穀むざとちらすゆへ初よりきびしく申付候得ば、百姓諸色を大

事に可」仕歟。

加しかるべきか、大撿見は在々一通り相廻り小撿見は村之内にても作毛の善惡をわかち、小帳に書の 初秋に役人を在々へ大撿見にて出し年により遅速あるべし、大撿見は郡代、小撿見は代官目付相

せ、その帳面にてとりの加減かんがふべしとなり。

もの也、 撿見 いた 雨ふりには勿論の事也、爱を以、 し候に朝の間 は露をふくみ、わらのつやもよく、ほくびもかたむき質入りもよく見ゆる 晝晩をかんがふべきと也。

りくわたいとして一割も取をます事も有べら飲。 坪撿見の節同く中田にて取に、 所により三割ほども質入あしき田有、尤三割可」引也、 叉品によ

有」之村あり、是は先年の取高き故か、又代官の不調法か、又は跡々よりくたびれのたくまりか、又奢つ ば、少しもみしん無」之、 可」有」之と相見へ候はど、撿見者より家老か郡代へ內談を以て、取付の儀相應より五分も三分も下げ よくして諸 壹ケ年 来進いたさせ候得ば末々迄次第におくり、毎年未進たゆべからず、餘村迄の例になり候へ 事 に費おほきゆへか、いづれのみちにも未進、 急度取立べき儀なれども、撿見いたし候に、去年之年貢未進四五拾俵程も 當年貢ともに取立候はど、つぶれ百姓

て、右未進の員數にあはせとりを極めて、未進當年貢ともに取立てしかるべき歟。

大 候 あらし申候はど何程 小 は の百姓少も 1. 何 P らに 高下 も可 被 の曲事にも可」被二仰付一旨、 無樣 仰 に等分に 付 旨、 田 新田 地 へかけっ 場に しか 申べ るべき地 耕作に油斷なる百姓御座候はど可。申上一旨、 きむね、 候は『可』申上、旨、 作場へ牛馬をはなし申すまじき旨、 堰水 大事 に仕、堰 隱田 一守を付 仕

の類なり、此外ところくしてより文言書べし。

耕 作 の時 分は 百姓油鰤なきやうに代官方より急度申觸べし也、 右の時分人馬ついやし不」申やう

右 之 時 壹 百姓などの相煩 ム事候はど、他力を加へ耕作仕付させ申すべき事。

17

専一なり。

ば 夏のうちに金銀を調候村も有」之もの也、夏油断 まで相延候事おほしと也、 秋成 麥 作 にて取り 夏作 出 立べし、畑年貢七 來 候以 後、 田には作徳すくなし、 夏なりの年貢急度申觸、 月以前に三分一か半分か又は三分二なりとも、 V 畑には徳分おほき村有」之ものと云り。 たし秋冬迄 納 所申付べさ也、 延引致候得 萬一甚成 ば 米年 所に 納 貢 所なりがたさ村あら 27 よつて さし合候て、 取 立べし、 春

百 姓 借 金銀 證 文は 借 名主 米之儀年貢皆濟無」之前に一切返濟仕間敷と、七月中旬名主拜年寄百姓より證 方へとらせ置候事も有」之、又右之旨趣を札に書て村々に立る事も在」之、又若借かし 文を取、 小

不 自 曲 25 なるべきかとて、 兩樣 ともに用ひざる人もありとい ~ b .

八月朔 日より 初 年 貢申 觸納 所 いたすべし、 秋の初よりきびしく年貢之儀相觸候樣能き也、初秋の

PH

民

格

致

重

寶

記

事 は 諸 は多し、 あしくなる、 品を請ざれども、 惡事 正直 はすくなし、 成役人はおもき進物を請る事自然に在之といふとも、其程の返報をするゆへに善 私 欲ふかきゆ それもふだんは請ざる心入有」之によりてたまさかに得る也、 へに 惡事も多く善事すくなし、 此 表裏心 得有べ 不」直成人

代官 方へ 百姓來 る節 は脇ざし指候得ば目に立もの也、 其家老郡奉行の前 へは猶以て いかじ可」有、

年,去時々可,寄軟。

もの 者さして集べからず、 也、 高 E 月中 貳千石程の村有、 然れ 旬 ば成程かろくして其五人組中にて取行べし、又日待月待の節は其家内斗 12 種 籾 0 詮 総じ 此地頭の仕置に祝言追善の節には諸事についへ多くして、百姓の疲れになる 義 L てケ様の節よりばくち て、 種不足の百姓には種借 初 る事多しとあれば、 可让仕 、籾無」之は米にて借べ 百姓もよくまもると云 Ļ にて 叉米納 取 行 へり。 ひ外の の所

するもの也、 正月十日過候はど、其家の郡代より在々村 其所へは盗人等入事あり、隨分心を付、正月早々よりそれら一の家職にとり付やうに 々へ田畑耕作油斷無」之様と申觸べし、 總じて春 は油油

にて

籾納

8

少し

は

申

付

~

し。

可一申付しと

作等仕るべき旨、籾種詮義の上不足の百姓へ御かしの上は、 IE 月廿 日 以 前 12 百姓 方より一札 を取べし、 御法度の條 k 一畝一歩の所なり共あらし申間敷候、 相守趣始に書」之、 田 畑 売間 無」之やらに 若

出し候所

右 先 之類 年 より仕 其國 其所により考へ有之べし、 付ざる 儀なりとも、 百 姓 0 其所にて商賣仕候分、帳に仕立べし、 ため によき事は勘辨して、男女仕 習 **発相** ひ申やうに 極 の節用 專一也、 事 有、 尤 た

又賣拂 不 勝 手 0 所 は、 これ また 其 心 得 これ 有 ~ L

鍛冶 大工 木 挽 船 大工 ぬし屋 具足 屋 白 一銀屋 研究屋 銅屋 U 8 のや 紺屋 鑄物 師

總而職人並商人 獵師 狩人

右之數 相 改 帳に仕置べ L 若またこれらの類、 人其國に無」之、不自由ならばその所へ控居べし。

寺社 山伏 座頭 猿樂 大夫 社人 御子 乞食

右是等の類、其所の餘力にて渡世す、此多少を知べし。

行 持 の庄 たとへ 屋と貮人宛廻り番に定て、 ば五 萬 石 0 場 12 百 ケ 村 も有」之ば、五 其年 0 反 别 組 0 作 程 毛 21 わけて、 を見る時、 其 右 ----組 五 のうちょり年行持の庄屋と、 人の 者 12 人 札 25 カン 1 せ、 代官の 月

心に引合て 引方 の帳を究るとなり、 月行持五人は村 々へ諸事ふれ なが しのた 8 な るべ し。

事 3 か しか 知 行 あまりきびしけ るまじさか、 方支配 いた 茶 し候はど、百姓 n たばこはな紙 ば 百姓とをのくなり、 より はまへの の進 小肴、 物金銀米銭糸類一切停止能し、 寄っかざれば諸事の善惡しれがたし、 山 邊の炭薪 品により少しづいはくるしかるまじき 菜大 根 0 類樹 又近よせ過して 木 0 菓子く

下女たけ 年廿五 普代

同なっ 年廿 年季

同 な 年十八 一年居

右之外娘壹人何村の誰に縁付

付り

牛壹疋

家四つ内馬屋物置

樹木 ぶどう機本 かき幾本

る故、以後大きに理を得たる事有」之と也。 右之通り明細に改べし、 百姓の外諸職人にても有」之ば、尤子細に委く帳に付べし、 如斯帳に付置た

| 其所々見分之上帳に仕立可」置事。

ぶどう

栗

柿

栢

總而菓子

魚

鳥

鹽

干物品々賣出所

此外野菜

藁

繩

莚の類より

米

酒 田畑土上中下 總 丽 志和 物 賣出 海 所 111 紙 山 林 蠟 萱* 漆 竹木 油 菜種 草刈 白土 場 船付 絹 商 紬 在所 綿 材木 木綿 雜 麻 木 布 大豆 炭 薪 小豆 蜜柑

御 殿場 か御鷹場か往還か傳馬場か、 又御 庭 山等能 夕吟味 して繪圖 仕、 それ 4 の役 人能 相 守るべ

き旨申付べし。

村 々浦 々上中下を見分專一なり、村 々にて三年 か五 年以來の免相極の證文可二寫取

一村々田畑上中下七段、反畝高仕分別々目錄可」取事

男女 人 別改、 4: 馬 まで明 細 21 大小 の百姓を帳に付 たて可」改」之、 其帳面 回の次第

一 高何拾石 何右衞門

人數何拾人

何右衞門 年四

拾

房 年三十五

女

男 子 太郎年十二

同娘つる年九つ

め 年七つ

か

下人市藏 年五拾 普代

同

仁

藏

年三

拾

年季

同三 助 年廿五 一年居

四

民

格

致

重

变

記

云

中 也 なり、 真土に小石まじりの地はこやしよくさくもの也。 又小石と眞土と思ひあわね、やせ地 は土色はつきてはやく日にまくる故に生るもの同じく下

木の枝 白真土上田也、此らちに又品々有、ねばりよく日につよく土の色よきは上地也、 少し、五穀生じて斛おほく味よし、又ねばりなく日にまけ つきたるは下也。 竹木も心よく生

ていろよくふし少く生ず。 黑真· 土 21 色々あり、じやから色を上地とす、一切の草木生じて快し、五穀色白くして味よし、竹

入部之節萬吟味之事

に致すべし、公儀より御尋被」成候事自然に有」之、その節早速さし上べきため 城内城外の要害、城付の町、舟道津出し村堺、 近邊の他領、道法の遠近、河筋等まで明細に繪圖 110

在 々所 々草分ケ騎 馬二騎づく敷、貳萬石ほどは一組の人數にて、まわる村々へまづ御法度の品々

其

外仕

置等申

付べし。

なれば見ぐるしきもの也、御札ふるび文字見へず候得ば、御さし圖をうけて書き直す事も可」有數。 べし、屋ら 村 々に有」之公儀の御 い竹なわめなどふるく候はど、さいく、新敷仕直すべし、常々されいに致すべし、不掃除 、札場は伊豆石か叉は栗石垣也、いづれも破 損 いたし候はど、本の 如く仕 直す

又南高く北下き地は常に下作の地也。

用水多く悪水のはきぐち自由なるを上地とす、是にそむくを下としるべし。

商人多き村か又は代物を取村は取り少てし高く共衰微せず、上田或は上地或は滿作也とも作德斗

3 0 村 は心 得有べ しと云へり。

春の祭の賑い を見て去年の作を考、 秋の祭の賑を見て其年の作毛を考べし。

寺社の修理或は諸勸進又家作に心付べし、 丼に年忌月忌日仕やう、 或は又何神の開帳など心を付

べき也。

田畑屋敷賣商の値段を以て跡々の発相高下をしるべきか。

百姓 困 窮の村に醫者、出家、 または浪人のたぐひすくなしとなり。

富貴の所 に諸勸進多し、貧なる村下に夫婦のいさかひしげし、しへきはうすし。

壹反 に付 高壹石を十のもりといふ、或は十三のもりと云は、壹石三斗代と知る、是を何石代といふ、

田の上中下によりて石代相違有、 常に心付て百姓平になるやうに納所して能と也。

土 の善惡に心付べし、常に沼田の地々其淤泥干て重は上、輕きは下としるべし、小石まじりも同じ、

木も能五穀生じて味吉也、又小石まじりてもねばり少くして日にまくるは中也、 、王に小石まじり上田也、然共其內に上中下有、土にねばり有て日にまけぬ土は上也、 葛の苗木植物等まで

四

民

格 致 重 变 記

此

土は草

て作候得ば能出來、 根葉ともによき夫食にて半分の野菜調法の作り也。

共、 人人、 くさのみ介にならず、 下の はづれ候ばなにもなく不定の 地おもゑらばず作り安きものに候得共取實すくなし、 作、 小豆、 大角豆、荏、もろこし、栗、蕎麥の類なり、小豆、 栗、 蕎麥、 作也。 もろこしは何様の惡地にても作るものにて、 花はさけば葉をつみ用 大角豆、 あたり候得ばよく候得 油在は、 ひ候 得 てやしも不 共 かさな

何もなさものにて不定也、此二色はあまねく作る物にあらざるゆへ、萬、 大分に入、地にもゑらびあり、紫根は野間土にてこやしも不、入、よきものにて候得ども、はづれ候得ば てんにやく玉、紫根などはあたり候得ば能金を取るの也、しかどれるてんにやくは山方のこやし ケ條は不入。

もな ざいい 瓜、 るべき也。 の作物にし 茄子、 ねぎ、 ておほく作られず、 しやうが、人参、野老などの類は大分の金子取物にて候へども、い 江戸近又いづれの國も城下などの商賣ある所にては、 作りて助に づれ もせん

地村見分

東高く西下き地は早稲滿作也、 て入部せば是其所の地形の高下に心を付べし、總じて川上と川下にて總地形 又西高く東下さ地は晩稲滿作也、 又北高く南下さは常に上作也、 の高 下 知べし。

よさ 能 訟 12 いふとも、むざと畝引不」可」立、 田に稻は不,任付,木綿或は芋など仕付たる事有」之、年々日損場にて候ゆへ畑物を仕付候など、訴 は過まじく候得共、 のに 候ゆへ作る事も可」有、 畑方すくなき村に 江州などにては大豆あかしといふて四五年に一度づく稲をやめ、大 木綿はよく出來候へば米よりは所務あり、芋はよく候とて て夫食のためになり、 其後にまき候麥弁に翌年の 田 も田 作 - 各別 作の

候 毎 へ共、 つくる 畑 方 悪 は 地 もの也、しかれども悪地には大麥は不出來ゆへ小麥を作る也、 何作をすると銘々分量を見べし、作物によりて作徳高下あり、麥は何れの村にても大方畑 は 大麥猶 不出來ゆへ小麥を作る也。 小麥は取實すくなきものに

豆を作り地をやすます也、左候得ば田地よさもの也。

- L せざればあしきもの也。 V 弁に らず、下でい、油かす、炭などにて作る也、 畑 馬屋 方上の作物、麻、藍、木綿成、何にても金子取物也、 のこい 大分に入るゆへ、 野山無」之村にて 地に善惡をゑらび其うへ草などおもとらず、かいせう は作る事成がたし、木綿 去れども麻、藍は刈敷をくさらかしたるこや は野 山 のこやしさのみ
- 得は 次第こやし次第さの \$ 中の作物、 び 72 で敷 芋、大根、菜蔬、大豆也、芋は和なる真土に馬屋のこへを以て作り、 取 もの也、 みは づれもなくよき作り也、 大體にても根葉莖共によき夫食也、 菜大根は地さへふかく候得ば、 大豆はこやしも不、入作りよくして、地 野土間 雨次よくあたり候 にてやしをし

を以 引 下 田 の田はうちにては何合毛と見るが違ふまじきか。 と直 は 曲 壹升毛、中 7 は 小 引を立るも 何 撿 21 野に 見 程 は村 の毛と定 て見斗 は九合毛、下は八合など、並毛をふまへて、それに引合候やらに畝引立るも有、 中の 8 ひて究 5 め、 田 地 叉野 夫に引合候やうに畝引してよし、 壹枚 もあり、 にては 々々に不」残書出させ、銘々立毛見候て、上田 叉野 田 每 21 にて一割引二 何合毛々々々と見分けて書付、 割引と心覺を書付、 是に付ても仕やう色々 出は何程 後に勘定を以、 宿 へ歸 りて勘 の毛、 あ 5 中 定次 此 たとへば上 田は 田 第 21 右三色 右の割 何程、 T 何 畝

九段 路 0 12 3 しとて、 にいかた 也、 位はどれ て用 17 畝 然るゆへに上毛と書付る事もならず、其田にて坪法に逢候へば村中粉に成事に候ゆへ、成程正 3 毛揃をして銘々反取を付る也、 引 す積 百姓 也、 の撿見は惡しきとて色撿見を得たる方もあり、是は上田上の毛中の毛下の毛、 にて候やと帳へ合ひたもの心見候て、 是に 12 り也。 神 文申 B 二色あ 付毛揃をいださせ、其後 5 上手中 下 此仕やうは上方などの厘付 毛をば役 其帳を以て野へ見分に出、 何方にて成とも坪刈をしてそれをふまへてとりを究 人是を見計付 るもあ 取 0 6 所にて どこにて 叉此 は役に不」立、 方の 見分に 成 共、 下田 此 は 違 反 H も其 取の場 0 も有 位毛 通り

毛相應よりは多く可」引也、 1 撿 見 は立 毛斗 りにかぎらず、 田の面をさつと見て何畝分あらんといる事見習たるがよき也 其田 の廣狹をも見て、 廣さ田 一は其 心持 にて少く引、 せばき田は立

地 5 V 性 候時伏たるなるべし、早稲など別してわら性よわく候て伏もの也、又出來よく候て伏は、 よき田 めん鳥羽なみよく穂さき地につくやうにひつしと伏たるは、わらの 地 性 あしき田、こやしの性力斗りにて出來たる田は、からはおびたじしく見へ候ても取實なし、 は稻草だけ揃 ふて、 穂長く下りたるは 小出 來のやうに 見へても取 性よわきゆ 實 有、 伏 へに た 少し る稻 わら性っ も一色あ 0 風 71 あ

5 すくなし、 へ田 出 來同 のやうに 常 じよふに見へ 0 蒔 五六寸間 田とい ふは 候ても、植 にちょぼ 壹間 の通 くと一かぶ 田より蒔 りに 五 田 通 切 り斗 は収實すくなく、 につむ りに畑ものいやうに通じて蒔也、 也 蒔田 のうちにもつみ田 0 み田 は又なお とい ふは 取實

よく候得

共、

穂おもく候て伏

ゆへ、かたふしにはねず、せいかへなみのよふに亂にふすもの也

B 蒔田の數は米をよくすり候ゆへ、米にては植田と蒔田のとり質八九分もちがふべきか、 植 田まき田同じやうに出 來た る稲にて坪刈をして見るとき、 壹刈 五分程もまさ田 すくなく候 見分にも へど

此

心

得

有べ

八分 ふ坪 損 毛と見れば壹 小撿 12 0 田 毛 21 見仕やうは段々有」之、十分より七八分までこく立毛をば撿見を不、立、六分以下の毛斗りを七 貮 應じ 町 有之之、 て畝 町 Fi. 此 引をいたし置もあり、是はつよめなる撿見也、又壹場所切にたとへば村 反引捨る也、 所の 立 毛意 割損 是坪切のなげ撿見と云て大まかなる仕やう也。 毛と見れば、 四 反引 すて 三五 の面と言坪 に五 町 有、 此 所三割の の前とい

主を ても、 W かっ Ш 22 L 活 て名主 脇 計 V2 內 百 事 n を専らに 證借金有」之ものは正直にとてくろ懸候ても、さしつまり候まくには年貢を引負也、 ば 姓 21 にも未進させ色々失有、 也、年中ひまをかき大分金銀をつかひ、はては村中をたちす也、 出入たへず、 するやうなる 公事 B はまけても勝 のを名主にしては、 第五 筋生あしくかるきもの ても村 0 村 費となる事多し、 中の あだと可成 をば村 他領 中 也、 あ 第四表向 などり、 他 第三に公事 村 との取 物 は 身體よきや 汕山 をす でくろわれ は 後 H 自分 は る 置 B らに がち 引負 21 の名 3

4 折 積 יל 去 おとり に候、 りて、 4 大撿見 坪 12 見わ [IK 引 は 坪刈を賴にいたし候得ば仕そこないあるべし、壹反のうちにも毛は色々有ものなればなり。 L 合 小 見 け、 元は其村 撿 馴 の云ふ事を不い聞、のちには百姓ども公の仕置をそむき候事出 T 何 心 見 た 程 見べ の上り下りと積 0 る村に 初て見 損亡 の作 撿 L の善 何 ても壹反に る所ならば百姓等 見 壹坪 程 一悪大やうを見る也、 可 有と 0 積 る也、 らを以 考て、引有 何ほどあらん、 如斯 て の口 0 2 反を押、壹反を以 つもりも立、 反 年 ^ も聞、又見なれたる類郷 右 中下もそれ 4 見 0 年 候所なれば、 ·貢積 毛を見しらざれば成が りを懸 4 て村中を推ものに候へば、刈 12 去年とは何程去々年とは 見積 候 へばあらまし るもの也。 り、何分を作徳、 の立毛に積 た L 知 り合 3 見 也、 候ても見べき 何分を年 候 習 是 は大 事 何程の増 專 を 以、 也、

候得ば屋作等のたりにもなり、 萬によき事多く、詮義してさしつかへ障り無之候はど、割持にさすべ

也也。

L を拵ゆる事事にすべ 百 姓はこやしを拵置事第一に候得共、 本家はいかやうにも住居候て、こい屋を大きに作り、 2

をない候 何方 て成 にても作 人共、一 の外にかせぎ無」之候得ばついかざる物也、げにく一に仕事も無村にては莚を織、縄 日もあだに くらさいる様に仕るべき也。

奢候て は 其村へ公儀人入込候時は、はや寄合候て酒を吞、 必ふべんなるもの也、 に、彼名主上戶にて候へば酒についやす事夥、小百姓上戶にてのみたをるくをば、何 のみ候て、夫銭を多く懸る也、其外内證には猶ついへ多し、さなきだに田舍片土には上戸おほきもの かるき失のやうに てそ名主の 身代よくとも手づか 名主 身を持そこなふも異見も おば、 か いいは 成 7 程 有」之に、結句己がのみ友だちにして、人か ゆるせば、 人をゑらびてさすべし、 第二に奢 ら耕作いたし候が本意に候に、身を位高く持、作の事をば二の次にいたし、 ものは せず、 村の害と成をいふ也、 結句 先 夫錢 あしき手 D おほくかけ、 de de 叉免割の時は彌のみ、 く心の有者ならびにばくち打等 本 第一上戸は公用 を出 叉內 L もた 人 證 なも か自 おす也、 に出 た 分おごる 其外何の寄合かのより合にも 3 上戶 L 候ても酒手を多くつか 3 心に 0 2 にはさ村 n は詮義に不、及也、 B 候 やうにも異見して へば、 た をる は 何 也 脇百 方 12 百姓 ても 姓 遊 0

格

致

重

寶記

水堀を立候て水を落し候へば水早く引候てよくなる事有、可、考也。

──總じて普請をして其村よく可,罷成,儀は所の百姓見立て可,望候間、此方より見立に不,及と思へ ならざる事に普請 れ池につぶさる、は地主の迷惑を遠慮して言兼るもあり、又日損、水損所に地を不、持百姓は る人多し、 然共左にはあらず、普請をしてよく可」成儀心付たる百姓も或は田地を堀にほられ堤につか につかわれ、やかましきゆへおさへて言立ざるもあり、 殊に小百姓の望に候ても大 手前徳に

候てやくにたくぬ所ならば、凱杭を打ちき候得ば土たまり候也、扨地高く成候とき柳をさすべし。 溜りとなりて、のちは田畑にならずとも本途のかこひになる也、若又小水入候ても柳の根付ざるうち流 田畑押流て河原となりたる所方々に有もの也、左様の所は柳など植置候へば、ごみ砂を持置連々土

百姓望まざる儀はかすめ置もの也、能々心を付せん儀すべき也。

滅じ、 右之通 有高 永荒跡を起したる田畑は相應に上中下の位をつけ、石盛を以て高を付、 へ可」加」之也。 其分永荒引の内を

一村 葉下葉等薪に用ひ常に調法也、草おも隙のすき次第にいつにても刈候得ば勝手もよし、みきも大きに成 も不立、公用私用に事欠るのみ也、其上壹人百姓煩などいたし候へば最中の草を脇へかりとられ候事も あり、さやう成所は山を面々百姓の分限にしたがひ銘々境を立わり持にいたさせ、林おも仕立候得ば落 中入相の野山は在之といへども、總入相の場にて候得ばわれがちに芝の根までほり取候ゆへ、木

ば堤高させ 壹削 て捨 年々溜のそこをさらへ、土を置上げ候やうにいたししかるべき也。 又つくみよわくつき候とき、大雨の時分山澤の流れつよく候て押切候得ば、近邊の田地皆を砂入となり 深る三寸かくる也、水を千五百坪とらんと思ふ溜池は廣さ千五百坪にあまる程にして、深たかへより下 」立、分量を考て可仕、たとへば十町の日損田をひくべき溜は、水千五百坪有」之て田へ引候ときならし 春 少づら水 一度か二度のうるほひとなして大利を得るもの也、併溜池仕立るには天水斗にては不。用立ったとへば 秋は水少づくわき出候ても、日でりの時分曾て水不、出場所は溜池にしても益もなし、夏日でりにも 一半程にしては水千五百坪の用に立べきか、日損の時分水かわきやうによるべし、其考可」仕也、扨 るもの也、 かわき出 並地形より二間にせんと思はで、馬ふみ候間敷、 其場所によりて念を入べし、 る場所を見立べし、それにつき大分なる日損所にちいさき溜をしたる分にても役 溜の大小土目にもよるべきながら大圖かつか 拾間程にも可」能軟、馬ふみを廣く仕置候て ふ、たとへ に不

\$ 兩様ためしたると云へる人の物語也、松は地けをつよくすい上る物なれば、さも可、有」之歟。 水をばよけ とり候事も可」有、 澤水流出て用水となる、山にて林を立るに心得あり、松林に仕立候得ば水結句ますものしよし、 場にては水の入やうを見て或は堪を築て、さし水をよけてしかるべき所もあるべし、又さし 候 7 野水のたまりさしつかへて水門おして落すといへども、遅く引候ゆへ堤なさには 其所により可」者也、扨又跡先の村々より地窪成所にて水いかり候様成所は、 惡

とる事大法也、尤田の反町歩を改ため田高に可」詰也。 に成 畑 年數も切定め を田 27 たし候時は、三年が間は最前 21 いた L 其末 は大體に取ケ付る約束に の畑高にて畑年貢を取、四年目より畑を引候て田の年貢 て新田起さする事 も其品により究べき也。

役に 第畑に可い仕、 田 不」立ゆへ置土を用る事不」成也、總じて新畑之事は林にても芝間にても、 は如何様の石河原にても水さへ有」之候へば、置土にても能き田に成もの也、畑は地淺く候ても 土悪所は畑にしても詮なき也。 土目を見わけて土目次

得ば、 する事 ね は籔くね有」之ものにて候ゆへ、田地に致し候得ば反歩大きにふゆるもの也、尤新屋敷の方にては籔く の村 引 一候程反歩減ずといふとも、下畑の場を屋敷になし候ゆへ、新屋敷の方にても高も不り減、年貢は結句 なり、扨古屋敷の跡所務は大き成事成べし、然共百姓は當 在 居家敷は 調 は 」之ば居屋敷を野畑へ移し、家の後を田に 法と成 不及」言結 地 事 性よく真土間に に候 構 成 間しるてさすべし、 事 也。 て、又野畑 は砂 殊更山の腰に芝間の原抔を屋敷に取立、 間野 も畑にもすべし、結構成田地をもふけてよし、 にふけなどにて役に不立やうの所有」之者也、 分普請 に難義 いたし候ゆへ好 本屋 敷跡 を田 ましく候 屋敷に 左樣 地に

地 を出 水 し候て成共新堀を立、是を引べし、又洞などに出水在、之ば溜池を見立べし、日照の時分溜水を一 不 足 12 して 日損 がちの村などは、 他鄉 に悪水 のすたり水は無し之かと尋て拾り水有」之候は、替

く候得ば、年貢高めしても不」痛、家職の仕合あしく候得ば、年貢下免にても迷惑する也、たとへば蠶飼 の米相場下直なればくつろぎ、高直なれば難義する也、又作斗り可過る所は世間米相場高直なればよ はすくなく人數多きもの也、然るゆへ所に作たるものは皆喰盡し、 をし絹紬を織、麻をうみ、布木綿を織、紙をすき、或は山かせぎ浦稼、 下直なればあしく、二いろ也。 他所より穀物を買入るゆ 其外さまく一有、左樣成所は田地 へ、世間

地方支配人常可心懸事

外のすぎわへも何かと可い心懸し也。 かと暮し候ては地方を賄ふ事甲斐なし、 何にても百姓勝手に成候事有」之かと常に工夫して、少も甘に成べき事は見立てさすべし、うかう 百姓勝手よく成候へば年貢は上る也、作物の上は云に不」及、

より四年五年の荒野 と云り、新田 分普請に物入候て所得無」之ゆへ、百姓さのみ不」好といへども末代までの實となりて、百姓のため且は の御 新田に可」成場所有」之候は、用水の取やうを考、水さへ有」之候は、田に發し候やうにすべし、當 た めなれば、夫食などとらせ候ても可」爲、發なり、用水は壹尺四方の樋の水にて百町の田 は三年年貢なしに作らする事大法也、然れども開發に百姓大分に金子まで入候得 に定る事もあり、又は三年は年貢なし、四年めより末何年の間壹つの取になる貳つ ば、品に を作

王

通 云へり、今世間 八正繩三 百歩に候得ばよけいは無之、若は其時代に候得ば今間に直しては壹反三百五拾武歩に當て 人每 に云へるは、大閤撿は三百六十歩ゆへ今撿に合候て貳割よけい有といへり、右の

壹割七

步餘

のよけいなり。

5 も有也。 て、いかどに候迚、今は年々高下して當分見分しだいに取を付る也、永高の所も近き縄は反歩も永盛 り記 今の 高 永高 用 通 し置候ゆへ今に至りては反歩不り知也、 か た り反歩を付、上中下の位をも付、それと一の永盛を一筆毎に付候て清水帳には反歩を不」註、永斗 るを近年は古縄はゆるき積りに候とて、増年貢をかけ、其上又定めには年によりて損徳有」之 るゆ 之所は反歩不」知、水帳には永何拾文、たれ何百文誰と斗り有」之て反歩なし、 へ百貫の高よりは百貫の取をとれり、取永は壹貫文を貳石五斗に用ゆる故五つの定めな 永高壹貫文石高にして五石なり、 むかしは 是も撿地の時は 可收 永を究て

を求入 こやしを入、作徳多し、又草取場無」之村 馬草取 候得ば、 場有」之哉と其村に應じ多少なも見積べし、馬草自由なる所は牛馬持やすく、金銀不」入して 作はよく候得共作徳すくなし。 は牛馬持にくし、こやし不自由なり、 金銀を以、いわし油、かす

をもはごくむ所は、取ケに用捨なくしては百姓つどかず、かせぎ事らに過る所は其家職の仕合さへよ 男女かせぎ有なしを知、其村へ金銀入候積など考べし、かせぎなくして作斗りを以て妻子下人等

村の大法は東西へ長く、家居の南に田地を構へ、北に山有」之、馬草薪を取を上郷とす、背」之を

下郷とする也。

石程の所百姓勝手よし、田多き村は百姓のため惡也、又は上方は畑の年貢下めならざる故、畑多き村 は 百姓勝 關東 手あしく田多き村よし、是は上方と關東遠也。 方畑方永納の處は年貢安くして作徳有」之故、たとへば高千石の村ならば田方四百石畑方六百

不、知ば不」成、見やうの事は撿地仕やうの所にくわしく有」之。 土目 0 善 一惡心を付べし、春の見分に秋の作を考へ、秋の見分に遠作を量り知らする事有、 土目を

知、 々高 又畔を除三百歩過牛ゆるさ村も有、切添にて廣も有、元來繩ゆるさも有、畑を田に直したるも有、色 有」之て繩詰りの村迷惑する事也、是をよくうかがふべし、畔を打入候て一反三百歩に りて弱强 種 下有」之もの也、何年以前誰の撿地と云ふ事をも詮義すべし、同時代に入たる縄にても奉行によ 物 在」之、まして時代違たる繩には、隣郷にても格別之高下有」之、其所の百姓言ならしにても の升數にても知、また見分にても知れる者也。 「狭を知べし、一反といへば何 れの村も甲乙なく、三百歩有やうに思ひ候に、 不」足村 内證に高下

は畝 大閤 と言はなく、 撿は一反三百六十歩と言傳へたり、 壹領大步小步半步八十步九十步など、在之、大は二百步小は百步、半は百五十步を 然れども天正年中の水帳を見しに三百歩なり、 其 水 帳に

四

民

格致

重實能

是は 逐一詮 義 先規 次第に成 る、 又無,筋目、除は年貢地に成る可,吟味,ため也。

一他所の者作候出作高の事。

是は百姓分限を知の萬可」有。心得」ため也。

言が てする事 B 國 0 府等 右 たし、しかも自分支配所に成候とても引替られ間敷もの也、然ればとかく百姓盛衰に隨ふもの也。 地 鄉 百 0 えの道 姓 面 外 一立毛に不、應、取ケゆるき村の百姓語り又高取と思ふ村の百姓豐なる所は跡や取ケ違たるとは 富 21 打 土 貴成 候得ば誰も 目 廻 候時 法并近鄉 0 善 所は籔くね 見やう色々可」有い心得、先村 悪 麥 田 可」成也、只六ケ敷は取ケの考也、跡々取來 えの道法書付取 藺 田麻 も茂り林も深 田等有」之ば其反數、畑 事 有、 し、家はちいさくとも壁厚く 此外も可」有、 々善 惡百 は何を作のわけ、作の外家 姓 の盛衰を見べし、余の仕置等は 錦細に取」之て帳面に造、之、切 年貢の强弱さへ見分る事 屋根もらず、 職 の事、當村より方々 所に公儀沙汰なく 定 一應に た 夕可 る 法 見 不知 を以 也。

出 家 山 伏神主等繁昌 し、 諸勸 進非 人等出入する也、草臥たる村 は是に たが 30

よか くもの、座敷よくして、公義人ひたと泊りの宿に成て、脇百姓は切々つかわれ彼是難義に及もの也。 言ならす るべきよふにも 村 4 故 0 内に 取ケも連々つのる也、然る村にては脇百 身代よき百 もふ也、 姓 其上彼のうとく百姓手 一兩人有」之候得ば公義 姓は高取の相伴にあひて迷惑し、其上 作の田畑よく候と人見 人は其家を斗り立寄、福や 候ては、 か 成 を見 5 のづか 候 12 7 ら上 は其 又彼らと 郷と 村中

是は跡々の取を考候て當取を究物に候得ば入る事也。

屋別の事付本屋並水呑分ケの事。

是は萬事考に入事也、 總て家別は四五年に一度宛改候て增減を見べし。

一人別之內男女下人の事幷牛馬之數。

右同斷。

馬草取 場薪 場分量付、 村中入相の野山どこく「何程、 面々分ヶ持どこし、何程、 他郷何村と入相

の場どて〈何程、銘細に可、取事。

是は取ケの考へにも入、村の善惡を見にも入、以來百姓野論抔有之時分引合に成候事も有」之者。

公儀林 何間 何木目通何程廻の木在」之などの事。

是は樋橋川除其外何ぞ入候時のため又用に不」立候へば拂候事も有」之。

小物成年貢分ケの事。

堤何程、河除道橋堰堀等年々普請場の分量。

是は公用の時分可」遣ため。

寺社何ヶ所、除地年貢地のわけ。

P4

民

格

致

重

黉

肥

四 民 格 致 重 寶

入部弁 村々見分之事

又委細 し指出 ば成がた 先鄉: 御料利領に限らず、鄕村を支配する役人は分別才覺勝れたりと云ふとも、地方の事を委しく不、知 可取 に取候事も有、 し、 村を請取候はど村々より差出を取事大法也、 ケ條 地方の肝要といふは百姓困窮せずして、 當分開敷時分にて細なる差出難」成候はど急に入候事斗を取、重て細に取ってよ 就」夫取樣色々有、 連々取かもつのり候やらに取釧を功者といふな 田畑と取 ケの 事 斗 り取 も有、

田畑 上中下銘 4 反 別弁永荒引方の事。

是は年貢取納めに候得ば不、及、言指出の第一也、是に付売間起し田畑新起し銘細書載、 21 少も不。隱置一旨奥書文言に可」為、認、之。 此の外

石盛分米の事。

五年成とも十年成共取米員數同厘付反取の事。 是 は 上: 方抔 厘 付の所は不」及、言、石盛を以、 反分高に引合。

爾 生ず 也、 n 爭 きもの也、此 ふべ た 班白 7 る者 n 天 て相 き事 茅 ば 下 謂 かれ、 を 萬 聞 の者は提挈せず、その朝に入ば、士は、 上に 及 て云、 21 坳 皆同 T あ 書格物致知 夜は らず、 周 た て、 我 胞 0 西伯 等 爾 0 禮讓 繩な 乃小 兄 夫人となして農工 弟 ^ 歸す の業有ば、名つけて 也、 人君 へと云るでとく正しく教導くべ を專とすべ 姉妹 る者四十 子 0 なり、 庭 き事 を履べ 國に 商 21 12 まして謂 至 餘れりとなり、愚思見るに、本と人は天 בלל T 四民格 らず、 迄古 有 大夫たる事を譲り、大夫は卿たる事を譲る、二 人の謂 民 ん乎、萬の 乃相讓 致重實記と云よのみ。 は 愚 き事 成 るごとく 者 て其筝所の田 55 多け 也、然れ 此 n 12 ば 長として靈成る人、 0 事 ば をは緩 廣 を以て間田 誠 21 1 此 IE 書 ふすべ しき學 凡て 地 として退けると か をし を父 四 私慾を以て 民 5 0 ず、 る 母 事 或 助 畫は と成 10 0 な 君

于時享保辛寅七年霜月日

.)

e. .

広閣

の晩

生

池谷玄瑞正光本庄鄉

一草亭に書す

* ~1

忌

四

四民格致重寶記之序

も一反 典 また んとて相與 致べき事なるべし、然ると云ばとて畔を爭ふやう成事は有べからず、古人の語にも身終迄畔 方 望て一覧し、 子 存念と見 に安し、 手 孫た は御代官杉田氏忠次其子杉田氏勝正其息女は包暠の母也、 然は ,此書 H は 其子 を重 る者 を失はずと、虞芮の兩國 其 益なき物を樹ずして人に益ある物をうへて土といふとも空しく成すべき事にあらず、大功に を関 忠易其子今包暠に至て四代 民 道 へ、公務 の相續 に周に朝す、 如 12 は 其 功者 國 12 月 志 及年 0 て忠節 0 の宜敷業子孫に残、 本 地利を明 にて古今に通 深を察し なり、 を積りて漸 其境に入ば、耕す者は畔を譲り、行者は路を譲り、 の助にもなし奉るべき子、我愚成智を專と成さずしてまた常に博文の 民安ければ國安し、 かにし損徳を勘 T の君田を争、久しく平ならず、相謂て云、 此書に序す、 達 一卷の書と の上智 也、 勤の爲にも成べき乎と土地人民の助に成べき業を勘 包暠遠 の者 成 ~ ひそかに る、 に尋 爱に 境村里の御使又は諸役所の業を辨へ知と見へたり、 水道畦界を正ふ成に工夫也、 子 又は下愚の千慮の 神尾 孫 接に、 に残さんと欲し、 氏包暠先祖神尾忠次、 誠 其外一家の者ども皆代々御公恩の有難さ 21 天施し、 一迄もさぐり求、 他 西伯 其邑に入ば、 地 見を憚て秘して置 是以て 形 を成 は仁人なり、 其子忠儀代 L 民に教則は民其地 萬物 男女路を異に 叉自 夕御 集、家に残、 しを深 往 を譲 I は他より 者 一夫を交 代官相 て質さ に葬、 れど < 母

四民格致重寶記序

其求,也已。 之事也、爲」上則忠、爲」下則惠、乃有」裨。於經濟之方,邪、忠厚於、余有。師弟之誼、因序。是言,以應。 神尾氏忠厚者、携,此書,來而請,余序、余觀、之、乃祖乃父之論,司農之務、皆紀,農協、功、與、鋤利、氓 牧」之者可」不」盡」心哉、大抵宰"郡邑」、則懇」田興」利、經界以正、四民各得"其所」者、邑宰之力也、 古日、勞、農勸、民、 唯農是務宜也哉、 農者、天下之本、而五穀者萬民之命、夫然故民以、食爲、天其

資曆三年癸酉二月下澣

秘書監朝散大夫林信言子恭識

5

四民格致



四民格致重寶記

神尾包暠著

領 も顧ず 0 利益 主 の基を開き、所の衰徴なる端にて、大きに惡き事也、嚴に禁ずべし、農工商は相互に持合て世 地 頭 12 管ら新様 成べきが家業なるに、只面々の手前の利潤や稼を専らとし、世の盆不益 0 油 斷有 まじ の珍敷品等商賣するは、 き事也、總じて奢 りケ間敷結構なる品、 辨なき事なり、 終に 博奕 は面々身の詰りにもなる事を知らず、 の道具、 無益 所の際 の翫 もの、 衰に懸る事を 食物等の

品禁止

L

 商 賣

を改め替さすべし。

仕出す 至り、 醬の を入 必定なり、譬以不饒にて、貧に氣遣いなき身上なり共、風俗の障りになる事なれば、嚴き戒め禁ずべし。 一 農工商の中、町人は一番に骨を折らず、金銀の廻りも能きもの故、分て奢り易し、奢ば貧に成は 一商物 類 T 此事は町人百姓に通じて有事なり。 人の を薄 數に * 知 に定數ありしものを不足にし、布、木綿、紙類 ずば、 心 す 足し、壹帖づくの境へ、多く藁を入、大きなる蠅にてからげ、たばこに欠付 術 る 類 を 政事 の事 害 L 、風俗 22 甚だ多し、 疎なり、 を観 る、 知て禁ぜざれば、 或は數を欺さ 大罪 人なり、 又は 俱に不實の心底なり、 領 主 貫目を竊み、 地 薪抔の尺を短くし、紙はすき切 頭たる人、 丈け尺を偽 自分の 恥べき事に非や、嚴 領地 る仕 より と云事 斯 方なり、 る不 の用立ず紙 實 をし、 不實 0 事を 酒 0

昇平夜話大尾

ば人道 下直 も取 より に委せ置べからず、 命 0 るも 共 盡 利 なれ らずし 5 利 何 町 て後 のなり、 益 共 利 潤 の用ぞや・ 12 人は ば、 物 害 成り、 を以て世 悔 を貪れば、 價高 利潤 すれ T あ 但し 6 は、 自然と商賣 け 共詮なし、 己も又難儀に及ぶの憂なし、 を以て、 渡世 n 近年 近年 人道 を渡る者にあれども、 却て世 ば利潤 世上 頻に物 諸品 72 12 一の困窮 害有に至 渡世の營とする者なれば、 も多き道理 ならずに 此理を能教諭して、 上の困窮難儀となりて、 多がき如くなれども、 の價追々高 價の高さは、 となる事なり。 付、 ては、 なり、 彌 值 元來天下の物を通用し、世間に益あるを業とするものなるに、 21 天命 高 自然の勢に非ず、 な され 利 不都合に高利を貪れば、 5 盡て家 を取 妄に物價を高くするを事を禁ずべし、 は れば、 求 諸 物 利勘 る者 世上の利 役 價を賤敷 を失ひ身を亡す、 の困 少し、 商賣 に過易し、 窮 商人利を貪るの甚敷に起れり、 Ļ 益 彌 は 彌薄 商賣 など云事は思 増なり、 多分の内 く成 利勘なれば義に疎 自ら薄く 金銀 目前の小利を得 て 物 の相 にて、 米穀 成故、 商 ひ付ず、 場 人も 山 相 自 0 段 如 應 難 稀 貪利 家業 は、 ると云へ共、 儀 12 < 71 及ぶ事 利 は 自 の商人の意 潤 岳 の本意を失 義に疎けれ 入 然 商人は素 0 有 高 0 て、 如 な 利を 勢な と云 天 世

近年 は前 昇 々より、 平 夜 其 話 所 附 12 有來らぬ賣物多くなれり、諸人の自由能く町人の稼には成べけれ共、人 錄

L

なり、 らば、 ずし L B 召連べき職人は、常に不足なき様に備置べし、 1 誠 2 1 3 少き 出 所 T 3 0 不 工人 年 有 T 足 0 來 す は、 常に の者 無 長 數 堅 事 る品 は 工人 短 を 3 を禁ずべ は ・禁ずべ 鄉中 保 大方町家 萬 他 21 あらば、城下町 にて事濟なり、 八は風俗 構ず、 ち損 方 ーの の作法に隨ふべし、 より L せ し、 時 に住居するものなれ 召連 ず、 城 手 の害とな 譬ば、 昔 拔 下 今の 0 べしと云に、否と云たれば迚、 L .~ に有所 7 人は實意厚く、 招き置、 細工人有ば、 5 させる張など云細 細 已が I. 人は 領 の職人へ、常々扶 諸職 恩を與 利潤 主 誠 地 は 少く、 人、 頭 多さを 2 人 へ置べし、 0 のづから人々無益の物數奇、 への爲に 一日作料定有べし、 町 恥 家 其餘無益 見分をよく、 辱 工人は一盆なき職人なり、 事とする故、 なり、 の掟を守るべき事 す 持を與 萬 るの の細 詮 偖 ---誠 の期 叉陣 方なかるべ へ置て、 見 E あ 工人は嚴に制禁すべし。 手 らしか に至 分 中 へ召 は にする事 總て奢の 萬 勿論 よけ T ば、 は、 し、 ーの 連べき諸 なり、 n 好 時召連 品、 共、 は 作 み有 きせるは京、 他 城下町にも、 り出 方より招 早く 若し 普 遊道 職 て奢り、 13 0 す 人、 L 又鄉村 損 所 具 人 き難 扶 ず 12 0 大阪 貧窮 無益 常に 賢 器物、 不 持 るな たれ 足の 42 人に 住 恩を の品 5 21 職人 て、 共、 成 居 陣 丈 江 戸等 を作 中 も興 斯 夫 る基 する 12 あ 若 3 保

勝 利 隱 有 分言 田 如 は くな 天 下 古今の n 共 冥加 制 禁 盡 な n T 不 ば、 慮 私 0 災 21 切 あ 開き、 る 道 理 隱 な 和 L 置 ば 12 永 於 八 T は、 (1) 移 を願 曲 事 たるべ 3 樣 21 し、 教 所 奸 有 ~ 曲 0 事 は H

無益 諸 得 1 衣 3 0 太 平 利 者 食 盆 21 0 人 輔 L は T 薄 12 け な n < 土 共 地 る ば 樣 次 を費 世 な 第 L る 21 0 物を 生 利 益 民 斯 植 多くな 3 21 成 者 さすべ 物 有 を作 n ば ば し、 求 9 8 譬ば 田 出 食 3 す 畑 共 す 3 熟 る 0 21 瓜 事 費 無 8 时 益 主 あ 瓜 0 食物、 6 領 菊 地 皆 花 頭 人の 草 などの 0 花 心 貧 を などの 窮 用 類 ~ 25 類 \$ な 稼 所 3 (1) 植 な 志 利 益 な 間 50 6 27 敷 は な 6 譬 な 3 N 自分 成合 共、

作 勵 ~ 25 CX 3 2 L 手 領 出 合、 間 主 損 若 L を 地 ~ 對 成 か L 利 叉 け し、 場 72 益 H 所 村 難 起 21 百 0 儀 III な L 姓 る家 力に 返 21 欠 0) すべ 8 等 不奉 業 T 有べし、 21 も及び L て、 な 公なり、 5 亡所 天 地 兼 地 油 斷 は 3 所 21 尤當 萬 持 成 すべ ならば、 物 主 6 時 を 72 か 0 持 らず。 生 力斗 る 近村 來 7 は 5 12 各 0 及 人を 别 Fi. 田 六七 び難さ分は、一ヶ村 畑 利 其 益す ケ村、 餘 耕 人 作 3 力 組 0 得 21 暇 合を定 あ 起 なく、 返べ 5 農民 4 8 0 力を合 置 早 所 は 速 を 組 売 右 21 の手 合 益 せ、 し置 12 0 早く 傳 村 B な L 4 なら ば て、 起 相 ¥2 天 1 物 荒 F 耳 返

を

す地

及

鄉村 0) 內 21 家業 木なき遊 民 あ らば、 家業 そ 真ふべ L 家業 な き者は必ず 僻 事 をな 風 俗 玄 亂 るも

のなり。

昇

平

夜

籍

是叉 Ļ 地 頭 制 ^ 强 1 禁 太平 訴 0 0 事 楯、 久 也 L を突、 V 3 TI n 狼藉 ば 共 先 制動がに E 祖 0 IE. 武 しき 及ぶ事多し、常に取らん取られじと争ふより、 威 筋 次 第 目 21 0 衰へ 者 21 て、 下 勝 代 4 に成て、 持 傳 たるは 少し 免すべ 心 12 應 し、 ぜ 82 事 求 恩儀の絶たる地頭と あ め肺 れば 3 徒 類 黨を は嚴 結 禁 C, 有べ

百

姓

なれば、

さる事

ずもあ

る

~

ば離 村 は は 布 0 子と 百 毎 散 百 す、 年 姓 姓 云も 共 御 は 東照宮· は、 飢 代 0 官 寒 名主 を着し、 衆、 12 困 Ŀ 支配 長 意 窮 百 21 せ 繩帯を致、 姓 所 VQ. 鄉村 程 たり共、 ~ に養 御 暇 0 百 ふべ 賜 藁に 家 姓 3 節、 し、 內 共 て髪を束 21 は 仰 死 豐なるに過れば、 床 をは な 出 3 V2 ね 3. n 樣 た L 21 る者斗 疊を敷 と云 生 ¥2 ^ 6 農事 りなりしと云。 たる 樣 21 と合點 家 叉 を厭ひ、 或 は、一軒 人 致 云、東 し、 業を易る者多し、 もなく、 照宮關 收納 111 東 男女共に、 付 御 樣 人 21 國 との 困 0) 窮 節 身に すれ 上意 鄉

場 < H 0 勘 0 を あ 辨 水 切 物 8 懸 旭 T 新 置 なく、 5 せば、 田畑 不 ~ かっ 足 らず、 猥に し、 を切 其村 開 彼是 企べ 方の 切開 く事は、容易ならぬ 当に に付 差間 けば、 非 單 になる、 す り多き者な . 天下の益、 若 L 叉 又 右 れば、 事なり、 何 0 領主への奉公に 0 如 障 き電 古人 3 惡水 8 りは なく、 8 溜 新 なく の地 田 て、 畑 人 共、 力を懸 を埋 21 百姓 せずし 今引 潰 せば、水 n の手前に ば て、 成 6 おし ぬ新 田 難多くなり、 も作徳あ 畑 置 12 田 たる へ水 な 3 5 B を 地 0 懸 21 秣 油斷有 な 有 32 場 ば、 5 稻 本 干 空 は 右

其

村

方の越度なり。

るさ 1 曲 切 求 や、 0 12 は L 今 ることに L も久く身樂に 3 起 밂 隨 事 は なる め T 慰とするもあ 叉百 江 咄 な 自 地 し、 4 T 戸へ登 事 賄 は も合 頭 分にて、 なれ 賂 姓 商 の威 叉 百 親 あ 5 男は は を の諸 な 姓 V2 兄 5 6 3 弟 新 行 樣 して筋骨ゆ 0 を輕んじ、 勿論 叉 江 3 2 風 21 田 願事は、 8 少し ·俗 て、 戶へ移奉公に出る 四 下 と云、 地 是も制禁有 歎 一後ず 免 內 民 た あげ 江戸を 共 女も 年 城 分 3 庄屋、 庄屋 るみ、 になれ i 下 取 る一 禁令を犯し、 に、業を替 遠 して 繕 近 21 抔 見 年 8 なれ 事 依 W 然べ 代官、 ば主 云も 鄉 事 なり、 ね は 鋤鍬を取 T でを濟 共 ば 江 村 き所 るは 人に 0 恥 戶 永く 21 もの多し、 奢侈 は、 郡代などと、 叉鄉 T L 其所の自由よき儘に、 及 辱 は 置、 制 て、 願 あ CK 江 0 具足を所持せざるは恥入様に、 n 中 如 他 禁の 戶 0 ば 表 鞠、 田の中へ入ることを嫌ひ、 131 端 < 國 21 風と成なり、 往年 向 々の茶 思な へ奉 替 事なれども、 居 揚 掛 願 る事 5 弓、 次第を經て願 6 公に は、 3 は 江戶 0 屋 は -役人へ 立花、 通 家 往者 地 世 抔 叉以 り掟斗 は、 に永く居 方へ 中 ざりしなり、 多 村里なども知らぬ顔して、 及 何を言立 茶 し、 奉公に出ることは 賄 前 食物を社賣 び ふべ は、 賂 6 江 0 湯、 され して、 て、 0 戶 き事 樣子 等に てする 家中に奉公して、 誹 後は 今は ば 町家家持に出 見 奉公せ ならはしなり來りしと云、 諧 な 鄉 なるに、 る事な 江戶 許 5 事、 引替 など 中 す 21 禁制 は 樣 叉 近 るに、 T に家を て、 L 損 家老 8 年 云 21 者 17 拵 地 25 は T 及ず、 今 持、 な 立 指 村 江 7 季 江 頭 ----入多 歸 多く業を易 戶 人 ゆるし置 は 里 戶 詰 ~ 抔 25 * 恥 叉下りて 大方當用 0 的 種 供 多 見 辱 士 縁を を射 或は 1 とせ に供 をす 4 V2 奸 77 成 者 叉

羿

平

夜

話

附

業 27 爭 替 P 及 を勵まし ZI, 6 事 T 其 筋骨 を知 頃 衣 0 らず、 農民 不丈夫 服 いべし。 髮 形 は 憐 を飾 にして、 皆前 びべし、 6 21 其 寒暑を厭 云 是を治る者、 心 田 柔 夫 弱 野 にして CJ. 人 なるもの 奢に習て家業に怠り、 ひず 未前に其機を察して、 为 なりしとなり、 しく、 年貢諧 貧窮 太平 役 を私 分限を辨へ、 21 久 せん事 成 敷 虚虚に、 て田畑を失 を斗 古風を失 V 5 つとも N 互 果 21 なく はず一途 田 は家内離散 畑 風 0 俗 畔 移 12 農 * 9

賢くな らず 統 扨 其 U. 如 豐 諸 解 金 年 叉 役 家 3 家 殘 衣 抔 百 21 中 3. 今若 と號 服 中 T 姓 追て貧になり、 諸 の召仕ものは、下女、下男共に、 は 8 0 上下 家 士 10 し何 L ひず 8 \$ 中 て、 或 た 事 ^ 互に取らん取られじとの争より、 用 かっ 世 奉 け かあらば、領地 多く取らんとする故、 しく 足らざる故 上 を延 公せざる者まで、 士風衰 25 成 \$ 連 し、 7 女は 費用多くな 下 へ、利勘卑劣になりし躰を、下女、下男數年見聞し、見透す故に家中を侮 夫を償 の罪 殊 の民、 に疊 0 其 みに非ず、太平久敷、天下 は 皆簞食壺漿して、 3 風 の上 百姓は多く取られじとす h 領地 迚、 儀 其 移 21 の百姓なり、家中に て勤 E て、 年貢諸役を貪 主 後には地 人より 後 8 21 は 食事 敵の師 0 --頭と百姓の恩儀 統 宛 8 3 分限 ·一統費 雜 取 行減少せらるく を向 る程 5 穀を食せざれば、 居れば、 を忘れ、 ふべ 12 用 新役をとり 多く し、危き事ならずや、 は、 百姓 相 奢 應 成 家 に鬢髪 地 3 0 て、 を排 中 17 心か 文 成 定り 後 \$ 3 77 て絶 或 あ 12 たましく、 村 n 伽 は 0 ば -里 羅 用 通 金叉 つなり、 元 りの 仇敵 家中 歸 結 かな 世 T を用 は才 年貢 B 0 智

農民

F 堪 麁 なく、 直 心 若 雨 L 6 患暑 農民 にて、 末 37 IF. L 0 な L 直 軍 古 下 12 農業 げ緒 旅 老 伽 T 17 0 は農業にさへ精を入、怠らざれば、 出 る管笠と蓑なり、 若 羅 0 嫌 かたまし L る 0 品 1 4 な L 17 3 0 を 油 狼烟 引 不一卷 あ 6 を用 脇 n 傳 か かっ 畫 を立 ざし ば からず、 た H 21 まし 置、 心 ず、 夜 6 を 百 强 夫 をも分ず、 禮儀 農事 杖 役 四 剛 髪は藁にて かい るれば、 程 剛 6 五 21 17 作法 す、 强 出 を勤 0 -枝 年 きた 12 る者 質朴 家へも歸らず直に城下へ相詰 山 俣 de に疎 L 8 なれ なが て楽 野に 以前 束 あ しと云、 3 丸 る 21 木 して、 ば、 H 弱 5 0 を 事 V2 誠 木綿合羽 なら 別に藝能も入らず、 て農事を営み、 筋骨 其 持 事 75 21 すべ 分限 故 \$ 源 を好 田 を 行 夫 丈 を守 夫に 1 2 野 武 城 聞 、農業す し故 人成 紙合 士 下より 12 0 る して、 义は を良民 羽、 意地 右 る者なり、 一二里 物 0 3 禮儀作 傘 0 21 域 脇 寒暑をも る覺悟の由 田 郭、 用 など用 似 とすべ Fin 畑 乃至二三 12 た L 0 法に無骨なるも苦しからず、 道 然其身體健 は も立、 る 畔 し、 厭ず 橋、 る事 所 自 12 分 あ な 里 賴 昔 堰 は 6 0 5 彼俣 力 水 用 四 周 絕 0 農民 しき所 量 道 方の 衣 17 にして、 てなく、 賴 ある木を突 の普請 服 は 有 制: 農民 非 髻 T 0 L 體 す あ 来 髮 よく 弱 は 七 を を 12 りしと云 飾 地 廻 聞 ならず 仕 はれ、 ならず 寒暑 頭 山 12 5 る 脇ざ と云 21 0 風 城 17 意 IE.

5

215

夜

ill.

附

錄

作 け T Ļ 1 帯 勤 3 見 間 譬ば 17 せ 王 21 さすべし、 て、 鎗を持 ふべ 打 足輕 込 L 奉行 み 遭 0 T 又家 弓鐵炮 て然べ 手 働 斯 21 < 老主 0 付 者 し、 世込む 如くせば、 な の目當、 君の名代に n 常 ば ~ 21 し、 年中一度づくも主人見玉は は右 治 規 45 尤其 模 見る共、 の如く仕ても、 0 有 勤 H \$ て勇み進む は惣長柄 右 足 輕 0 如 22 本務 準ずべ 者 < Lo 成べ 勤 は は仲間より大に規模有者なれば、 し 7. き者なれども、 君 其節 叉常に 用 引 12 長 もーケ L 抦 て、 0 筋骨 者 跡 月 77 \$ 0 _ 丈夫に仕 度づく 勤 は、 長 扬 中 多 0 立る爲に 間 所 何程 長 組 作 より をさ 抦 も有 は、 0 助 所 せ

大工組

事 細 77 T. 大 堪 I 手 利 能 細 成べ の者 て悉しけれ Ļ は諸 軍役辿る 細 ば、治世 大なり、 别 軍 77 各家 なし、 役 の勤 職 の細 城郭 共 に齊 工に精を出 陣營 事 也 の普請、 其 すべ 餘 の塾 諸 し、 道 能 町職 具 は 0 用 細 の杖突の様に心得べからず、 なし。 I 许家 職 0 Ni. な 5. 只 各 家職 自 身の 0

中間組

す 中 心 間 正直なるべし、其中には簱指、 は 定 6 72 る軍 役 な く諸 方 へ分 ち 纒、馬印、楯持などは、大兵にて心も剛に、 遣 は、 3 1 者 な 6 筋 骨 夫 21 步 行 達 者なるをよしとす、 力量有 もの を撰用 只 骨惜せ ~

手答違 を經 ざる 立多、 な 網 長 Ļ に立まじ、 出 せて、 加 3 を用ず、 して れば、 代 抦 其上には突張の業をも仕込みなば、一段備の强みになるの益有べし、長柄は 來 者と思ふべからず、 0 は 士鎗 は 育負もの 心 長 團 n てみじん 抦 然も今譜代者と成 ば 團 扇 何 常に長柄の扱、 持 扇 持 17 百 0 有べき事なり、平日の勤は、家風にも寄べけれども、 是に智て諸家に用ゆる所も、其初は百姓の中より大兵强力なる者を撰出し、 馴れ 前を荒ごなしさする事になりしと見へたり、當世 譬て云へ 8 有て 百姓に非ず、 の柄に同くして、 荷 になるべ \$ S 人にては、へぎ竹壹本 ぬ長道具、 9 の迄するは L 本 今は突業修練さする家も有べし、左様 竹を割 修練致しなば、 武家 de T 頭奉 自由 用に は 役に立べしと云へり、 0 扶持をはみて、 7 行常に心得有べき事なり、 21 小 は立まじ、 振廻す 其初百姓より出て、强勢なる故なるべし、 兵 薄くへぎ組 21 T の如し・ 小兵にして力量なくとも、 事 力 量 組 は の者 成べ 無も て、 大勢寄合ば、 足輕 夫に での用 からず、 あ 尤奉行の心得 5 0 類故、 **强き真を一本さし** 12 立 是に又、急に三間 此時 然ば短き手 V2 組 長柄長足とも云、 の長柄に出合て、先より突てかいらば は長柄の者も、譜代者に成ては、 は 大方は仲間 更 に館 頭 奉行 肝要なり、 扇 修練 の持様 0 如 の油 頃 0 < 21 T 又は三日 用 断越度なり、 仍 物 に打込み、 張樣、 今時 其 軍役は具足着して刀を 3 7 を持せた 其 中 自 時 いつもたくき立る斗 は常 は 間 ^ 由 初 功者な 突様をも知られ 半 は 21 然も の長 百姓 77 ある 振廻 るに 古人長! 長抦鑓を持 長 神 る奉 抦 < は 抦 しと成べ 間 事 を持せ 者 劣 數代 0 0 行を 自 抦 て用 せ 仕 由 *

4

夜

話

錄

らる 君主 程 を加 勤 輕 足 0 B 幾度の變とせんや、 分限 0 能 する は 輕 き所 を 其 * 及 1 å 賴 21 より 家 初 由 CK るべ 組 み置 \$ を得難かるべ 主 8 手 3 頭 高 威をかり、 L 右 重 T た 事 き役 は になり、 は 3 0 但 者 僻 分 し豐に 禁止 歎く 限 を勤 殘 0 し、 罪 相 3 家中 有べ 風俗 る者 ~ 7 な 應 肝 過 21 5 し、 き事な の諸士 要 惣足 n \$ は 人 役用 は 扨又 風俗 ば なせぬ 馬 筋骨丈夫にして心輕く、 輕 * 一も家主 業 3 に付、 足 の盛衰 持 0 風 るく 輕 21 事 光 ならず 扨 俗 0) 叉足 人造 は世世 風 7 へ移 なるなり、 の對し、 俗 み、 輕 るの ひも繁き故 並なりとて、 0 悪くな 勤 無役 は 並 17 小 弊 盤上 21 怠 給 あ 0 足輕 3 3 21 5 者 12 かたましからぬ様に養ふべし。 L 0 は 今日限 是を 困 7. 慰 より丁寧に會釋する故 足輕を賴 無ても、 み、 窮 别 遣ひ 維持 す 21 n 謠 - つ 3 ば 道 抔、 み置、 今日 0 す る心 卑劣 多く 賴 9 似合ね 費 0 3 岩黨 なく、 な は 事 あ 重 各 欠ず、 る心を生ず 5, の代 實 别 事 成 諸 な L 執事 りに る 長 て、 4 士 行 < 宛 \$ 0 17 委す 仕 るとあ 0 權 後 づから足 家 行 一人、其 を 也、 臣 75 老など云 减 3 足 0 不便 家 少せ は 輕 輕 足 12 0

長柄者

初 は諸 長 はかい 抦 百 家 0 者 姓 0 は、 法、 の内より、 備 諸 流 に組て、一 0 力量有て剛勢なる者をすぐり出し、三間柄の鎗を持せて、 軍 者 8 働 必ず をさする事 長 抦 * は、 用 2 信 る事、 長 公 定法 軍 0 手 となり 僻 1 しと見 り起て、 ^ 次第 た 6 21 敵をたくき崩す手僻 信 諸 長 家 0) ^ B 用 其 CA 玉 法 移 N L C 其

さげ せく 着 下 尻 もな 拵 す 足 1/2 な 0 25 多し、 7 0 部 は 足 取 者多し、 車匹 B 服 すそ なく L < T 0) D は と見 者 働 斯 は 硘 和 あ 大 3 B そ 然ども身をば骨 げ くべ 21 叉は 家 せく 養ぐる 風 は 薄 方 ^ T V2 き分限 然に 3 T 中 誓 右 樣 俗 張 T 直 貧 6 み 故 0 0 21 る 12 諸 士 は は 今 21 T T L 趣 8 V. 鲖 T 12 廻 心 士 かと 稀 3 時 足 步 伽 な 柔 れば、 若 車平 紹 0 行 T 3 0 な 15 3 服よ 思な と見 眞 上 故、 者 弱 年 0 L 0 切 鍮 21 分 故 加 77 8 0 家業 は 限 治 3 3. 家 足 功 鏤 * L 小 るしを主とし て、 などの 用 世 見 中 L 輕 3 足 を よら體 殊に 給 心心 -省 輕 す 0 0 は 0 筋骨 人に似 侍 變 大 なり 便 0 n は 殺 類 脛 手 利 21 小 原 心 な 見 Ļ 27 は 前 修 高 生 W は 弱 0) 合ぬ卑 まが T て鐺 皆 宜 れば、 などに 拵 h t 練 3 L 黑 只 5 怠 L は は 5 5 げ 勇 4 H 錆なき様 幼 は、 0 6 易 劣 似 n 百 出 樣 長 ま 大 堅 元 小 23 方 共、 U 4 結 0 合 t 姓 3 17 な 0 體 銅 事 り算筆 21 L E 3 < 8 75 V2 なす 組 8 は 燒 を 印 12 真 0 T 慰 本 0 者 斐 嗜み 髮 體 鍮 頭 な 21 付 1 など 家中 樣 して、 故 を 暇 * は 0 た k 0 伽 る者、 類 結 失 羅 L 25 * 類 k 1, 覺た 費 U 心 士 0 見 の油 事 び 21 为 重刑 士 4 T L 懸 0 知 は な 5 張 衣 厚 足 け 體 あ は i, 知 12 3 服 < 輕 麁 V2 6 を に處 財 T L T 5 大小 を 6 服 士 好 家 は 心 ね 光 0 を川 早く は、 皮 費 用 * ども 6 3 中 ゆき丈け せらるい V 着 力 世 柄 L 12 22. T 0) 家 諸 は 役 取 な 涂 0 U 1 中 \$ 精 酒 拵 立 人 扱 出 金 水 士 柄 3 食 難 22 銀 服 82 17 等 7 短 を 2 3 0 1 かくべ るか あ 0 L 成 樣 12 士 3 見 12 12 まが 爲 12 3 T 炒 7 金 5 革 今 足 لح 光 銀 4 25 風俗 は 仕 吨 うべ 21 身 0 丈 を 思 6 0 0 若 嫌 施 を上 ri は け 下 光 < 4 L す 勤 小 3 を 0 21 ゲ

昇

平 夜 話 附

然共是又政 此 夜 Ti は、 事 諸侯及び士 の上に於 ては云殘すべきにあらず、 太夫の噂を談ずるを主とすれば、 仍て或夜の餘談に粗其大意を括て論じ及し侍りね。 足輕以 下農工商 0 事 は夜 話 0 主意 21 非 す

輕

马鐵 道 く群 粉 用 k 0) て、 本務 k 司 の繁多なるに、 立 集す 敷 他 程 炮 3 を奉公の 方 は、 T 12 0 所 る事 なり、 聞 修 あ 弓鐵炮及び捕者の業なり、當務は、諸番所の警衞をはじめ、 る事 練 合 せ、 能修練すべし、 あれ せず されば 主とすべし、 12 足 然も小給の者なれば、勤の暇に家事の營み多し、 小使等 ば、是が非常を戒め、狼藉 んば有べからず、 て、己が 心輕くして鈍 に至迄、 思案分別 軍役はご 治世 12 雜 常に大・ も捕者の業を勤とすれば、捕手 弓鐡炮を業として、備の先に進むるものなれば 細 からず、 を以て奉 0 勤 小刀を帯する者なれば、 8 を禁じ、 公し、 甚 手 だ多し、 足達者にして、勵しく翔廻りて 専らとする者に 捕 者 然共 の業を主として、 概 L て是を云 居 召仕ふ者もなければ、 棒、番所三ツ道 あらず、 合劍 神事、 其餘 は 術 思案 は勿論 7. 佛事、 は 輕き役 不分別の 大方 柔弱 0 具 心剛 は 市 事 ならず、 なり、 繩等、 入 士 儀、 町、 自身鍬 にし る事 0 下 飛 惣て人多 て常 知を受 は、 脚、 本 何 甲斐 鎌を 務當 n 士 早 17 8

敷、 我者迚も後をしりめに懸けて、近習に召仕ふ者ども始め、 家中の士我等に後れて残る士一人もな

き故、外に求るに及ずと宣しとなり。

卿 心 た 毎 C 節には後れ玉はん、 樣 入ば早く走りても益なし、先に行ける人の胴勢を待内は、老人も必ず走り付る故、道の早きも遅きも同 も一人にて敵にかしりし事不」叶者なれば、能詰りくしに止り居て、跡の續くを待、 の者にてなければ罷ならずと云へば、若き衆も閉口せりと云、此主馬助巤世に生れて光悦流の能者也。 得可」有 日矢數二三十、或人其心を問ふ、井戸答て、吾今迄鎗、長刀、佩刀等は皆用に立り、未だ弓を以て敵を討 る事 事成なり、走る事の早き迚、さして足しにもならず、鎗合の時は、十間十三間の間なり、其時は主 の家臣、大高主馬助に、若き士共云けるは、 なる老人も、 叉云、 なし、老後の戰、手痛き働は成るまじ、責て鎗脇を志す故なりと云べしとぞ、實にも年に應じての 井戶藏右衛門は、細川越中忠興三氣公に仕て祿二千石を受たり、井戶七十に餘り、弓を射る事 事 なり、心懸け真實なる故、年齢に應じての働の工夫も自然と出來りしなるべし 心剛 なれば人先を仕る道に五丁十丁は走る事安し、館前十間十五間を走り出る達者は覺 誠に麒麟も老ぬればと云事と思ひ出して嘲る、 主馬殿は 心は猛く候共、今は走る事叶ふまじければ、鎗の 主馬が云、五六丁十丁 胴勢續 てから、 走り、先立 又加州 利家 馬が 7

昇平夜話下篇卷之四畢

とは、 B 茶道、 汰 上げ 偖も珍敷 聞 た 能、 る事 候得共、 猿樂 事 也 なり 俄に御氣色替り、 何 遊山 と聞 宇佐 27 哉と御 觀水の事ならば、らかと聞たる事も有べ 美駿河守が 尋 弓矢の家に生るく武士が、 あり、 子孫には似 佐助 承 5 合ざる事なりと、 誠に 承り候へども、うかと承り、 **运道** 悉く御叱りあ し、 の事をうかと承り候とは 武士が F 5 道 け をうかと聞 るとな 慥に 不審 覺申さ た る な

何れ 何惜 בל 侯 からん り玉 子 藥 初 腕 叉云、 車 を疵 細 を 縊 有 0 しは、 働美事 と争 べし、 松 口に付させ玉ふ、人の親として、 3 平 首に懸けて下 ZI, 下 驚せ玉 野守忠吉君は、 凡人は及ば なりとの御賞美の所へ、兵部 力 し付奉 ム御氣色もなく、 V2 野君を誘引し奉り、 らし、 所と申せしとな 後に薩 關 ケ 原 摩守と申 兵部侯 御 子程 合戰 侯出 の手負玉ひたるを御慰問 不便なるものなきは上下齊しきに、 御 て頼 0 玉ふ、 節 本陣 は 母 大將軍 敷 取せらる、 兵部手負申たるか、 御氣 質故、 と定 忠吉君御前 めらる、 天下 の諸 し玉ふ所、 下 藥箱と上意有 侯、 野 ^ 出玉へば、 君 此 潢 若さ者 良將 手 君 負 の爲 0 L の初 て、 手負 井 21 王 伊 は 御自 ふ事 陣 た 兵部 一命 21 る

7 越前少將挨拶有しけるは、只抱よと候はど召抱べし、 越前 佐 叉云 倉 守 迄 光 寛文の 供 通 L 少 た 初、 將 りける、 ^ 召抱らる 堀 田 幼少 Ŀ 野 の志 助 べけれと賴入られけれ共、 IE. 信侯、 を人々感じて、 居城 へ立 此 退れ 小 童 し時 上野助が供を能したるとの儀ならば抱申間 を御旗 は 12 か行ざれば、 小扈 本 0 歷 從何某とかや云者、 4 衆 或時 取 持 十藏殿 中 77 B 直 石谷 21 残る馬 申
は
る 一一藏殿、 に乗

- 分限を超したる事有りしや、無りしや。
- 人の善を揚しや、掩しや。
- 一人の不善を掩しや、顯はせしや。
- 朝寝せしや、せざりしや。
- 有益の事をせしや、せざりしや。
- 一・一身の遊樂せしや、せざりしや。
- 凡て人より借りしもの用ひはてく返さぐるもの行や、なきや。

此外尚有べし、 夜臥 に臨ては、一日の言行を點見して誤り少時は、心安くいぬべし、毎日如此な

らば、終に過ち少き人と成べし。

5 故に、物じて入らざる所に心を勞し、功なし、功なき事に費すは天惡み人怒る、何として天下治るべ 諸士は素より口を箝て、良士は押込られ、諂諛辯舌の族のみ秀て長となる程に、終に家滅亡するぞ。 き、凡そ惡き臣下を寵愛すれば、一門家老もあり、主君の氣に入る事を斗り云て、身構する事多し、 叉云、 威風烈敷は必然なり 叉云、 紀州賴 東照宮上意に、 宣卿 或時字佐美佐助へ仰られけるは、鑓奉行共より、長物の事を申立候儀、其方 威無れば下知行はれず、然共猛威は振ふべからず、奢人の物好は美麗なる 天下を治るの大事は、奢者の詞を用ゆべからず、惣じて主人と仰がるいか

昇平夜

話下

篇

卷之四

兄弟睦しかりしや、睦しからざりしや。

朋友の交り信ありしや、信あらざりしや。 夫婦の道正しかりしや、正しからざりしや。

子弟慈愛せしや、慈愛せざりしや。

奴僕憐愍ありしや 不憐愍なりしや。

親戚睦かりしや、睦しからざりしや。

家道正しかりしや、正しからざりしや。

當職勤たりしや、怠りしや。

武道勤たりしや、怠りしや。 學問勤たりしや、怠りしや。

仁義禮智の徳に叶たる事有りしや、背きしや。

善事をせしや、不善事をせしや。

士に似合ざる事有りしや、無りしや。

客なりしや、廉潔なりしや。 恥をとりしや、とらざりしや。

有べし、 町をも 敷構、 相 其主意の大略は、一には家中一體の盛衰、 5 手の及び兼 も加へ兼たる體のものへは、少し金子を與へ、修補を加へしめ玉ふべし、 輕んずるや、心を付玉ふべし、諸家中一通り廻り濟て、後に小身に勝手の 君を拜する爲とあり、 應 不相應觀察有べし、三には屋敷構、家居の體にて表向をはり、內所向奢 大 家居の體にて、武威の盛衰觀察有べし、五には小兒行儀、 臣 廻步有べき心得は右に準ずべし、 六に にて家居見苦敷は教諭を加へ、又は答有べし、但し結構美麗をなすべしと云に非ず、 るは答なし、惠み施し玉ふべし、徒に惠施のみにあらず、家中家居の見苦敷は は城下出入の口々しまり、 町郷中は鷹野、猪狩等の序に心を付て觀察有べし、町郷中抔は上を重んずるや、 ふしまり觀察有べし、家中一通り廻り濟たらば 且輕きものながら、直ものなれば、足腰立ざる老者など、主 家屋敷、構等の體にて觀察有べし、二には家居の體、 、衣服等にて、町 小身の者は、 面々、家居大破にて修補を り觀察有べし、 々所柄 家屋 の善 足輕町 主人 悪、 四に 0 分限に 修理に の恥 、仲間 分限 は屋 觀察 な

叉云、 或人云、 日省月次と云者あり、 自分身を顧るの條目なり、然共又士を治る心得にも成べる

一 父母に孝なりしや、不孝なりしや。

か

左に遺を記

應じ表向

士

の居宅と見ゆる様にあるべし。

君に忠なりしや、不忠なりしや。

平夜話下篇卷之四

昇

炮

0

疵

暑に

5

五

寒氣

にし

びれ、

命

は

あれ

共

無

難

堪

事

なるべ

し、

叉

時

12

より一夜陣などは、

小屋懸

る

迄

B

なく・

惣笹

垣

は、

繩

棚、

諸

士

は

我

屈

胴

叉

は

折

釘

鎗の

類

12

細引ひさは

5.

遊紙

覆た

る斗

りなる

或

は

伏

兵

から

でまり

抔

17

行

T

は

森林、

數

萱原抔

の中に届み居て、

荒さ息も

つかれず、

有 居 是等 なるまし 抔 百 て、 樣 8 21 足 なさ 77 心を付て見て想像べし、今の世、 は 抔 To To た 皆疊の上に育ちて、 12 21 くらべて、 世 露 責 遊 12 霜 6 び、 生 雪に x n 樂 72 VQ. 晝夜 今の の品 る るく氣遣もなく、 は、 兩 世 17 露霜 安樂至極の心を以て推量れば、其千辛萬苦 甚しき幸ならずや、 事を欠て、 を樂ば、 雪に 打れ、 別に樂を 果は 分に 父子兄弟妻子諸 寒暑に破られ、 應じて 遊びの爲に身を亡すも多し。 求ずし 戰國 召仕 て、 0 時 ム者 親 21 類 5 生れ 疫病はやり、 のづから心の樂み餘り有べし、 8 12 至 あ 迄、 たり n ば、 せば 俱 日の十が 手 21 如何が 飽迄食 足を仕 種 々の 一二なるべ せん、 一ム労も L 辛苦艱 暖 常に 12 輕く、 難 着、 L 云斗 餘りに 何 廣 古 りな き家 戰 安樂 つ不 物 21 語

障 邊 n b 12 0 かき立、 米 打 と、安き心もなし、 1 し、 まどろむとも せざる事 渡し、 岩葉 飯 へ走らせ、 21 ば着陣しても、 具 引 21 足 敷 出 臥 水 殊更油 て少し あり、 と味 疲 海草など食し、叉水に渴して難儀に及ぶ事もあり、 煮 櫃 7 叉 敷 る共、 昨 T 0 もの 竹木 なき 皮、 汁 日 まどろむ迄なり 喰畢 斷 噌と鹽とを入、 なま米を其儘喰ふ事もあ なり の代 池は 0 湯 鞍 事、 を伐集、小屋をかけ、 早速小屋入して休息もならず、 如 れど湯茶は 3 難 も遺 6 覆 書の飯は腰に付たる玄米飯斗りにて、 あへしき抔 幾夜 21 引敷 はず、 食す 險 難 萬 B かき立煑て是を食し、 0 一切 あるべし、 る事多し **抔敷て居る迄なり、** 元よりなく、 夜具 夜中 心遣 所をも嫌 云ものも持運ぶ事無ければ、土の上に草萱など苅り敷、 と云程 も夜討夜込の氣遣 云斗りなし、 5, は 少しまどろめば、 是を鹽の 細引ひき渡 ず、 の物 水をだ 兵粮に手間ては 叉 もなければ、寒き時は堪 明 扨竈 戦の場に臨では、 力 陣場奉 12 0 飢を凌ぐは能 き立汁と云、 吞 し抔して H あれば、 をほり、 V2 \$ 行、 事 甲本 味噌にてもあれば上の事なり、 も多かるべ 暮る 每 、昔より牛 小屋 打くつろげて休む事もならず、 陣 日 水汲飯炊にも夫々の器物 山山川、 澁紙にて 夫も時 夜も、 分に より一二三番 割濟 矢炮飛する事雨霰 7. し、 馬 へ難く、 6 切所、 古 17 の肉 小屋 天井左右 0 よりて 米と鹽斗 又 如 頓 場を受取 くな 木 0 険難をも 夏は蚤蚊に責られて、 T 貝 は の實、 後を圍 押 にて、 にて、 6 行 0 かや つく 御座 6 日 降 扨 避 も無れば、 5 朝飯 鹽を水 け 叉 るが如く、 も二日 の實 道 ず押 家 敵 滥 のほと 前 來 野 甲冑を 紙、 地 は食食 庫 行 草 17 は へス を 泥 幕 近 な 儘 木 入

界

平

夜

話

下

- 一 忠節忠孝の心懸を深く、所望を淺く。
- 一 遠慮して慇懃を深く。遊山或は樂事淺く。
- 一人を遺ふに穿鑿を深く、折檻を淺く。

生て二 屆 敷 77 3 らで 3 は 51. 無事 かぬ事成べし、其十が一二成共、 踏 皆急に起るものなり、軍勢催促有て出陣迄に寬々支度を調へる様なる緩成はなし、 生 命より重 n は用 其 又云、 出 度歸ら 0 逢 形 77 すより、 世に て、 に立ず、 て、 勢を想像 昔戰國 しとする武 生れ 安否 知別 弓矢を袋に 今を限 れなれ 此故に士は治れ共、 ては、 りなば、 を聞事もなく、飲食、 の時は、將士 50 士なれば、 ば、老たる父母及び妻子 古戰國 L 別に樂を 名残とも 何 共に千辛萬苦して、晝夜片時も安き心なく、 の世の有様、 の氣遣ひもなく、 わろびれ なれど 來るに及ずして、 常に想像て、 衣服漸 たる色見せじと、 心强 想像ても十が一二なるべし 今想像て く飢寒を凌ぐが 不足 く跡 0 数き、 今日の安穩を可」樂、其十か一二を云は 2 もなく、 今の太平安穩を可 一度顧 想 押包 像る 腹鼓 能き分なり、 8 む胸 せず、 も堪 打て居 0 難 內 扨又 かるべし、 樂事なり、二百 るは 父子、兄弟、 押行 動もすれば、 v か 何等の幸ぞや、 斗 路 は、 され り成べきや、一歩 \$ 扨首途する時は 有合たるものな 險難 共、 年 中 飢 諸親類皆ち び、凡變事 來 4 義 切 太平の世 寒の患あ 今日久 を以て 推 所 量 の嫌 0

無事によりては道もなき所を、押行事もあり、道すがら今や敵寄せ來る、此森彼蔭に敵の伏兵やあり

音信贈答過分の儀不」可」有」之事。

附り賄賂の音物堅く禁止之事。

家作分限より輕く可」仕事。

但し表向は分限相應たるべし、內所向は用事辨じる迄にて物數奇の結構不、可、有事。

男子無、之者、五十歲以上十七歲以下、 及 | 末期 | 養子の願、 ケ條目の通吟味の上可、立、之事。

但し嫁娶並養子取組に付持察金停止之事。

本主の構有」之者並受人無」之者抱置べからず事。

間敷事

可」制

一群

飲供遊

事。

結』徒黨、致。荷擔、或は妨をなし、或は落書、張文、博奕、不行跡、好色、其外侍に不、似、合儀有、之

喧 嘩 一口論 を不」致 傍輩中念頃に可、致事。

年季に召仕ふ下人、十ヶ年を可」限、御定數を過ば可」為,罪科,事。

又云、 古人の教に、 大身小身共に常に可い慎五ケ條、淺深合せて十七ケ條と云事あり。

人を深く、 我身を淺

慈悲を深く、 欲を淺

平 夜 ni. 下篇 卷之 四

第十五、 主君の仰なり共御受申まじきを辭退なく、或は御受申もどかしうて申さず事。

第十六、 仕合よさ人をば悪さをも譽仕合悪さをば能人をも譏り侮 る事。

第十七、我に少し仕合せよき時はほこり、 □てに成たる時は□る事。

又云諸士の法制條目大概時々禁令の

勵,文道、嗜,武用、忠孝不、可、怠事。

附り夫婦兄弟親 類 12 睦敷習仕の者に至る迄隣愍を加ふべし、常に禮法を正し義理を專らにし風

俗を亂るべからざる事。

武具、馬具等の兵具幷俱連、軍役、如」定無,,不足,可,相嗜,事。

但し美麗を好むべからず、幷刀脇ざしの拵へ同斷の事。

諸番人無"懈怠」可"相勤,之、 煩の節は誓言狀を以可。申 庙

諸役人法度相守り、其役々不」可」有り粗器」事。

附予勝手向役人たり共、利勘卑劣之儀不可有事。

萬守。儉約、書籍、武具、馬具の外家內の諸道具不」應。分限、物不、可」求、之事。

| 衣服の制尤用倹約、應一分限一美麗すべからざる事。

婚姻の諸道具、梨子地蒔繪の類無用、其外の諸祝儀共に輕く可」相整一事。

又云、古人の傳に、士の耻辱十七ケ條と云事あり。

第一、虚言又人の中を惡く云なす事。

第二、頭をはられてもはりても恥辱の事。

第三、座敷にても路次にても慮外の事。

第四、親兄弟の敵ねらはざる事。

第五、 堪忍すべき儀を堪忍せず、 堪忍すまじき事を堪忍する事。

第六、詫言すべき義を詫言せぬ事。

第七、 被官の者成敗すべきをせざる事、 免すべきを免さぬ事。

第九、人の手抦をそねむ事。

第八、

欲得の義に付て人を出し拔く事。

第十、好色の事。

第十一、贔屓の人多き所にて强みを出す事。

第十二、手に足らぬ相手にがさつなる事。

第十四、四欲心を先達て縁類を求る事。第十三、武功の位を知らずして少しの儀に自慢する事。

昇

平

夜

話

下篇卷

之

外に樂を 及ばざる所なし、 求 ざ、 只古人の亂世に比 安じ、 堯舜 の御 世 と云ども、此上の飽食もなるまじ、 べ、今の 世 12 生れ たるを大成 る幸とし 此上の衣類も重ねらるまじければ、 天 恩 國 恩 0 難 有 事 を辨

30

ずべ 事家 て、 no, 驕奢を怺て 初として、答あらば諸人も服し、 る者有故 物を多く受る者 外なるべし、 を送るべ 一通 叉云、 老 され に、 し抔 りの 取 是を禁ぜんが爲に、 進物 心を 持 ば無て叶はぬものなり、 其下 叉云、 と云も有 0 す 謝 るも 有 事止まざるなり、 禮 は 元 の贈 12 取持者、 0 筋 町 來 家業 は 道 鄉 物 心 よしなり、 刑 違 は、 の誠を表見するものなり、人た 中 せら の者 も有也、然に を樂で日を送る、 たる者故 大概 親戚故舊の音物上を禁ずるは道に戻れり、 る共 是等 私曲 の制 重き役人是等の私あれば、 新 田 夫にも親疎厚薄の差別有べきは勿論なり、 其內 折 其外諸軍 0 度を定むべし、 の事は止べし、 ふし輕 私 取持もの斗り答有て、 證 あ 是を大安樂 るを を聞 願 重 事 知らぬ 受る執 を家 12 隨 各別 甚しくしては、 T 中 事家 刑罰 君 0 るもの恩を謝する事を知らずば、 の秘傳と云と見へた は、 士 0 其罪 老は答 取持。 謝 有 聞受る重き役人は答なき故、人 禮、 事 明君と云べからず、 彌 なれども 重し、 又は有 なし 執 無事 事 家 先づ聞受る所 畢竟 是も士の品位 止ず、 願 老 21 任 抔 0 只賄 通 重き役人、 せて ^ 5 夫を 內 是等 路の音 叶 4 は 折 v 取 を三四 の重 の事を知らん 7. か 繕 節 内證 禽獸にも劣 10 0 物を堅く禁 き役 と云 是 贈 賄 段 程 * 答 賂 人を 服 聞受 21 に分 の物 は 0 せ 執 晋 制

とならば目付役を用ゆべし、

其外

知樣

は何程も有べし。

と覺 古を 極 は III 0 百 飢 及 横 减 1 亂 0 きな 樂 す 死 慰 次 林 耗 賢 以 常 第 な き儘に、 又 12 み 考 時 い物とす n 身 るが 前 寒 腹 節 地 0 17 太 0) 大亂 遺 獄 V2 * 21 0 事 な る 如し、 比べて す 中 n わ 隱 21 或 訓 0) 12 らじ し、 貧苦を世上第 門 ば る斗 假 22 1 12. T 成 違 小 6 名 1 神 命とす 今の をす も十倍と云べし、 于 6 そ 兒 叉 米穀 7 武 本 りなり、 は 戈 帝 12 時 0 貧者 ささて 足利 千 双 且. るなる 0 行 諸 より 6 里 音 疫 紙 は 物 替 病、 逃げさまよ は、 0 以 12 前田 を 如 時 B 一の患として、 なれ ~ 代の 祖 旅 聞 此 來 ^ し 6 古の長者 をさ 求ず 其 7 亂 0 ば、 外 亂尤 加 世 如 娑婆 苦を 徳に せ 此 L 病 飢 _ に生れた 喰 T 生 難 饑 治 T ^ 甚しく、 馴 な 經 も指 大 より、 即 玉 軍 も多 n de 貴賤 る御世 る事 n 安樂 为言 打續 寂 ねば樂を 0 Ļ 光 りしか V2 さす人 中 海 今は を知 干戈 を得 0 木 共 21 4 淨 0 21 殊 は 0 T 實を喰 果、 らず、 ば、 騷動 土と 出 \$ な もてはやす 知らずと云 死 21 百 る秘 家 な 渡 せ 姓 L 設と云 は L 山のはさま迄、 \$ 3 世 0 0 V 安樂世 an 中 増て 人 0 て身を全 夫 力 な 今 殊 幾 業 役 1. 0 ば 如く、 るに、 は、 せん、 保 21 ば 8 事 も多く、 '御 界 衣 < 元 あ ふし 古 脾 ぞや、 世 服 心 平 5 是を 今は なる は貴 胄 食 亂世 斯 0 治 五倫 云不 0 3 物 父 0 儘になら 其軍 3 或 人高 今 强き人 大 0 頃より Fi. 母: 21 安樂 0 を 濁 は 花 は 兄 は 及なが 道 剃 美 位 T. 弟 を 知 0 造 行は ざれ ~ 惡世 髮 0 の早く な 里 淨 化 0 力 染 る 盛衰 L 人 世 12 子 0 瑠 5 n 事 2 衣 な 粮 ば 理 等 氣 今 識 腹 0 n 12 記、 目 を 0 虚 上の仁徳の 身 世 0 ば、 往 畜 貧 聞 を長 0 親 3 21 世 太平 僧 とな を 减 古 苦 T. 類 外 本 は は 耗 は す は 0 代 必ず に苦 を病 勿論 L 人 Z 劍 12 祀 4 讀 類 T 21 0)

昇

爽

夜

話

云べからず、 恨に は 日比 の恩を忘れ、 情には一命を捨 る者 なり。

內 主 6 る 人 宴 1 又云、 事 是を見玉 ^ あり 終嚴 呼 T 相 重 執 ふも又悪く、重き役人は酒食玉はる事 其體を重き役人に見せらる」も悪く、又重き役人も、酒宴して後は打亂したる體もあり、 手とし玉ふべからず、 12 事家老など云重き役 禮 義 を守 7 は 酒宴の興もなし、 人 は、 害 あ 主人も 60 主從打くつろげて酒宴に及べば、主人も機嫌 重く會釋し玉ふべし、 あらば、 表にて急度賜り、 酒宴 の座抔 適酒に及ぶ間敷なり、 へは 呼出され間敷な 42 で乗ぜら

5, は 12 組 以 組 事なり、 .~ 吹舉 指 す 子 子 T 其 の内 叉云 圖も違背し る 重 は質に左 i 余は 樣 病 少し 0 12 昔は 主人より此者人品いかじと尋ある時も、 事 押て知べし、 及 病 も骨 も有べき事なり、 7 は 人 は、 諸家 絕 あ 危難をも態と救はず、 て無 丁 n 間 組 は、 共 12 敷 n 頭 ば 使 事 左あれば、 自 を以 組 身 か 見舞 組 頭 頭 何 T 死 だの時 組 生 0 12 折 威 行て 存 組子の善惡、人品、得手不得手をも能 夕問 子 亡に 光 は 斗 は、 專 夫見よと云様にも至るべし、 は専問し、 平 懸 5 日 互 强 殊 3 别 程 に頼 く成 の外親しく、 段 0 取 7 答に爪付事なし、 事 み賴 若し不幸に及べば あ る 5 親 まるし身なり、 程 ば 4 0 頼も 相互 事 今 は無れ 0 L に懇なり、 疎 4 君主世話有べき事なり。 4 所 皆常に親み厚き故 共 治世 組 L は 3 な く知て、 頭野迄葬送に出 自分食料、 L 毎 12 **久敷**、 春 首 只 組 今は 夫々 願 强 子 な 訴 ^ なり、 相 汁菜 組 酒 る 必 v 子 た 飯 0 應なる役向 た の内 世 を頼 6. を べづら者 組 話 振 みカ 是を 迄 頭 抔 舞、 0 送

するものと安堵するは、危ふからずや。

筋 非 T ず、 を は 叉云 知 6 然 不 3 21 足 なく る 政 士 故 事 は 文字 辨 な 0 n 妨 ^ ば げ 知 を 知 21 3 諸 な 5 士 或 5 家 ^ 書 專 風 0 を 治 題 6 俗 學 3 を N 問 亂 輔 を 佐 道 L 勵 す 理 さる 君 ~ を き者 眲 0 ~ 厄 6 介 L な か n 25 22 ば 近 な し、 邀 る 農工 族 凡 身 8 間 商 * 修 4 0 あ め、 如 9 < -家 畢 を齊 人 君 竟 無 ^ 0 . 學 敎 導 人

を

治

3

道

12

於

を

待

~

E

者

25

道

拾六 迄十 撰 名 は 12 ~ 非 世 3 L 籍 共 士 人 六人 始 家 玉 21 叉云 君 は 記 故 23 6 0 0 H 售 本 0 L 爲、 位 を忘 置 家 務 h V 牌 2 中 な 或 を立 東 其 諸 n 0 n 家 ざれ 頃 昭 ば 子 士 0 宮 1 1 孫 0 爲 內 1 3 御 勿 ば は 21 論 か 年 T 死 各俗 先 夫 民 中 0 を 事 紅 21 薄 祖 ___ 致 名 葉 度 な T か 戰 し、 名 Ш 6 功 8 3 乘 御 義 す 討 は 目 叉 を記 震 2 見 死 心 は 屋 見 金 あ あ 大 し置 鐵 0 6 ^ 6 、動勞 內 L た 1 0 る 21 勇 者 3 あ と云 料 士 りし 今 + 理 戰 V を 21 六 功 2 者 所 賜 至 人 21 0 は 謂 る 3 は 頃 る

叉云、 人君 郭 25 は 夜 侍 話 た る 下 者 篙 12 卷 之 地 DU 忍 な 3 難 ら詞 など、 言も

> 左衛門尉忠灾 酒井 位 1 在 型 近 兵部少輔直政 井伊 太多 思勝 **参右衛門元忠** 島居 式部大輔原政 運動 七郎左衞門忠世(右カ) 平岩 四郎右衞門正成(左为) 21 鳥居四郎在衛門直外 L 南大 主水正人道性順 T . 藤瀬入道穿心 米津 大久保 治右衛門忠佐 道 た直次(貞力) 理 堂屋 do 選

る如く成べし。

なり、 然の理に の爲 立、 益す 美 71 介に預 走るは、 叉云、 21 稱 は 人 す る者 美 て、 君 心の向背此二ッにあり、 る 17 古今の通患なり。 今の君の爲にすると云所を見るに、 の為 預 8 of 上理 0 5 は h にす 大方は彼利を以て附益するものに を好めば下 少 事 ۲, 3 を思ふ小人のする事 に非ず、 君 0 此時 に又甚 賞翫 人心 に當ては、專ら義を以て倡わずんば有べ 目前の小利を好むべからず、太平久しければ人奢り物費て、管ら利 も又利 一敷者 を離背せしめ、風俗 あり、 な を以てする 3 E 大方は利を以てし、下を損じて上を益にあり、 義理 あ 義 5. を好 もの 程、 がめば下 士風 21 を害し、 君の爲 しかず、 の衰 又是に習ふ、 21 大に君 る事又宜ならずや、 なる事は勿れ 君 の賞翫 の爲に損あり、 からず。 義 あ る事 と理とは ども、 は 下を損じて上を 下 義理 皆己 相 舉 T 反するも を 是 から 加增褒 勤 を 以 習必 功を T 0 君

F 誤なり、 0 叉云、 大節 間 は同 杖を以て堅甲 遙 威嚴のみを以て下に臨めば、そら拜みし 25 に臨み、長上の爲に花を輕んずるも、北げ走るも U 治平久 隔 譜 3, 代 の士にて、當時 親 しければ、 睦 利兵を討べさは、 0 情 は 禮文備 日 0 k 勤場 21 疎 りて、 日 0 77 頃 違 美事 0 た る迄 命 恩にあり、下へ 77 成 樣 代 て誠に敬はず、親み厚ければ 0 なれ 事なり、 るべ き家 共、 日頃に有、 次第 今は 親を厚ふする者。 臣 斯 臣 12 疎 誠實 に持 L 約束 敷 かせらる は は 薄く成 の宛行さへ 有 間 威光の 敷 1 所 敬す なり なり、 落る様 皆他 與 るに 近習 ひ置ば、 就 陰 T 人 あし は君人 N 外 に思ふは なたな 樣 皆死 50 臣上 と云

n V2 廻り見て、 事 なりと云へり、 出席人別を調べ、藝事 主君 の用 も辨じ、 の生熟を觀察し、 又能く諸士の才德をなさしめ、 行儀作法を糺す事なり、 才器に隨て人を用 依て 無藝に ひば して はあら 能其

職

任

21

叶

て、

諸職

能

く治

り國安

かるべし、

良

法と云べ

取 初 成 i 8 77 的 根 は 隨 叉云、 藝を 抔 12 CJ. も賭 近ければ、 勵 利 士 む為 ものなく修業がてらに慰もすべし。 は 12 走 賭 17 0) る 職を知り義を守らんとする士に於ては、 賭 諸 心甚 8 勝 負、 0 し、 せ し、今は 賭 堅く禁ずべ 0 諸 勝 賭も 負 し、 は 0) を年 文武 人 0 が為 實 0) 薬に精製 を にす 只取 3 勤 5 假初にも爲べき事に非ず、嚴に制禁有 事となれ 71 せざる者間暇多く、 する事 3 を 好 博 UL 奕 を 5 好 起 奢に習ひ、 て博奕 T は 人 0 類 費用多く 0 なり、 物 を 盗

守り勝 家 其 た る なすも 整 大 るも \$ 概 叉云、 文 00. 手 3 を 0 は、 義 取 た 云 行儀 理 る は 凡人を治 り観さ 7. 利 を専ら 8 作 0 發 法 父 V2 21 守り、 立廻 母 るに、 もの、 にするも 夫 婦 12 孝 5 0 是等 堅固 惡事 間 行 表 の、慈悲深き者。 E な の類 なる しく るも 间 0 みを禁ぜんとすれば は 尚 の、 答に もの、頼母 和 有べ 陸 子を能 合 なるも Ļ ぬ様にとは 拔群の者は折々稱譽有べし、 正直 の、 < しきもの、武具、馬具等嗜能、 教 兄弟 育 なる者、 すれ するもの、 及 誰 CK 迚も答に逢を厭わぬ 共 文武 諸 \$ つのづか 親 忠節 一藝能 類 12 睦 ら北 なるもの、 心懸厚き者、 じき なり、 左 B 士道 ものは の、 あ 下 善 れば惡事は自ら相消 能き友 を守 學問 人を 事 は 無れ共、彼惡を る者 文武 能 밂 く召 * 4 激 求 有 儉約を 21 仕 べし、 7 達 能 交 1

1: は尚 更 事

礼 53 叉云 る 他 時 びべ 0 は 常 非 力 しと云 常 21 21 を 及ず 我 宿、 B 改る 所な 3 叉は 爲 5 吟味 旅 0 然共 番 宿 穿 共に、 所 整 な 番 5. 所 夜寐 叉 21 然に 此 7 心 て刀脇ざしを盗み取らるし 取 得 氣 6 な n 遣 るべ なく た 3 寐 し。 は T 取 越 らる 度 とす 1 共、 る 事 は少も士 怠り遁 古今 るし所 のひけに 0 例 な なし、 9 非 す、 V 身を か 寐 h て知 とな

て男を止

^

多

ず、 賜 叔 五. て、 3 勤 事 L 毎 所 又云、 の稽古精勤し難し、 77 0 退 婆なけ U な H 0 暇 夜 思 n 疳 き為 今時 日 禄 ば は臥具 有 其 n T 欠 そ ば、 なり、 子 L 别 の武 に氣遣 細 毎 な を用て寒氣を防ぎ、 只 本務 日 < 士、 は 取 74 其 朝 賜 6 口 事ら文武の藝を勵んが爲なり、 時 當 E t な 6 17 一務の用 人と云 より なが る事 3 21 する は 夜 白く撞 迄 5. 出 もなら供 分 び立 8 て、 0 別なりと云 0 勤 廣 九ッ学 夏は蚊 難く、 は、 たる米 は 間 な 番 番 張 L 等 使 帳 0 時 松 詰 0) ~ 尤其 番 0 或 4 勤 6 飯を喰べ、 T 内に寐 をさ は八 も續 丹 は 州 暇 云 就 侯、 17 時 有 かっ て思 及ず、 \$ 只稽 樣 起 77 V2 退 在 者 21 を心易くし、 汁を添、 に主 番間 なれ 古 出 所 仕 ば H 諸 の席へ毎日 L 人よ ては、 は、 勤 計 士の 菜好 休 役 1 3 休 難儀 勤 息 迚 賜 晝の 畫の は、 息 0 B 3 する 時 0 暇 所 朝六 大 間 身 暇 刻の定め 氣 0 0 方 抔 の勤 の盛 もなく み 22 恩祿 時 21 は つぶや B 畫 迚 な t 非 時 なく、 は、 8 ず、 3 5 T 過 々の 如。 時 役 濟 よ を失 席 大 疊 衣 ね事 文 5 目付役 服 夜 主人 重 小 出 Ŀ な 身 * 2 0 故、 勤し より の奉 着重 塾を 懸 12 5 9 寄 H

もさむかりき、身は習はしの者にぞ有ける、と云へり。

ある事を知らず者あり、 双云、古今忠臣と稱する者、 艱難を避けずして、其君を救ふ者あり、 其品一様ならず、感激 して身を殺す者あり、其君有事を知て、其身 至誠君を愛し、 善を以て進め、 道を

以て輔るものあり。

りて用に立ず、 忠案を行 逸 77 叉云 すべからず、 ひ、學問 我身朝夕、 武勇を勵 藝術を習に勤能 如、此すれば徳を育ひ、身を育ひ、財を育の益あり、身を勞すれば、艱難苦勞に堪て、 飲食の俸養を輕くして、身をば勤勞すべし み難 < 殊に士は武勇の嗜なくては、戦場にて艱苦に堪ず、病起り身弱 奢て飲食の美を好み、 怠て身を安

矢の根に毒を塗り 又云、人を討時は、必ず詞を懸る事なり、毒飼、 或は矢柄を拔と、 跡に鏃の残る様にゆるく矢の根をすへるは、能き武士の爲べき 寐首、暗討、 辻切抔は士の爲べき事に非ず、 叉

叉云、 士の魂 は清水で洗へ、腰は立ず共、侍の一分を立よ、鼻は欠共恥を欠なと云は、古へ武士

の常談なりと云。

昇

弈

夜

話

F

篇

卷之

24

事

77

非ず。

3 叉云、 叉馬 の飼様、 馬具等 凡 髮 0 仕 の名所、 樣、 馬具仕懸け様等下人に任せて、 製作 の異同を知らずは拙し、 不案内なるは不心懸なり、 心懸て記憶すべし、武具 の着用勿論な 殊に小身の

ればなり、 農人は 其心他の求 なく、 壹筋なれば士に近しと云。

言多く云人は實なる働なし、 に育ちたる者、二には 12 せざる藝は用なし、三ッには、 叉云、 鉛 滁 21 士を調 花鎗 る法あり、 五には、面白く膽弱き人は、 花刀とて 年四 用ゆべからざる者五ッあり、 + 鑓長刀を遺ふに花や を越て、力弱き人、 强き働き成難しと云へり。 四に かに美きを専らにして、 は、 一には。 好で大言をなして偽を云、 市中に居て遊び戯れて、緩 敵に勝事を專ら

又云、 忠を以て働く者は、勇其中にあり、勇を以て働く者は、忠を背事 あ 3

密の 又云、 事 を立聞し、 眼 目あり迚、人の隱すべき事、恐れ 口 ありとて穩密の事を漏 L ある事を見、遊興の見物を好む事勿れ、 他人の噂を云べからず、足ありとて行間敷所へ行べか 耳あり迚、穩

らず。

得喪、 擘を怒らし、罵り疎くして忌み憚る事なきもの 又云、 生死 渦 戰 夕兢 福 の大事に臨ば、畏れるのしき、 々として深き淵に臨み、薄き氷 氣を顚倒錯亂して、守を失はざるものなし、 そ、 を踏が 勇氣 如く愼む者は、 の有人と思ふは誤なり、 眞の大英雄の人なり、 如此 人は、一旦 是兼 世 一利害 の人 て深

3 着物を薄く着し付たるがよし、 叉云、 四 支 の達 者 は、 生得 17 冬陣にて振へては、 有と云へ共、 心懸れば達者になるものなり、若き者はなる程身を堅 臆したる様にて悪く、 或歌に、手枕 の透問 の風

きに臨っ

み、

薄きを踏の工夫なき故なり。

は 勢 ~ けれ、 0 大 內 21 21 は 常々家來を疑ひ、 士 風 を損 僻 の家中となるべきや、 事 す を行 る事 CL なり、 覺束なく思ふと云の斗りの仕方は、甚だ諸士の忠志を失ふ事なり、 上を欺く者も有べけれども、夫を戒 上より下を疑へば、下又上を疑 大節 6 賴 U 21 足らず事 ふ様に成 むる迚、 を知べ 忠志 て、 君臣 L の士をも疑 0 間 も離背して、争 ふ様なる仕方 勿論 大

奸詐を以てし、或は嗜欲を致して、 又云、人主を 改る者 甚だ多し、 交攻て自ら售ん事を求む、 人主少しく解て、 或 は 勇 力 を 以 てし、 或 は 辯 口を以 T i 或 は諂 其一を受れば、 一族を以 てし、 或は

交るべからずと禁ずべし。 又云、 神 社: 佛 閣等の祭禮總て見物事、 人寄せの所の如きは、 匹夫野人の立傳ふ所なれば、 士は立

是

に從

と云

でか

水魚合體

然時

は

77 臨

き時 道 も大 語 n りを 付 に疎く、 又云、 和 t \$ 聞、 B り勤 習わ 勇氣弱 軍 古 8 L 勇怯とは、勇はけなげなり、怯は の戦 學べば、 17 21 は t 農人を用 く成る。 記を讀み、 つて、 天性生れ付 勇に ゆれ 習はしを選び慎むべし、 勇を勵 も怯 共、 たる如 21 商 L もなるなり、 人は武士には用 武 くになる。 を嗜 臆 病 びべ なり、 **武**士 少成は し、武 習馴たる事は自然に勤ずして、能するが如 勇怯 ひず、商人は其習、 0 子 天性の 士の は、 は生れ付 子 面 如く、 も商 藝を學び、 な 人と馴 る性 習慣は自然の 専ら利を斗 に寄り、 武勇な n ば 習は る人 又習 りて武士に遠け 如 しと成 21 しと云 しによる、生 交り、 し、唐 昔物 幼 武

頃國 連罷越、 日頃諸士を撫育せられ しとだ、 元 72 貴公樣 H 秘 頃 藏 秘 仕 藏 置 御 候郎等 手 致置郎等共との詞、 12 し事は、奥州 は 共を召連 懸 け申 間 て、 敷 候、 土産と云寫し本に見へたり。 能く大將の器に當て。家臣たるもの是を聞ては誰か命を可」情 眞 偖又萬一若上様へ御等閑 先懸 けて紀州へ押寄せ可」参候間 の義 有 に於ては、ケ 、左樣 12 御 心意 樣 候得 申 年寄 と申され H

- 叉云 湎 士 は 家の業にちと好過、嗜み過たるは見能さものなりと云へり。
- 立に らず、 を加 者なり、 成 Ļ 事 に寄、命を捨るなり、 0 用 息 誠 叉云、 非 へ扶持すべし、 ず 從に、 郎等 に立ものなれば、 12 常の 主 故 近 恩 代 壹人として未練の者なさにて合點有べし、情は味方、仇は大敵、惡き者も非道 心 に命を助り、手柄なる功名もあり、譬ば刀脇ざしの切能さを求め秘 は天 士 得 0 度の 寳 肝 より高 是戰 要な は 殊に年來恩を蒙り、 人に増 時 懇に 30 用 く海 場に 12 立 して使べし、主人の能きに内のもの惡きはなし て勝 より深し、然ば忠孝を心にかけ、奉 たるはなし、 んとの心懸けなり、 利 0 根 元なり、 其身をはじめ、妻子郎等迄養て、 大身小 性あ 臣 況や家人は常々も奉公し、 共に、 るも の恩を知らざるはなし、 家 0 子郎等 公油斷有まじ、 小者 飢 に至 寒 大事 され 0 るまで情 心臓すれ 戰 憂なく、 _ ば源 場 の時は一 日 12 共 て生 0 の義經、 をかけ、 に當 安樂 恩 命を捨る 平 死 12 を共に るべか 3 日 12 用 楠 幕 不 IE. 時 便 21 す
- 又云、物じて士たるものは邪計の事なく、 虚言を云ぬ者と立て社、士の本意も立ち、難、有存ず

愛する てな 重 か し治 ざるなり、 ば迚、 悪恩を忘 りに 臨 3 世 U 思 の役は、入用の時新參者を抱へ、 ili 事 管ら物 より出 奇さあ n ふべからず、 なれば、累代重恩の者にあらざれば用に立ざるなり、 偖又常に多くの土を育置は非常の備なり、 仇 しら れば、 とな 施 し祭るを云に る ひにては、何ぞの 事 況や約束 一言の恩 あ り、人心を 非ず、 の知行さへ半知宛行位にて、 にも感動し、 得 時 一言の情 る事、 の鋒 或は雇者にて濟と云はぐ云へ、 愛する心より出ざれば、 先强からんや、 術方 けにても感じて、士を致す事あり、又一言 便 常に の能する所 備 否覺束なし、但し恩を與へ情を懸ると云 外に禮遇と云釋らしき事 へ置ざれば 約 東の知 12 あらず、誠に愛するに 譬ひ 行さへ與 軍役に至ては、死生 急の 多く 、物を施 用 12 N は V2 は、 立. し興 n ば 難 儉 あ へても悦ば の失言に、 5. 約 濟 存亡の地 12 事 託 とば 誠 L 17

るも、 8 若 大 A 上樣 の時 伺 納 叉云、 公 言 へ少し せし 21 公 命 ^ 臨んで、主君をとらへ出 士は君 * 振 を捨て忠節をするも、君 も御 見 舞に参ら 7. の一命に代るものなれば、何より以て大切にし、秘藏有 奉公御如在有まじくだ、 偖も人 れ帰 に於て、何ぞ御用の事も候はど、我等に御聞せ可」被」成候、手勢二千も三千も召 し時、 歷 夕御家中 Ļ 紀伊侯、 の心にあり、賴むべきも士なり、 叉は返り忠、裏切 衆 御人數にては、譬ひい 玄關迄送り玉 目を驚し候、 せるもまくありし事なり、伊達 大納 N しに、 言どの か様 御廣 是程 0 又恐るべきも士なり、 間 大 所 べし、 0 國へ 御 H 御 內衆 御 座 家內一類 取懸け を持 敷 4 正宗、 せられ、 to. 候共、 を捨 御 或時 御 古より落 家 1 敵とな 勝 只 中 今の 利疑 0 紀 伊 歷

有

間

敷存候、

若し紀

昇

245

夜

話 州

下

篇

卷

之

24

損 る ずる事を顧ず、 0 取賣馬 諸事自身勝手に振舞ものは義理に疎く士とするに足らず。 口勞 の仕 方にて論ずるに足らず、 又夫程迄に勿れ、 只己が勝手を専らにして、**人を**

に於て若 又云、 士は三民の上に位し、 し怠りあ れば、 君能 く是を勵し、 武を司り、 勤 國家を守護し、暴惡を制し、 めしめ玉ふべ L 是は君 0 任 國家を安穩にする業なり、 な

とも 第 L て、眠れ 21 有ば、 譬は 輕 叉 諸 < る土魂 土 主 成 治世 も又分限 大小身に從ひ、 君 也、 の江 折 をさませるなり の士は規模なく、 戶下 4 規模 に應じて規模有、 着 出迎 あらしむ 相應に か 供連の員數もあり、 無用 又は産神祭禮とか、 る様にすべ 又下へ武威を示すの一ツなり、 の長 物 L 0 如 年中 < 成故、町人百 諸道具 何ぞ事 一壹度 B, 家來 を寄せ、 本 の借しもの迄、 供 姓 も侮 連 又操練をなすべし、諸士規模有 本 72 供 7 3 輕じ、士魂 連 にて出 統 出 ものづから用意調ふ る る様 下り 事 なる事 眠 年中 て、 武 あ 兩度 威次 るべ

ぜず、 れば、 何れも諸侯は家士の勤る事なり、 叉 ふ君 され 諸 云、 侯は あ ば、 り、素より農工 太平 並らざるなり、 士は 0 世 多く 17 は、 無ても濟べき様に思 商 士は役人の外は、 の三民も、治世 諸侯の本務は軍 されば常に恩を與ひ育ひ置ざれば、入用の時急に詮方なし、若 0 士は 無用の長物の如 役なり、 ZJ. 無用 身代より士多さ故、 當 の長物と思へ 務 は御門勤番、 し、 農工 3 商 領 諸警衞 諸 地 は一ツも欠ては、天下の用辨 侯 0 は 年 身代 防火或は空城受取 貢にて、 21 應じ・ 或 用 士 不 を 足 等な 持ざ なり

れば、 隱居は各別、子供たり共、後に職有者は堅く禁べし。

者は の責をいかんとせんや、恥し恐るべけんや。 て、民の貢する所を食す、 叉云 其勤勞し、其事に死すべし、 四 民各職業とする所あり、 然ば民を治に足て後民の養を受べし、 若し其育を受て、其の業を廢せば、 士た る者は君に仕 へ、民を治るを職とする故に、 然らざれば素饗なり、 譴責する者なしと云へ共、天 凡其養 三民の上に有 を受る

て、 勤め、 Ļ は 此 0 5 て金銀を貪り、義を失ひ、權 0 不 子 義 X 民 義 暖 義理と云ものを職とするなり、さて土は耕作もせず、細工もせず、物を商ふ事もなくて、 る親を親とせず、臣も主を主とせず、後には大鼠にも及ぶなり、夫故士と云もの、三民の上に立 理 8. 又云、古より天下の人を四つに分ち、士農工商の四民とし、夫々に職とする所あり、 米穀野 に着、 は、 を観し、 の筋目なく成ては、人々廉恥の心なくなり、互に相歎さ 0 は、 然も三民 一菜を出 ゆるやかに居をしめ居る事なり、 彼所 三民を安からしむる の餘 し、工は宮室器物を作 の上に立て、 る所より求來 柄 を以て下を押掠る輩有、或は馬を好道具をすく體にもてなし、 士とあがめらるくは、何を職とする事なれば、 て通用をなすものなり、此三民にて、天下の の職分故、 り出し、商は爱に餘る所の物を不足の所へやり、 猥に權威を以て、農工商を賤しめ押るには非ず、三民 彼等も自然敬ふ事なり、 互に 相掠め、 然に士として利 畏れ憚る所なく、 士の 用は辨ずるなり、残り 司 る所 欲 農は耕作を に耽 は 利を心懸 ていに足 義 飽迄食 り。染 なり、 終に

。昇

業有者の成べき事に非ず、 人 て 犬 2 叶 知 ~ 鐵 居 n 家業 31 ば、 らず 合な 3 空うすれば、老て後悔 21 死 D からず、一つ 炮なり、 ても然べし、 見 座 す あ 有 盤 配、 天下 6 容 所 落され 事多し、 ~ 上 易 L あ 叉馬 夫より 0 其家 立 21 n 安くと云 遊 振 ば應じ難 ぬ位嗜べし、 此類猶有 和 心 び、鞠、 舞 若し知らず共、 の藝を以 武藝も熟せざれば用立難し、今日君 業 禮 得 は武士の足なり、 少し 0 の見苦敷 古實も少し て可以成 ~ 勤 共、 揚 き所 間 は す共 弓、 0) て家業とするものは 事 立延び 兵法武 都て勝負事の慰みは、争を起して害あり、 あり、 は苦しからぬ事ながら、 是又急に知らで叶は 茶の湯、誹諧 12 益なし、先儒日、不、爲、無益之事,則學 心得 非 害なき事は費をせば、 ず、 然ば遠近に寄 達者ならずしては用立難し、弓鐵炮と鎗長刀とは、何れ た 藝は急に知 賓客 べし、然ば知らで叶わぬ事も數々多し、 る所は剣 此 外 、酒宴、三弦 0 水練 應接 術也、 らで叶 各 も少し心得ずして て、一 别 ぬ事なり、 他方へ 禮作法を知らぬは不」嗜なり、手跡 左なきもの 抔 叉少し D に奉る所の勤役は當務なれば、 要用急務に疎く 々施業、 12 ¥2 時 使して君命を辱しむる事 事 士たるものは、武を以て本意とするも なり、 日 延ては、鎗と長刀なり、夫より遠くしては を空くしてかならんや、 は敵 夫 は なに 近 進、不」談 間 虁 時 殊に慰事に傾き、 知らで も又 战 の遠近に寄て、施し川 12 は必然なり、 依 品 -無用之事 て事 年富み力强 叶 4 わ あ 欠 6 あ V2 0 是叉精 事 5 み 遊民 近き所 是を 則 な 77 耽り易き物な に常 かな遺ひ坏 武士は り、不 は 非ず、不 は 德 本 せずんば有 か て、 末 __ 各 る所 0 なると云 方づら 别、 無骨 知 倒 勝 時日 負は のな 覺 に置 L 0 職 B 12 0 7 数 弓

侍 の僕 從の 甲 斐 4 々敷用に立は、 則主君鋒先の强みなり、 常に油斷有間敷なり。

\$ 廣 しに、 吳服 出 六十三人、 んつらを釘 3 直 7 居間 12 叉云 屋 對 一の町 招 莚を敷たる 面 n ばかり疊にて、 せ 莚 行し 薩 21 人 L かけ 敷 州 12 12 長 た 家 抔大成る構にて、 置 琉 崎 る廣き間 0 下女四五 たり、 球表 家 傳藏此にては隱居し紙子羽織着 ^ 商の事 臣 其の外は皆薄べりなりしとなり、三千石にて是程家來を持たるは、 12 の薄べりを敷た 仲 21 人 に付 間 並 大熊 脇 は 居、 に付出 九十人程有よしなり、 折ふし傳藏は屋敷へ出て、 7 傳 行し序 8 藏 h ٤ たれ共、 云人 る間を多く通 つうと云物 12 あ 6 彼 妻女 大 熊氏 知行 21 し居たり、 は 5 飯 綿 然るに の方へ 三千 を入、 服 居間 なり、 若黨仲間共に前 石 尋 を領 敷物 へ同 夫より居宅へ 銘 L やの前 畫飯 道 す 由 は せり、 にて 大方薄べ 此 時 12 人江 配り 居間 同 家 栽 彼 6 來 道 町 戶 0 給べ仕 を見 事指 12 は疊 人の 詰 せしに、 7 中 せけ なり、 圖 物 式臺寄 廻 用 L 語 て、 るが、 家 7 事 な 傳藏妻 大君 8 居 りと を達 殊 た 付 右 若黨 のめ せし 故 の外 3 7 0) 間 所 聞 な de

雜事

5 士農工商 或 人云、 人 に至迄、 は 急に 貴 知 賤 らで 上 叶 下 D 0 差別なく、 V2 事 あ 5. 急に知らずして叶わず事は勿論 知らで も苦 L か 5 ¥2 事 あ 5 人の人 なり、 た 其外に る道 は、 は士農工 王 公大 一商各 人よ

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

几

岩黨、 故 事 0 質素 也、 事に心を用ひざる君なり。 りし故、 仲間を滅じ、 22 L 中 T お末と臺所とは廣 は 廣 v かにも主人の心次第に成事なり、世間一統の風俗と云て、成合行合に致し置主人は、 狹 下女は多く は 分限 に從 かりした、 U. 成しなり、 事 足 今は召仕も軍役の心懸けなく、今日奢の使用を專一として、 3 中 を主とし、 頃の家居 家僕武具 心は過た 6 の階、 今の家 さらびや 屋 は 重 かっ 士 一の家家 成 る 風俗 と見 に返し へず、昔

叉云、 漢 30 0 文帝は節儉の君なり、 在位卅年の間、 先帝の宮室、 苑圃の儘にして、增益せられ し事

は 馬 手 故 方 21 重 座敷 の者 21 非 、恩 叉云、 跡 す 子弟たるもの の者に非ずしては、 の見て、恥しからぬ様に有べし、戰國の時、敵の陣 3 21 をかきならし、 結 則 L 或老 から 構 武 備 をなし、 0 勝 土 手 0 く育ち養も自ら夫に應ずる事なり、家中の體にて、政事の程も押量らる者なれ 事 の仕 常 にて、 自燒する事也、 に物 食物の奢、下女、半下 物の用に立難し、下女、半下類、何程重恩の者多く迚も、軍役に立者に非ず、 切は簀垣 語 然も居は りせしは、 にて、 今は 氣を移し 簀の子椽と云ものなりしと云へり、 老人 儉約 の役に の家 に事 養ひ、體を移すと云へば、居宅の表向、 多立 は門 寄 塀構 V2 せ 召 門塀、 仕 拂 21 多し、 て、表座敷二間 したる様子を見 建馬、 軍 役 譜代 12 召連 あり、 門塀などは、 て敵 0 る 若 黨、 0 1 土藏 岩黨、 格 仲 を知 8 間 あり、若黨 武備 只 仲 を減 3 事 見 間 分を飾 は あ ば、他 を張れ 譜代 勝 建

B 構 る士 6 頃 0 る屋 家 殘 として、 D 4 丰 家 りて、 は 77 21 は 前に 然に 右 作 敷 稀 叉 薄 成 共 分限 故、 云、 勝 た 0 5 4 12 簀の के 今は、 は de 外 3 如 4 手 る 我等若 斗 なく 其麁 1 向 12 は 輕 向 相 6 緣 無益の費多く成て、 < には 0 T 應 麁 な 0 何 門 は 末なる普請 の人馬を扶 世 相 5 如 屋 簣 方も 年 塀、 惡 物 22 成 < 敷 0 好 垣 < 連 8 小 きの の仕 衣、 迚 家中 事 廻 頃見及びし江 れ陣 と見 身な りは、 厚 りしなり. \$ の宛行 向杯 普 疊 持し、 座 1 る衆 ^ 請 12 敷 屋 大方は た も有 安樂事 抔 等 し、 住 又家 中 するは昔とは表裏の事に成りしなり、 本 を主 5 21 居 今程 の家 務 戸番町邊は、 は 夫 りしと聞へた 0 中 竹籔にて、 人へ 25 居 の嗜を専らとせしは、 足る事に思ひ、榮耀の普請、 事 は竹籔 作 結構 應じ の躰 頃 は、 借 太 は 平 をも て、 悪く る 父祖 重 事 12 抔 く成 其 表向 唐紙 な 0 5 せ 成たるなり、 の咄 n 通 内に萱ぶさの居宅、 L 外圍 た 石 今は か 張 例 傳となり、 る様子 ども 垣を仕り、長屋作りに 付 0 奢 を致 門 類 樣 do 誠に能き武士の風俗なり、 塀抔 0 21 出 なり、 望み 昔 て、 來 したる屋敷 勝 0 は F 物數寄抔なく、 自 麁 家 無 向 物 結 身其 諸家 好きも 末なりし 中 用 は 構 長屋抔を作り、 昔は岩黨、 B 0 V な 艱 或 は、一軒 手 物 か る普 本家 難をなめざる故、 詰 出 迚、 樣 致し、 は、 6 來 12 請 中 門柱 B た 近 となりし 諸 do 具、 庫 其 中 5 事 1: 見 白 間、 L 0 小 小き門 欠ざれ 0 へず、 然共 中 馬 昔 士 簣 屋 など付 居 頃家 具きら 分限 垣 と違 21 と聞へ 宅 普 叉 住 大名 居の結 す 0 相應 敷物 U. は ば 居 (1) 立 たる 餘 生 よし CK L 面 た 其 方 な 垣 風 抔 à た 25

- め 壁 叉云 の上 途 何 5 時 阈 窓障 替 所 子の 替 張替 有べ かか をして渡す程にする 計 り難 し、 常々屋 は士の嗜なり。 敷 住宅を荒さず、 若し所替あらば、 疊の表を改
- 越さ 梁 間 叉云、 12 る 行 樣 間 22 等 侍 の品 すべ 制 度 し、 有 位を三四 ~ 制 L 度 家居 段 21 に分け 違 は奢 た る 8 、門塀、玄關 り易き 有 來 もの 3 迚、 な 中 容 9 9 捨 口 分限 あ 式 n 臺、 ば 12 制 過 た 色壁 度 る家 は 立た 張 居 付、 ざる は 厚疊、 屋 な 敷替 薄緣、 を 命じ 板 張、 制 上間 度 2
- 禪 L 物 は 桁 H は 置 尼 0 il 間 0 心 所 寢 次第 五 五 叉 云、 手 21 間 12 六 六 づかか T 間 疊 は、 階を 緣 腰 制 敷 な 小 5 張 度 0 じ疊 張 は湊紙 障 餘 8 角 を 子 21 は 屋 井 文 引 は 各別 0 戶 る 勝 破 下 勝 21 手 げ な 松葉 を 手 屋 は 次 5. 次第 た つくろは 第、 中 3 門 其 紙 樣 にて、 お末 類 から は H なれ 勝 位 唐紙 と云所 n t 手 21 ども 程 次第 L 形 依 12 戶右 21 0 る 7 引下 22 張 山同斷、 昔 は 付 家 段 其 質 げずして 土 内 4 無 素 間 頃 用、 21 次 灭 0 0 筵 寄 第 敷 質 時 井 反古 5 有 薄 素 分 は、 た ~ るべ 隱居 21 し、 な 板 張 る事 小 2 張 にて胡 し、 無用 は 身成 又は 小 中 想 身 惣じ 像 0 粉黄 倅 下段 B 事 簣 ~ 0 部 し 7 12 成 屋、 應 士 21 ~ 敷 て張 分 抔 至 し、 物 引 家 0 T 疊 勤 ~ は、 內 昔北 無用 Ļ 手 は 22 成 細 家 涮 條 但 I 理 難 屋 湖 時 L 12 N 0 か 賴 手 11 る 難さに 梁 0 5 狭 ~ 4 間 母 し、今 たる 形 21 付て を打 於て 間 ~ 华
- 起 臥 して、 义 云 今 寒暑に苦みし事を思ひやりて作事すべし、 程 太 平 0 世 21 當 T 居宅 を作 事 す 3 21 は、 陣小 いかに茅屋小家の不自由なり共、 屋 に住 居し、 或 は 山 野、 叉 は 陣 森 中 林 ・の居所 の中に

手 事 表 垣 限 12 8 向 7 向 21 12 21 名主、庄 て、 應じ、 も賜 は 今時 生 小 るならば、 21 は結 檜木 **芦門** 垣 屋 一もたび の武 抔 なき家 構をなし、 [1] 云 1: に於て檜を賜 し、 B 人成 追 は 0 遠慮 は 々家中の門 無様に 武士めく 門 る所 飲食とか すべ あ n 有 き事 る事 見ゆるなり、 共 て、 塀は多く成べし、 様に教導有 谷 衣服抔には、 を遠 な 也と云、 士屋 慮 敷 町 せざる事 度事 他方城下を少し見しに、 とは 凡 人も路次に 士分の者は、 なり、 分に過たる奢侈をなして、 見へず、 奥州仙臺にては、 多し。 門 門 塀 武 あ 士 など普請 小身にても門建 5 0 況や 缸 士 家中 めき、 す 士屋敷は小身者と見 小身也とも侍分の者をや、 る 者 及 忌み憚る事なし、 武 CK ^ ぬと云制なし、 士 城下 は 立す 町 Щ 火災 林 るを笑ふ 12 於 B あ て、 百 る XL されば は昔の ば 姓 雑木 遠慮 12 草 分 1

すまじき 簣 樣 變ず 3 0 7 に思 垣 武 叉云 器 は る 草 ひて、 漆 類 は 事 0 垣 25 侍 21 木 21 學 變じ 遠 怪む の家 T 味 線、 梨子、 慮 數 事 屋 N なし、 基 應 の體 難 は萱 栗、 L 將 其變じ替りたる事荒増を云は 昔とは大きに 置所に變じ、 見る 棊 桷に 一後じ 目 双六盤、 も耻 表 L 替 夫も後は毀去 き事なり、 木 座 らた 枕 敷 21 は n 變じ、 賣拂、 共、 目 て、 墨繪 金子 今 には見へざれ共、 0 ど、門は門 跡は 世 0 に變じ、 Щ に生 瓜茄 水、 れて、 柱二本限り變じ、 子の畑に變じ 文字 金子は無用の奢に變じ、 年若 人心の昔と變じた Ó 懸物 き者 は は、 極彩 塀 屏 昔 悪 は 色 簣 より 0 る社、 の浮 松 垣 式臺床 斯 21 は 世繪 ありし 變じ 用 殊に な 77 飾

之

四

歎は

しき事

な

5

張 て、 6 12 な 廣 にて薄 其 又 し、 6 上へ 門 若黨 緣 叉 塀 小 來人を請じ、 叉 表 仲 身なる士の、 は厚疊を敷 座 間 敷 多 は、 < 建 客歸 渡し置事 今より 馬 は末 有 れば又仕舞置たり、斯せざれば、應分の表役勤らざる故なり、 故 たと云所 思 也。 21 ^ なれ ば 今は は、 5. 分限 家僕 皆土間にて、 古今家居の變革とて、 22 少 過た く高 る事 も持 莚を敷置 にて、 す 故、 勝 お末 手 人心の 向 人來れば薄べりを一 of は、又分限等相 臺 所 異同 B 甚 を知 だ狭 ~ < 應の 枚取 造 3 樣 事 り出 今は皆板 21 ٤ 思 し敷 は な る n

略 狼 1: 折 侈 し來 藉 魂 2 募り、 叉云、 者 0 L た 手 捨 る屋 其 入 費 6 外 用 修 士 な 非常 敷構なる意を忘るべからざるべ る故 補 多く 0 屋 21 な 物 敷 の變 諸 5 入 には 事 8 士 す有に付 門塀 屋敷 貧 あ n 12 ば、 成 は は て、 士 て、 v 有 屋 か 門內門 主君 敷 1 21 8 0 b 切 無 より 8 かけ 外の吟味 用 れ、門 0 8 物、 なり、 折 塀なくては叶 4 有事にて、手柄にも不覺とも成事 先づ是等 儉 家居 約 を示 は 麁末 さる を止 D V2 にても、 るを、 1 事と思 21 付 儉 7 へら、 門塀は略すべ 約 は、 0 第 門塀 今は -番 など 世 あ 0 間 からず、喧嘩 樣 5 は 21 化心 有 N 元 來 מל 來 得 6 n ば、 城 12 を B

善 及 せ 5 と云様に成來り、 ばざる 叉云、 古 21 人 は は 士 一屋敷 勿れ 侍 屋 共、 敷 0 然ば内所向は、 見 苦敷 門 斯 塀な 3 事 は、 は < 當世 其 T 叶 身 猶以世並の様に思ひ、見合せ、遠慮して省略するかと見れば、勝 入 D 0 らず、りき VQ. 恥 2 0 心 み 得、 21 非 み、 す 士 か 0 5 軍 主 張 役 君 同 の様 0 U 恥 事 なりと、 21 21 思 覺 23 た 人は 5 # 勤 今門 をに 心 0 見 塀 用 など立 合せ、 U 方、 遠慮 古 るに 一人と相口 す るを 力の 反

合を守 然共、 簣 L 富 節 心 n 居に 好 0 売 上古 根 ば 事 垣 は き好みも多くなり、 人を見 仕 果 は、 指 にても、人の心 るべ 見 推量らる、者なれば、恥しからぬ様に住なすべし、 切 非 萬 あぐべき者、 苦敷は、 るに、 奢 抔 常を防ぐ心得有 事 穴居して野所すと云へば、 し 禮儀作法も備てよりは、 そ 17 7 用 衣 濟 士の家屋 以度者 主の外に 食 しとな 叉萬 の用 21 又は荒果ても修復を加へず様にとも成なり、 ら見っ は べきは 聞にも懸る事なれば、見苦しからぬ様に持なすべし、 儉約 ひ方、 6 敷は、元來 一主人、所替抔有共、主人の恥辱にならぬ様に心得有べき事なり。 を用 當時 たり、 古今の差別を見 勿論なり、 N 多 貴賤上下の差別もあれば、 城を略して搔きあげ、 ても、 分限 勝手 家居は風霜 向 12 家居 普請 古は 依 7 表向、 るべ を主として物 各 は分に過て廣く、 雨雪を凌ぎ、 別度可」有 L 門塀、 大方 又家 かきあげを略して、 事 は家 客座敷を主として、 好 只盗賊 也。 分に應ずべ 屋 に念を入、 造作等に美を飾るもの多し、 敷を全 居の構、 預り物 防ぎ膝を容るくに過ざる事 く私 L 51 住 表向 7 0 居の體にて 大小 屋敷構としたるものな 何 無 B は 勝手向は簀の子 用 時 のと思 麁 廣狭は、 0 成 末 飾 共、 12 \$ は へば、 成たり、是等 奢 主 分限 な 叉世 其主人の 人 然ば家 種 0 緣 也、 間 用 4 0 程 但 物 0 0

或人云、 昇 家 45 作 夜 0 大小 話 下 に拘らず、造り方、住居の體、昔と今と大に替れり、 篇 卷 之 四 昔はおする、臺所と云所大 和

有べからず、出銭寄 會にて、 酒 食を求め、飲食するは、武文の稽古席に於て有べき事に 非ず、

くわし 粥 是 を用 ならずして、 に宴會 雜 水 捨すれば、 かっ 抔も是に て飯等を食しても、 の制度なり、 飲食 分限 準て、 、も衣服 制度の行わたる事なし、一人も二人も嚴に咎めあらば、猥に犯すものは有 相應 常々の食膳は、いか様に引下げても、 制度を立て、若犯禁の者あらば答有べし、凡そ何事も一度制度を立て、犯す者 0 の如く、 表向の嗜耻 內分事 士の上下を三四段に分けて、一汁 しか のなれば可い耻 5 ぬ様に 可=心 事に 掛 非ず、 こなり。 格祿 いかにもして借金せず、 ___ の障りに成 菜より、三菜迄に限り、 事 なし、殊に少身の者は、 主人の世話に 間敷なり、 酒肴, 茶

講と云て、 番 衆へ人を廻 叉云、 今時 寬永 Ļ 振舞と同じ事也と云へり。 0 食をば飯次に入、 頃、三百俵取 らる 膳椀を添て、面々の宿より持寄に致し玉合、其參會を名付て、汁 ノ兩 御 番 衆、 肴 種も得らるれ ば 夫を汁に申付、 近所 心易き相

鐵 度 4 硇 叉云、 進 打 今時の若い衆は、物に色々の好事めさる、 に参られた、其時 T 鐵炮 衣服 打 12 の部にも記したる、山 行と有ば嬉しか 12 朝、 菜飯 つた、 を 炊て 田 晝飯 3 あんの噺に、 書飯 抔喰 沙汰の限なりし迚、 に持れた、其時 ふと云事 朝夕雜 は夢にもなき事、 水を給て有た、 21 我等 子供を叱りしとぞ。 も貰て給 夜 21 おれが兄様、 べて有 入 り夜食と云事も無 な 故 折 兄 々山 様を

第二 喰寄 品 た n は ば は 親 (3): 疎 輕 類 5 と云 く成 族 夫 1 0 W 交 第三 事 行 6 親 習 只 あ 打とけ なり 吉凶 妻 5. 類 族 0 な 親 参會も。 0 適出 親 外に 戚 切に 12 會 疎 四季の宴會と云事 くし 勤 する故、 交るを専 T 通 他人 もの 餘 _ とせ 27 樣 り麁 親 27 しきは し由 有て、 成 末 て、 はるい なり、 逆な 相樂み、 親 成難く、 0 3 凡そ人 根 本 睦く 親 を 何 戚 ぞー の情 失ふ也 は 変りたりと云、 種も用意せずして は、 親 U 俗諺 に又次 繁 4 交れ 17 第 親 尤折 類 ば \$ 親 あ は は 11 かの < 叶 寄 な 6 は 6 寄 合故 82 父族 他 樣 遠 3 人 77 は 成 かっ 食

禮 L 食 法 は 生を養 を 叉云 亂し、 心 0 向 岩 ふ物 喧 ふ所 年 嘩 也 0 狼藉 賤 者 妄に 敷 飲 に及ぶ、 食 飽 無 0 益 食 寄 すれ 21 會 戒む L を ば食 て損 催 ~ し、 有 氣 廻ら 大 出 食 ず、 錢 を 争 の寄會殊に賤 滯 N 手 て病 柄 の様 を 生 す 敷 12 事 心 也、 養生 得、 不 近來酒飯 12 害 作 法 あ 6 77 の遊び 飲 且 食 錢 9 殊に多 を る 費 類 禁す L L 不 作 ~ 果は 法 21

還らば、 叉 茶漬、 主人 菜、 0 用 大 向 にて同 根 0 汁、 役参會の 香 0 坳 事 成 は、 ~ L 成 取 り次第食事 5 調 る 事 の間 有べ にすべ からず、 し、期 酒 は せずして 切 無 用 無」據食 な る 事時節に

取 神 失 酒 الع 頂 交 Z 戴 下人の寄 L 年 後酒 初 3 會 7. IIII. 75 文 0 武 如 4. h 0 成 祝 稽 \$ T 古 あ 初 退散 5 は すべ 嚴に制禁有べし、 禮 L 服 * 着 然 し、 12 飲 初を 酒 12 又常々稽古席 改 耽 3 5 事 なれ 醉 興 ば は、 0 Ė 禮 辨當燒 儀 禮 作 儀 法 作 飯類 尤 法 IE. * 0 L 外、 亂 かい る 飲 ~ 食 主意 Ļ の品 を 各

料

平

夜

點

下

篇

卷

之

四

を用 共 0 色 2 ば、 類 4 常 るは、 氣 菜數 12 4 12 兼 T 21 12 共 は、 を調て、 なし玉と云へり、 あらず、養生に益あり、 麁飯麁食を喰、 賤 な 敷 る 招だに詮なし、 は、 して 珍味を設るに及ず、 可、恥 馳走の本 稀には肉味を用べし、 事 先祖 也 意に非 風流 の祭には、分限 に料 常々美味に飽ば、生を養ふに害あり、 ずず、 汁菜 理 料理 8 きたる の内何ぞ一品有ものを用べし、 方は無造作にて、 但し吟味を求るは奢也、 の力の及ぶ程を辨て叮嚀 事を止て無造作なるべ 丁寧を盡すべし、 禹王は常に飲食を菲して、孝 麁飯 L 成べし、 儉 縦 补了 麁菜は奢を去て、 U 0 事を寄い 物じて飲 珍 叉客を得 味 12 せ、串 L 食 たる時 て菜數多く 12 徳に從 に深く心 貝 玉子

黑米 3 H 飯 בל 0 事 45 12 なし、 朝 飯 食 也、多くは飯と鹽とのみ也、 或人云、 B t 暖 て、 A3 黑米 一度炊 成 事 士 味噌 を食す あ 一は常 飯 ても 6 0 汁 是を る事 の替 に麁飯を喰ひ習ふべし、 ひえたるは、一入喰悪き物 今 出 な 思 りに 來 L は 食す た ど常に 日日 る飯 黑米 心也、 分 疊 は 0 腰 の上にて、 飯に鹽のかき立汁なり、鹽のかき立汁とは、水の 夫も時 飯 ĬĹ. 粮 を一度に炊ぎ置き、 軍中 21 に仍て兵粮 也。 付 心易く て、 にて俄に難儀せずしてよし、 前 麁飯 に詰たる飯を食する事なれば、 手 72 閊 冬は て、 ても食す 動 ----日 もすれば時 分も 3 は 可 __ [ii] 、樂事 軍中に味 75 刻 を失 炊置 也、 不噌を用 暖成飯 內 庫 CI. な へ鹽 中 叉 12 を食す は一二 譬 るは上 T は彼 N

又云、親戚は折ふし招て、一飯を振舞親く変るべし、否ざれば親戚と云へ共、情意疎く成なり、昔

上下を着す、 況や外の者は殘ず木綿衣服也、 奥向女中も残らず綿服の由、 但し太守の妾斗り小袖を着

ると一大。

東照 州 由 手 25 軍 8 L 12 さる、 習 が多くて、 て寛文年 0 やと思 はなし、一ッ 叉云、 親 將 0 宮 類の方へ行て、 御 より、 ^ 仰置 ふた、 沙汰の限なる事とて、 師 昔山田某と云ひし者、石田治部少輔に奉公し、石田謀反の時、美濃國大垣の城に籠 範 中死去す、 何 るとの 田中兵部を大將として、大垣の城を攻させ玉 申 此樣 帷 上 もかも不 子 た を十 事 に背 る者故、 養育を受居たりしとぞ、 右のおあん咄と云ふものに、 12 七の歳 は物 自由 付 て、 城 每 の事なりし、 常々子共を叱りけるとぞ。 迄着 を遁 不 山 自 田 n 由 某妻幷に娘 るに仍て、 度ば御助 0 事で有 衣類 右の かけ有べ た すねが もなく、 おあん 今時 おれが親父は、知行三百石取られしが、 おあん、 L 出 と云ひし者と、 の岩 おれが て難 何方 ひし時、 儀に 後に雨森儀太夫と云者に嫁し、八十余才 い衆は衣類の物數寄に 十三の時手作 へ成共落 有た、 山田某が方へ矢文來て、 おとな四人召連 ~ 責てすねの Ļ に花染 路次 心を盡 の帷 隱 の煩も有まじ、 る 城を落去り、土 子 1 帷 し金を費し _ 其 子 ッ 東照宮御 りしが、 八時分は 一ツほ あ る外 共

负

飲食は生を育ふものなれば、一日も欠べからざる物也、 侍は戦場にては、黒米飯を食するものなれ

昇

21

夜

話

下

篇

卷

之

py

よりて 事也、 de 心 好 召るは、 0 の色な 也。 儉 時 然るに治世久しくして、戰國の沙汰は次第に遠ざかり、武人の心も柔弱になりて、 5 大なる失禮也、 約 々のはやり風俗 72 心は内 事 よせ、 に動じて見へず、 衣 況や右の禮にて公用を勤るは不敬也、 服 に移は、 0 破 れた 若年 るを補 の者 **聲色に顯る、所を以て見れば明** 也共、 はず、 侍の子弟はすまじき事也、 垢付 た るを洗 是等は惡く心得て魂を自身に汚すと云 は ずし て、 か 也、 人前 言 恥 語は ~ ^ L 出 心の聲 て時 愼べ 節 花美の粧を 相 也、 應 也と思 衣 叉 人に 服は

- 時宜 ニッ n L たるならずとの吟味 御城 又云、 72 着 依 用 內 の節、 1 は、 の部 東照宮御代の事は云に不」及、台徳院殿、大猷院殿、 下着 屋 上を下へ 々々に挾箱にても、包にても差置るし衆中は に淺黄、むく、縞 0 由 と着替ずしては不」叶様成義 也とぞ。 類 の小 袖 抔用らるく事は、 も有間敷に非ず、 御代迄も、御旗本 各別、其外 曾てならず如く有 左様の刻、 平御番衆 無紋の小袖 らしと也 も其身御役をも勤ら は寒き時 其子 分、 上下 細は 小袖
- 所持せられ、 叉云、 寬永 常 4 0 衣 頃 服 は、三百 は 布子木綿服也と云へり。 俵 抔 取 られ し小 身の衆 の様子を承るに、 番着物と名付、 絹紬抔ニッニッ
- 政事は實朴にして、伊達の一ツ家老、中老の歷々片倉氏抔も、 叉云、 仙臺城下、三四里四方も有て、家中屋敷も大きく、名分大の屋敷をば大名小路と云習す、 仙臺へ登城の時分、木綿衣裳の上に裏付

錣一 差別 様に、 りな 引 品品 束 21 通 13 る 5 樣 は 7 x 17 枚、 るべ 밆 火 其後 1 77 を 眉庇 羅 位 なく、 念を入 成 小 長サ 紗、 25 除ると、 た 足 身 仍 6 吹 輕 0 陪 ___ 7 羅 町 仕 返し 火 中 者 尺五 用ゆべし、 夫より 事 脊 人 立ると云へば、 間 は 裝 相 出 极 を 迄 常 寸位た 致し、 即 多 束 抔 家 0 段 右 12 木 云 貴 2 至 茶 0 4 綿 但し 五枚三 るべし、 き品 制 0 る迄、 結 色の 12 外 構 度 染 着料 革初 にて 地 8 12 21 拔 合は 火事 枚 な は 用 紋 夏火 は、 用 る 0 0 織 5 たるべ 皆 は 無 裝 具 を着 鰭をさげ、 貴賤 足一領 事 羅 4 東 棧留縞、 有 羽織 支度す 紗、 間 物 せし故、 し、 高 敷 也、 羅 F 事 物 を用へば、晒 切 小倉 火を る様な 胸掛 の分別 脊 也、 とし立る程 付 上下 板 紋、 木 除 今 抔 0 無が 綿 蛇腹、 制 る 12 3 羽 0 12 事 見 度 B 織 常の木 分け 如 布 を定 は は、 0 樣 21 物 に限 糸 革 R 伏 已前 無 0 色 人 do 27 せ、 るべ 紋 ば しく 0 繪 p 故 綿たるべし、 由 模 に付、 0 13 は 樣 惣笹 し、旅 也、 をす 大小 織 はな 曾 様を 1 は 緣、 其 士分 或 革、 無 る 出 L りし は 行 E 12 L 無 雲齋、 色品 頭巾、 一武家 付、 は の踏込裁付 用 衣 と云 黑 服 頭 當 皮の を以 0 踏 12 巾 革鳥 若 小 縣 時 抔 込、 5 火事裝 羽 黨 倉 3 B も右 帽 裁 木 火 足 胄 織 高 を除 火 輕 を用 子、 付、 綿 を の通 斗 見 下 事 束 形 る 股 裝 必 1 3 6 0

72 服 \$ 里 叉云、 は る事 荒 4 今程 有まじ 綿 布 也 太 7 平 2 也 云 0 世 ^ 物で 共、 25 當て、 花餝美麗は、婦女下﨟の目を悦ばしむるのみにて、心有人は眉 ゆき尺 面 長 4 1 0 衣 綿 服 を厚 を製 くして、 す る 21 は、 寒氣 具足下 を 防 着を 77 不 足 取 なき 出 Ļ は、 見くらべて造べ 綾 羅 錦 をひそむ 繡 0 暖 なる

有

~

L

臣

叉

其

别

有

べか

事

な

昇

平

夜

話

F

篇

卷

之

匹

になりし事を可い知と云へり。

間 風 肩 す て 商 中 6 敷 は 衣 2 衣 無紋、 叉云、 な は 直 士 せ L 服 ば、 参と 0 津 0 品品 戾子、 無 制 縞 位 制 别 何 益 度 の耻 を三 度 あ 類 0 は 羽 事 3 抔 は 四段 総 也、 主 72 は 奢を防ぐ術 る事有べき 定 定 は 君 12 絹 都 る ~ 0 分て、 て士 L 類なり、 心 せんしに 次 なり、 分以 第 如 P 何 此 妻子 より E 制 V 嚴に制度無れば、 都て奢は上を僣 て、 は 度 かっ 押 樣 0 何 11 1: 服も 迄は なべ 21 時 0 は、 of T 絹、 服 夫 定 に不 絹 E 0 8 下 何 紬 服 6 より 尊 足と云 た 12 ふより出 る 幾 卑 準 るべし、 1 度儉 事 混 る 何 なり、 12 迄 也、 和 彩 非 世 は る者也、 0 ず、 上下 す 紬、 江 觸 陪 戶 L 書出 世上 て、 太織、 等 臣 は麻上下、 衣 12 は 7 費 服 は 2 紋 8 の奢を 兎 用 0 何 他 B 大 1 方 8 檔 世 あ 薄 小 5 ~ n 勤 か 101 禁ぜんとならば、 並 は か 21 角 棧 る る 迄 留 ~ 染 CI 8 21 は 縞 色等 染木 か あ B し、 n n て奢 郡 美服 を以 綿、 是を家 家 內 農工 平、 を は 中 7 11-禁 分 限

節、 すべ 羽 あ 織 た 外 叉 25 同じ時非伊掃部侯、 大 る 4 云、 紋 革 0 そ 事 火 羽 出 織 事 は 12 知 裝 L 着 らず、 東 紋 せ 付 は Щ 5 72 淺 曆 3 是も因幡侯同様の羽織にて、 野 元 V を かっ 因 四 着 年、 幡 72 L して 侯 王 江 は N 持 五 戶 合 萬 大 家 火已 せ 石 中 0 H 21 後 る 大 T 哉、 名 0 五 なれども、 事 百 知 21 石 馬廻 て、 行 取 三百 (1) 其 りに供せし侍共、 侍 近 以 石 0 時 前 取 內 諸 は 騎 12 沙 家 馬 汰 25 只三人 士 て、 \$ 共 な \$ 皆々木綿羽 き事 足 革 車 羽 殘 な 0 らず 5 織 着 を着 す 織 酉 柿 3 を着 茶 年 L 染 大 72 色 0 した る者 12 木 火 綿 2 0

松永彈正是を初共云へり。

就中、 乘 3 は 一三人も召連、 卷物類を二ツわり、 物 叉云、 21 高 乘らずして叶 0 染革足袋をはきて歩しに、 田 昔女の帯は、 樣 かしりと云は、 ぬ様 絹類は一幅を其儘にて用 挾箱持抔連る如く成る、 萬の に成 卷物類をば三ツ割に致し、 たり。 右の三ッわ 其後は右かつぎと云もの被る女中はなく、 りを又三分せばにくけ、 U 歷 々の妻女と見ゆる女中 後の結びなども夥 絹羽二重の類は二ツ割と定りたる如くなり、 其端を結び押込てさし置 敷 大に B 成 輕き者の女房娘迄も、 たり、 麻 のかつぎと云 扨又 しに、 已 iji 一もの被 下

解 て、 なり。 學ぶは、 け 叉云、 いつとなく島原傾 た るを 大きなる略儀なり、今以て御所方、 女の 6 前帶 後 ~ は、 廻す暇な 城、 明 層萬治 或 は茶 1 0 屋 前にて結びたる儘にて、 頃より起る、 遊 女 洪 或は武家の奥方にて、 前 21 京祇 て結ぶ、 おん清水邊の茶屋女、 京の町 茶酒の給仕をしたり、 女叉田 老若共に前帯にする事曾 舍に渡て、 参詣の多く有時は、
 世 一人より 間 統 77 兩人 てなき事 此 帯の 風 * 移

當 長 時 して、 の有様を考 高 位な 士 一は衣服 ふる る人々さへ遠慮すべき品を小臣なる者も着する事となれり、又云、 21 の綺羅を好むべからず、常體の衣類如何様にても苦しからず、 古 より 和に用ひざる、 縮緬、 天鵞絨、 羅紗など御膝元にて織出す、 東照宮 今の衣類 祖 奢の最上 時代より の奢り増

を餝

りて

格

禄

0

却て奢り高ぶり、

分限を知らざる

の非り

あ

5

然に

餝

る

事

難し、 ば辿、 者 好 宜 は、 敷 近 餘 媥 制 女下 の實よりする伊達は、武具、 すべし、 り見苦敷 部 0 其儘に見免し置は夫の恥辱也、常に奢て美服を好 目 は まさるには非ず、 不 を悦ばしむるを快と思ふ若輩なる心 嗜なれば、程能 馬具抔花やかにして、能人よき馬抔嗜み、 き様 21 心得べ し、 婦 底 なり、 人 は 殊 土魂 12 めば 着 餝 あらんも 無用の費多く、 る事を好 0 我身よりきらびやか は U 者 恥 な ~ 改る き事 n ば、 着 時 也、 の嗜成 夫 され た る

位 して、さの みに袖 の染色、 髪の油げ抔を好ぞ、 只武道をすく也と云

今云引ときの 或 人云 昔は今 事 也 0 如く四季折 々の 衣服なく、 綿を脱て袷とし、又とき放し、 解分け衣と云へり、

紅色見 叉 云 00 衣 ゆるをいみて、 服 0 袖 緣 は 細 川三齋 別の色に覆輪を取られたるよりして、自然の風俗となりて、今専ら用と云 の初 められ しなり、始末の爲 12 非ず、 其の 頃 者 事ら紅 裏を 用 袖

30

會の輩、素袍の袖と裳を取て事に從ふ吉例となる、細川賴之の所爲也と云、又一説に、 叉云、 今の上下と云ふものは、 鹿苑 相 國義 滿公の時、 内の合戦、正 月元 乃日に起 る事 信長 なり、殿 公の時、 中賀

25 事 B 0 或 者なれ 非 21 人の あ す、 依 3 物 6 其厭 手厚 親 ば左も有べし、 語 兄弟 りに、 き家風と云べし、 ならば、 にも難義 家 中 惣領 子 家 共 の懸る事もあれば、 分の 風 あ る奥 21 男子 或説に、 依ては家中侍の子ならず共、 向 も仕は は、 家中の子共を仕はれて、不埓の事有ば、 他 所奉 n 間 其厭 一公人勤 敷 也、 にて他方の 古 8 悪きものと云へり、 は なき事 武士 者を召仕 和 一の子に はるくと云、 非ずしては 家中 當人斗 の子 夫は女に限 召仕 は主 らに 人最 はれざる家 もなく、 屓 りたる の筈

50 町 25 叉云 居 1 事 3 21 職 非ず、 諸 人 17 侯 方陣 委くは 扶 中 持 へ召連らるべく諸職 方 武 21 備 T の部 b 與 に記 ^ 置 す、 何 參看 ぞの 人あ 5 すべ 時 77 常に不 否と云 し は 足 ぬ様 なさ 17 樣 繋ぎ置るべし、 に備置 べし、 若又召 入用 抱す 0 時 共、 4 求 て得 城下

器を長ぜしめ、治亂 君 の倡 右 叉云 は 冶 油 世勤 斷 平士は あ れば、 役の大旨 非常の備也、 隙多さ故 共に分限 を語 ら合 12 相應の勤は、何時命 5 叉比内より諸役 無 戰 益 國 の遊 本務の事 に長じ、 人へも撰 は、 ぜられても美事 士 子細 風 柔 み 出 あれば爱にもらしつ。 弱 さる になり、 12 し事なれば、 勤 才器をなさべるの恐れあり。 る様に、常に養育油斷不」可」有、 文武 一藝能 を厭ず、

衣 服

衣 は、 元來、 昇 痒 夜 寒暑を凌ぎ、 話 下 篇 卷 之 且肌を願さべるを禮とするものなれば、常に服 四四 は美惡に 心 拘らず、いか様

く、廉正にして賄賂を嫌ひ、婦人に侮れざるを撰べし。

の仕付、 叉云、 古 老女、 實坏 も少し心得、人品おとなしく、 中老 は年頃四十以上、素性賤 憐愍有て依怙贔屓なく、 しからぬ者の内にて、粗諸侯家奥向の格合を知り、女 廉直にして奢 り貧らざるもの

を撰べ

1

常に 家 3. と醜 は 者 方 者を用ゆべし、 公人も人には寄事なれ共、 を蕩 H 中 0 町 き抔 那 の子 淨 叉云、 il 人 君 して害多 と云如く、 12 か 瑠 0 の吟味 側 共なれば、 T 百 理 は安ん に侍れば、人物惡くしては君德を賤ふ事多し、君徳を助る程 姓 側 三味 0 女 し、 衰世 子 中 のみにて濟むことと見へたり、古へは諸侯方にて、淨瑠理、三味線は無 **发を暇を取れば、** 表近 ぜ 共 線 並 の者 入用 に子 親兄弟の迷惑難儀 也、 の様を察するに、人物の撰薄く、 習 年季 也、 の事 士 供、おとなしく守り堅 譜代重恩の士の子にて、親兄弟も同家中に有者は、又各別なる事も有べし、 0 不調法 奉 撰 あれば、 公人 8 又彼こへ行て奉公する事なれば賴母しからず、但し譜代 奥の 21 12 て、 に及ぬ様にと謹み勵 て當分埓 夫を業にする者を呼で用らるべし、 側 譜代 女中 固に、柔 撰も同 の明 の者 V2 12 非ず、 淨瑠理、三味線、踊 事も有べけれ 樣 弱 なるべき事 にして詞寡く、 じべし、 賴なきものに 他方の年 共、 成に、 の事は 家 抔の虁のよし惡と、 君の惡を迎ざる者を 先づ其 中 L 常に其藝側 季奉公人は、 0 て心 無共、賊人害せざる程の 子 女の 共を召仕 文 なく、 素性と云ば、大 12 有 らし 諺に江 譜 ば、 n も年季奉 事の由 度 見分の能 代 撰 君の心 事 重 恩の 戶 也 中 な

古 恥辱と成事多し、言語を違 實、 叉云、 並 に諸家及び僧法師に至迄、書通格合に詳に、假名遣の吟味変敷を撰べし、 **林筆**、 手跡を撰事勿論なれ共、さながら兼全き事を得難は、手跡は少し次にても、 ひ書たるものは、永く残る者なれば、念を入べきもの也。 然らざれば主家の 書法の

有道篤實 叉 云、 にして、徳行 儒者撰二樣有べし、博覽多識にして、詩文章に達したる者壹人有べし、其餘は幾人也共、 有を選て、 君主諸侍の師とすべし。

療治 は、 師 は祿有故に、醫業を以て今日の營みの助とするに不」及、醫多くは業に怠て良醫少し、 叉云、 は瞼なく共、 の節 醫師 一知行を減じ、藝術上達の上、返し與へられば、皆々精勤すべし。 は 醫學に達したるは、双其次とすべし、 醫學、療治兼備 りたるを上とす、醫學は博からず共、 但し醫書を講ず 療治驗多く有を次とすべし、 る師とするによし、 醫師 と藝師と 仕官の醫

述 12 する中 る 叉云 叉云 通り家督 77 軍 堪 幼君守役 者、 能 を減じ、 なるに依て、諸人の師として習もあり、 諸藝師、 其藝術上達の上與られ精を出すべ 文武の才徳有て、 皆其藝術に達したるを用ゆべし、代々其藝術を家とするあり、又一己の嗜 武家の古實作法に し、 藝にて抱られ家藝とする者は、醫 明らかに、 若家藝を繼ざる者は暇 人品端正にして言語浮躁 を玉 ても可なり。 hhi の條下に

奧家老、 年頃五十以上にして、人品端正に守り堅く、 君徳を輔佐し、 憐愍有 て依怙贔屓な

元

す

昇

平 夜

話下

篇

卷之四

動作輕卒ならずして、人の師表たるべき者を撰むべ

L 萬 男 < しきも見ゆる也、見分惡き男抔 男ぶり \$ 叉云、 り見分よさを第一に選るくも有と見へたり、供廻り様子にて主人の程も推量られ、 又手後れ無んものを用ゆべし、 常 何 0 と無賴 刀番、 變 抔 に拘るべ あ らん もしげ 供 時 頭 からず、 は、 21 供 見ゆ 供 小 性、 0 るもの は、 扨又公邊他方の格合、 外 供 は 治平には變事の備など云事は、念の入過たる事とし、 却て譜代 從士、 其場の用 也。 惣て治世の供を勤 の士 に立ものなし、 にて賴母しき者ならんと推量らるく也、 途中の作法並に下馬先の作法等を知て、卒 然ば壹 る者、 大家た 人當然共賴 り共人數多からず、 むべき士をすべり用べ 家 年若に 年 風 頃の者多 0 奥 されば して ・爾な 场 か

人に 藥番 非 る者 大 21 事 命ずべからず。 0 役 也、 守 り堅く忠臣 にして二心有敷間者を撰べし、 知行がら役進の順抔に 拘 其

選に 流の 珍敷取 又云、 逃 れた 掌役、 組を用ず、七五三、五五三等を初、儀式の古實を知りたるを用べし、 るは用べからず。 鹽梅 役、料理 人、 撰方藥ばんに同じ、且料理人は古法の料理組 庖丁は利ても、 に委敷、 妄に新様風 右の

け、 輔るも賊ふも、 警衛 叉云、 25 近習 可、當者を撰むべし、當 近侍の者の善惡による事多し、 の士、武文の嗜有て、 座の 取廻し、男ぶり、座配 言行を慎み、 家語に、不、知"其君、視"其所,使と見へたり。 端 IE 21 して媚諂 立居 振 舞の はず、 善惡 君 17 0 悪 拘 を迎 るべ 力 ず、 らず 君 君徳を 德 を輔

漢 の宣 帝 0 民を富 し土 ふ謂 机 唐の太宗 の家給 ^ 足りし所 以、 皆牧民 の長 を重んぜられ しが 故 也と云

臣 惠 Ļ 利 なさん 功 ば 人 勘 を私 勤 理 とせ 30 合體 間 有 者 V 21 者 71 委敷 家筋 叉云、 共 な 9 疑 す 4 抔 ず、 の道 と思 るも 忠をも盡すべけれ、 るに 有 は 云名 n 叉 人心を失 の有べ 賄 にあらず、 以 は は T 目 \$ T 勘定奉 利勘 後 T, 7. は 0 至 胳 進 役 る 12 き様なし、 本意 行、 卑劣ならず、 廉 V 人 也 耽 0 ふは 直 釣 か様 を りて 小 なさ 勘定人、 合、 立 凡 0 大損 下の 勝 利 役 77 も成 勤 諸 人 或 事 F 大損下手 な 然ば其役々に居て、 先 间 願 を は 役 5 也 易か 儉約 時 役 吟味役、 多 ~ 先 訴 岭 士 入 人 訟 0 只諸 と成 を取 奉 は 用 なる仕方歎くべし。 るべし、 味を入ては、 と吝嗇と能く知 統 行 奸 0 役 吟味 て、 持、 勘 押 曲 頭 人共に 人 は 者 なべて 吟味 の類、 の、 己 最 なき筈の 微 が勝 浸を. 細 人選を詳に 疑 依 役 功者なるものは、 士 12 せら U, り辨 都て勝手 怙 有 0 手 加 ては、 分立難し、 贔 物 そ へざる人品を撰 吟 取 屓 とし る ~, 味役を入るは、 そ 1 6 して命じ、 諸役 向役人は、 以 易の損益二卦 は 直 T, て、 す 叉吟 人意地 宜 夫 は 其器 吟味役に見出 4 か 廉 味 6 ひべ 0 直 其上 第一 役 21 ¥2 ならずと知 合惡く成て益 役 Ļ 諸役人の意地 當 迚も、 事 の道理を主とし、 人 は委せ 廉直 5 27 也、 私 ¥2 任 諸 にして され 欲深 B 去 ぜ 置 0 役 5 る ~ 7 いければ * 有 V2 向 程 L n を悪 苦く まじ、 様に、 私欲なく、 申 0 て、 12 付、 岭 事 くし、 諸 君 は 逸 味 聚飲を忠 能 譬 不 無 奸 < 役 の財 器 役 直 る U 曲 量 人主 或 小 義 君 0 皆 * は 實

槪 12 11. 云 は 聞 AJ 置 を T よ L 心 得 共 12 す 叉云 る 事 を悪くとも 直 に施 し行 定むべからず、 ふべきの 差 云に 别 は . B 君 云は 0 心 27 も心得 あ 6 目 有べし、 付 を 用 叉 场 3 聞 君 て聞捨に は 政 專

17

心を

用

W

3

君

なるべ

し

嫌 ば、 明 n 3 大 7 事 人 6 23 ば n 訴 小 は 狀 政 叉 命 心 か 濟 をさ 淵 17 士 奢 地 事 云、 事 魂 道 動 背するを、 L T 1 0 0 7 業 郡 致 有 0 は 得 8 樣 奉行、 す に荒 大筋 也。 喻 失 T 27 豫め す n 君 に懸 な 諸 仕 ば 家 T H n 郡代、 方 Ŀ 不忠とするものを撰むべし、 水 譯 8 願 る役 0 る 有べ 能 を を犯 旱の備を設け、 武 を辨て、 は 成を示 < 取 也、 弊 代官、 L 辨 L 3 風 惣て 扱 ^, 也、 代官以 寒か 不 し、 ムのみを云に非ず、 下を損じ 扶持 忠 地方 多く 憐愍 らず 不 又凶 下 役 義 渡の類、 の風を支配 有 暖 人は、 は、 の輩 じて上を盆 年 77 て悉く惠み懐 有、 殊 の役を示さしめ、國 過ざる 輕重 郡 17 農民 書を講 輕き役 中 して治 樣 各其 を司 は 共 却 に民を安んじ治るを主意とす、 は文盲にして、 21 (所を得) 人故、 け、 心 T り治る役なれば、 じ道を談ずる様 る役なるに、 上を を配 理 其 損 非 6 て安じ、 撰 の元 明 す 廉 る謂 み 6 義理 薄 を厚くするを忠勤 直 か 只 樂に < の事 21 21 を して 分限 年 して 知 に疎く、 貢 6 非 物 は れば治 諸 入 依 書 は 化 算 り易 能 帖 民 輕く 門氣 そ < 用 量 は からず、 共 治ると云は、公 地 必 餘 2 屓 るとは にし とし、 方 、其 なく ^ を り豐な 相 捌 少し出 任は重 應 き地 T 云難 悪をな るに 村 22 聚 賄 取 長 斂 理 胳 來 L し、 3 n 17 過 0 を

立、

勘定間違なく上納すれば、

勤の主意足るとして撰み、

又勤る者も其心得なるも数くべき事なり、

義 んは、 み、 3 付 4 量 n T 敷仁恵なり、 はざる事 たらば、 ば其 と申付侍 n 過 の者 制 鑿 12 ば 12 目を 何 は、 < す 12 は る 者 其 者 異 3 多 楚と知らせんは、 過 目 0 の害にならぬ事にして、 し、 逆にす 見 付 人間 非 B 目 は 得たる方を見立て召仕 るよし、 るをよしと云に 又大過 を 目 付 を早く見 は 加 惡 物 0 付 横 知らざる所 を大 の用 眼 目 へ教 言 る理にして、 大炊侯挨拶し玉ひし由也、 21 ぬ者、 横 には申付られまじ、 及で、重く刑せらるし程に至れば、其人一人に非ず、 に切た には立 導 にせまじら為 知 L て、 其鱠を今蠅が 非 立物とばか あれば、 注進する 其 ず、 るが、 す 眞直 候、 1 聞ては氣味も宜しからず、物じて人に 21 周 ふべし、 家中 は なり く聞 治らざる所 る様 なる眼代にて 天より受た 叱 り成 り戒 て能容 けがし侍る、 な の害に成る ヒソウ石、 酢や煎酒に虫の入たる事迄取上げ、 油 る 7 侍 斷 8 一通 て、 る徳 政事 る性 あ 祉 L 1 5 はなし、 不善 既に 誠の 奉公人あり、 3 は大炊侯の仰の如くなるべし、 はんめら抔、 の用をなし難かるべし、上は下へ遠ければ知 0 何事 此さし身には蚊 誠 ^ あらば、 也、 目 事 を長ぜざらしむ 途中 付 發 も早く知 是を にて L 7 も脇を見ずして、 施 西 候 左樣 態と入たるを見遁して居る様なる律 後 り玉 し行 から ^, 知 のス 8 T の者は、 此 疵のなきは稀なるも は、 る ふ所 ふに 物 大 たるを取 は 風俗を害するの 炊 後 は寛仁なるべ 如 か 其 げ 頭 毒石、は 悉く申達する様なる器 n くはなし、 人を て制 向 j 一家 り出 但し是を悪く ム斗 3 覗 中 大過に L りを見 して h 難 4 12 然迚察を好 Z 7 めうと同 L 抔 患あり、 陷 づめて見 0 人の不 、と申ち 機 也、 ると思 目 L 入間 を知 り玉 心得 付 申 C 3

昇

平

は 下 を倡 しき者なれ U, 自 ば、 分 0 功を立 頭 0 倡 薄 るに意なきものを撰 H in ば怠 6 易 びべし、 足輕、 長柄は戰場の業第一にて、 今日の勤又

く心 沼、道 て下 背ず、 を配 叉云、 、橋、柵、もがり等の普請 普請 能 下 武備癈欠なく、 を勵 奉 行、 し勤めしむべき者を撰 道奉 行、 廉直 にも要害の得失、 普請 27 して依怙贔屓なく、 小 奉 行、 びべ 諸 し。 守城防城の利害を辨へ、屛裏の 職 人 頭 は、 賄賂 陣 音物を貪ず、嚴にして下怠らず、 場奉 行 の本務に 通じ、 植木、 植繼等 平百 城 も油斷な 郭 寛にし 堀、

大身の 雅士 く思 誤 人 3 召 國 善 間 の家 叉云、 叉 の富 候 數 云、 悪 敷 ぞ、 12 格 21 of 堀田 目 貴と衰微になる事と、 加 就ても、 0 賢慮を を撰 付 は 役 加 格 横 5 州 17 目 むべし、 委敷、 承 家 侯 は 忠と不忠と、 大身に 正直 人も多く召抱候、 り度参り 武家 又或人 17 仰 して i 付 0 古實作 奉行役人の依怙贔屓有事と、扨は大欲無道の事 依怙 と尋 云、 られし頃、 功有と功無と、 武 鼠 られ 是に 法を辨 田 屓 信玄家 なく H 土井 付目付役、横 n ば 大炊頭 12 主人 海 身の守 も横目 大炊 士道 並 利勝 に権 目役等 侯答に、 の吟味 り端 あ 侯 5 臣 の家 IE. 0 ,可申 强きと吟味なきと、 其横 堅固 威を 各我 に行て、小 一付人品 目 21 憚らず、 等 して、 0 は 申 は、い 御 上 蔭 身 る品 能 主家 を 20 0 而已也と云へり。 く人 以 樣 我 々は の家 偖諸 T 等御 の善 0 人 格 家 方 柄 取 惡是 人の患と悦 舊 中 4 の者然べ 立 例、 にて、 饗 非 諸 應に を見 奉 及 び 公

なり侍る膳部のあざやかにして切目も正しく、

折節の初物も、

亭主の奔走無と思ふ所へ、勝手より

送 常 樣 Ļ 衣 21 有 をば 之、 6 にとの事 は 迎をもせしとなり 近 國 を 持参し 已前 勤 頃 郡 た は 0 我等身 でに付い 5 宁 より 7 護 御 手もみ た 士兩 上 詰 る 老中方 大 所 12 格合の衆中 21 名 人初て常上下を着せ取次役に命ぜらる、 した 方 面 若年寄衆 0 k 差置 家 る紙子着物に、 老 の玄關 T 事 用 寺社 人、 濟 でも、 た 重 奉行方の家老用人抔は、 3 黑き半襟をかけて着し 8 取次の者共に 明 役 曆 義 大 0 火 者 小小 た し前 りとも、 は、 夫より以前 0 事 肩衣を着 書夜共肩衣にて相 常 21 古き袴 P 々上 下を着り 淺野 は t 小 被 17 身の士 T 申 因 歷 候間 幡 すと云 々の 侯 勤 兩 御 此 家 儀 8 人 たり、 方 21 方 老 は T な 0 21 共 玄關 御 T を 其外 も左 出 怀 12 0 出 肩

者 公 を選 事 叉云、 訴 びべ 訟 0 宗門 理 非 明 奉 行、 21 裁斷すべくして、 家 に仍て寺社 奉 依怙贔屓 行 と云、 なく、 文學有 て寺社 賄賂を貪らず。 0) 訴 狀、 緣 神異不思議 起 抔 \$ 哨 0 得て意 怪 一說等 趣 に迷 8 會 は 得

賄 賂を受取 叉云、 す、 町奉 利を以て誘はれず、 行義理を辨へ、公事 憐愍有 訴訟 0 B 理 0 非明らかに裁斷し、 を選むべ 直にして依怙贔屓なく、 廉にして

憐愍有 H 權 叉云、 臣 0 T 威 組 27 足 下 推 を 惠 n 頭 み、 1 長 組 直 柄 下 77 奉 行、 0 L て依 者の筋違 中 間 怙 最 頭 を曲ず、 屓 義理 なく、 77 常に義理の心を育ひ、 廉 明 21 5 L かっ T 77 賄 して 胳 音 迷ず、士 物を貪ず、 一魂有 勇氣をそだて、 て組下 戰場 か の者 け 引 柔 0 本業 弱にならぬ様 得失を知 を勵まし、 5

昇

平

夜

話

下

篇

卷

2

DC

月二 12 兩 きに 入 る 七 中 此 0 0 人、 # 方 割 22 方 至 程 候 ケ 造 儀 Ti + 所 懸 屋 5 難 相 ^ 合 才 持 覺 * 致 = 0 敷 儀 違 别 日 直 究 寄 4 只 L 致 事 屋 虎 玉 0 L 四 參 返 今替 8 儀 21 合 敷 度 は 4 0) 日の 6 王 御 L 3 21 有 非 4 候 たる 翌朝 度と 之由 す 間 門 H 候 やより 世 は 比 金 3 3 向 度との 相 な 夫 21 日 御 とな 17 0 松平 至 3 21 T 那 大工 御 渡 事 手 少し 表 3 L 6 21 就 在 大 金子 人足 夫程 周 申 T 所 事 I 向 付 防 __ 候 多 賴 は t 12 0 侯 六百 の儀 り當 付、 共 兩 塀、 伸 不 母 0 時 間 日 相 21 人 L 留守居 4 打寄 \equiv 分 兩 は 那 渡 幕 宛 0 相 爱元 御 四 柄 V 候 事 としのへ、周 者 用 越 か 12 貸 + 故 事 な 云 6 程 より廻狀 其 L 間 H 共 付 入 た 30 返濟 21 るは 差 用 る所 倒 日 當家 且. 8 0 n 間 0 金子 候、 可成 人 仕 晚 周 防 我等 難 中 を以て、 方 足 るよし 防 を 長 侯 義 0 17 は 事 侯 大阪 の留守 者 は V 門守留守 共 21 12 の留守居言出し にて、 場をかい 0 及 年 かっ 候とて 急に を 儀 程 CK ^ さし登 左樣 居 取 候 成 周 共さし 0) 間 6 け 居 面 金森 防 方へ遺は せ 壁 中 0 談不申候 せ 侯 事 何 म を塗 侯部 とは 임 卒 L 越 其 申 H 所、 守 可成 樣 Ŀ L る 5 居 しけ 守 存 \$ 玉 表 て不い叶 は、 より か 居 奇ら 無之 仕 は 向 儀 わ る所、 0 各 廻 6 の儀 17 役 方へ 迚、 ず、 世 候 4 た 候 用 人を 樣 0 出 3 は 25 事有 大 打寄 何 其筋 金 事 12 \$ 玉 1. 相 晦 樣 子 は 有、 との 候 之間 6 受 H 0 金 役 5 得 負 儀 H. 度 其 儀 0 人 者 鉛 畫前 出 六百 後極 12 共 0 と申 に付 今 金 à 4 大 町 來 日

を選むべし 又 云 取 次 或書に今時諸大名 役 男 3 3 見 分、 の家 座 配 な、 0 善 晝夜上下を着し勤る輩は、常々肩衣抔と云て 悪 12 拘 は 6 ず、 辯 舌 明 6 か 21 L て、 假 名 造 U 能 輝て宜敷様に 記 憶 0 慥成

上 京 間 其 本 こと 間 27 守 25 由 L 歷 0 は 八家 侯 無 0 外 精 七 て、 居 罷 21 T T 外 寄 な 八 承 出 は 進 T 茶、 とも 御 3 也 內 な 會 n 人 主人と主 ^ は、 + 3 を ば 後 賴 藤 菜 指 或 豐 事 酒 欠 云べ k み 人 地 事 斗 當 夜 前 を 決 座 21 通 22 0 菓子 ば、 は は 內 敷 6 人 しとな 3 指 た 中 侯 L る御 T せ な t 0 其人を定 21 置 餘 程 廻 2 菜 E 間 仰 小 などを 廻 3 出 狀 3 る は 8 か 3 付 萬 奉 0 多さ ず、 申 必ず 手 公向 烈 大 6 12 常 和 書 賜 合 狹 偖 8 何 風 睦 精 T 戀 0 侯 主 3 せ は あ 載 21 敷 叉 K 差出 故 て、 其 或 間 6 世 人 淮 な 0 元 急 金 間 4 料 也、 物 3 常 頃 21 され 其 森 用 は 敷 4 理 す 人 0 5 21 よら、 ٤ 主人 翌 人茶 數 產 合氣候、 長 0 る L 出 21 多 朝 門 會等 け 物 聞 は B 0 金森 申 坊 < 其 組 3 献 侯 て、 4 寄 合 4 主 子 合 上 主 B 被 より 侯 夫を 就 松 せ 心 抔 人 會 細 あ 寄 仰 の留 夫、 或 な 得 は 0 事 は 3 會 平 付 右 用 な 方 名 は 周 等 3 21 次 守 私在 らず 其 御 防 多 入 寄 事 4 0 付 第 て、 會 內 居より、 侯 其 用 家 0 事 12 可 12 國 節 成 次第 日 7 21 家 あ 書 相 御 中 櫻 27 -寄 T 9 仙 來 事 御 勤 寄 城 は 田 は は 會 聞 共 石 呼 度 組 其 邊 各 寄 會 役 役 奉 越 0 云 家老 ٤ 合中 前 料 事 節 8 合 時 叉 書 21 别 せ 0 遭 侯 理 な 0 勤 せ 代 は 儀 間 留 聞 御 共 留 21 n 振 其 7 3 る 渡 の内 淺 守 事 守 ^ 外 B ば 舞 者 音 則 廻 野 組 居 と唱 等 居 な 虚 な 申 共 上 狀 譬 内 0 會 6 3 合 は 合 0 0 聞 な定定 壹人づく留守 せ 組 節 75 ^ 匠 組 8 如 U 12 合八 は、 T 侯 < 手 F 合 知 廻 達 昨 其 n 狀 程 前 屋 8 は L 夜 凌 人有 ざる 等 汁三 後 家 敷 0 0 野 精 其 侯 中 B 魚 長 大 中 御 世 菜 屋 家 0 因 右 鳥 屋 方 0 進 居役 風 侍 潚 丹 間 寄 住 は 敷 幡 0 日 0 21 侯 沙 會 內 其 は 順 悦 17 類 12 居 向 11 寄 2 T 以 左 汰 仲 7 7 中 留 番 0 0

ば、 付 侮 0 B 順、 置 6 有 輕 其 21 或 當 8 任 h 有べ 7 12 は 時 3 女 堪 F. けれ 樣 た 寄 武 な 5 3 0 引 共 n 達 2 L ば 人 せ 少し骨 李 主 抔 \$ 人の に拘 あ 5. 相 ケ間 威 組 るべ 光 其 0 迄 か 敷 A 諸 らず。 事 輕 士 4 一く成 有 21 0 ば濟 は、 E 5 25 AD 立 先 治世 事 て、 祖 歷 成べし、 12 恥 4 は 0 る 少し 家 事 なき 能其才器を撰て命ずべし、 柄 應ぜ B 者 あ ざる 6 21 非 分は 功 n は 名 應 武 主 人 ぜず 功 の家 0 威 光 諸 E 家 25 あ 士 筋叉は役移 T 服 5 兎 從 高 8 せ 寸 献 角 8 L なる 6 押

と云 3 留 役 6 AD. は 0 侮 ず、 家 聞 守 事 0 惣て 受 居 叉云 初 合 B 17 0 をし 權 拔 3 先 0 7 たるは、 家 格 初 主 适 目 留 て、 家 8 6 家 あ 0 公儀 以 守 古 た 0 0 n 勤を以 古實、 ば 居 X る 恥 7 台德院御代、 砌 役 より 勤 2 6. 主家 は、 付 るも な 作 御 届 T る 主人 勤 0 け、 構 或 法 のなれば、 落 なき 侯 和 21 8 玉 公邊、 拔 家 L 委 度 薩州中 目 の家 T L 21 ふ事なり、 事なりとて、 不 無 かい 成 老、 世 らざ 他 3 固 事 將殿被申 爲 勤 0 方 あ 圣 主 心 n 0 21 5 聞 當家 ばっ 權 人 得 勤 ~ 合せ、 應 門 あ 向 留 能 を司 17 申 3 せ 上は、 役 守 主 T 3 と云 H B 居 家 時 B 3 25 0 5 役 0 留守 任 者 12 は、 22 せ な 家 私 ず、 迄 逢 非 ずる役に 力 格 0 居役命 世 出 ふ様 n りしとぞ、 領地は遠國故、 ば、 上 來 叉 先 他 た 12 21 例 ぜら て、 て留 方 5 勤 程 を 類 3 能 穿鑿し、 主家 守 世 12 \$ 役 れて可、然と云、 後には 及ず、 縺 所 居役と云もの、 0 を 付 0 0 御當地 得べ 首尾 大 合 留 公邊、 家格 成 8 守 からず 者 あ 取 居 の儀、 結ぶ 也 n 他 役 舊 主 ば 斗 方 或 例 君 初 de 數 3 0 仰 昔留 書 を は 和 9 ば 21 多 21 77 公 格 な 21 一日數 留 邊他 守 流 時 例 n 1 守 B 12 大 居 n * ば、 名 を 方 役 居 足 逢 ば 知

頭 常 0 5 5 役を命ぜらるい時 k 自 叉治世 練 其 分の り習 場にて見せ付 具足、 は に亂を忘れ せ、 僕從の 其家 は、 る族 の旗圓 ざるは武家 釆配 合印、 も有べし、 を賜 居等も 進退 る家もありと云。 0 の釆配等も示し置べし、今世にも家風に寄、 如此 繪圖 道 也 なれば君の爲にならず、 を以て知らしめ、 組下の人馬、 兵具、 組頭の 不足なき様 又身の爲にもならず、 役印、 母: 21 衣、 調 ~ 指物 采配を発さるし 置 戰 責任 場 心 働 に背くな 0 0 ED 次第 以上 組 \$

家 まり悪く、 佐 令 する たりとも、 0 叉云 親 戚、 21 非 用 是等の品 故 n 人は よか 舊 ば 0 會 らず 君 任 の旨 か、 釋、 17 る事 堪 能好 能其任に叶ふべき者を撰べ た を受て は、 りとせず みを合 述べ 其 儘 せ 21 傳る者なり、 受け 司 且 3 傳 次 所 廣 面 ~ の惣司 < 其 只 בל し らず、 受傳 任 なれば、 重 し、 るのみにてよしとするに足らず、 叉君 公邊他 言語浮 主 0 方 心付なき事 躁、 の懸 動作輕卒 合 拔 目 8 な にて 心を < 君 は、 命 添 8 縦 T 次向 君 辱 ひ君の命 徳を輔 ず、 のし 君

委く 0 0 差續き重き役 耻 勤 叉云、 士魂 とな 役 有 なり、 る 番 て、 也、 頭 武 譽と 家 家 諸侯 士 臣 風に仍て組子支配するとあり、 0 な 0 大方治世 勤 本 る る事 B 務 12 は 番 0 達 勤 頭 大 L 方番 は、 0 善 諸 悪 御 坝 士 門、 取 21 0 t て勤 義氣を養ひ勵し、 勤 3 番、 るな 事 爰には組付の番 あ 諸 5 5 警 武 善 衞 家 政 出 の古 21 常 火 て公邊他 々相組中 防ぎ、 實、 頭を云、 作 御普請 法 行 の賢愚、 及 諸士の筆頭に立て、 方 び、 へも懸合役なれば、 助 主家 役 長 抔に 短 0 を 古 て、 知 格、 大方家 るに 先 組 非 例に 主家 頭に n 臣

昇

平

夜

話

F

篇

卷

之

四

t た 間 Y2 筋 者 しと云 3 事 道 民 は貴 共、 若主 を 安供 目 あ 0 當 賤 6 上 辨 を好 はなし、 道 な 21 高 人才を長 4 ざれ 不 不 立 下 べで文武 知者 故 學 者 0 0 ば なれば、 差別なく、 仍 は 萬 者 す T 决 は、 君 の勵 るに意あらば世 當 學 T の爲 = 任じ 譬ば み疎 問 るは 民 0 と思 人の 難き事 事 L 幸 星 0 lit にて なら T 師 人 生れ 毎 す 表 た 度云 秤を る事 る道 話 也 皆迯るし也、 た る の仕 0 事 此 持 也、 を學ぶ 儘 0 なれば を略 以下諸役人、 て、 却 方はいくらも有べし、 足ら T 事なれ 物 君 され ざれ 0 0 爲 譬 輕 ば土 ば、 ば 21 重 へ生質勇也と云 皆學問は本にして、 長 そ ならず、 臣 不學 計 と云べ とし 6 21 只出· て國 目 下 からず、 して叶 の爲 な 4 へ共、 政 來次第、 と思 21 曲 は 8 殊 VC. 尺 何れの役か道 を以 預 に諸 は 道 ふてす 成 勿 る者 0 論 T 役 規 行次第なれ は、 る事 也、 人 矩 長 は 21 中 他 短 下 學 迯 を知ずして 0 * 0 問 21 る ば大禄 才 計 爲 人也、 \$ 能 3 T 士: 21 は から なら 義 は、 秀 理 如 0

とすべ を始 は 玄 賂 命が 知 を 好 3 叉云、 し、 ず、 けの場に至て、 從 能 憐愍深 治 組 者 士、 平 は 頭、 吹 足 0 今 舉 < 輕、 家 i B L 風 助け救ひ合も義理一べんの事にて深く賴むに足らず、 は 中 1 12 互 人の 仍て、 恶 間 12 4 頭 賴 爲 8 17 合 77 家老 0 至 忠な 命 は 芝 为 教 の騎 け 道 る 其 8 程 し、 撰 士 0 0 を預 み _ 事 * 大 無故、 己の 撰 概 るも 1 相 Ļ 功を 似 あ 組 5. た 常 下 立 3 ず、 12 番 0 間 組 IE 頭 甚 組 下 直 0 だ F 0 21 預 より 者 疎遠也、 るも L を T 懷 用 依 あ 立 H 怙 5 常に厚く 叉中には日頃 者を多く仕 親 最 凡 み、 屓 なく、 組 人 頭 一懇意を た 4 立 寡 0 る者は、 長 欲 の疎遠を憤 出 結ずして す 短 12 を忠 と善惡 L T 騎 賄 勤 士

養 家祿 尤 Ļ なて ば 其 時 得 是 人 7 CL 21 \$ 者 は 21 を n は 家格 治世 なけ ば、 の内を 倍 輔 叉 當 加 有 致 其家 ~ 共 仕 諸 8 佐 加 7 けれ 家 n す 給 0 家 は 禄 才 物として長ぜざるはなく、 ば 才器 るか 器有 損と云べし、 殘 倍 筋 筋 L は 共 7. 吹 Ŧi. 共 L \$ 0 T 12 學す 大方 家 外 與 る者 加 軒ならでは無と云様にては、寝 次第老臣となり、 老 長ぜざい 筋 家 病 當ら 献 臣 老とな 21 とし、 を家 は家 死 6 L る所 T T L 82 る 年若、 但し家筋代々を以て命ぜらるく共、 老 る 筋 中老とな 2 者も又多 0 才器 事 し 12 極 諸 B 命 て、 家 は 役人 有べ 叉 難 督 せ 有 無 5 か 代 は 義 其余は輕き所に仕はる、 n し、 0 べからず、 其器に非ず、 々其家 養を失 るべ 才 掟 ば 時 n 其 の家 輕く L 器なき は 如此ならば、 し、 家 ならば 禄 仕 家祿 滁 筋 ^ 少き者 ば消せざるはなし、 家筋と斗 の者 一代 B は 去 侯家 0 て居ても家老に成と云心にて、 3, 何を以 0 限 中 は 分を減 ^ 譬ば 斗 は 21 21 老となり共、 人才を用ゆるに 多 6 6 て家 用 T て其 1 は、 極 5 老 じて 督 依 りて n 臣 加 命ぜらるいと見へたり、 國 才器 家 共 て才器を爭ひ磨と云へ 禄 ずとならば Fi. 政 は、 老 本 を 人 を 本 の有無 名目を付 與 主 知 * の定 知 輔 才器を磨 25 勤 君 ^ 17 不自由なく 佐 返 長 る 3 返 せん、 は主 す 家 家 臣 なれ L ~ 才器 て、 老 筋 の才器を長 君 L 職 8 0 ば 才器 其 妨げ害する 者數 の心に 才器 を磨 相 勵 右 國家 子 各 應 T の家 5 叉 幸に 别 < 有 0 0 軒 多 相 0 事 励み ず あ 滁 0 0 者 有 爲 筋 を幾 老臣 6, **义**鮮 其器 勤 を 應 る 21 T は 勵 なし に盆あるべ 功 0 25 な 21 --るべ 人も みな 荷も養を に當 有 U. Ŧi. 才 L 其 心 軒 有 者 人 器 內 玉 學用 るべ 有 れる は、 本 あ 家 有 1

出 玉 内には、 せざる者は、 論孟 學問に入 0 重き役命ぜられざると、 講 釋一通 る人も多か り聞 畢らざる者 るべし。 其法同じくは自ら學問繁昌なるべし、 は、 重き役命ぜらるまじき旨、 兼て中間置 いやながらも講書を n ば III 然か、江

ずべ す 3 き者は、 役 又 ^ • \$ 云、 な 能 人を知 Ĺ 役 人を撰 集て是を記し、輕き役にも準知難き者は 役 々の て、 事 主意 其長ずる 第 は人を知るに 才器 所 の當 を知 7. 否枚擧すべ あり、 夫 相 應 第二には役 からず、 0 所 ^ 學で記す事左のごとし。 用 輕 U 々の主意を知 玉 重 一人故、 異也と云 用 へ共、 U るにあり られ 類 ざる人もな L 名君 て知り、 は < 役 概して論 4 の主意 **空**敷 際

み、 也、 ら顋 諸侯 に非れば、 賞罰 の心得 民具 叉云、 は L ば能 12 以 12 下へ 己が 家老 爾瞻 乳徳を賊へ、政事を害す、恐るべし、尤其人を選ばずんば有べからず、職也、然るに後世 付 に近きもの也、其任 T く人を知 對 所なれば、 最 功を立るに は攝政百官をすべ司る、家亭の小き者なれば、文武 L 屓 T 偏 禮 て、 頗 儀 なく、 意有 人に侮 能き人を多く進 厚を善とすべし、 べからず、 の大なるもの擧て云はど、君徳を補 賄賂を食らず、 り輕んぜらるく 衆人 8 老臣 舉 て、 士魂 の才智を學げ用 所有では職分立ず、任大にして其責重し、 の動作は、 政治 有 て本 の輔 務 皆諸士以下の手本となる。 佐 77 たらし ひて 達し 用立 CI の才徳、兼備すんば有べからず、 T 欲寡く・ 國政 る事 3 肝 を の多く出 要なり、 輔るを以 奢ず、 來 己がオ 言 赫 る て主 語 4 は 若 容 72 老 意とすべ 智を専 し其人 る師 貌 臣 を慎 の功 尹

ず、 又云、 10 ると不」用と、聽と不」聽とにして然なりと云へり、又云、王者は人を求るに勞して賢を得るに 百里奚は虞に居て虞亡び秦に行て秦覇たり、虞に於ては愚にして、秦に於ては智有るに非

唐 の太宗日、 數百萬錢貫の籍を得んより、一賢才を得に如ずと、古今の名言なりとぞ。 任ず。

有ば 君子と稱すべ 才は得易く、徳は得難し、才有ても徳なければ君子と稱するに足らず、才無と云へども徳 Ļ 徳は元なれば也、徳なくして只時の勢に乗ずるのみなるものは、**榮達を得** て保

つ事

を得ず、

孟子曰、苟爲、無、本、七八月之間、

雨集溝繪皆盈、其涸也可立

而

待也

5 が爲に非ず、 又云、 人才をなす事 國 其才器の當否の撰なく、 0 能 は、 治 る事 教を立 は、 て導に 諸役 人能其役々 あり 手寄手引を以て、其器に當らぬ人に命ずるが故 後世役 を治 たかの るに 能治らざるは、人才 あ 5 諸役人の 能 役 の古 々を治るは、 21 劣 6 た な 能 る故 人を撰にあ 人才無

也、 長 を知ずして 下なるもの た 叉云、 るべ 主 4 能 是を侮 官長たるものは才徳なくては、政に從以人の上に立難し、若才徳なくして人の上 者 勵し玉 く是を勵 は 大身の者也、 り輕ず、下悔 はざる L 勤め も又罪 しめ玉ふべし、官長 大身 あり、 り輕んずれば の者は立 大身の者は重き役をも命ぜらるべき者なれば、 安富 の家 君 たるべき者、 の命令行はれず、 に生れ、 學問 才德 藝能 の勵みなけ を勤 才徳を長ずる道は學問に るに n 挑 ば其 兼て 罪 殊 大 大 に學問を勵し 也 方 は 君主 77 無學 あり、官 立ば、 其怠

昇

平

夜

話

下

篇卷

之

四

猶難 25 L 人 されば賢者 る者なれ 進まず、 同 能 は 人も 必ず勢に しとす、學 ば 賢を尊ぶの道にも非ず、譬ひ 能さ人をは能會釋し、賤きをも貴ぎに踰しめ、踈きをも親しきに踰しむるに非ずしては善類 惡人も差別なく押へて、平等に仕へば、 の用 去ら 乗てほ て委任するを猶 を見る事なく、 ぬ様 20 に常々厚く會釋 高 ぶり、 難しとす、 學ざるに均 害を生ず し、 一旦擧用ゆる共、 賢を知ると云へ共、 委任せらるべし、賢を知る事素 L る也、 き也 善人も進まず、不善人も恐れず、賢不肖を知らざる 然ば能きも悪きも 若し禮貌衰 擧げざれば不、知にひとし へんとすれば、君子は機 出 頭 より なきに如ずと云は 難 し、 知て學 聖 T げ んか を見て去 委任せ 用るを 但

られ 12 然を思召仰られ、御誤被遊されたるとの上意故、御尤の御儀と申上候由也しとぞ。 3 0 奉 前 趣、御 5 京 出玉 又云、 召されたる節、 n 都 受の 此 候 21 ひし時、御誤り被、遊候、 板倉 上は奉、畏と御受ありしとぞ、時に酒井讃岐侯も御前を罷立、御次にて周防侯へ向 儀、 被 次第 "差置 是は 周防 、何とも心得難しと宣ひしかば、 一候事 周防侯所司代御免の願あり、上にも御笑なされ、是へ呼べと上意有りし 侯 御 京都 自 21 身所司 御 所司代 座候得ば、 代職御勤候と申 0 堪忍して可、勤との上意なり、周防侯難、有とは申上ず、御尤成御事に 時 某幸江 關 東 ^ 戶 出 8 12 玉し内に、 周防侯仰に、 のに候 龍在 一候に、 へば、 飛鳥井大 某儀作、恐禁裏の守獲、 某御 此度飛鳥井召させられ 役無用の事 納言殿を被 に存じ、 用 に付、 候 西國 御訴 に、 老中 迄の 訟申上候、 御 かば ひ、上意 直 御 被召 仰付 名代 御

参な 迄 被 諸 付 度 AJ 2 故 は 如如 役 な 心 候 V 州 n 20 伺 得 3 人帶 12 斯 何 難 申 ばと申されし ~ 3 10 へ被為 0 故、 3 御 事 刀 差 ~ 事 座 12 前 彼 某 圖 す 21 有 候 へ出 方へ 成 存 \$ n 思 ~ 得 に付 なく、 ば野 12 < 能越、 N 共 此 は を至 H 哉 一安藤 義 ___ 明と心得、 n と申 役 如斯 其役 度 共、 極 人 右上 0 帶 中 のてとに 候 伺 押し 人 仕 被 D, 得 一意の趣申候へば 退て 悪くば御 り可」然やと何へば、心に叶へたる事はうなづき、 共、 伺 諸役人へ 何事 返 候筋 义出 思以、 加计 L 云難 刀 も善にすることなく出候、 指圖 る跡を皆伺 被 御 諸 某帶刀分別 く默し居 申 心 致され 事 候 12 尤成 可申 は 14 候は る上意也、毎日参らるべくと申 ても、氣に入らねば幾度も何 ければ、 付 申 我等 っさず義 間 を潤色して御用 70 - 5 4 は 頓 御 指 帶刀申 は 7 用 圖 思 死 0 辨 たとへば一 申 の方 樣 召 さる 候、 0 子 を辨じ候と物語り有 其方 通 は は、 紀 か 5 1 毎 どり 此 期不 此 殿 日 力 0) 直し ^ 可然事 叶ず事 參 よ 御 切に 方 候故 6 5 よ 人 に出出 見 御 * T 6 習 差 能 拵 指 也と思 は悪くと斗り し、合點被 罷 候樣 圖 らし き役 圖 申 越 被 との L 見 21 人出 成 CI. T 候 被仰 は 挨 候 成 來 拶 7 推 V

人 人 4 叉云、 徒黨を結 计 15 n 3 ば 人を平 諸 失 ふな 人 騷 服 動 せず 等 3. す 12 3 叉出 使 34 北 は 能 あ 頭 害 6 き事 人能き人 有 21 但し誠に能き人なれば、 也、 於 1 各別 12 は 忠 ても、 0 士 出 は 妡 頭 身 を 孙 人有ば必 嫉 捨 T 7 は 是を す 君意を得たり迚、 凡 姤 情 み 去 通 嫉 病 6 退 み な 5 礼 有 て、 ば 餘 諺 勢 そ 八 所 53 構 女 12 乗り 見て 間 ^ 敷 是 驕 は of 居 を 0 る事なし、 退 h 然は 其出 ٤ 小 小 惜 頭

5

貋.

平

夜

話

T

篇

卷

之

四

27 21 樣 重 往 眼 0 とて L あ 衰微 心 右 な 0 來 7 21 5 道 の公卿、 置 も見 0 典 す 事 配 如 些 れし、 行 諸 る中 く成 は 有 あげ 士 諸 v 日を考 の能 にも やが 精 其代 役 堪 奉 心 を 得 人の 能 ると す 6. 有 0 懸ずして には公家門跡 へて遊庭に参じ見物し、 文は る所に非 役 挨拶 ~ 人参らるれば、富士 當世 し、 々其 一人衰 して、 家中 文武 は、 事 がず、油 21 精を出 ふる也、絶たるを繼さ、廢たるを起 次第 共に知らでも濟事、 大勢の事 义二枚共にたて封じ、 方和歌能書も多かりし、 斷 に衰 有べ し、 る な 隅 功者 から n 絃歌 は必然なり、 田 ば 川 ず。 を聴聞 12 構ずさし置 物じての紀行 なる様にとならば、 難儀するは損と心得る世間なれば、 花押を替て月付日付迄、念を入て堂上方と礼 せられける故、 治平 又蹴 久しければ、 T 鞠管絃の道を家業の公家 も相 を尋問 應に 君主 は 他事なく家業を嗜れ 衰たるを盛にするは、 すべ n 骨折 を けるとぞ、 しと了 は じめ 難 儀 簡 を嫌ひ、 家老 武家 L ~ 文武 て、 は、 37 有 21 共 氣 E 必ず 於 司 其 21 0 12 又關東 た T 任 次 詰 文 るも も文 館 君 第 る 8 55

るべ あ 22 B 90 し、 叉云、 能 < 甪 の家 堀 场 n 左 ば餘 12 久督 餘 の家 3 6 8 ものなく・ のと云 12 啼 は、 顏 の武 悪く用ゆれば用ゆべら人なし、只能人を知て得たる所を用ゆるに 無き 士を B 扶持 のと申されしとぞ、 す、 人 4 無用 0 昔楠 者と云、左久督 IE 成 の泣男 云く、 0 跡 * 弔 追 n 12 造 L 12 す P 22 は 實 勝

大炊候物語りに、 某末御側相勤居たる時、 紀州家形へ始て御成被仰出ける節、 上意に、

目を らずと云へ共、何ぞ勝れたる取所有て、一方の助けと成べき者、 をさせても、あぶなげもなき者を第一重寳の侍と云、 かけて仕 よ如くせざれば、成の急成時、
 もの也とぞ。 用は足らぬものと、 次に能を遣ふと云は、其身の心立、さの 爱の所能く分別して、人々の本とす 時に當て大きに益ある者 あり、 み宜か

る所を見

屆、人を遺

ふ様にする

干 千 手を合され、 云ぞと御 福 福 か 丸 叉云 素 は 性は 幼 尋あり、 紀 小 天を御拜有之、扨々我冥加に叶ひ、 一手 州 21 T 家 の大將 0 あ 何れも千福生れ付能一廉の用に立べき者と、 安藤 5 しが、 にも成 飛驒 守 漸 く成長 5 直 治 國家 は、 して御仕置 **父帶刀** 0 仕置をも に替らず名臣也しに、不幸にして早く病死致し、 千福左様に生立ば、我仕合哉と御喜悦少からざりし を見習へ候へと有ける砌 旭 父 0 跡 沙汰仕 を 可繼者 ると申 と世 5 j: 上 御近 げ 71 T る 沙 習 其 汰 0 時 面 するが、 々を 賴宣 召 何と 卵御

切て、 ぞ用向 詩 る 歌 叉云、 能 花の 今年申受られ 21 書 T 0 あ 板倉周防侯、 周 沙 した、月 防 冰有 侯 の亭 候方 たると見比べて、 0 へは、 夕、歌御 京都 御人 必ず 來 所司代の節、 會の詠草抔 0 時, 色紙短冊 彼前 御歌の姿と申、 も必ず斯 方書き玉 公家門跡は、 を所望有 の如く、 は て、 御手跡と申、 3 文學を專らに嗜まる、樣とこそ思はれけん、 た 扨上包を封て、 る色紙 次の年も又所望ありて申受置、其 短冊等 去年よりも殊に宜敷様 月日 取 り出 肉印をして、深 され 目 0 前 公家 く收 21 叶は T 封 衆 V2 * 何

昇

平

夜

話

下

篇 卷之

四

主 12 ば 悪 者 8 扱 j, B T か 1 しき所有 3 3 0 ふて 能 共 行 しと宣 先 用 良 世 家 分 と力 3 25 畢 叉 づ 臣 間 老 别 3 て、 竟 21 - 7 埓 其 を 危 U E 立 忠 無 の多く集 也 何 ると見 合 ふかか 外 志 意 臣 事 0 を明る様 しとなり、 然も智恵才覺を兼たるものあり、ケ様のものを目懸けていかにも取立、家の仕置國の政 乘 持 役 * 51 と名 21 12 せ 造 人 して幾 物 T 續 らず、 12 添 7. 0 も立 ふと ^ を 0 社 L 方とて、 主 た 跡 呼 T にするは出 脇よ 又或 と成 必ず正しく奉行役人を撰びすへ、 先に 云 3 るし 世 或 は ぬ氣 家 も續 は v 程 能六尺の多く付て、 か 5 幾 人へ 2 此 を 量と云べ 其 家 ソと思 見 向 0 く道 保 人も は、 身 來 * B つ事 7 頭 生 多 のは、 跡 するものし大成 * 能 理 n 遭 なれ 危 Ļ 先 敎 < なり、國家 3 付 心 臣 力 21 訓 3 律 77 得 我 下 らず、 立 子 21 他 功を は 派 細 義 T 我 人を雑 9 獨 江 は 12 T いか様 我 其 社 ら出 L 戶 立 0 乘 0 す 心 政 25 T ~ 如 物 る病なり、 して 切所 に付 主 得 歸 へず、 劣 < 頭 17 0 T 0 5 天 乘 して、 あ 爲を大 傍輩 何事 山 6 は 者 V2 F 嶮 行 阪 我一 相 國 12 0 難 左樣 萬端 其 同 實 de 8 談 家 長 0 凌ぎ長 人し 切 者 役 內 打 相 を 旅 力も は人より 保 の用向 12 0) 共 より 手 8 わ の心入りの者 志を造 て主 存じ、 りて 2 と云 脊 心 談じ 賢 幾 易く B 旅をも行 他人へ 外 良 相 0 人 は 揃 傍輩 相手 B ふと 聞 0 21 談 形 乘 たる六尺 せよ 者 は 評 撰 られ 0 なし、 * 如 は、 21 にならんと思 CK 如 懸ず、一 定をし 對 と上 見 て官 能 < た L を遺 立 重 3 は 何 我 て仕 天下 禄 意 T 依 荷 多 程 有 を 儘 ふとの二つな 1 跡 也 0 才 人して事 幾 異 なく 置 與 也 覺發 或 先二人して H 或 3 家 ふは ひ置 重 人 譬ば ると云 2 3 本 を治 荷 明 とな すれ 進 朝 散 にて を取 を 其 1 共 3 獨 乘 4

ことの と思 2 有と 様に 道 左 の元 ば 甚 何 0 0 て敗亡に 樣 事 多 しき 專 戰場 方に 志深 聞 0 叉上 にし 氣 は 事 事 如く尋 ては 欠 には ものな な 1. は き士 てうか 常々氣を付 意に、 至も るも 5 ぬ物 2 毫 は 諸 敗 厘 は、 何卒取出 知 る時は、 茍 夫 士 也 軍 難かるべきに非ず、 も智慧才覺有まじきと見下す、 らで、 12 と聞 家司 も儉に 0 只 家 諸 1 明 治 士の心 寳 老 たで から、 心に懸て尋 自 は勇を取立てするこそよけれ、 國 の内 重き役 云聞するを職とするもの也、 して して我に見せんと思べし、 又 77 0 は 事 悪く成て權家 は 權 義を守 の實とは人に止めたる也、是は我常 きた 只今の様 家中分れ も分別せざる奢 を云 柄 求て社 0 なく 付置しは、 向後、 る心無 人 42 なる返答をばするぞかし、 成て 、君の爲を思ふとは云べ 路追 17 媚治 汝も爱に るべし、 にして恨る人多し、 恥を知らず、 從 ものは、 我目 此 をよしとせん 世 0 ¥2 夫は 1 鏡達 然ば 故 心を付て大切 者ぞか 何れに付ても存知せずと云て偖やむべき事かわ、 12 T 諸人の頭を押へ、自己の 分別智慧は、 たるにてこそあれ、 人の元 いか様の名物 鼻先曲ても鼻さへ出なばと思ふ様に成行 へ遠し、 し、 されば麾下の士 主君は能家 氣失せて けれ 左 扨汝が元へ出入する者斗り立身す 々に口癖 0 樣 皆家老大身上臣のみ有て 下へ遠ければ親 事と覺 な にても るる中 刀脇 死する如く、 司を撰 の様 ざし 悟致候 12 あれ、 能く思ふて見候 能き人有べ 一恥を知 一威を付 21 、茶道 云事 み、 ^ 國 みなし、 と上 6 なれ 家 家 具 國 んとす 司 家 0 0 L 意 義 共、 用 類 は家中を撰ぶ 0) へ、都 あ る 21 親みなけれ 元氣衰 を守は國家 21 其 其を 名 5 文 夫より下 は 埋 す 物 不 付 n る事 餘 埋 て武 忠の て順 ると 12 所 無

昇

75

夜

變ず 風 陸 儀 屈 22 尺、 儀 12 か を以て、 3 合 け、 27 譜 鑓持 せ て、 荷もせざる者 は 代 事を 至 者 る 草 事 ^ まじ、 移 履 を 取 3 取 取 9 T 捌 6 り行ふ故 家 は、 < 類 輕薄 風 を 12 埓 至 0 變ず 無 3 0 利 明 賴 迄 家 發 る者 0 21 0 ぬと成 家 譜 古 て能切 は 風 代 格、 は變 君 者 7 るし 主 先 は 皆 す 0 用 例 る を 役 心 N かろはづみ 配 也 難 廢 人と稱し、 し迚、 L 6 薄 但 4 L 新 主 な 渡 の危 家 君 能 50 6 0 き風儀 分別 奉 風 此 公人 儀となり、 所 にても首を傾 を用 にな 17 厚く る也、 N らる 心 且 又 を 配 先 1 加之ず、 け思案し、 6 故 供 玉 從 は 自 士、 7. 然と渡 諸 事時 事を 押足 家 大事 の風 者 風 0 を

役 4 12 躁 人を 主 叉云、 < 意備 撰 21 諸 りた 3 は TH 役 知 知 る者に非ず、 人 り玉べ 神 事 文前 也 き事 書と 然共 云物 也 叉諸 其 は 役方の大禁令 事 役人も神 少な 3 世 文する時、 はあ 27 6 簡 易 今 な 旦讀 は る 掟一 25 斗 簡 通りに りに を 以 て記憶せず、 T 成 定 T 8 主 た 君 る は B 記 知 0 なれ り玉 憶 せ はず、 ば、 ざれば守 其 共 役

諸 中 人 V2 75 柄 t 士 0 L 叉 V נל 善 御 云 日頃隊 悪を 7. V ぞ 東 5 ٤ 照 必 ~ も並に超て、人に知られの程の身にも非ず、 す 申 御 宫 L. せ 尋 0 ば B 御 あ 知べ 時 5 御 L き職 氣 21 色代 役 其 人 25 欠 do 9 人 1 72 あ は 麾下 らぬ 兼 る 事 T 某 有 12 0 多き諸 分 5 知ら L 方 に、 ~ 士 出 AT. そ 或 を 人 老 致 答 不及 臣 8 候 夫に汝は第一群臣の 21 ば は 我解 其人 ね 何 は 某 柄 事 を代 た を V るべ 知 かっ 3 n 樣 L と云 42 0 被 人 善 件 物 仰 は 悪を見聞置て、 付 1. 25 0 ~ 者 我 T は麾 きと思 儘 候 也、 哉 下 存じ 人多さ 叉は汝 召、 候 我 其 は

ば、 F 人 57 0 君油 才器を働 拘 は 斷なく大綱を提げ、 りて す様 才器 に遣ふべ を用 られざれば、 L 時 功者に成様 4 其 役 才器 筋の 有役人力 事 に仕へば功者に成り、 で専問 なし、 試 玉 又其役 へば、 役人 に功者なる役人あらん事 精動する様に遣へば精動せざる者な 、功者 に成成 7 油斷 な し、 を欲 役 A すとなら を B 役

然らざるもの

は

其罪君

に歸するなり。

宛 るべ ては、 付 下 人 23 3 8 7 0 别 行 Ļ 撰 なら 賴 0 段 0 諸 物 有 役 方精しからざるの失は、 に賜物有 金 然ら べし 人、 かなるもの 入を償ひ難、 ば を 云 うざれば 其 かっ 私、 べし、 Ŀ け、 廉 曲 21 直 なか 人に罪 も續 役料、 後に ならざれば、 自 勝 らん事を欲とならば、 一分質に 手 き難か は 役扶 せら 差閊なけれ 君 0 るべ も至べし、 持等 n 君に有と云へ共、 物 引 足る L 刑 0 負 事を不 ば不義の財寳貪るに 賜 12 12 責 陷る 有 B 是君の答なり、 て勤 1. 至 L 不一仁 也、 第一 知 役に勞する L 若し て、 廉直 役 輕重に隨 恵の 人 は 不 又一統半知宛行ならば、 の士を撰びて用べし、 事 役に 義の なり。 叉出 替 て答あるべし、 は至るまじ、 らい 付て 米金 ては勤役に勞し、入ては貧苦に責 は、 0 を貪る、 物 勝手向 入もあ 若 し其 或は 又別段の賜なければ、 次には役米 成 n ば Ŀ 役 賄 共心易き様 21 人 賂 譬ば 8 は に耽 私 本 5. 曲 家 知 宛 中 役料 になし あらば、 叉 行 _ と云様 等の賜 統 は 役に られ 支配 玉 本 其 は 知

す 其他 叉云 0 諸 諸 侯 役 A 方 B. 0 家 \$ 風 0 づ 御 役家 分 ら勤 12 な 向繁多に成て、 n ば 變 し喪ふ、 事を錬 其故 ら鍛 V かん 3 いても間も合 となれば 其 V2 故 役 懸 頓智 6 0 者 に鼻先の利 は 云 17 及

昇

平

夜

話

T

篇

卷

之

ばず て、 L 0 27 事 n 渴 足 家 寒暑 無 B は 學 有 あら も有 追 老 主人より是を付置、 まじ、 從 無 剩 其 召 0 の苦を知らず、 ねば、 無學 能 す 方 隙 親 任 ~ L は る へ往來 あ 小者 なる者も其 荷 無 B る 人 不審 も育 或諸 能 君 0 儘 も相 するを 21 17 と有 21 8 を加 21 な 遊 應 侯 藝遊 叉 る謂 思しに、 の長臣に、 故 通り育ちなる故、 身安樂に育故、 21 ふれ 教 規 有ば、 答 訓 模 執 典 n 有 ば、 を委 也、 事 0 12 25 後に 非 家 樣 耽 幼少より 然共 代 長 ね 老 す 21 5 ぜざ 聞 Po 玉 々才器有 0 思 少し 一ふ事代 ける事 無賴 人 子 U, 君誠 るも 共 子 家 弟 叉 8 は 0 來 難能 0 々の あり、 21 は に學 と世に稱す 小人を集 共 なし、 長 3 最 21 先 問、 臣 屓 の勤 9 かしづかれ、 彼長 及 づか 吹學 例 藝能 代 び て、 也 51 タオ器が とぞ、 一臣の嫡 る家あ 高 ら高 堪兼、 77 知 を勵 伽 8 ぶり 0 相 預 者の 實 5 す事 六ケ 有と云は宜 子 り度、 手 旨きも とす、 12 は 人の 200 才 傍輩 敷氣 幼少より家 もなし、 纸 賤 の飽迄食し、 才器 有 家 あら を家 の詰 敷 なり、 様に思ひ玉へば 中 il ば、 子弟 は 來 21 21 事 中 必しも 0 T 2 を嫌 才器 是を以て云へば、 _ 樣 主 8 は 夫を能 番 無賴 能 21 人 N を育 服 0 B 抔 學 世 思 0 0 我 を 類 樣 小 CL 者 也 事 儘 暖 藝者 其仕 に着、 長 77 25 人 21 に成長す ぜ 是 して學 拘 は、 取 ざる 方は を撰 はる 安佚 は 臣 饑 執 à

とせ 賢才を用 ず 叉 云 能 諸 ひば 役 役 人 人に あら 才器なきの歎は有べからず、 h 能 事 き役 そ 欲 人なしと云は すとならば、 人 家筋 君 常 才器を用ひらるれば、 身代 0 歎さ也 の當 否に 臣 拘 た はらず、最 3 者罪 人能く才器を勵、 なさ 屓 21 0 非 吹學 ず、 然共 を用ず、 家筋 君 8 知行 衆 叉 77 罪 の高 撰ん なし

彌 を學 能 大 長じて忌 晚 21 げ 節 國家の治に益あり、 3 知 み憚 政 3 事 擧べき人を用 る所なし、 12 害 あ 3 然共晩節を見て後用んとすれば、 賢者 害をなす事至らざる所なし、 7 は 遺賢 志を得と云 有 事なし、 ^ 共、 暗 節操 君 は 古人云へる事あり、 あら を改ず、 既に老て用る間少し、 かじめ 不肖 晚節 者 は v 志を得 かんを 成」名每在北窮苦 12 明君は其初節に就 知らずし 至 ては、 T 日、敗 驕 奢 猥 に人 事 0 念 T

因。得、志時と、

信なり。

n で 3 凡て L か國家 故 官職 智 剛 嫉ね Ļ に於 も剛をなさず、 有 21 節義 士 任 で推立 げれば ば V は 必ず阿る者也、 かにとなれば諸 は事變に仍て顯はるく、平居無事の時にて云はど、廉潔 人一 必ず たる験を見るべき、 柔も柔をなさず、 職 成績を致 77 任 去程 用 じて 21 し、 に外は は は 必ず 事 ___ 仍て諸 廉 變 强て相和すれ共、 同 只詮議勝にて先格 0 12 寮あ 合ば 用 事 17 捗 5 必ず節 立 取 共 らず、 其 心 義 諸 廉潔 士 を 行属 を追、 内は互に相防ぐ、 一の職を 顯 なら は か す 難を招 ざる 命ず V2 常變 事 は、 る 耿介の士程世に貴ぶべきはな も多きなり。 ぬ様 17 共 權 は 21 に裁斷 夫故智も勇もなさへら 威 或 を貪 家 人か 0 り叉は 用 する迄なり、 5 Ó 22 廉 立 名聞 潔 de 成 0 を勤 也 る士 爭

疵 と云に、 もの ない へ無 學 長 無 臣 n 能 及 ば 21 CK T 其 番頭 一家中 8 長 用 17 臣 ては、 人に命ぜらるしゆへ、才徳を勵む心なし、 一の家筋 高智 は 長 と云 臣 位の 21 命ぜられ もの は、 番 大 頭 方 無學 用 人 一文盲、 共 成べ 其上大身の者 8 無藝 知 行 無 から 能 5 な は 3 0 8 勝 其 0 手 故 も自由 大 V な מל 3 h

昇

平

支

話

下

篇

卷

之

M

守 72 戾 成 る事 0 君 あり、 にして、 良臣有て輔佐して後、能く欲する所は與へ、惡む所を不施して政行はるべし、 初より深宮に養はれ、 視事 . 狭く廣からずして、人情世態に疎く、 施す 所 0 政、 輔佐の 人情

功大

ならずや。

3 そ 明 ん事 深く 又云、 6 疑 かっ 有 學 21 生質 べからず、 し、 を好ず、 賢良 聰 明の聞 賢 輔 良の 從に聰明を賴君 佐 0 有君と、 輔佐 臣 と共 を求 12 其の國政を察すれば、 めざるが故 謀らば、 は、治安を欲と云へ共得べからず。 政 事 也 H 君其 4 21 明 質聰明を以てして、 庸君も異る事なきとあり、 5 かっ 12 衆庶 月 4 深く學 21 其徳に懐さ、 を好 是自分の聰 み、 先生 列 國 明 に抽 の道 を賴

せず、 を預 惡 3 賢 义云、 律 り物 る所 才器 つき君 義 あ 0 3 12 樣 は、 L あ 君は君の職あり、臣は臣の職あり、諸士を遣ふは、 一ばいを盡す様に遣ふべきなり。 21 2 n 自分が才智 直なる者を賞翫 家老より足輕中間に至る迄、 L ば智愚其 T 踏込 、所を得 を足足 々々才器を盡すも ては捨 りて思 あれば、 込、諸 るものなし、 不直 役人を心許 なる者も、 欠てはならぬもの也。 0 なし、 されば役 役人は初め選を大事にして、 君 なく思ひ、 0 心 々に仍て、其選み一様ならず 我身の手足、目鼻、耳口を遣 に合ぬを知て、 諮 其得たる所を見立て、 事 F ・知を待 不直 樣 に遺 を慎 命じての上 U ^ ば と云 其役 ふが 心 12 己が 々に仕 は 成 へ共、 如 身構 也

又云、古語に保。初節一易、保。晚節一難と云へり、晚節を能く保者は、始終變ぜず者なれば、學げ用て

8 鳴 有 ば 上 理 ٤. け 6 或 叉 渡 n 司 な 0 3 は 人 罪 3 5 重 ば 8 事 品 0 人 0 有 下 6 0 厦 如 君 5 重 主 知 和 多 出 随 决 2 4 は 將 中 熟 3 25 0 H L す 4 云 有 聲 せず る 有 あ 12 n な 司 斗 T ば 人 所 切 6 17 時 5 لح 12 は 依 义 I 12 故 云事 下 强 同 辛 ^ T 臨 ば 動 弱 至 な 役 8 下 1 な 當 事 相 6 廿 0) 知 大 和 4 な L 柔 0 下 分 將 L 和 剛 到 如 せ \$ 各持 知 て聞 す 斯 0 77 せざるは あ 寬急 威 下 0 は な n 違 決 熟 光 * th 前 共 2 嚴 押 ば 談 世 0) 聞 事 す 重 T 銳 事 せ 味 不 ざる 分らず、 もな 釶 な 動 L 延 21 忠 n て、 T k V2 0 0 し、 は ば 違 77 は 罪 作 氣 流 辛 君 有 也 是可 聞 思 甘 法 は 强 n 0 と云 誤 て決 IE 威 は 12 21 る事 一勝兆 くって 罪 L 也、 V Z ~ 1 張 世 有 0 共 多し、 ず、 下 0 異見を立。 8 21 なり、 庫 0 君 世 0) 非 ず、 國 中 逼 B 迚 云 是即 を失 寂 叉 4 勝 K 大 鹽 罪 25 H 21 同 將 とし 叉 敗 なき L 决 梅 L 72 0 は 軍 T 事 す 至 0 威 る、 0 T 12 3 誰 仕 也 動 光輕 相 人遠 也 靜 < 非 方 す 然共 是大 21 な は 22 H 6 物 仍 慮 あ \$1 な 彼 君 忠 音 君 T 5. ば 爱を 主 F 3 \$ 信 ^ 0 庫 政 0 威 人 t 21 威 21 以 中 学 德 德 T 事 見 L 君 騷 合 T T は 0 は 輕 11 私な 害 猶 君 主 服 せ、 k け て、 敷 將 料 主 せ な th

嫌 君 無 n なれ ば 叉 臣 F 云 有 ば 情 と云 或 12 心 達 人 7 ^ 問 L 共 德 輔 工 佐 澤 用 賢 君 远 を 才 4 睯 な を 21 明 求 達 なら 9 事 70 す を得 と云 ば 3 事 臣 す 事 そ 不 な 得 肖 是智を欲と云へども、 L す 也 共 不 舜 害 肖 武 無 0) は h 君 か 聖 は 人 答て 私 也 智 云、 を 猶 治を得ざる 用 Fi. WD 君 臣 る 賢 + 4 亂 明 そ な 25 所 好 依 3 以なり、 6 と云 T 天 梁 F ~ .智 治 共 今 * 3 の諸 用 と云 輔 功 佐 候は背 3 0 事 3 賢 臣 を

昇

215

夜

話

下

篇

卷

之

DI

ば は h 酒 じ朝 好 4 3 重 0 1 職 是 集 0 域 者 9 政 0 花 方 0 得 * 失 好 朝 21 ば かい 花 勾 狠 1 好 3 きの 意 事 25 なれ 者集 往 來 ば す 5, る 人君 文武 多 0 を を 油 見 斷 好 ば て、 有 間 家 其 敷 中 役 事 12 な T 人 8 0 30 依 好 U 5 所 賴 T を 心 知べ あ し、 5 遊 好 酒 事 8 0 者 好 8

なさ する 和 至 L L は 同 る迄 は H L 4 T 遠 12 そ 有 叉云、 訄 非 なら 訓 美 存 事 云 譬 念有 味 挨 和 8 意 22 勿 拶 論 ば 論 家 とな L 非 地 ずれ そ、 2 な ず、 老 合 五 8 也 社: す、 味 有 21 为言 執 [ii] ば T 5 何 表 0 ~ 事 4 とて、 至當 各 役 士 程 向 人 共 君 事 7 里 0 云 爭 N. 云、 睯 3 な は 0 意 胍 T 派 遺 重 な 味 为 理 地 は 8 12 ПД き役 恨 を集 22 12 な 5 L L 私意 T 非 王 T n は 有 心 决 ず、 是 ば 夫 3 ~ を 8 0 1 き様 21 成 すべ 非 3 和 同 合 浆 ~ 不 せ 拘 0 せ 役 1 し、 なし 忠 才 H 討 挾まざれ ざるを T 5 0 n 間 そ T 0 前 五 集 美 君 大 8 せず 味 佛 な 云、 不 T 味 0 V 爲 る ば 能 * 高 2 和 12 者 都 を 力 0 遺 調 訓 殊 な 12 鬼 也、 穩 顧ざ 世 念遺 和 T 3 机 作 役 す す 12 便 は L 3 3 加 T 茍 恨 人 3 て、 21 不 と云傳 者 を以 は 8 8 見 な は 忠 忠を < 高 同 なり、 至 は 不 ^ て、 忠 役 2 當 君 下 諸 以 陰 な た 同 25 也 0 事 是を 6 る 樣 寄 其 理 -21 熟 料 目 21 B 0) T 5 不 談 ず、 了 當 訓 理 扨 は 和 歸 ならざる 亚 簡 又 和 12 耳 と云 せ 人 重 IK は せ 12 表 L 上 L 宮御 ば、 T 手 き役 1 有まじ、 非 向 は、 美 3 な を 12 事 耳 n 味 加川 數 强 不 3 就 な ば 25 盾 ~ III 初 となる、 T 5 却 謗 是 12 8 有 心 0 、共 君 能 て同 非 口 底 3 を 論 味 末 合 內 r は 態と 様に 尤 を 12 爭 取 4 云 は 是 訓 12 117 4)] は L 合

7

調

和

して遺事

を得ず、

故に或は辛く、

或は甘きに任かして、

美味を

な

す

事能

はず

其美只料理

人

又云、 重職の者は云に及ず、 都て支配下有役人は、 好む事を専ら翫ぶ事は、 遠慮すべき事 也 共

好所より謀をめぐらし、賄賂を入るくも易き所なり。

恨しく 仁恵の 公家 窮 士聞、之歸 义云、 の畜なり、 疎敷 みに 心有 非ず、即今勤る所の者を勤め勵ますの道也、我等も後には斯捨て顧み隣も無らんと思へば、 **久敷仕て能く勤めたる者は、年立て用に立難く、** 心焉、と見へたりと、 罷 て 不」能」爲」用、故出放」之、子方云、少盡。其 勘み勤るに勇みなし、 捨牛馬は天下の制 昔魏曰、子方出見·老馬、于、野問 禁也、 力、而 御仁 役仕したり共、 老棄 政と云べし、 其身、而 云、此何 隣 愍 を加 へ 育 む べ し、 仁者 況や人をや。 不爲也、 馬 也、 御 束 綿 者云、故 只

有 正 碁、將棊、 有 U 12 令重任ならずとも、 12 T. ~ 必ず文武に怠り、 叉云、 怠 重 强ち家 5, 職 慰に の者 茶の湯、生ケ花、鞠、揚弓、誹諧、亂舞抔の慰事、重任を荷ふ者とはなすべき事 重職權臣の好事、必ず家中へも流行者也、但し文武の二字は勉て倡て流行急れ 勤 を輕 は 役 中 に疎 を倡 程 んずれば、 TIE 武藝に似合ぬ慰事、長ずる者と見へたり、人君早く重職の者を教戒あるべし。 はず 年若きものは文武 略となり、 くぞ思 ,共倡 ふても耽り易き弊あ 君主 ふ道理 士風 0 政令迄も輕んじて行はれざる基なり、 は に當り、 衰 の二字習學に暇なし、 ^ 行事 5 5 なり、 のづ 重職 から其事繁昌 又少し心有 の者 是に專らなれば、 の好 者は、 するも び事は、 の也、 重 家中 古 職 今 0 武家 にて 者 然時 彼を略すは必然也、 を も相 0 嘲 12 衰た 遊藝 5 手 に招 る家 輕 はやり、 12 共、 非ず、 んずるも 風、 る者 殺 縦 末 文 8

平夜

話下篇卷之

[四]

若し又 9, 天の人に勝は道理なれ共、人多さ時は暫く天に勝 小人を擧げ用 ゆれば、 陽物といへ共、 陰物 の勢ひ盛成に押されて退き、 から 如 國家暗夜の如しと云へ

の者 臣 Ļ をば 然 多 只遣 共 仕 如 氣質 落 斯 U なき様に 物と覺 25 T 0 我と異 は、 21 人の才 と計 我 心 る人を用ゆれ 3 知生 合せて遺は 何 ぜず、 事 B 例を ば、 能 んとし、 人 引 彼 0 が長 云合せを專 才智の生ず 備は き所 6 我 ん事 短き らとす、 る様 所 を一人に を補 に造ふべ 依 てオ て、 求 し。 智なき者 て、 人を用る益を得 過を B 答 る事 大役勤る事 强 3 き故、 事 な るを、 成べ 仕官

する故 は 心を 先 づ道 割裂 用 叉云、 を學 る暇なし、 の法を知らずして鳥獸なり、 過失 道を學 んで後君 も少く、 若又我身を惜ず、 ば に仕へ、 V2 民も 人は、 。皆其情 其役 其役 なして なに 21 己が 叶 布帛を殘 臨で、 臨で只我身の過失あらん事を恐るへの ~ 過失を厭ずして、人民をも治め、 Ļ 其政 故 ひ傷が 75 事 能 を議するに急て、 歸 如く、 服 かせし と云へ 必ず民を苦め 30 學 CK 國家 置 害す、 4 し所 の益とならんとする人 にして、人民を治るに を以 此 故 て、 12 右 夫 0 人は 々に裁斷 必ず

無らん様にもならば、目付、 されば、 さと思ふより後の暗き事あり、能知れし其上の用捨有て、怠惰私曲は有べからず。 又云 下 必ず 諸 役 緩 人の み怠 勤 る、 惰 は、 君能 横目を用ひて、 君 大綱を 主 政 事 提げ、 21 心を 常に勸懲の賞罰有べし、 撃て 用 玉 ふの 怠無れば、 厚薄 21 諸役人も油斷なく勤勵 あり、 君 勤惰 0 心 り邪 用 ひ薄 曲 の上へ具に知れ < T 大綱 也、 叉下の私曲 を提げ給 まじ は

未だ開けざるを遁れ出、 を立たりと云 义云、 家語に、 政者莫太於官能と見へたり、 楠 正成は泣き男を抱置て、 昔孟嘗君は、鷄の眞似をする者を抱置て、凾谷關 建武二年正月二十九日の戰に打勝て、 類 なさ大功 0

さず、 拾て、 3 又云、 人を舉用 是を擧 暫く 國 我 に從 て用ずと云、 ゆると云は、 を治る事 へと云が は、 然時 如く打任せず、 其 能く人を求め得て、 人に其職を は擧ると云へ共、 任 諸 せて 事 指 疑 官に任ずるに 擧ざるに均し。 圖 は す して造へば、 其才能を盡さするを云、 あり、 賢能を擧ると云へ共、 國を亡し家を破るは、 若又汝が 賢能の用をな 學 人を失に ずぶを所 8 あ

進む者 如し、 若し是を擧げ用ゆれば、忠節彌堅くして、 12 任ず、 叉云、 又云、人を擧用ゆるには、退く事を好む者を擧用ゆべし、退く事を好 人に及ぶと云へり、 は事 小人は陰類 故 12 を曲 人云 國 家 げ、 なり、 0 魑魅 治 媚び諂、 を輔 今の人多く 故に 来 下夜争 る能 國家に君子を舉用ゆれば、小人は陰物なり、 人の己を知らん事を求 き役人なく、 ひ出、 は權 見」日 臣 败事 に媚 管ら時めくを喜び、 自消と、 有事 び諂 少し、 て Ñ 日 役に は 是を擧げ 太陽 競進 進む事 む者は、 なり、 賄 用ゆ 胳 を 魑魅 に耽 れば、 求 學げ T, 5 日出れば自ら消るが如し、 は む者は、廉勤して恥を知る、 陰物 權 必ず 用 國 臣 ゆる事有べからず、競 家 なり、 是 才 を推 に誇 0 治 君子 12 り、利 舉 は あ を好 太陽の 職

昇

平

夜

話下

篇

卷

之

四

是其 用 役 語 T し、子夏日、舜有。天下、選」於、衆、舉。皐陶、不仁者遠矣、湯有。天下、選」於、衆、舉。伊尹、不仁者遠矣と、 一き人を用ゆれば、又其知る所を選び、擧る所の人、皆賢ならずと云事なし、所謂、拔 ゆるにあり、君一人にして、大勢の人を逸く詳に知る事は成り難し、故に先づ重任の者を能く選み、 人 り合 も、皆國 々にも尊下、輕重の品々あれば、廣く人を用ひずんば有べからず、只能其人の長短を知て、長所を 、明效也、若し其人に非る人を用れば、 は何役を命ても悪 事 左の 家 如 の治を輔る役に非るはなし、 L 左云へば用べき人少し、國家の政は廣头なり、一人二人の能する所に非ず、 生選を管かにすべからず、下務は措て論ぜず、當格に就て 其役筋の廢するのみに非ず、 害を被る者多し、 『茅茹」たるが如 輕き役人に

損 其人に任ずるを云、殺て遣ふと云は、得ざる所へ遣ひて任ぜず、才を盡す事を得ざらしむるを云、其 益得失、 或人云、人を活て遺ふと、殺て遺ふとの二つあり、活て遺ふと云は、其人の長ずる所を用ひて、 いかんとせんや。

をば短くして、足る所に遺ふ、人も得たる所に用れば、誠に益あり、得ざる所に用れば、有甲斐なき に、工上 叉云、 長短を選ばずして、妄に人を捨るは、鷹に魚を取らせ、鵜に鳥を取らせて、用に立ずと云に均し は材を撰ずと云は、能匠は長き木、短き木共に集て捨ず、長をば長を川べく、宜敷所 薛 文 清云、用、人當取"其長、而舍"其短、若求"備於"一人、則世無。可、用之才 に遺ひ、短き 一矣と、

諸役人

るに 察するに足らざれば、必ず黑を以て白とし、枉るを以て直とし、小人を以て君子とし、君子を小人とす なきなり、 治 如 し、學問 ならざるにあり、 人を知ると知らざるにあり、人を知る事尤難し、人を遺事又安からず、人を知るの難さは、我智の 向 0 12 此 役人は、道の大筋目を心得たる者、勝手向役人は、廉直を主として撰ぶべし、 選悪ければ、善政は行はるべからず、各其役方に就て撰べきは勿論なれ共、 至ては、政事日々に非に、身辱られ、國亡ぶ、恐れざらんや、我智を増て明らかにする者は他な 役人を撰事、政事の肝要也、立、賢無、方と見へたり、家筋素性のみ拘りては、賢者は得難し、役人 輔なし、 なれば、 して能く人を知り、其長ずる所を用ゆれば、能其人の才を盡さしめて、 天下の人を押ならして云ば、 凡 備らん事を一人に求れば、 人に用ひられざる人無るべし、若し其短き所を用ゆれば、其人才を盡事を得ずして、 我智明らかなれば、人を見る事、其脚行を見るが如し、人焉廋さんや、 賢者は少く、不肖者に多し、能さ人は何役を任てもよく、悪 天下用ゆべき人なし、 荷も其長ずる所を用ゆれば、 其選當ると不り得とは、 概して云はど、 國家 若し我明、是を の治を輔 用 政事 問數人 明らか

昇

平

夜

話

下

篇

卷之四

書卷二

藝術にて召出されたる者、子孫次第に藝術未熟になるは、此定めなき故なり。 業を織事 王 綴たらば、 は 叉云、 るべし、三代迄は、 能はざる者は、 家督の節、 文學、武藝、醫術、其外藝術を以て召抱られた者は、初より世祿と定ず、 親の知行三分二を賜り、 暇を賜て可也、 父祖の業を繼て賞すべし、 斯の如く定められば、 藝術 扨四代に至て譜代に命ぜらるべし、子として親の 親に比する程に至らば、 子たるもの勤め勵て父の業を継べし、 親の祿 0 其子親の藝術を 通 5 全く返し

又云、 農工商の内より、 故有て士に取り立らるし事あらば、三代までは、家督の前後に拘はらず

同 知行の下に置て然るべし。

昇

平

夜話下篇卷之三學

云ずし なる新役の者に引替られ て廉 直 0 風 後り、 利勘 以後は一升盛り上げ渡すべしと定め玉ひしとなり、 0) 風 はちのづから氷解、 煙消が如くなるべし。 恩恵の辱きのみに非ず、

げ走る 1 ざる を遁 得て、 毒 米と號して、 12 ると云べし、 な 農工 種を蒔 堅 は 3 る ふの出る事 叉 く義 弱 事 義 武 云戰 1 也 兵を好 なり、 商 にしかず、 士の貴ば にしか を守 又養共、 國 の輩 君君 獵せずして獸を得ん事を欲し、植ずして秋成を欲する共、 返さるく事はなく、 0 み、 る者 利を以て云へば、主人の馬前 也 は思ふも多し、 時分は、 ず。 たらずとも、 るし折なれば、 勇み 常々 利に走り義を失ふの害、擧て計へ難し、惜べき一命をも、 安んずる共云べからず 士の義を失て、利に走るも、爰に出 は 少し、 恩義 進 少しく劒を廻 T 然共常 失て、 剛 人君も又左思ひ玉ふ事も有るが 義を知 兵を嫌ふ君の有べきや、 然も數十年にも及も有と見へたり、 勢有 危難 h の育様 し、 たるも て目覺しき者に武 の節 鎗を捻る程の にて、 のは、 は ^ 進み出てし流れ來 誰 4 臣 剛 8 兵头、 た 臣 弱 る B た + の道 なり、 る 0 兵をば嫌ひながら、 は、 弱兵共成 0 を盡 如く、 道 治世 を盡 何方 る矢玉に中りし すべけれ 是を諸士を大事に秘藏 べる也、 諸士へ約束 へ行て さんと、 21 果て能く欲する所を得べけん は 役 \$ 何れ 共 人の外は 弱 賴 主人の み思 る損 の宛 兵になる門を開きた 義 る事 の君か を知 翫 行を減 爲に 無用 N 也、 也 に預り、 E らざる者 君とし 北 輕 利 h 0 に走 長 は、 し玉 走て其場 んじて顧 物 知 氣 て北 つり義 ふと は 借 行 0 3 樣 0 3 を

寄ら 3 は 疑 V2 ふべ 物 な n し 共 賜 3 所 少け te ば、 貧成 るべき筈の事也、 貧なれ ば其人に罪有、 小身にして貧ならざ

ば 番 1111 窮 中 入 de 士 v かに、 に賣 ば、 H 12 屋 役 る せら 成 若 敷 な 叉 K 拂 は、 樣 切捨 も上手なり。 人を た 家 黨 構 に成 \$ ふ事 3 る 中 1 家中 亂 近世 呼 子 る故 1 を 間 皆門 出 なり、 7 故 細 る 侮 8 し 以 世 は、 减 諸 6 家中 諸 輕 下 武具馬具を、 21 少し、 塀 家 貧より武 太儀なるぞ休せよとの事にて、何事もなく濟たりしが、 斗ら 太平 は 中 ~ 士 有 んず 一皆利勘 渡す扶 て堅 へ折 へは恐れ 八敷 門塀 F 勝 るは H 手 固 ふし盗賊 威 る 持 向 8 にさときを發明と云ひ、 なり、若黨中 治世 天下一 方を斗 武威 21 の衰 無體 役人は、 て入事なし、 __ には 3 の衰 入りし沙汰あり、 故 事 升 3 統 自分 0 役 無用 用 此 花 へ数くべ 人、 米を、一 由 美 心 間 を好 も多け 切捨 な の功を顯さんが爲に、 の飾 向 上手 5 甚だ 物 み、 し、 3 升三合 或 の様 淺間 れば、 に斗るよし を恐るし斗にも非 律義に廉直 無益 武威 其 言行 なり、 候 17 元 心得、 の費用を 12 を尋 早く の衰 斗 江 衆て聞 盜賊 れば 聞 6 Fi へ歎息すべし、 金銀 を守るものは、 多きのみならず、 胩 た 屋 頻りに 5 敷 8 捕 ず、 及べ にて、 差 諸士 甚 搦 侯宣 だ入易 間 8 聚飲利 入難 は、 る事 0 其後斗り役の者、 貧窮 L 或 叉 昔は稀 斗 は は 時 あ 8 時勢 子細 兼 6 初 成べ 切 米 n 21 せ見 ば 宛 T 倉 0 成 捨 L. 間 老 取扱するを、忠 21 行をも減ぜらる た 72 21 ^ 立寄 5. せよ 亚 3 も家 知 及 あ 被 盗 具 6 CX 6 2 馬 V2 なり、 敗 今世 # L. 見 皆下手 釶 出 加 玉 具 0 盗賊 1 けれ を 類 は は U 成 諮 3 貧 T 0 家

以 及ぶ 带 F 72 行 或 臨 3 7 T 臣 \$ 7. に倚 は 4 恩 21 す T な 人難じて T る n 惠 士 叉 あ 會 何 云 の患あらんや、 6 金銀 云 は ば 急に 釋 あ は ^ 5 事 ば 玉 安 は 3 21 本 何 連 云、 此 ム賴 腹 を省 左 12 寄らず士 人 金 き事 普 類 迫 本 君 あ 銀 0 末 惣領、 請 る事 **今**二 事 4 百 を 稀 5 0 て、 也、 沙 美 何 る 石 贈 親 22 稱 事 21 を先とし、 を 百 百 は 疎 し、 12 3 農工 て否 石は昔、 然 て勤 出 を民 略 は たるとも、其 __ 0 石 分 戰 すべ 難 奔 次 12 0 國 商 共 0 第 别 L 72 士 自 0 父 8 る 云難 も今 は 不 殺 12 12 は 所 違 T 初とすべ 妾 樣 理 所 17 思 母 自 は、 を今に 及ぶ と云 石と 75-腹 屈 けれども、 3 恵こそな B も百石と思 用 な 通 25 0 より出 0 干 庶 L 心 45 非 5 辨 ___ 騎 き事 3 70 子 21 百 得、 すず るも 1 諸 か 概 石 0 から 0 は るもの なら 夫 如く・ 干 6 士 ふより、 __ 勿論なり、 12 0 騎 あ め、 E は 石 义 利 扨 云 理 n は 又 21 ^ 勘 V2 12 は に非 施す 共、 家 窮 責 成 ば B 屈 Ħ. 12 命ぜらる 貧 迄 0 と云もの 內 す T 至 百 ず、 治世に 窮 大方 哥 3, 也、 約 は 士 石 取 3 B. 守護 と心 就 農 始 21 束 F は 小 1 は 末 て I 風 通 を損 貧より にて は、 得ば 宜 惡 南 身 21 至 俗 6 も非 る也、 L 艱 0 T は 12 (1) て上を増は、 身命 君 皆 事 宛 下 至 か 事 難 發 らず す 0) 1 質 何 辛 君 行 多 6 是今人 は、 に當 3 書 身 衰 ぞ半 は 21 (1) 事 との 親うす 賜 巷 前 子 加 勝 3 也 之家 て合ね る者 飯 知 7 3 12 な 3 心 益 答 計 懸 米 宛 6 貧多く 得 に仍 4 內 々似 は 3 る 木 12 行 ^ 12 難 1: 程 足 朝夕 事 違 成 事 但 窮 7 S. 也 0 より 3 あ 0 から T L L 農工 5 却 は 大 かっ 罪 其 爲 0 大 幕 永 L 也 甚 事 厚 起 足 17 T 次 小 第 6 今半 2 損 南 0 頃 無 ふす 3 L 身 省 暇 4 t 那必 #2 事 VQ な を 12 理 る事 知 窮 を 77 9 臟 ば 云 也 賜 は 寬 宛 を B 至 12

昇

巫

夜

話

續

ずと云 鉾 分に 又最 不 は 義 先 君 下 應じ、 强 0 初 子 力 地 ^ 五年とか、 0 らん 不 25 恥 庸 人馬 處 信 る所 常 事 す 不 るに 義 な 0 を * **契理を倡** 七年 君 5 願 持 ふべ 揃 忍ず、 0 返す 通 之、 とか年限を定て、 し、 病 3 事 77 也、是をも忍ふべくんば、 よき具 常 して、 日 ならずば、 B 0 心得 足、 心を安ずべ 思はざる也と云 鋭なる 12 其跡になれば、年延 借米 T は 4 刀劍 成 の名目を止て、 べき事 所 12 3. 非 力 ^ 60 に非 嗜み ず、 何をか ず、 __ 助力米とか、 П 不 恥 々と云て、何 慮 拔群の志を發し玉はずんば、成べから B 恐るく事 草く 0 節 初 身命 51 あ 返 5 + 賴米とか成とも を輕 んや、 L 年と限なさも、 7 んじ、 心を 君子 忠義 B は 暫 約 を 8 勵 束 1: 諸 不 を失 3 士 仁

告より高 X 大 I T は 審 如く、 叉云、 至 人 な 役 るべ 君 る 0 < 英 ᆀ 多く成 は 諸士貧窮すれば、治亂共に大名役の勤らぬ事也、嗜も心掛も貧窮しては成難し、 增 諸 L 也、 7 雄 侯方 共 0 永く諸 里 大 減 氣 6 じた 身 竟太 72 の知行、 を 張 0) る 华久 5 るに非ず、 1: 21 者 御 8 少く 半地と云 Ti 宛 L 非 さい す 代 行 成 . を滅 72 簡 叉士 れば、 然に 易 付 じ置 質素 7. 事なく、 今 の多く成りたるに 家中 頻 世 (1) るしは、 風 12 は 領地 12 名 諸 ^ 鰂 V. 修 家 不 歸 0) 3 の狭く成 仁不 大概 り玉 所 風 0 行 はツ 義 8 知 は とぶ 机 家 行、 非ず たる rf1 非 無益 幾年ならずして、 には非ず、 0 にもあらず、 宛 İ 家 行、 5 21 0 費 谷 お寄 42 用 别 股を批 多多 多さが故 知 ~ H 新田 前 21 礼 後 諸 ども 8 て食し 0 宛 畑 士の 非 な るべ 行 す 開 宛 1 2 發 久曹 腹 聞 身 抔 行 L 譬共期に 滿 3 WD U) て身態 返 然 12 士 3 有 て、 L 21 は 玉 於 T

三家 然共 11 荒 は 高 五 る 中 分に 家 增 宛 年 百 22 共 代 あ 行 至 見 石 南 3. 賜 國 及 de 米 0 歷 四 る家 高 CK 22 此 四 四 V2 + 下 教 聞 時 を記 仙 國 石 卅 及 n ツニ三分 T 代 用 臺 て、 ば 七 を 也 家、三 なさ を せ 廻 22 記す 諮 四 通 6 至 6 じ 12 斗 所 3 家 て考 ッ三 山 と云 賜 地 ~ 共 入 双江 陰 は 12 3 方 21 分 家 25 出 道 書 ふるに、 此 L T 51 五 T ず 府 より あ 非 賜 5. 代 高 家 賜 21 故に る家 か ٤ 百 る 四 家 四 北 始 1 は 石 6. 陸 7 ツ " 其 違 12 __ 物 + 家 物 滁 道 九 米 V2 所 1 百 成 成 七 は 越 州 \equiv 家、 筑前 21 前 し、 俵 12 聞 4 て賜 城 ッ T 也、 傳 加 物 玉 廩 を 下 福 世 る事 賀 右 成 は 减 記 岡 並 ~ 12 3 Fi. ٤ 相 22 22 考 0 暫く て賜 家 廻 書 ツ 云 ケケ ^ 合せ 大 書 3 百 物 時 二家、 华 逗留 12 代 概 る家二家、 成 るも を考 大 有 通 12 T 概 T 法 三ッ 次 成べ と見 萬 ふれ 賜 H 12 越 る家 本 石 肥後 からや ば 其 七 後 以 或 ^ た 八 國 F 中 路 ---分 熊本、 寬 6 其 家 諸 12 12 至ら 年 12 侯 掛 永 巫 賜 兀 几 6 慶 百 肥前 ず る家 安 均 ツ 六 7 五 十三家 111 免に 2 0 物 八家 义薩 分に 云 頃 成 て賜 所 な な 奥 摩 T 歷 る家 王 共 は 家 兒 7

返 又是 里 鄉 さるべき筈なり、 を 叉云 黨 借 世 17 5 米 よ 諸 と號 る る 共 n 士 すと云 ば 0 宛 約 品等 約 束 行 そ ~ 東 0 洪、 減ず 度 違 通 12 T 6 終に る 返 不 賜 信 は 3 L 返 なり、 ~ 不 與 し、 3 仁 ^ 5 る な 6. 上上 るく事 常 1 事 0 は 3 滁 减 下 成 な な す n #2 6 ^ 信 ば ば 難くば、 11: 貧 そ だ 違 約 窮 稀 束 難 3 連 は 書 22 0 ないこ 13 通 22 返 成 6 及 賜 3" 返 3 間 敷 L n 7 多。 磨 賜 L 事 るべ 家 成 21 仁とす 貧 8 17. L 夫をなすは 17 あ 5 至 と云、 凡 6 るに ず 名 足 實 借 不 6 相 餘 稱 * ず 米 6 せざる な 有 若 らば 1 隣 X

昇

25

夜

THE STATE

F

篇

卷

之

-

るべきは る者 衣 からず。 を着 は 有 天意 まじけ 人望な 器物 n 共 3 そ 夫が 求 目前 3 21 爲 の小 \$ に苦しむ 必ず 利あ らし 者、 此 事 de を 勝 顧 天意人望に て計へ難 み 王 は 70 し、 で背けば などか 此事常に 家 は 君の御 運縮 本復 3 0 國祿短くなるを如何ともす 政 心に絕ずば、 0 行 は n Zm るべ 飯 を食し、 只 恐

譬ひ ~ 凡 也、 並 但 也 L 世 0 先代 止 づ t 間 の考合もなく、 止 事 カン 諸 留守 叉云、 3 は 殊 TF 0 ら武 家 兎 を得ず、 居 世 12 事 法 8 0 を得 を改 諸 諸 用 並 角 役 士 侯は 士 もあ 0 の嗜もならず、 武 17 是非 0 7 初 る 用 T 心任せなるにや、或浪士身の上、稼の爲國々所々徘徊し、 は容 家格 宛 敢 れ りた 0 ___ 行 階 なく減ずる てすまじ るは、 を 時 易 薄 宛 先例を以て、 滅 なら 0 1 行を減ぜら す 新 忠義の 諸侯 忠義 3 き事 制 V2 は、 に就 ž 事 立ら すならぬ 子とも思 0 0) 父祖 勢の 推て濟事也、 勵薄く、 ては、世 勵みなく共、 るべき理なし、 る共 事 は 0 衰なり、家 ず、 良 なれ 並 鉾先弱きは必 子 法 一の減 を減ず 孫 ば、厚く 減ぜら 强に 後代 他家 方も考 中諸士の宛行の如きは、先祖 然に 3 世並を聞合せ、 る事なれば、 0 0 勘 例 事 いつとなく諸家 1 辨 へ合すべき事 迄世 然の事也、 共 事 評 成 25 議 事 話 成 を はなら な 來 盡 謹ずんば有べからず、 n n し、又 ば、 當時 世並とて夫に習 5 也、 12 V2 是等 謹 は 猥 事 T の向合に合するに及ば 其國の様子、家 也、宛 宛 7 家 12 厚く 0 心 は 行 より 法を考 を減 儘 殊 思慮 行 約 12 21 ぜら は T * 世 東 减 L す 可ならんや、 並 0 へ合すべ 然に k ~ す 21 る 事 0 委く論ず n からず、 構 な 作 ば、 是 事 n は 法 は世 ば、 ぬ事 V2 初 事 \$ 9

足 12 多 止 折 水 3 若 7 る 押 候 早く本へ 4 21 引 嘆 の嘉 寄 を \$ E は 得 美 可多候間 樣 譬 水 7. られ す 12 言と云べ S も飛入 復せら 御 我 る 等 Z. 串 等 か様の大國へ御取 閑 る 也、 12 机 5 し 0 御 左樣御、 然に 時 儀 聞 於 先君 0) 誰 此君の爲には命を塵芥よりも輕 t 制 數 有 被」成べ 獨り放て押付を見する者は 心得候 を 之ば 0 + 遺靈を 良 年 でり懸け 法 家 < へと宜ひしとぞ、 ケ様 0 來 候、 安じ、 の宛 如 候共、 手 < 申 受繼 华 勢 行を減じ置 追 寄 老 千 王 御 勝利 る三千 0 3 H H は、 __ 頃 る方 有間 疑有間敷存候 事 頃 或 んじ、 嘸 國 B 21 元 元に 12 召 備 御 4 敷思はる、 秘 連 先君 は、是を定式 へらるべ 秘 堅さを破り鋭を碎さ、 濺 罷 越、 藏 仕 の震 致置 置 し。 貴 始終の詞 候 若し又紀州に於て、 B 公樣 候即 郎 の様 等 御 共 御 等共との 本 を召 手に 意 に思 から 無き事 天晴 連、 U は 釆配 王 掛 言、 真 申 なるべ in 亚 何ぞ御 次第 先 12 將 間 能 か 敷 0 名言 候、 争ひ進で 君 け 御先 7 用 な 0 扨萬 る 紀 日 君 21 州 事

居 は、 37 其 臣は る 聚 王 聚斂 叉云、 斂 有 3 は何ぞや、 聞 掊 とも、 ず 0 克と云 聚斂 臣 聚斂 家 ならずや、 は、 0 中 諸 害甚 百 (1) 臣は有 1/1: 百 1: 町 0 妙 しき事は、大學にも與"其 是を受玉 宛 人 田了 と違 行 人 事勿れと云は、 を減 より無理 N h す 士: 君 る たる者は、 は、 は な る年 盗臣 聚斂 是 貢 12 の害は を好 越 諸役を多く 有 君と安危憂樂を共にすべき者なれば、 72 聚斂之臣、寧有 る聚斂 T 暴出 人 掊 取 ならずや、 に北て、 立る事 克 は 有 :盗臣」と見へたり、譬ひ君 なり、 間 聚斂の害は衆人に及が故 然に 敷 The 世 未だ家中 5 間 是を とし 収 0 諸 6 何かと口外す V 土より 泰 7 伙 君 の物を なり、 と安 物 奉 * 3 取 扨 盗

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

榔 5 华 知宛行 諸 侯 方 な 家 る 中 諸 B 士 V か 0 12 會 ぞや 釋 0 公 政 と違 は 何 ぞや、 諸侯 方知 行 は半知と云事はなさに、 諸家中 の土 大

3 悪み 行 天覽恐るべ 救 ず、 王 又云 L 飢寒 十分ならざる ふべ し、 し、 12 君 苦し は 今の 天 民 0 まし 0 悪みを 父母を以 人 は 自 むるは、 5 父 鳩 母 得 ば 毒 7 22 異稱 不慈 を L 自 吞 T 然と災 とす、 て、 父 にして父母 母 詩 た を 3 有 父母とし 市山 ~ 0 きは 道 たる 佛 12 * て自 稿 失 の道 必 定 3 3 分獨 12. 3: な を失ふと云べ 均当 6 如 < り事足り、子供へは、 事 年 す 君 來 3 21 家 し 者 L H 3 を半 T 3 ī 君 た 知 あ 慊 3 宛 h らず ば、 0 行 衣食も 道 12 を失 P 天必 し、 しか M 7 3 77 其 年. 非 77 父 窮 母 宛 比 を

7 共 12 は 故 御家中衆目を驚し候、 るまじ 御送 は 12 改 君 易 叉云、 聞 きと より 後年 5 V2 切 あ 事 りし は 約 な 腹 华 諸 知宛 賴 束 5 12 家 多 中 12 n 龙 行は 諸 Z" 失 臣 行と云事 御 る U た 士 大納言殿是程の御内衆を被」爲」持、若し上樣 廣 歌 る者 るべ 0 寒ら 間 な 宛 けれ、 行 は B 所 3 初れ 4 自 君 普 廩敝 ^ 奉 紀 罪 5 御 25 座 厚 命を なき とな 伊 半知宛 く、仁 敷 大 3 御 納 者 5 0 L 座 言 ^ 恕な 奉 行と云 敷に、 知 は 公 3 行 け を減ず 置 諸 n 御家 土 伊 事 事 ば 一衰微 達 な 甚だ謂 正宗侯 中の歴々伺 n ~ 恨 ば、 き謂 L なき事 T 義 武 振 n n なき事 威 12 な 舞 * ヘ少しも御如 Ĺ に行て 03 の衰た 公せられ 得 1 ず は 凡諸 山 歸 る基なり、 恨 罪 3 しを見玉 知 士 ば 玉 行 t あ 在 背 ふ節 るを 残 5 有間 < 6 物 こてそ減 廩祿 U 大 1/2 * 敷候 節 紀 8 取 伊 立 奉 となりたる 21 拟 公玄陽ま 臨 るべ る 知 御 T 串 3 北 H 古 n 叉 走

此

子 也 遇 H 恵はなく共、 也 削 を加 12 後 有 0 去 儉約と號して、有來りの事を止め、 0 教育 とて ~ へずんば、 27 次 依 第 なるべ 父 7. を失ふに 約束 母 72 小 かや 士の の宛行は全からずんば有べからず、君の一 る者 L 0 あ 心を得べからず、 事 らずや、 士は三民の上に立て重き物なれば、 和 B だ 不 る子 省、 尤農工 に斗 訴 訟 5 商 等 物を與へ、おとなしくねだらぬ子には物與 約束の宛行をさへ半知宛行にし、 士の心を得ずんば、 は 12 譜 及ぶ 代 の者にあらずして、 もの なれ ば 語代 争か 命に替る者は土なり、常々恩を與 禮遇も又厚く玉ふべきのなり 大節に臨て慥に賴 0 家來 國 替 0 所 樣 替 只帯き會釋 21 有 は、 は、 へぬ様なる事にて、 淮 其 びべき 地 付 のみなり、 12 T 置 殘 別段 H n 5 頃 N 留 V2 て情 の思 本末 0 る者 B 思 0

諸侯 などか ず、 を恤 作 知 る ならずや 人君 叉 方領 君 きは なけ 初 に復する事のならざるべき、數十年に及で、復初の政行はれざるは、能是と彼と均 地 宜 れば 民 华 敷 然に 庸 高 反 0 常 可 求 0 なり、 損 し玉 是を恤む 0 恤 君 E は do あ ふべ 水旱の災 X n 知 ば、 Ļ 事を知る君なし、 6 年 玉 饑 其 今 は ふ所 歲 恩農民 年 天 より 御 なり、 地 門 甚 0 番 變な 敷 に及で、 諸 は 勤番、 5 若し能是と彼と均 なし、 1: 半 士 廩祿 知宛行數十年に及ぶは、 失火防等の公務御免許 22 老幼 及 0) ざる 士 は 溝 は 數 壑 1 12 敷事を知る君あ 轉じ、 獨 年 6 华 何 知 ぞや 壯: 0) 有 農民 者 災 は 12 又願 綱に らば、 の數 119 逢ば、 力 一年 12 公 12 數十年 仍 政 離 天 て拜借 打續た を 散 地 考 す 0 に及で、 3 L 当川 る半毛 變 3 或 等心 25 77 君 非 是

昇

25

夜

話

下

篇

卷

之

===

す 届 自 云 不 用 所 んば 思 72 飯 ざる所 6 艱 及 儀 山 米 有べ ず 難 2 辨 にだに足ら なし 辛 8 や、了 からず、 一苦をな 政 云べ 21 飽迄 預 Ļ 簡 8 る 21 XZ 明君 尤其 も思案 Zn 執 B 食 あり、 る し、暖に着物の 事 人 艱 は 斯 0 家 難 21 る賤 も及ば 推 老 辛 縱 苦 CL 量 抔 飯 敷事迄委敷知し 0 云者 筆舌 ず、 屆 米 想像り、 に一盃位、又は < は 事 B 素より勘 縱 25 25 及 あらず、 U 华 容易に行 82 めし、 知 事 定 宛 也 12 推 行 de 少し餘分有 下情 是等 量 及 届く事に 12 7 行 ¥2 \$ 事 屆 0 に達し、 かざ 事 なり、 非ず、 辿、 高 は 甚 n 知 政 ば だ 문 な 何として右日用欠くべ 深 * 卑 は 政 る く尋 故 施 事 劣 御 し玉 行 12 な 主 知 屆 る 君 一ム故、 事 ~ 艱 か 0 4 ざる 難 な 御 計 程 威 れども 隅々隈 所 光 心 0 有 事 世 からざる 5 は 人々迄行 なく、 人 0 知ら 君 中 は 0

食貨 \$ de V 郡 0 のにて、三民 ば、 な 0 叉 叉 云、 12 天 農民 共、 種 貨 君 君とは、 施 父 抔 0 ___ す の上 事 人 13: 云 8 21 0) 0 共 \$ 士農工 に立立 み思 富 0 云 12 あ 恵に て重 ふは 6 あ 或 商 5 8 し、 ひが ず、 士 0 __ は 郡 四 士を以 其親 農民 民を 若 の富 事 な L しき事 5 撫 0 君 は、 如 ___ 育 て先とすべし 4 四 人 して 卽 民 0 は士より親敷はなし _ 强 富 國 各 と思 安穩 訴 天下の用をなすと 郡 徒 3 の富 ならし 黨 然に農民は一ヶ年 君 抔 なれ は せ T ぬ者なれ 古よ ば る人を云、 其近 いへ ___ 6 國 其 ば 共、 富 を云ば、 辿、 0 * 郡 士は 不 凶 0 國 數 火失は 人と 作 __ + 天下 郡 士より近さはなし、 あ 华 れば、 0 0 なし 富を 國家 主 42 は 知 手當米、 俱 0 扨 宛 治 民 21 卽 行 すべき * を 5 輔 育と 夫 3 國

民

0

數

+

年

來半毛作に同じきに惠みなきは、

農民

の會

釋にも劣りたるに

非ずや、

計

士への

體

遇恩施

雜 3 手 から 用 細 0 如 I 料 などし し、 12 宛 H h 4 7 P 月 賣り 4 小 77 身 下 漸く今日 者 3 衰 0 士 る の難 風 ·11. 3 小 失 儀 身 ふは 凌ぐよりして、 な 3 餘義 1: は な 家內 き共 心遺卑 エベ 0 飯 L 米 劣になり、士 21 1 B 足 身 6 3 0 AJ 風 de は 風 0) 下り、 を失 あ 5. 坂 ば に車 何 を 其 以 を走 風 T 年. 6 B 中部 0 づ 15

か

6

中

士

以

上

~

移

3

__

家

中

0

風

8

廢

す

る

也

人

君

0

思

虚.

有

べき

所

な

6

貧なれ 病 茶、 な 叉 筆 8 云 何 吉 傳 1 墨 有 たば 五 M 2 紙 妻子、 畧 ば辿、 士 ば 21 云 俵 家作 2 は 藥 就 人 ~ 入 を 4 小 との 小 T 身 煙管、 兄弟 用 B 樣 0 士 身 0 雜 0 事 21 U 無 類 0 音 列に 1 用 ねばならず、 士 也 \$ 修理 奴僕 料 物 たば B 0 0 也 連 貧 是 商もならず、 贈 8 飯 答 る者 苦 ころ、元 もあり、一 敷 米 右 は 不 人道 物、 程 時 0) 農夫同 子弟 11 外 中 入 0 結 B X 親 衣 4 欠難 簞の 稽 排 服、 奎 0 類 0 illi 入 也 作 古 樣 12 さも 用を除 事 食、一 8 کے 知 大 21 多 櫛、笄、 小 成 0 云 音 de 詞 0) らず、 入用 刀 成 ^ 0) 75 也、 瓢 6 等 て、 交 難 B の飲 庖 5 8 不 老人、] 元服 學 響ば 3 111 H 君 及 斗りに よら 4 あ あ T 小 數 5 1 ___ n 況 力 4 賜 檔 兒、 ば à ~ ても濟ず 着, 0 月 る外 難 又一 鍋、釜、 雞用 し、 信 飯 浉 客 養子 家を 米 は、 人等 Bij 世 0 Fi. 밁 0 0 桶、 日用 4 俵食 緣 等 膳 1/2 人 粒 0 0 組 方 鉢 7. 0 椀 0 事 彼 する家 U 類 ПП 小 推 錢 是 世に 11 草 -1-1-H 111 可少欠 0 は 稀 履 0 ----- A 道 小 内 物 交り 17 [ii] 屆 0 小 身 21 人、 1 IIII は 無 く当 AME 身貧 7 居れ 起分, 12 魚 とて 80) は、 云立 全 物 12 なれ 1 ば 3 非 雜 也 濟 ず n 8 鹽噌 ばとて 用 古 ば 求 難 家 賜 の料 限 小 人 13 0 3 は 3

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

n と云 行 成 納 大 な 米 槪 事 n 云 不 は 家 事 21 は 足 廩 1 なれ な 禄 願 元 高 21 となり 諸 5 5 來 百 就 士 なさ 小 0 石 て、 藏 身 L 俸 は 米 事 玄 廩 と見 禄 0 と成 なれ 米 禄 昔 士 五 7 は は ^ て、 ども 皆 + は 殊 た 5. 石 な 21 地 諸 n 方なり、 也 地 士 後 るな 方皆 其故 一水早損 年 是是 43 6 無 * V 今世 知 几 同 か 宛 斗 廩 の憂を発る 事 んとなれば、 行 入 献 諸 0 2 難 俵 家を通じて 0 云事 51 物 儀 L 成 25 ・事 始 及 T は ぶ事 菜地 百二 5 を i 大 考 より、 得 + 方 有 を賜 2 五 るに、 T 五 故 悦 俵 12 ては ツ 普 物 也 びしも、 地 0 成 不 土 五 是 21 同 地 方にて賜るは ッ 本 賜 な 0 今は大方半知 华加 3 善 知 5 成 宛 L 廩 悪 を 2 献 行 年 さし と云 見 定 0 ^ 數 水 甚 て、 た そ 早 だ 宛 6 以 但 25 稀 行 本 L 依 21 T と成 本 五 賜 て、 知 宛 地 ツ 3 度 收 宛 物 V2 行

飯 き事 n 飯 米 5 -ば は 米 米 は ^ を年 諸 ば 12 或 年 士 非 雜 人 と云へ 日 年 す 用 中 云 4 、寡 4 凡 TU PH 貢 諸 諸 + 升 毛 t と云 共、 俵も 八十 作 五 役 士 を 0 合、一ヶ月壹 0 ^ 常の 俵 食 上 俸 損 共 也 する家内にては、年 納 禄 毛 恨べ 心 L 21 21 て、 多寡 同、 を存し難し、 七八 さに 石三斗 殘 うしと見 + あ 非ず 俵 る作 るは より 五 德 升一 凡 常ツ 父祖 し世 以 21 士 7 中 下 0 ケ年 は、 ぞ、 產 賜 0 動 俸 諸 不 功 3 滁 今は 雜 九 足なれば、 士 拾六石二斗 0 は 用 人 厚 は 凡三四 演 耕 戀 0 しき 家 耕 77 內 并 易 77 也 を養 思はず町人百姓に 易 + 共 る 21 俵 12 17 天 V 是を 足らず は 入 L 足 21 8 12 h る 有 0 四 足 77 事 かっ と云べ 也 斗 B 取 な 俵 n 0 5 ば 然 12 成 も手 L 上農 L ~ 11 家 L 多 て、 を東 内 夫 L 耕 70 家 12 は は 5 ね 九 + 内 九 易 v るに 俵 口 は 人 ^ な 貢 8 膝を折、 共 TL 足らざ n 斗 育 誇 口 ば、 也、 ふと る 飯 ~

草く則 義 41: 3 は 第 瓷 31 0 0 ると説 \$ と家 事 を行 裏 21 0) 有 いふ如く、 一と成 何故 0 腹 に喩き者、 ぞと宣ふ意なり、 萬 は、 たるは弊行り、 烨 て利を求 1/5 な 事義 る 身も安く富 に利を云べけんや、 て、 出 多 後には仁義を似せて、利を旨として行ふなり、 來 の故、 義なる事をして に從て義を好み行ふ時は、 其 るな 0 ると云ものなり、 小人は利 後 6 て、 利 de 子日、 を嫌 義 大學に云へる所と相違ふ事、 其 0 も理とは裏腹なるもの 面 0 事 勤 て宣 目となる 先難後 は、 に喩き者也と宣へり、是君子と小人と裏腹なる故なり、又孟 治 國を治るには、 ^ あだにならずして、 然る時は義を行ふ最初より、利を目當とすると云者な 利とし るなり・ 0 獲と云心は、 效 て行 必ず利をまぜて行 有 只 事 上人則 義 仁義と云上もなき結構なる者ありと宣へり、 ्षी. 也故に、 21 仁者 然共是 は、 仍て行ば、 萬里の違と云のみならず、 報 畢竟利を以 を得 は人の為 萬 求 然る時は萬事利に仍て、 ずし 事利 ふ事を嫌ふなり、 る期 衆人悦で歸服 て、 に難儀 に從て利を求る時は、 必ず有とて、 て利を行て 自然 なる事 12 し、 有 故に孔 は、 夫を を勤 の效なり、 庶民上を親 仍て大學の説を然とす 心の主 るに、 利 夫子 利を心として行ふ を 心 得 B 7 とす 5 られ 然に 夫を勤 是 5 義 み貴で、 も利 3 君子 る事 に寄事能 Zm 如 岩 ・國を治 る心が 此 る故、 L は なさ 人 大學 は義 義 3 自

俸祿

となり。

平夜話下篇卷之

昇

は 慶吊 君子 必道 其 一欲す は道 か道 を初 を以て に非 る所 8 又人に異る事なし、 21 るかを以てして、 萬事 從 言 て、 行 0 の準則として、 細 醴を敗し義を害す、 事 と云 其道 只衆 へ共、 毎事 に非れば、 人に異る者は、凡の事、其欲する所に拘はらず、是を 皆道 21 於爱、 必ず道か道に非るかを稽て、道に從ふ、 に寄らざる事なく、一事とし 富貴にも居らずして去り、 君子小人の別れ 8 大に 異 て道に寄らざる事 貧賤をも厭ずして去らず、 る事を見 出 るべし。 所、 裁斷するに、 進退 なし、 一辭受、

得 所 兢 共、 な 種 猥 るは、命を知らず、却て禍を招く事也、 るは、 0 3/ 30 々手段を盡し求得る幸 々と恐れ 叉云、 福 其 福 के, 善 を求て後、 福 惡 吉凶禍福は、 猥 愼 には非ずして禍の基なり、 0 實有 12 U 事、 願 必ず禍、 求 T 終身怠 招く所 て、 有間 は、禍も福も、 ある事を知らず、天道 皆天の る事 0 敷仕合を得 禍 なし、 福なり。 命ずる所にして、人の能く自由にする所に非ず、 然に若 然共世には一旦欲する所を得る者も有事故、常人は夫を美で、 小人利を好むの至り、 るに非 共に 皆自ら招 E し有間 ず、 命に非ず、 は善に福し、 25 皆是を命と云、 敷 非 禍 る者なし、君子 有 自ら致所なり、 ば、 不善に禍 有間敷幸を求めて、禍を招くは愚なる事 自ら 小人の 謹 は平 惡 するは道理 4 自ら求て 不 T 日 自身を修 善をな 招 き致 也、 すに E L 8 然るに猥 命にも非 T 命 刑戮 す 非 行 ず、 る所 を整の 12 21 には有 る幸を 叉得る 福 戰 を求 4

又云、只人心の害をなし、 仁義の仇となるものは、私欲也、私欲有が故に邪智に誘はれ、ひずか

く成なり。

べし、 T 任 るべ は 贈答の禮 すべからず。 又云、父母、 3 i 色香 を用 らず 贈り物の厚薄は、 一儀なきは、不仁にして誠なきによれり、禮儀の贈物に、左程の財の費なし、 悪き類、又は未だ熟せざるもの、時ならずして人に害あるもの、或は其人の嫌成物 ひ丁寧なるべし、 贈 り物に仍て、人の心の厚薄、 兄弟、 分限によるべし、贈るべき人に贈らざるは、 親戚、 都て惡く損じたる物など贈るは、贈らざるに劣れり、肉の破れ、氣味の 朋友、 或は恩を受し人には、贈り物を 誠あるなしも見ゆるものなり、 吝嗇也、吝嗇なる人は、 以て其誠を顯 自ら吟味すべし、下部に はし、 贈吻をするに 其情を通ず 財 など贈 を惜

らず。 を戒るを云、 又云、小兒には、專ら義方の教をなすべし、義方の教とは、義理の正敷事 利欲を教へ知らしむべからず、偽て且欲深く、人の物を貪る類は、押へ戒てゆるすべか を以て、小兒 の悪き事

致す、 叉云、 又愚ならずや。 廉は損に似たる得なり、貪は得に似たる損也、常人は是を知らずして、常に損を招く事を

高貴は 昇 平 夜 人の 話 下 欲 篇 す 卷 る所なり、 之三 貧賤は人の惡む所にして、古今人情の同じく然る所なり、 是 君子

續

等 は古人の 謂る守銭の 奴にて 農工商にてさへ、人の賤しめ、 人たるの道に背きける也、 況や士家に

てをや。

禱 時 を願 す 也。 目 12 12 はど、 叉云、 は 見えた 如ず、 只仁心を以て、人を憐 財祿を貪り、分外の富を求て子孫に殘さんよりは、 子孫無道なれば、財祿を殘せ共 る幸ひなく共、 後に必ず天の惠を受べし、是萬金を捨て、 み恵み、 善を行て子孫 必ず失ふ、 に善 我財祿を保て失はず、子孫 を進むべし、 家法を正しくし、 神佛に諂ひ祈るに 是天道に 子孫に 叶 長久ならし L 理 百倍 なれ 道の教を残 せる前 ば、 めん事 當

却 集て、人に施し恵まざれば、滯りて後日の災となる、必然の道理也、財を集て福とせんとす て禍となる事、古今世上に其例多し、 叉云、 天地 の氣滯れば、風雷、水旱、地震等の災となり、人の氣血滯れば病となり、財資 財多く集らば、貧苦なる人に施 し、 人に益有事 に遺 以用 れども、 ゆべ

我 釆 身の鑑なり。 取 叉云、 地 の農民 間 敷 士とし do のを取り、 抔 0 て財 飢饉を見て 利 人の財を用て償はず、 を貪 B 5 心强く 吝嗇 にして廉直の志なく、 して救はず、親戚朋友の禮義を勤ず、或は與 如此事、我身に一つもあらば可、戒、人のよしあし 親戚故舊 の貧窮を恵ず、 我に ムべき者に與へ 親 を見

8

174 を 求 民 共 又 んよりは 25 只 人 IE. 0 道 22 只 家 家 0) 業を怠りなく勤め 禍 家 は の業をよく勤 生, < は 利 8 を 求 天道 家財を妄りに費さず、 るより を恐て偽 旭 る、 利 なかるべし、 を貪 n 分外の利を貪らざれば ば 却 是禍 T 財 を を遁れ幸を得 失 N 漏 0 る道 來 禍 る なり。 なく 事 多 財

利

を

と思 傍よ 我 身 5 0 見 事 n は 私 ば惡き事多 **然**有故、 し、 才有人も心暗く 大事 あらば 思慮 成て、 あ る人 善恶 の利 に間 見へ難し、 ひ計り、共 我思慮する所 人 の評 論 に從 十分によし

失

は

す

凡

利

を貪

は

高禍の本

也

可被

我 身 事 i 足 る を n 共 不 知 ان L T 50 人を貧 るも 0) は 身富 りといへ共心は 貧く、 我身事 足 る事 を 知 貪 りな

き人は、

貧

け

は

富

叉云、

訟を

聞

人。

親

類

權

貴

0

人

21

賴

n

賄

胳

12

ふけ

りて

私する事、

古來其例多し、

叉下よりの

願

事 * 取 持 て賄 胳 を求るさ あ 5. 皆利 * 好むよりなす 計 也

貸て、 勤 態じて、 能 め < 育ひ 叉 重く利 傍 云 差 滥 間 君 家 0 禮 間 21 を治 潤をとり 仕 敷 義 爲 2 る 12. 武 也 る勤 備 然に 財 約 を 0 欠ず、 を用 設 束 吝 H 0 をば 嗇に ゆ 時 人も施 る法を知るべし、 至 n 皆 L ば 欠 T. L 1 惠み、 其人の難儀を顧ず、 __ 只 8 有 か 行 はず Ŀ 醴 儉約にして 77 義 も金銀 を行 增 T CI. 人に を貯 嚴敷責はたりて、 武 吝嗇成べからず、 施 備 U 積 を調 す 事 事 そ は へ、戦場 露 好 み、 斗 りもなく、 少し 儉約 父母 0 勤 B 8 にする 0 所 育 捨 金銀 N 不 なし、 意 は、 君 8 0 變に 親を 人に への 是

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

=

緻

考 其 B 臣 华 下 叉云、 0) 道理 21 年 貢 任せては、 算數は六藝の 0 の遠近と運送の勞費を計 入を計 て、 おろそかにして、 來 一にして、高きも賤敷も、人の知らで叶はぬ事也、 华 0 出 し用 5 事違ふ故に、必ず習い知るべき業なり、但し好み過て翫ば、 B 人數を立、 る分量を定 軍 め、 をやるも、 米穀 金銀 皆算數 0 多少と、 を知 軍 ĥ 譬ば國郡 ざれ 庫 人 ば 馬 行 0) 0 數、 民數 U 難 を計 粮 食とを 大人 必

~ ず利を好 25 CA から 非ず、 祈 又云、 る は思な ず、 身 利を好 夫 0 爲 よ る事 21 3 計 は 也、道理もなく、 む者は、人に施す事は少しにても嫌ながら、 飢寒の人を救 る利なり、 善とす へば、 大なる幸を可」得爲 るに足らず。 能き報の有べきは必然也、 の大欲なり、 神佛 神 但 の事には多くの金銀を出して、諂 は し報を待心にてすれば、 非 禮を受ずとこそ云 へ、欺く 誠の徳

む費あり、心得有べき事

也。

叉云、 無益 の事に財を費すは愚なり、是善 を行 ひ人を救に 志なけれ ば なり。

Fi 能く作て、 て人を 叉云、 來 天道の惡み玉ム理なれば、後は必ず禍あり、 数ず 3 公を恐れて公役をよく勤め、工は器物 家業を能く勤れば、 勤 商は べき業 交易を勤 8 IE 路 21 て倦ず、 勤ずし 利益は求ずして其中にあり、士は奉公を能く勤て諂はず、農は田島を て、 高利 を取 ひが 事をし ず 四民 愚人は當時早く利を得んとして、後の に心を用ひて、能 て利を貪 共 21 如 る者 此 なれば、 は、一 く作 П 强 り出し は人に寄 に利を貪らざれ **麁早なるもの** り幸 禍を知らず、 あ 洪、 を作り 福 へど 滁 は

る時 道 義 25 は な は仁也、 に非ず、上を犯し亂を起す、 の道を捨、 敵を計り、 死する者 は 敵 士卒皆是に見習、化して恥なく、百萬の兵あり共、戰に臨で君の爲忠義を行ひ、命を捨、 武を以て敵を討、亂を鎮むるは義なり、仁義の道の外に文武なく、文武の外に作法なく兵術 21 あ 對して謀計 權謀を行ふ事はさも有べし、 5 文武の法に背き、 んや。 を用 るは、 義理を拾、 譬ば 西 を攻んとしては、 利欲を專らにするは、國を削すの業にして、武を鎮 前 に云如く偽を行 其東を襲の類也、 U 利 を得を以 如此 て心とす 事 77 るが 臨み、 如 きは、二 時 る武の に當て 節

道 義を變ぜず、賴もし、士たる者、戰に臨て、身を捨る事は難からず は のなり、たど身を捨て義に叶ム事難し、忠孝の道を知て、生死只義に叶ふべし。學問なけれ り、堅さを碎く勢あれ共、 を知らず、死すべくして死せず、死すべからずして死するなり、生死異なれども、義 なり。 生質 に勇怯 あ 6 義なけ 更に血氣の勇あり. れば節を守らず、頼 義理の勇あり、 もしげなし、義理 血氣の勇は 血氣の勇は の勇は節義を守て、大節に 一旦の 盗賊 强みは强きを破 も能くするも の背ける事 ば忠孝の 臨み、

る 又云、 然ば義理の學問を本とし重んずべし。 軍學 面 整の み有 て、學問なく、 義理を知らざれば、習ふ所の武事、 却で不忠不義の动とな

昇

3 0 害但義を 其害 推 事は末に詳さ 勝 T 利 て計 を 求 難 る 0 し、 弊を云て 大 學 0 末章 災害並至る、 天 下 0 平 成を論 善者ありと云へ共、 て日く、 國 は 又是を如何共する事無のみと云へ 義 を以 て利とす、 利 を 以

3

らず、 庫 爱を以、 利 を 0 み是 豊生. 盈 叉孟 T 聖賢 趣 民 の福 孟子、釆路が 子 能 んとす、 < の罪人な 其 、防を嚴 君を富し、 にして、仁人の 春秋 50 にせざる事を得 利を云 に、君を弑する事三十 國を強くすと、 甚願ふ所の者に非ずや、 の害を論て日云々と、 ず 思ふに又釆路が不利を以て、 國 家 六、大抵皆 0 困 窮 兵を交るの禍烈し、釆路 3 救 利 悪に は を 見て動 利端 h. から 為 度開け 21 5. 其 聚斂掊 秦楚の王に説んとするも異な 禍 ば、 又交兵よ 売を以 君 一言にして是を止んと 臣 り又 父子、 て、 起 君 敷 兄弟、 者あり、 倉 廩 只 府

5 す 難 功を らざれば、 るが 叉云、 仁義に非れば人の道立ず、人に仁義の道あるは、天に陰陽有が如し、文を以て人を憐み、民を懷る 奪 ふは、 武 U 道と心得、 す 勝 悪く心得 力 國 利 しくすごとくて、人の を亂 を得 常 難 して逆にし たる兵學者は、 0 しと思へり、 時 も兵學 て取 0 故に時 武道は、 謀 な 3 を用 B L た て傷 る 兵 0 儒者の如く、 功 術 勢に寄て を行 名を に於 べては害 N な 奪 は、 利 T 仁義忠信の道を用ゆべからず、 なし、 我 を 我功名とし、 味 得るを以て心とするは、 方 IF. 22 直 對 12 しても偽 人の L 1 収 手 た A3 6 る省 3 表裏 H 淺 * 12 ば 間 B 2 偽 行 敷 奪 7 りたばか CA 功をなし か 我 人の 事 勇と な

雁 はなき事也、常に道を行ひ、正直にして天道に違はぬ様にするを不ら前の禱りと云、専ら身勝手のみ

新るは愚なる事也。

又云、易に日、謙 天道は盈を欠て謙を益す、地道は盈を變て謙に流し、鬼神は盈を害して謙に福

す、人道は盈を悪で謙をよしと云へり。

只 是利禮を開きて民の罪梯をなすなり、天子は四海を倉廩府庫とし、諸侯は國を倉廩府庫として、藏の 猶非をなす、況や上の利を好むをや、傳に云 諸侯利を好む時は大夫鄙し、大夫鄙き時は庶人盗すと、 庶人斗り家に藏る也、 又云、人を治る道は、利を抑て仁義 且利 は天より來るに非ず、地より出に非ず、一に是を下に取 を開き、示すに利を以てする事なし、 利門を防ぎ閉 る也。 ても、民

其欲を足らん事を思ひ、悉く上の有する所を、攘むに非れば止ず、於、爰位を篡ひ、君父を弑する事興 其 以て心とすべからず、王若し自ら其國を利せんと欲せば、大夫は又其家を利せんと欲し、士庶人も亦 を道理に導なり、利を以て下を利欲に導く也、論明なれば、尊卑上下の分定る、然らざれば、皆自ら 故 り戦 、身を利せんと欲し、上下争て利を相求めば、國何ぞ危からざる事を得んや、仁義を以て本とするは下 に直 叉云、 國 に告て日、王何ぞ必ずしも利と云はん、叉仁義有のみと、國を治る者は、 に至て、先王の道明らかならず、人心陷溺して只利有事を知るのみ、孟子其邪 孟子、 梁惠王を見て、利の害有事を説、勸るに仁義を以てでる事を論て日云々と、春秋よ 躬仁義を行て、 心を改んとす。

昇平

夜

話下

篇

之三

を深き恥辱とす、今の人は、人の財を借る事を恥ず、反て借る事多きを以て面目とす、財をかりて妄 6 に用ゆる人を不」欲也、心潔さとて譽、人心の變り可」歎。 又云、 古の人 は我身を儉約にして、萬づ不自由をこらへ、財を妄りに費さず、人の 財をか りし事

戒 び、 又云、 人に交るに深く遠慮にて、人の財を費さしむべからず、 人の財を以て我身の樂とするは、

叉云、 又云、 萬 財を人に貸は禍を求る也、 事 潤 はしく共、財をやり取るに、廉直ならず貪り有は、 借て後返さいるを此方よりも不時(原学で)借るもの、恨み怒り 無下に人に思 ひ下さるしなり。

過 82 れば惠を忘れて返さず、其時 又云、人に止む事を得ずして物を貸さば、初より與ふると心得て貸べし、借る時は喜べども、時 兼 て與いたると心得的れば恨みなし、かせる者を必ず得んと思て攻

深く、後には互に恨出來て、中疎く成事多し、是を財を費て敵を求る也、成べき程は與ふべし。

又云、 良將 は 財 を惜ずして功を賞する故に、 士卒能く進みて不」怠其功をなすべし。

8

は

たれ

共、

返さいれば怒て中絶るなり。

け れば叶ひ難き故に、推なべて金銀を貪り求めざるはなし、 叉云、 太平 人しければ、世學て驕奢を好み、 費用過分成に就て、己が諸欲を快ふするに、金銀な 士風の衰是より起る也

神は聰明正直にして、真直に感じ、真直に應ず、私欲有ては、何程金銀を奉り所ても、感

叉云、

孟子、梁恵王に告るに、 上好」義、則民莫」敢不」服と、何事も上の示の様 又云、治國平天下の大條目は仁義也、義とは

斷制して、 戦國の時の先王の道衰微して、大國は小國を侵し、强國は弱國を掠め、刑罰さかしくし 王何必日」利、又有。仁義一而已矣と宣へり、亦易の説の卦に、立、人之道日。仁與 にて、風俗人心もちのづから押直さるし 取べき取間敷筋を違ざるの道なり、 事 故に

來 T 財を失 叉云、 U 富て財餘 子孫 り有 に其財を殘し難し、 人は、天道盈を欠く理なれば、 財多さ人は、 ふべし。 最父母に厚くし、 人に施さず財を多く集め置 親威朋友の乏を賑 るは なし、 後必ず禍出 貧敷

て、聚斂を勉て、軍旅征伐日々に止む事なきは、功利を勤るなり。

又云、易に天道は盈を欠と云へり。又物宛れば欠ともいへり、又古語に、多く得れば厚く失ふ共 財多く集りたる迄にて、人の貧窮を恵ざれば、盈てば必ず欠る禍あり、天道恐るべし。

人

を助け、

饑寒を救て、廣く人を愛し、善を行

善 るべ 也、 るは、 又云、 我身には奢り費て、禮義を欠き、人に施し恵まざるは不德也、 又貧窮を救に於ては、 儉約 儉にして財を不」費は、尤良法也、然共儉約を行に事よせて、財を惜て禮義欠さ、仁愛を施 12 非ず吝嗇也、不徳也、 財を惜むべからず、我身には儉 禮義を勤 て財を用ゆべし、與ふべき時 約にして、人に施す 惜みては善を行ひ難しと古人云 は財を惜ずして、潔 12 は 財 を惜 る は是 か

30

にする時は、跡に其云出す事、其通りに踏み行べきなり、故に有子曰、信近」於、義言可」復、云

上 12 叉云 有て云へば、禮と云ものは専ら君の上にあり、 人た る者 禮、 義 の二ッの 物を法とするは、譬ば器を作るに、 義と云ものは我にあり、孟子日、夫義、路也、禮、門 規矩 準繩 有が 如し、 君臣の

也

惟君子能由,是路、出,入是門,也、云々。

進み玉 與一侍 ふべき義 叉 人瘠 ふと云へり、 有 環、 戰國の時分、樣々の虛談妄說を唱ひ、夫子、衛、齊の國に仕ふ時、賤鄙 ば仕へ、 是無 孟子其妄を顯さんが爲に、孔子進以、禮、退以、義、得」之不」得、 さもなければ俸祿 義 無、命也と宣へり、 義非"其道"緊"馬子駟」不」祖也と云義の如し、 日」有」命 の小人に取り入て 此 方に 而 主 出 "癰疽 て仕

甚だ取 義、 徳備り、 旨をば、 我も其醴義に非る事を知りながら、世の人の思はくをかぞへ、强てなす事あり、大人と云ものは、 大人弗」爲と宣ふ、但し聖人の道は 誤 心寛なるに依て、人情をかぞへて、せまじき事を爲事なし、故に孟 りたる 其意同じからざる様に思ふ者 大人は俗情に拘はりて、せまじき事をせざるなり、禮義 事 は、 强て從ふべきに 非ず、 あり、 人情に從ひ風俗 兎角 道 並 一概 行 mj には心得難さなり。 不 に應じて、 相 悖 0 世間 類 にて、 と云は、人倫の作法義に非る事あ の習は 大體人情に從ふとい しに戻 子日、 る事 非禮 なし、 之禮、 へ共 此章の 非義之

又云、上たる人義を好む時は、一國の民上の仕方を義と思いて、心に感ぜざる事なし、故に子曰

氣共、 氣節共云、一朝の怒りに人と争て、其身を亡すは、浮氣の小人なり。

を保ちて不 又 云 侍たるものは、常に志を持、氣を育て、義理に勇むべし、 柔弱なる人も常に義を尊び、 失ば、勇氣なのづから其中にあ 志

25 を遁 本 るべか 叉云、 あらず、 不慮に遁れがたき難に臨で、其場を迦して身を遺るくは義に非ず、 らず、 死 のまじき時に死するは

愚なり、死すべき時に死なざるは不義なり、 又我 身に預らざる事 に態と出 逢 て、 難に 預 るは愚なり、 此二に 難に逢て難をさけて身 は 倶に勇に非ず、 道 理 21 do 非 す 理 勇

25

背なり。

ぜずと云 重 5 君を弑し、 んずる時 又云、荀子曰、義勝」利者を治世とし、利克」義者を創世とす、上義を重んずる時は義勝」利上利を ~ b. は利 父を蔑し、位を篡ひ、 勝 利を云時 義 故に、天子は多少を云ず、諸侯は利害を云ず、 は義を云事 國を盗 を得ず、 む者 利義 は皆利 二ツながら立ざる事、水火の のなす所 也。 大夫は得喪を云ず、士は 如し、 利を云時は其終 財貨 を通

らかにして、其爲」氣也、配『義與』道 叉 云、 總て恐懼疑惑する事は、道筋に違ひ、道理に背く方より出 無」是餒也、又云、是集義所」生者、非。義襲而取」之。 る事 也 故 に孟子浩然の義 を明

東するに、 叉云、 一旦云出 人の言行は禮義を以て、のりとする事なり、信は百行 L T B 悪き事あり、又跡に其通りにならぬ事もあり、 の内にて、人の美徳なれば、人と約 然ス 故に、信も義に近き様

昇

218

夜

話

下

篇

卷之三

皆 ず勝 共 叉 士 H 玉 是 は出 白 君の爲に、 た るも 非 方に從ふを云 双 21 12 陣 き事 する事 0 向 及 方は は ふは、 AD 身命を情まざる様にもなくば、 は 事. 爭 負 也 進みなし あらんに、方角惡く、 1 直 U 進て 時 義と利とは相反して、二ッながら立事なし、 12 日方角 死 時 矢砲 生 日 T 同 存 の吉凶 利 白 亡の境なり、 L 害得失を計 刄に向へば、 て死生を異にするを以て、 は、 日柄宜しからずとて止べけんや、譬一歩を踏出 理 の無事 らざるを云、 利 日頃 命より を以 恩愛の厚くし、士魂を育にしくは て云 也 義の重きを知ればなり、 西家 へば、 只 八自分勝 拘 0 其場を迦 東 るまじき事 は 譬ば土 東家 手 よさか思さ L 0 して迯去 は明ら 西 た んる者は 也 斯 3 るに 又敵 かっ かと計 時 也、 なし。 と戦 22 君命に仍 如 爭 只 < せば、命を失ふ て、 U 戰 は ^ 進 なし ば 21 て、 臨 7 我勝 旅立、 み 方は 手に 然に 異 士 心

敷 君 道 爲上、 の筋 子 細 12 は専ら 進み、 叉云、 民 君子有 は 盗 人たるもの、勇斗りにて義なければ宜からず、勇は智仁に配して人の大徳也、 知 竊 義 志 らず を遂 を算ぶ、 L ジ勇 て、 iz 而無、義為、亂 る事なく。 人の 依 如何 T 坳 を掠 如 となれば、 大事 此 め取 0 小人有」勇無」義為、盗と宣へり。 弊 に臨で功をなし難し、 る、 あ 勇有 る故に、 勇斗 T 5 義無れば、 子 12 路者君 1 義を知らざれ 然共、 子尚 大身なる人は、 勇乎と問はれしに、 只勇を尊 ば、 我欲を恣に ぶ半 必ず 上に りにては、 背き、 夫子 して爲べし、 の君子は義以て 弊 亂をなし、賤 ある故 勇なければ 爲まじ

忠臣義士は、身を捨て君を諫め、節に死し、 取るまじき我祿をとらず、柔弱ならず、 是士

聞 ば、 又云、人性は善なる者故に、義理の立たる事は、人の心に實にもと感ずる也、 誰に ても威涙を催す、 故に孟子曰、所"同然」者何也、謂、 理也、義也、又曰、理義之悅。我 忠臣 義 士の 物語を

猾"獨豢之悅"我口。

る

は

勇なさな

0 際を、 叉云、 心怠 事 りめ の行て宜敷際を思ひ切り、 るみ て勤ざれば、 不義となり、 勇みて能く勤れば義行はれ、誤りなく後悔なし、 後れとなり、 後悔すれ共甲斐なし、 是義 斯 を見てせざ る 事 の境

ば、 て人に 戰 惡の心、 に及ぶ 命を捨 又云、凡人とし 仕 時、 固有するが故也、君父の爲、 る る習 下 部 傍輩 2 8 な を見捨て逃げ去る事は、 主人の爲命を捨るは珍しからず、又一言の恥しめを受ても、 50 て死を惡み、生を 義を見て命を拾るは云に不及、傍輩と伴て、 好 ぬ者はなし、 士程 の者 は せず、 然共義理を好むは、 是命 より義理 生を好り は重き故 義に於 むより 傍輩人々口 也、 て忍 僅成 厚 び往 給 一論し、 金 けれ を得

らざ 賤 拾 敷 て利 叉云、 細 るを君子とし、 に從 民の愚にして欲深く、 吉を願 ふは人た U, 只利のみ計て、義の當否を顧ざるを小人とする也、管ら凶事を忌は婦人、 るべ N を忌 からず、 義を知らぬ者の業なり、 むは、天下 增 て況や大丈夫たる者、 の同情也、 **发に於て君子小人の** 婦人女子は如何がせん、夫さへ人たる者、義を 殊に弓矢の家に生るく者をや、 分る所 あ 5 義 に從 義 12 1 從 利

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

Ξ

きが為 事、悉く見て胸中に明か也、 11). 古の跡を考て、今來の鑑とすべし、是聖教を助け、義理を廣く考ふべ

17 る 依 する事なし、仕へ間敷時は退て仕へず、必ず出て功名を題さんと強にする事なし、兎角何 0 を曲尺にして、 を好むは、何れも一概の事にて、君子の道に非ず、君子は出て仕べき時は仕へ、必ず世を厭 事 Ŀ せんと思 て、義と我と一體に成り、寄り添て離れず、故に子曰、君子之於二天下、無適也、 叉云、 叉云、 あ 12 又云、君子は一身の行作はしり、義を地盤下地として行ふ事なり、故に孔夫子曰、君 就て云はど、專ら世に出で、功名を立んと思、又は必ず世間を厭て、我身一分を清淨にする事 君子たる人は、天下の事に於て、何事によらず、義により添 CI 義 大人の言行は専ら義に寄る事なり、 に叶へば其通りに行ひ、義に 仕果を必すとせず、義有所の儘に行ふなり、孟子曰、大人言不』必信、行不』必果、惟義 其事を仕果さんと思ひ、善惡を顧ず、 不叶ば是を止む、 云出したる詞も、 道に違ひ、事を害する事多し、 夫をも辨ず我云出す事を、 跡に惡き事 て離れ違ふ事なし、 机 又は其 無」莫也、義 兎角義と云もの 子以、義爲 是非 通 事 12 りにならざ 出所 17 之與 ても義に て不可と 其 比。 進退 通り

も又是に外ならず、 又云、 人たる者、 孟子日、無」爲。其所,不」爲、 行の上にせまじき事をせず、 無、欲、其所,不、欲、如、此而已矣。 心の中に願間敷事 を願ずして、萬事義に叶ふ時は、

手 0) みを計 るは利なり、古人是を兵を行ふに譬て云、暴亂を誅し、奸究を懲して、生民を安んずるを 50

義 + 攘 尺 取、 强弱相害て止ざるを利と云といへ

處所、逸々其爲べく、爲まじき所に當るを義と云。 叉云、 我身の或は進み、或は退く、或は人より物をとり、 或は捨て取らざる等の事より、

非 ず、 又云、義者宜也と云は、同音の字をかりて、一通りの義を明したるものにて、全く其義を盡すに 宜の字を以て訓ずる斗にて、義の字に力なし、義とは恥を知り、爲まじき事をせざる等の力有

趣 は、 叉云、 何れも 聖賢の書に、 事は替れども、其爲べき事をなし、爲まじき事をせざるを義と云より出 義の事 を宣ふ事様々にして同じからず、其さす所同じからざれ共、其至極 る # 11 0

字

也。

る、 故に聖人の道は、仁義のニッのものを揃合せて、一ぺんの弊なし。 又云、仁有ても義無れば、墨子が兼愛の説に流る、義有ても仁なき時は、 楊子が爲 我 0 說 に陥

故 又云、佛老 義を 小 道として捨 の聖人の道と異なる所は、專ら義にあり、佛氏は慈悲を以て志とし、平等を道とする る也、 然共義は天下の大路なれば、 義を拾る時は、正路を荆棘を分け行が如

叉云、 義理 昇 平 で変数 夜 話 明 下 に成 篇 卷之三 事 は、經書を讀にあり、 其外又、古の歴史を讀ば、 天下の廣き古今の公

4.

なれば、

行

事

を得ざるなり。

n な 利 平 辨を附記して、土魂を育ふ一助とす。 らば ば、 72 久 士 走 は義を主とす、義 しければ、 君子たらんと欲て、覺ず小人の道に陷る事を恐れ玉ふてなり、 るの 詳 速 21 利 な る事、 人奢り物費で、 0 害を辨 騆 に相 ふべ も及ぶべか 反對するものは利也、 し、 必ず 孔 夫子 らず、 利に走るも、 常 利 21 病 君 を除 古今自然の勢也、 されば土魂を害するは、 子小人を並 くは、 義を主 べ擧て示 張 此時に當て、自然の勢に任ずれば、 す 義理の辨も猶如此、 し玉 る 12 ふは、 如 利よりし甚しきはなし、 くは なし、 小 人 0 義主 趣 仍て義理の 詳 21 張 辨 せんと せざ

固 即 見 7 如 学 有 V2 ち 生 7 n は、 0 者 義 或 は 付 良心を育ひ、 人云、 0 なし、 是を 德 T 來 と成 凡 る所 惡 是に び事 人たるものは、誰 な の良 3 て人々 大にする迄の事也、 を 心にて、 此 知 る、 良 固有の心たる事 心人皆あ 是を羞惡 學問を待ずしてよく、 にても、 6 の心と云、孟子も羞惡 彼固有の良心は義に移り易き事、 其 我身不義なる事をなせば、 證 を知るべし、義は天下の大徳なれ共、外に は 誰 にても君子と 慮を得ずし の心 呼 7 るし は 知 義の端也 る 羞る事を知り、 を悦 事 乾ける薪に火の移り易きが 也、 び、 羞惡 と宣 小人と 0 ~ b, 心 人の 求 呼 を忘ざれ る 是は ば 不義 21 るし の事を 及ず、 人 を悪 々誰

き事に當ては、 又云、 義とは、人の行の爲べ 利害を問はずしてなし、 き事は 手前勝手を計らざるは義なり、 蹻 切て行 ひ果し、 為すまじき事を恥 義か不義かを顧ず、 てせざる を云、 只手前勝 然ば爲べ

n 四 12 ば、 人あ 身もよく錆など少しもなきもの、三四人稱美を玉はり、 何 6 0 仰 是は明朝明 もなく薄けると也、 らか なる時、 是より諸士 見分せんとありしかば、 の嗜も、 無能 成 各さし替をとり寄せ置、 身もさび拵も近頃迄の當 つらんと想像れ 心を用 翌朝 世拵のもの、 び玉 _ 覽 ふ君 、入け と云 =

代官刀剣の 問 其 思 な そ 0 単く ふは、 3 元 心を以て用ゆる時は、 又云、 武 求 代官云く、 持 其 士 得 行 或大國の家老、二百石斗り領せしが、 目利 心遙 て、 は て参らせんと思 定 得たれば、携へ行て是を見せけるに、凡代金三百枚斗りも可付物也、 る祿 求 に商人に劣りて、 貴き事を知らずによりて、 8 有て、 王 一はんやと云、執事受て、商人其脇ざしの價、 左文字の靈劒も、 其祿を以 21 あ りと答、 恥を用ゆる所なし、 て事 執事 を辨ぜり、 菜刀には劣るべしと云ければ、代官大に恥て、 某を頼 頭 を振 其領 定る て云、 んで價の貴賤を知らんとする也、 地に、 殊更刀劍 禄 價貴 の有 左文字の腰物を持たる商 の事 なが かち のを賤 貴さを知るや、重寳 は、 5 武 無 敷得 士 酿 0 0 商 h 大 事を思ふ 人 事 0 代官 我君 ٨ 寳 0) あ 器 を暖 共知らずやと が老の 9, 顔に汗し は な に價貴さ物 く買 悄 其 人 執事 貴殿 んと 所 の心 7 0

士魂附記義理折衷

退

しと云へり。

売 37 番 8 不 申 追 觸 17 不 横 其 る 樣 ば、 預 忠 机 書 云 1+ 討 也 目 付 な け 安西 た 付 る、 晴 る 12 會圖 Ļ ると 町 す は n 22 * 人 ば、 書物 床 當 1 安西 文 の を 泣 de 佐 __ 0 日 士 Ė 事 家 賴 ツ 12 V 兀 あ を 一の吟味 ため、 に置 らじ、 0 上 過 な 中 八 人 れば、 吉 座 3 右 0 0 た L 1: 辈 川、 談 n 衞 5 と見 かば、 門、 家 こまやか を 日 舉 12 け 來 ぞ申 呼 頃 安 例 3 7 を成敗 すく 故、 出 藤 佐 0 玉 0 家 v 瀬 し、 N 徒 0 け て、 成 み 114 る、 世 例 中 平 5 所、 舉 定 汝ら 重 人 3 0 する類、 0 態と人 0 其 0 男 7 衛 過 る 汝ら文盲 が 」事 圖 門 事 者 頃 共 し、 I, 共 物 0 5 21 行 悉く存べ は、 事、 * 0 跡、 學 頭 よと云ながら、 外 例 明 等、明 見 間 なる故、 立 逸 な 誰 講 0 日 近習のもの迄見分し 男ど 6 じたり、 4 罷 4 習 きけ を云 に聞 出 文武 か 0 30, よとの 明 座 る事 書籍 置 4 均 W 12 ١ 組 向 た 8 叨 正之侯、 L 有 列らざい 下 にて 5 E 後 B ける 先手 樣 此 を嗜み素 知 は も見 也、 匹 若 仕 25 に、入 けり、 る文盲 兎 人、 物 氣 置 de る者 其 勵 頭 21 角 にても有 公すべ まさ 外 申 逢 或 0 段 は 者 諸 下 ケ様 付 は 有 咄 る、 n 2 共 必 役 T 知 し、 H 勤 べし、 なれ 定、 も合ず、 人残 B 無 に構 る 方 安 暫 6 らず と云 古 1 藤 0 切 < H 6 果、 か 但 ñ 六 JII 腹 は n 鄉 ば、 登 即 111 L 沙 け 3 か しを以 之丞 我 見 る故、 30 右 中 放 城 汰 に對 衞 t せ な 家 L 一には旗 o 14 司 行 討 よとの か ては 目付 てみ は 7 とだ 老 りし かっ 使 は

叉

去る諸侯、

或夜四

ツ

時過る頃、

泊り番の

近習の士の腰物見玉ふべき由仰有て、

見分し玉ふ

唯 未 は 0 假 家 k 成 初 rp 必ず 21 治 時 は、 5 8 72 大將 江 る 樣 易さも 士 なれ は も大將の器量なさ改 勇 0 氣 共 でと上 0 少し 有 から 意 にて よきぞ、 あ も骨 L に心せばく、 とな 1/1 ケ 間 かい 21 敷 男 事 0 あ 形を受ても、 3 我心の様に一様に諸 時 は、 諸 人の 心 女にて柔弱非禮 心 柔 易 人を仕なすにより、 にし て、 を好 鉾 先 み、 曲 3 靜謐 奢强 do 2) の時

6

5

程 將 群 罪 怒 池 歸 ---12 士 を 徃 3 警 T 武 御 放 又云、 B 0 智謀 勇氣 旦 棄 止 鯉 藏 免 守 有 を せ 3 は 勇畧 を て、 せられ、 取 12 伴 6 申聞 盛 折れざる n 大 りしをば、 は世世 戰 膳 なる様なれ共、上一人の威勢斗りにて、 6 せて、 か、 功 か 12 そ 头、 却て 東照宮 勝れ 程 御 長湫 御 御 安堵させよと上意あ 12, 威 けれ 手 あ 感 御 討 の御 5 0 あ 爲 戰 共、 け 9 になされんと思召 12 る、 12 H 小袖 専らに 命 6 其 の裳に を捨 傳 外 叉 右 己が 3 初 21 衛 すが 事 b 111 鹿 りし事、 威 野 を 常 殿 露厭 す程 6 夕御 浴 傳 力にほこり、 22 右 駿臺 主人 隱 衛 の事 à 威 下の 心な 光を 門 n 八武藏侯 殿、 雑話に詳 7 なりしか 義 か 屈せられ、下 御 下 御 かき、 供 氣衰ては、 0 し、 朱 の申訣せしを、 共、 FD なり、是に限らず、鈴木久三郎 勇氣をひしぐを以 彼織 首級 12 一墨を塗 直言を申上げ の義氣 久 田、 を得 敷 65 は 北 て、悪 を御 今は日 續 條 L Y2 カン 取 口 ば、 in 8 7 武 聞 立 申 0 決 H され 被 手 るだ、 也 卽 成 柄 1-しか しをば、 其 12 杉 25 せし 前の が、 の主

郎 左衛 叉云、 是等 會 津 は 0 文盲 城 主 肥 21 後 1 守 一字 正 不 之中 通 將家中 0 男共 の侍、 なりし 安四 か共、 八 皆武士道第 左衛門、 佐 一に磨 瀨 平 右 きじ餘 衛 門、吉川 りに、 TI 領 之丞、 内 0 安藤六 溢 者 0

昇

平

夜

話

F

篇

卷

Z

-

常 らば、 如 3 務とす、 道を忘れ 斯 は 士の道なりと云、 小身の士も其分に應て武用を専用と嗜事、都て土たる者の道とす、 士徳とは、 の嗜なく。 大に 此 數 す。 恥べ 故 士たる者は、 を 12, 殊に 立 世俗 平 き事ならず て、 衣 日禮義作法を亂さず、義理を守り、其下を憐み惠むべきは勿論 武業の家なれば、 に美 服 譜代 然共 家宅 農工商三民の上に立て、道を學び尊敬せらるく者なれば、土徳なくては叶は む所 の家 Po 士たる者の道を欠ぬ故に貧乏を恥る事なしい 抔、 の萬 人を多く 通例 一福長者を願ふ心あらば、 其身上に應じ、 0 外の飾を用 養 21 置 て、 ひず、 或 家 武具馬具を揃、 0 いつも古代の質素を守り、 __ 大事 大身也といへども、 12 主用を立させんと 成べ 是士道の富貴なる 是ものづか き程 は 武形に 餘計 の事、 財査を求 をも 心掛 ら貧の體なれば、 して士魂なさ人 るを第 暫 貯 故なり、若 時 るに事な B 忠孝の 大 の本 身な

綾維 50 を用 叉 云 ひず、 士 0 麻を用ゆるは潔なり、 魂 は 潔 < 切 目 折 目 IE. 糊强くして、 しく、 柔弱 な 切目折目正しく、 るべかざるもの也、 柔弱ならぬは、 仍て士 一の醴 服 を麻 士魂に似たるな E

は、 せ、 叉云、 銘々の心底を真直に詞に出す様に仕置をすべし、 東照宮上意に、 敷 ものなり、 家司は勇を取立さする社よけれ、諸人の頭 又上意に、 靜謐 の世 程 諸士 **10世より六ヶ敷は治世の仕置ぞ、** 一の頭 の下らぬ様に を押へ、自身の威を付んとする あしらへ、 勇氣を 然れども家も V さめ 振 は

利勘卑劣の事。

賄賂追從の贈物幷振舞の事。

家中拜借金利付取立の事。

賭の諸勝負の事。

諸殺生一腰指の事。

勝手役人各別稱美立身多き事。

勝手向役人自分の勝手よく成事。

家中の士金子を上ゲ加増を贈り格式昇進の事。

町人百姓金子をあげ士に成事。

廉直の士時に逢ず用ひられざる事。

武用の事遠慮過候事。

重

を磨き擘を張

士上

向

様子宜からず事。

右

の類、 枚擧する 昇 終 夜 話 12 暇あらず、今其一二を擧るのみ餘は準知有べし。 下 篇 卷之三

猪狩鷹 野 21 事 答 せ、 進 退 0 来 配 を知らしめ、 諸 土 のか H 引 士 魂 0 有 無を可見 事。

狩 場 先 21 て、 番 頭 物 頭 物 奉 行 等 采 配 0 樣 子 可 見 事

狩 場 先 21 て 諸士へ 山 Щ 地 利 道路 の案内に 尋 玉 ふべ き事

近 習 0 士抔へ、折ふし時 歸り等 0 消 だ 3 し命 ぜらるべき事。

家 中門 塀 なき家は、 山 林 0 雜 木 を賜 5 門 塀 建さすべ き事

騎馬以上の者馬建さすべき事。

近 領 百 姓 騷 動 0 節、 加 勢 并 12 領 分 境 固 8 人數 として、 士 幷足輕以下迄、 一手二千程づく年 々繰

町人百姓等士へ無禮せざる様に折ふし可申付事。

廻

し申

付、

武

具、

馬

具調

^,

行軍

備

立平

均可

有

事

下 々より 取 寸. 者は、勺才 厘毛を捨、 渡し 物 は豐に 可 渡旨、 勝手 向諸役人へ可申 付

武 具 馬 具 0) 細 I. 人 不 足 あら ば、 他 方より 招き 城下 町 77 田 差置 事

城 內 馬 場 并 家 中 崖 敷 V) 內 にて は、 武 具を 堅 8 馬 Ŀ の業 初 修 練 川 有 北

折 右 4 0) 類、 士 0 規模 逸 k 枚 あらば、 學 す 3 士魂より規模 12 眼 あ らず、 譬數 の布事無れば、 + 百 條 を 聖 士魂 3 共、 眠 君主 るもの也、 0 心 爱 治世の士は、 12 事 らな ざれ 勤て折 ば 益 なし、 々規模さ

ちしむべし。

士 凡 士 0 5 5 魂自ら張べし。 誰 御 利を以て下を唱、下を損じて上を益の類、 又云、 或は 法と か利に走らざる者あらんや、斯の如くならば土魂を育はんと欲する共、 家 城郭 違るは何ぞや、 にても、 國家に君として、下の患難を救ひ賑すは、定りたる道なり、諸侯方の領地、風水、 火災等 家中 の變有は、公所より拜借金石事あ 忠難 利付なれ の救 は如 ば、 此 一旦教に似 なるべし、 一切に禁じて行はれずんば、人皆廉を知て、 然るに家中の救に、 て、 質は 5 皆利なし年賦上納也、 下を損 て、 上を益、 利付の貸し金有家 能く 利を以 實に御 欲する所 て下 B 救 あり、 義に の道 * を唱 得 早損 向 い 川 h 也、 公所 P 諸 ^ 打

に有 是を害する事とを學 交 云、 狮 諸士の義理を勵まし、 有 12 あらず、 て、 左に是を記す、 されば彼是と其 士魂を育事、難に似て易く、易に似て難し、 餘は是を以て類推有べし。 條目を擧べさに 非ず、 然共今一二、士魂を養ふべき方法と、 其忍の心の存亡する所

義氣を勵し士魂を育類

義を重んじ利を輕くする類の事。

一 恥を知らしむれば義に向ふ事。

軍法操練有べき事。

一武器調へ有べき事。

昇

平

夜

話

T

篇

卷

之

Service Service

織

8 利 勘 先づ 卑 利 劣の 病を除き、 事なくして、 義を 其上に諸士の 主 張 L 丢 ふにしく 義 氣を勵して、 はなし、 勝 手 士魂を養 向 諸 役 人 ひ玉ふに専らなくば、 取扱は、 大方利勘 な 3 3 のづか 者 也、 ら煙 E 聊

水

解

るが

如くにして、

譬貧

にても、

魂

は清

水で洗

72

る様なるべ

\$ を順 又云、 す事 n あ 小利 5 た る を 上 を見 上 好 行 好 み へば下 徒 る事勿れと宣ひ、益を乞に及で倦事 12 玉 12 非 ^ ば、 盆 3 習 なし、 時 るは、 出 は 3 又速效を ___ 所 自 日 0 政 然 士 魂を 事 0 道 好めば、 勵 皆 理 まさ 士 な 魂 5 必ず るとい 0 藥 諸 勿れ 退 石 士 屈 0) ならずと云事 ^ 共、 士魂 と宣 L て、 ~ b . を勵ますは、 他 其事 12 士 一般す、 なし、 魂 を害 す 上 夫子も速なる事を欲 君 好 3 0 事 心に T 0) 8 多 あり、 0 一く出 あ n て、 ば、 君能 下 す < る 日 其 士 事 敷 魂 勵

樣子 12 4 る 立 立 難き者 すべ 威 叉 8 を察す を 0 云 屋 輕 敷也、 んじ、 る あらば、 若 事 中 0 又 あ 他 取 1: 士 5 0 0 替 11 屋 敷、 屋 盗 恥 抔 林 を 敷 賊 あ 0) は、 抔 雜 必ず門屏を立さしむべし、 殘 5 すべ Ĺ 木 の家中 家居 12 17 T からず、 淺 B は へ入る基なり、 間 賜 兎もあれ、 るべ な 又門 3 L は 屏 恥 常に 外向の非常を防ぐ門塀無んば有べからず、 唇 \$ 也、 城 なく、 据上 0 \$ 略 戰 他 生 國 方 L は成難さものも、 の者 たる物 垣 12 7 抔 なれ は、 抔 を、 見 ば 敵 T かきあ は、 0 陣 百 淺 門は必ず有べ 姓 拂 間 げ 屋 L と云、 敷 た に武 12 る 跡 8 備 搔 異 * 0 見 事 心 上 叉居は氣 げ な て、 掛 若 な 0 しと 敵 し門 略 F 0 L

すと云は、

士魂を育ふ一

事

共

成べし。

ば、 な 疑 て、 0 * て、 あ る n 12 な 直さを 不 8 ば 防 な ふさい 5 簡 却て 彼 き事 IE. 共、 行 Ŀ \$ 0 を 所 於」爰害をなすを憂て、是を留 醫 留 は を 易 也、 利 求 怨み憤 を押破 を知 るしなり、 正 12 12 害 ば 病 難 る 一盃の水を以て、一車 力を を増 其 から は、 す L 水 0 て治め らば、 ار 0 弊 毒 6 始 を なり、 5 理 用 氣 のなり、 常人 救 彌 W 1 0 彼所 表正 易 な 影 U る 地 深 3 く成 すが 3 君子 B は な 中 21 0 5, より 惡く取り扱ば、 直 しければ 下 を止れば、 所 て、 功を は 12 君 か しく成 ^ 斗 して、 らざる 源 何 涌 子 治すべ 薪 3 見 事 と常 は 出 月を付 ものなり、 影正し、 僅 る B る の火に勝事を得ざるが如し、 此處 事 本 人と、 は な 防ぐに、 は 欲する所を決て得難き事なり、 暫く略 を勤 速な からざる る 僅 物 に溢 激 て、 21 源澄 其目 故 5 る故、 細 して却て勢を れて、 常人は其 7 君子は下を正さん迚は、 上 なれ 譬ば 12 時 付 0 功 先づ * 弊る 至 ども、 は 不 所 防ぎ留 るべ 流 正を顧ず、 用 水 違 表 れ清き の溢るし先々斗り防 て、 る を 1 防ぐ 事 Ļ 增 木を 事 流 勞せ る事 事 少 あ 0 總て 直 < は、 末 は れば、 あり、 くすべ 必然 12 ずし 凡 下斗 L を得ず、 弊と云 て、 何 源 至 りを索 就 を防 の道理、 其 徒 事も盛りに成たる上にては、 T T ては下 其本たる上を正す 其驗 L は、 12 0 功 1 如 利 8 本 あ 表 を尋 大石 を防 を見 21 此 ると、 8 がんとする故、 0 答る故、 0 木 疑 しく は、 す 気無ら事 利病を除んとならば、 直 る事 求 n を轉し堤を から 勞し めて、 んと、 か は ば、 何 なさ 大 事 6 なり、 正敷は な 7 8 水 故、 其 5 事 本 益 末 0 此 * 押 末 77 な ^ 勢 い所を防 8 此 總じ 至 に就 令せざれ ならずし 知 籠 切 先影の U 道 勢 T n T (1) 理 逆立 容易 ば弊 て治 7 治 うら 12 0 F 源 る げ 成

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

事 也 B H 4 に非 なるべし 但 L 其 本元を云ば、 私欲 に引れ Ŀ に目を付、 0) 程 を忘る しより 起 る事

向 ならぬ 叉 云、 事 昔 は 北 v か 條 やち 時 賴 75 0 母、 引 下 松下 3 な 禪 る 事 尼 手 L づか T \$ 6 障 格 子 禄 0 0 破 障 を繕 5 21 なら は n と云 ¥2 手 本とすべ ^ 5, 聊 Ļ にて 殊勝 8 費 な を る 厭 CI 事 叉表

工魂

魂は 1 CI 1 恐 時 戰 節 清 るし 國 此 には 時 故 水 で洗 12 B 當 深 武士たる者は、 士 ~ か 道 T と云 を磨 は、 らず、 < は 君 主 共 事 清 能 Ŀ は 何 く潔さを < 治 人 方へ 士 世 0 勸 魂 久 敷 を待 を 行つても賞翫 云 育 ず、 吝 也 23 な 玉 人も 治 只 ふに 可 世 非 奢 21 に預り、 畏 は侍 す 5 は Ĺ 利 T 無 0 病 農工 は 益 規 な 模 0 50 士 費 有 商 道 用 事 の敬 多く H 少 き故 U 4 成 12 恐るく事 T 破 n 士 頻 道 拾 各別 25 るべ 0 利 勵 4 にして、 を 薄く、 尊 古諺 CK 三民 規模 25 義 を 士 0 有 0 敬 失

今急に義を主張するといへども、 士 丰 張 魂 を失 或人 す 3 て、 云、 17 L < 凡そ變世の流弊、 士道 は なし、 立 ず、 義さへ 利病を治せんとならば、 國 主張 其 家 せば の勢微にして の一大恵事 利 病 は た 自 る者 は、 ら治 利 其の驗有 を すべ は 防ぐ事 利 Ļ 病 なら、 は、 べからず、 但 1 暫 利 利 盛 病 < 略 なれば義 は 譬 华 て、 一へ元來 久 U 利 1 廢 12 す、 水 反 は 染 す 義 火 入 る 22 た 廢 所 勝 す る 0 がべき物 n 病 儀 也、

成 25 杰 3 す 仰 とだ。 行 0 上をさ n 申 叉云、 出 ば Ŀ 3 尤な る 礼 紀 L H n 賴 州 あ n げ تع 官 E 賴 de 卿 B 宣 1 仰 卿、 人馬 餘 人 H 詩候 御勝 馬 る * は 減 15 手 ^ ば、 らし 0 人 不 馬 沙 如意にて、 候 奢度とも は 汰なく、 は 共 0 1. 儘持 其 諸 御家 相 成 計 0 人 らず さす 迷 中知行 出 目 惑 ~ しけ 事なりとの仰にて、 21 四つ物 Ļ T 己が る 人馬 由 内 成 人馬 所 の上を借玉 ^ 5 0 i 驕 减 を 候 小 三年目に上げ 其 0 面 御 ひし時、 k 0 21 出 沙 T 汰 目 仕 12 被 る 萬事儉約可 て、 仰 米御 ~ 出 L 勝 赦 手 候 免 四 0 あ 便 ٤ 仕候 2 物 b 6

3 72 る 國 3 玔 0 瑚 叉云、 貴 此 樹 賤、 を緒 FII 或諸 籠 皆 a は 12 恐 薬を 侯、 して腰 n よく 世に T 花 美 持 賢 にさげ を 也、 一君と稱 禁 是を たる ぜ L す とな を、 る君 下げよとて、 侯 あ 50 見 りしに、 谷 8 黑 6 其家老 塗 n 0 即 他 籠 H の子弟、 12 25 其 木 人を前 年若 鯚 子 を緒 な ~ るが、 呼 で、 a いし 汝は 蒔 7 繪 賜 FIJ 0 9 籠 即 H 籠 を 好 ٤ 夫よ 見 大な

頃 庫 胄 1 0 斗 軍 時 3 叉 裝 云 L 25 長門 き事 束 T 御 大 0 な 守 供 阪 短 4 看 あ 夏 事 せ 3 御 古 * 庫 L しとな t 知 8 12 5 ~ 0 辿、 太平 し、 將 5 軍 況や 紙 叉 家 (1) 弊 加 總 1. 賀 45 33 御 斯 織 0 庫 H 家 有 0 6 を 12, 4 衣 臣 御 とは 服 17 巡 銃 見 知 山 飲 玉 0 りながら、 食 崎 時、 0 中 長 門 家 本 12 守 3 作 3 跡 とい 等 佐 是を改めずして、 25 あ 渡 侯 花 る U を其 美 も出ら 3 名高 湿 家 L 12 n き直 納 L 12 無 8 風俗 用 H 功 5 **滥帷** 0 0 日 事 者 4 21 あ 子 を着 17 5 金 敗 銀 12 n を費 大阪 L 其 御 國 L

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

===

織

外 他 衣 方 食住 は兎もあれ角も 儉 約を可」用事は、 あれ、 一家中の掟、如此成べし、畢竟美服を好は、自分の遊等に用ゆるなり、 各其部中に分ち入りね、併せ考ふべ 此

宜しとぞ かっ 義 t j. かてほ 21 0 21 事 目 其國にて登城の時、 21 1 叉 を付、 de B T 云 しけるを、 云 出 あ は 東照宮御 5 來 7. 身 T 何れ 0 1 身の ほどを知らず、 禍辱にも及ぶ也と宜ひしとなり、 其主君鷹野歸 在世 を聞度と仰 程 世の時、 あ を知 かねの木綿羽織を着しけるが、路次にて雨に逢、 n 御近習の若き衆に、 あ 夫故 汝等 りに是を見て、 りしに、何れ 自ら 常に是を忘るべからずと上意 い驕り高 をも承り度と申 ぶり、 あかねは日にほせば色の替 汝ら身を保つに肝 或諸侯家老某と云者、 物毎に華美を事とする せば、 ありしとな 五字に 変の語 萬石以上の身 濡ける程に、 て云 る物で、 あり、五字にてもあり、七 程 3 12 は 當 7. 取 家 世 を り入させよと 0 ウ 玄關 にて 持崩 ~ 人 大 ヲミ ありし の扉 方 12

程 益 叉云、 く傾み、 心怠と云ものと成て、萬 いつと云隙 右 御 近習 東 我儘 照 宮、 もなく付ものだ、 へ東 せぬ様にと示 駿府 不照宮御 75 被成 敎 づ悪 訓 御 し玉へりとぞ。 あ 事出來ると合點して、前方に用心を構へ、 我心にさして奢 りし 座 L は、 時、 主の 江戶 台 目 見よけ 一德院 る共覺えぬ様なれ共、 殿 より、 n ば、 我知らず奢の心 御 用 の儀 他人の目に 有 て、 主 の氣 御 付 事、 近 に入 は能 習の 古 一今の 3 く見 內 壹 懇に ゆる 人情 人被遣け もの 預 也、 3

ig 1. Ŀ は 扨 12 113 伽 途 1.1 羅 徒 F 义 (1) 男 支 什 伽 共 油 若 羅 度 12 店 伽 候 足 4 黨 袋 を 羅 共 手 抔 は 0 油 店 前 は 0 21 油 1 な 0 2 \$ ---4 と仕 終 7 者 里 義 申 4 0 號 21 V2 は 從 づ 21 中 る 候 け 見 かっ T は 用 間 4 七 5 21 1 掛 付 申 U 0 事 八 看 6 3 類 + 申 22 板 木 す 應 年 を 水 候 致 21 綿 數 候 以 出 0 2 足 4 其 3 前 袋 皮 す 是 共 迄 入 -12 且 節 21 を 及 用 用 致 叉 8 あ 時 は 13 -す 前 L 1/m 6 代 23 < 羅 今 候 21 髮 申 候 T な 用 から 揉 立 處 時 0) 候 る 8 油 あ 0 21 樣 U 其 げ を 申 人 兒 1 21 辈 以 用 相 た は 0 1 木 1 は 頰 性 綿 P る 12 成 儀 L 候 抔 21 足 6 革 船 げ 袋 申 得 21 候 は ば 燭 各 * 候 足 文 8 T 袋 候 -1 0 は 别 用 元 藥 流 右 à 申 0 2 を 其 直 見 3 1 結 種 革 段、 油 外 文 2 足 6 屋 72 21 老 以 袋 申 12 Ŀ T 侍 下 高 義 T 來 0 6 とき 迄 足 節 直 B 調 0 中 12 袋 は 27 申 候 W 店 成 以 12 前 故 3 b 年 2 皮 3 申 屋 25 岩 8 有 は 付 今 之 無 4 12 義 松 候 男 T 之 時 は 事 脂 得 始 末 0 相 0 整 樣 髮 4 25 抔 共 6 油 な * 候 申 0) 候 者 先 る 加 抔

紬 3 士 5 6 12 žΙ 違 取 T 庫 戶 U 叉 6 云 失 屋 0) 上 居 衣 住 U 下 服 居 諸 T 所 は を 等 0) + 麻 心 心 は T. 21 な 得 8 得 Fi 詰 用 大 な 入 元 6 25 來 用 U す 替 ば 多 る 庫 袴 屋 8 82 8 萬 事 8 る 2 0 夏 な 唱 事 な は 大 n 5 V N 郡 か 來 方 共 内 樣 n 無 は 人 4 益 12 6 借 0 B 0 4 金 類 瞢 陣 不 0 L 自 屋 心 T 用 冬は 多 5 得 難 由 唱 告 < L 儀 棧 T か を 21 留 志 借 6 及 類 餘 金 は n は 25 勢 する 21 1 0 戰 ば 難 心 望 儀 國 得 士 3 陣 す は 0 0 る 有 小 告 0) 衣 な 屋 4 21 服 る 敷 借 達 D 12 な 住. 金 72 不 L 3 12 る 居 足 故 は 0 と云 今 及 衣 心 也 は 30 服 を 12 陣 失 尤 8 間 7 勤 屋 3 YT. 敷 は 間 向 0 な 戶 な 古 敷 は は 5 称 事 在 絹 諸 を な 所

.昇

严

夜

話

下

篇

卷

之

Ξ

得 違 なり。

は んが 叉云、 叉 云、 12 治 都 平 7 家 儉 0 約 要 儉 と云 約 日 奉 を 用 事 身 は道 W 欲儉 筋 事 を 立、法欲 正 50 シ約 禮 義 を 衣 服 も義 飲食器用居 理 を も整 所一 ^, 切、用一儉 叉相 應 12 約一去 人に惠 奢 み 施 侈 則家富矣。

爲

日

る

な

12 場 道 1 借 12 4 12 4 應じ 0 具 屋 金 ٤ 買 玄 多 縣 叉 杵 0 米 夫 It 掛 T 云、 似合 外 飯、 12 同 0 5 應じ 當 事 治 抔 鹽 何 12 を 敷 世 5 て、 て、 た 0 0 物 B 0 ると 無 か 士 L を 益 さ立立 當 屋 取 は 云 な 分用 根 不 訓 大 迄 る 7 抔 義 身 望 -小 0 0) 0 多 理 1 思 足 は 雨 外 妻 臣 聞 下 世 3 U る 子 共 白 2 を忘 を ~ を 21 0 洩らね 專 3 失 身 見 0 故、 用 क्ष n 2 部 分 ず * とし、 رت 21 を そう にばよし 大 宜 至 飾 料 小 な 敷 6 飯 身 理 餘 5 せ 勢 とし、 12, 共 好 h 家 3 12 0) 戰 2 居 食 器 知 國 0 衣 V2 を 敷物 好 榮 か 行 服 0 を 求 味 事 耀 B 0 す す、 曾 物 B は 奇 な る 7+ 成 ね 云 75 麗 事 12 衣 12 を 2 費 を だ縁 T な 服 及 添 多 好 ず、 事 み、 4 T 0 綺羅 給 足 り取 能 戰 家 3 6 知 せ 馬 1 * 6 國 財 行 よき岩 な 飾 を 近 諸 しとな 0 b 用 3 4 道 功 事 U 世 成 具 多 其 な 黨 ¥2 0 21 頃 れば、 鑓 士 T は は 事 家 持 重 食 を 足 居 家 家 家 扶 事 6 0 持 財 ず 0) B 作 奇 下 戰 諸 雕 L 8

末 屋、 4 迄男 元結 叉 云 力女共に、 落 店 抔 穗 申 集 義 5 皆 は 云 一本革 寫 本 -軒 12 足袋より \$ 見 七 當 1-外に 华 3 申 斗 用 さず 6 以 N 申 事 前 っさず候の 12 21 候、 は 子 御 0) 所 細 當 12 は 地 事江な戸 酉年 大 火 10 大 事 0 火 HT 事 明 中 後、 曆 12 以 て、 諸人共 前 0) 足袋 義 12 は、 屋、 革 大 香 名 33 そ 具 織 初 屋、 事 8 頭 油

て、 へたる金 上の良藥と心得、無上 銀を、 子 21 讓 て見 小 れば、其 慾の 聞 、さいふに納て、無慈悲の鎖を下し、 f は 毒 で中 5 却 て貧病 21 劣 3 事 de 何心なく あ 此 貯へ 毒 を たらば、 能 か 4 分ずし 覺え

す

毒氣に中

らし

事、

必然たるべしと云

4 なり 用 12 な 3 無益 多 4 只 3 取 共 又云、 無用 0 金 3 銀 事にも、 出 金銀 集 無益 L 0 番をし て、 其樣 0 米錢 事に費 是を 情氣なく取散し、 有ば有次第蒔散し、 て、 は、 0 握 手 出 閊 す 世 5 を厭 3 請 0) 無 ¥2 21 樣 寳 は客嗇 U. 也、 し、 にす 是を用 手 3 常に是を貯 なり、 放 は す ゆるに善惡あり、 事 誠 叉 * 0 金 儉 嫌 へ置、 銀 約 U, 米銭を な 发は 分に 5 身のすり切と成は、 應じ人 又金銀 造 財 寶用 金銀 U 散 を救 米錢 米錢の重實なる事を能く辨 す ひずして不 事 をば、 の重 ふ事 賓 8 大なるうつけ者なりと云 湯 せず、 成 叶と云節は、毛 水 3 を造 事 を知 自 3 分 如 0) て < 用 頭情む心 B V à 事 を欠 が 上

冠昏 稱 隨 は、 て蓄置 喪祭、 三年 叉云、 勝手取直 ~ 12 水 しと云へり、 L 四民共に、 、旱、風 て 年 を 蟲 云立 0 盜賊 其年 な 然に 5 77 我家に入所の財 して、仁義を忘れ、 、火災等 は 右の U 出 心 來 0 得 る 備 を取 也、 は 人 6 是を以て、 を四ッ分けて、一分を餘し、 失 家 利欲に拘り、 N 12 必 萬端 す 吉凶 有 べき 内 不 所 人馬等も分限相應に嗜ざるは、 勝 B 慮 手 0 0) なれ 變 间 を助 0 ば、 事 三分にて一年 < 12 力 は る 事、 物 0 及ぶ を 費 古 丈 0 一の備用 け 定 表 は n 面 3 大なる を調 右 法 は 儉 0 約 法 る時 il 12

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

謀 當て 也 財 るに 費 を惜ず、 叉云、 は、 を思 我 非ず、 0 如何 CI 萬 儉約 へるにも儉 は 凡 事 か 12 一般に處 我欲 とは 客を制するの類 りて 道 好事にも用ひず、 す 0 損失を施 12 3 理 從 に叶 I U 夫、 を云、 おず、以、義制、事、以、禮制、心、可、用理 U つどまや 情欲 た る いかにもして財を多く聚る業 與ふべき筋目と、 を制 事 B かにして奢侈をなさず、 するに あ 5 増に あ 5 も儉 親戚、朋友、 情 欲 21 背きた 0 為 12 財 制 る事 を用 0 みを、 せらるべ 困饑の人を救 に當ては用 あり、 ゆるに、 儉約と日 からずと云 儉約 無益 い、用ひまじき理に 思ひ ふに、 を 行 0 なば、 費を省き、 は 利 分に 欲 應じて 0 N 爲 为 12 事

5 51 る は 有を惡と知りながら、改るにしわき、是等を吝と云、如此 少し をも 叉云、 も惜ず、利欲を貪る事を知て、仁義 顧 吝嗇 す、 理に當 とは、 T をし de ひと讀 只手 前 て、 へ取る事 しわ き事 のみ好み、 ある事を知 を云、 親 與 らず 戚朋友の困窮を見ても救ふ心なく、 ふべ 人は、 き理 るなり。 12 衣食、 當て も與 淫事の情欲に、 へず、 人の苦み損 財を用 叉我 失とな 身過 炒 3

参の て、 金も一合の米には劣れり、末期の一句に至ては萬金も一滴の水には及ず、 用 彼藥 此故 CA 方 12 或か 似 77 21 古 似 た る物 な書 人も、 た 5 の書に あ 財は 今世、 5 本草 身 云、 * 暄 陷 嘩、 砒 無故、醫者 る穽 霜 口論、 班 猫 也と恐れ、 の大毒は、 も不」知」之、名付 公事 訴 浮る雲の如しと云へり、 訟、 其病 博 戲 12 7 非 金銀錢 れば、 盗賊 醫者 切 と云、 0 悪 も猥 一生しわく、 大毒 難 事 風 75 に漂 用 此 あ 金 5 ひず、 ふ船 銀 錢 功 義を忘れて、 服藥 中 12 能 寄らざるは 有 にては、千 वा に非 附 ずし 子 人

昇 平 夜 話 下篇卷之三

節儉

儉

約

の訣、

吝嗇

の子細、上篇

に記す、

併考べし。

ば、 珠 を用 法 ば、 らく、以」身教者從、以」言教者訟と、官長身正しければ、 3 玉 服 虚 節儉 一有て、 言語を以て教ゆといへども、其下爭以訟て心服せず、號令しばく下れ共、 敷 官 或 7 行は 長其 人云、 法 乘のみならんやと謂れしかば、 廉直の士を撰で、官にあらしむるにしくはなし、 に用られず、 車の前後十二 れず、 日 人に非ればなり、元より國政は法令を欠べからずと雖、 古より太平百年に及べ 々に治平なるべし、されば天下の賓は、人材 只其 左樣 人人を得 乗を照すとて、齊の威王に誇られしかば、 の人多く官に て、 法を人 は、 恵王にも恥る色有りしと云。 大方は奢侈風をなすと云、 あ に委ねて行はしむれば、 り、事に任せば、國 一官の人畏愼で自ら從へ、 に過 號令科條の及ぶべきに 政 たるも 何 の滯 時により 威王寡人四臣有て千里を照す、 法は人を以て行は 今奢侈を押、 る事 のなし、 事に依 か あ 梁惠 らん、 非ず、 て變通 彌國政に成 儉素を算ばんとなら 王、 法 る、 官長正しからね も行 第五 吾國 す 人なければ る に經 は 故 て治 倫に 12 寸の り難 云へ 浆 法 何

昇

平夜

話

下篇

卷之三

應じて誤る事なし、徒に末を治る事を勤れば、心力を盡して却て誤る事多し、況や身を治め、家を齊 の人少じく學で、未だ熟せざる者を見て、學問は勞して益少さものと思ふは誤りなり。 あり、然共、 へ、人を治る道は、一に學問にあり、扨又學問の功は、少く學ば少しく益あり、大に學ぶ時は大に益 五穀も熟せざれは美稗に非ず、學問も又熟するに非ずしては、 其印を見る事少し、 世

叉云、駿臺雜話に、武運の稽古と云事を云へり、武士たるものは此稽古一刻も怠るまじきなり。

は普く習知るべし、一事も知らざれば、 變に應じ難き事也。

叉云、 五兵の内、 義兵、 應兵は君子の用る處なり、 念兵、 騎兵、 **貪兵は君子の用ざる處、**

用ゆる處なり。

て生を惜み、 て生を輕ず、 叉云、 勇士 耻を知らず、忠に非ず、學問して義理に精しければ、此二つの失なし。 孝 に非ず、 は 命 を捨る事難からず、 犬死なり、武とするに足らず、 捨て道に當る事難し、死すべからずして死するは、 勇なさ人は死すべくして死せず、 是義 仁に に背き 背き

を捨・ 叉云、 戰 U 死するは不忠不孝なり、 人の一言を答て口論し、 小なる義を勵て、けなげ立をして、道理なき事に身を忘れ、君父 學問せずして、 仁義忠孝の道を知らず、 惜むべき命を拾て、 道理

72

背く

は

愚なり。

を知らず道具を備ず、軍用乏敷しては、譬ひ心は猛く共、武勇の勤成がたしと云へり。 叉云、 武士 た る者は、 忠孝 義理の志なくして、 武 勇疎 かに節義欠て、 奉公の道立ず、 又兵術武藝

本とは 處するといへ共、 とせば、徒に 叉云、 何 だ、 士たる者の務甚多し、區々たる細事に至ては、勝て數べからず、逸々推し極 學問 心力を盡 當らざる事 是なり、 L 學問 歳月を經ると云へ共、遂に得る日有べからず、然ば先づ本を務るに 有べからず、 21 仍て智開 凡事其本を治る事は、 け、 道明らか に成成 に至 簡易にして然も順なる故に、 ては、 何等 0 事 に應じ、 め知り盡さん 何等 萬事に 如ず、 0) 事に

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之二

Ŀ をよしとすれば、 云 に引受て修行とするを、 如く武 士は暇なき身なれば、博學を心儘にする事成難し、 只博きの 學問 みにて、是を約にする事を知らざれば、雜學と云ものに成て益なし、 の本意とする也、强ちに多さを貪るべからず、尤聖人の 縦博學ならず共、語孟二書に通じ、聖 教にも、 前に

の道なり。 文武其事同じからず共、其道理は一にして、文は仁の發なり、武は義の發 也、 仁義は聖人

有用の實德質材を成すに足るべし、

の意味血脉を知て、人倫日用を目當とせば、

事 學 問するは本を務る也、藝術を學ぶは末に達する也。 0 用に叶 叉云、 はず、 士は農工商三民の上に居て、民を治る位有ば、農工商の 廣く事を學ぶべし、但し本を先にし末を後にし、前後の次第に從て博く學ぶべし、 一事 藝に専なるが如にては、 萬

す、本 徳は用力 物 を兵法と云、弓馬、鎗刀の術は兵法の末也、是を武藝と云、兵法は仁義を本とし、武藝は 又云、武に本末あり、忠孝義勇は兵法の本也、是を武徳と云、人數を配り、兵行くは軍 兼 なさ る事 末 共 に備 を得ずんば、 もの也、 るをよしとす、此三ッ 仁義 忠孝 の心 あれば、勇氣 義理の徳を勵むべし、 の本末有を知り、其序を分ち、 は自 ら出 るな 武藝には達する共、忠孝なき臆病人ならば、其武 輕重 を知て學ぶべし、 灭 若三ッの 法也、 法を本と 是

又云、武德なければ、武の道立ず、武藝なければ、敵と戰て功なし難し、武藝も品あり、大やう

み か 士 は君 にて史に通ぜざれば、古今に暗くして用に達せず、 らざれば、 又云、學問は經書を本とし、暇あらば史學をすべし、經書は道に通じ、 に仕 る 皆儒 の暇、習はずして叶はざるは武文の藝也、 者仕立 にはならぬ事 也、 學術正敷、 師に就て有用の實德、 又經學なく史學に偏なれば、 其餘世務繁く家中多くして、學問 質材を成べし、 史學は古を知る、 道理に暗、 に用 徒に 經學の 但し る暇 記 誦 3 K

詩

章に流

るべ

からざるべ

異 ずして、道 22 說 らざるとあり、正しからざる學術と云ふも品々あり、詩文章を専ら勤とし、廣く古事來歷を存じ、奇 深志 の學問を好み、詞を飾り、人と多寡を爭以高ぶる學者あり、又博覧を事とし、 を多く見て、 叉云、 又云、學 文學博 を知る人は古今なき事 道を明らかに の筋を學術と云、 見識 4 なく **聖賢の書を周く讀** 義理 L 義理 に暗き學者あり、又文學拙く、異學を交へて正道 書を讀み學問する人は、同じく聖賢の書を讀共、 th. 17 委敷、 7 か 古今に通じて、 道を知らず人は有、 有用 の實徳質材をなすを目當とすべ 文學に通ぜず、 を 知らず 學術 經史に疎く、雜書 聖賢 の正敷と正しか の書を多く讀 あり、 只 、聖學 小

を學問とするは非也、斯 叉云、 心得て、 書を多く讀たる迄にて、 學問 は 人 倫 る用なき人を學者と思ひ、經史の學の實用有事を知らずして、無用 日 用 に益なしと思ふは、無學の者の不智故の了簡也、 道理 を知らず、 詩文を巧に作りたる迄にて、實用なき者あり、是 只一言半句に も今日の の學と同

昇

夜

F

篇

卷

之二

藝も有也、 譬ひ 軍學にても、 劒術にても、 多く有程とて是を倡ひ、 主張する事は、 藝師 のよくす

文 武

る所に非ず、人君

の任なり。

風 剛 國 あ 衰 也、 郡 世 つべき事必定なり、武の本意を知らざればなり、孝悌忠臣は云に及ず、武士の專にする所 を治 人 0 其義 是は學問と云事を、 の説に、 大事 る人は、 勇と云もの、道より出ざるは、 な 我は武 經書をも 人なり、 惡く聞覺て云傳へたる弊と見えたり、 辨て然るべし、 武をこそ專にすべけれ、 眞の義勇に非る事を知らずして、 夫より以下の士は、 文は學ぶに足らず、 知らで濟事也と云者、 此心得にては、其學ぶ所の武 斯は云なるべ 釆配 を取 十人に五 て人數 L は を 是も士 七人も 義 道 遭 理勇 をも

道 为 に三民 なれは、 爲 0 或 學問 人云、 0 上は 上に立武人をや、道を知らずして、武勇に一篇なれば、 也 學 王公大人より、下は賤き民に至る迄、 其道を古の聖人教置 問 ٤ は 何 事 を云 なれば、 玉へるを記 親に孝 し置た を行ひ、 凡人たる者は皆此 る書を學ぶ事也、 君 に忠をなし、 大人は亂を起し、 道を知らずしては 凡 聖人の教置玉ふ道は、 人倫 に交りて、 小人は盗賊とな 人に 道を 人倫の 非 行 はん

金出 知 て忘るべ して、 叉云、 或諸 からずと、 具 足 威す人は 侯 の家 なにて物 _ 筆 有 を 難 記 かっ 頭たりし者、 し其 3 ~ 具 Ļ 足 武 21 黄金十 具 添 は て、 格 家 别 兩にて、 0 21 物 殘 なれ L H 着 ると ば、 替 0 云 具 斯 足を威せしが、 は ^ 結 3 構 12 L た 3 今當 なり、 家中 子 孫 12 是程 我 心 * 0

1 など 小 行 0) 身 身 12 日 批 應じ、 0 0 4 か 士 叉 士 正 27 難 云 進 進 12 士 かっ 6 貧 5 11: 施 8 加 此 5 んや せ 乏 禄 變 或 5 77 褒美 21 諸 نے 困 就 長 侯 其 を施 中 す T 0 外 鉄 於 家 13 は 爱壯 炮、 L 中 0 L 武 却 藝、 大銃、 且 士 必 江 T 爭 正 中 無 型人 U 皆 備 益 年 0 連城 進 教 机 を 法 0 失 で、 應 を 事 場 出 銃 3 2 12 12 日を藝 の達 E 其 12 日 L を費 費 似 て、 中 * た 人 21 、巧手、 術 さず 火器、 宛 3 ٤ 12 盛 施 常常 愛し、 て、 大 L 同 王 欽 な 75 じ年 る 炮 心 ケ 遊 de 3 0) を用 々に競 年 術 Щ 0 觀 は 22 は る 水、 鹽 火 時 出て、 器 金銭 硝三千斤、 は、大旨 淫聲 鉄 * 炮 能 積 0 な 樂器、 ざれ 其 六 6 一藝の 鉛 救 子千貫目づくを、 を盡 君 ば 名目 修 共 常 L L 17 12 絕失 難き 難 12 宣 涉 藝也 る 我家 其 德 功

矢、 射等 は 沂 軍 在 度 叉 何 亨 云 抔 4 型 驷 21 見 7 12 何 5 玉 N. 7 玉 薄 型 8 2 板 21 每 其 此 的 T 節 抔、 心 21 B 得 0 衰 折 21 É 物 12 入賜 範 々見 る藝 て、 0 あ 人君 者、 るべ 玉 CI 5 L 马 倡 ば、 叉 矢携 王 門 或 人君 は 人の 1. は芝指矢、 供 厚 主張 中 < t 器用 L 心 を 8 せざる事 遠矢、 なるものは、 用 鳥 ひて主 魓 抔 火矢、 は 射 有 張 3 間 有 L 或 敷 物 ~ D L 也、 入 は 給 を賜 射 は 成 譬ば 貫 7. もの、 合 5 12 射 \$ 一藝衰た 打 修 0 叉は 任 づ 行 せ置 ול * 甲 るなら ら其 るれ ぜら 曺 變 着 主 用、 張 絕 或 根 禮 す

躰 * た 云、 0 有 6 勤 場 0 間 者 近 12 る 敷なり、 年遠 役 各 臨 0 樣 鉄 7 の由な 州 は、 12 炮 見ず 見 相 挺づく 5 何 良城受取 えしな 0 知 宛行 用 ず 持 3, 21 0 せて、 甚 の節、 de 是等 立 だ小分の者にて、常は耕作 を急 間 も治 外に 五 敷 12 なり、 十人斗り供 召 世 僕 抱、 從も 0 叉岡 今 或 日 な は 貸若 せし 部美濃侯 12 し、 は 鉄炮 を見 黨抔 能 き法 しに、 の家 持 を業として、 にては、 と云 た る者 には、 徒 ~ 0 B 人數を合せたると云迄にて、 甲賀士と云者、 甲 躰 軍用 賀 にて、 士 0 の外は仕 僕に 鉄 炮 てはな を役 百 3 人斗 にす 事なき郷 3 りあり、 彼侯 B 死 0 士 人生存亡 な の中間 と見 りと 忍役 文

是を 勿論 時 染 せて、 庭 廻 或 振 人 りたるもの成を、 し、 様子 厭 舞 屋 の答 叉 CI 3 飯を 敷 米 を聞 ار 同 廻 0 ば飯 人馬 C 6 直 以 其段 事 12 段 前 にな 家 次 多下 は三 21 7 12 居等 衣 は時 人々観世の餘風と斗 入、 服 ^ 直 百 事 事を欠ずばとあ 代柄と云 成處 B 石 も番着物と號 膳椀 濟 構 賜 なく、 21 た らし ると を 添 ものにて、 如 兩 なり、 何 て、 肴 御 け、 して左様 番 る意地 面 種 衆 左 にて 絹紬 り心得て有は、 4 は 樣 さして不審なき事也、 0 宿 に、厩 を専と存ず に物 \$ 何 など二ッニッ t 求 n 3 事 8 \$ の明かざる様には致されしや、 持 馬を持い * 得 質 寥 n るは、 ば、 致 大なる了簡違なりと云へ 朴 所 計 12 L 夫を汁 持致さい 給 致 にせられしょし、 皆是 L 合、 以前 其參 無用 机 權現樣御 12 は三百 申 付、 常 會 0 常 を 4 石位取 代、 號 近 0 0 其節 物 H 所 衣 三州以來の御家 入 て、 心 服 不審なる事也と云、 12 易き られ は寛成 は、 於 汁 2 講 相 布 たる、 たる公常 番衆 は、 と云 子 木 ふ、今 時に合 隨 小 綿 風 人を 分と 服 身の 0

6 取 迄 叉云、 不 残 地 仙 方 臺家 8 中の 領 す 事 知 21 行 T 取 りは、 藏 米 取 軍 役 6 と云 0 人を減 は、 曾 す T 3 な 事 8 嚴 事 敷 也 法 度 لح なり、 云 3 勿論 直 參 0 面 々は 鎗持 草

6 敷 7 或 7 0 3 臺 時 は 役 n は 知 ければ 是 6 臺 叉 州 そ 前 30 兼 21 所 何 云 て候 前 共 T かって、 常 御 來 H 云 5 れば P は 憲 勤 使 んず بخ 院 候 0 2 壁土 者 七 殿 問 藏 門 る 御 申 大 3 た 殿 12 * 折に 代 12 て問 12 n 驚 0 2 6 5 H 叔 用 士 V をこね n 72 松 3 は T 居ら لح ば、 立 平 は んと思 2 ~ 七 と云 1 居 n かい 藏 ふんに、 らる ける らず 藏 殿 とて、 殿 T 急 1 12 頓 を見 て 折 常 21 \equiv か ふし 何 4 て、 鳅 其 百 10 方 み を 門 嗒 よ 石 に人 H 置 中 5 を 有 て、 かい 領 n 間 ~ ば ぞと 8 使 L し 則 池、 あ 0 拙 來 御 心 らざり 七 得、 藏 者 6 或 書 W 殿 七 は 院 笑 藏 近 H る 薪 番 で n から を 21 4 を とか ば、 T 割 勤 3. 候と 其 此 5 殿 寄 頓 使 3 て、 樣 七臟 米を 勇 5 て立 士 は 松平 直 人、 殿 春 は V などせ 2 21 屋 狀 そこ发 敷 身 8 七 箱 藏 L を 如 弱 此 を 樣 と廻 る、 受 く持 中 御 取 間 屋

親 用 常 み厚く、 多 75 は 叉云、 農民 成 て、 恩儀 真 0 業 軍 田 譜 役 を答み、 伊 代 當 豆 侯家 0 5 若 0 黨 岩 主 中 0 12 黨 人 噂 均 12 常 て若 敷 * 聞 4 召 黨 21 大事 仕 入 家 難 用 の節 中 4 0 12 時 0 召 は、 副 斗 連 5 心と云者 7 能 賴 \$ 呼 母 仕 寄 しく、 方 多く有、 せ と云 て使 主 ~ ふ事 人の 皆小分 Ļ 也とぞ、 專途 右 の宛 0 * 如 今治 も見届け、 < 行 12 L て、 て、 世 八 代 鄉 敷 迯げ 村 4 召 次 に住 走る 仕 第 居し は 12 は 費 70

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之二

鍛錬 馬 21 T は 12 事 見 12 臨で 分美 人馬 しく、 共 12 拍 子 中 を 乘 4 達 事を以て、 者 12 は 成 騎 難 乘 し、 の道 馬上 足りのと思ふは諸邦皆同じ、 0 業 事 鍛 鍊 す ~ 右 0 如き稽古

貯 鼠 25 22 ても 持 巾 らざ 7 叉 着 馬 云、 きら 21 る 武 物 猫 人、 士 東 0 具きら 照宮 の道を失念し、 0 を磨くあり、 丸腰 如 し、 上 17 CK 意 叉上 2 q. 12 往 か 意に、 又家 疝 來 成 利潤 し、 あ 道 職 5 不 命を 武家として 21 を失 案 內 武 拘るは、 具、 失 CJ. な ふに n 物 ば 馬 武道 同 奢の の直 具 C 諸 は 怠 一段價 勿論 餘殃なり、 士 0 5 侈 の高下を論じ、 公家 樣子 と嗜 又上意に、 風 よき人 とを になるは、 取 より 達 又は ふる 武家に 數 多く 刀 家風微弱にして、 0 脇 也 差を代とな 生れて、 家 朝 來 夕 も身上 の 武 色 道 は 公家 思な 微 ょ 金銀 6 2 過分 るは の様 12 老

文 他 能 か る 方 あ 0 事 0 必 叉 n 客 事 定 大 村 ば、 なり、 B 方 1 御目 なら 紀 來 與 墨繪 州 3 兵 ず、 名前 12 付 衞 21 て三百 の讃 方 を 床 此 にて吟味させられ 召 並 0 12 義 21 し、 掛 物を求めたるも苦しからず、 何 B 石 又書 物 此 取 B の様 懸 段 6 H 付 目 0 侍、 ず、 差上 子、 付 共 書付 け 代 譬 しにい 12 n 金三 申 N 懸 ば、 聞、 にして出せしに、賴宣卿重て、人馬、兵具 馬 兩 3 賴 吟 迚 も並 12 \$ 官 味 T より 卿 掛 せよと仰 \equiv 去ながら過ぬ様にくと御意に 御 物 社 顏 は能馬、武具、下人迄 買 色和 0 求 託 出 け さる、 らぎ、 3 宣 そ \$ 掛 武道 與 賴 6 官 兵 n 衞 卿 0 V2 心 目付 B 丈夫に持、 被 懸 聞 0 也 あ 役 召 武 n 人 7 ば、 道 17 無 ---2 面 0 益 申 事濟け は 其 道 嗜 什 0 費 家 E 0 专 心が 有 穿 * 中 12 ると か 製 致 0 は 聞 H V 候 す

なし、 21 る人 せまじき 乘 叉云、 は、 馴 常に 82 事とは 起 \$ 諸 海 0 る 士以 は 事 邊 限 あ ならざるもの られ 下迄、 る領地 船 に醉 A3 T 事 船 は云に及ず、 也、 病 上の立走りを習はし 也、 人 常に とな 風 5 家 强 根 H 軍を出しては 用 ^ n 登 ば寢 21 9 文 馴 いいい 難 るより外はな n し。 Ļ 何國迄と云限りなければ、 V2 ものは、 船は波に隨て動搖するも Ĺ 登りたる迄にて、 戦は 臨 機 應變 0 海 立 物 0 JII なり、 働 なれ を船に乗らざ 成 ば 難 き如 船 必船 21 馴 軍 n る事 船 3 は

掛 效證 付 12 D ざる小祿 < る事 怠り有べからず、 臥 たるも 叉云、 怠て 7 を見 は 初 な 6, の士は 詮 身を安樂に 0 るもの多し、 0 近 程 方なし、 然ば騎 は、 代 0 自 別て馬をいたわらずして成り難し、 然と後 里 風 然ば 一數六 士も、 殊に物頭 儀 持なし、 にて、 楠 騎 E は -6 步行 遠路 里よ 歩と 成 H, 武 の壹度廻 物奉 型に 5 もに、 E の達者を心懸べし、肝 0 早 0 次 勝 行等は、 身を錬らざる故 道 もな 達者 負 りは士卒馴錬の手本なり。 第 多く 21 を心掛 る 增 何れ 也 は 7 步 8 戰 年 年 ~ 也 若 L 馬上の勝負を第一に鍛 也 玄 されば山道 石道等をば必ず歩行して、 重 きもの、 要の場にて、 達者 然共 7 强く劣り を心 時 暇 有て騎 少 日 たる生質の者も、 L を以て怠らざる時 掛 自身 0 3 券に には 戰 をな の歩行も成り難く、 も単 鍊 常に遠路、 有 す ~ 事 臥 し、 あ 3 修行 は 6 1 又乘 は、 常 の功に仍て、 不 險 達 常 替 山 4 馬 乘 騎 者 を * H 21 步 * 8 り馬 心 戰 生れ 掛薄 行 牽 0 V 疲 た す 世 心

は 詮なし、 武士 0 馬 は、 六歲 以下をよしとすと云。

5 等 主意 込の 樣、 て五 に家 右 軍 七 庫 T 思さを、 墨て、 小 行 輩 六里 叉云、 里 來 不足なき哉、 は 屋 出 持 軍、 次 招 數 立 迄 そ 21 子弟 次に 士 か 步行したると、 何 其. 具 ほどし 足着 同 馬 終 江 は け 造 足 21 常 . 夜 簑笠 着 1 N にて芝繋ぎ品々、 日 其 せ 在 中 樣 T 0 陣 も食し覺させて、 斗 否やのしらべなり、 中 所 戰 0 빏 にての行 未 小 體 屋敷 にて玄 6 場 屋 だ冑は着 作 4. 一會と號 知 の意を忘るまじきが爲也、 あ 草臥方の違、 る、 叉 組打 6. 0 中 軍 米 は 仕樣 大 ~ 鎧 ざる 出 け 飯 鞍堅 右何 槪 12 陣 7 (1) 常の飲 ん廻 着 行 配 夜 樣 れも行軍は庭を一ぺんづく廻る、僕從も夫々の 軍 毎 何 右 め品々、 0 若し不足の品あれば、年々一品づく取調 又頰當、 21 て、 ぞ 式 畢 式 年 五六里 夫より かい 1111 よ 夏 食に菜好 て首質機 間 中、 て草 6 4 等 數 馬上弓、炮、鎗 兜、 を步 を入 は 陣 武 胄まで着 71 且又武 T 具 何 仕 羽 などさせまじき爲なりと云へり、 佩楯抔の邪魔に成る様をも、 行 炊 樣 織 風 程と改め置、 する 入時 た 終 品品 具、馬具 Di. る 日 ir. たる行軍、 也、 21 笠、 多 分に、一 の納様、射、打、遺ひ様、 歸 足 常に 味 5 庫 裁 家來 終夜 曾 V2 式 付 祀、 次 度づく催 五 0 程 21 六里 なり、 甲 かき立汁 21 へ貸し物、 T 右 相 胄 0 の外 の時、 行 を 12 此 し、 步 T 軍 を皆 行 廻 平 日 ん爲也、 兜腰 其外貯へ出べき品 試み知らんとの事也 3 庭 日 次 同 L 出立に 叉或 計 た 12 流 4 0 馬 卷、 ると、 何 食 中 者 小 0 上 具足 又玄 軍 す 百 は 12 命 12 鎧 ぜら る 2 學 何 夜 T 召 甲 十个个 米飯 出立 中 事 腰 9 必みのに 胄 也 + ń 刀 連 U の拔 n 一の行 着し ん廻 そか の喰 組 着 其 0

を着 等を は、 大 事 る、 25 勿れ 引 21 諸書 せ遠 を見 遠 飛 不 派 事 て 自 乘 乘 を教 21 由 馴 22 すべ なる 見 させて、 損 水上を往來せる事抔教ゆべし、 12 10 置 あ は L べし、 事 5 平 今も相 也 是又平 必ず 牝 生 に近付 是平 上 同 十分の 馬 0 居 家の武 如く仕 生見習は 生教 同 食を仕 ても揚躍 置 肉 ずし 士 込む 12 せ は 込 す ざれ て、 びべ る事 牝 時 せざる様に仕込み置べし、古は は、 に乗 十一元 ば 事 し、當 勿れ、 もの 軍 12 中 着 臨 世 多し、 十二に て急に は、 抔 た 0) る にては 馬 中肉に飼立べし、 馬 は此 飛す 是古體の遺風なり、 は、 も驚き、 五疋も十 ならし 平生徒 る事 傍 は 無 匹も 足に 0 成 故 馬 難 和漢共に牝を乘馬 肥過る時は、早く汗し早く疲 て乗べ き事 8 ッツ 馬 驚 同 3 十五 也 厩へ追込置 士寄合ば し 8 十六に 21 0 沓をか 也 は と云 咬蹶 溝、 は、 に用 也、 H ^ して 十四四 50 時 堀 U T た 乘 々馬 切、 る事 12 馴 岸 は 鎧 す

缸 苦み 手 L なり、 12 て、 用 成 づからす なさ木 たる 21 叉 馬 拘 此意を以 る事 の持前 故 騎 0 n ば 馬 葉 12 士 也、 て、 類、 を持 72 あ 5 别 る 野草 ず、 何 12 如 難 者 き也 12 人 斯 は、 22 心 只 T の入る事 常 腕 得て飼立れば、 て飼立る馬 もよし、 馬 爪 4 0 は 馬 强きをよしとす。 なし、 元來 を持 食間 は、 詰 山 馬 野 敷 12 當世 形は痩て見苦しけれ共、 すべ 25 B 0 獣な 0 餇 き事 の如 は 3 5 自 物 世の奢に連て、人々三四 く物 6 は、 也、 野 は 野 然 4 草 入多からずして、馬 草、 出 玄 る 飼、 L 12 わら T 世 食 水 0 等 人を乗せて奔走する力は、天然に V2 中 を飲み、 of は 萬 云に 0 事 111 花 一歲 を持 及ず、 風 美 相 の若馬を好 雨を受け 27 安し、 馬 成 葛、 7. 0 法 爪 萩 馬 色 1 生を遂 共、 髪四足など 0 4 0 有 類 餇 武用に n 樣 叉は る者 共、 上

界

平

夜

話

F

篇

卷

之二

ず、 里、 + 冒 ば、 を 蹶 徒 八 < 乘 地 炮 は、 は には、 21 仕 飛 寸 は 道 L 廻 遠き 云に 込み 拔 は 17 發 越 T 21 糠豆 乗て、 身 世 る 7 騷 事 貝、 川渡し、 及 置 は 乘 如 0 0 を多く ず、 十六 太刀 双 馬 ば、 此 ~ を 十六七 太皷、 L 8 0 からず、 の失なる所 + 知らず、 旗 天氣 足裏 打 七 0 四 餇 差 然し 里、 水馬等を仕込み置べし、 て、 12 里を乗り 物 鑼 鎗 松 を 17 は、 二十 なが、 痛 鐘 馴し置べし、 合等をすべ 明 只 十六 肥 等、 馬 母 也、又、 て奔 牝 過 5 廻し、 衣 喇 四 0 には、 を見 る故 其 走不 叭 五 行 0 當世 類 等 外 里 儀 12 し、 馬 馴ざ 馬 異 B を崩 自 馬鎧 叉 其 六には、 0 類 乘 0 由 風 早く 是を眞 外 氣 なな 乘 は の騎 也、 異 ~ る故 の類を を育 し 樣、 形 拔 種 汗し、 十三 尤船に乘せて水上を往來し、 爲 身 射 0 .4 17 十六ケ Щ 0 には の騎 \$ 三 斗 0 ひ置なり、 見習 鳴物 双 21 5 には 坂 0 稀に 选, 早く疲る、 射、 12 物 非 を は す、 乘 條 及 を はざる故に、 牝 騎 當 少し 平 CK 馬 廻 ___ あり、一 を見れ 第三 物 松 五. 術 面 生 上 して、 には、 と云、 づく 明 21 21 也 同 ナニに 居、 等 段 打 建 ば には、 惡 旌 乘 を 鳴 目 連 大風 踊躍 四 旗 べし、 馬 L 22 道 同 ね 是等の物 は、 21 食 上 云 21 馬場乘 す、 馬 金皷、 等 72 ^ 馴 雨雪等、 は、 乘人 二 17 平生 或は船より水中へ追下し、船 そ し置べ るが 振 0 + 立 耳 乘 de 教 を渉す 廻 甲 甲 は 五 す 沓 7 そ 如 は Ļ 又大 胄、 胄 行 12 故、 を打 鍛 L < 也、 遠乘 を着 馬 置 儀 は 寒暑 七 を教 事 馬 马 馬 7 0 ~ 溝、 には、 早 Ļ 能 乘 眼 E し 炮 也 同 定 はず、 故、 士 * る 0 0 0 鍛 荒 時 馬 近 迄 堀切、 寄 九 51 類 騎 8 節 合ば、 置 21 業 乘 は たま 上 此十六 事 ~ 射 は は 0 6 21 K ず、 Ļ を能 終日 て弓 五六 なれ 事 12 咬 甲 及

赌 10 行 がけならば、 的 邺 又云、 0 如き慰専 缸 治 士 0 世 强 心 一にして、 久 马 掛 しければ、 は鎧武 は、 先づ軍用を先として、 品こそ武士の調度に似合しけれ共、 者を射倒し、 弓馬 の藝も皆其 弱 弓は内冑を遁さず、 元を失へり、 次に 禮射をも習ふべし、 号は 射 慰む心は博奕を好むに 禮 べき修 射 又は 又弓術修行の爲といへども、 賭 練 的 有 べきな 9 みにて、 類 せり、 軍 用 貫革 軍 一用の の修

世 込ざ 其 古 鐵 る故、 は 0 0 式 炮、 馬 を見習はせざる故 0 一には、 鐙 る故 場 * 庭 叉 云、 太刀 を 廻 乘 乘 乘 押 し也、 をす * 事 0 平生責 馬を 稀 遺 犯 B 打等を馬 ^ させて、 法な 21 3 せ 17 ば 遠乘 0 重 乘 馬 み 士 5 8 すれ の法大に拙し、 平 故 E は、平生上 の嗜とせ 古の 當世 釆 乘 . 21 生 ば、 只口 Щ 色異形も驚き、 施せば驚て駈出、 り下りす 武 坂 は 早く血 向 士 H, 乗らざる故 しなり、 食にならす故、 は 場 皆達 る故、 足振 乘 責馬は 下り、 を立 を大 者 やたら 十には、 獨 派 を本として、 或は 毎日 八 事 Ш 乘 21 とし、 17 を 乘を本とし 乘 坂 適々 息 は、 す 乘るをよしとす、 の道 るを主として、 水馬弁に船に熟ざる故、川の出 n 盡 ば、 武用 鳴 12 麁 物 苦 或 P 食 たら乗 馬 21 4 は を 0 T 法を失へり、當世の馬に十六の失ありと云、 馴ざる故、 動 不 飼ば、 疲 共 る、 食 T して用 軍用 乘 餘 21 70 て其 七 難 且 計 し 0 12 食 ツの乗様あり、 21 音聲 はず且 式の 心がけ 12 樣 は 立 見 五 騎 ず、 12 乘 苦 21 射を 驚き易く、 は、 痩る、 方を 疎 四 し 教 平 17 多 質 入り 馬場乘、 三に ざる は、 生 壓 當 野 CK 世 風 な 悪し、 九に 故、 は 平 L 3 0 雨 故 寒暑 4 馬 事 遠乘、 適 逗乘 也 13. 口 27 場 + 目 21 を 乘 當時 立 當ざ 取ら を仕 庭乘 は 75 8

昇

平

夜

話

F

篇

卷之二

外 事 き事 t なれ共、 5 なり、 來り 上の武 住 九 領主、 と願ふ者は、 「備全からざれば、倚り賴 地頭の武備全け **猶以** てなし、 れば、 其終は 町入百姓も、 むに足らず、 君獨 9 倚賴 君た 民心 動て他 る事 む所ありて心動ず、其地 を得ざる 方へ 離散 12 至 す るなり。 る元な に安堵 5 增 て況や、 して居る

魂を養 ば、 故、 20 銀 世 預 內 用なく、 n 魂 ば押 並 を出 農商 25 を 育 叉 U. 0 分限 勢有 見透 2 し置 掠められて、金銀却て禍と成故、 3 規模 無用 n 事 of 士の 下个 かの を超 て、 第 事なりしと云 て目ざましき者 さるく事 の長物の如くなれ共、 も立、 _-規模あらしめ、 武 づかか 奢侈 也、 ^ 威を示すと云 士魂もな ら士 武 な 21 士 し、 士 移 魂 を見 立 は 6 ~ b. 戰 は 次 据 かす のづから發し下へ武威を示さるく一事とも 第 治 武士なり、 國 n 禮義 ば、 は、 世 武士の本 0 77 砌は め、 貧 0 非常 廉 縱 下 12 金 恥を主 侮 成 銀 ^ U の變の備にして、 り輕 業入ら 貯有 手 21 は、 町人百姓は、米金多く持ても、 少しく劒を見はし、 貧 売 隨 12 張すべし、折々鷹野、 町 んずるなり、 U. ても、 21 町人百姓 當 人百 ぬ世と成 士 6 魂 士 姓 は、 を 道 叉 0 失 手 ては、 は を磨さ、卑劣なる事 雨ふらぬ日に雨具を備置 就て に落 威 地 U 頭、 鎗を捻る程の侍は、 光を以て、 利勘 は今日の急務は、諸士 て、 武 士の手 領 猪狩、 卑劣 主、 金銀 12 叉は 下を押付置 見る影もなきもの 0 並 成べ 操練等 威を借 なり、 を見る事 なし 懇意なる武 Ļ 町人百姓 りて にて、 何方へ行ても賞翫に され が如し。 治 なく、 事 世 0 25 ば町 には 武 奢を禁じ、士 町 非ず、 士 人百 其 事 0 也 へ手を下る 人百姓に を順 上 士多く入 方 先づ士 動 姓 へ、金 重 も高 士も 8 す

江 侮 柔 ずる ず 下 情 銀 戶 3 弱 も餘 * 21 i T 表 21 22 叉 借 E なり、 は能 5 領 儀 21 5 聞 旭 do 主 近年、 文 る き事 不 又罪 地 **紅**虁 v 事 事 頭 義 か 理をな 世 の失 あり、 にして、やくもすれば黨を結び、 也 で有べ 12 折ふし、 折 念 政 3 5 は 上下奢て費用多く、 五七. L 云 黨 蓝 諸國にて、 に及ず、 武家より町 備 を 撫 粘 do 付 CK 疎 事 21 第 百姓 强 8 成 人百 _ 武威 濟 訴 て、 す様 下をし 町人黨を結び、 姓 狼 の衰 武 へ手を下げ、 21 藉 士 す 0 道 より起 狼藉に及ぶ也、 へたげ、 3 類 0 故 吟 あ 味薄 るな n 下の ば、 强訴に 或 無 るべ < 理な は武家の威光にて、 勢 柔 及び、 は 弱 L 其元を尋れば、 諸 る取立も多く、 益 不 侯 太平 長じ、 岭 方 **狼藉をなす事あり、** 味 0 の心 武 久しきに依 E 備 0 t 全か 押付置 6 威 叉は 下 勢 でらず、 0 手 は て、 町人百姓 惡 次 荒 B きの 第 武 あ 12 下よ 其故 7 12 士 より金 みに 衰 は 5 次 後 第 を案 下怨 上を 1 非 日 21

きに は、 地 地 12 頭 依 た 地 叉 3 領 頭 1 事 す 主 領 にて、 今 み易し、 0 主 武 0 世 威 武 隅 缸 輕 威 4 家 押 け 12 隈 れば、 込 依 0 4 迄 て、 大 狼 恥 藉 惡黨 押込 太平 辱 しても、 也、 其 狼 の澤 領 藉 城 下遠き所は云に及ず、 手 內 の心遣ひなく に浴すと云 X に横行する事を恐れ るく手後るし故、 ^ 安堵 共、 する 折 節 遁れ 事 ず、凡常の備薄き故、 城下近所にさへ、狼藉 也 盗 隱れ易し、 賊 然に 押込 領 の類 主、 皆 有 地 領 は 主、 頭 何 0 他より入易く、 0 沙 地 武 ぞや 汰 頭、 備 あ 全か 武威 町 らず、 人 歎く の輕 百姓 其

な

4

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之二

見様いろくしあり、功者に尋 知ると云事あり、 深き川は水色青く黑し、 ねべし。 淺き川は水色青白く波荒く、岩あれば水さかまく也、 此外

等を用 聞、 迄 た 奉 本 追勢子、 ふべし、尤耕 及ず下々迄、 叉云、 り共、 にては、 行は馬にも乗り、 21 は 子 物見、 ひ、相圖約束をなし、 受勢子 時 をも見るべ 用 4 太平の時、 野 行止座作の下知をも知て、小者共迄、 使番 ゆるに足らずと云へ 作 山 の妨になら 旗 0 横目、 Ļ 又下り立てもかけ走り、 切 本 所を翔走りせず、 抔 諸士を練り馴すには、 强に獲物を貪るに非ず、 と手分ヶ有べし、 獣の ぬ様にし玉ふべし、子細、手分、手配りの次第色々有べし、 無理無作法なき様に法令を成し、釆配を以て行止座作を示し、物頭、 取次役、帳付、 勢子の下知をもして見ねば、俗に他人の出言を、 扨五 步行も蓬者になる様に教へ習はすべし、然ば諸士は云に 折々鷹野、 兵粮 色の 斯して軍 作法能く成べし、 相印 の役者迄定め置、 猪狩 を用 法のならしとすべし、 CI か、・川狩等抔に、外様 組毎 又或は旗本諸手共に、 扨又諸士に詞 に士大將一 譬以軍 人づく をか の諸 け、 頭 響ば 法 士を召連れ玉 兵 云届けたる 12 貝、太鼓 申 書を學び 卷勢子、 付、 物 旗

然る時は、是を死地に置と異る事なし、仍て治世に操練の法あり、 叉云、 孔夫子曰、以」不」教民戰、是謂」之棄」と教ゆるとは、戰陣の法を教て、耳目庭旗に習、手足干 如 此 なれば自ら敗亡の災なし、若し不敎兵を以て戰はしむれば、破敗するは 又鷹野猪狩を以て、軍の平均とす 必定なり、

刀を帯せざれば、士に似合 51 慮外せまじきと、心遣を懸間敷との厭にて、忍び出立にするとならば夫も心得違なり、其改を不らか 行ふ人をさけて可也、心得惡き者は、脇ざし斗りにて出ながら、下々の慮外を答むるもあり、 の賤敷事もあり、 士は蔭日向、晝夜となく、いつも士と見えて、人の目誤

5

ぬ様

にて

出

立

誤

て慮外せぬ様

に出立べし。

風 あり、 小 馬 は は崩 からず、 地 淺深、 晴 に向へば眼くらみ、砂あらく石高き地は、人馬足を痛め、雨を得、尚石荒らかにして、 0 山 0 叉云 天に 案内を知り、 れ易し、 の前後、 働を考べし、 せばきの二ッに 茂たる山あり、はへなき山あり、岩石すなとなる山あり、又川に十五相と云事 青色の土は雨を得て滑り、又晴天には足下よき也、黄色の土は青色の土の如し、 岸の高 も安し、 士の遊山 左右、 赤色の土は晴 低、 是等は古人の言傳也、是に元付て、工夫試み有 叉風 道達者を心掛るを遊山とする也、土色を見ると云事あり、小砂の 四 又岸 と云は、 方圍の山の七ツ也、又山の形相五ツ有り、 を得 して、其形十五有也、 0 て灰の 天に足下よし、雨を得ば甚滑る也、 土色に、 酒宴、 如 遊 青、黄、 し、 興を事とするものに非ず、 雨を得れば沼 流れの早きと遅きとあり、砂川、沼川、水川、岩川、水 赤、白、黑あり、又川の廣き狹き、 の如し、 白色の土 又淡白淡黑の地 腰兵粮 大山小山によらず、 ~ Ļ 叉山 一青色の土 にて日島 12 七ツ は平なり、 共に瀬を知り、岸を り程 地は人 一の如 0 あり、其本は、 0 高さあり、 習有と云、 所 Ļ 馬 是を以 但山岸など 馬 は、 黑色 の働き安 足入、 Щ 低さ 大山 て人 の土 川土

身を寒 は、 も打 學 寒暑 25 る 0 あ l 時 問 非ずとも る な 玄米 日を費 故 武 12 暑 ねり、 藝 21 25 風 飯 寒暑 然ば 練 21 す 稽 発 筋骨 心掛 5 鹽のかき立汁を食し、常に兵具を携へ、 は し置 古 網 心 21 濕 步 * も怠 るし だにあらばなるべき事 得違なり、 丈 にも能堪 行 張 夫 事 の達 5 5 21 也 成 綱を 者 て、 て、 を 斯る者有ば、 身 右 筋骨 遠路 心が 遭 0) 0 U 慰 主 に耽 け、 意を Щ 健かならざれば、 流 坂 也、 地 n 6 0 取 諸士心得の害と成事なれば、 理 を立 り失 步行も達者に、 或 尤殺生に非ずとも、 0 て、 U. 難 は 易 商 獲 賣體 居 物 寒中 物 なが 池 そ 0 0 沼 山川 仕 貪 用 迚も薄着にて、 6 0 る類 獲 21 形にて、 在 立 物 地 所、 殺生に事よせて、弓、 多当 難 利 0 殺 し、 0 深 管ら殺 生は、 案內 殺 田 教戒 故 生 山 も知 に昔より士 を 淺田 士の 野 有べき也、 12 好 み 5 12 0 すべ 起 0 見 弓鐵 み打 臥 叉 樣 4 0 は L などは 鐵炮を携と云 士は かし 事 游 父兄 炮 雨 12 獵 21 戰 も熟 非 は 0 露 ず、 許 場 勤 霜 殺生 多く す益 し置 にて 雪 め 叉 12

なし、 戰 邪 帶 場に せる 魔 叉云、 21 畢意遊獵の本意をとり失ひて、 T な るは、 \$ るとの事 諸 常 忍出 士の殺生は右の主意なれば、大 77 1 ならば、 立 8 0 心 士 かい 遊獵 0 刀 士 を帯 21 8 戰 殺 生許 場 3 獲物を貪る心より、邪魔になる刀を差ね成べし、又下々の士へ VQ. 働 事 0 L 置 なし、 心 掛 3 小刀を帶すべ なれ 小事 邪 ば、 なれ 魔 21 ば、忍 邪 な n L 魔 12 ばとて、 家 な CK 風に依 3 出 刀 立 を帯 戰 21 て大 場 は 及 初 L AJ. 小刀帯する T 8 常 仕 事 なり、 4 馴 B 3 土 1 0 樣 叉 B 刀 21 刀 あ すべ 拔 は M 長 法 刀を くて は

方 迄 L 勤 \$ このづかい 知行役の 12 6 りなを、 今 は 证 行渉らず、 ら武 備 軍役は、 泰然として安んじ玉ふべき事 全からぬも有とみえたり、下賤の者こそ、今日の貧苦、 用 を奉 の心が 心付て 勤 勤め玉ふ事成なじ、 0) けも頭 至 極 も力に不及事 とし玉ふべき事 く成 行也、 もあれ、 諸侯方の御忠勤 諸士武用の心掛疎く、 に非ず、日頃は忠勤だてし玉 でに非 す。 高貴 の方は、遠大の思慮こそ肝要の事なれ、匹夫 は、 軍 役 に越 渡世の営みにさへられて、 ふ諸侯方に したる大役 人馬も不足にては、 心は有 多 まじ、 此 事 \$ 其 ろそかに 遠き慮 大 諸侯 役の 0 如

貧困」然も藏。武器一の多きは可。以爲 叉云、 古 人云、 學者 の家雖 貧困 清 一然も藏 福 也 書 の多 きは可 "以爲"清福 也と、 予依て云、 武士の家雖二

H

0

勤

不 平 の場 12 足なく用意すべ 成 叉云、 12 也 事 置ば、 0 常 日 世も治りて久しければ、末々は必亂れ、亂れては又治る、 に生れて、 4 油斷 夫 から L なく、 常 に成 我一代には、 明 今日 て、 日 有 變出 と云 則亂 來 世 心を止 の心 何事も有まじと思ふより、 ても應ずる事 て、 に成て、 今日 戰場 速 此 事を仕 也 と云 の作法、 廻で ^ 30 怠りの心生じ、武士の心がけ 軍 はならざる事と思ふ様に、 用 の備、 晝夜寒暑 重 具、 の往來するが如し、 馬 具、 人馬 隨 分心を變 に至 おろそか る迄 太

用ゆる事、 叉云、 分限 諸 士 相 大小身の違は 應に成べし、然るに何故に諸士の殺生を免し置るしや、其主意辨知べし、畢竟身を あれ共、 各宛行 を賜 る事なれば、 老 幼 病 人等 の煩、 叉は 客 の為、 魚鳥を

昇

平

夜

話

下篇卷之二

唯 侈を好むにはあらねども、武具、馬具は、分限より少し綺羅を磨く事は、 馬に過た には、 तां て、 武具を好くなりと云へり。 25 しなみにて許さるく事也、今世、他方立合と云は、 又云、 詞 青地 0 如く、 る事候まじ、尤願ふ所に侍るとて、十五騎の兵を相具しで、進み出しと見えたり、 人能き馬を嗜み、我身上よりきらびやかにして、小袖の染色、髪の油氣などをさのみ不好、 昔石橋山合戰 0 賴朝公は義貞が装束を早く見」之候て着替せよと宣へば、與市は、弓矢取身の晴振舞、軍 錦 軍馬 の直 垂に、 に過たるは有べからず、或人云、侍の實よりする伊達は、 の時、賴朝公眞田與市義貞を召て、其日の先陣を命ぜらる、與市 赤威 の肩白の鎧、裾金物打たるを着で、つまくろの矢を負、長覆輪の太刀 十分綺羅を磨く事とす、 戦場にて見苦敷働せまじき 他所立 武具、馬具抔花やかに 合の晴 其日 無益の奢 振 この装束 舞、與

事 己が手に叶ふも叶はねも分別なく、人が長を用ゆれば我も長く、短きを用ゆれば己も短きを好み、何 も人真似をなすより、 又云、太刀、刀の製も、實義を失ふ心より、衣服翫器と同じく、時世の時花風俗を好む氣より、 武道は日々に古着物語 の様に成行と云へり。

なく、せざるもあり、歎くべし、諸士世に連て、無益の費用多く成のみならず、宛行も減ぜられば、 Ļ 叉云、 今世は、 士は 袴 十三四にもならば、具 の着初は 必整れども、 具足着初め、祝儀整るは少し、 足着初の祝儀を整べし、尤着 初 夫迚も、志有ても着すべき具足 0 法式は、分限 に應じ

小 荷 駄 FIL

此 外 心 掛 12 依 て持べき品 有 と云 共 略 之。

掛べ 急に び、 居れ共、 き事 其者 出立 叉云、 且 規 也。 共の 模 成難し、 何ぞ急變有に至ては、 太平 あ らし 不 分限 嗜な **外敷世には、** 3 是を勵さん爲には、 相 應の 玉 る \$ がべ 0 供 は、 し 連、 諸 分限に應じたる所の人馬、 出士の武 諸 戒答られても言決 道 具 具、 にて、 前に云如く、 馬具、 行 軍 不足多し、 なき事なれ共、 0 體 年々家中 を見玉 詸 道具指閊なく、 の武具を改、 然ば其調 ふべし、 夫は輕く用捨 左あらば規 ^ 無れば、一 且又家 何時 して、 模 中に 成とも催 統 有 嗜能 て嗜能き者 不 22 勵され、各心 足なき顔 促に きもの 應じ、 を撰 を賞 にて

用を選み、 繩 士 用 12 合 道 ざると心得、 W 12 叉云、 を以 迯 は n AD. て論じ 鎧 也 た 非禮 甲胄 る 17 T B 或は由 難し を去て、 か は 用 重 難 門の重 と云 着 L 來 用 も知れ 實用を取べし、釆配ある士として、 なら ^ 但し乳繩に必至と合たるも好 3, 器。 A) 次古具日 護 事 鎧 身 な は Ĺ 0 屈 伸 足 要具なれば、 の、 具 易 自 足 は あやめも見えざるを求め得て、 由 ____ 12 て、 枚 随分と綺羅を 胴 脇楯 の子細 37 T を以 あり、 妻手 乳繩に叶難さ、 て右 なし、 0) されば乳繩に合て、 方 0 方を塞 12 觀美 T 引 萬一 持來りの を盡 合 でもの す る助 0 し、 なれ 用 規式を な 12 具足より外に 合さる具足を ば、 n 備 ば 置 各 餘程 JF. 類 別、 は、 乳繩 乳 江 は 利

3

馬 口取、 草履取、 指物、

具 足

對鉢卷

刀

對曳

肌

紺

2

んばん

脚

华

水入筒

簑笠

金橇

腰兵 鉈 鎌 粮入 山 万

熊手

薙

鍵

繩

椀

狹箱持、沓籠持、 手明キ 中

間

具足櫃持、

脚半 陣 笠

對

鉢卷

鍵 繩

金 橇 零中 0 具

鉈鎌

城銀手斧

幕

滥

紙小屋の

小荷駄葛籠

挑

灯

櫛道具

腰兵粮

入

對

曳肌

對

長

手

拭

水

入筒

111

刀

對

羽

織

紺

看板

2.

簑笠

椀

細 引 同上 陣.

對 對 長 羽 笠 手拭 織

馬氈

三尺繩 **擅手腹帶**

手 助

小中間繩

鞭

馬衣

粥袋粥舟

沓摺

家來、

貸物、

持物

若黨

具足上帶

對鉢卷

脚半

對羽織

刀

對長手拭

腹當尾袋

馬面

鞍覆

鼻皮

馬柄杓

手繩

馬鎧

鼻捻

泥障並紐

椀

鉈鎌

金

橇 卷 之二

昇 平

夜 話 下

篇

腰兵粮入

鍵繩

對曳肌 陣笠

水入筒 簑笠

1

鞍

鐙

鑄形

鑄

鍋

火

綳

雨火繩

馬

上銃

馬

上

筒

鐵 征矢十一指 替 炮革袋 弦

弓

小

手

鞢

空穂

マヤナグと

具

足

櫃

革覆

軍

弓

椀

鎗 鎧 腰卷

簑笠

引敷

胄腰卷

腰繩

奥紙 磁石

火打 袋

> 腰 兵 粮

小 碇 入

軍 扇

草鞋

指

物華覆出

刀

腰當鑓腰當

印即

臑

當

肌 柄 袋尻 鞘

曳

妻手さし

上 帶

切 付 溜 鐵 口 合 藥 炮 入せせ

ンソサ

早合胴

亂

筆墨 鐵橇 水 大 小 入 紙 筒 刀 院賞緒

6

如 所も知り度なり、 4 を移し、養體を移 もならず、弱年の子弟抔、着用の手廻し、早着の修練、 は、 手前に差置ても、年々改さへあれば、 其 人の分限に依て違あり、今無益の一 4 士魂の育ひにも成べ 理 にて、 其品 有 ば、子弟 L 基 騎士 減少の患は有間敷なり、 盤 12 る者なのづから着て見度、 石 抔 山車 有 ば 必用の具左に記す、 打 叉は名所抔、教覺さする事も成難し、居は氣 ても見度、 改に就 三絃あれば彈ても見度成べきが 刀鎗を取て試み度成て、名 此上は、知行高、役格 T 書出 し、改を受べき品 12

仍て増べき物あり、又家々の軍法定に從ふべし。

一騎前出陣必用品々大概

頰當	陸	陣羽織	鼻返	中带	胴着	下帶
胴下散クリメ緒	鉢卷上鉢卷	小袴	裁付	股引脚半	道服	常服聯子、單物、給、綿入、
小手左右	胃立もの緒の	差込	長手拭	さし足袋	常の帯	具足下着

股

以引左右

置

卷袖

之二左右

佩楯

界平夜

話

下

篇

は、 引合 は Mi 50 5 叉 て、 持 0 力 具足を、君の庫へ納め置ては、折ふし着用して、弓鐵炮刀鎗の術、 中 15 33 銘 此 L 不 せ 0 限 織 П な 說 改 組 武 0 綺 穿 17 21 叉 心 * H 及ぶ程は、 手 維 應じ、 鑒 T 具 改 指 失 减 12 得 n は、 前 ~ T 許 物 ば、 な 8 難 は 15 0 Ļ 平 す る なけ き事 にてて ^ す 持 年 者 せ 士 必 不 子 參 或 は、 2 兩 々改有べし、 用 n 也、 多 連 足 細 人云、 堅固 し、 人、 ば、 る あ 0 4 0 8 益 分限 不 品 n 不 밂 あ ば、 は 風 目 鋭利を撰べしといへ 組 足と云事を知らず 足 速 4 n 家 付 有 を不 入 不 頭 0 ども、 21 べけ 濟事 L 中 相 品 を 用 __ 人づ 君主 武 應に、 辨 は 意 修 Ľ 用意 n 具. 心が L 分限 の様に安じ居るもあり、 て、 共、 補 減 1 在 め、 等 15 邑の年は、 結 す け 12 入ら 良 4 風 るに 8 構 相 す 仍て 法 ば、 加 X2 入 な 組 L とは 共 爲 時 VQ. る 21 は至るまじ、 T 應 分、 武 12 品 2 用 は 不 は、 直 Ŀ 多 言 叉 を貯 具 意 あ 應の 諸 にも 拵 難 主 所 5 0 諸 の飾 心 君 1: 持 誰 n L 次第も有 み 士 0 す 0 は 懸 V2 宅 玉 は、 もな 今世 如 庫 0 不案内故か、 3 如 事 無 ふべ 何 武 H B 何 也、 ^ T 分限 具、 の士、 77 納 ^ あ 樣 L 叶 事 となれ 廻 L 置 規模 n 0 せ は 5 心 馬 共、 出 な 0 5 Y2 在 程 立と 又は馬上の働等試 5 具 掛 着 有 物 ば ば、 * 兼 江 を辨 誰 なけ 叉 領 具 を所 戶 主 T 知 云 は 0 足 具足一 小 減 書 0 知 事 n 入らぬ 君 1 恥 の鍛、 持 身 ば、 小 0 出 年 無 * るべき事 有とを以 せ は、 8 庫 用 知 0 L 12 患は 領、 の、 置 と云 らず、 21 鎗、 B V g. 持 の揃 納 た のと落 なり、 み仕 着替 下 有 置 主 B る あ 7 長刀、劒 武 せず まじと云 毛 と云 5 叉 馴るへ事 風 具 附 B 不 付 もなき一 就 たる了 入 改 改 扨 な 案 期 小 ば、 の節 内に 帳 0 E 0 武 も有 身 所 は 具 12 如

責 縦 叉 L 常 宛 重 當 有 n 迹 人 12 0) 馬 りなれ 分質物 す、 て持 行 增 U 12 8 は 12 備置 不 中 を減じ、 0 有 不 城 され 足 諸 武 共 時 來 は まじけ 具 ば、 5 中 一べしとならば、先づ減 に遺は の變に應じて、功を成事 の品を、 兎 賣 剩 士 0 能き場所へ一組づく持參、 12 排、 ばとて、 宛 取持 心ならず約束期日も過て終に力及ず、 馬 8 奢を禁ぜらるく事嚴ならざる故也、 行 n 具、 角に し、 共、 夫 抔 も減 虫 速に用意する迄には 0 t 世並 12 H 家 も宛 急の 5 士 は 4 來 餘 た 少せ 書 行 間を合せる迄 ませず、損じたるは修補 0 一 る 12 貨物 らる 連れ * 者 出させ、一 なさも 返 は、 ぜられ 12 L れば、 いつしか我知らず分限を越し、 至 賜 0 君より は成間敷也、 迄、 は、 6 持主 組限 たる宛 難くば、 12 至り難き者 彌以て貧に成て、 此 T 當 玉 一其傍に居て、 品品 3 分質 は 冊子 追て る 4 行を返し與 今世の 嚴 無 物 ものし \$ を加 若叉諸士の武具、馬具、人馬、 となし、 ては、 に奢を禁じ、 取 12 手を放す類も又多し、 返 遣 恥を知て、持來りたる物 外、 し、 士とても、 へ、用立様にもすべき也、 は 君 出 今日父母 し、 主尋抔 年 手 米金の 陣 嚴に を放さ 4 な 當 夏 奢がましき事多くなり來て、費用 6 厚く士魂を育 日 武器 中 を送 出道 有時答べし、 難 奢を禁じ、 妻子飢寒へ、家主たる者見ては居ら 心路 風 しと云、 入 る は なければ、 武家 0 遣 族 是諸 時 なれ of 厚く士 CI 分 必 有 の要器と、 分限 されば、 出士の罪 を失ふには至るまじ、 君 用 共、 也、 況や恥 扨諸 主 心ならず武 0 一魂を育 も其 HI に應じ不足なく、 其 賣 のみに 4 士 E 排 規 品品 を 重んぜざる を知らざるも 0 21 難 定 模 分 12 4 4 8 有 を 8 限 如 あらず、 具 叉 36 置、偖 くはな 費用打 故 見 12 0 類 玉ふ 應じ 12 次第 は 餘 計

界

平

夜

話

下

篇

一卷

事 老 時 夫 5 は、 執 士 0 から ñ 一を育 變 事 爲 事 油 た な 21 を欲 る者 斷 U る 却 時 7 有 す 是を諫 るが 豫 民を 12 まじと任 8 備 鉾 害 爲 びべ 置 0 す 12 は世置て 一張く一 は、 3 Ļ は 兵 諸 義 を 味一和 諸 濟ベ 侯 戰 用 士 0 21 B き事 0 本 非 3 怠 任 ず、 は、 の兵を以て、 5 也、 12 は 扨 あ 兵. 5 君 面 叉、 を用 ず。 る武 主 是 止事 W を 備 賊 る 勵 21 の堅甲利兵をも、 * 0 まし 怠りなさは、 本意 得ずして兵を用 王 12 ふべ 非ず、 L 諸 民 治平久 るに至 を育 士 杖を以て勝利 の本 ふ所 しき世 務 T 也、 は、 以 の土 25 主 士 有べ は、 君 0 地 き様 本 0 を 面 怠 務 爭 4 りは、 12 なり、 ふて 持 前 lit 0 家 4 不

更 0 事 又 云 也、 兵 士 法 は ٤ 正 は 壍 武 は 藝 云 を云 21 及 21 ず、 非 兵法 す 軍 8 0 知 道 ~ Ļ を 知 る 大 を 將 云。 を 始 め、 物 頭 物 奉 行 をして事 を司 る人 猶

如 共 定なし、 0 辨ぜ しと云 心 懸 叉 ざる 云、 け 薄 夫 30 事 4 士 < 也 L 0) は て、 道 大 譬ば鶴は雀 具 小 身共 夫 なくては 4 の道 12 其 具 1 の網 分限 用 ふべべ にては取 意なくて からず、 に隨 ひ、人馬を扶 は、 られず、 総强 車を片輪 < 又雀 心 持し、 剛 には にてやらんとし、 也 共、 鶴 貧 の輪 3,2 馬 なに L 具、 て諸 ては 戰具、 鳥 道 の片翼 懸らず、 具 不 陣具 足 にて な 大 何 る 飛んとす か 小 一つ欠ても用 長 貧 短 ならず 21 るが 1 6

叉云、 鉾先弱し、 家 中 是戰はざる先に負べき相有なり、 0 武 具、 馬 具、 人 馬 不 足 12 2 は、 人君厚く心を用ひ玉ふに非ずしては、太平の今日、 諸 侯 知 行 高 0 軍 役勤 らず、 諸士 0 軍 學 武 藝 未 熟 なれ

ibir 備 0 3 事 事に は、 諸 L て、 家 0 又 並 士 を見合せ、 0 規 模 也、 聞合すべ 次 第 12 農工 き事に非ず、 商 0 士 を 侮 主人の心次第の事也、 輕す 8 餘 義 な 是も治に亂を忘れ 重

急に 成 を求 な 5 叉云、 手 るより 21 馬 8 馬は平日軍用によきを主として嗜み飼べ 合 求 21 乘 難 V2 T 馬 し、 出べき士は、 12 諺 乘 り出 に手馬に手綱を用ずと云は、少し馬 ては、 常々馬を持詰 駈引 心の儘ならず、 にすべし、 さ也、 後を取 主人よりも其心の宛 見分の立派 術未熟にても手馬 る事も有べし、 を好 びべ さあれば忠勤 行有べし、 にては懸 からず、 引自 俄 是も武備 の障 由 17 求 ならん、 る りにも 0

事

也

立 21 難 於 叉云、 て不 役な に非ず、 諸 足 n ば、 流 0 士 士の職は、 門 b 0 常々武藝は云に及ず、人馬、 12 旗 の有ば、 備 仕 るも 廢欠すれば、 人君宜 常々國家 のは、 常 く心を用て勸 々敵 の干城となり、三民を始め、 君 獨 を見 6 諸 侯 る 兵具、 め駒す様にし玉ふべし、 た の意を怠 る 事 軍用金迄、 は 能 るべからず、 はざ る也。 不足なく設け置を士 變に 戰場 臨で 常に備なければ、 機 に於て、 17 應じ、 敵 の備と云、 勝 味 方相 * 急に臨て用に 制 し治 對 す 若 3 安 其 21 0 備 歸 み

にきせず 兵を用ゆる 叉云、 主意斯 暴惡 天 下 國家 をな 0 如 を治 L 1 て民 る 事 若し士は大夫たらん事を欲し、 0 は 害となり、 文 德 21 あ 世 6 0 故 妨 ٤ 12 なれ 孔 夫子、 は、 遠人不 大夫は諸侯たらん 止 事 * 服、 得 す L 則 修 7 兵 文德以來之と、 を用 事を欲し、 7 其 害 諸侯 を除 然共 は くなり、 天子た 獪 其德

界

平

夜

話

下

篇

卷

之

_

て、 脇 從 33 5 依 を 軍 XZ 大身の 詰 用 て、 有 め、 12 樣 立 召 也 益 能 事 連 人數 也、 働 凡 なければ、 T 軍 軍役に 多少有 自分 役 12 0 召 使 大身 立 ば、 連 時、 者 3 大身 との も鎗 若 若 4 黨 __ 程 思 本、小身も鎗一本の働にて、 軍 鑓 一人より二人 2 役 持、 は、 21 立べ 草履 太平 き若 取 は 久 抔 强く、 黨 敷 は 0 皆 弊也。 中 M 二人よりは三人は又强 間多さを以 戰 の節 大身の詮なし、 8 て、 主人 知行 12 相 丈の 從 召連 L ふ者 軍 是大身 一役とす る若 共 也、 黨 主人 0 る也、 大 奉 身 の鎗 公に 小 僕 身

斗 17 多 諸 る 行 を持 事 若 兵 具 表 77 少き故、 又云、 具 立 具 せ 足 足持 なく 着、 ても 鎗 役格禄格に仍て、 此 な 事 持 る 次第 ならば、 とも、 血 1: せ 具 軍 戰 足持するもの多からず、道中 草 役 0 て、 8 角 25 5 0 主人 主 そ 取 供 何方より不 士魂を失ふ也、 刀脇 2 迦 21 連、 具足 4 す 至 着る着ねと云ものに非ず、貸具足ならぬ程の士は、 る諮 差鎗 間 知 るまで、 あらば 敷 行 高 も入用の遠さは 士 爲 審の有べき様なし、 は 下、 0 規模 儉 軍 役 若 素 約 役 なり、 有様に仕 黨 肌 12 格 立 0 中 22 - 具足持 規 尊 間 7 卑に 同 は は 何 模 濟 じ事 素 事 るべし、就 有 然ば儉 肌 だ V2 か さぬ者、 依 H 也、 て、 21 事 あ らん、 7 成 0 具 \$ ~ 奉 多 約 皆貸 足 L の収 て思ふに、 公を 15 は仕 時 詰 0 尤 具足にも有まじ、 違 3 17 違成べし、 心掛くべきなり、 立 所 自 大 有 に高下 身及 は は、 分 今世 出 0 務格、 ~ 着 CK 諸家 役 は L 儉約とは、 領 持せずして叶はぬ事 有 格 役 共、 但し 領 有 0 貸具足なら 治世 士 格 有 B 一の旅 足 具 1 0 0 內所 には 2 規 B 輕 足 行を見れば鎗 模 以 は かを省く、 僕 貸 下 士 也、 入 迄着 A3 0 用 從 具 者の 規 3 足 0) 也、 る物 の者 れば 遠き 貨物 模 旅 斯 有

時 12 は忠孝を欠、 7 は、 或 は 軍 勢催 徒に身を失ひ、 促 に應 て、 不忠不 速に出 孝也、 庫 なり難く、 油斷 なく嗜べし、是を一騎 或は 出陣しても、 高 の武 名手柄の働きなし難し、 備と云べし。 然る

分 武 備 ず 0 べき用さ 重 も分限 或 備 H 不 不 足 に仍 意 備と云は、戰場に な 足 き上 油 な T か 心 断なきを云、 る 21 得 ~ あり、 役義 し 先づ 12 安けれ 就 て人數を揉立る斗りを云に非ず、萬事 ___ T 騎前 夫 4 共危を忘れざる是也、 0 0 武 武備有、 備、 不足 常に詮義 無 樣 21 士は 嗜べ して、 Ļ 武 何 官 時も主人の命 扨 也、一 前 叉、 方不 H 物 人 も武 時 頭、 に怠りなく、 を蒙り、 備を忘べからず、 物 奉 行 た 即時に打 る 者 は

2 る 時、 は、 叉云、 渴 武 77 事 天下 臨 に油断なければ、事 T 安け 井 を掘 れ共、 为 如 武備 L 遠からずや。 12 を忘れば危し、 臨 て後悔 なし、 故に治世にも亂を忘れず、 遠き慮りなければ、 必近き患あり、 武備 版を心掛 亂 る事也、 12 臨 7 無事な 兵 を習

刀劍、 立 8 6 召仕 12 ぬ下女、はした多し、 叉 3 云 貝太皷、 山 77 士は 阪 鐵炮抔 皆軍 身上 海 川 用 12 遠路、 應じ、 あてものに を本とすべ 若黨中間 早乘、 武 人具、 Ļ 多 する事もなし、 騎 馬 射、 戰場へ召連て、鉾先の强みにも成べき成間敷の 今世 具、 人馬、 水 は 馬 馬 を 抔 召仕 持て 不 0 仕 足なく持べき事 込は も の者は、 馬 絕てなく、 場 今日 乘 0) は 扨 用 重 勿論 は 具 事辨ずるを主とし た せく 0 旗指 事 也、 物、 近 常 在 沙 拔 乘 4 汰は、 身 馬 廻 0) * L 鎗 建 12 思もよ 用にも 置 出 る斗 人

昇

45

夜

話

下

篇

卷

之

武備

應分 L す子 L すべ 全く 0 具 拟 備 員 は を主 此 の人 着 細 數、 云 備 篇 具 8 12 とし、 は、 初、 凡有 武藝に達ても、 家 騎 馬 及ず、 あ 7 なくては、 侍大 の戦 4 不 5 馬 0 足な 司卒長たらん者は、 且. 具、 然共 士は、 定 家 將以下、 __ く 8 來 隊 兵具、 あ 0 小 0 自分の 預りの 叉從 貨 身の 5 備 戰場 物、 器、 諸 軍 家 共 總て 士 諸士を 成 の作法、 來 軍 軍 雜 0 綺羅 學武 の貨物に 甪 り難し、 衣 武 具、 皆此 服、 金 備 型藝を勵う を 12 手 兵 を 及び勝る 好 諸 至 足の 粮 沙 心得なるべし、只一 其上 至 T 道 3 汰 る迄、 如く、 は、 迄、 み、 具、 す、 **連噌を始** 元に軍 負 分限に 分限 の得失を知らざれば、 諸 不 猶 甪 不足 足 自由 上篇 道 金 具 21 なく備置、 め 無れ にては 不 依 應じて、 21 武 て、 預 足なくば 遭 備 ば差支 人の ひ、能 る處の諸士、 0 出 應 部 譜代 庫 不 矢 武 2 備難 備全 も交へ あ な 勝負 應 王 ら難 の家來 5 有 藥 又功をなし難し、 i, 主きを以 といい の利 0 其 考ふべし、 類 し、武具、 武藝、人馬、 E 只 ~ 建 は 12 共、 多きに に武 達する 事 馬 て、 を持 の欠ぬ様 武 ょ 變 未 馬 具 しく を士 士 しとす 熟 具 は 自 兵 大 是等 に嗜み 12 不 少し は 分 大將 具 將 は君家 T 足 な 0 る 12 の事不足 は 綺 武 12 無 0 至 功をな 備置べ 羅 具 る迄 足 缸 T を許 僕從 す 備 の武 馬

殘

るを慥に見屆べし、 仇敵を討て止もさいす、 死切りた るも見届ず、うろたへて其場を迯げ去るは卑伝

분 0 を立て、 ない 或 足にて四 3 は 心 事 0 卑怯 叉 色 得 批 もなく、 也也 當座 云、 判 々批判しけるを、 關 郎右衛門のひばらを蹻 者 B 如此 右衛門が胸つくらを取 の不 士の口論 の喧嘩、 V 暫 かどなり 穿鑿なる事と定也、 しても跡にて我 く押付て居るは、人に取さへられ度と云に似たり、 或は下人を討捨は、止をさくぬもの 抔して後、討果すべき場に成て、或は頭をはり、 迚、 信玄聞玉ひて、其次第を尋らるくに、 兩人ながら耳鼻を批て諸士に見せ、坂を越せよと有事にて、 も堪忍すれば成者と思ふ心より、人も堪忍すべき事と思ひてする ければ、 6 甲 後 州にて寺澤四郎右衛門、赤口關右衛門と口論し、四郎右衛門 寺澤覺ず放して三間斗り後へしさり氣を失ふ、兩方量 0 壁へ押付る、 也と云へり。 關右 衛門押倒されて仰 兩 方共 町 捻合抔して脇差心なきは、 人か見共 に脇差心なし、 向に成 0 いさか 士の て居ながら、 坂中 U П 0 にて兩人 論 如 風風の人 に切付 事 町人 兩 座 他

首を切られしとや。

妻女の自害の時、 7/ 12 腹 宣 叉云、 ひける 有 關 刑罰 は、 ケ原 士 に極 御 屋敷を落失て、 0 庫 められたりしに、 死 の時、 すべ き場を逃れたるは、煩しければ、 細 Ш 同役 越中守忠與侯 小笠原 松平下野君 小濟以下 の妻女に付置たる侍の中に、稻留喜太夫は、 摩後に隆 は 其頃 討 死 殺さんと有は尤也、 は二十にもならせ給はざりしに、 せ しに、 獨生き延 びたるを、 但し稻留をば助け置 忠興 忠興侯の 一候殊に 越 中 侠

て、 仍て究むべ 初より切結びたる人を、 き事 也 第一の高名と沙汰する也、尤凡高名働の勝負は、其時其場の前後の働に

或は我 なる人の卑怯と云共、苦しからぬ事 L 一、又云、仇 て路次を 意趣 行 討 討 21 は、刀、 の批判 多 敵待と聞ば脇道を通 脇ざし或は鎗、 は、親兄弟、師匠、叔父等の仇ならば、弓鐵炮にても仕濟したるが手 也。 長刀にてすべ 5 跡へ戻り、 Ļ 何様にしても討れぬ分別尤也、 又ねらはるく人は、 常に寢所を替、 此儀を不案內 晝 柄 夜用 なり、 心

る共、猥に卑怯と定むべからず、古人の傳に、喧嘩に及び、又は下人を打捨べきと刀を抜に、其者臆 思 伏 口 とも、 なしと云へば、疑を受る事も有べし、 て迯走らば、切に不及共可也、必切倒 U せらるし事 甲斐 叉云、當 設 又云、下人と敵討をして手を負、或は其座にて討留ずとて卑怯者と云べからず。下人とても心猛 薄 H 手 た 々々敷者なれば手をも負せ、 3 をも負ずして討洩 座 も有 事なれば、 の喧 べきか、さればとて臆したりとは論ずべからず、只其時 一嘩にて討果し、又は下人の慮外抔に付て、打捨るに止めをさいぬを卑怯と沙汰す 迯げ去るべき口をも塞ぎ、諸事 す事 は 有間 足早く迯げ走て追付れぬ事 されば口を明かして置べし、敵打ならば止をさして、死果た 敷 て止を指环 也、不慮 するはしだるき仕方也、 に怒り心せきてすれば、 心を配りする事故、 有べし、又下人早業の力强くば、組 の様子如何と可い論、 後に 仕損ずる事 下人何程甲 理 非を も有 業勇 述 も死 な 力の者成 尤兼て 人に

にては、常人の及ぬ智計も有べけれ共、左はせぬ事故、吾猶人と宣ふなるべし。 也、 22 なきものは、 及ず 孔子も、 迚 政 其辭 聽訟 事 0 吾猶人也、必也使無訟乎と宣へり、偽り欺さ、謀計を以てする事なくば、 妨にならず、 を蓋す事を得ず、天罰逃れ難き者なれば、 僞を以て欺さ、 謀を以 て其情 必自狀に及ぶべし、 を得 るは、 其情を得 政事 ても、 の上 却て を盡 聖人の智 政 し白狀 事 0 址

らずしてせし過は、 又云、罪を看るに、三赦三宥の法あり、惣て事を巧みてせし事 大也 一共赦すべし、能其依 て出る所を察すべし は、其惡少しとも宥べからず、計

於 h と申上られ て打死したる上林竹庵が末にして、 叉云、 往年 しに、 御代官、 上意に、 上林 法は重しといへ共、上林 叉 兵 衛殿、 各別成家筋なればとて、死刑を宥められしとかや。 引負勘定 不 足 ・又兵衛は、 あればとて、 去る慶長 時 の御勘定奉 五 年八月朔 行 より、 日、 死刑 伏 見の城に に行は

又云、士に討者抔申付、迯げ行者に追付ず迚、咎むべからず、足早に迯延びたらんは、是非 なき

事と云へり。

者 あ 全く此人に は 功 又云、昔は 譬ば一 12 非 あり、 ず、 番 に切 叉一 追討命ぜられし事多し、年若にて事に 又或 番に 入、 は敵と切 勝負 かいり、不幸にして討るいか、深疵を蒙りて、 ど初 結びたる所を脇或は後抔より不意に出て切留たり共、 た り共、 其敵を討濟さずして、其場をくつろげ、 逢 ぬ者、 手に合ふ爲に試也、 其場 に斃るし共、 二番 太刀付 是は二の功に に渡 一二の批判 0 L 功 7 退く 名 は

昇

夜

話

下篇

卷

之二

しきは

輕

くする事なれば、

等級

少し共妨げ

有間

敷が

如くなれども、重き方

へ付と、

輕き方

付

と、其

間

は

遠

け

れば、

事

12

仍て相當せざる事有べ

L

士の

刑

は

其品多か

らず、

組

頭

より

教

戒、

表

向

叱

3

內 知 追放 指 るもの多し、 は鼻をそぎ、 らせて追放 控 より 差 日 數 直 長 27 減 短 都 せば、 又耳鼻共にそぎ、 死 地 て追放 元刑に移 閉門 組 下 容 げ、 逼塞 易に すべき者は、一 るが如きは、 改易、 日 は立 數 長短、 或は答罪、杖罪 奉 歸 3 公、 間 役義、 次第少しと云べし、 敷な 日二 構 0 役格 日三日 輕 重 抔 御 も死刑 輕重 切腹 免、 等 の次第有て、 取 昔は なり、 迄の間にあり、 上 ゲ、 此間に片耳そぎ、 下部の 生 涯 往來繁き巷にさらし、人に 蟄居、 刑 偖又追放もの立歸 も等級 知 行 追放、 猶多から 被 召 放、 又兩耳そぎ、或 るべ 扶 Ļ て、 持 方 惡事す 火印、 面 賜 り領

狀 叉 人は欺き せず、 又 云 猶疑しければ、 偽 罪 5 人 謀を以 0 知れざるを糺とてト筮者 1 政事の上に付て、 問 落 す 類 あ 5 政 責問道具あり、夫を以て白狀せず迚、政事の恥に非ず、情 事 21 占 0 上 て聞、 21 は 又は 用 ゆべ 4 き事 五 を焼 12 非 7 ず、 吞 す 3 IF. 直 抔 を以 0 類、 7 問 世 糺 間 12 有 其上白 事 也、

0 刑を行ふは難からず、大科 に至らしめざるを難しとすべし。

後 且 を掩 んと案ずるに、罪條を詳に顯はせば其刑重からざれば當らず、刑を輕くせんが爲に、罪條を詳に顯は もならず、刑罰を行ふ考へ合せにもならずして、刑罰の本旨にあらず、されば大なる罪科なか さいる、是一つなるべし、又時の政事 其筋を立、一等も二等も、乃至三四等も宥べし、筋なく猥に宥免するは、佛者の平等、慈愛、婦人姑 息の愛にして、仁恕とするに足らず、只刑罰なからしむるを至りとすべし。 るは上策なり、既に大科に及んでは、相當の刑せずんば有べからず、尤其内にも宥べき道だにあらば 又云、昔の刑罰の跡を見るに、罪條と刑罰の輕重相應にして、後代の鑒戒、準則となるもの也、 賞罰を行 の刑罰の跡を見るに、罪詳ならざる故、刑罰の當否を辨じて、今の準則見合となし難し、是を は んが爲 ム準則也、然るに宜からず風聞抔と云文言に含みて、其事實明かならざれば、後人の戒に に、罪條を詳にせざる、是又一つ成るべし、賞罰 、に預る役人不肖にして、罪條を刑罪の當否の理に昧 は時の勸懲のみに非ず、後代迄の勸懲 くして、嘲 なしいい いかか

らずとも、 幸にして免るく有」罪無るべし、然ば勸懲の驗、 其志を賞し、 有」功を賞し、有」罪を罰するは、勿論の事也、 未だ罪あらず共、其非を罰する事も有べし、能く如」此ならば、 などか無るべきや。 賞罰に厚く心を用んとならば、 未だ功有に至 遺る有い功な

叉云、賞罰の品に依て、風俗の盛衰をも知べし、昔は士の仕置に、追放、 刎首抔の刑甚少く、改

昇

平

夜話下篇卷之二

美とし 享保 御 付、 支配 文 見 服 0 御 重 成 知 を 1 還御 是亦 先 ケ様 取 在 の衆中、 先代より 3 て、 事 らす 中、 0 0 事 拜 也 右 其 0 後、 時 度 領 時 n 有 0 吹上御 弓矢 ば、 德院 趣 服 殊 毎 也、 御番 取らすれ 御 25 25 にて心を配らば、皆賜 ---平 第一 調 重 時 兩 殿 褒美として、 衆、 拜 服 日 番 上意 兼 庭にて上覽あり、正月十一日に御 旗 の騎 ば、 領 頂 弓 0 申べきの 者 に、 あ 戴 本 馬出 なり、 射、 其 共 5 0 鷹野 士を 者骨髓に徹 歷 精第一の事なれ共、此御 黄金三枚づく賜りし様なる事もありしと也。 所、 又本 度 なに 々上覧 當りよさ 懷 猪 て、 け、 各 狩 所 るべ 其 Ŧi. 0 予 事 の上、 武 心 百 し、 掛 羅 御 手 功 に付 L 難有 厚 漢 番 足 我 けれ 衆 御 de 前 是只仁惠恩遇のみに非ず、人材を養ふ一事 て、諸士弓 ^ 被 褒美黃 は、 同 12 存 じ事 て現す ~ ば、 為 さ也、 御 一祝儀添 代に なれ 其 成 供 金三枚被下之、 儘 72 事 炮射打させ、 弓として、 て、 然ば 至り、 共、 21 る を賞美 御 時, 大的 近 間 手 的 别 足 習 し、 21 御 て武 合、 を射 十中りの 21 ~ 外樣 御 は遠 有 成 B 功無功 射 3 先 備 成 先 べき儀式 手 し、 に居 手 せ 12 の勵み强く、 2 小 者 0 T 見せ 鳥を 笠原 を知 面 紋 るも へは、於 マ相揃 なりとの 付 候 射 縫 衣 0 3 試 得 殿 留 服 其外 諸御番 ع 一御前 て、 n 助 抔 たるべし、 的 被 ば、 殿 事 貰 金銀衣 指 人。事少 も手を E な 仰 時 御褒 覽あ 頭 南 服 申

7 12 非 大 す 科 12 小 至らしむべからず、 農工 過 懲 商 りざれば、 は愚にして、然も法律に疎く、誤て犯す者あり、士人 必大患をなす、 小過を知らざるは油斷なり、 大患をなすに至 ては、 知て戒ざるは不慈なり、 慈仁 を損 は 法 へ人を失 律 の中 大科 3 に處 早く に及て、 して知らざる 教 戒 相當 を加

是 國 3 元 8 故 圖 ^ 歸 21 在 所 當 て、 る 國 と云、 元へ行 人 4 72 て、 對 其 面 圖 人 L 0 た やも互に無事を賀し、扨褒美の事 後 3 n 所 L 多 は、 無首 後 日 尾 0 0) 賞 樣 は にて 重 しとい 面 目 な ~ 披 L 共、 露すれば、各別規模有 是を仕 圖 12 當 方 5 0 下手 た る輕 と云、 き賞 て、 速間 此 12 3 餘 は 劣 もよし、 進 32 6 知 打

し

て、折 者 不 衰 者 夫 0 0 功 配 道 12 は 12 也、 時 \$ 4 T n は、 表 0 無 8 少し 云、 終 8 惠 近 役 n 節 寫物 賜 施 ば、 賞美 ·L H 智 圣 るべ を 素 望 づく 治 8 0 突、 賞美 命 抔 有 者 3 を 世 4 L 申 L 专 专 ~ 抔 12 き事 能 劒 付、 抔 は 12 多 賜 规 は なく、 de L 循 5 模 な て、 能 細 な 納 午 都 有 4 5 す I 各別 Fi は 樣 7 \$ 洪 3 0 排 賜 12 士 手 能 者 學 0 よさも を 入 すべ 0 6 0 規模 あ を は 間 賜 嘶 物 昇 顯 n 素 し、 あ 胳 多 る 進 ば 打、 のへ は る者は、 も有 な 類 L な て、 治世 Ĺ は し賞を賜 し、 は、 棄材なれ 力量 賞 共 手 3 美 規 久しけれ 書 細 引 有 n 模 0 表 ば、 そ もの I. 類 を ば 向 75 ば其中 を致 講 以 普 役 H 12 は、 賜 人、弁 ば、 ぜ あ 7 は n させ、 3 L らず 勝 勝 ば ~ にて賜ら 力業 め、 次第 手 士 手 4 向 風 间 21 弓術 樣 作 役 12 申 日 役 番 0 付、 なさ 文 費用 夜 人 人 勵 士 にな AD 能 を 侧 は、 0 21 B 者 き者 步 命 向 如きは、 相 怠 Ľ 6 行 日 て、 な 21 增 叉一 達 は、 仕 12 h 蔭 L 者 詩 事 士 付 は 泰 つの 的 成 歌 る を願 何 て、 風 公、 人 の百 B を 1 + 次 4 教戒な 勝手 0 賦 b 腰 第 2 年 能 は、 射、 せし 事 拔 勸 25 0 を な 向 25 役 衰 T 8 るべ 鎗 役人は 日 め、 n とて、 な る、 勵 歸 術 ば、 n 手 秀 常 6 3 各 時 折 な 跡 1 别 勤 4 外樣 L 歸 る 能 節 士 身 功 心 0 3 8 E は 風 0 勤 有 *

昇

平

夜

話

F

篇

卷

之

昇 平 夜 話 下篇卷之二

賞罰

賞罰 能 疑 當を得ざれば、善人も勸ず、不善人も懲さず、其當を得んことを欲せば、賞の疑しきは重くし、罰の は、 すれば、 天下 しきは輕くし、其心善を善とするは長く、惡を惡とするは短くば、賞罰各當を得て、人の勸懲有、 事を輔う 賞罰 を用 國家を治るは、 能衆心を得、 の主意也、徒に一人を好み、一人を惡むにあらず、扨其賞罰は、 ひざるに非ず、只賞罰を賴まざるのみ、一人を賞して千萬人勸み、 くべし、賞罰を行ふには、賞は時を踰ず、罰は時を延し、凡賞罰する所、衆心に從て賞罰 私情に從て行ば、 徳に有て法律に非ず、賞罰 人望を失ひ、天意に背く、 は政の大なるもの也、 恐るべし。 故に古先聖王 能其功罪に當るを貴ぶ、若其 一人を罰して千萬 の治といへ共、 人 懼る

る變有べき事

る事也、又今時にて云はど、江戸詰中の賞美、詰明さ、國元へ行く前方、江戸に於て賜るは、圖に當

も計り難し、されば戦場にては、追て重き賞有べき者へは、當座

る間には與へんと思ふ心の替る事有間敷にもあらず、

あり、其上、

時日程

經

或人云、

賞は時を越ずと云は、能其圖

に當れば、

輕き賞にても、

圖

迦

n

た

る重き賞よりもきいめ

叉其人の身の上、

如

何

の輕き褒

美取

敢ず賜

P TO

並家 家主日々戶外より病を尋けるに、始はいらへしけるが、後にはいらへも無りし故、近隣の者を召連戶 扨貝足櫃の中には、已の刻斗りにかどやきける鎧一領、皆具の儘にて、黄金三枚入置けり、 座して終りけり、 を破り内へ入て見れば、具足櫃に寄り懸り、 立も古くこそあれ、皆金拵の儘なり、扨衣服は着せし物のみにて、其外鍋釜等のもの一つもなし、百 を遺はし、 主へ宿賃の未だ濟ずして残りしを、此金にて引とり玉はり候得との遺書に金を添て殘し置 粥抔様の物贈けれ共、不食の病とて夫をも辭て受ず、戸をさして人の入らぬ様にせし間、 傍に遺書一通あり、 披て見れば、 膝の上に大小を横たへて、すのこの上に菰一枚敷たるに 年來家主の恩を忘れぬ由を記し置、寺への遺 大小の仕 け し者 6

日

にも食物したいめたる氣色とは見えざりしと云。

昇平夜話下篇卷之一畢

昇平

夜

無御 は 前 2 せ、 21 6 掘 致 申 五. t 5 巫 右 候 拾 候 出 0 B 枚 儀 候 3 n 刀 五 0 0 21 な 御 或 物 拾 L 0 や、 5 座 浪 殘 は 兩 金、 ん、 候と有 人 Ŧi. 12 屋 拾 調 0 早 \equiv 敷 枚 た 方 にて、 る け t 百 4 0) 道 n 井 兩 浪 6 人具、 餘 人 ば、 五 戶 百 を 0 + よ 大學 渡 方 枚 Ŧi. 6 兩 拾 掘 3 ^ 0 21 Ŧi. 枚 出 n \$ 侯 調 拾 0 21 申 され L 候 と云 枚 は 成 3 刀 た たる 0 百 n を 代 枚 るとの け ^ À 金渡 る 本 50 77 は、 ٤ 致 जा 事 彌 L L 態と尋り どの 申 12 調 1 P 3 遭 る る様 屋 物 は られ 左樣 敷 12 L 21 7 よ と有 it 候、 5 无 0) 事 n 掘 拾 ば 殊 出 枚 ければ、 は され 12 0 今浪 和 大 扩 泉侯 名 72 紙 人は ると 則 抔 2 は 用 0 取 人 月共 せ 存 挨 3 方 王 候 拶 V2 日 事 12 21 12 ^ 浪 共 付 12 存 浪 左樣 人 1 を呼寄 じ大 掘 人 大名 21 出 0 手 は 切 L

草 た L B 前 履片 12 る故 叉 巾 裏 云 着 4× 小 附 をさけ、 朽木 寺袋とて、 木 F. 履片 下 * 土 持 佐 夫 4 0 25 ざる 侯 世 風 FIJ 0 俗 物 を入 間 故 12 語 0 1 流 世 見 15 鼻 なれ 物 行 土 紙 せしを、 12 佐 袋 ばなりと云 行 得 侯 は 入 す 0 ٤ 父 AD. V 伊 な 2 三萬 豫 4× 0 間 侯 22 鼻 は、 石 紙 力 餘 八 **死角** 袋 0 と云 才 大 名 0 懐中せねばならぬ事に は 時、 0 昔は 總 御代なるべし、防大方大猷院殿 領 な 为 八 L 歲 迄、 小 隆 寺 12 裏 勾 能 成 當 附 と云 有 た 上 6 下 T 見 座 * 告 持 物 出自 に呼れ は 0 AJ 大名 仕 は 初

主見 を 取 て、 叉云、 兼 て、 江 朝 戶 [iii] タの 部 八 町 給 堀 後 もの 侯 21 T 0 家 夫 々に續い 町 21 て、 0 裏 屋 物 けしが、 を借 頭 を 3 勤 病氣付けるとて、 T 8 住 L 居 何 せ 某 とか L か 云 年 N 打臥 * L 經 者 て外へ る あ 5 21 隨 も出 子 CL 貧 細 ずして居たる故 困 有 L H て、 る 21 P 糧 \$ 絕 忠 秋 る 家 程 侯 主 12 人 家 暇

用ず、 人より CK 基 21 L とせざるはなし、 し、 せし迚、 りと云 3 士 事 ては 將 事 貴き物 基 あ を思 0 然も客 事 な 21 世 大きに ふに、 も有 兩人聞て心に不足しけるに、 勝 21 刀 21 若き人の 其子 7 金 を賤く買ては、 たるとは違、心すみせぬ あ 叉云、 け \$ の前 合力する心な 子 る事 其 5 悦 五 藏 其 出 頃 此 時 CK + なれ 人 21 藤堂大 と云 一會を 五. 迄は年若き人抔は、物 代 て、 玉 炳 大方は、 六 にて 共 の士の風俗儉素質直 CA 十年以前とは、 聞 云まじき事を V U 堀出 學 汝ら必なすべからず、 し者 12 り迚、 る、 調られ、 古戰 頭 多く 扨 した は、 殿、 再三 大學 軍 は 染井 る抔 術 本 ものなりと語 翁が亡友なり、 [sn] 勝 0 强 酒も終り三好銀を取出し返しけるに、如水最初よりかしぬる心 侯上屋敷へ参られ、 も思寄らず、 事を聞 格 の屋敷 彌 手 T 云は、商賣の業にして、 の直 别 損 返 にて然も義 へ見せられけれ 0 物 せ共、 へ隱居 風 0 段の事をば假 て喜び、君父への奉公、 る社 替負 叫 にこそ成 其 受取 扨 叉は を忘れ 朋 L 、心悪く覺しが、 父来女が 1 彼 友 ずして止 ば 家督 り行け 女色、 聞ば掘出しを致されたるよ 77 の為 得 にも ず、 金五 和 子 あ 21 口に云 泉殿 る 遊典 心中 士たる者のすまじくい るはよし 弟 は、 AJ. + ^ 枚 v 叉 潔白 銀 飲 は、上屋敷に 0 一はず、 當世 0 U 此 事 武士の覺悟 食 百 折 頃 8 な L 枚 0 若替 とて、 る事 紙 は人と物を 耳 も惜 事 女色の 付 に語 加 21 72 勝 賀 を は U 居 人と 知べ 3 り合 貰 1 21 ~ 抔を僉儀 咄を聞 12 王 我 青 しとも N 一替勝た 仍 ふまじき事な Ļ 21 物 地 て、 L る所 どの屋敷よ 鯛 得 そ 釆 ては、 替 翁 思 * あ 女 せ りと悦 掘出 に、浪 と云 しぞか も猥 て興ず 若き時 座 はず、 3 時 0 赤 L N 慰

すべ 中 差 8 斗 H あ 6 n 5 21 ば、 T 家 忍 來 X 出 身 を B 立 刀 なら を 召 帶 連 る人 は、 す ~ 大方 は、 家 0 慮 來 外 21 持 は 答むべ せ ても可 からず、 な 3 家 畢 竟 來 * 刀は邪魔 B 連 ¥2 人 に成故、 は、 殊 脇差斗 12 F 4 見 りにて 慮 出 外 る家 B

自

家 し、 雨 71 覆 異 叉云、 色 を 也、 掛 は ず、 書 白 色 鮫 12 或 v を かっ 諸 木 用 斗 賊 侯 ひず 色を 6 0 家 大 用 中 壯 雨 场 0 觀 21 諸 ても、 を 乘 士 不 掛 執 好、 0 抦 馬 事 唯 を E を 合羽 用 21 初 T 樞 83 の内 8 0 4 小 刀をさして、 性 8 ^ 入ず、 專 等 21 とし、 至 雨を 迄, 武 避ず、 布 0 旅 團 本 行 道 は 0 を 去 6 乘 失 21 12 掛 差事 は 依 布 す て其 團 と云 な し、 刀 凡 劒 T 0 刀 木 仕 脇 綿 7 差 を 以 0 叉 抦に T 他 製

立 H ٤ 申 てと云 事 叉 有 云 台 座 21 德院 の古 付 て、 士 少 殿 井 老 L 御 共 或 大 斗 髭 申 炊 人 殘 を置 H 土 侯 しけ 井 3 は か 世 n 侯 3 るさへ、 0 上 る 翌 髭 12 故 日 は 水 0 3 野 延 土 出 な 下 賓 か 井 野 仕 12 6 守 侯 0 始より 神 心 , 0 髭 有 君 ___ て、 子 * 21 悉く剃捨け 剃 見 0 髭 由 落 女 を剃 为 申 T 登 ¥ ^ 申 共 捨 城 と云 5 ると云 あ n 誠 6 け H U は るを、 東 L ^ 5 30 か 照 此 宮 世 質 神 頃 上似 迄 21 胤 \$ な は よく 世習 0 3 0) けり、 頰 似 其 髭 3 家 を 世 叉 玉 第 12 其 ふ者 L _ 後揉 12 7 V. 哉 は

門 V U を L 以 叉云、 77 1 朝 如 黑 水 鮮 田 對 庫 如 水 0 面して、暫く有て人を呼て、先に貰 時 より 銀百 日 根 枚 野 を借 備 中 守朝 りけ る、 鮮 ^ 使に 歸 朝 行 L ひし鯛を三枚に しが、 2 後、 家貧 新 右 衞 21 門 L おろし、 同 て支度な 道 L 7 其骨 如 5 難 水 を只今吸 0 け 元 n ば 行 物 12 好 L 新 禮 7 右 出 を 衞

履 も取り、 提灯も持 なり、 **运士軍** 中 にては、 もと草履も松明も持べき事なり、 供一ぺんと云様なる惡

古風 は皆失せたりと云 へり。

ます故、 事、 付、 C L 風俗出來して、 無禮 17 味に合せ まします をも帶して出べし、 士 てはなし、 關東 公家 就 又いつも侍と見ゆる様に B 中石 22 仕 編笠 へ聞 時 衆迄申達 ~ 玉 旗百 は、 公卿、 垣 稻 ふべ L 葉 月花、 茶 抔 え甚然るべかざる思召侯、 丹後 石取たる士、大阪御陣 云も 誰 屋 L 此上ながら、 殿 0 か an 茸狩、 守正通侯令尹となられても、 公家が のを召 興樂重疊を惡み、 答め奉るべき、攝家清花の名家、 上 脇ざし斗りにて出れば、 人 けるは、 徘徊 武家 るいは、 總て古寺、 出立べ 御出 の御 若し殿 0 沙 立 冠を戴 装 汰 Ļ の悪 舊跡、 急に糺明して暫く徘徊、 東 の御供に、 有けるに、 上人 因幡守罷登りたらとて、 殺生 く見えさせ玉 21 て出 る御 抔 折節の御あるき何か苦しかるべ 何者とも知れぬ故、 は 怪 行 武家 つむりを穢さるくと申ものなり、 敷姿 元祿 循延實の歡樂の風流華奢、 士七 有 ば、 21 にやつされて、 八人、馬二疋率 羽林 於 は 三年には、 與力同 h 7 免じ置 :其外新家の御方、 は、 寄舞の遊興はなりしかども、 御 心 毛 下々慮外する事 るし 爲然るべからずと申されしとなり、 は己に均き人を見ては、 松平因幡守信興侯上洛して、 頭 賤敷者 せたりと云へり。 公家 子 細 門跡 有 多くは堂上方、 4 の伏戶迄、 賤敷 ば 方 向後左様ならんは 但其 も有 忍び 流 0 御 臣 る 出 0 遊 格 立入ま 式を以 なり、 立に 様に 與 を停 ちのづから 其後も 榮耀 不 出 傳奏に 若叉脇 します **V**. T 此 及、刀 まし 專 御 仕 岭 忍 也 出 3

昇

平

夜

話

下

篇卷之一

より 御 0 縊 手 通 め股立 仕 傘 りけ 小 性、 立 21 仕 て、 眞 27 は 3 て、 黑 色 n 數寄 徒 其 純 21 萬事 跡 子 主 連 0 人 屋 者 n t 0 袴 足袋、 0 は 見 通 3 賢 藪三 習 6 鬼の W 縊 愚 L カン 高 故 3 左 6 木履 樣 * 衞 股 知 , 御覽 門 n あ 立 成を大勢 ると にて、 通 0 長抦傘さ 甲 5 な 聞 さされ、 H 斐 ば、 連れ る 羅 A 22 4 沙 しか 青柳 る利 御 L 0 雨 近 は 3 發 習 だ 羽 から けさせて、 8 さは、 L 織、 仕 見 21 方 よ、 仰 21 數寄 は 6 2 我 n 返 あれ 扨 千 L 恥 H 屋足袋、 も鈍 股 辱 こそ武 石 る 立、 ٤ 取 は 仰 成 T 高木 三左 仕 士なれ、 居 木 けるとぞ。 方か 3 綿 履に、 身 衞 羽 な、 から 門、 織 小 75 下人に長 切 は 手 人 細 傘 米 は だ 111 召仕 の青 L 越 3 25 中 柳 宁 抦 2 ふ下人 傳 木 徒 0 忠 傘 綿 與 0 0 郎 者 3 羽 21 25 += しせ 幼 小

衛 赤 懸 12 h 新 面 處 吳 2 門 敷 L 違 h 心 抔 を持 叉云 T U 2 掛 は 精を出 立 た 參 H 番 3 紀州 け 頭 と散 * ると云 扨 す 國 申 仲 0 御 事 境 付 間 4 御 置 桑 家 ~ 3 叱 Щ 士 何の用ぞ、 人數を遣 は 5 次 軍 郎 落合 此 用 右 柿 す 衞 一中郎 0 ~ 門 を披 ケ様 品品 き道 を以 兵 4 露 衞 0 75 事 筋 心 T したる桑山 進上 * 大和 は代官或は 盡 諸 事 し、 せ 柿 萬 を蓄 L も同 端 組 12 庄 子 0 ^ じ穴 屋 心 納 をなづけ、 賴 抔 懸 宜 樣 0 け 卿 0 を 御覽 狐 所作なり、 てそ可」有 鍛 なり、 練 人馬 な し、 され、 喈 を 春 12 自めとの 我家 揃 25 此 詰 小 至 の番 柿 T L T 八 御 21 B 頭をも 心 只 九 稱 意にて、 を 今 美 月 寄 12 な 0 す せ 8 柿 桑山 盡 3 急 0 者 Ļ 如 用 + 落合 の心 12 息 我 立 兵

又云、 仙臺 諏 訪 抔 0 風 俗を聞 21 三四萬石とる士あれど、 譜代の士三四十人持 T 士なれども草

られし儘に、 良將 の意地は格別 のものと聞え、 感じ奉りしと云へり。

持運 N L んで、 叉 とあるを、 當番 大猷 近き頃 所 院 樣 にて人をも饗應し、 御 代汽 は廣 大に は、 革葛龍 諸 事 手 又は酒宴を極めける媒となりけると云。 を 輕 拵ひ < 當 色々 番 0 者 の物を入、 0 着 替 抔 其 は、 E 袋 右 の葛籠 12 入 て殿 0 中持 中 せ、 提 是を番袋と云 酒器を入

き我 7 申 と申 頭 殿 < 聞 中 寢 され て、 中同 泊 御 叉云、 る V 御家 り番 を 番 心 葛 拙 來 御 と申 道 0 籠 者は 御 内 衆 を持 小性 具 と申 べきや、 小人迄、 方 の失念か 葛龍 多らず、 12 松 平縫殿 事 は取寄せ申 は、 御 縫 右 番 計 此縫殿 殿 0 3 依 頭殿、泊り番 葛籠御持せなく 難し、 通りに御座 頭 て夜に入、 は寢には夢らず、 さずと被 頭は、 v מל 奥御 7. の始に、御坊主 夜寢 候、 申 T を安く 六尺 は、 坊 け 況や御歴 n 主 ば、 衆 只 御 來 御番にてそ出勤致也、 せ * て縫 夜 御宅へ 計 ねに仍て、 御 k は、 殿頭 衆、 坊 過 7 主 申 中 寢 衆 ^ 尙 更の 造 申 の口をあちこちと見廻 答 んとする し候 御番の名は H て、 御事 るは、 は 夫 時 は h 21 や、 未だ 7 何ぞ寢道 v あり、 御 夜 B 御寢 なる と云 座 具なくて 一候と申 御賢 け 道 具 何 せ共、 ぞ帯 n 具 の入り申さんや の葛籠 は、 は 慮 H 劒 n 叶 12 縫 解 縫 ば、 難 候 見 殿 1 哉 殿 心易 頭 え不 頭家 縫 殿 輕 凡 聞

被成 叉云、 ける内、 紀 堀 州 賴 0 方 官 矢 卿、 挾 より、 砂 丸 馬 百 場 間 にて 長 屋 御 の前 馬 2 の道 召け る時 を通る往來を御見物 雨 隆 6 來、 南 0 あ 御 りけ 櫓 ^ 御入 る所 12 5 青柳 雨 の晴 傳三郎と云 間 * 御 待

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

能 道 間 天下 H 3 夫 5 無 0 3 t 取 用 習 から して、 人道 に諸 縱 5 5 0 弊 初 飾 如 ば 侯有 \$ < 7 捷徑 依 * な 人 曳 秋 智 る T 云 と成 n 3 者 な 立 故 0 21 は ざる 收 して B. 21 9 也 7. 是迁 納 な 愚者 然べく所、 是を は 米 3 同 天 東帶、 遠 < を 地 全く 幼 \$ 0 得 は 將 0 事 んとて 稚 初 道 衣 軍と仰で、 をす 義 是に 1 冠、 0 27 いか 5 勇 時 多 遠ふ事 は、 迁遠 檔、 0 る より、 實入の 根 にして、 は 其貴 上 元 春 な を養 却 耕 手 は成 る 下 t し、 習、 事 0 を顯 T 難し、 捷徑 類、 21 如斯迂遠なる事をなして人を き菓子、 あ 有 夏 物 9 はすなり、 語、 な 皆 13 耘 しと云 然ば 草 3 時 以 事 75 适 五 木 無 人の道 一穀を降 21 とも 隨 術 0 實 若是を去らば、 ^ T を 濟べ 此 6 敎 B 道 ゆ に於 結 手 L Ļ 理 入 玉 ば 3 ても、 を知 り怠 事 は h 然共 は、 迚 7. は らざる哉、 りなさ 人と成 產出 苦しめ玉 農圃 將 是を以 先づ 軍 中も庶人 時 るより乳 0 苦勞な 花 は、 て士 然ば ふや 8 1 も異 道 生じ 君 秋 士 味 臣 を 21 是天 の養 Ŀ 事 た 至 行 なし、 る者、 無 下 は 水 を受、 K 地 早 用 0 實入 爲な の常 分定 0 0 其 手 今 恐

~ 武 4 L Ļ ~ H 甲 家 3 叉 强く 州 5 21 は 先 鏃 鋒 東 惡む者にてそ左様にもすべきが、 侍 0 * 照宮甲州 內 は ゆるくして、 義 より 12 申 へ御入國なされ 命 由 を捨 聞 し召れ、仰られけるは、 箆かつぎを高くして、 3 事 な n し時、 ば、 我旗 强盗 信 玄の侍多く召置 抔 本は箆中を能詰 とは 矢疵を蒙るもの肉に鏃留 信玄家は左てそあらめ、 品替 るべ n て、 Ļ 諸 箆より 當 術 座 共 12 手 尋問 拔 疵 らて、 ぬ様 を痛 我旗 は まば、 るし に支度すべしと仰 痛 本 は む様 左樣 事 我 に構 有 利 0 5 運 事 L ^ は致 るよ と成 12

も便 隙 何ぞ 後 明 恐らくは實忠を盡し、 轉 かっ 12 0 百 \$ て 3 是 無益 た 3 し今 有 7 困 姓 0 なり、 迁 世 事 る 利 を ~ 風 窮 0 困窮 怨 き事 家 困 4 の者なり、 遠 8 夫よりし 0 俗 0 の衰敗、 み憤 窮 事 推て知べし、 143 々、 0 あ も立語・ 事をな を脇 叉云、 多、 れ にて、 0 道 る事 飯を炊く煙も起らざりし故、 諸 は、 有 4 77 T して、 常世 此上 諸 して、 を捨 5 は 士 あら 事 を知ら の意 困窮によらざる事推 國 諸士一 然共 は捷 質孝をするものは有まじ、 高 んや、 12 に代官を置、 捷徑 無益 後 貴 地合 多 一徑なる事を專として、 夫が爲に利欲 0 0 ざる説 統に を選べさや、便利 事 門 君と浮 の事 de de 君 * 12 0 管ら此 不饒 計 安富 12 出 なり、 るは 日 入 沈 年貢を沙汰せしめば を費 0 を供 に依 の身となる共、 て知べ 御 一事 の民たる事を聞 世 爲者 時 民 すは詮 21 て、 0 を知ら の貧窮 21 せるは臣 を以 中 こと見 奉禄 Ļ 傾 0 士民 E, なし、 爱を以て、 事 て云はど、 Y 貧は士の常也といへば、勝手不饒は上下共 ゆれども、 を知し召れ、 を減ぜらるく共、 上下 の風俗 下 事なりと云、 此心を以て君に仕へ、此心を以て父母 捷 たとい ず、世の人、仁徳の御世を稱て、聖代と云、 た 徑 覺す る者 收納も多からん、 21 士 天下 抔 1 質は 後に能 風 便 濟 の常なり、 を論ずるは、 年貢ゆる 利 の善惡は、 0 事 是叉 我 12 事、 ならば、 身を利 走り、 事 元來君恩の下 例 有 將 然に 0 ても、 し玉ふよし、 軍 昔より 困窮安富に依らざる事彌 然共上に天子ましく 利 名 迂遠の事に覺、先づ差當 せんとの者 家 勘 は 上 21 儉 0 今の より云出 7 12 約 不 事 才 人と成 21 饒 智 濟 用 T 左 de 21 は を足てこそ、 少か 實 あ L 德量 依 に仕へば、 もの、 た は て、 n 天 下諸侯 る らず、 便 12 は 有 其節 事に 利 法令 時 是 12 誰 12

昇

平

夜

話

下

篇

卷

之

ず、 世 n 不 足 5 基 方 25 以 來 略 利 21 T 共 窮 3 0 至 3 上 用 後 士 21 役 るべ V は を専 ^ 下 世 九 道 不 場 依 云 清 B 我 か 10 きな 迄 年 8 窮 7 0 ~ ^ 身 21 淨 務とす、 は、 全 L 0 0 木 父 क्ष 51 此 言 を用 21 洪 < 連 事 窮 5 母 益 風 云 堯 貧富 其 水 て、 な な 或 押 な V2 存 W 5 近 ~ 0 あ 6 身 4 又葬 人 至 父 生 ば りし 世 21 士 云、 き處 相 來 事 母: 0 6 一を聖代 依 風 上 應 た な 奉 送 0 は よし、 て、 8 t 是等 習 n 養 ケ る 抔 0 ^, 衰 6 樣 事 弊 E 斯 ば * は、 邪 な 有 と稱 0 想 0 21 は 迚、 0 0 然ば IE 法 ても 大禮 風 5 像 + 如 合 定 法度 今一 令 右 せり、 俗 n 風 < 0 3 遁 叉 て、 士 抔 21 25 體 穢 な は 民 事 緣 \$ 至 3 段 至 物 3 के, 0 を 吾朝 と云 B 行 1 手 歎 そ 處 3 3 不 自然 引を以 是に 殊 樣 は 用、 は は 利 越 敬 ~ 12 L n さば 勘 17 0 此 21 3 L 外 Fr 上 E 誠 T 依 仕 至 を第一とし、 移 る事 て、 \$ 21 0 なす、 , 事 事 を T 3 6 周 を な 盡 困 E 不 は 替 仁德天 < な 我 窮 饒と、 b . 敷 統 以 す 5 らば、 是則 す A 身 21 事 淺 T 0 ~ 0 12 葬 心 風 2 行 IE 下 皇、 H 知 益 萬 送 なく、 父 我 L は 敷 政 n 我 4 抔 る n 0 あ 身 事 母 道 灘波 事 處 困 身 事 は 共 難 る 0 あ 0 21 を以 方 る事 なら 見 葬 只 か 窮 有 風 至 依 金 其 分 禮 る 2 事 俗 0 ^ る の役 ずや、 高屋 2 銀 べしと云、 21 を * 推 家 を調 10,0° T ~ 利 云 t 知 知 T 0 0 し、 て、 2 場 計 格 3 17 欲 は て、 有 7. 2 皆 登 6 禄 8 用具品 0 無 ~ 君 出 3 第 7 君 是 22 風 -0 是も 眺望し玉へ 漢 風 事 有 從 俗 h あ 1 米 とす 式、 土 0 な 事 事 る な Ÿ W 21 穀 事 相 成 衰 8 を 21 5 5 0 0 通 知 7 當 殊 た 3 を 利 多 は 6 此 6 は E 知 旣 0 る 病 0 堯帝 る 事 少 は ざる 益 定 心 外 0 らざる 21 I 時 なき を以 を 12 尤 畢 財 6 に省 中 あ 聞 引 3 t な 用 0 士 0 竟

すい 迄は、 是俗 様にも見ゆるなり、 M 大義の亡ぶべき端共成べきや、此風一統とならば、 0 者 L 8 なさん爲の所、 らず思 別家に居る者は、其子殊の外疎遠なるもあり、況や伯叔父姑兄弟等は猶以ての外推て知べし、皆 我 地 かっ 12 云身 輩省 向 古 合も益々悪く成べし、 此 び、 ふなり、是叉利 るべし、 舊 勤 ~ 共 は 知 仕 此 戒すべきの るも を奉らんとて 風 者 音と云へ 廻と云も 顯れざれ 不 其 此 推 0 病 は、 幸にして少し衰れば、又是も疎 婚 及べ 左樣 家 根 其 を治め去らずしては、総令一旦は安富の身と成共、三年を待ずして災必至 L 0 るか、 第一なり、 0 に依て、義を忘れたる故なり、又一段近 共、人により 良 0 利 人 21 の心底故、 も て、 事 否 盆 凡婚 には 古今家中の騒、 * 少なからざる由 自 只 不選、 禮義の如き、衰へざるに似たりといへ共、近來別て勢に付を専用と なく、 姻 分 我 を求 時 0 ある事を知 手入 利用に益 持參の金銀の多少を考へ、又は權勢家の祿 12 我が るは、 臨 追從を以て、只 ては、 翼を張 動もすればケ様 なれば、 子 なき者は遠ざかり、 て、 傍輩 T 孫 才徳有る人出て、 を續 も有 父母兄弟有事を知らず如く成行るし、 らんとて 俗情の 0 け 士へ 由 其 て、 なり、 方の の爲 \$ 傾 0 事より 無禮 く事謂 君へ恩德を報じ、 來の風俗、 縁を求るを、 人情 也、 我 あ 十分の 便利 起る 6 左樣 0 れなきに 輕薄、 と成べ 中士以下のみに非ず、 事な ケ様 の人 力を用 急務とする 非ず、 斯 は、 n 0 先祖 ば、 きものに を求 事 0 ゆる共 如 萬 自然と人を惧 の祭禮 權勢 め il 12 至 相 有 も有様 此故 容 は、 凡 ある人に る、 募らば諸士 人 易く 总 て我身の 恐く 俄 に頃 りなく は治 漸中 安か に付 12 る に聞 は 懇 日

昇

平

夜

話

等閑 時 F 0 8 ば、 らざる 者 ず、 る 21 v. ~ L は 風 に於ては 無 な V. 用 h 俗 り、前 義 は、 共 孰 21 何となく了 n 此 難きも なり、 の者 は、 77 3 理 年 か て、 町 就 は 前 心 12 甚衰 日を追 の方へは、 餘 尤家 を付 人 中 旣 のと云 ケ様 は 次第 禮 程 百 17 町 其兆 の實 簡 の奉 中 右 姓 て、 へ、前段の通り成來れ 成 人 て變 77 * 迄 0 は 百 行 世變 利病行れ、 3 12 公の様に云人も有る故、 打 B 困 頃 催 は、 姓 禮節 せり、 於 る 替 窮 t 0 尤當 T 習にて、 人 21 3 の次第默識 表 掟 は 所詮 をも欠なり、 4 依 財 裏 書 其病根 旣 0 T 用 時 0 12 萬端此 當 に失するか、 取 を補 は 違とも云べきや、 B 適 時 諸 用 其 總 義 は 士 ふ者 N 何ぞとなれば、一 すべしと云へり、 0 一の意地 6 て義 理 首 各 病 一方に止る様に成 但し禮儀 尾 は、 别 らしき事 根 此 理 3 21 病 年 を厚 若さものは、 勝手 て、 合も、 殊 利 根、 始 0 21 を好 共 外 伏 く守るものあらば、 B 時 禮式 尤難治 古代 嘉 に中士已上の者は、 3 し表 に重ぜられ、 叉云、 儀 む者 此 ッの 4 0 と替れ 0 來 ___ 事 に發 如 れら、 恒 は 彌 事 利 の病なり、 12 できは 當時 利勘 の外 いせず、 例 な 病より起れ 當 n 0 3 勝手の 時 中 勤さへ貧富を考 良 君 12 5 専ら費成 未だ 走れ 法な 20 への 12 共 可二申 合 於 0 中士以下の風俗、 全く はざる 忠節 しと思 未だ全く衰へざるか、 5 事 是 財 5 證容 初 利 * る事、一 不 出 凡 前々より 利 は 易 0 と云ば、 ン變 t 賢 利 發に ひ付 事 眉 21 ~, は察し 樣 i 人だ 勘 を盆 8 ひそめ 朝一夕の な 見 0 取 より、 扱、 只 親 n 文 7 道 貴 上 み、 抔 共 盛 難 族 た 叶 下 親子 ٤ 貧窮 士道 る と行 共 4 12 件 是 處 7 怪 其 21 事 事 25 中士已 南 多。 にも至 嘲 は 0 孙 事 極 困 21 な てな 大法 諸士 るれ 嗜も を勤 あら るべ た 窮 3 3 當 族 樣 る

非ず、武にも非ず、巧言令色の族混同せしよし云へり。

羨み、 萬事 追 る類、 窮 を賜 態大に變じ、 名聞 め、 なからず、 漸 3 3 12 從に入り、 再變 に離 は 依 をさ は 人情 0 虚 頻りに 爲に 器 3 是を専務とする事に成べきや、恐怖すと云、又云、 n る 21 背くに 故 し置、 老 B 歸 益 0 剩 云、 輕薄 もなし、 類 は、 0 L 進み、 漸辨利を勤る事となれり、 を変 ^ 義理を倡は辯舌のみにて、 身を利 古老は 世 諸 至 强 誰 72 士の 上困窮を堪へ兼る故、 奸 るべ 趣 か路 Ļ 後 柔邪 けり、 表裏轉變せり、 するに 來子孫 傳 無用の 風 Ļ 頭 12 來 俗 0 族、 以 飢 古 0 面 系圖 女身仕 語 便り有る事 老ぼれとて疎ぜられ、兵談は當世の妨なりと笑はる、故に、 前 寒する者 たる者の、 當 表 に貧は土の常なりと云へり、譬へ世と共に 國狀抔 向 時各禁戒を示さる 其後 と云 廻を専にするを、 有べきや、 若し此已後、 を大切 金銀米銭は貴く、 共に 人情都 規模 きたなき行なき為 のみ急務と心得 其實跡を見難し、 12 12 思 て浮薄、 然に諸 し、 71 しは、 ノ上は、 其家 陣中にては野心の相と云て、 困 土 窮 輕 るなり、 武器、 近來亦一段身の爲に 忽移 今程賞翫 0 の餘りには、 4 度利 諸人善道に趣くべき道理なれ共、 In. 0 又管ら廉恥 脈と聞い り行 由 以前 兵具の類は賤く相成 心 緒を譽と心得 動て相 4 も薄く相 文 は 禮儀 貧乏の 貧乏の け を捨 困窮に及ぶ共、君に仕 5 止ずば、 を 成 たる事 士も、 て、 行樣 9 士 然 するの斗を爲 漸く る 日 名利 親 12 12 大事 見 ·商賣 5 蔭奉公と云 類 此 0 町 由、 古舊 10 0 人 72 文學とな 小身の侍は る 0 砌 走 人 0 時 是は は、 する 0 金持を賤 る よ と云共、 世の困 の用 利 5 族 ひた 却 全く も少 0 業 稱 祿 古 21 起 * す

また歸化せざる故と思はる、乍然此犯罪の趣を以ても、 其頃の風俗推て知べしと云へり。

様なれ 勇 奉 何 る事 角を 其 類 方 介の 文 後 强 公と云 事 0 0 8 も皆世 顯 物 變古 役 廉 奸 いつの頃か、 共 はすものは、 語 人 恥 珍重なりと云人もあ 0 少し は、 此 を日 族 抔するを平生の事と覺也、 を行 老の 間 時 何 は 漸 見 並 事 は 物 分迄は、 蔭奉公と云 U 日蔭に成るべき基と沙汰せり、 にて、 角 え無ね、 \$ た 語 權柄 るも種 穩 12 4 世 敷見 便 事 0 間 家 ケ様 舊 多くは、 足 時 B に逢無る故、 の爲に壯を多く、 事 少からず、 來 れ共、 節 る事也と心 る の人も多か 12 0 て、 21 B 士 一風漸 は、 0 博奕 故 士道 壯 小見の 因て家 是も に相移 年 の意地・ りし 得 萬事穩便にするを、 \$ の者などは、 る様に のづか 大酒、 Ħ 志を移し、 遊に 故、 中 5 寸. 合は、 番 V 小身 成 素氣權力の者は、多く亡びたれ共、人々武家を唱ひ、一 放逸、淫奔 叉古老云、此 か 6 多 頭 ねと思 り來れ 物頭 斟酌せしが、 次第に 陣 右 0 是等士風大に變じ、 取 士迄も常々 類 を初め、 6 城攻 U 0 0 薄 専用にする事と成り來る、 役に選るく義 不行跡 適志 諸 頃の過失犯罪を聞に、 くなれるが、 など云て戦を習 **紅塵**、 諸番士を以て、表向 人の勇氣を育はざる故 0 あ 麥會 る人 のみ見えたり、 學問杯 は、 も見合す 12 其後は直事で 義 は、 も古代 は 願 理 を立、 軍 し、 は る様 談 しく思は 以前 以前 より 戯 の奉公と云、勝手 書 世風一統 抔を をな 禮 也、 0 12 とは な は 法 廻 0 犯罪 ざる様 以 好 を正 好、 6 し讀、 L 違 前 士 た 少し圭 す様な 其 おとな は、 CA の表 も多き る 古戰 に聞 餘 12, 古 强 向 は

態も残りたるに、

柔弱の陰邪變じたるは、

歎はしき事なり、

此頃より世間

にて良士と稱すは、

文にも

IL T 理 る 事を得 h とす んや、 る故、 事 源を塞ぐには、勞せずして能止 繁多 77 煩 はし 3 L 7 詮なし、 勞し るべきに非ず、 T 功 なさ 所 以 常人は何 な 3 事 も末に目を付て、 末に就

躐等 論 所、 强 聞 闘 中 る 武 も多 根 0 故 奸 元を 風 0 0 過節 意趣 た た 儉素に習、 蜚 俗、 叉云、 强 21 0 態に 失ず、 武 3. 3 權 多く、 尤大 たる事にて _ 威 叉 討 ~ 仁孝 て、 勿論 0 を 過 或老人云、 族、 h क्ष 下 惡習 不 に變じたるに仍て、 柔邪 居宅 右 犯 及 12 を用ると云程 4 或 喳 の内 し、 も少 12 に陷らざらん事をぞ糞を云、 尤罪 は な 衣 は た 貴 不 3 る 27 强 からざれ 太平日久しく、 類器物抔に、 足を言 は は ても、 人 奸 科 ~ 可」惜 少し、 0 免し難き事なれば、よきと可、稱様はなけれ共、古代の剛氣豪俠なる士順、 には勿れども、 も間 者 立 不善なる士は、 共、 B 事 古老の物語、 此節若き諸士、 4 亦 か 是は 無 多 たち去り、 飾を用る心なく、 と云へり、 人々 しと聞 禮 其時代 體 其 0 親類古舊の交りも薄からず、 事 た の本を忘れ 妄訴 其記 奸邪 9 迄の一體かと思 並 B 叉古 學問 聞 21 を企る 慶 を行ひ、下々へ 文 近 に云く、 老 を好 つれ 管ら武用 長 來 0 以 たる故 の世態書記し、 物語 み、 如 共、 前 古老の 0 0 12 勇氣を育は 類 追 に疎きを侍の 士 は にや、 從、 るい 多 風 諸士 L は は、 物 戰國 奸 賄 語 風 過 治世 古 潜に同 12 曲 胳 俗 失 などの 成 葬禮祭禮をも慎 0 0 次第 ど、一段 古代 犯 任 世 0 恥 も多く聞 罪 法 辱 俠 志 12 22 * を以 0 過 に似 遠か の風 の人々に傳 衰た 宜 聞 樣 は 敷 5 えた 寄 らざる 7 L 12 な は 風 云 12 心 た 何 L 俗 は れ共、 み 得 5 中 事 12 暄 居 叉戰 故 不都合成 12 たる様に へ、其の क た 强武 8 都て 惣て ると 士道 國 有 口 庫 强 な

昇

- 書 用 拘 を選み學ぶべし。 問 7 叉云、 は は 本 萬 3 士は農工 0 勤るな 用 12 叶 5 はず、 商 の上に居て、 藝術を學ぶは末に達するなり、藝術の中にも、 但 L 本 を先 三民を治 21 L 末 る位に在は、 を後に L 萬事 前 後 0 に達せずんば有べからず、 次第に 又先後の次第を辨へ、 從て、 廣 5 事を學 がんべ 事 有用無 L 一藝に 讀
- 又云、文と云、武と云は、其用大に同じからず、但し文武只一徳にしては、 は、誠の武 に非ず、諸 士を教育せ ん君、 宜敷 辨 玉 ふべし。 文徳の中に武
- ば、 を貴 て ば、 かけ 捨 風 7 俗 穢き事 て、 勞讓叢塵、 む故 して 十分ならぬ事多けれども、少しも私の為に計らず、 又云 日 4 12 大切に守りし故、 ば 不 21 なし、 叶 儒 下り行な 利 教世 士 彌治て彌治らず、是を水を防に譬へば、溢る、水を流の末に至て防ぐ如し、能く防ぎ 風 病 戰國 今世 は は 21 5 \$ 從て衰 行はれざるより、人々 0 の士は、書を讀、 のづから治 士 義 は、學 なのづから、道の大筋目を失はざりしなり、 へ行なり、 と利 とは 問 L すべし、 T 相 此 道 反す、 學問する暇 時 理 を辨 に當 義理 若し當 士 ては、 3 は 21 程 疎 義 る所 もあ の暇 4 を 事ら士魂 以 の、 n 士の義理一分を立るを目當とせ はなけれ て重しとするも 利 ば 欲 利 にさとくなる程に、 病 を育 粗 12 共、 道 のみ ZI, 理 士 0 義七重 目を付て、利 其事跡、今道理 差別 0 0 義 なり、 B 理一分と云事 知れ んず 義 五常の道 る事 を重 共、 病 を治 人 し故、 す * を以て論ず 奢 倡 を、一命 n すたれて、 せ 物 ば U 潔く んとせ 勵 費 すべ て利 利 n 12 は

の間 CI て生を終ば。 の穀潰 寒暖の服を着て、いたきめに合ず、ねくしくと居ながら、業ある人の、うつかりと暮 し、手を出さぬ盗に均しからん、何程長生して勤めても、國恩は報じ難し、の 日蔭の 蚯蚓も同前なりと記せり、態と又體拙く、雜言交りに書たりと見へたり、 たくり廻り すは、 其意は 天地

取るに足れり。

澄す事、 3 俗吏の惡黨、 叉云、 列侯郡 是皆下より上へ移にあらずや、今此流俗を正さんとならば、彌上に立官長を沙汰して、 素よりの事にて、下に在る惡徒搜抉して、下流の泥を浚すべしと云へり。 風俗 其外市 主の身にて、竊に娼家の遊を好むあり、 の上より下へ移るは去る事にて、又下より上へ以移るなり、 井無賴 の徒、 日夜娼家戯場を以て家 士大夫と云はるい身にて、 とし、 酒色、博奕を以て事とす、 今富商大賈の子弟、 競て戯 場 其 0 風 風 を學ぶ 上へ移 武人 源を

するは 悟すべし、 **发に一つの** 武 士 叉云、 ありしが、 何事ぞと云に、武道不足を取らざるを云にやあらむ、簡約にて紛るし事なく、小掛に易かるべ 近き武 此覺悟なければ、外にて下慮の事あらん時に、 口 傳 子弟に教て、 あり、 士の風 汝等門外に出る事 俗 の衰弱になるも、 汝等 既に兩刀を帯て あらば、 人々多くは武道 家の 武士と名乘 閾を跨ぐ時に、 心後れ に心掛薄が致す所なり、北地 ねれば、 死んとぞ云へり、其心懸で忘 氣を付て、二度家 朝夕武名を汚さじと思べし、 に歸らじと覺 に獨の古き

しと云へり。

21 谏 n ば、 あ 12 ñ は倦 なさに 下 を化すると云 事 なし 退 屈 して 倦 事 功を遂ず、 事 は、 無れば、 成 成難き事 ならぬと捨 功をなさずと云 なら、 尤人 玉ふ故、半途 事な 敷 弊 來る 風 にて廢し、 俗 は、 急に 益其 は直り難き事なれば、 功驗を見 る事なし、 庸 只 眞 君 實 は

冥加 安居 も古 共 5 N ٤ 如 物 先 2 祖 今日 を思 思 せず、 是 賞 羅 8 叉 武 CI 言 治 0 か 翫 紗 功 云、 差當る不奉公しては、 み苦に しく、 付 語 3 平 L 0) 0 萬死 和 道 ぞ T 0 [:] 物 或 武 一假名 斷 肝 0 ¥2 合 から 0 を 備 L 或 高 37 具 要なら 美事なるべ 不 出 を 7 は 代 なけ を 書 幕す事 思 守 屆、 T 義 0 0 め 品 太 n 5 CI 俗 元 生 ば 書に、 夫節 神 來 に逢 先祖 は、 なら 兎 折 12 L 角 重 紙 L 豐後節 如在なけれ共、 神武 ず、 今治: 云 治 道 1: 3 0) て、 具を賞 4º 0 軍 世 內 干 以 夏 子 目 事 世 高祿 心 出 飯 苦戦 來 の は 孫 0 其 翫 風 度 を 琥 目 難 叉は 喰、 有 仕 雅 故 は、 例なし、 L 珀 出 官 にて 21 織 度 借金濟さぬと同様なるべし云々、 甲 長唄 水 遊 築 弓 0 0) \$ 江 民 胄 山 單 之 を は かの 太平弓矢の 士が、 俗 吞 21 合 袋 引語 表 觀 共 み、 蚤 羽 連 水 は 22 重 綿 刀 戰場 5 とし 拔 帶 田 風 斗りを思 は 生じて、 鞘、 流 群 刀 含めく程 揚弓、 光輝、 て 御 8 を 0 具足 馬先で、 好 高 切 星を戴き雪 U. み、 名 n 何 にて、 文武 沖 味 0 は 苦勞難 討 釣 後 土用干 物 21 12 潔く討 堅 死 は は の徳なれ 1) 樂み、 亂舞、 き挟 せ 構 ならで 霜 は 儀 し苦み有 L 今治平仁政 ず、 美 死 帶 そ な ば、 明日 茶 蹻 名 する忠志 0 み の湯 金銀 後 は 0 晏子 庫 は 對 7 3 位. 付 汗 何 を 牌 羽 面 風。 盤 飾 0 から 織 は 野 馬 L 4 て遊ん 稻 流 幕 云 Ŀ 6 せ 有 征 は 知 ず、 を喰 0 なく なが 女な らし 行 鞍 U 作 21 L 0

下は沓 能 0 移 立汁 v 勢な へ共、 すべ 5 0 き所 艱苦 を冠 证 禄 事 12 位 此 21 と思ひ出さる、疊の上にて、飽迄食し、 にする様に變ずる共、領國 を得ざる者の、能維 時 疎 あらず、 3 に當て、 柔弱 英君 21 國君 成 碩 て、萬 早く心を用 補を擧の 持する所に非ず 物 不 み。 中は君の心次第成事なり、但し庸常にして振はざる君 足 ひて、 21 思 U. 風俗 日 暖に着 或 を翻 4 君 21 の任なり、 利 廻し玉はずんば有 22 るも、常と成て、 走り、 國君厚く心を用 義 に遠 べからず、 ざかり、土 H 一个月 々に、 ひ玉はど、 賢良 風 衰 奔侈 た 0 の、得て 士 3 假 あ 3 の風に 令天 自 りと 外

0 H 0 士 士を初め、 4 叉云、 民 21 は寝 弊風 今世 す 21 領主の 起し、 流 3 風 ノ事 俗 民 君主 0 衰 の弊風走るは、領主の 下 の自由にならずと云事 た 3 るは、一國一郡 坂 21 向て車を走らしむるが 0 事 罪にして恥べき事ならずや。 に非ず なし、 陶虞三代民を替ずして他すと云へり、 天下一統の事とて、 如 し、 威 城 ___ 是を 郡 成 共 引 領す 返す る岩 に意なけ は 然は家 其 n 領 ば 中 中

質なら 心を用 難し、 は 自然に 叉云、 ずして、只號 U 風俗を正しふせんとならば、 て して 風 倦ざ 勝 俗 は大切 恶 る し、 令 77 非 日 成 法度を賴 ずし ものなり、君主は天下國家の天なれ共、人多き則 心 ては、 を用 て、 ひ、教道を加ゆるといへ共、終には 念る故 先づ人君身を修め、徳を修め玉ふべし、人君の身修らず。 其功を遂げ なり、 3 下 事 なし、 地 0) 風 倦ざれ 俗 調 ずし ば印 T は なしと云 風 俗 は尺に勝と云如 善 に欒 教 良 4 n 法と 易し、 なし、 V され 験なきは、 ~ 共 世の風俗 ば眞 徳なけ 行は 一質に n 真

昇

夜

話

下

篇

卷之一

を 共 稱 類 き者 苦し ず、 老 0 口 22 を言ず、 勤 す 0 成 F L 風 を太 3 人なり、 なれ 南 て、 な か 云 約 身に 俗 る 6 事 は 抔 諾 人柄 ば、 す。 身に 12 儀 あ ね 下 物 はせず、 を違 障 から 引 手 の哀 6 共、 大事 5 受て ず、 5 ٤ 21 假 私 實意 質 命を捨て、 見 ても、 初 を構 を知り、 己が 気惡を好 死すべ 政 酒宴 17 精 W 12 臨では 教 を出 多下 る なく、 へず、 高貴 * 遊 8 士 人に情 き場をば一足をも引ず、 破 興 T す 有 0 樣 に矜 專途 心時 -真實なる者をば 3 12 8 共 瑕 心 の賤しき物 はなけ 0 直 日 0 21 らず、人 の模様 是叉 恐 を送 の用 非ず、 け有 あ 12 n n 様に養 に立べ あ 6 n 共 拵 T 共 語 苦 3 を見合せ、 \$ 0 外 己名 忠難を 何 0 か 75 柔 き者に 惡言 右 な 却 飾 5 3 ふべし、 利 なく 0 用 弱 i Y2 5 0 初 事 如 21 12 抔 見 3 非ず、 爲に 常に義理を重んじ、 なり、 詞 立 して 真實ならねものなり、 义 心 捨 右 禮 成 な 0 す V2 ___ 才智も の如く す 3 端 義 る人 者 種 る故、 己が と朝 當代 大 12 甲 あ 正しく, 21 1 も出さず、 斐 5 なく、 世 役 5 0 にさへあ 4 教 土 似 是は 賴 義 4 しく 作法 は、 母 輕 の害と成 VQ おし 樣 嚴 敷 或 潢 扨恥を れば、 重 差當りこざか 其心鐵石 賴 亂 21 人 は 無 養育 にし 其品色々替 抦 賴 れず、 T 傍 母 ものなり、 の様 敷 辈 悪をなすと思ふ 0 立居 すべ T 人多 人 知て首を刎らる 0 を謗 貴さに 21 IE. 事 よりも堅く、 みゆれ し、 L 敷 振 25 L らず 4 ると云ども、 付 舞 叉世 4 叉 無 前 を嫌 て、 共、 調 は 苦勞 立居 ず 12 種 法 我 程 シ、共、 元 文武 樣 12 * 0 賤 事. 構 來 な 子 振 和 立 皆同 ず を慢 無れ 忠孝 誠 る 靜 舞 す な 事 12 見

太平

久

しければ戦國血臭き先祖

の物

語も次第に聞事なく、

陣小屋の住居

玄米飯、鹽の

31 平 是府 0 6 6. 力 久 21 聚飲 しけ 只 21 庫を 8 英 あ 若 天下 れば n 君 充實するの道 して充實するは其道 し左 封 碩 一統 いる 天下一統、上下共に奢侈に成來 補 内 なき事 の風俗なれば詮方なし沙成 0 風俗 君 なり、 有ば、庸 そ 維 持 或 v. す 21 常の 人又難 かっ る小 あらず、儉を守り、費を省は、 んともする事 は 君にして云に足らず、 T 云、 何 0 理を以て推せば、 成 無 り難 行 りたる事なれば、 儘 0 き所 み に任ずる事なれば、 あらん、 若し夫英君 其罪 府 君子の徳は風なり、 君の罪とも歸し難 庫 人君に歸せざる事を得ず、 E. 賢 0) 主たらば、天下 人君も入らず、 づから充實せずと云 るべ 小 學者 人の徳 しとぶ、 __ 統 7 0 も入ら 然共 は草な な 風 或 は 大 ¥2 V

の者 居るべからず、 通 叉云 り懸りみれば其家風 小 臣 町人と親しく交れば、第一士風に害あり、第二町人より諸士を輕ず、第三にもし他 なる侍は、 0 無」據町 恥 となるなり。 用 事、自分達する事 有 共、 用事 を辨ずる斗りにて、店 先へ 暫も咄し 方

並 德 n にて 21 は 告 叉云 拘 は は、 兵 を農に屬 家 商 1 8 來 は E ----小 た 15 なる者 る事 せしと云へ 人も召仕 博奕、 は 勿論、 3 士专、 飲酒、 鳅鎌 山へ 女色、柔弱の類は、 等 壹荷伐 取 事 は 9 恥 0 づべき事にあらず、 薪 収 5 12 聊 の事 家來 たり共士の恥べき事なり、 4 筋骨 俱 25 丈夫 行 L に成 事 なり、 る盆 假 B 初 あ 21 も利 中 3

又云、 士は常 夕節 義 を専嗜み、 一言一行も、武士の道に於て、不吟味なる事 有べからず、 口に偽

昇

平

夜

話

下

篇

卷之

W は、 る 事 行 奢 易 L 右 乎とし答られ 脐 5 有 貧 ò n 故 3 庫 有 事 なり、 私好を專として、人民を撫育する心なきが故なり、人君と云べからず、 成 主 用 何 如 を救 を T 也、 間 より を以 くせ とし る故 開 对 無理 敷様な 3 奢 今君 て宛 ば諸 て、 無用 領 救 5 しを、 な 有 用 地 25 の費用に L 其 る が 0 の減 土貧に至らず、 行を全し、 玉 n 餘 事 費 上 ~ ば 参べ 君 L 22 を 21 は じたるに非ず、 又足らず、 非ず、 無りし の費用足らざるは、昔も今も領 以 足らざるに、諸士 も足らず、 考 て、 是諸 2 忠難を救 哀公、 故、 可 年 士を 士風をも失ふ間敷は知れたる事なり、然共、 なり、 中 其 一年 然ば の幕を割合せ、 上に して貧に 然に、 年饑 はんと、答て云、國用不」足、君の 人 も又止 人君、 の入り餘 一の宛 君 て用 昔は足て今不 は 至り、 先づ古 諸 足らざる故に、 行を全くし、 事 1: り有 を得 經を越さぐる様になし玉はぐ、昔の を初 士風を 代の て、 ざる、 め、 地 に増減 不時 足は 質 失はしめざる法なり、 農工 忠難 吉凶 素 の用 何故 簡 V 易に 商 か を救 無れば、 等物入打 でと思 を どすべきやと有 21 撫 寸 B U 玉 歸 備 育する 質に足らざる 5 置 續さ、 ~ U 府 しと云は、 見 庫 L 君又 任 或 事 るべ 府庫 空しとは 貧に な 家 な 或人是を難じて云、 國用 5 君 0 5 L 用 至 25 辨に、 今は 足らず、 君 問 無理 25 通 昔 るものは、 不 非 り諸 0 n は ず、 審 府 L な 無 萬 家中 庫 77 3 益 事 成 士を育ふ 空 樣 奢用 府 皙 0 る L 12 0 事 素 事な 庫 行餘 E 聞 宛 簡 12 2 21 空

を充質

するに道あ

にて、 と聞りと云へり。 なめず憚らず、 賤敷所作をして人の翫となる、 薄祿の士のみにあらず、諸侯貴人にも此類多し

を亂 大 難 L らず・ も價 に至 諸士の宛行を全くし、 兜をも見透、侮 るものなり、 義と利とは 方は U る所 n を遺は **外敷太平に安じ、** 人 適々士道 ば、 なり、 當用を辨ずるの爲に、親く相往來して、 君 利を貴 士風 相 す事を得ず、手腰を屈て云陀て 士は義を主として、 依て士は 反するものにて、 の盛衰 貧乏に 是は を守る者も是を答れば、 り輕んじ、 み、 元來町 嚴に奢を禁ぜば、貧乏して士風を失ふには至る間敷なり、或人間て云、諸士の 意地 に心を用 至ては、諸士の罪なりと云へ共、 百 常在戰場の庭訓を忘れ、無益 姓 士はみな斯の如きものと心得、諸士へ對し、不敬不禮有とも、 合町 人の には似れ共、町人には似る事勿れ 人の如 利を顧ざるものなり、町人は利を以て業として、 U 答に非ず、 義によれば、 玉はど、宛行を全くし、其上に嚴に驕奢を禁じ、 くなる、 手荒 延置、 諸士貧乏に 利を拾ざる事を得ず、 なる仕方、 1: 飲食を倶にし、睦敷語 叉は主人の威光に 風 の大變也、 なり、 の費用日々に多く成故、貧乏に至るなるべし、 华知宛 おとなしからずのと云様に成て、 士風衰 と云は、 斯成 行を取 て押 へ、義 り下ては、 利に由 古老の立 る家 付置す り合類も有て、十分諸士 中 れば、 を失ひ、 庭訓 抔は、 あり、 町 差に疎きものなり、 人共 なり、然に 義を捨ざる事 義氣を取立玉べし、 諸士 利 叉町 に走 より 0 罪 答る事も成 家 HH 自然と風 るより然ら より 物 諸 は 1: を得ざ 一の内 金銀 一貧窮 取 T

平

話

下

篇

して、 L de 21 か 京 此 近 幾 其 八 て、 あ 0 T き頃 12 風 4 か 上 腕 人目 成 其 似 俗 替 今 * 斗 忍び を纒斗 21 面 後 は な 72 は 黑 5 は 常 L を忍ぶ者 をば 綿 る 髪少く、短きをよしとす L 4 6 鯨 京の 此 事 なら 0) 21 尺に 絡 L 叉背 3 頭 頃 打 多 T 12 21 に習ひ 77 巾 は 35 頭 婦 ん、 T て八 は 21 N 編 面 女より移 卷 貞 の多く らし 今は昔 笠 江 を L 享 九 絃 覆 しなり、 包 戶 0 21 4 * 8 面 肩 晴 成 み 0 元禄 21 鳴 かす者多く の如く成ものを作り付て、目斗 の上 P L 婦 5 其 及べ たるにや、 の形も残らず L か は、 來 繩 女 0 今は士君子もよき樂を知らず、 - 迄掛 な n を 頃 3 我二十 淨 3 外 6 る風 止 t 瑠 るを冠るは、 顏 綿 21 7. 6 叉此 理 見 21 出 此 俗 幅 を眞 ゆ、 を T 餘 る 事 12 紙 道を 語 12 成 昔 頃 21 21 尺 とし 3 女は 寳 限 て、 3 7 の婦人は 25 0 結ぶ、 事 行 書 永 5 及べ 男に T 珍らし 却 させい ず、 は、 褥 0 は 髪多さ女は T 頃 氣 3 0 小 縹 只 、迄然な 儘 都 髪多く、 凡男女の 如 袖 市 からず、 沙、 て男 0 3 寬 し、 0 りを顯 裹 B 井 永 裏 は 黒き 女の 髻 男 0 りき、 0 管ら淨瑠理、三絃を好み、 を 白 ゆげ 髮形 賤 長 0 頃 0 紅 胄 4 3 は 絹 風 內 * 肩 迄 にし、 して、 者 裏 0 今は 文ケ は、 衣と云 21 そ 75 俗 は 抔 如くなる帽 0 も見えず、男 T を着 小台 或は に餘 我等 み 頭 詞 媥 或 道を な 造 女 B 用 は が見 に綿を頭 りし、 るな そ N る抔 細 の、 きり、 紅 き麻 行 包 0 B 5 子 2 及び 出 み、 物 肌 夫さ を冠 は あ 叉 上 0 繩 は 是等 着 5 面 12 目 名 は剃 E 7 22 麻 を顯 迄、 譽た より 8 戴 斗 7 0 晴やか 髪を東 昔 大 4 は 袖 6 T 方 男 面 は 近 りし た 顯 0 少 人 を隠 すべ るの 8 1 來 鯨 女 長 女 L 成 12 所 21 0 H 頃 12 所 隱 す 4 孙 如 * L 3 は

夫、 世祿 に浴し、大平なる儘に、 懶き事を知らねば、安寧のみ懐て其鴆毒成事を曉らず、 驕奢淫佚

爱に至るも怪に足らずと云へり。

家 は 云、 たれ、 歷 となく 織 たりと云に、 な せしに、 は 然た 作 IFI 付て 迄 自 叉云: 共 付帶 て質素なりき、 5 廢 告 かっ 否親 襪 四 らず 真享の頃より、二尺斗りになり ねと見ゆ、婦女の帯も、貞享、 是を 子が、 n 12 は、 月より八 情百 替 此 果 き者の中に、 成て、 世 男は 72 9 井 鉢 の治れる事、久敷 3 AS 45 我 の常 0 幼ら時 冬草 n 此 木 月 ば、 新敷ことをのみ珍らしともてはやす程に、人の詞、身の様より始て、 男子 方の 大 迄 の帶と名付て珍重 の帯よりも 方 -の打かけ、革の袴を着服し、女は紫の革の襪子をはくを、 慶長、元和 風 婦女の 迄殘 化 まして人間 も女子も、十四 俗 5 を思い 2 批 禮服 12 廣し、 ありしなり、婦女の帯は金襴を美麗の限とし、黒地 は に依て、 ガふる よき事 種々の 12 の頃生れたるもの、 是等 しけ 錦 五歳迄は、 上より下迄心ゆるみて、管ら歡樂のみを管む 섍 b. 12 多く、 17 は 式 我が T 廣さ鯨尺の八分斗成 度さ 餘 遊宴 新ら 所 面 の事 長為袖 り見た 僅に鯨尺の一寸斗り、紙を真として綿など入る事 敷 の樂坏、 事 男にも女に をば置て、 には を着 3 4 新しき事共 にて許 能 た 事 るに、 と 8 江 117 有 戸の L, 5 盐 ならず 後に結 T 元祿 人 風 年々に出來て は鯨 0 寬 俗 0 Just (て平 永 0 尺 能さけ 移り替 俗 頃より、 0 0 凡て男女の は、 に梅櫻松を所 頃 るくを付帶と云、 尺七八 故に、 は 事、 殊に 华 衣服 舊き事 漸く廣く成 0 盛 발 目 衣 寸 古き事 の前 * 12 21 器物、 は何 々に 替 極 9 T 昔 ٤ 部 1/2 7 6

郭

यह

夜

話下

篇卷之一

話 に云襟 元に 付様ならば、 士とするに足らずと云

貧困 h じ海 21 る、 是も 世 凡 一の治 昔に變 商 倡估 る事 をか 礼 賴 外さに み、 寄て、 內外 0 0 事を営 也 人皆佚樂を好み、 む故 12 位有 近頃 人も商賣を效ふ故、 は 有 旅 の士より上つ方國郡 商侶 は依依 て士 の主
、 大 夫 を 殊 の外

L 難さ 風 されど に、 \$7 人も多く有 賃 て、 厚 時 習 程 ば、 叉云、 t 金 \$ 足らず、 て 此 銀 0 5 12 甲斐 六 金銀 づか は 云 畫 七 日 押 世 なべ 4 はじ今云 夜 + 21 然 は日に貴 ら流行も流れるなり、 舉 々敷、 草 夫 年 虚 3 7 を 以 に限 T 騎奢 野 粍 前 22 L V 賴母敷 田舍風 起 か て 金銀 8 迄 あ く、米穀 んと云 は、 貴 る 臥して、 る金銀を以 民 風 を貪 CK 世 間 俗 なりしか共、 V2 間 然もまめ CA り求 n 72 は 汗馬 L 日 ば、 今 周 21 より く流 T に賤 夫に金銀 めざるは 限 野 其 やか 費 戰 其 りな L de 行 頃 せず、 猶 用 \$ に暇なければ、 食滌 なし、 に情 繁華 き驕 0 は、 過 は世を經て減じ、 先代 づ 分 力 其 * 0 な あ な らし、 りし るに 本 極 士 依て天下 ら文な の古老、 は、 元 め、 か 付 風 賤敷 くし 花奢風流 當 て、 V 俗 數多國 つしか 素 0 用 の金銀、 米穀 騎奢 己が て質 より 0 米穀を以て、 金銀 驕 より 諸 ケ 21 は減じなし、 12 0 欲を快り 常有力の人 様の人も失せ果て、 餘 事 残りしが、 侈 を以 起て、 は夢 を 3 好 T にも知 貴き す 假 俗 る 21 \$ 無 年を追 何れ 金銀 12 B 有 朝 用 の爲めに らず、 虚 な _ 0 金銀 B から 夕 物 21 ならずして て生 其 6 易 0 12 無併 其 儉 事 費 3 なけ 在朝の土 祖 子 父若 素を 程 す 25 L 21 3 せられ n 非 82 もの 3 ば も家 か 尊 す、 故 家 大 實 5 U 叶

成 斂 し、 り、大 は 重きは一 利 た 隅 るにて、士風 刑 勘 に片寄たるものなれ 小 21 の賞 刀 處 死 を せらるしも、 は 刑 押 もあ 重 し、 追 れ共、 の衰を見るに足れり、只刑罰 士風を古風に返さんと思 放 等 大方 共、 切腹などはなく、 0 刑 其心は、 は な 3 TÍIL. 氣 뱝 0 士 かたましくきたなき事なし、 强 0 みに 刑 刎百 12 過ての U 非 縛り首环 王 のみに非ず、 す ふ君は、 事 或 か は にて、 邪 叉は 是等の事 欲、 褒美も又然り、 私計 士の刑 恥を忍ず 士の刑少く、 酒 21 色不 も心を付玉べきかと云へ に非ず、 堅く士の一 義 文武 0 死刑 事 忠孝 士に似合 共 分を な ----等免 5 の賞 守 は輕 告 3 さる 類 は 刑多く 禁を犯 21 者よ て、

3 拘 願 SE 七 0 る B 米 12 中 H 者、 家中 無益 穀 度 8 叉 も費、 発さ 云 4 所 並 発さる あ 0 繁 目 金銀 HI n 昔 à 金銀 鄉中、 9 L は を費 5 事 田 抔 へ事と見 と云立 含城 も外より入り來 8 無用 I, 歌 有 舞 لح 下 大に 21 伎 聞 3 の金銭を造ひ、 えたり、 B 克 0 緬 た 芝居、 風 6 質 俗 あ 其中 は を害す、 るよりは、 5 歌 然に 我為斗 舞 75 共 伎 .[]. 類 拘 近 など年中 3 他 叉風 を開 年 るものと、 なり、 は祭禮 方 他 0 方 俗 12 惡者 ^ の障となる、其害大なり、 -出 嚴 又 所 度 禁 る事 物商ふ者の為斗りにて、 B 0 は B 寄 do in 賑 多し、 す 集 12 浦上 神 ~ て騒 本 成 社: L 5 加 祭禮 家 々敷、 抔 中よりも 商賣 0 抔 譯 の節、 益 物 もなく、 あ 8 忍で見 る事 無益 有 見せも 畢竟は て、 は 0 何と云差 _ 物 所 人多く入込、 0 地 つもな 0 に出、町 歌 所の衰微 爲 舞 别 21 伎 成 0 绝 3 な 類、 夫に 地所 と皮 41 do 12 0 0

盛衰 昇 平 楽 夜 枯 話 は 下 世 0 篇 常 卷 なり、 之一 夫に依て志を替ぬは是又士の常なり、 若時 の模様に就て、 是悟: 3

しと 力 續、 分の も吸 持 吟味 られ 廉 8 あ す 追 恥 或は ば、 役 物 操 を遂 る 4 0 中 其 行 相 を追々命 等 火災、 端に 中 12 げ申 人 de を申 增 衰弊の 保兼べ ~ 4 21 於 も抜群 し、又 達すべ て、 付 B 心 ぜられば、 成 の向 叉 一德有 は水 風 L 酒 ~ 去年 Ļ 俗 L ム所 の者へは、 賜 ケ様 難等にて、貧乏に迫り、 5 を正さんとならば、 も定り、 者 叉 人 扨又翌年 諸役 目見 別の 遊 の類は棄て命じ置れ、 及び 獵 等に 內、 人の風儀も一變す を 拜領物をも申付、一統 士風 B に至 學 て、 問、 評 申 付ら 議 5 の勵み成べし、 武藝心掛厚 獲 0 尚又前 大小 物 上 n ば 多有 脱す 諸士 今日父母 るも有 ~ 其支配の者心付、 各 時 华. など、 き者、 し、 0 别 0 右撰の次第は、 中 如 ~ 士節 妻子 扨 統 く評 吸物又は料 ~ し、年 撰 叉 9 不 で守、 の上 議 を養ひ兼 有 勵 時 21 志 25 有 もな て、 12 の 右 H 理を賜 利路 城中 士 0 右 救ひ玉はらば、風俗の助 多 るべ 組々目付、番頭、 る節は、 面 0 去年御賞を蒙り ~ に走らず、 4 如 を呼 5 呼 く進 或 L 集 は 彌 め、 な 出 退 父 右 のづ せら 士行勵む 母 撰 し、 孝 士 長 人 風 悌 JII 煩、 别 AL た から禮節 ば、 る人別 組 魚 嗜宜敷旨 0 家 中 又 頭 台首 內 は 風 けと成べ より得と の外に 禮 俗 其 を 何 不 命ぜ 賞譽 も欠 を維 幸 身 21 T 打 應

く守 き事 なし、 叉云、 5 故、 諸 されば遠慮、差扣、閉門、改易、放し討、 動 1: もす 0 刑罰背 れば討 と替 果 せ 5 たる し事 多し、 を 見て 叉腕 士 風 立 0 切腹等の刑多くして、 を 替 U 3 犯禁 を知 暴 ~ Ļ 行 0 刑 普 は 25 處 義 士に似合ずと云咎め少し、 せ 理 5 を重じ士 3 1 事 0 有 L か 分と云事 共 却 て穢 * 堅 ば、 三粒 思 に非 也 敷 世 雅 h 12 21 側 なしと云へり、 ば 21 25 坂 17 ず、 て、 0 有 7 * は 世 絃、 樂 下 雅樂 類 ~ 12 H 12 0 淨 赤裸 雅樂 なれ かっ 至 T る 行 士君 らず、 妙 瑠 淨 から T n 12 淺 は、 曲 瑠 0) 絕 7 T ども、 理も皆、 如 風俗 間 理 子 3 悪き を作 人を見 し、 てなくして、 は自 iiii] は、 12 敷 其業 2 5 淫樂を禁ぜざれ を能 世 極 貞享より 風俗を移し安く、 昔物 ら是 出 素より淫聲にて、百年以來の物なれ共、貞享の頃迄は、三味線 るが 0 T 速に 殊に 風 賤 して、 するは、其職 敷、 語 如し、 を習はざるべし、 俗 淫聲 にて、 元祿 禁止せずとも、 な 賤敷もの 人の 淫 5 五 彪 0 0 詞 ば、 告 彌 耳 十年 初 4 マを悦ば 成 盛な 善す なきケ 增 優 迄 迂遠く、 らて しか 雅 る故にや、 0 0 間 樂廢 るは雅 風 る故 是風 三絃、 りし 樣 12 俗 L 淫樂 少し T, 21 0 8 *1 12 俗 かく斗 易 \$ 思 樂の功也、 淨 好むもの少く、 L 淨 B 12 を正しくする一 0 U 士 瑠理 出 て風 瑠 is. 民 1 其後 有 り變化 孔子 理をば、 出 L 0 て、 來 人 中 風 俗 此 は、 善風俗を移し易て、悪くするは淫樂の力 た 薬に 俗 0 を悪くするは、 するは 今の る 俗 年 鄭聲を放 非 聞 は 12 を 上手 つの道なり、 盲目法師、 Ä 近き、 人の 追 21 0 誠 いか成 忍、 7 數多出 悪く成 所作 CK 形勢をみれ てと宣 21 難 鄙 國 共 家 俚、 事ぞや、 に定て、 < 來 非人の所作にて止ぬれ 耳 效 0 6 U て、 胡 を 猥褻 はや 大 下 L 马 拖 ば、 な は る 座敷 我 2 3 も今 全是淫樂の i 3 な 41 此 劣 衣 V 病 る事 故 是を 3 なり、 の如 3 21 冠 走 らじと競 な de 上ら 5 を せ n る 0 In く煩 る人 馬 ば 語 は、 今の 除 為 VQ 白 3 0 縱 7 程 程 de F 所 0 險 < U

風俗を敗る程

0

4

は

無 と云

^

30

淨 晋 行 雅 整 至 Ľ 女淫 弟 賤 を L * 多 でき者 瑠 なりと云 は は 極 並 弘 1 俗 理 る 有 或 奔 居 8 72 v りき、 れば、 は、 近く 力 人 の、 3 T は す た L 成 0 妻 3 る 21 程 江戶 B 古 淫奔 聲 心 を盗 所 成て、 者 非 ^ **程**聲と云な 12 るは、 風儀 の鄭衞濮上の淫聲にも過なんとぞ思ふ、 鄭 75 を 數 にて ず、 0 傷 せ 人 衞 T れ 江 を知らず、 は、 淫魔 も衰 し事を語 戶 の淫聲を禁ぜられ 2 る 士 是 淫樂に 事。 有 親 大 0 を 放敗する 面 夫諸 族 人彌 H 0 から 面 是に れ を背 聲 白 5 0 世 元 る、 多 中 侯迄も、 事 k を創 事、 文の 是を 忠臣、 孔 過 H 12 と思 L 耳 其詞、 子 3 T 甚 者 姦 好 5 頃 掩 寳 0 U 是を 速 ずば、 鄭 なし、 通 12 ふべ み 興じ 孝子、 永 て、 鄙 國 か 聲 す 至 0 なり、 を亡 頃、 7 俚猥褻な 好 け を る き事なり、 義士、 雅 放 類 は、土 江 凡 て、一節を學ぶ人有、 る 京都 す 樂 俗 戶 12 ち 樂器 道 行 樂 7 v 0 大 と宣 る 古 享 節女の事 理 は 0 くらと云數 0 夫の 去れ れ難 き淨 淨瑠 に鄭 あら 事 保 あ 孝經に、 ることを 云 0 N 族 ば 衛 斗りなし、 L L ゆる樂器 瑠 初 理 は云に は、 此 12 師 でを聞 理 0 今の を知 音 淨 * 又難 雅 江 風を移し、 云へるなり、 は 瑠 捨 ては感じ合へり、 及ず、貴 らず、 爱に 亂 世 樂を 戶 理 て、 0 中 士 世 は 盛 波 ^ が雅樂紀 管に 妨 12 大夫の聞べ 至 至 0 12 0 子官 一て昔物 音 げ、 是正 て、 行 淨 はれ 俗を易るは、 京 也、桑間 瑠 今の 敷淫 人の 風 絃 難 '理 鄙 て無してい 俗 程 話 師 俚 T 波 き事 を傷 の淫 樂 中 より を捨 の淨 猥褻 元禄 世 來 濮 21 て、 0 0 上の音 \$ て、 禍 以 12 瑠 妓 3 聲 な 0 全樂 なり、 非 理を 頃よ 樂より能きは 故 來 彼 3 な ず、 只今の世 淨 なり 人 方 は、亡國の 6 0 江 習 なる 瑠 0 親子 女に 戶 味 み盛に 古 淫 3 理 稍益 世に 聲 0 俗調 線、 8 0 兄 唱 鄭 通 男 0 賤 0

雕 を穢し、 勿體なく、不忠不孝、士風の害、是より大なるはなし、戒むべし。

三絃宥 の旨 候哉 打寄り、 統 なきに 呼出 共、 相 との 奉畏候と答しかば、 談 又云、 昔より制禁、 発の し、君 申 非れども、 相談 事 聞 願 往 也、 候 は、 あり、 主出 に及 年 或公家 時 養 び、三 制禁の家法なれば、 4 座、直意を以て一統へ仰けるは、 生の儀 御 奥方初め家中一統 然共各承知の 保 12 奥方斗り一時指 養の 一絃など聞 て奥方久しく氣 不苦候は 爲とならば、 通 玉 7. 5 ふも、 の家法なれば成難し、 指付願玉 奥 前々より制禁の事なれば奥方斗りへ 免けるとぞ、 鬱 一統願は 方斗 保 0 養 病 りへ指宥し、 の一事 氣 ふ事も成り難く、 77 奥方八々病氣に付、 7 しく存る所なり、 總 ならんとて、共 種 中醫療 ての事皆 家中 乍然病氣養生は別段の事也とて、 を用 は只今 醫師抔の斯云よしを、 斯有度事 ひらるといへ共快からず、 御 由 迄の 家 今度保養 奥 中 な 方 通 宥 つ申 50 は只今迄の通 り禁じ置 発も成難 の爲醫 達 け n 度 帥 君 ば、 候、 5 相 主 談 奥 仍て各々 ^ 宜ひけ 醫師抔 御制禁 家中一 の上、 如 方 何 も望 存

球國 邪 然に寛文、 始れりと聞 修に 又云、今の世淫樂多き中に、 の樂器を、慶長の頃とやらん、此國に傳しと云、此聲 至らし 场 延寶 U 三絃 の頃 共害云斗なし、 迄 の聲 0 是に能 淨 瑠 理は、 く叶 士君子 絲竹の類には三絃、 告物語を演ぜし故に、 ム故 27 の假 淨瑠 にも聞べ 理 12 き物に 謠物の類には淨瑠理に過る淫聲なし、三絃 必ず 僅に發すれば、俄に 詞やさしく綴りなして、 É あ 絃を合せて、世 らず、 淨 瑠 理 俗 と云 人の淫心を引起て、放僻 の上 8 哀れに な当翫となれ 一絃と同 可笑敷事も じ頃に は琉 5

昇

平

夜

話

F

篇

卷

之

諸士、 み相親 此ならば、 隣伍の法あらば、人々親み厚く、風俗正敷成べし、尤其法を嚴にし、一伍中は內外の隔なく、睦 に從はずんば伍長に告げ、伍長の教訓をも不、用ば番頭へ告げ、其上は組頭へ告ぐべし、如 疾病死喪患難には、親戚の如く互に相救ひ、若又不善の行あらば、隣伍の中より教訓を加 士風なのづから正しかるべしと云へり。

よ間 心を盡し、隙を費して、何の爲ぞやとの事也とぞ。 云は、亭主 又云、 なり、 一の禮義 或侯家 士の寄合遊は互 の調て、懇に饗應するこそ云べき、當時の馳走とて、料理に入念座上の物好き抔に の掟に、 家中の士常々寄合、 に親みを求め、 料理 思はくを述べ、異見をも聞 一汁一菜鹽梅の取合、よし惡はさのみ挨拶に て語 り慰む為斗 5 馳走と も及

賤敷も ず、或は弓 21 る身分に不,似合,誠に小人細民の寄合の如く、飲酒を貪り、騷々敷調子にて、遊所抔へ打寄たる體と の會合に、淨瑠理、三味線环玩ぶべき事にあらず、斯る賤敷婬聲を玩ぶは、志を蕩し、業に荒み、其上格 も云べし、亭主へも失禮 叉云、 らざる事 のにて、 馬、又は 當時武士の參會を見るに文會にも非ず、武事を講ずるにも非ず、三民の上に立て、格祿あ な 百年も以前には、 軍談會、 りし由なり、 の事 年若の者は盤持、腕押、臑押の力だめし抔様の事なしと聞ゆ、 也、 落穗 武士は耳にも入ず、輕き者も夫を家業とし世を渡る者 剩 集にも其事あり、 へ自ら淨瑠理、三味線、踊 其の時分とても、 武士の寄合に慰 糾 0 の外 無 理 なた 三絃は 12 には、手 る武夫 もあら

今の不 祖 臆 は 以 筋なき音物を受け、町人百姓も猥に出入を申付、公事 を嫌 生ず 願望の 别 預 #2 き者とい 我 ば の子 病 の立身多 3 る事な 意 付 表 CI にして下の苦み有事をも云策て、 込み、 向 を 困 有まじき事 自 孫へ語り聞するも、 我 振 へ共、 窮 由 役 勝 猥に諸 き故、 益甚 を恨 り、斯 N 人も、 12 自 手入を第 情 む様な 分 極樂を し、 方へ俳徊して、 0 次第 意地 成を、 4 なくあしらへば、 如く小人世に行 4 倩 る事 に勤 合穢 の首尾を調 専とし、 一として、公事 當 中 時 古代、戰場血嗅き物語は、いつしか失て、 頃 そ の形 く成て、勝 向繁くなれ共、加增褒美の沙汰はなく、 0 語 酒肉を貪り恥とせず、 大酒色欲 物語を聞ては、 勢を察するも、 り聞 る故、 n 下成 其場其席の風をのみ考へ、常座の首尾を繕ふの 手 事訴訟益 す事 自然と古法舊例 向 器量 77 もの諂て其人 になれり、今の世を昔の世に比せば、 役 溺 n 人を美み望む事 才智なけれども、 なし、 大任 士 容 の世に生れ、 偖又諸役人我劣らじと、奉行頭 悦 重 職、 に得られ 訴訟の取持をし、 夫より已下の諸役 者 も破れ、 を近付、 民 になれ 0 自然と時の羽ぶり能く、其下 俱 物 h 上に立たる役人へは推 拙き世 不 事 に樂く見る 中頃驕侈甚敷所を以て昔を慕ひ、 30 勝手向諸役人は加増褒美を初、 を計 足不自由と斗思ふ故、 5 人も、 手入り賄賂を受ては贔屓しぬ 上 0 各手前 噂 所にて、 自分 朏 聞 極樂世界にて、 ヤヤ 人へ、容悦音物を 4 て、 みなり、 4 民 て言云 氣 の首 0 0 奢侈 威 師 0 之 立 を振 詰 表 尾を調ん 事なく、 政 72 る 0 別に 事 もの 物語 るべ 風 CA 各 21

又云、 戰 昇 或 2年 21 夜 は 話 卒 F 伍 篇 0 法 卷 有 之 7 進 退を供にし、 守防 力を合せ互に助け救合事なり、治世にも城下の 窮

72

樣

有

元

滁

元

滁

至三

3

そ

27

成

て、

利

L

は、 此 21 年 事 し給 徳に寄る事なり、治世にも長短あり、 T B 時 晝夜 理 限 N 4 な 月なり、 古は古、 達 かっ 4 ふは、 りなく、 中 ふ事なし、 n 0 冬に 年代 運行又是に從ふ、皆是古今二つなくして、 今の 復 必天 今は今と云凶諺を用ひて、十七萬石の家を失はれたると也。 初 長久なるの道理 一陽來 を經 0 四 地 古 道 運行 時 7 復し 晝夜 後、 秦の世には、 に怠 0 風俗 理效、 は、 り有 て、 是古 型 時 に弊あらん事を恐れ、 は は、 祖宗 年 他なし、 の運 0 古を是とし今を非とするものを惡て、 家を破 四 の政道を本とし、創業 彼祈願の能及ぶ所にあらず、 を起 時 能其初に復す 畫 すが 5 夜 なり、 國 如 し、 を失ひ、 千萬歲 共に長久のものなり、 豫 されば治世長久にて然 8 るが故なり、 其備を設け、 天下を亡すに 以前 の法制に從 も斯 天下 此故に明主賢君の世を治め政を施 0 復初 如 U 至 1 玉 國 天下を亡し、 る事必 古の天地日月は、今 家 0 ひて時勢の爲 も亦 道を失はざらし 千萬歲以 の治亂、 然 安泰なり、 21 常變は して、 後 我朝 12 も斯 推 若 和 Ų の生駒家 0 移さる の天地 し時俗 其 漢 如 是 古 君 < 今 毎 0

譜代 俗 ばど、一 t に成 風 益 0 6 4 重 命を惜む者は有まじ、必ず學者のみ此義 降 恩 聖人の 代々の家 には、 5 E __ 大道 騎 5 命を擲べら心得なれ共、嘆べらは大平八敷、 の子たる者は貴賤高下共に、爭か重恩を忘却する者有 は 下慢に 通りの掟と定め、迂遠なる事まで心得、只利勘卑劣を以て才智發明と稱 して、質素 簡 易 0 理 風 を辨ふるに非ず、藝者 は 絕 て、 華美繁多に變じ、 何となく適 のみ用立 んや、誰 天 告 F は 0 ~ 告、 武 さに 迚 も君 備 今 次 も非 は 第 の大節に及 12 ず、皆々 ・と云風 衰

界

215

夜

話下篇

卷之一

若 不 ば 武 家 如くありし 症 時 L 21 知 き頃迄 の朝夕 付、 行所 と云 仕 不 士 財 根らしき若黨か 申、 叉云、 * は 抔 以 諸 より B ふ如く 其 治 は て、 迚 道 取 身軍 治世の士は、大小身共 は、 缸 多 具 取 世 調 家 譬ひ 致し、 0 納 CI のほしき心掛もなく、 料 戰場 陣 武 0 8 つぎの 其身をはじめ、 下 知 理 に立てば、鹽のかき立汁を吸、 士 た 下敷は以こだへり取 なに とは に於て、 行 すべ 3 物 所 大きに は、 きや、食好をする事 0 連人もほしきと云所 斗 收 りに 玄米飯を鹽汁にて給べ付たる癖故 杵 納 物 違 の當りたる斗りの、下白 T 妻子 は、 減 CI に身の飾、 其身の衣類をはじめ、 少し 第一 中 等 7 り抔も用ひ申様に候得ば、 4 に至迄、 家居等 も 事 外聞を事とし、家居等をも奇麗にするに付ては、 存 B 不 左 0 足 なく、具 外 に付 見形 0 玄米を飯 も小屋が 4 12 を能 は、 難 T 足下 は、 儀 モツソウ 妻子に至る迄、或は布子、綿服 け同 12 何 くしたきとの分別 に炊き給べ習を以て、 も存 にも成 借 0 望 樣 金買掛りなども多くす 0 ぜず如 飯に、 事なり。 B に致し、 客を招き、振舞等をする事 なく、 るべきなど云、 くに のか味噌汁を添てたべさせ

申 無益な 家 て有 根迚 なり、 世 る物 も當分雨さへ洩らね りしとな 馬 間 物 華美、 るな 0 人 入とて 一疋 0 5 費 0 安穩 3 外 は、一切 8 似合の 我等年 亂 あり、 多く、 21 もなさ なる は着 世 0

の道 洪 叉云、 争でか長人を得る事あらんや、 を勉す、 世上の人、尊となく卑さとなく、天下國家 適 其 志有といへ共、時俗 数しき事なり、 の效に 引 れて、 凡世の長久なるもの、天地 遂 の長 12 其 八人を願 道 を 勉す、 は AD は 斯 無 有 n て日 共 日月に勝 多くは 4 神 佛 其 22 るはなし、 願 長 人を得 ふといへ 四 3

3 **兎角人の才器の出來**ぬは、古今の差別にてはなく、 上より下の遺ひ様のよしとあしきとに有る成

ば、 てせず、大身に文盲無能多き所以なり、人君 督 叉云、 たるものは、 おとなげなく、 大身の者にも、 何ぞ役 何ぞ賤敷事抔する様に思ふ事、ならはしの様 義 若年 にても命ぜらるれば、最早武藝抔はせぬ事の様に心得、適にするもの の時 は少し學問 の世話なくば、此弊は 武藝に志有るにあれど、 いに成れ 改る間 家督を取り、又は幼年にて家 り、又學問 敷 な は役儀 に暇 なさと あれ

器有 共、 * 大 Ļ 也、三民 でひは、 士の文道に暗く、武道に疎きをば、 士 は 國 俸 農、工、商は家業疎ければ貧乏して飢餲 の上に 士とするに足らず、女の裁縫に拙きと、僧の佛經を讀得 家 祿 の治を輔くべきが爲なり、然るを士たる道を失ひて、廉恥の心なく、 有 て何もせね 在て、三民に敬しむるも 洪、 飢餲 の恐れ 怪む 0 無れば、一 は、 心薄さは 學問 に及ぶ 何 生家業に疎 して道を知り己を終るより、三民を治べきの才 ぞや 事 面 り成 くしてす、 かは、 故、 大方 世人是を謗 徒に過 は 勤 83 利欲に耽り、安供 断力 る人有、 ら朝 みて怠 る事 其害 るも で知れ 甚だ のな

含者 士 は の如 利 叉 を く利欲に 好 す、 士 は 潔 義理を專とすべし、義理 耽 かっ らしめ る は、 んが 見 る目 爲 もうたてく、 にてそ、 21 君 曉 より 8 聞耳も厭はじと云へり。 多 俸 0 滁 は 利 8 賜 欲 るなれ、 21 疎 1 然るを恒の産有身にて、 利 欲 12 聴じも のは、 義 理 恒の産な 21 疎

< 臆病なる人、 四には 狂 言綺語を以て、人に笑はる、を面白しとする人。

後 と 廻 0 る 辱とも思 は、 に引效へて、上への强を以て、人を恐れしむべき心得と見えたり、又物毎に慎み深く、假初に 左右を氣遣ひ、人に向ては慇懃を盡し、萬端堪 返し、或は人を切らぬ空拔をし、 りて男立をし、 叉云、 肉を寸分に は 物每 ずして、 に傾みなく、 女童の 割 n 相手の强き則 て、 如き弱者 骨を微 がさつにして利口ヶ間敷顔色を繕ふ者は、士 は、 塵 に向ては、强みの力立をし、町人抔に向ては、眼を怒らし、 様々がさつ成る姿をする事、武士の本意なき故なり、自分の に碎くるといへ共、 左り右へやりはづし、 忍强く見ゆるは、士の意地 志を 變 面目を欠ても顔色を押拭、 ぜ VQ B のな の意地なき印なり、 有故なり、 其人の 斯 0 刀のそり 恥辱を恥 如く に臆病な 後 成も も前 へ立

は、 能 W Ļ 只 斯なれば、 一般の高下を以て人を造へば、無學無能の者多くなる、 17 今日 身を委ねてするに堪へざると、又大馬鹿にさへ無れば、 共、 中士 元來 0 已 取 學問、武藝、骨を折てするは損と心得てせざるなり、馬 諸 大 士 廻 身成 小身 L 大臣といへど、 差働 る故、 の土 には、 は 半知宛行にても、 相應 達人良 主家 にても、 0 程合に 士多し、 知 行 諸 て違 相 何故 事自由にて、安樂に育故、 應 N の所へは用 ぞと云に、 あ n 共、 才器を以て遺へば、才器有人多く成は必然な 知行相應の役に仕はるいとの故なり、 凡其 ひられ 當時 家 ずば、 諸家 鹿者 12 て大臣 大方は、 にはなくとも、 難儀 誰 と云 か才器を勵 の勤 半 B 知前 のは、 に堪乗て、文武藝 無學 まざるべき、 後 無學 の宛 無能 行とみ 無能多 の者 如

至 る、若し術有て、上下富饒の身と成共、風俗は次第に頽敗に及び、たとひ互萬の金銀有とも、 其頹

敗を補ふ益にはならずと云へり。

成て、其人永く捨るなり、 き事二つあり、 忘れさすまじき事也と云へり。 又云、凡人の諸 士の死すべき場をはづしたると、盗したると、此二つは一度其事有ては、一生の 悪 大小に 然ば士の家に生るく人には男女共に幼少より、節義の事を常に云聞せて、 依ず改れば世に云訣あり、 舊惡は疵 にてなし、 只改めても云訣の立難 施と

れば、 叉云、 必成 節義 績 を致し、 は 時 變に依て顯る、平居無事の時にて云はど、廉潔耿介の土を貴ぶべし、 事變に逢ば必律義を顯ず、常變共 に國 家 の用 に立者也と云 ~ b . 官職に任 す

小歌、 は、 ば、 なな 袖留 又云、 淨瑠 事の樣に心得、小兒の軍事の遊はいつしか止て、碁、將棊、双六と替り、軍談ものへ會は、 0 靜 理 祝 儀と云も名のみなり、具足の着初めなど云事は、 21 の會と成、武藝の稽古は三絃、踊 爱に衰世の變を見るに、 男子とだに云へば、 の稽古と成と云へり、是を以て其他 高貴の方などは各別、夫より已下にて 機袍の内より振袖と云ものを着 は準じ知べ

節 を云はい、 を致し私を顧ざる人、三には弓馬 叉云、一條兼良公の 一には 胡亂 猛 説に、よき人を云はい、一には 悪に して慾に耽る人、二には不奉公にして人の非を學る人、三には武藝に拙 の道に達して心勇みある人、 正直 廉潔 四には和漢才藝有人、又よか にして極直なる人、二には奉 らぬ人 一公の忠

昇

織

田 下手 夫さ 含士を笑ふ事なれ共、 なれ へ今は昔 心底 共、 賴 母しからず、 賴 77 母敷所あり、筋骨丈夫にして、物の用にも立べきと見ゆるもの多し、 較れば、 士の 殊い外に 骨 ケ問 古風は今も田含には 敷ことの用 達 たる事なり、 には、立まじと見ゆる者多し、 なれ共田舍には古風殘 あり、 大都會には少し。 りて、立居、振 士の古風は田 大都會の人は、 舞、口上 含 12 殘 向 n 抔は

2 へり、 叉 云、 斯る古諺 古人云、過て苦しか も次第 12 聞 らぬ 事 稀 になれ は 武具、 30 指出 て苦しかられは 一番鎗、 後れてくるしかられは殿

3

- られ、 に逆 口なる者 君 は賢君也、 の心 言 を奉 君の爲に深 21 叶ふ様 るも 愚人と合口なれば愚成君なり。 0 22 なり、 く忠を思 媚餡 ふ者は、悪きとは知り玉ひながら心置れず、 ケ様 U. のも 節に當 のは て一命を奉 君も惡きとは るべしと思 思 N 玉 は ふ土は ね 共、 媚餡 何 氣に入ものなり、 とし 事 ても氣遺なる をせず、 折 12 賢者と合 者 觸 故 T 疎 は ぜ 耳
- なり、 る故 用らるれ 12 叉云、 色 3 4 n ば今の ば、 0 理 風 を執て屈せずば直臣なり、 直臣 儀 有 士には、 て、 は 志を失ふ、 種 色々 4 21 用 0 風儀 立 動もすれ 所 あ なく 威に りしなり、 ば答に 恐れて旨に從ふ者は佞臣なり、 様なり、 逢て、 古今 昔 の 替 は 志の立ざる者は、 面 5 4 を知 0 生 て治 n 付 むべしと云 た 皆當 る 上向 風 世に 儀 にて、 へ追從輕 あ 6 ふれ 生 涯 風 薄するもの 押 俗 通 21 なる L 72

又云、治平久敷の變を見るに、一變毎に利路に走り卑劣亡儀のみ行はれ、土風の風俗を取失ふに

高なるも、 物際の立たるもの故に、其本形を常に忘れず、武士の魂を定めよとの譬也、素袍麻上下の折目 此意なるべしと云へり。

あり、 5 貪り、 且叉財を貪る風俗に付ては、 又云 是も畢竟財を貪るの弊也、 不 相當 婚姻 を娶る事、 は配 りを選む事第一なり、其婦の徳性年齢、及び兩家の祿相當を選事勿論也、 嚴制 有 べし、 嚴に是を禁じ、 貧家 の子供年長じても、 古も婚姻 に財を選事は、夷 且媒約役人を立て、怨女曠夫無らしめ玉ふべし、古 緣談 取組も成 狄の道のよし云へり、 難し、 涯嫁 せ ずして 恥べきことな 只 終るも 財を

守れば、 叉云、 自然と禮義 家中 風 俗 の善惡は、全く諸士、大小上下の分格正敷と混亂とに依事也、面々格式を正しく 12 叶ひ、家中の 風 俗 も宜敷 成なり。

先聖王

の政

斯

の如

し

恐るべし。 成妨となり、 年若 且又家中習はしと成て害あり、禁ずべし、古人云、習俗移、人如、油、漬、麵如、□と云へり、 の者、 及び重 職 の者、 平 日無益 の遊を好ば甚 隙を費し、 文武の修行役義 の心配り、 大

を却 叉云、武士の詞遣は、尤正しかるべし、遊所下賤の者の詞を遣て恥る事而已ならず、是を知らぬ て田舎 者なりと罵るとも、 心を動すべからず、妻女固く遊び者の風俗を學ばしむべからず。

京、 大阪、 江 戸等をはじめ、繁華なる大都會の士は座配口上向抔は美事なれ共、文勝 て質

群

25

夜

話

下

篇

卷

之

叉云、 士は人に恥を與へず、我も亦後を取らじとする事尤也、恥取らじと思ふ時は譽は其中に有

る事 叉云、 也、 或は詞を惡く遣ひ、下馬もせず、萬事に無禮なるは、 武士道は弱氣を見さして、嗜み慮外せざる様に守るべし、慮外と云事は武士の强みにせざ 臆 病 成事必定なり。

叉云、 かさつは臆病の花、 短氣は未練の想、 氣遣は分別のいろは、 堪忍は忠孝のはじめ、 心掛は

手

柄

の基とい

3

叉云、 刀の 棟打 は非常を戒なれば、 士に當るものに非ず、當られくば堪忍ならぬ事也。

武形にして士魂なきものと、 追從輕薄なる侍を禁ずべし。

叉云、 士は詞を違じと嗜事肝要也、 故に卒爾に物云事なく、深く前後と左右を考へ、 胃に納り、

掌に握りたる儀ならざれば、詞には出さずとへり。

叉云、 士は 總て飾を好ず、流行風に移らず、 うは氣ならず、 古風めきたるがよしと云へり。

胄 ぎ、弓矢を携た D 論を求め、無體緩怠なるは、よき武士とは云はれず、甲冑は、 21 て人を敗る事なし、武士の柔弱なるをよしとはせざれども、 武 士は平生武士の本 る形を云、公家、武家、農工商、各其本形あり、 形を忘れぬを第一と心得べし、武士の本形とは、甲冑を着 凡甲冑はかどと一敷ものなれ共、甲 總體の仕立、切目、折目有て放埓な 左らばとて猥に腕立、大言抔 て太刀をは を吐て

*のなれば、過言有べからず、たとひ質成共、他の緩を語るべからず、殊に己が恐る\儘に、他の武 武士の角を立る者をば、背風、偏所者、田舎育、放れなし抔と云て笑ふは嘆しき事なり。 叉云、士は何時誰が見ても、士と見ゆる様に嗜べし、假初の物語にも、武篇の議は皆人吟味する

21 篇を聞て、斯成まじ、又は何某には負まじ抔とは云べからず。 士の交る道は拳、扇などにて人を打事士の法にはなし、 V て打打 0 叉云、 臆病者と云。 返したるは、 心易き人なり共、殿中出會席抔にて妄に雜談すべからず、尤喧嘩口論抔深く慎むべし、武 尙以て士には非ず、朋友の口論は早く中を和ぐべし、人中の戲、高言は、人そは 腰にある刀、脇ざしを忘れて、或は扇叉は拳抔

非ず、 の沙 又云、家中の士風は、主人の外聞に懸る事なれば、大小共に平日怠りなく愼むべき事なり、傍輩 汰して、 遺恨 0 他國 根なり、慎むべし。 へ響すべからず、其家中不吟味に聞えて、他の侮を受る也、是誠に主人の恥のみに

我言分を立んとする事あり、我心にては後には非なりと思ふ事にても、初め勢ひ强く言出しては、時 の氣色して、 の首尾に依り、跡 叉云、 岩 口論 侍抔は入らざる儀を以て口論をし、 にて和ぎ難き事多しと云へり。 すべからず、僅成 儀也共争ひ、詞に勢ひをなす時は、是非の分ちなく意地を出 詞を違迚犬死する事多し、侍の付 合は假力 初 12 も我儘

鍍

好み、 3 或 士の交は禮法正しく、一言申し出す事も、 醉狂をなし、 假初にもそけたる體をせぬを本意とす。 叉は 小唄三絃座上に取りはやす族もあり、是等は一つとして、侍の作法 跡先をよく蹻へ、多くは古書の穿鑿、 義理の物語抔を になき事な

者 下げて、 に對しては、一入高位に取繕、町人百姓は手 叉云、當代 事 小無造: 、士の風俗、質朴素直の氣味少く、外聞他見を飾り身を寬に持なし、我同列又は下輩の 作に繕、飾なさてそ本意なれと云へり。 の下の罪人の如く取扱ふ族あり、土は分限より身を引

て是を用ひず、直にして潔さ士なり。 麁暴なり、 叉云、 又云、 武士は 日和 勇を内に含て外に著さいる事本意なり、今の俗は和愛ある人は柔弱に、 見を滅金士と云といへり、予友に潔白なる士あり、具足に當世小札と云名を憎 勇敢 の人は

義 初 < 多言にして、踊 叉云、 に當るか當らざるか抔と談ずべし、武士は文武の外の藝は拙くても苦しからず。 0 交る友なりとも、詞を賤敷 咄 にもい 白痴者の會合は、人を謗り、我を誇り、米錢の沙汰、好色の戲論、博奕大酒、小歌三絃、高聲 前後 近り狂 0 勘 ふ事、偏 辨し、 忠孝 すべ に奴僕に等し、豊士の作法ならんや、士の出會は禮法正 の沙 からず、詞を賤しくし禮法を亂すより諸 汰、 文武 の吟味、或は古書に載 せた 事の る歴 代治亂興亡、 過失爭も出るなり、 しく、 年來久し 斯る事は 假

又云、前帶丸腰にして、近隣など徘徊するを、丸き人柄なりとて譽め、近隣にても大小刀を帶て

鈍き潔よからざる者に似たりと云へり。 は もなく、 て双を付、 只身構斗りして、 血氣 餘り早からず又詰り過ぬ様にすべし、拔身にて指は、以前の男伊達抔云ものく、何か に委せ人に誇り、 逃げ足の早さものに譬へたり、又磨たる斗りにて刄を付ず、なま切なるは、決断 闘争を招くに似たり、 良士のせぬ 事なり、又用心深く鞘に 堅く結で指 思案

其國 是を爭 くすれば人是を惑ふ久して天下相爭て是に效ふ、是を非とする事を知らず、士風壞れ是に至らば、 蓋天下の息は、 共、 たる事を得んや、古人云ることあり、禮儀廉恥謂 | 是四維、四維不、張國非 | 其有 | 也。 叉云、 ふに 又是を 世に刀をためし、鎧をためす者有といへ共、心をためし身をためすものを聞ずと云へり、 至 れば、 v かっ 士太夫恥なきより大なるはなし、 ん共すべき様なし、 人を殺 して其身を謀ると雖なすべし、何の至らざる所あ 恥を知らざれば利を見るのみ、 人にしかざる事を恥る事なければ、 他有事を知らず、 らん、初は人是を笑ふ、暫 百 錐 0 刀 君子有と云 の末盡 國

行も 恩に T 住し、 叉云、 のなり、 叶 帶劒を脱て、枕を泰 古人云、治世には定て治世の煩あり、其故いかんとなれば天下の武士治世賴を致し、 三民の長 是を治世の煩といふと云へり。 たる、武士の士 山の安に置を以て、自然と武備に怠 たる道々違に於ては、天下に相從ふ三民の輩抔も、 3 武士の本意を取り失 其作法違ず ふ様 に成

當時士の寄合、 昇 215 夜 話 下篇 禮儀正しからず、決もなき事共聲高に笑ひ罵り、又は人の噂、 卷之一 10 好色咄し、

商 時 重 士の か に似 0 士 n 心 流 ねる、 0 ぬ様 行 心 を以て金石と譬るは猶足りとすべからず、金は火を以て鑠すべく、石は槌を以て打碎くべし、只 21 は然らず、 移 夫も猶器物 に養ふべしと云へり、只今時の農民は、昔の工商よりも其心穢 るは、 柔弱若輩 火に 等の變るは小にして見易く害少し、人心の變るは其害大にして見られ難し、武 入て 単の心に も水 に入ても、身はし、びしほに成ても、心を變ぜざる して武士 一の心に 非ず、 又云、 の心は譬ば農民 く甚しかるべ には似 は し。 面 士 0 3 共、工 心也、

る 1 3 拵は 其用 世人其 縦 天 光て目立を好 又云、士の大小刀をさす事は、昔に替らざれ共、只指物にのみ心得、鎗は持する物と斗り心得て、 を知らざるもの多し、古人は抦鞘ははげたり共、刄は白く骨の切 上 IE 75 0 木 錦 頃 眞 綿 を着たり共、頑愚ば用に立まじ、 の紐を呼で眞田打と云といへり。 田安房守昌幸浪 み、 身は 切 るし切ざるの吟味薄く、 人の砌、 大小 0 柄を木 此魂を見すべきなりと、兩刀共に相州正宗にてぞ有け 甚敷 綿 V) 打糸 は錆 にて卷たり、或八是を笑ふ、 朽たるを恥る事なし、是に付 るいをよしとせしに、今は上の 安房守云 て物 語 あ

ず、 者を切 させば、 指収 又云、士は常 る時 も同じ事なり、 却て の爲 我身 の事なり、され共、常には鞘 に過ちあり、又過なき様にとて、 々の心得、刀脇差の如く成べし、 夫を武士と云べきや、又能磨ても刄を付ねばなま切にて用に立ず、 に納ざれば指 鞘に堅く結び、拔 其訣は兩刀共に能磨て、其上に刄を付置は、横道 れず、 人を切るものなればとて、拔 ぬ様 17 すれ ば、腐 6 付 所詮能磨 て用 で立 にて

事 れば、 を盡すべき所と思ひ、鎗を構、 なれば、 適れ 各も主人に離れぬ様にせられよと云ひしを、 働と思ひ込みたる勇氣急に撓み、力も落、腰 追手の近付を待けるに、 間遠より其方儀主人より暇玉るよし申渡しけ 聞居たりし門人の も立ぬ様に有りし、 咄 主人に離れ せしを聞 し事 ては力を失ふ

身の上相應に持事ならぬ様に成たり、元來軍役と云は譜代の家來を身の上相應に持事なりと云へり。 3 分は三分壹 せ、親類 遺はる、事なし、大名は足輕仲間弁家中の家來を普請に遺ふ、扨家中皆手前の若黨中間に普請 公人も 毛 を見るが 半下 又云、只今武家の下人出替り者斗りを召仕ふ故自然と家來の愛憐なし、一年限なる故其心互に路 を持と云傳たり、質素なるも深切に賴母敷も想像れたり、又以前は若黨の切米二兩 江 知人よりも家來を貸て普請をさする故物入もなし、 は二 戶 昔は普請などするに日傭を雇ふ事なし、公儀の御普請にも御旗本の家來を出して、日 中 如 兩、半下は一二分也しに、 一兩其餘 は皆主人なりと了簡す、斯の如くなる し、何にても六ケ敷事あれば請人を呼寄せ隙を遺はせば我身に懸る事なしと了簡す、 も取る事 に成たり、當時に至ては武家の輩其外の諸色も次第に高 今は若黨三四兩を易き切米とす、中間二兩 風俗心根となる故自然と下より上へ移り、 古諺に城普請に侍はコマイをかき、足輕は 二三分三 直になり人馬を 斗り、 兩 其 取次をさ 其主人 上も取 中 傭召 間 奉 0

8 盡 す事なく、 次第になく成は習しの移る所なりと云。 語なれば、飛鳥川の淵瀨忽に替るは去る事なれど、替る間敷ものく替るは打驚

昇.

平

JII

は替

3

0)

略

林 深 田 の畔 傳 迄 本 物 毎 12 能 心 得、 手 足 健 にな くて は 軍 0 所 作 は なら ¥2 事 な

共 樣 畅 尾 は と云 濟べき事 向 夫 御 陣 抔 77 又 準じ は 御 云 -入 稀 上 御 身代 我 な て奢 なり、 洛など云も 陣 等 御 不 若 4 E 以前 相 間 洛 年 應 敷 0) 0 御 は陣 のなし、 の借金する者多き事になれ 事 頃 無 供 迄 屋 6 は は L と唱 何 以四 故、 叉江 時 五 前十 も差 72 戶表 今の る故 閊 人 樣 陣 の諸 はな 4 小 22 0 費多 屋住 小屋をば陣屋と唱 き様に備置べき事 晴 な り、陣小屋住居の意を不」失は、 からずして濟 居 る の意を失ず、 事 * ば御 陣 しが、 L と人々心 御 萬質 を、 上 一洛と云 今は 夫も 素 小に榮耀 得 今は 事常 在 たりしが、 所 1 ケ間 小 の言にて、 屋或 左程借金多くはせず 3 江 敷 戶詰 事 は vo つし 長屋と唱 不 士 する Ļ 0 かい 人、外 第一時 衣 4 服 て陣 0) 食

古人の 叉 云、 恥 12 る事 昔 0) を恥とせず、 士 は 草 鞋 馬 0 恥ざることを恥 沓 作 る事 は 知ら ぬを る世となれり、 恥とし、 鬢髮 余も是 艶なく立居 を以 7 準 無骨なるを恥とせず、 知 し。 今は

きかと其心得して立退けるに、 掛 0 4 置 用 を遺 L 叉 事 意常 な は 々怠 普 5 L は 寬 5 欠 暇 な 文 取 落 3 0 らす 逐電 頃 心 迄 掛 の類 3 段 は L 斯 事 申 を其 な 0 渡 果して侍壹人追掛來り、 如 3 す事 儘 くなりしと云、 にさし置 其用 な 5 意とて人 去に を主 依 人の 去る 4 T 打 昔 恥 諸 辱とし 違 は 遠方より呼懸ければ、爰こそ日頃 侯 袋 追 0 72 掛 鎗 米と て追 討 術者 者 錢とを入、草 掛 など命ぜら 子 17 細 計 有 取 て立退 5 n 鞋 て 叉 そ しに、 は 縊 遲 其 付 滯 日日 追 不 な 輕 手 < 斷 4 來 翔 は 居 るべ 間 出 追 12 す 排

修練

の補

費 責 おや 云 0 た は L 事 7 時 軍 臑 手 か 山 は つた故、 \$ 呛 夢 作 n 多 田 0 くて が兄 物 12 隱 りに おあんと云ひし婦人の物語 は B n ない事 樣折 る程 花染 兄様をさへく進て鐵砲 色 何 4 々山 0 0 0 B 好 帷 帷 か 夜 子 事 子 ~ B 鐡砲打に参られ 不自 のめさると云べ 12 一ッほしや 一ッあ 入 り夜食 由 5 な事 外にはなし、一ツ と云事 でおぢやつ を書留 と思た、 打 72 しとなり。 に行と有ば嬉しくてならなんだ、 し者に、 B 此 朝菜飯を炊て晝飯に持れた、 無 た 樣 つた、 12 用意 おれが 昔 帷子 今時 は 物 は を十七 親父は の若 毎 面 不 々貯はあれ い衆は衣類 自 の年迄着 由 知行三百石取 な事 共、 でな 72 其の 扨衣 の物好きに に、脛 ぢや 朝夕雑炊を給て 時 T 類 居られ 0 に我等 から B た 出 なく、 心を讃 T たり、 叉 難 も貨て給 書 儀 \$ n 5 飯 12 ちゃつ 其 抔 有 一時分 てか 喰と た

陣 鎧 柄 嗜と云て知 士 高 を急敷 は 銀 皮下ケ緒 本土の 124 唐 鉈 鞍に似たるも騎 抔 仕 寛文の頃迄は飯の炊様、草鞋、足中、 上に所作 とて 立 多 りたる武 かりしは、 喉 柄を 輪、 尋常に をす 脇 士多かりしを、今は武士殊の外なまけたれば不審 引 戰 戰 3 に宜 腰簑、 拵 ものなれば、 場を經 る 敷故なり、又馬鎧 類、 腰當 た 皆 る武 22 太平 色 長途をも只獨りかけ歩き獨はみをする心懸肝要なり、 士の 4 0 0 時 小 物 と云 疊 道 好 馬 也 0 具 の沓の作り様、 上の 物近年廢りたるも を取 具 玩 足の 3 付、 好と 毛引 或 知るべし、 は は 繩節を結事 具 軍 に思も理 騎戰 足 中 下 77 の廢 馬 着 て切易く見苦敷 を武 0) 連 りなり、 鞍 小 5 る古は 72 手 士の知らで叶 る故なり、 袖 抔 其 鞍 25 頃 坪 迄 仕 de 廣 大 0 立 也、 總て武 Щ 小に皮 1 はす、 川藪 前輪 或 重

移 物 n 共 る弊 抔 に費をなし、家中の諸士若輩の 詰る所は其所の米穀も減じ、金銭も他方へ出る事入るよりも多し、 あり、 輕業、角力、諸寺院の開帳など、他方より折々來るも所の賑に成、金銀通用にも宜敷様な 禁ずべき事なり。 面々又は妻子抔にて見物に、或は芝居役者の風俗詞遣なども自ら 加之ず人々無益 の見物事食

み後は跡へも先へも参らず如くなる、大摺切と成事也、又云、何程靜謐安泰の御代たりといへ共、 切事なし、 多も少さも主人より玉はる所の恩給を以て渡世仕べくとさへ覺悟を極るに於ては、さのみ手前も摺切 士の生立、本は貴賤上下を嫌ず、常在戰場と云文字を常に心頭に挟で身の榮耀を好ず、 0 る 用金の少々づくも腰を放さぬ様にせしなり、治世の武士は高も賤も太平の御代を頼みに致し、 などを致て人の物を借り候様なる事は大なる恥辱 み榮耀 物を借り調へ今日の間を合せ、其金銀には利足を添て返濟するを以て跡かれとなり、段々と借金も嵩 世間をはかなく思ふを以て、來年の暮に至り相違なく返濟致べし抔と云如くなる證文を調、判形 又云 の望も出來、身上不相應なる暮をするに付ては主人よりの恩給斗りにても事足らざる故に、人 我人共に先づは今日は命恙なしと云へ共、明日にも戰場に於て討死を遂ぐべきも計り難し は 武士軍立諸用意斗りを宗とし、家居共に榮耀ヶ間敷民は好まざるに付、 に存るを以て、自ら身の上相應の暮を仕り、共上に 質素を宗とし、 自ら身の上摺 心もゆ 武

べき様もなからしと云へり。

き故 L 菓子 饗應 17 72 有 結 多 8 事 4 結 5 よさ 垢 3 構 て、 多 其所 什 4 成 は 多 12 叉 1 6 水 云 物、 を出 種 此 た 成 多 を付 前 9 B 物 20 12 麁 豆 9 L 迄 4 往 昔 茶 以 氣 3 を 3 L ٤ 餘 煎 結 は T 年 より 勢 構 前 造 AD 用 0 手 粘 12 8 は せ は は W TE 7 成 は Hi 前 72 0 [III] 其頃 は濟 見 下 有 奢 h 菓 元 る 也 よりに 8 る 部 事 也、 來 餅 結 6 道 有 子 茶 す、 0 な 叉 6 具 事 V2 0 AJ 類 抔 垢 3 事 串 し、 樣 媥 百 せ 伽 V2 21 B は田 風俗 付 物 < なり 12 人 姓 L 12 柿 田 雑 昔な 专 ぬ為 たぶさ 0 な 成 含 0 は 0 含に 出 AL L 屋 向 0 髮 薬 油 5 あ 故、 移 されび 來 1,2 と云も 5 L 敷 城 0 12 6 な 3 5 始 樣 0 T しか 下 0 か は、 替 下 是 豆 豆 樹 5 h 子 髮 田丁 りし故、 し事 腐 煎 る 張 今は は 果 42 ^ 8 を 0 事 と云者 其所衰微 指 萬 大 結 抔 煎 抔 は は 五 12 21 事 12 鲱 T 入 用 12 L 絕 六 P 自 7 72 替 8 菓 に、今は 12 てなし、 ひざりし、 所に有合麁茶にて事 5 + 出 由 種 T 事 子 n の基 夫の 能 は 濟 华 來 11 5 4 12 今 < 風 麁 72 て、びんを横へ 4 奥 なれ 流 は 以 3 繁 みならず衣 は 末 5 有 Щ 並 小 前 男の 0) 迄 たぶさと云 n 0 0 ば 樣 變 豆 今 ば其 は 12 は 者 領 能 腐 は あ た 髮 21 7 迄 主 るよ 餅 事 出 て自然と能き菓子 5 頃 結 髪を 餅 地 服 菓子 0 來 は de 張出 濟 百 東 頭より 0 B 押 樣 大形 72 伽 年. みが たりしが、近 7 襟を殊 とて B 12 0 羅 5 12 す事 類 色 少 手 T 0 は < は 禁ずる事 恶 温 4 し斗 鯨 油 前よりに 大變 一昔より 事 無 4 結 の外 0 0 元結 12 りし 事 器 5 CI 構 有 成 後 12 を用 な 物 SE. n 成 商 と云 は大造 故 5 なり、 は へ着 T ふ者 せし 5 調 あ 21 度 佛 亚 7 種 场 5 實 か 下 古 4 3 事 下 作 城 なり、 4 ば 42 老云、 げて、 25 右 0 事 近 下 其 3 n なれ B 名 12 华 氣 商 72 外 る 町 準 茶 成 遣 五 は 珍 de ふ者 77 襟 惣 數 n 唐 客 な T 0

引

平

夜

云 方 2 人 程 は 0 皆 0 强 方 事 人 8 ^ 4 21 弱 行 あ にき せ 8 6 る 0 丸 煙 好 せ ども、 草 み る 入は持 B たばこ入を持 有 何事 ば、 麥 8 す たば 近 る 道 事 步 5 0 は 行く 12 便 持 成 利より 参す 事なし、夫故 て、 たば る 0 B 事 2 0 なる 盆 有 たば に付たる t ~ かっ て盆にきせるたば し。 共、 きせ 煙草 る 入はから物也、 持 行 者 こ入を付置 は 無 6 是等は風俗 L な し也、 5 今 其 の替と 後 は 諸 たば 侯

3 細 子 盤 4 衣 斷 と云 马 六 又云、 I 0 1 は 也 L を 七十 12 櫛 早 0 提 C 8 笄も 作 遊 < 但 < て的 0 年 び 5 3 5 12 1 昔は子は 以 今樣 叉 とな た T 射 振 銘 C 前 は 舞 3 に他 4 魚 鬢 0 21 L 祝 か ん押と云紐を以 供の遊 やか 事 は 鳥 引 儀 丁个 た 成 非 0 抔 T みに 12 ず、 殺生 悪 B 12 12 成 びは竹弓的 行 < ありきしなり、 與 今 或五 示 成 て軍 時 4 H を遊びとし、 は T 事 十石 檔 戒 より かたみとて與 てくりた をも上 抔 8 思ば 斗 の遊 6 叉 は軍 取 n は稀 下 有 る士男女の子供 L たばては前 るびんを押 馬 を 事 3 おとなしく能 也、 も着 也、 L 抔 へし笄なれ 事 也、 往 た 衣 0 我等 樣 來も襠着 服 3 髮 へ、其 也 12 は 0 多く き様 も十四 皆 有 思 ば、外 我等 は 振 內 紐 n あ なれ 袖 は て見知らぬ を 似合 す 向 6 若 也 兩 玉 一歳迄は一 Ĺ 共早く 事 晴 年 手 前 か な 0 77 0 AJ 頃迄 事と 5 時 髮 持 女子 ひず 者 有 7 軍 21 にも目 事 質 用 は皆遊び 内 居 1 得 is 21 か は 素 CL る しく成 は 檔 事 72 1 日々の遊とし、 0 禮 لح 鯨 風 着 な 3 L 過 事 想 5 0 0 て岩 事 T T 稀 像 N 宜 通 n 12 動 髪は る 成 ~ か 輩 25 3 L 8 也、 くり Ļ て笄 なりし、 T す らず、女 或は竹 大方白 n 今は びん を手 今よ ば 油

昔はびん水入と云もの家毎に

あり、

嫁入道具にして必持參する物なり、

共頃は男女共に髪

大なる朱傘 3 21 云 元 殿 內 座なされ 候 輕 し、我等の でき者 我等 返す様、 事有べきや、去に依て件の乗物は女の親元へ返すか、又は近所の町人へ遣はし拂物 物 其 高 滅允殿へ心易く有しが、或日の朝用事有て早天に見舞ける所に、玄關 女の も兼 一吟を出さるしに付、不審に存じ其間へ參り、是は早朝より何事を仰候哉と云ければ、杉浦殿答に、其 叉云、 * ものを被り、紫の染革足袋をはきてありきしに、七十年斗り以來はかつぎ被りたる女中は見掛ず、 「抔の家來の身として女房を迎候迚、滅金の星金物抔打たる乘物に乘せて呼迎る様なる、うつけた 持 の女房子娘迄も乗物 べて被存 乘來 せ造し、女房にはかつぎ被らせ、件の負せ木に腰をかけさせ、後に負せて た 屋 る節、 延壽 叉は を差懸けさせ、 生敷の内 る乗 院 夫 通 我等祖 り我等は朝起致候に付、毎朝玄闘より座敷迄を見 玄期 婦 物 に迚は置せる事 連 有 にて は古 之に付、其者を初め家 父は知 高 道 我 に乗らずしては 木履 方を出 三の 行五 世嗣とて、 にて杖を突何方へ 不。相成一、若又乘物 i 百石 候共、 被下 叶 盛に 其段 來 御奉公申 は 共を呼出 AJ 療治流 は 如くなりし也、 も歩行す、 勝 上た 21 手次第に致せと申 し祝儀 乗らずして叶はざる旨 行、方々招 る節、妻を を逃申 人々羨事 右 請す、 女乘 廻る所に、 呼 聞する事 迎 事 の上の間にて何事やらん杉浦 物 もありしと云。 其時 る則、譜代 に候 の事 は 女房共 夜前 に付、 と被い申し に候、 呼迎たりとなり、然る 乗物とい の家 我等 にするとも致すべ 我等 申 權 が家來 來 現 に於ては親元 ふ物 と云へり。 老父儀 12 樣三 負 婚 せ 州 木 儀 杉浦 21 لح 御

急に雨降り出したる時人に貸すべき傘を用意し置しと云、厚き風俗也、

一又云、昔は貸傘とて、

昇

平

夜

話

F

篇

卷之一

叉

痛と成に依て、月代を剃る事となれり、 堂上方の元服と云は眉を剃り玉ふなり、本朝上代の姿は今堂上方に止る事 貴賤一統にして公家と地下との差別立ざれば、男の歯を染る事禁ぜらる、然時は發せずして歯の 又一説に鎌倉時代は髪を拔しや、 信長公の と云 時 に剃刀初ると

具にて小さし、夫を信長公の時に大きにして、今剃刀成べしと云り。 按に、拔と云は額 の事成べし、剃刀は眉剃とて神功皇后に初るとあり、 眉剃は貴人の眉を剃る

は 踊 其上人にも進れば、自ら夫に移て初の心に立歸る事なし、武士の子女斯る業をなして人に興ぜらるい 様の 目も淺間しと云へり。 の子女の爲べき事に非ずと思へど、折々左様の人に出合、見馴聞馴ぬれば、初の様には思はれざる者也、 女子の一藝と心得て知らざるを恥とす、凡子女は深閨に生立養はるく事成に、今は 何事ぞや、男子には三味線淨瑠理語て、人の慰ものと成てありく殊に多し、 12 所作 あらずして 又云、小歌、三味線、踊の類は昔は賤敷ものにして、あかれる人は習を恥けるに、今は武家の子女も 左なさをば人前 の如 く成事をなして男子の會席へ連りて人に興ぜられ、自らも酒吞み興じて恥 は祝儀も整はざる様に成て、老若男女打交り、 へ出馴ずとて却て笑ひ謗らる、程に、笑はるく人も初の程は賤しき事 諸踊し事恰も狂人の如くの體にして見 冠婚等の祝儀 武家 かしき色もな の子女も踊子 にて、武家

又云、昔は下女二三人も召連、若黨、挾箱持抔連る如く成、歷々の妻女と見ゆる女中も麻のかつぎ

し、 家 たば 今 de 叉 2 B 身 世 尾 上 間 張 t 五 12 け 六 42 な は 礼 < 1-古 ば 年 風 與 以 四 前 殘 力とさ + て、 は 年 伽 以 家 羅 0 前 7 4 0 は 油 0 替 同 若 6 付 心 黨 な る事 0 木 し、 家 綿 な 12 御 布 疊 子 入 敷 12 元 或 た 大 初 結 るなし、又 小 0 は 頃 手 斗 前 は 6 な 武 12 てよ 家 りと云 上 下 0 5 若 着 黨 事 ^ 或 0 な 襠 は し、 着 主 今 事 人 は な 0 疊 F B 6 敷 絹 を 以 用 唐 E 紙 着 B 刻み 立 な

製 とせ n す 髮 L そ 叉 21 付 江 戶 る 12 伽 頃 は 玄学 羅 年 T 及力 は 漆 (1) 草 芝 油 0 實 * 0 は 以 大 IE 0 蠟 好 保 T 慶 を 庵 す 晒 脊 安 T 叉 虫 0 餐 是 喜 頃 を 付 右 京 とて 用 衛 室 門 ると云 田口 唐 抔 髭 嬔 初 0 を な 久 30 煉 5 吉 T 賣 付 其 初 以 る i 人 前 क्ष は 其 油 た 後 女 21 に 白 檀 條 12 丁子 0 あ 市 5 等 宇 を浸 賀、 其 後 繩 1 は 包 手 唐 油 0 Ŧi. 蠟 2 稱 + 21 限 嵐 3 る 後 事 を

E な 5 事 0) 下 かっ 七 6 類 叉 共 P + 25 华 云 其 數 21 節 名 其 以 手 前 七 前 B あ 時 + 迄 代 4 伽 6 华 羅 は 4 L 21 から 斗 42 は 0 前 T 油 揉 6 以 よ 其 上 髮 入 げ 前 雅 1/ 6 用 0 12 用 な は 0 兒 n 蠟 は CA 額 小 江 L ば、 燭 握 ٤ とて 姓 Fi 0 な 菜 流 は 町 種 流 各 中 水 別 25 屋 を 行 足 ~ 油 5 申 其 袋 12 尤 屋 遣 外 T と当 侍 は 上 香 下 L 0 具. 結 共 W 中 屋 た る 12 华 油 若 る 8 \$ ら男 事 有 元 結 な 松 5 5 脂 L 0 店 油 抔 かっ 抔 共、 元 を 抔 は 結 塗 加 _ 先 軒 と云 1 付 徒 8 伽 る do 羅 は 見 士 以 當 な 0 らず、 前 若 女 油 は 2 V2 號 る当 な 4 伽 H 小 事 事 羅 用 12 21 U 0 油 中 せ 間 L 0

义 月代 を 訓 事 は 鎌 倉 北 條 執 權 0 頃 12 始 まる相傳に泰 其背 は本 朝 の尊 中皆物 髪に して 鐵 漿 * な

諸 件 出 とて す、 5 孙 T 以 酒 王 踊 の踊 T 士 す 0 皆以 譬實 ふを を始 0 所 鈴 女 ーつ 樂 風 子 0 俗 夫 8 晋 de 生 V 0 2 過さ 0 四 婦 座 味 聞 發 21 巷 線 0 -興 WD. 興 生 0 を催 頃より n るるい事 华 彈 1 付 6. す 专 來 以 0 ば、 3 玉 n 來 能 に付、 類 を ふ人 初 を集 华 る 0 4 ば B りた 有、 कु 初 抔 寄 た 孔 て供致 若き諸は と云 女中 是 3 子 3 を以 事 る事 其 多 共 12 合 洪 、姓 醉紛 疾 一候には て、 は、 させ、 、差圖 T み やらん、 酒 知るべ 玉 n 我 の二つ 誠 致し、 には不養生 1 等若 婚 是に 5 0 儀 諸 し 女 4 に長じ 我等 生付 賢 相濟 心 侯 時 と云 る 方 分 の御息・ 慰 Ŧi. \$ 抔 も繁く成 には ては 三日 \$ は 能 0 な < 弱 0 か 聞及ばざる事也と云へり、 しと心 にて、 も過 女御 者き 年 0 1 て、 少女中 婚 n 頃 5 ば年 畢 得らる 禮 迄 ¥2 元來手薄く生 竟 の節 * 病 は 寄女中 大 部 諸 身 切な しよ とも 屋 侯 供 方 4 る主 共取 6 附 17 成 0 事 ^ 奥 T 12 れ付玉ふ方々 人へ 起 はやし、 て相 追 方 短 5 人、 命 12 上に效 毒 越 て 25 奥入 日 8 餇 4 件 ٤ 女 那 表 成 ふ下 中 同 5 0 な 0 よ 斗 6 樣 踊 目 は 0 なれ 云に及 子 內 の事 6 通 御 を以 爱を を 21 9 人 ば な 好 \$ 6

し是等 其 0 髪を剃 餘 さら を切 叉 は天下一 云、吾邦も L 捨 5 7 T 後 鶴 沙 統の風なれば獨 0 は鬚 0 普 髮 尾 は を 抔 を剃 中 後 0 華 21 如 り落し、額 0 束 くなり、 如く た り古 るさ 僧 に角を 尼 武家 風に 女 0 外に 昔 も成難さ事 も昔は鳥 立、 0 髮 頭髪を 大 剃 D 3 帽 6 事 も半過 は 子 なれ共、 無りし 直 21 \$ 垂 * 非 1 12 世の 頂 す 着 . > の邊迄剃 L V 移 何 72 0 り替 と名 0 6 しに、今は 頃 を付 より りし狀を知るべし。 り落し、髻をば指 か h 樣 武 夫 士 \$ 8 0) なしと云 止 内 4 12 AD の太さにし、 月代とて \$7 ば、只月 6 但 頂

節 3 取 は 味 替もなき命を塵芥 は 雨 哈 の事成べきと、 らなければ連汁をすくり、勿論菜などもなく、野陣の時は云に不」及、譬陣屋の中に在とても、屋根 肌 3 B 洩 凍 T 丸 夜 ばと云迄に、 0 勘辨尤なりと云へり、治世 目 の如く思ひなし、家を離れて妻子を忘れ、 も合ず、 脇 夏陣 は笹 の節 垣一重を闡 は終夜 の士是等の事を忘れざる様に教導有べきなり。 ひ、下に ら蚋蚊にさいれ、 あ h 敷一 軍旅に月日を送り、辛勞するは 枚 時 を布、 としては具足を着なが 臥 具とてもなけ ら夜 n ば 寒陣 B v 叫 か斗 抔

止 にけると云へ 叉云、 寛文の初 迄は小手袖裾短く、 動もすれば茶釜髪を好みける風俗 大に改り、異相 なるも自ら

主 事なれ を召 花 抔と云節は、 ば、世に に一人もなし、三味線と云物は盲目の女より外には彈者なし、稀 50 偖 叉云、 抱る主人方に ば、 樣 は 國 21 珍敷事の様に云へり、去に依て其節諸侯方の瞽女と名付たる盲女を二人も三人は抱置さ 五 我 主 成 百石 三味線 たり、 等 方へ 抔 も奉 千石 0 多 若年 元祿 を鳴し小歌様 强ち其 0 公致させ度と望を含て 知 の頃迄はおどり子と云者、 年 中以來 行 を取、 踊子を寵愛と云斗りにもなく、 21 の物をも謠 武士を目當 も有べさや、 ひ座 fili にする事 匠 を撰び 惣て女の子供 興 響い を催たり、當時 か程 物 21 てはな 人 年若き方々は心の緩々と成、 8 高給を以て召抱へしとても、 を踊 に目明き女の三味線を習し 厭 i, はず、 は野にも山にも踊 子に仕立るには 責 稽古 て五 七千 を致 させ 石 より 親 り子三 る事 4 連 0 行義 江戶 石 造 な 覺 巨上 作 味 た も別れ **冰線**引時 B 3 の町 尤夫 0 慰事 者在 掛 郡 中 る

昇

本

夜

話

下

篇

卷之一

耽り、 君 治 事な 迄辨 上 主厚く心を用 る 21 は 能 n 12 も博覧多識を事として記誦文詞に流れ、此太平に武藝に骨折は損なりと心得、 叉云、 農工 ば、 ばず 習て察せず、 奢侈 種 或 を下すべ 前に 商 君有 iz 家 を治 長じ勝手を摺切 又は我等は武士なり、 0 ひ玉はずんば有べからず。 治 多 てもなきに均 Ļ るより を 云 此 輔 如 左なければ 時 佐 1 難 すべ に於ては君 し、人徒に農民を治るの難きを知て、土を治るの尤難しとする事を知らず、 士は て、 くして君 しと云べ 書を讀、道を辨へ、凡身を治め家を齊へ、 善 利に走り義 武藝だに相應にすれば學問は入らずとて學ばず在り、 政 主 Ļ 0 主の 良法有とい 世 風 話 教導待まじき者なり、 に非ず 俗 を失 は ~ 政 ひ士魂なし、 して、 共、 の田 種 地 を不 と云 争で 斯 か古風 毛の ~ 5, 然に今の士は然らず、 成 地 り來 先 に立立 に下が如し、 田 りしに良 君父に事へ人を治 一歸るべ 地の手入、養 きゃ、 久 徒に しけ 安逸 を先とし 學問 成 n 12 益なし、 ば、 たまく 行 馴 3 n 道 12 は 人皆其 任 極 嫌 12 て、其 士を す 遊 なり 至る る 12

な の衣 のよし、 5 n ば別に氣遺なる事もなし、亂世の武士は給物は、陣中に臼杵も無れば玄米飯を其儘にて飯に焚き、 叉云、 服 世 を着 今時 12 我等年 重ね、冬の は 0 海 武 士 若の時迄は、 士 斗りに限らず、 は白 夜 は助 < 搗た 具を用 **亂世に出會たる老人も間々存生にて、其老** る米の飯を喰ひ、味 農工 て寒氣 商 の三民を初、 を防ぎ、 夏は 噌を添、菜好 其外 蚊 帳 出 の内 家 沙門の し、其 12. 寢 起 E 族迄 を快し、書勤とても疊の上 21 肴の酒のと云て、身 8 人の直 殊外 咄 迷惑難儀 * 聞 た る事 をす 12 は の勤 時 る事 4 あ

ず、 目 祖 戰 基 當 する 12 B 奢 は あ 今日 て、 書 なり、 侈 5 0 國 7 不、失賞談 遺 籍 近 士 は L を 悪み き世 武 は、 有 訓 12 は 0 好 土を治っ も乏し 重 衰 み 士 L 傍 慮 答むべきものに非ず、情み恤べき者なり、或は 雅 の士は戰國中に生れたる人々故、無筆文盲も多かりしとなり、少し讀 4 た 0 か すべき者多し、 三民 る士 果 及 0 0 共、專骨 ざる所 董 け 短 る道を主として辨 は は 風 4 陶 n 利 を昔に ば、 車堅 勘 失 21 依 多 し、 21 な を磨き武 て、 學 落 るべ あれ 問 返 2 士より治 其中 す事 L 武 す 文に 共、 る 士の意地 士 には一を取て通ぜざるの弊もあれ 後 の一 程 は せ 恥 8 を忍 君 ず らず あ 75 0 分士の 5 事 んば有るべからず、 漸 主の任なり、是を治 んば三 を立、 ず、 んで は 文 華 有 武に 死 開 義 まじけれ 恥を知 理 民 すべ け 文質 も非 得 と云 き場 て治 ず、 て、 共、一 適 事 びべ 均 と 21 治に飢を忘れ安に 8 武 0) 死 動もすれ 猥 章 ול 古 君 命 士 せざる事 に劒を拔て柱を打 の風に 子 らず。 21 0 何に 本旨 72 懸 共、 5 は 7 返さんには其策無 を失 喧 夫 堅 7 L は は 一く守 de 同 嘩 \$ 學 双傷 大 N 日 危 時 問 事 0 6 名 の遺 移 談 せずして L を忘るし 21 21 實大 及び 者 守 風 21 書する分にても師 替 非 風有て、 故、 6 討果 實用 ず、 77 5 んば有 は 違 慮 自 文 iù 危 6 5 せ 0 21 華 0 疎暴 短 道 亂 施 L 25 8 此 潔 B E L 0 流 から 招く き事 過 大 時 間 21 失 筋 父 22 12 4 5

と軍 t 兵 或 を 人 具 云、 L て内 武 b 士 裏 を物 を 守 1 部 る、 と云 道臣 U, ノ命 叉 0) ツ 司 7 n モ る , と云 軍 兵を兵と云、 事 神 近 天 宇 皇 麻 0 御 志 麻治 時、 宇 ノ命 麻 志麻 0 司 3 治力 を物部 1 命 ٤ と云 道 臣 CA ノ命

界平夜話下篇卷之

等 訓 は、 は 力 へ、其 叉其 5 叉 消 日 0 並 終 理 事主 家 3 四 学 歲 故 75 數 在 諸 を先とすべし、 E 民 せ 親 12 勤 晤 を以 君の世話に預るべき者に非ず、故に土を治る道に疎か成るが如く成べし、但昔はさも有べし、 法度及び時々の御禁令あり、 25 す 敷 各 國 父 されば先賢 動 1 からざるもの、農民は其 國 家 共 母 愚成 して治るべし、 も又 L て云ば天下の人、 其 家 所 相 の治を云 7 中 の治を輔くべき者にて、人君 を得て治らずと云事 士 見えず、兄弟妻子離散 寒暑をも避け 者多し、 に成 に越 國 長 然に否らざるもの たるはなし、 には國農民を主として云ならんか、 家の治を辨 する士なれば、 是を教導せざれば犯禁暴行して人の害となり、 然は 農民 ず 政治を説 衣食 衣食を出すものなれば、 より多はなし、 ずるに、 治 なさは素より 又家 8 に至 を出しながら、 皆身な治め は想 17 難き 々に創 農民を治る事を專とし本として説が如く、 士を先とせざるが る事あり、 の教導世話を待まじき者なり、其上 に士は文字を知り、 も又 加之ず 業 0 士より難さはなし、 家を齊 事なれども、 0 君以 衣食に乏敷、 輕く賤敷 家業 ~, 農は 來 され共四 如きは 家毎 0 政治 者なれば推 勤 國 書を讀み道を學び、 治法の審なるを辨ずるに至ては、 に家 12 の本と云 を輔 暇なく 民 動もすれば暴君貪吏の爲 何 然ば の内重きを云は ぞや、 格 いべき事 風俗を亂し身を失 舊 虚掠られ 文字を知 へり、 法も 士 政をする * を可い知筈 だに能 あ 武 安し、 本 5 らず. 家 堅 身を始 尤 叉 2 0 に是を以 け 治 尤恤 大 n 衣 0 面 ば 文盲 士 ム者 者 法 ば 食 4 農 77 祖 め家 なり、是 令 或 は べき者な にしひた てすれ 多し、 人の一 父 12 I しく 21 安 0 於て を齊 商 庭 士 は は

風俗

天下 職 中 四 品善なりといへ共、上下持合ざれば國天下たる事を得ずと云也、されば一國の富は一國 君 3 各其家業 之分自 民各其 華 は四民を撫育して安堵なさしむる任なり、土は三民の上に立て國家の治を輔べき者なり、 國者君在、四民有て立つ、 ありしとぞ、 任 され - の富 にては兵を農に富して事有ば戦士に用ひ、無事の時は三時農業をなざしめ、一時武を習はせて、 有 此 者 ば彼を治るの道是を安ずる法迚、 業を異にすといへ共、 を動て世用に備て、渡世の營とするものなり、國天下は一人の國天下に非ずと云も、 の外に兵士を多く養ひ置 は天下の人と倶にすべ 始と見えたり、 其後 1 華 にて 吾邦 君在といへ共四民なく、 も兵農分れ、 も古は公卿 きものに 政をするに徳を以てすれば、 事 は無りしと云たり、唐の玄宗皇帝壬戌十年、始募」兵充。宿衞,兵農 して、 の代にて諸國に國司をすべられ、 吾邦も武家の世と成て武士も多く成り、 區々にして辯説すべきに非ず、爰に 君一人の富とせざるを天下は天下の天下也と云へり、 四民有といへ共君なければ、其國 四民各其所を得 武士は其下 て安んじ樂まずと云事な 和漢の古を考 爵祿も重くなりし たる事を得 12 の人と供にし 在て爵祿賤 農工商は ふるに、 貴賤其

昇

平

夜話

下

篇

卷

之



昇平夜話

下篇

無

名

氏

著

瀧

本

誠

7

5

艀

題

造 才 卷 六 藩 7 召 + 詣 藝 近 十 藩 年 邸 L 六 頗 K 思 士 辭 K T 富 錄 設 る K 0 大 L 深 4 摘 薰 け L 番 7 天 說 7 陶 か N 士 長 + 文、 h 仙 K 2 5 崎 L 兵 几 臺 努 2 な K 卷、 法 は K 遊 力 を L 5: 詩 馬 詩 歿 L 請 儒 術 識 す 俊 識 員 文 DA 著 等 名 才 允 化 名 K 十二 K K は 多 る 擢 四 依 通 < す ざ 年 で 卷、 所 其 "L 5 仙 つ れ 7 叉 五. 門 る 臺 は 7 其 本 行 本 K 順 藩 同 草 0 易 書 出 造 七 質 年 ___ 0 指 經 館 0 で 學 斑 學 南 世 を た 上 を + 造 書 術 を 談 b b, 0 窺 小 卷 5 L 衆 云 自 3 野 其 外 T K 蘭 學 K 他 5. 5 超 四 天 館 ゆ 足 Ш 數 書 督 5 13 種 保 學 を る 摘 ん。 學 あ + لح 江 を 疏 賞 年 な ん b 四 戶 L 質 + h 0 太 6

司 照 補 書 校 寫 所 本 淺 訂 甚 せ 書 見 0 L 經 鮮 悅 機 せ な 世 會 次 る か 談 郎 を 5 0 0 ず、 君 勞 與 原 は を 仙 稿 ~ 東 取 5 臺 整 藩 b 昌 九 理 史 た 且 書 K 其 稿 る 館 付 に は 0 T 0 據 藏 皆 は 밂 7 書 本 經 土 7 屋 館 K 濟 著 君 本 依 學 者 0 士 0 7 賜 借 土 0 て 詳 覽 余 屋 7 傳 を 秀 あ から を る 得 收 雄 寄 藏 叉 T 君 與 原 本 帝 0 稿 0 助 世 國 6 欠 昌 本 力 卷 る 書 7 K 對 待 を 姣 館

意 主 於 by を 加 論 L 見 て て 5 は ľ を 7 は 居 雖 8 介 た ___ 後 つ 本 T 貫 書 る 12 を 人 先 L 粹 は 間 + 8 偷 に 如 は 卷 0 此 0 で 0 0 L 何 生 道 T 思 に 命 中 あ 想 かい る を 生 聖 卷 之 敎 活 道 物 外 0 を 種 厄 F 3. に れ 五 ど に る 屈 敎 な 七、 椽 0 托 礼 B ^ ば、 近 大 办 せ て 九 7" B 食 聖 世 0 0 る 糧 筆 學 何 兀 的 を 程 0 に 0 卷 0 芝 度 揮 根 效 意 力 に しくい 本 に を 過 義 つ し。 ぎ 主 糊 8 に て 常 義 な ざ 於 縱 口 0 さ に る け 横 7 ざ 手 JA. あ \$ る に 經 段 礼 b 經 る ソ L. を ば、 V 濟 世 2 實 な 等 學 0 云 Va L 際 思 要 3 0 上 K を 務 各 0 0

質 -溪 書 仙 7 初 臺 者 藩 院 B 櫻 藩 士 0 田 に 助 村 士 \equiv 虎 敎 敎 氏 授 2 に 彌 門 す 景 名 な 從 る は 虎 學 明 質 門 L 0 幾 仲 字 0 8 後 號 子 は な 江 < な 仲 は 戶 文、 葢 藤 に b 景 通 堂 來 此 侯 0 明 稱 は T 0 出 時 聘 周 に 服 で 輔 命 に 部 別 櫻 ľ 應 栗 た じ、 齋 H に る 虎 氏 欽 0 齋 門 門 を 8 嗣 に 义 0 0 ぎ、 鼓 な 即 遊 5 内 N 11 缶 其 ん に を 子 寬 寓 生 2 0 麴 號 政 居

您

に

於

T

B

亦

大

に

參

考

2

す

~

き

8

0

あ

る

如

所

題

7

著

者

は

本

書

卷

之

 \equiv

K

於

7

今

世

1

所

謂

儒

者

多

力

1

國

家

ヲ

ア

ツ

力

フ

太

を

L

T

0

額

K

池

す

る

を

覺

~

L

む

る

は

學

者

0

批

評

で

あ

學 0 日 ~ 日 者 < 中 < 丰 道 化 藪 1 用 を 云 粧 先 = 逸 ヲ 學 生 立 す 以 問 日 チ る な > テ 難 書 K 世 ど 丰 拘 1 肆 1 7 は 用 稱 儒 1 5 L 者 ヲ = ず、兎 立 7 論 日 < ア ツ ズ 5 K 7 ラ 茶 角 人 題 1 ユ 儒 我 ハ L ル 俗 者 所 大 稀 學 K 謂 V 日 取 ナ 者 < る 1) 慢 儒 つ 0 ح T 眞 心 者 は 評 學 を 相 問 項 を 數 L 門 た 摘 日 種 < る 抉 K 0 奉 は 分 針 其 公 類 て 儒 學 な 0 L 問 者 b 7

儒 月 妖 0 日 所 K n あ 謂 ٣ 經 6 8 濟 ず 本 術 著 書 者 0 0 要 は 主 諦 全 旨 2 然 7 な す 聖 L 道 る 本 所 0 末 本 は、 を 旨 必 云 ず 12 徹 L ~ ば 底 8 敎 L 斯 か 敎 < 養 本 0 K 0 如 L き 字 7 片 養 を は 以 隻 語 末 7 な 眞 0

ع

は

ざ

る

口

力

5

ず。

高 11 者 固 Ш 例 3 3 商 は 去 調 時 な よ 0 本 を 草 書 き h 抑 代 自 b L 茅 未 は 身 富 讀 た ゆ K \$ 論 危 全 貴 る べ 於 其 だ = み 0 篇 言 け 何 來 大 办 き 0 " に + な 生 b 部 如 を る 內 n 1 E 容 卷 主 に き て -長 分 X K K す 徃 は は 張 般 は て ル 尋. 答 B 比 涉 る 特 L 0 大 7 常 す 奢 る 者 K 通 出 1 人 拔 大 注 侈 俗 版 ~ デ 說 0 0 に 著 き を を 儒 L 哥 目 ハ 肝 L 代 に 戒 た B 作 判 愚 膽 T 0 表 迁 る 0 K 値 を 時 8 ヲ K L 寒 節 論 2 な L 弊 TA ス 儉 て、 2 れ て、 す 5 T か 0 工 ど 大 な 徂 を 德 爲 5 根 る ル - 4 徠 9 守 に 多 1 す 本 L 柢 そ 隨 傳 0 卓 む 5 財 申 に K 0 本 政 渡 足 る 透 見 7 末 T 世 極 談 趣 5 徹 2 る 說 0 3 B 春 を 上 3 感 す は 叫 を ス 異 唱 多 T 臺 ル る な る 云 か < 稀 に 0 き 5 ŀ 2 8 5. ~ 農 ざ 之 經 2 12 べ L れ バ 0 を K 濟 多 る を 勿 を あ か 力 らず、 事 論 錄、 < 重 知 1) 6 竹 3 Ľ 德 る T =

~ MF

. 題

2

云

3.

2

2

は、

周

禮

王

制

0

本

旨

に

あ

5

ず、俗

儒

之

を

以

T

鄭

玄

0

說

で

あ

田

0

中

+

畝

を

八

家

K

分

ち

て

各

々

畝

半

宛

を

廬

舍

2

す

る

れ 寸 邑 仁 る ば る 恐 齋 カン 玆 に 非 0 0 足 K 也 如 如 之 5 2 き < を B 3 辨 思 收 る ľ 惟 亦 容 \$ て 其 す L 其 居 0 る た 著 は 0 る b 說 K 孟 非 表 < あ 子 な 題 所 5 古 b 義 2 K 親 ず 答 切 P K 乙 宮 著 伙 於 つ 生 T 明 5 T 2 ば 舊 居 K あ 竹 說 る L 謂二一 る 7 山 0 み 宮 參 0 な 畝 生 考 此 5 は 2 华 0 ず、我 何 す 說 在 人 ~ は 田 な き 敢 が 畝 邦 る 8 T P 0 珍 华 伊 在 藤 詳 あ 2

著 者 中 井 竹 Щ 0 小 傳 は 本 叢 書 IE 篇 卷 + 六、草 茅 危 言 0 解 題 中 K あ

h.

力

な

5

張 5 る 意 町 0 遺 見 人 策 あ 2 を 0 同 敷 て、 樣 ___ 衍 K 讀 相 L 當 た 0 る 價 0 直 格 8 あ 式 0) る を かい 3 授 B 思 < 0 べ は 0 る あ L る 2 1 藤 廉 述 ~ 多 田 東 た 湖 る 0 な E 建 言 寸 な ど 變 大 h た

公 田 說

本

書

0

底

本

は

此

君

堂

0

所

藏

本

にし

7

認

軒·

0

親寫

L

た

る

B

0

な

0 樹 宅 で 云 村 桑 あ K な 5 本 る 以 夫 る 5 あ 書 り、二 ٤ は か 供 所 漢 受二 好业 班 竹 以 削 畝 後 ち 固 Щ 事 2 畝 0 公 半 0 は 云 實 华 儒 は 藝 田 文 際 說 0 田 在 ^ 志 は に る 中 0 田 事 概 あ 漢 力言 13 實 畝 書 廬 b ね 如 に、 半 舍 皆 邑 土 き 井 斯 P 在 班 2 + 田 田 < 邑 古 同 0 U 0 畝 2 法 田 < 說 中 あ 0 0 如 兩 五 き 是 不 を b 肯 2 方 畝 得 2 れ 定 云 を 2 有 班 0 合 宅 は 古 木 L 3 せ 恐 地 0 9 あ 現 妨 說 7 は b 誤 K 朱 五 得 を 五. を 畝 穀 子 畝 傳 否 力 認 3 半 カン 故 於 な た は 5 五 L 邑 临 畝 る る た F 3

題

見

九

皐

造

策

8 獎 兵 0 0 老 去 衛 2 農 勵 弊 撰 切 2 中 門 0 立 民 L 制 任 を 省 を 後 九 山 原 K 町 を K 防 述 備 翠 皇 略 翠 之 ぎ、 人 V は L ~ 前 軒. は 軒. 諸 n 能 執 守 办 甚 K T 7 其 な は < 放 其 1 士 政 ^ 0 五 き 從 或 其 0 任 0 差 0 號 郎 は 來 す 潰 0 境 人 知 局 出 な 不 を 行 る 書 跋 御 を に L る 權 松言 擇 は 當 た ~ 文 B 0 中 皆 衡 戒 見 ん 必 る る K L K K 格 L 7 地 要 者 8 發 から 見 間 7 米 適 方 を は 0 見 藩 W 農 穀 知 述 其 主 屋 所 な L る 業 行 ~ た 格 0 K 0 h ~ 如 家 獎 適 5 大 書 奉 < 名 輸 る 勵 字 才 L 中 本 中 K 本 入 b 宅 0 御 を を T を 0 依. た 書 b, 主 置 発 禁 土 地 締 大 る は 旨 著 意 な 止 < 0 < 自 上 水 を 書 戶 K ٣ L 境 は 5 0 1 反 織 必 獎 界 h 政 謄 0 0 種 寫 草 藩 1 要 勵 を T 事 物 太 L 3 0 等 を 正 細 K L 稿 士 を、 本 か 論 奉 L 末 T 鶴 格 0 じ、 時 故 式 行 て 0 末 本 見 或 事 K 產 屯 代 爭 あ 0 人 平 あ 官 訟 左 矢 は 3 家 死 る te 田

載 几 文 農 集 於 聞 大 る る h め 大 等 事 等 種 に 2 此 漲 全 T 農 參 た あ を を 數 之 0 云 東 流 た 附 譚 合 考 る 以 種 5 西 を る れ 書 拾 錄 ば T L あ 寳 治 T 者 B 0 右 ----穗 て 解 b 曆 8 患 は か 0 堤 書 __ 續 办 題 或 十 防 L を 1/2 0 0 書 年 篇 2 序 卽 四 K る K む 爲 < な 文 は 書 歲 其 其 は 樣 ち 種 2 す 官 9 此 から L K な 本 目 七 彼 0 功 農 0 そ 於 L 書 鳳 + 碑 績 吏 8 から 農 ----之 事 0 た 鄕 を 推 0 て 忽、 譚 は な 大 餘 る 種 0 K 建 ち を 薦 拾 全 東 B 東 著 學 治 に る れ L 7 穗 る 方 方 作 か 7 0 T 鳳 から 8 出 あ を 農 が 農 如 5 中 歿 卿 b T で 準、 L 稱 拾 準 す た つ 卽 に 自 T 功 著 姑 す T 2 山 ち 2 農 5 沿 な 2 る 其 農 農 事 は 岸 < T 林 文 L B 記 農 8 0 源 事 譚 大 す を 0 鳳 0 譚 拾 所 L 0 餘 水 作 民 卿 な 全 大 皆 拾 源 全 穗 な は b 乃 b T 7 れ あ る 穗 呂 な る 本 T 其 ち 2 再 0 覽 其 調 殘 2 b 外 書 0 田 相 2 8 農 患 を T 部 L 2 呂 0 中 州 0 0 是 た 事 云 覽 外 事 を 邱 酒 あ 0 農 は 事 る 諺 詩 死 阳 匂 ~ 九 を 全 由 b 事 تع 文 記 を 111 を 文 か る < 諺 8 歌 せ

匮

文 5 れ 0 た 頃 る K 8 於 け 0 な る る 農 p 政 知 學 る 0 ~ 泰 き 斗 な 成 島 b. 道 筑 の 意 見 とし て、 世 上 K 獎 推 せ

き、 る 所 あ 等 將 を 稱 TA 經 を 軍 談 T す 錦 n 江 者 ず、 學 濟 ば 始 0 成 江 戶 成 書 叉 田 に 8 爲 後 を 國 0 島 芙 を 嗜 醫 中 あ 思 父 音 B 鳴 蓉 道 讀 成 邱 る 賜 K 0 3 筑 荻 島 道 隅 を 4 0 周 職 に 民 藏 通 道 は 禮 人 以 詩 を 生 慕 襲 ず 2 書 雪 間 T を 明 徂 農 府 律 徠 る K 號 省 賦 頗 3 す、 0 養 な K 0 を 要 事 L る 麾 及 徒 以 は 奥 0) 和 多 تع 民 U. ٤ て、 州 下 歌 れ 著 を 政 其 K 白 進 自 者 K を 乃 入 交 爱 つ 5 L 關 詠 ち 講 遊 0 河 書 脩 T 嗣 T L K ľ L 商 L 籠 幕 名 生 て T 樓 て L 子 霖 3 古 2 ・は 自 府 T 幕 を 遇 等 本 信 學 鳴 な 0 府 5 起 日 0 遍 b L に 奥 を 姓 樂 鳳 0 如 字 卿 成 は て 厚 坊 唱 き 爲 む 4 平 は 芙 主 2 島 當 然 ^ B 常 とな 歸 十 稱 氏 井 蓉 時 に れ 氏 德、 K せ を ع 樓 名 參 經二 b + 叉 b 好 胃 2 代 劃 \$ 享 七 子 ん 鳳 L 稱 官 す 其 歲 陽 道 L + 保 卿 2 で る 0 と云 經 少 筑 0 0 志 所 2 < ح 史 間 濟 暇 7 頗

東方農準、農譚拾穗

て「成 は 象 n 本 た ず 發 K 大 ば 叢 蓑 島 h 書 ば、 耕 書 隨 志 綱 明 正 と云 喬(一 本 中 先 す 也 正 7 は T 書 穫 篇 す K 生 る 高 2 也、天 は 說 著 3. 所 人 低 卷 0 1 農 き べ 五 述 K 名 大 12 里 準、拾 給 度 W L 出 を は つ L 數 7 に へる 給 江 た を 見 豐昌字 る 1 よる りと 云 るべ 戶 穗 カン せ 半 所 る つ 共 せ b 方 閑 L は K 12 年 2 て 2 評 齋 農 僅 今 2 商 本 見 云 よ L り、嘉 主 す 霖、 3 に た を 事 書 太 < あ 人本 數 ~ る L 0 通 0 L は る 枚 す 永 爲 終 秤 _ 事 荷 3" b は 0 0 名 言 8 K 小 な \$ る 今 未 は 0 K 附 笠 農 之 所 册 か ま 詳 本 は 周 記 事 れな 助、農家 な 義 子 B で 書 天 L て「今 K に 多 ---る 和 0 0 ど、云 過 度 心 百 8 特 氏 か 貫 ぎざる 天 を る 餘 0 色 0 を ^ W ~ 亦 を 0 分 度 行 年 之 ち を 0 る だ け 能 を つ も、享 著 < 特 2 云 0 ね 12 經 に 經 ど、 云 者 た 附 لح b B 農 なり、 盡 を の、歴 保 に 濟 記 先 b 元 徵 事 3 生 さ

舺

題

ੂ

但 本 域 h 中 書 本 物 不 K 書 語 忠 0 神 著 F 中 不 尾 者 慈 12 卷 氏 六 包 云 から は 暠 + 此 5. 日 其 \equiv < 0 ~ 妖 人 頁 き 胡 說 K 評 樣 麻 を あ L な 0 記 た 5 L 油 3 3" る 1 2 居 は る 明 百 著 6 か 治 姓 ず。 姑 名 は + 絞 5 0 事 < n 記 實 年 ば 絞 L 7 東 7 あ 京 る 識 る 程 日 者 办 大 出 0 此 新 る 示 物 0 聞 教 神 社 也 を 尾 出 لح 仰 氏 版 3 は 西

氏 は 係 3. 忠 T . 别 明 は 推 あ 厚 林 門 白 る 人 察 る 者 大 0 な 古 な 携 學 か -9-5 人 寫 る 將 此 12 頭 0 ず 本 p ば 叉 書 信 手 併 B 言 K 本 包 來 中 書 暠 L 知 而 號 13 何 て れ 請 0 0 は 成 著 礼 な 别 ソ 余 鳳 b 者 K Va 名 序 谷 L は な 云 L 13 0 五. 8 は 此 る T 2 世 々 0 8 包 あ 0 p 5 大 な 享 暠 る 忠 判 あ 學 る 保 然 0 本 厚 b 頭 年 著 書 な 世 所 2 2 間 作 る 7" 謂 稱 0 すの は 者 0 0 底 れ 忠 疑 地 如 本 K ど 厚 Y 方 < لح L B な 序 巧 記 せ 7 序 る 文 者 る 或 办 る 文 人 に は 0 L は 0 は は ~ あ 文 あ 余 包 包 ---L 暠 暠 7 る 0 勢 日 た B 收 لح K 神 0 神 は 子 事 藏 依 尾 氏 尾 孫

2

な

る

四民格致重寶記

人 仕 0 か 故 事、 樣 L 等、 本 體 最 特 b T て 刨 書 覺 地 K 內 は K \$ 容 0 村 其 ち は 之 地 古 7 代 九 見 0 四 方 を は B き 官 件 分、 內 民 凡 餘 比 玆 8 例 に 入 容 手 0 較 K h 0 代 部 分 は 錄 採 多 的 1 字 之 村 豐 類 入 大 地 收 ___ 節 部 を 富 方 L 役 に L 0 書 井 落 萬 人 價 な て た L 地 吟 村 其 名 穗 値 る て、 れ 味 々 0 に 集 方 な 麥 を ど 冠 見 b, に 之 他 考 有 \$ 0 事、 分 關 L ----會 に せ 本 類 之 地 般 あ 資 ざ 書 K す T 事 農 る 普 る 礼 本 す は T 請 甚 事 地 民 \$ べ ど 多 ソ V 項 之 方 0 其 B だ 利 き 事、 支 等 心 0 を 2 此 不 明 實 完 得 記 撿 配 か 2 0 は 皆 地 人 方 は 述 其 鮓 類 全 常 農 之 を L 0 小 0 に 相 事 事 可心 說 著 當 た に 地 L 林 李 K 西 あ 方 て に る 書 大 之 懸 た 關 域 5 惟 B 事 中 部 0 事 る 係 物 3 コ 撿 る に 册 な 撿 B 0 V 役 ば 地 0

題

る、 を 風 は 出 他 あ 尚 點 夜 ? 0 窺 8 及 同 藩 5 0 0 は 話 は 著 诗 ず、 0 名 た 史 未 其 N K か 作 代 異 特 書 1 知 九 的 だ 果 な TÃ 0 如 等 書 之 る 殊 は 之 回 謄 る 卷 L L 3 K を 寫 0 0 を 顧 ~ 知 を T 故 繙 便 記 5 b T + 0 確 本 本 L ず、昇 け VC 推 は 事 b 册 編 む 書 を ٤ 定 あ 2 ば 者 寓 玆 を K る 2 推 K す な 揭 謄 長 5 平 は 2 同 目 定 之を 礼 3" 5 げ 寫 夜 岡 由 2 す せ ___ 藩 3" 話 ば る あ L 舊 能 る 5 0 ___ + カン る る 附 K 風 錄、 は B 0 る 言 中 2 2 は 0 御 2 錄 3" 機 0 1 L ٤ 思 2 全 由 0 を 邑 る な 會 \$ 7 な 篇 來 八 は は 合 古 な は る 余 小 3 を 稍 九 る 風 聊 き は せ + か 窺 野 ま 1 P 隨 7 册 談 力 將 が 未 3. B 氏 で 疑 7 九 0 昇 遺 故 だ 又 之 は ~ 常 著 0 3 卷 內 平 同 に 憾 く云 常 好 道 ~ K 本 余 夜 名 此 者 0 5 意 依 道 0 き 話 感 異 0 0 0 等 遺 を 書 署 0 人 0 2 な 收 太 な 謝 著 點 す一 最 5 T 藏 5 き な 著 名 作 爲 其 本 評 K る 目 あ L で B 併 K h あ 藩 ケ は L 世 あ 力 中 る らず、 世 居 夫 疑 其 風 所 + K 0 原 2 7 卷 等 本 な B る 知 昇 DA 0 T 多 世 學 或 E 長 K 0

な

力

る

~

3

殊

に

其

の遺

著

目

中

K

昇

平

夜

話

十

卷

٤

あ

12

ば

勿

論

此

0

胆

右

0

小

傳

を

讀

す

れ

ば

昇

平

夜

話

0

著

者

は

如

何

に

\$

高

野

常

道

K

相

橙

野 知 常 る 道 2 K 2 を 係 は 得 る た 數 る は 節 を 近 拔 頃 抄 快 す 心 れ 0 ば 至 左 b で 0 あ 如 る 卽 ち 兹 に 史 的 凹 顧 中 高

有 樂 什 長 常 7 氏 1 重 兵 識 主 左 を 翁 四 用 は 出 術 道 者 文 右 嘆 家 + せ B 藩 通 に 武 秤 六 K 0 5 5 主 通 稱 重 侍 饗 K L 年 並 ľ れ は ぜ 筵 其 + 致 L 7 T K 舊 泰 し、常 5 內 日 人 其 K 間 頻 典 助 < 侍 外 れ 扶 弟 江 b K 餘 L す 泰 戶 持 詳 K 0 K 忠 慶 事、 を 適 助 加 四 K 0 義 L 2 見 書 ____ ま 勤 3 は 增 小 號 0 る 2 君 白 番 身 せ 侍 五 叉 す べ 子 經 L 河 す 5 な 讀 謹 和 1 な を 7 樂 る 歌 n b 2 篤 講 餘 擔 b 翁 遂 2 L な を 好 慶 り、且 Ľ 當 卿 座 2 K から 善 學 榮 仁 侍 ___ 宜 百 叉 世 K < 讀 < + 兵 3 在 五. 軒 世 す 齋 常常 5 子 書 る 厚 b 四 + 重 を な < 古 は 談 年 石 道 忠 < 尊 禮 莫 b 之 家 2 鎭 任 0 D 信 7 を を L 臣 な 父 0 長 用 世 以 餘 りの 致 說 視 0 き れ 傅 せ き 來 事 慶 る に b を 5 仕 或 兼 日 へ に 及 餘 父 礼 0 士 て、 夜 L 及 N 慶 子 は 後 如 K 高 忠 忠 陣 專 2 5 0 共 か L P 其 勤 精 7 5 K 野

件 題

界

平

夜

著 編 に を 子 2 7 を を 者 收 者 は 以 尾 本 著 送 容 T を 示 K は 卷 完 者 收 教 書 L に b 何 を 置 人 0 T 容 は 越 せ 自 5 寄 き 續 な L L さ た 序 礼 れ せ る た た 日 る P 0 た 且 て、 あ れ 本 經 りて、 ば、 る 本 K 分 B 同 5 本 K 書 續 濟 人 0 ゾレ な 晝 依 叢 叢 3" 0 0 書 著 h b 小 書 b 昇 而 編 者 第 に 第 L 平 傳 は 夜 者 が は L _ を ----卷 始 揭 故 唯 T 話 長 卷 を 本 は 的 岡 無 げ に、 に 7 發 苗 あ 藩 遺 書 之 收 著 K る 士 行 憾 氏 0 容 する 者 依 某 高 長 な 底 L 0 が つ た 岡 野 2 本 常 P て、 實 5 記 る 0 5 上 名 史 道 友 其 る L 殘 2 的 下二篇 5 人 0 せ た 部 其 云 小 儘 巴 る る 卽 0 野 顧 5. 無 0 余 ち 小 な 者 F 武 苗 み 9 總 傳 る 夫 篇 な 氏 に 收 て 2 小 る 2 藏 九 君 四 を 2 は L 册 本 卷 卷

Comments

Comments

Comments

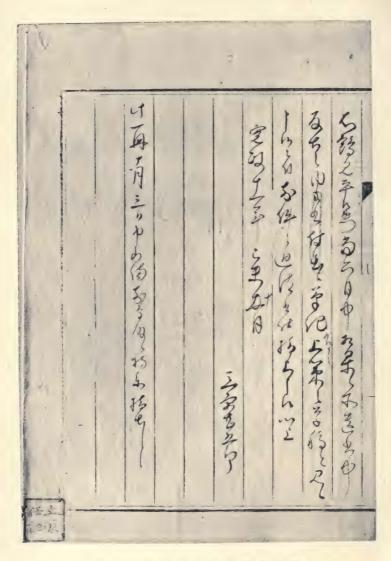
· .		č	£	6 will	· 2
		1)* *\ (- 1- (-		ţ. (
					1
					30. 10.33 10.33
1			٠.	t ¹ t	: 1
					*
	Ĵ	,	, "	1	٠.
-		A		1.[1 11
			t .	\ .	

續日本經濟叢書卷二目次

	assert		equivale .	man-ib	
經	公	鶴見	東方	四民投	昇平
世	田	九阜	方農準並農	格致重寶	夜話
談	說	遺策	譚拾穗	記	為下
樱	中	鹤	源	市中	無
田虎	井竹	見九	鳳	尾包	苗
門	山	阜	卿	嵩	氏
著	著	著	著	著	某

賣





告奥の策道 皐九見 鶴 蔵 収 者編 筆 親の(軒 翠) 郎 五 甚 原 立



東方農準同拾穗の著者成嶋道筑の遺墨

者
所

編

减



1126276

HB 51 T32 V, 2

法 學 博 士 瀧 本 誠 編 纂

續 本 濟 叢 書 第

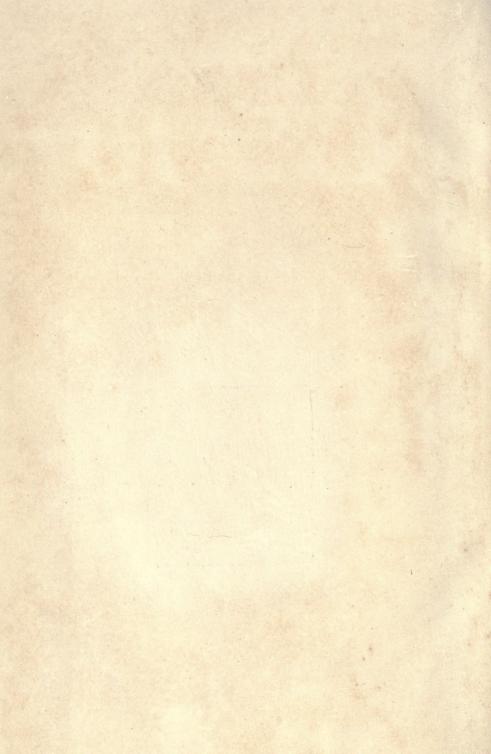
卷

株式會社大鐙閣藏版









HB 51 T32

v.2

Takimoto, Seiichi (ed.) Zoku Nihon keizai sosho

East Asiatic Studies

PLEASE DO NOT REMOVE
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

目書容收